仙台市文化財調査報告書第412集

郡山遺跡第167・180・196次調査

―仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ―

2013年3月

仙台市教育委員会

独立行政法人　都市再生機構

仙台市文化財調査報告書第412集
郡山遺跡第167・180・196次調査
仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ

二〇一三年三月
仙台市教育委員会
独立行政法人　都市再生機構

仙台市文化財調査報告書第412集

郡山遺跡第167・180・196次調査

―仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ―

2013年3月

仙台市教育委員会

独立行政法人　都市再生機構

第 167 次・第 180 次調査

第 167 次調査区より郡山Ⅱ期官衙中心部（↓）を望む（北西から）

SD13（郡山Ⅱ期官衙外溝）北西コーナー部（北から）

SD11・13・17 重複状況（北西から）

SI3 遺物出土状況（西から）

第 167 次・第 180 次調査

SI28 カマド全景（西から）

第 196 次調査

SI2 全景（南から）

SD10 南辺（ 東から）

Ⅲ区Ⅴb 層（弥生時代）水田跡（西から）

第 167 次調査出土土師器高坏

第 167 次調査 SI3 出土土師器

第 167 次調査出土中空円面硯把手・荊棘轡（原寸大）

第 196 次調査出土縄文土器・弥生土器

序　　文

仙台市の文化財保護行政の推進につきまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことと考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴う発掘調査の中で、平成 16 ～ 18・20・21 年に実施された郡山遺跡の第 167 次・180 次・196 次発掘調査の成果をまとめたものです。あすと長町土地区画整理事業に関係する調査報告書としては、これが 8 冊目となります。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成 10 年から開始され、古墳時代後期から奈良時代までとしては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。

これまでに官衙に関係する遺構として、Ⅰ期官衙に関連する溝跡や今回報告したⅡ期官衙外溝北西コーナー部が発見されました。また、これらの遺構を浸食する広瀬川と考えられる河川跡も発見されるなど、官衙西部での土地利用の変遷を考える上で貴重な成果が得られました。

ここに報告する調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、仙台市では、平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分に発生した東日本大震災からの復興に向け、「ともに前へ仙台　～ 3・11 からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。未曾有の大震災から 2 年を迎えましたが、復興はまだ道半ばといえます。

そうした中、本報告書の刊行にあたりまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成 25 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長　青沼一民

例　　言

1．本書は、「仙台あすと長町土地区画整理事業」に伴い仙台市教育委員会が実施した郡山遺跡における発掘調査のうち、平成 16 ～ 18（2004 ～ 2006）年度に実施した第 167 次・第 180 次調査と、平成 20・21（2008・2009）年度に実施した第 196 次調査の成果を収録したものである。
2．本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが行った。
3．本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 工藤 信一郎、黒田 智章の監理の下、遺構図トレース、出土遺物の登録・実測およびトレース・写真撮影、執筆、編集に至るまでの作業を、株式会社シン技術コンサルが担当した。
4．本書の執筆・図版作成は、第１章・第３章・第４章第２節を工藤 信一郎、第２章と第４章第１・３～第５章を吉澤 学（株式会社シン技術コンサル、以下同じ）が担当した。第７章については第１節を菊池 康一郎（株式会社シン技術コンサル）、第２節（3）を工藤 信一郎、それ以外を吉澤 学が担当した。また、遺物写真撮影は小池 雄利亜（株式会社シン技術コンサル）、編集は吉澤 学が担当した。
5．自然科学分析については、株式会社古環境研究所に分析・執筆を依頼した。
6．石材鑑定は、柴田 徹（有限会社考古石材研究所）が行った。
7．発掘調査および整理作業に際し、以下の方々から多くの御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（五十音順、敬称略）

今泉 隆雄　岡田 茂弘　（故）工藤 雅樹　桑原 滋郎　進藤 秋輝　須藤 隆　早坂 春一　松本 秀明
宮本 長次郎　渡部 育子

8．本書の調査成果については、これまでに現地説明会資料や古代城柵官衙遺跡検討会などにおいて、その内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
9．調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

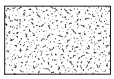
凡　　例

1．第１図・第３図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1：10,000、「仙台」1：25,000 を使用した。
2．遺構図中の座標値は、世界測地系「平面直角座標第Ⅹ系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は、全て座標北を基準としている。
3．本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2000 年版・2005 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
4．断面図中の数値は、海抜高度（Ｔ・Ｐ）を示す。
5．調査に置いて検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。

SA：材木列跡　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SE：井戸跡　SI：竪穴住居跡・竪穴遺構　SK：土坑
SM：小溝状遺構　SX：性格不明遺構　Pit：ピット

6．竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準については、『西台畑遺跡第１・２次調査』（仙台市教委 2010）に準じた。

7．遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に示した。

柱痕跡　 焼土範囲　  炭化物範囲　 柱のあたり

8．出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたりKの後に小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

A：縄文土器　B：弥生土器　C：土師器（非ロクロ調整）　E：須恵器　F：丸瓦　G：平瓦　I：陶器

Ka：打製石器　Kc：礫石器　Kd：石製品　L：木製品　N：金属製品　P：土製品

9．出土遺物の登録を調査年度毎に行ったため、本文中や写真図版においては、各遺物登録名の前に調査年度の下二桁を記載している（例　04_C-001）。第4章では、観察表中に調査年度を記載している。第5章では、観察表中に調査区名を記載しているが、Ⅰ区出土遺物が2008年度調査時の出土遺物、Ⅱ～Ⅴ区出土遺物が2009年度調査時の出土遺物である。

10. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本としている。ただし、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。

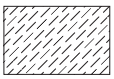
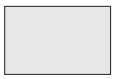
11. 土製品、石器・石製品の一部の実測図には、展開した面に小文字アルファベットを付したものがある。報文中および遺物観察表における「a面、b面、c面…」の記載は、該当する遺物実測図の付された各面に対応する。

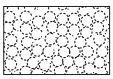
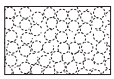
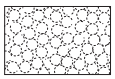
12. 土器および土製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のものについては、そのつど図中に示した。

黒色範囲　 釉薬範囲　 溶解物付着範囲

13. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。

14. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。

 節理　  磨面

 敲打痕（強）　  敲打痕（中）　  敲打痕（弱）

15. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。

16. 土器、石器・石製品を除く遺物実測図に使用したスクリーントーンについては、そのつど図中に示した。

17. 遺構・遺物の観察表内における（ ）付きの計測値は、土器類の各径については推定、その他については残存値を示す。

18. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。

19. 本文中の「灰白色火山灰」（山田・庄子1980）は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田a火山灰（To-a）」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』

仙台市教育委員会2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題－十和田aと白頭山（長白山）を中心に－」『日本律令の展開』吉川弘文館

目　次

巻頭カラー写真
序文
例言
凡例

第１章　調査にいたる経過 …… 1
第１節　調査事由 …… 1
第２節　調査要項 …… 2
（1）調査体制 …… 2
（2）調査報告書作成体制 …… 3
第３節　第 167 次調査（平成 16 年度）に伴う遺構確認調査 …… 3
（1）遺構確認調査に至る経過 …… 3
（2）調査区の設定と調査方法 …… 5
（3）確認調査の概要 …… 5
（4）確認調査成果 …… 5

第２章　遺跡の立地と環境 …… 6
第１節　郡山遺跡の立地と地形 …… 6
第２節　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 6

第３章　調査の方法と概要 …… 8
第１節　調査の方法 …… 8
第２節　調査概要 …… 8
（1）調査経過 …… 8
（2）外溝北西コーナー部の保存工事について …… 9
（3）測量基準・図面の作成 …… 10
（4）遺物の取り上げ・調査記録の作成 …… 10
（5）遺物登録番号 …… 10
（6）調査報告書作成作業 …… 10

第４章　第 167 次・第 180 次調査 …… 10
第１節　基本層序 …… 10
第２節　第 167 次確認調査で検出された遺構と遺物 …… 15
第３節　古代～中世の遺構と遺物 …… 18
（1）竪穴遺構 …… 20
（2）小溝状遺構群 …… 21
（3）溝跡 …… 32

（4）井戸跡 …… 37
（5）土坑 …… 38
（6）ピット …… 40
（7）性格不明遺構 …… 54
第４節　古墳時代～古代の遺構と遺物 …… 54
（1）竪穴住居跡 …… 55
（2）掘立柱建物跡 …… 144
（3）区画施設・溝跡 …… 165
（4）土坑 …… 181
（5）性格不明遺構 …… 183
（6）遺構外出土遺物 …… 188

第５章　第 196 次調査 …… 191
第１節　基本層序 …… 191
第２節　中世～近世の遺構と遺物 …… 199
（1）掘立柱建物跡 …… 201
（2）小溝状遺構群 …… 203
（3）溝跡 …… 205
（4）井戸跡 …… 220
（5）土坑 …… 226
（6）ピット …… 231
第３節　古墳時代～古代の遺構と遺物 …… 247
（1）竪穴住居跡 …… 248
（2）掘立柱建物跡 …… 270
（3）溝跡 …… 275
（4）土坑 …… 283
（5）性格不明遺構 …… 284
（6）遺構外出土遺物 …… 285
第４節　弥生時代以前の遺構と遺物 …… 287
（1）Ⅰ区Ⅵ層（弥生時代中期） …… 287
（2）Ⅰ区ⅩⅡ層（縄文時代晩期後葉） …… 289
（3）Ⅰ区ⅩⅥ層（縄文時代後期後葉） …… 293
（4）Ⅱ～Ⅳ区Ⅴｂ層（弥生時代中期中葉） …… 300
（5）Ⅱ・Ⅳ区Ⅸ層（縄文時代） …… 306

第６章　自然科学分析 …… 308
第１節　分析の目的 …… 308
第２節　郡山遺跡の火山灰分析（第 167 次－１年次調査） …… 309
第３節　郡山遺跡の火山灰分析（第 196 次－２年次調査） …… 311

第４節　郡山遺跡のプラント・オパール分析（第 196 次－２年次調査）……314

第７章　総括……320
第１節　古墳時代～古代の出土遺物……320
（1）第 167 次・第 180 次調査出土遺物……320
（2）第 167 次・第 180 次調査出土の鬼高系土師器について……321
（3）第 196 次調査出土遺物……330
第２節　第 167 次・第 180 次調査における古墳時代～古代の検出遺構……332
（1）竪穴住居跡……332
（2）掘立柱建物跡……340
（3）区画施設……343
第３節　第 196 次調査の弥生時代水田跡……344
第４節　まとめ……349
（1）第 167 次・第 180 次調査……349
（2）第 196 次調査……351

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図および調査区配置図…… 2
第 2 図　第167次確認調査トレンチ配置図…… 4
第 3 図　郡山遺跡と周辺の遺跡…… 7
第 4 図　グリッド配置図
（第167次・第180次調査区）…… 8
第 5 図　グリッド配置図（第196次調査区）…… 9
第 6 図　基本層序 第167次（1年次）調査区…11・12
第 7 図　基本層序 第167次（2年次）・
第180次調査区……13・14
第 8 図　第167次16～19トレンチ…… 16
第 9 図　1・16・18トレンチ出土遺物…… 17
第10図　Ⅳ層上面遺構配置図（古代～中世）
第167次（1年次）・第180次西部…… 18
第11図　Ⅳ層上面遺構配置図（古代～中世）
第167次（2年次）・第180次…… 19
第12図　SI31竪穴遺構・出土遺物…… 20
第13図　小溝状遺構A・B群配置図…… 22
第14図　小溝状遺構A・B群断面図…… 23
第15図　小溝状遺構C・D群配置図…… 25
第16図　小溝状遺構C・D群断面図…… 26
第17図　小溝状遺構E・F群・他配置図…… 28
第18図　小溝状遺構E・F群・SM77・78・84…… 29
第19図　小溝状遺構E・F群・SM77・78・84
断面図…… 30
第20図　小溝状遺構群出土遺物…… 31
第21図　溝跡（古代～中世）出土遺物（1）…… 32
第22図　溝跡（古代～中世）……33・34
第23図　溝跡（古代～中世）出土遺物（2）…… 36
第24図　溝跡（古代～中世）出土遺物（3）…… 37
第25図　SE1井戸跡…… 37
第26図　土坑（古代～中世）（1）…… 38
第27図　土坑（古代～中世）（2）…… 39
第28図　土坑（古代～中世）出土遺物…… 40
第29図　ピット配置図第167次（1年次）調査…… 41

第30図　ピット配置図第167次(2年次)調査・第180次調査 …… 42
第31図　ピット(1) …… 51
第32図　ピット(2) …… 52
第33図　ピット(3) …… 53
第34図　ピット出土遺物 …… 53
第35図　SX2性格不明遺構 …… 54
第36図　Ⅳ層上面遺構配置図(古墳時代～古代)第167次(1年次) …… 55
第37図　Ⅳ層上面遺構配置図(古墳時代～古代)第167次(2年次)・第180次 …… 56
第38図　SI1竪穴住居跡 …… 58
第39図　SI1竪穴住居跡出土遺物(1) …… 59
第40図　SI1竪穴住居跡出土遺物(2) …… 60
第41図　SI1竪穴住居跡出土遺物(3) …… 61
第42図　SI1竪穴住居跡出土遺物(4) …… 62
第43図　SI1竪穴住居跡出土遺物(5) …… 63
第44図　SI2竪穴住居跡 …… 64
第45図　SI2竪穴住居跡出土遺物(1) …… 65
第46図　SI2竪穴住居跡出土遺物(2) …… 66
第47図　SI3竪穴住居跡 …… 67
第48図　SI3竪穴住居跡出土遺物(1) …… 68
第49図　SI3竪穴住居跡出土遺物(2) …… 69
第50図　SI3竪穴住居跡出土遺物(3) …… 70
第51図　SI3竪穴住居跡出土遺物(4) …… 71
第52図　SI4A竪穴住居跡(1) …… 73
第53図　SI4A竪穴住居跡(2)・出土遺物(1) …… 75
第54図　SI4A竪穴住居跡出土遺物(2) …… 76
第55図　SI4B竪穴住居跡 …… 77
第56図　SI4C竪穴住居跡 …… 78
第57図　SI5竪穴住居跡・出土遺物 …… 80
第58図　SI6竪穴住居跡出土遺物 …… 80
第59図　SI6竪穴住居跡 …… 81
第60図　SI7竪穴住居跡 …… 82
第61図　SI7竪穴住居跡出土遺物 …… 83
第62図　SI8竪穴住居跡 …… 84
第63図　SI8竪穴住居跡出土遺物 …… 85
第64図　SI9竪穴住居跡・出土遺物 …… 86
第65図　SI10竪穴住居跡 …… 88
第66図　SI11A竪穴住居跡 …… 89
第67図　SI11B竪穴住居跡 …… 91
第68図　SI11A・B竪穴住居跡出土遺物 …… 92
第69図　SI12竪穴住居跡 …… 93
第70図　SI12竪穴住居跡出土遺物(1) …… 94
第71図　SI12竪穴住居跡出土遺物(2) …… 95
第72図　SI13竪穴住居跡・出土遺物 …… 96
第73図　SI14竪穴住居跡 …… 97
第74図　SI14竪穴住居跡出土遺物(1) …… 98
第75図　SI14竪穴住居跡出土遺物(2) …… 99
第76図　SI15竪穴住居跡・出土遺物 …… 100
第77図　SI16竪穴住居跡 …… 101
第78図　SI17竪穴住居跡 …… 102
第79図　SI17竪穴住居跡出土遺物 …… 103
第80図　SI18竪穴住居跡 …… 104
第81図　SI19竪穴住居跡(1) …… 105
第82図　SI19竪穴住居跡(2) …… 106
第83図　SI19竪穴住居跡出土遺物 …… 107
第84図　SI20竪穴住居跡出土遺物 …… 108
第85図　SI20竪穴住居跡 …… 109
第86図　SI21竪穴住居跡(1) …… 111
第87図　SI21竪穴住居跡(2) …… 112
第88図　SI21竪穴住居跡出土遺物 …… 113
第89図　SI22竪穴住居跡 …… 114
第90図　SI22竪穴住居跡出土遺物 …… 115
第91図　SI23竪穴住居跡 …… 116
第92図　SI23竪穴住居跡出土遺物 …… 117
第93図　SI24竪穴住居跡・出土遺物 …… 118
第94図　SI25竪穴住居跡 …… 119
第95図　SI25竪穴住居跡出土遺物 …… 121
第96図　SI26竪穴住居跡・出土遺物 …… 122
第97図　SI27A竪穴住居跡(1) …… 124
第98図　SI27A竪穴住居跡(2) …… 126
第99図　SI27A竪穴住居跡出土遺物(1) …… 126
第100図　SI27A竪穴住居跡出土遺物(2) …… 127
第101図　SI27B竪穴住居跡(1) …… 128
第102図　SI27B竪穴住居跡(2) …… 129
第103図　SI28竪穴住居跡 …… 131
第104図　SI28竪穴住居跡出土遺物(1) …… 132

第105図　SI28竪穴住居跡出土遺物(2)…… 133
第106図　SI28竪穴住居跡出土遺物(3)…… 134
第107図　SI28竪穴住居跡出土遺物(4)…… 135
第108図　SI29竪穴住居跡 …… 136
第109図　SI30竪穴住居跡 …… 137
第110図　SI32竪穴住居跡・出土遺物(1) …… 138
第111図　SI32竪穴住居跡出土遺物(2)…… 139
第112図　SI33竪穴住居跡 …… 140
第113図　SI34竪穴住居跡 …… 141
第114図　SI35竪穴住居跡 …… 142
第115図　SI35竪穴住居跡出土遺物 …… 144
第116図　SB1掘立柱建物跡 …… 145
第117図　SB1掘立柱建物跡出土遺物 …… 146
第118図　SB2掘立柱建物跡 …… 147
第119図　SB2掘立柱建物跡出土遺物(1) …… 148
第120図　SB2掘立柱建物跡出土遺物(2) …… 149
第121図　SB3掘立柱建物跡 …… 149
第122図　SB4掘立柱建物跡 …… 151
第123図　SB5掘立柱建物跡 …… 152
第124図　SB6掘立柱建物跡 …… 154
第125図　SB7掘立柱建物跡 …… 156
第126図　SB6・7掘立柱建物跡出土遺物 …… 156
第127図　SB8掘立柱建物跡 …… 157
第128図　SB9掘立柱建物跡 …… 158
第129図　SB10掘立柱建物跡 …… 159
第130図　SB11掘立柱建物跡 …… 160
第131図　SB14掘立柱建物跡 …… 161
第132図　SB15掘立柱建物跡 …… 162
第133図　SB15掘立柱建物跡出土遺物 …… 163
第134図　SB17掘立柱建物跡 …… 164
第135図　SD11溝跡断面図 …… 166
第136図　SD11溝跡
　第167次(1年次)調査出土遺物(1) … 166
第137図　区画施設・溝跡
　－SD11・13・15～17・SA1 …… 167・168
第138図　SD11溝跡
　第167次(1年次)調査出土遺物(2) … 169
第139図　SD11溝跡第180次調査出土遺物(1)… 170
第140図　SD11溝跡第180次調査出土遺物(2)… 171
第141図　SD13溝跡出土遺物(1)…… 172
第142図　SD13溝跡遺物出土状況 …… 173・174
第143図　SD13溝跡出土遺物(2)…… 175
第144図　SD13溝跡出土遺物(3)…… 176
第145図　SD15溝跡断面図・出土遺物…… 177
第146図　SD16溝跡 …… 177
第147図　SD13・17溝跡断面図 …… 178
第148図　SD17溝跡出土遺物(1)…… 179
第149図　SD17溝跡出土遺物(2)…… 180
第150図　SA1材木列跡 …… 180
第151図　土坑(古墳時代～古代)(1)・
　SK3出土遺物 …… 181
第152図　土坑(古墳時代～古代)(2) …… 182
第153図　SX1性格不明遺構 …… 183
第154図　SX1性格不明遺構出土遺物(1) …… 184
第155図　SX1性格不明遺構出土遺物(2) …… 185
第156図　SD10性格不明遺構・出土遺物…… 186
第157図　SD12性格不明遺構(1)…… 187
第158図　SD12性格不明遺構(2)…… 188
第159図　第167次(1年次)調査
　遺構外出土遺物(1) …… 188
第160図　第167次(1年次)調査
　遺構外出土遺物(2) …… 189
第161図　第167次(1年次)調査
　遺構外出土遺物(3) …… 190
第162図　基本層序 第196次調査区
　－Ⅱ区…… 192
第163図　基本層序 第196次調査区
　－Ⅰ区…… 193・194
第164図　基本層序 第196次調査区
　－Ⅲ区…… 195・196
第165図　基本層序 第196次調査区
　－Ⅳ区…… 197・198
第166図　Ⅳ層上面遺構配置図(中世～近世)
　－Ⅴ区…… 199
第167図　Ⅳ層上面遺構配置図(中世～近世)
　－Ⅲ区…… 200
第168図　Ⅳ層上面遺構配置図(中世～近世)
　－Ⅳ区…… 201

第169図　SB5掘立柱建物跡 …… 202
第170図　小溝状遺構A・B群 …… 203
第171図　SD5・8・9溝跡出土遺物…… 205
第172図　SD5・8・9溝跡…… 207・208
第173図　SD10・24溝跡 …… 209・210
第174図　SD10・24溝跡断面図 …… 211
第175図　SD10溝跡出土遺物(1)…… 212
第176図　SD10溝跡出土遺物(2)…… 213
第177図　SD10溝跡出土遺物(3)…… 214
第178図　SD10溝跡出土遺物(4)…… 215
第179図　SD3・4・6・7・77・121溝跡 …… 217
第180図　SD3・4・6・7・77・121溝跡断面図 …… 218
第181図　SD121溝跡遺物出土状況…… 219
第182図　SD121溝跡出土遺物…… 219
第183図　SE1・2井戸跡・出土遺物 …… 221
第184図　SE3・4井戸跡 …… 222
第185図　SE3・4井戸跡出土遺物 …… 223
第186図　SE5～7井戸跡 …… 224
第187図　SE5・7井戸跡出土遺物 …… 225
第188図　SE8・9井戸跡 …… 226
第189図　土坑(中世～近世)(1) …… 226
第190図　土坑(中世～近世)(2) …… 227
第191図　土坑(中世～近世)(3) …… 228
第192図　土坑(中世～近世)(4) …… 229
第193図　土坑(中世～近世)出土遺物(1) …… 229
第194図　土坑(中世～近世)出土遺物(2) …… 230
第195図　Ⅲ区ピット出土遺物…… 239
第196図　Ⅰ区ピット…… 240
第197図　Ⅱ区ピット…… 241
第198図　Ⅲ区ピット配置図…… 242
第199図　Ⅲ区ピット(1) …… 243
第200図　Ⅲ区ピット(2) …… 244
第201図　Ⅳ区ピット…… 245
第202図　Ⅲ区東・Ⅴ区ピット …… 246
第203図　Ⅳ層上面遺構配置図(古墳時代～古代)
－Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ区…… 247
第204図　Ⅳ層上面遺構配置図(古墳時代～古代)
－Ⅳ区…… 248
第205図　SI1竪穴住居跡 …… 249
第206図　SI2竪穴住居跡(1) …… 251
第207図　SI2竪穴住居跡(2) …… 252
第208図　SI2竪穴住居跡出土遺物 …… 253
第209図　SI3竪穴住居跡 …… 254
第210図　SI4竪穴住居跡 …… 256
第211図　SI4竪穴住居跡出土遺物 …… 257
第212図　SI5竪穴住居跡 …… 257
第213図　SI6竪穴住居跡 …… 258
第214図　SI7竪穴住居跡(1) …… 259
第215図　SI7竪穴住居跡(2) …… 260
第216図　SI7竪穴住居跡(3) …… 261
第217図　SI7竪穴住居跡(4) …… 262
第218図　SI8竪穴住居跡(1) …… 263
第219図　SI8竪穴住居跡(2) …… 264
第220図　SI8竪穴住居跡出土遺物 …… 265
第221図　SI9竪穴住居跡 …… 266
第222図　SI9竪穴住居跡出土遺物 …… 267
第223図　SI10竪穴住居跡 …… 268
第224図　竪穴住居跡掘り方工具痕検出状況図
(SI2・3・5)…… 269
第225図　竪穴住居跡掘り方工具痕検出状況図
(SI4・6) …… 270
第226図　SB1掘立柱建物跡 …… 271
第227図　SB2掘立柱建物跡 …… 272
第228図　SB3掘立柱建物跡 …… 272
第229図　SB3掘立柱建物跡出土遺物 …… 273
第230図　SB4掘立柱建物跡 …… 274
第231図　SD11・15・19溝跡出土遺物…… 275
第232図　SD1・2溝跡…… 276
第233図　SD11～23・26・27溝跡・
SD11～13断面図 …… 277・278
第234図　SD14～23・26・27溝跡断面図 …… 279
第235図　SD13溝跡出土遺物(1)…… 280
第236図　SD13溝跡出土遺物(2)…… 281
第237図　SD14溝跡出土遺物 …… 282
第238図　SD27溝跡出土遺物 …… 283
第239図　土坑(古墳時代～古代)・
SK20出土遺物 …… 284
第240図　SX1・2性格不明遺構…… 285

第241図　遺構外出土遺物(1) …… 285
第242図　遺構外出土遺物(2) …… 286
第243図　遺構外出土遺物(3) …… 287
第244図　Ⅰ区Ⅵ層遺物出土状況(南区)・
出土遺物…… 288
第245図　Ⅰ区ⅩⅡ層上面ピット(北区)…… 289
第246図　Ⅰ区ⅩⅡ層遺物出土状況(北区)…… 290
第247図　Ⅰ区ⅩⅡ層A－1～3出土状況(北区)… 291
第248図　Ⅰ区ⅩⅡ層出土遺物(1) …… 292
第249図　Ⅰ区ⅩⅡ層出土遺物(2) …… 293
第250図　Ⅰ区ⅩⅥ層遺物出土状況(北区)…… 294
第251図　Ⅰ区ⅩⅥ層
A－10・11・13～15出土状況(北区) … 295
第252図　Ⅰ区ⅩⅥ層
A－12・16出土状況(北区) …… 296
第253図　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物(1) …… 297
第254図　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物(2) …… 298
第255図　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物(3) …… 299
第256図　Ⅲ・Ⅳ区水田跡・溝状遺構…… 301・302
第257図　Ⅱ・Ⅳ区Ⅴb層遺物出土状況…… 303・304
第258図　Ⅱ・Ⅳ区Ⅴb層出土遺物…… 305
第259図　Ⅱ区Ⅴb層出土遺物 …… 306
第260図　Ⅱ・Ⅳ区テストピットⅨ層遺物出土状況・
出土遺物…… 307
第261図　第167次(1年次)調査
火山灰試料採取位置…… 308
第262図　郡山遺跡の火山ガラス比
ダイアグラム…… 313
第263図　郡山遺跡Aセクションの
プラント・オパール分析結果 …… 318
第264図　郡山遺跡Dセクションの
プラント・オパール分析結果 …… 318
第265図　植物珪酸体(プラント・オパール)の
顕微鏡写真…… 319
第266図　主要遺構重複関係模式図…… 322
第267図　第167次・第180次調査
出土遺物集成(1) …… 323
第268図　第167次・第180次調査
出土遺物集成(2) …… 324
第269図　第167次・第180次調査
出土遺物集成(3) …… 325
第270図　第167次・第180次調査
出土遺物集成(4) …… 326
第271図　第167次・第180次調査
出土遺物集成(5) …… 327
第272図　第167次・第180次調査
出土遺物集成(6) …… 328
第273図　第167次・第180次調査
出土遺物集成(7) …… 329
第274図　第196次調査出土遺物集成(1) …… 330
第275図　第196次調査出土遺物集成(2) …… 331
第276図　第167次・第180次調査
遺構変遷図(1・2期) …… 334
第277図　第167次・第180次調査
遺構変遷図(3・4期) …… 335
第278図　第167次・第180次調査
遺構変遷図(5期) …… 336
第279図　竪穴住居跡時期別集成図(1期) …… 337
第280図　竪穴住居跡時期別集成図(2期) …… 338
第281図　竪穴住居跡時期別集成図(3～5期) … 340
第282図　掘立柱建物跡時期別集成図…… 342
第283図　第167次・第180次調査および周辺の
主な区画施設…… 345・346
第284図　第196次調査Ⅴb層水田跡と長町駅東遺跡
第4次調査Ⅴa層水田跡 …… 347・348
第285図　郡山遺跡第167次調査および西台畑遺跡
出土の中空円面硯…… 350
第286図　SD13出土荊棘轡と群馬県御門1号古墳
出土の荊棘轡…… 351
第287図　第196次調査検出の大型溝と
主な周辺遺構…… 353・354
第288図　第 167 次・第 180 次調査
古墳時代～古代遺構配置図…… 357・358
第289図　第 196 次調査
古墳時代～古代遺構配置図…… 359・360

写真図版目次

第 167 次・第 180 次調査

写真図版１　第167次確認調査
写真図版２　基本土層
写真図版３　調査区全景（古代～中世）
写真図版４　竪穴遺構（古代～中世）・
　　小溝状遺構群（1）
写真図版５　小溝状遺構群（2）
写真図版６　溝跡（古代～中世）・井戸跡・土坑（1）
写真図版７　土坑（2）・ピット・性格不明遺構
　　（古代～中世）
写真図版８　調査区全景－第167次調査
　　（古墳時代～古代）
写真図版９　調査区全景－第180次調査
　　（古墳時代～古代）・竪穴住居跡（1）
写真図版10　竪穴住居跡（2）
写真図版11　竪穴住居跡（3）
写真図版12　竪穴住居跡（4）
写真図版13　竪穴住居跡（5）
写真図版14　竪穴住居跡（6）
写真図版15　竪穴住居跡（7）
写真図版16　竪穴住居跡（8）
写真図版17　竪穴住居跡（9）
写真図版18　竪穴住居跡（10）
写真図版19　竪穴住居跡（11）
写真図版20　掘立柱建物跡（1）
写真図版21　掘立柱建物跡（2）
写真図版22　区画施設（1）
写真図版23　区画施設（2）
写真図版24　区画施設（3）
写真図版25　区画施設（4）
写真図版26　区画施設（5）・溝跡
写真図版27　土坑・性格不明遺構（古墳時代～古代）
写真図版28　トレンチ・竪穴遺構・小溝状遺構群・溝跡
　　（古代～中世）出土遺物（1）
写真図版29　溝跡（2）・土坑（古代～中世）出土遺物（1）
写真図版30　土坑（2）・ピット（古代～中世）・
　　竪穴住居跡出土遺物（1）
写真図版31　竪穴住居跡出土遺物（2）
写真図版32　竪穴住居跡出土遺物（3）
写真図版33　竪穴住居跡出土遺物（4）
写真図版34　竪穴住居跡出土遺物（5）
写真図版35　竪穴住居跡出土遺物（6）
写真図版36　竪穴住居跡出土遺物（7）
写真図版37　竪穴住居跡出土遺物（8）
写真図版38　竪穴住居跡出土遺物（9）
写真図版39　竪穴住居跡出土遺物（10）
写真図版40　竪穴住居跡出土遺物（11）
写真図版41　竪穴住居跡出土遺物（12）
写真図版42　竪穴住居跡出土遺物（13）
写真図版43　竪穴住居跡出土遺物（14）
写真図版44　竪穴住居跡（15）・掘立柱建物跡・
　　区画施設出土遺物（1）
写真図版45　区画施設出土遺物（2）
写真図版46　区画施設出土遺物（3）
写真図版47　区画施設（4）・土坑・性格不明遺構
　　（古墳時代～古代）出土遺物（1）
写真図版48　性格不明遺構（古墳時代～古代）
　　出土遺物（2）
写真図版49　遺構外出土遺物

第 196 次調査

写真図版１　調査区全景(1)
写真図版２　調査区全景(2)
写真図版３　基本土層(1)
写真図版４　基本土層(2)
写真図版５　掘立柱建物跡(中世～近世)・
小溝状遺構群(1)
写真図版６　小溝状遺構群(2)・
溝跡(1)(中世～近世)
写真図版７　溝跡(2)(中世～近世)
写真図版８　溝跡(3)(中世～近世)
写真図版９　溝跡(4)(中世～近世)
写真図版10　井戸跡(1)
写真図版11　井戸跡(2)・土坑(1)(中世～近世)
写真図版12　土坑(2)・ピット(中世～近世)
写真図版13　竪穴住居跡(1)
写真図版14　竪穴住居跡(2)
写真図版15　掘立柱建物跡(古墳時代～古代)
写真図版16　溝跡(1)(古墳時代～古代)
写真図版17　溝跡(2)(古墳時代～古代)
写真図版18　溝跡(3)(古墳時代～古代)
写真図版19　土坑・性格不明遺構(古墳時代～古代)
写真図版20　下層調査－Ⅰ区(1)
写真図版21　下層調査－Ⅰ区(2)
写真図版22　下層調査－Ⅱ～Ⅳ区(1)
写真図版23　下層調査－Ⅱ～Ⅳ区(2)
写真図版24　下層調査－Ⅱ～Ⅳ区(3)
写真図版25　溝跡(中世～近世)出土遺物(1)
写真図版26　溝跡(中世～近世)出土遺物(2)
写真図版27　溝跡(中世～近世)(3)・井戸跡出土遺物(1)
写真図版28　井戸跡(2)・土坑(中世～近世)
出土遺物(1)
写真図版29　土坑(2)・ピット(中世～近世)・
竪穴住居跡出土遺物(1)
写真図版30　竪穴住居跡(2)・掘立柱建物跡・溝跡
(古墳時代～古代)出土遺物(1)
写真図版31　溝跡(2)・土坑(古代～古墳時代)・遺構外
出土遺物(1)
写真図版32　遺構外(2)・Ⅰ区Ⅵ層・ⅩⅡ層出土遺物(1)
写真図版33　Ⅰ区ⅩⅡ層(2)・ⅩⅥ層出土遺物(1)
写真図版34　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物(2)
写真図版35　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物(3)
写真図版36　Ⅳ区Ⅴb層・Ⅱ区Ⅴb層・Ⅳ区Ⅸ層
出土遺物

第 1 章　調査にいたる経過

第 1 節　調査事由（第 1 図）

「仙台市あすと長町土地区画整理事業」は、仙台市太白区長町に計画された「長町地区新都市整備計画」に伴い実施されることになった事業である。あすと長町土地区画整理事業の施行に当たり、仙台市教育委員会と事業主体者である住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）は埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、事業計画地内の計画路線にかかる西台畑遺跡・長町駅東遺跡及び郡山遺跡の一部について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は区画整理事業地内の計画路線部分を対象として、事業計画の進行に合わせて実施することとし、平成 10 年の西台畑遺跡の調査から開始した。郡山遺跡については、平成 13 年の第 144 次調査から平成 21 年の 196 次調査まで、7 年間で調査次数では 5 次にわたり調査を実施している（註 1）。平成 24 年度時点では、区画整理事業の施行以外の調査事由による第 200 次調査を含め、別表の地点で調査を実施している。

平成 16・17 年の第 167 次調査は、都市計画道路長町折立線と環状線を対象に行っている。この区域では、平成 15 年度に副都心大通り線を対象にした確認調査成果や航空写真の判読等から、河川跡の存在が想定されていた（註 2）。そこで調査の実施に当たり、郡山遺跡北西部の遺構面の状況を確認するため全域を対象とした確認調査を実施し、遺構密度や残存範囲の確認と河川跡の範囲を確認することとした。

その結果、平成 17 年の調査で、Ⅱ期官衙外溝北西コーナー部と北辺の一部を確認したほか、外溝を含む古代の遺構面を浸食し東に伸びる河川跡（広瀬川）を発見している（註 3）。

なお、区画整理事業地から東に伸びる都市計画道路整備事業について、計画当初は長町折立線の事業名であったが、その後事業地外の整備についても仙台市からの委託を受け都市再生機構が施行することになり、事業名称も長町八木山線と変更された。

註 1：郡山遺跡については、遺跡の範囲と性格を明らかにするため調査計画を立案し、国庫補助事業として昭和 55 年（1980）以来継続的な調査を実施しており、調査次数が付与されている。区画整理事業に伴う郡山遺跡を対象とした調査についても同様に調査次数が付けられている。

註 2：「郡山遺跡第 84・85 次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第 145 集

註 3：郡山遺跡北縁部の地形環境については、郡山遺跡第 190 次調査報告書「第 2 章　郡山遺跡及びその周辺の地形環境－扇状地と旧河道地形－東北学院大学地域構想学科松本秀明」仙台市文化財調査報告書第 389 集を参照されたい。

郡山遺跡 年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査区	調査成果	所収報告書
平成13年 (2001)	第144次調査	22 ～ 25 街区 区画道路	Ⅰ期官衙関連溝跡・溝跡 縄文・弥生時代遺物包含層	第 358 集
平成16年 (2004)	第167次調査	都市計画道路 折立線・環状線	竪穴住居跡 18 軒・掘立柱建物跡 11 棟・溝跡 9 条・性格不明遺構 3 基・土坑 小溝状遺構群・河川跡 (広瀬川)	本書
		遺構範囲確認調査	竪穴住居跡・溝跡・河川跡	本書
平成17年 (2005)	第167次調査	都市計画道路 長町八木山線	竪穴住居跡 6 軒・掘立柱建物跡 1 棟・土坑 Ⅱ期官衙外溝北西コーナー部・河川跡 (広瀬川)	本書
平成18年 (2006)	第180次調査	21 街区南 市道拡幅	竪穴住居跡 11 軒・掘立柱建物跡 1 棟・溝跡 6 条・河川跡 (広瀬川)	本書
平成20･21年 (2008･09)	第190次調査	都市計画道路 長町八木山線	住居跡 17 軒・竪穴遺構 1 基・掘立柱建物跡 7 棟・材木列 1 条・小溝状遺構群 窪地状地形・弥生時代包含層・炭化物集中範囲・河川跡 (広瀬川)	第 389 集
平成20年 (2008)	第196次調査	環状線東	溝跡・ピット・河川跡 縄文・弥生時代遺物包含層	本書
平成21年 (2009)	第196次調査	環状線東	竪穴住居跡 10 軒・掘立柱建物跡 5 棟・溝跡 27 条・土坑・小溝状遺構群 弥生時代中期水田跡	本書
平成22年 (2010)	第200次調査	21 街区内 民地店舗建設	竪穴住居跡 10 軒・掘立柱建物跡 1 棟・溝跡 6 条・土坑・材木列 2 条	第 391 集

第２節　調査要項

遺跡名称：郡山遺跡（宮城県遺跡地名番号 01003）

所在地：宮城県仙台市太白区郡山３丁目ほか

調査原因：仙台市あすと長町土地区画整理事業の施行に伴う埋蔵文化財の事前調査

(1) 調査体制

平成 16 年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤信一郎　文化財教諭 大倉秀之　文化財教諭 浅野克樹

派遣調査員 秋山重美（株式会社玉川文化財研究所）

調査期間：2004 年（平成 16 年）6 月 14 日～ 2004 年（平成 16 年）12 月 28 日

調査面積：本調査面積 2,000㎡　確認調査面積：長町折立線・環状線予定地 1360㎡　事業街区 900㎡

平成 17 年度

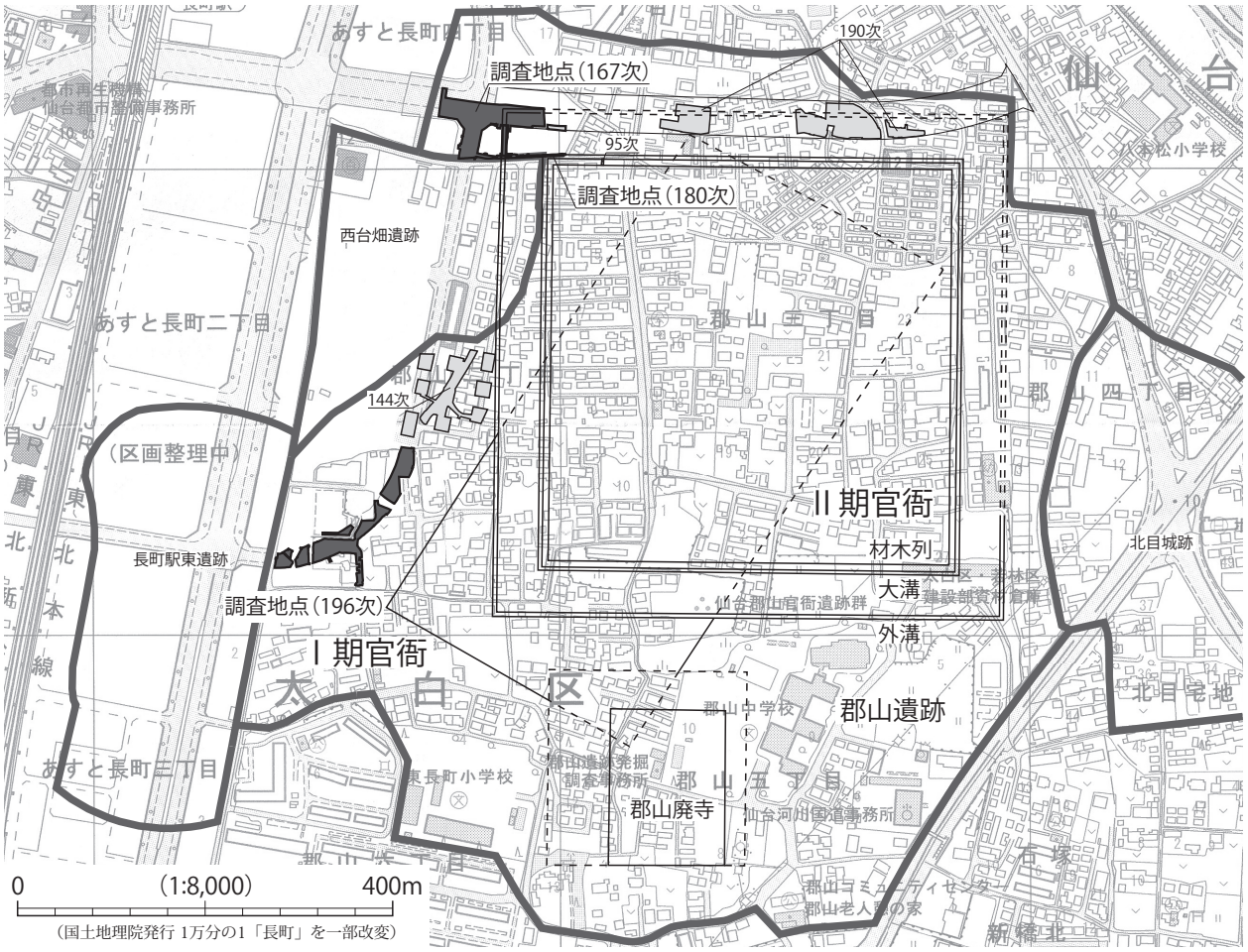
調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤信一郎　文化財教諭 今野秀治　文化財教諭 佐々信行

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　調査員 松本欣士

調査期間：2005 年（平成 17 年）5 月 23 日～ 2005 年（平成 17 年）9 月 30 日

調査面積：本調査面積 1,970㎡



第１図　遺跡位置図および調査区配置図

平成 18 年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤 信一郎　文化財教諭 佐々 信行

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　調査員 福島 正史　松本 欣士

調査期間：2006 年（平成 18 年）10 月 26 日～ 2006 年（平成 18 年）12 月 21 日

調査面積：本調査面積 230㎡

平成 20 年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤 信一郎　文化財教諭 早川 潤一　文化財教諭 藤田 雄介

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　調査員 松本 欣士　調査補助員 福井 流星

調査期間：2008 年（平成 20 年）10 月 1 日～ 2008 年（平成 20 年）12 月 25 日

調査面積：古代面約 955㎡　弥生面約 320㎡　縄文面約 120㎡

平成 21 年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤 信一郎　文化財教諭 早川 潤一　文化財教諭 藤田 雄介

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 長谷川 徹　調査員 松本 欣士

調査期間：2009 年（平成 21 年）6 月 15 日～ 2010 年（平成 22 年）1 月 15 日

調査面積：本調査面積 1,970㎡

（2）調査報告書作成体制

平成 22 年度

調査主体：仙台市教育委員会

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係　工藤 信一郎　水野 一夫

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 藤田 亮一　調査員 吉澤 学

調査補助員 松本 欣士

整理期間：2010 年（平成 22 年）10 月 18 日～ 2011 年（平成 23 年）3 月 18 日

平成 24 年度

調査主体：仙台市教育委員会

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係　工藤 信一郎　黒田 智章

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　調査員 菊池 康一郎

整理期間：2012 年（平成 24 年）5 月 11 日～ 2013 年（平成 25 年）3 月 15 日

第 3 節　第 167 次調査（平成 16 年度）に伴う遺構確認調査（第 2 図）

（1）遺構確認調査に至る経過

第 167 次調査の調査地点は、郡山遺跡方四町Ⅱ期官衙の外郭大溝北西部に隣接し、外溝の北西コーナー部が位置することが想定されるなど、官衙に関係する遺構が存在する可能性が考えられた。しかし、調査対象となる都市計画道路長町八木山線西側部分は、昭和 30 年代以降国鉄長町貨物ヤードに隣接する工場用地として利用されており、工場施設の建設等に伴う影響を受けていることが考えられた。また、西台畑遺跡での調査成果や航空写真の判

読から、広瀬川と考えられる大規模な河川の浸食により遺構面が広範囲に削平されている可能性があった。

そこで、発掘調査の開始に当たり、調査対象となる計画道路部分を対象に遺構確認調査を実施し、遺跡範囲の広がりや遺構の密度・遺存状況を確認し、今後の発掘調査計画を策定することとした。

第 2 図　第 167 次確認調査トレンチ配置図

区画整理事業に伴う発掘調査は道路計画部分を対象としているが、供用開始に向けた換地計画の作成と街区部分の用地造成工事により遺構面が削平されないよう、事業者である都市基盤整備公団と協議を行い、街区部分を対象とした遺構確認調査も同時に実施し、遺構面の状況や確認レベル（標高）を確認し、その成果を造成計画等に反映させることになった。

(2) 調査区の設定と調査方法

確認調査区は計画路線のセンターラインを基準としトレンチを設定した。一部調査条件が整わず未調査となった調査区（欠番）もあるが、各調査区の位置については、調査終了後に基準点測量を実施し、「平面直角座標系第Ｘ系」に位置付けている。

調査は、重機により遺構確認面まで掘り下げを行い、その後人力により遺構検出作業を行った。古代の遺構面が残存しないと判断された地点については、可能なかぎり調査区の拡張を行い安全を確保した上で、下層調査を行い、弥生～縄文時代の遺構面、遺物包含層の確認を行った。

調査記録としては、遺構検出状況写真の撮影、調査区平面図の作成、レベル記入を行った。

(3) 確認調査の概要

１年次は、道路計画部分（15 ヶ所）と街区部分（8 ヶ所）に併せて 23 ヶ所の調査区を設定し、調査を行った（第２図）。その結果道路計画部分では、長町八木山線と環状線との交差点周辺の 1・4・6 トレンチで古代の遺構面を確認したが、3・5・7・8 トレンチでは河川堆積が確認された。また、環状線北側部分の 9 ～ 14 トレンチでは、いずれも河川堆積が確認されている。そのうち 9・10 トレンチで、近現代の水田跡を確認した。

街区部分を対象とした調査では、16 ～ 19 トレンチで古代の遺構面を確認したが、20 ～ 23 トレンチでは河川堆積が確認された。

２年次は、長町八木山線の西側部分（2 ヶ所）と街区部分（3 ヶ所）に調査区を設定した。長町八木山線部分については、事業施行直前まで石油事業関連の事業所があり、建築物及び地下構造物の撤去工事の際に立ち会いを行い、河川堆積の一部を確認していたが、調査区２ヶ所から河川堆積を確認した。

街区部分では、調査で確認された河川跡の方向や外溝を確認するために調査区を設定している。

(4) 確認調査成果

○環状線部分の 9 トレンチから北側と長町八木山線のうち 3 トレンチから西側については、表層下から河川堆積を確認したことから古代の遺構面は存在しないと判断され、現時点では調査対象から除外できると判断できる。

○長町八木山線北側の街区部分についても、表層下から河川堆積を確認したことと、従前の土地利用から古代の遺構面は存在しないと判断され、現時点では調査対象から除外できると判断できる。

○ 16 トレンチの状況と昭和 57 年に行われた調査成果から、河川跡は南西方向に伸びていることが想定される。

○ 19 トレンチの状況から、河川跡は南東方向に伸びているが、これは航空写真の判読から想定されていた河川跡の想定ラインとほぼ一致している。

今回の遺構確認調査により、現時点では調査の必要が無いと判断された区域についても、今後調査が進み新たな知見が得られ、調査対象範囲の見直しが必要となることも想定されることから、工事施工時に改めて協議を行い、必要に応じて試掘調査の実施や工事立会いなどにより対応していくことにした。

第２章　遺跡の立地と環境（第３図）

第１節　郡山遺跡の立地と地形

郡山遺跡は、宮城県のほぼ中央部に相当する仙台市南東部、太白区郡山二～六丁目に広がる遺跡である。東側には国道４号線バイパス、西側にはJR東北本線が南北に走り、これらに挟まれて位置する。北側500ｍ程には広瀬川、南側1km程には名取川がそれぞれ東流し、この２つの河川は本遺跡の南東1.5km程で合流する。遺跡地およびその周辺は「郡山低地」と呼ばれ、これら河川の変流などにより自然堤防と後輩湿地が入り組む地形となっている。郡山遺跡の西側には西台畑遺跡、長町駅東遺跡が接し、東側には北目城跡が接している。また、遺跡の一部は平成18年に「仙台市郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡」として国の史跡指定を受けている。今回の調査は第167・180次調査が遺跡地の北西端部、第196次調査が南西端部で実施された。

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境

郡山遺跡の位置する広瀬川および名取川下流域には。旧石器時代から近代にいたるまでの様々な遺跡が分布している。当該地域の歴史的環境については『富沢遺跡　第30次調査報告書Ⅰ（縄文～近世編）』（仙台市教委1991年）や『郡山遺跡発掘調査報告書　総括編』（同2005年）など多くの報告書に詳しく、ここでは雑駁な概要を記述するに留めておきたい。

旧石器時代では、約２万年前の後期旧石器時代に属す富沢遺跡が著名である。焚火痕や石器ブロック、埋没林などの様々な生物遺体が発見されている。

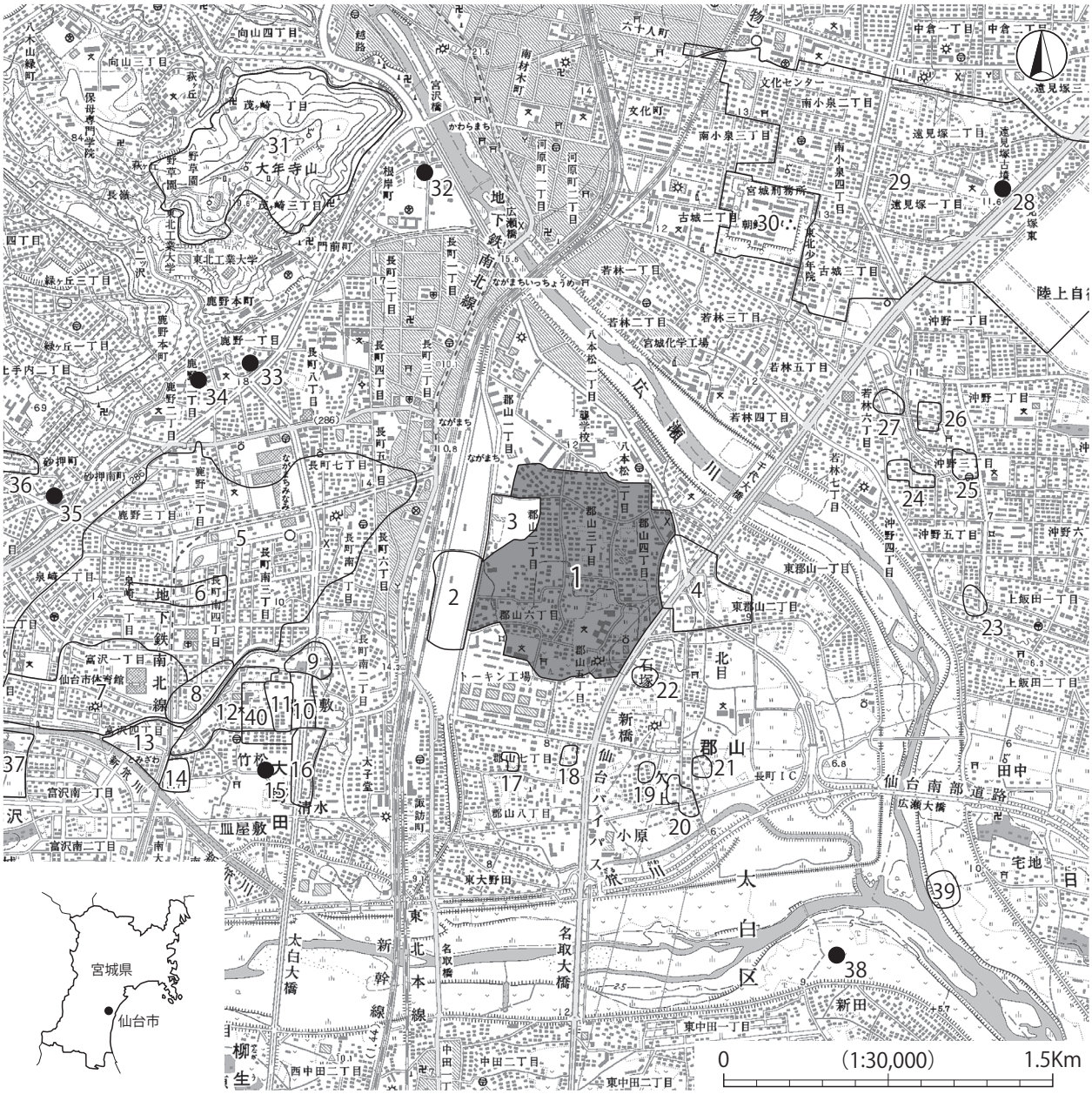
縄文時代では、下ノ内浦遺跡から早期前葉の竪穴住居跡が２軒検出されているが、前期に入ると人々の生活の中心は上流域の丘陵地が中心となる。郡山低地で本格的な土地利用が始まるのは中期以降と考えられ、特に後期以降は遺跡数が増加する。下ノ内遺跡では中期中葉～末葉の竪穴住居跡が３軒検出されたほか、後期前葉の配石墓や土器埋設遺構などが検出されている。郡山遺跡内でも後期中葉～後葉および晩期後葉の遺物が出土している。

弥生時代では、中期中葉から湿地内に水田が営まれ、西台畑遺跡や長町駅遺跡でその一部が検出されている。両遺跡からは土器埋設遺構なども検出され、特に長町駅東遺跡では中期の竪穴住居跡も検出された。居住域・墓域・生産域のセット関係が明らかになったといえる。後期になると、集落の営みは丘陵部へと移動する。

古墳時代では、前期に周溝墓が中心であった墓制が高塚墳に移行し、中期初頭には全長110ｍの前方後円墳、遠見塚古墳が成立する。また中期後半～後期の大野田古墳群内にて継起的な造墓活動が行われ、このうち最大規模の春日社古墳の埋葬施設からは革盾が出土した。前期～後期の集落遺跡としては南小泉遺跡が中心的な存在であるが、終末期には郡山Ⅰ期官衙成立を背景に長町駅東遺跡や西台畑遺跡など、区画施設を伴う集落が出現する。また、単独墓として法領塚古墳、集団墓として向山横穴墓群が築造される。向山横穴墓群は盛行時期や副葬品の特徴などから、郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙との関係が指摘されている。

奈良・平安時代時代では、7世紀末葉～８世紀初頭に郡山Ⅱ期官衙および郡山廃寺が成立する。郡山Ⅱ期官衙は方四町の区画をもち、多賀城創建以前の陸奥国府と考えられている。外周には二重の溝を巡らし、その一辺の長さが藤原京の条坊区画線１単位分と同等になることが指摘されている。周辺の集落も継続して営まれるが、郡山Ⅱ期官衙が多賀城にその機能を移すと集落は衰退する。

中世以降では、王ノ壇遺跡や富沢遺跡などから屋敷跡が検出されている。これらの屋敷跡は交通の要衝に造営されている。また、伊達政宗が仙台城完成まで居住したと伝えられる北目城跡や、政宗が晩年を過ごしたとされる若林城跡などが知られている。



(国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を使用)

No.	遺跡名	種　別	立　地	時　代	No.	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	21	欠ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
2	長町駅東遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	22	矢来遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代
3	西台畑遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防	縄文～中世	23	河原越遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
4	北目城跡	城館・集落跡	自然堤防	縄文～近世	24	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
5	富沢遺跡	集落跡・水田跡	後背湿地	旧石器～近世	25	中柵西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安
6	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	26	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安
7	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	27	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	29	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	弥生～中世
10	大野田遺跡	墓域	自然堤防	縄文・弥生	30	若林城跡	城館	自然堤防	中世・近世
11	袋前遺跡	集落跡・官衙	自然堤防	縄文～平安	31	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世
12	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	32	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	33	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
15	鳥居塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	35	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
16	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	36	土手内横穴群	横穴古墳・窯跡	丘陵斜面	古墳
17	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	37	富沢館跡	城館	自然堤防	中世
18	篭ノ瀬遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	38	大塚山古墳	円墳	自然堤防	古墳
19	欠ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	39	日辺遺跡	集落跡	河川敷	古墳
20	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	40	大野田官衙遺跡	官衙関連	自然堤防	古墳～奈良

第３図　郡山遺跡と周辺の遺跡

第３章　調査の方法と概要

第１節　調査の方法（第４・５図）

第 167 次調査の対象となった環状線及び長町八木山線（旧路線名長町折立線）は、路線幅がそれぞれ 18m と 40m の道路計画であるが、これまで周辺での調査例が少なかったことと河川跡の存在が想定されたことから本調査に先行して遺構確認調査を行った。確認調査成果から本調査対象区域と判断した環状線と長町八木山線の交差点部分での調査の実施について、都市基盤整備公団と協議し、本調査については環状線の調査を先行させ、その後長町八木山線の調査を実施することになった。

第 180 次調査と第 196 次調査については、周辺での調査成果があることから遺構確認調査は実施せず、計画路線幅全体を対象に調査を行った。

第２節　調査概要

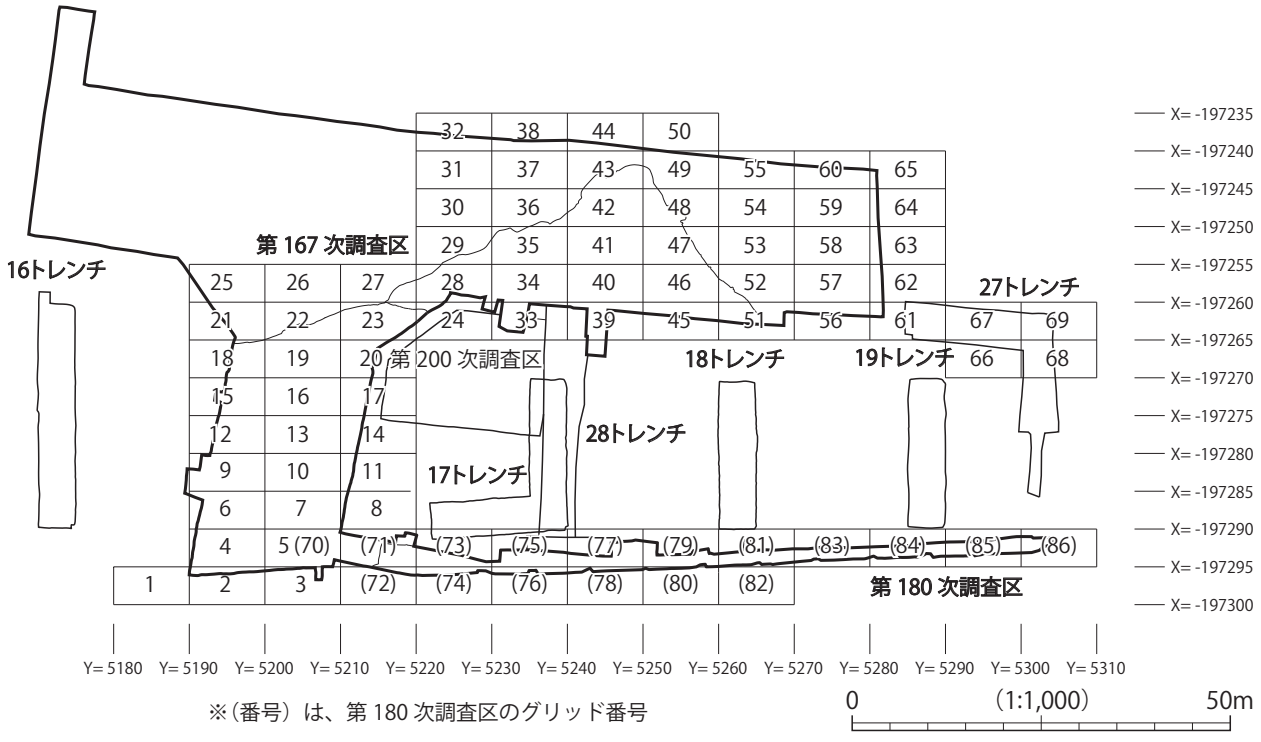
(1) 調査経過

第 167 次調査（1 年次）は、遺構確認調査により古代の遺構面が確認された地点のうち、環状線部分を対象として、重機により道路予定範囲までの拡張と、その後遺構検出作業を行ない、2 年次は、長町八木山線部分を対象に調査を実施し、古代の遺構面が広瀬川と考えられる河川跡により大きく削平されている状況が確認された。

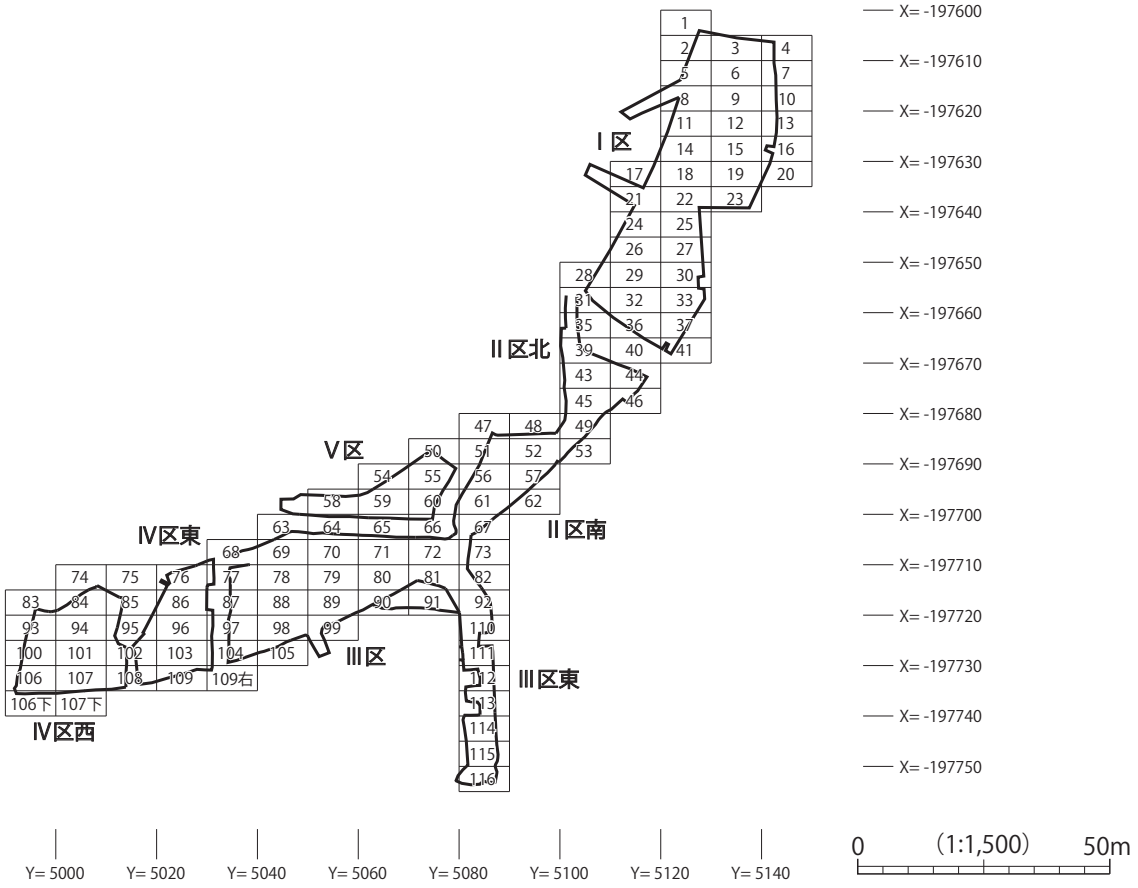
180 次調査は、21 街区南側の市道拡幅部分を対象に調査を実施し、狭小な調査区ではあったが外溝と外溝に先行する区画溝跡との重複部分を確認した。

郡山遺跡北西部での発掘調査により、隣接する西台畑遺跡の集落と官衙北部の状況が明らかになり、特にⅡ期官衙外溝北西コーナー部が確認されるという大きな調査成果が得られた。

196 次調査は、郡山遺跡南西部の環状線部分を対象に実施し、初年度は郡山遺跡第 144 次調査区に隣接する部分を先行して調査し、2 年次に長町駅東遺跡第 4・10 次調査区に隣接する部分を調査した。



第４図　グリッド配置図（第 167 次・第 180 次調査区）



第５図　グリッド配置図（第 196 次調査区）

（2）外溝北西コーナー部の保存工事について

外溝北西コーナー部については、調査終了後に埋め戻されていたが、郡山遺跡官衙の範囲や規模を考える上で重要な遺構であることから、都市基盤整備公団に関連工事の中断を要請し、遺構保存の可能性について協議を行った。協議の中で、計画路線を迂回させる案については、直近まで道路整備が完了し、全体の用地買収も進んでおり難しいことから、遺構の保存工法について協議を行うことになった。

北西コーナー部が位置する車道部分の工法については、他地域で施工例のあるウレタン工法や EPS 工法についても検討したが、それぞれ施工には一定の厚さが必要であることと、熱に弱くアスファルト舗装下には施工できないことや、将来の道路補修工事の際に破損する可能性があることから、コンクリート工法をとることになった。具体的には、遺構保護用の山砂（35cm 厚）で充填した後に、再生砕石（10cm 厚）を敷き、その上に鉄筋で組んだ型枠をのせコンクリート流し込みによる保護盤（30cm 厚）を施工した（写真 1）。

また、歩道部分についても、同様にコンクリート工法を取り、外溝位置に透水タイプブロックにより路面表示を行い、近接する植栽部分に説明板を設置した（写真 2）。

写真１

写真２

施工後の道路管理者となる仙台市道路管理課路政係に対しては、都市基盤整備公団から保存工法について協議し、道路構造物の一部で専有許可の必要はなく、保存工事に係る経費や今後の補修経費についても道路管理者で負担することで整理された。

(3) 測量基準・図面の作成

測量は、「平面直角座標系第Ⅹ系」を基準としている。5 × 10 mを単位とする平面区配図を作成し、遺構番号を付して遺構図面の作成を行った。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

(4) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

整理作業の段階で、主な遺構については遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

(5) 遺構登録番号

各遺構の登録番号については、国庫補助事業に伴う調査の遺構番号とは別に、あすと長町土地区画整理事業地内での郡山遺跡調査として、竪穴住居跡や溝跡、掘立柱建物跡等の主要遺構については、1 番からの通し番号とした。

(6) 調査報告書作成作業

基礎整理作業は、各年度の野外調査終了後に遺構図面基礎整理及び記録写真整理等を実施し、22 年度前半までに出土遺物の整理の一部（水洗・注記・接合・修復）、弥生土器の拓本、断面実測を仙台市が行った。

調査報告書作成に伴う整理作業については、委託業務により実施することとした。報告書作成に向けた整理は、太白区中田に所在する株式会社シン技術コンサル仙台営業所で行った。出土遺物の登録・実測図作成、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成及び編集・原稿執筆等を行い、その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、弥生土器・土師器・須恵器の実測図及びデジタルトレースについては、仙台市あすと長町関係遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

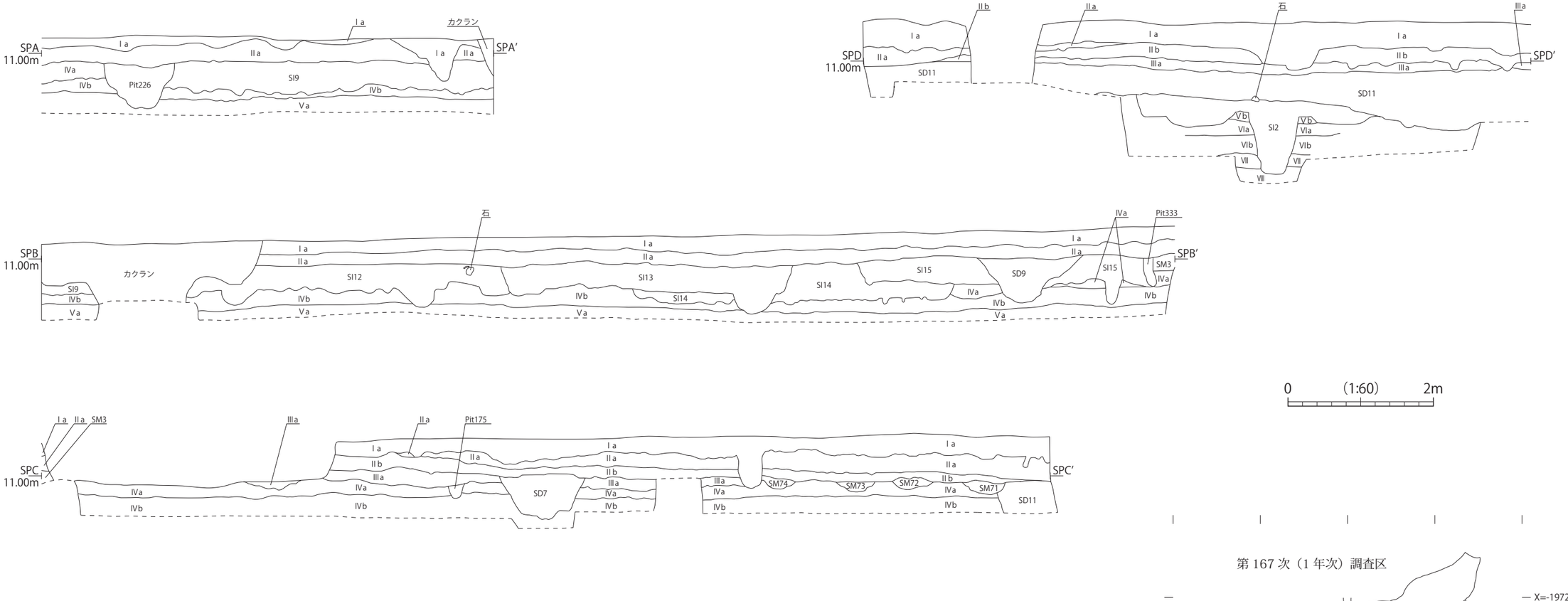
第 4 章　第 167 次・第 180 次調査

第 1 節　基本層序（第 6 ・ 7 図）

基本層序の観察は、第 167 次調査区については微高地部分を中心に、第 167 次（1 年次）調査区の東･西･南壁、第 167 次（2 年次）調査区の南壁で実施した。第 180 次調査区では南壁の東・西側に分かれて観察したが、削平や撹乱の影響を受けている箇所も多いため、掲載図は基本土層が上下連続して観察できる部分や、遺構の検出層位が明確に把握できる部分を抜粋した。

調査地は、1952（昭和 27）年の空中写真では水田・畑などの耕作地であり、その後の 1968（昭和 43）年の空中写真では宅地化されている。このため、調査区内には整地や基礎工事などによる削平の痕跡や撹乱が多くみられる。また、第 167 次調査区の北側は河川跡の浸食を受け、微高地の形状が複雑化している。

基本層序はⅠ～Ⅷ層に大別され、観察場所によっては一部の層が土質や混入物から細別された。遺構検出面はⅣ

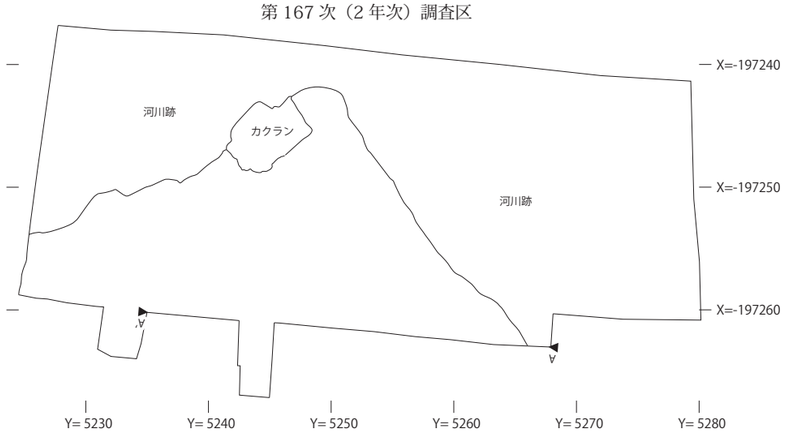


第 167 次（1 年次）調査区　基本層序　土層註記表　A-A′～E-E′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	—	—	現代の整地層。炭ガラ・砕石・粘土ブロックが大半を占める。
Ⅱa	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	—
Ⅱb	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅰ層土が小ブロック状に混じる。
Ⅲa	10YR3/3 暗褐色	シルト	—
Ⅳa	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	古代遺構検出面。
Ⅳb	2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色	砂質シルト	—
Ⅴa	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	—
Ⅴb	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	—
Ⅵa	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	—
Ⅵb	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	—
Ⅶ	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	下位に黒褐色土ブロック含む。
Ⅷ	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	—

第 6 図　基本層序　第 167 次（1 年次）調査区

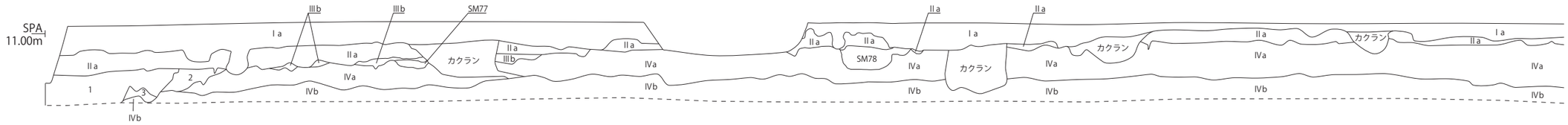
第 167 次（2 年次）調査区



第 180 次調査区

0 (1:500) 20m

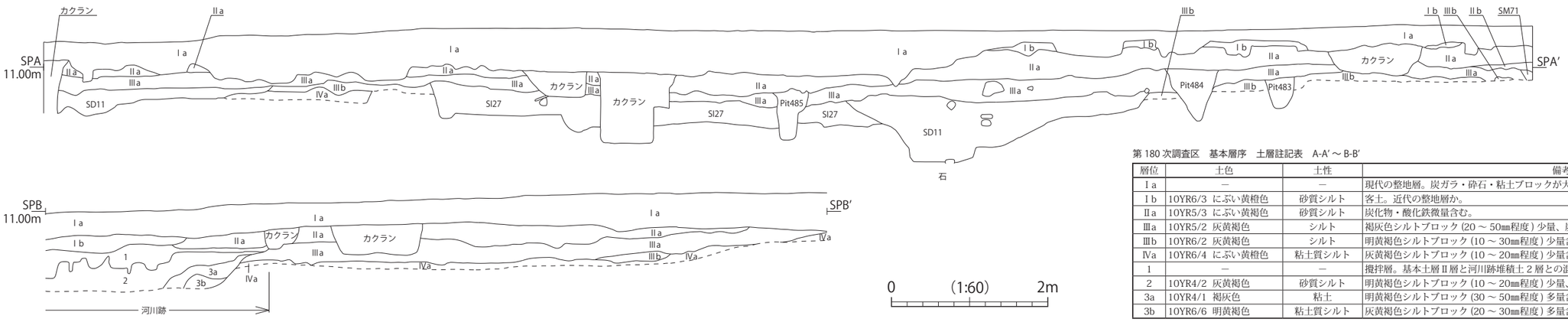
第 167 次（2 年次）調査区



第 167 次（2 年次）調査区　基本層序　土層註記表　A-A′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	—	—	現代の整地層。炭ガラ・砕石・粘土ブロックが大半を占める。
Ⅱa	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色ブロック・炭化物少量含む。
Ⅲb	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック多量含む。
Ⅳa	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	褐灰色・灰白色シルトブロック少量含む。古代遺構検出面。
Ⅳb	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	下位は粘性強く、灰白色粘土ブロックが集中する。
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック（5 ～ 10㎜程度）多量含む。（河川跡堆積土）
2	10YR6/6 明黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック（5 ～ 10㎜程度）多量含む。（河川跡堆積土）
3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック（10 ～ 20㎜程度）多量含む。（河川跡堆積土）

第 180 次調査区



第 180 次調査区　基本層序　土層註記表　A-A′～B-B′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	—	—	現代の整地層。炭ガラ・砕石・粘土ブロックが大半を占める。
Ⅰb	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	客土。近代の整地層か。
Ⅱa	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物・酸化鉄微量含む。
Ⅲa	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（20 ～ 50㎜程度）少量、炭化物・焼土微量含み、上部に酸化鉄浸透。
Ⅲb	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック（10 ～ 30㎜程度）少量含む。
Ⅳa	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック（10 ～ 20㎜程度）少量含む。古代遺構検出面。
1	—	—	攪拌層。基本土層Ⅱ層と河川跡堆積土 2 層との混土。（河川跡堆積土）
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	明黄褐色シルトブロック（10 ～ 20㎜程度）少量、炭化物微量含む。（河川跡堆積土）
3a	10YR4/1 褐灰色	粘土	明黄褐色シルトブロック（30 ～ 50㎜程度）多量含む。（河川跡堆積土）
3b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック（20 ～ 30㎜程度）多量含む。（河川跡堆積土）

第 7 図　基本層序　第 167 次（2 年次）・第 180 次調査区

層上面で、これより下層の土層観察は、第 167 次（1 年次）調査区の南西部に設定した下層調査区西壁（E － E'）、南壁の東寄りの深掘り部分、第 167 次（2 年次）調査区の南壁際のトレンチで各々実施した。南に近接する西台畑遺跡ではⅣ層以下の土層において弥生時代中期前葉～中葉の遺物包含層や水田跡、縄文時代晩期中葉～後葉の遺物包含層が確認されている（仙台市教委 2010・2011）が、今回の調査では遺構・遺物は検出されなかった。

以下、各層の特徴について詳述する。

Ⅰ層：現代の整地層で、現地表面を形成する。層厚は 10 ～ 60cm 前後を測り、特に河川跡の近辺で厚くなる。層の大半は炭ガラや砕石、粘土ブロックなどが占める。a・b の 2 層に細別され、第 180 次調査で確認されたⅠ b 層は、夾雑物をほとんど含まない黄橙色砂質シルト層である。

Ⅱ層：中世～近代の耕作土とみられる層で、層厚は 10 ～ 35cm 前後を測る。くすんだ色調を呈し、にぶい黄褐色～灰黄褐色シルトを主体に形成される。全体的に締まりが強く、第 180 次調査区では砂質が強くなる傾向がある。第 167 次（1 年次）調査区では下位に黒褐色シルト（Ⅱ b 層）が確認され、西台畑遺跡 2 区で観察されたⅡ b 層に対応するとみられる。同遺跡では中世以降の耕作土・水田土壌と報告されている（仙台市教委 2010）。

Ⅲ層：上面が中世以降の遺構検出面に相当する層で、層厚は 10 ～ 30cm 前後を測る。灰黄褐色～暗褐色シルトを主体とし、全体的にやや暗い色調を呈する。a・b の 2 つの層に細別され、第 167 次（2 年次）調査区内のⅢ b 層はⅣ層土を巻き込み、撹拌されたような状況で堆積している。

Ⅳ層：にぶい黄褐色・明黄褐色・にぶい黄橙色など黄色基調の層で、上面が今回の遺構検出面に相当する。第 167 次（1 年次）調査区ではシルト・砂質シルトで、他の調査区では粘土質シルトで形成される。a・b の 2 つの層に細別され、層厚は 35 ～ 110cm 以上を測る。第 167 次（2 年次）調査区のⅣ a 層は、かなりの厚みをもって堆積している。

Ⅴ層：本層以下は、第 167 次（1 年次）調査の下層調査区のみで確認した。Ⅴ層は褐色粘土質シルトで、層厚は 20 ～ 45cm 前後を測る。微妙な色調の違いにより、a・b の 2 つの層に細別される。西台畑遺跡の基本層Ⅴ層（弥生時代中期中葉の遺物包含層）に対応するとみられるが、遺物は出土していない。

Ⅵ層：層厚 30 ～ 45cm 前後を測り、a・b の 2 層に細別される。Ⅵ a 層は灰黄褐色、Ⅵ b 層はにぶい黄褐色の粘土質シルトである。

Ⅶ層：暗褐色粘土質シルトで、層厚は 5 ～ 25cm 前後を測る。下位に黒色土がブロック状に混入している。西台畑遺跡の基本層Ⅶ層（縄文時代晩期後葉の遺物包含層）に対応するとみられるが、遺物は出土していない。

Ⅷ層：にぶい黄褐色粘土質シルト層。層厚は 45cm まで確認したが、下端は未検出である。

第 2 節　第 167 次確認調査で検出された遺構と遺物（第 8 ・ 9 図）

本節では本調査未実施のトレンチを対象に、確認された遺構・遺物について若干触れておく。河川跡の影響もあり、遺構が検出されたトレンチは南側の 1・6・16 ～ 18・26・28T の 7 箇所であった。このうち 1・6T が本調査の対象範囲に含まれる。第 8 図には 16 ～ 18T と、河川跡の断面観察を実施した 19T を掲載した。26・28T については郡山Ⅱ期官衙外溝（SD13）との絡みがあるため、古墳時代～古代の遺構のみ第 137 図に本調査区と合成して掲載した。なお、遺物については本調査の対象となったトレンチも含め、残存の良いものを掲載した。

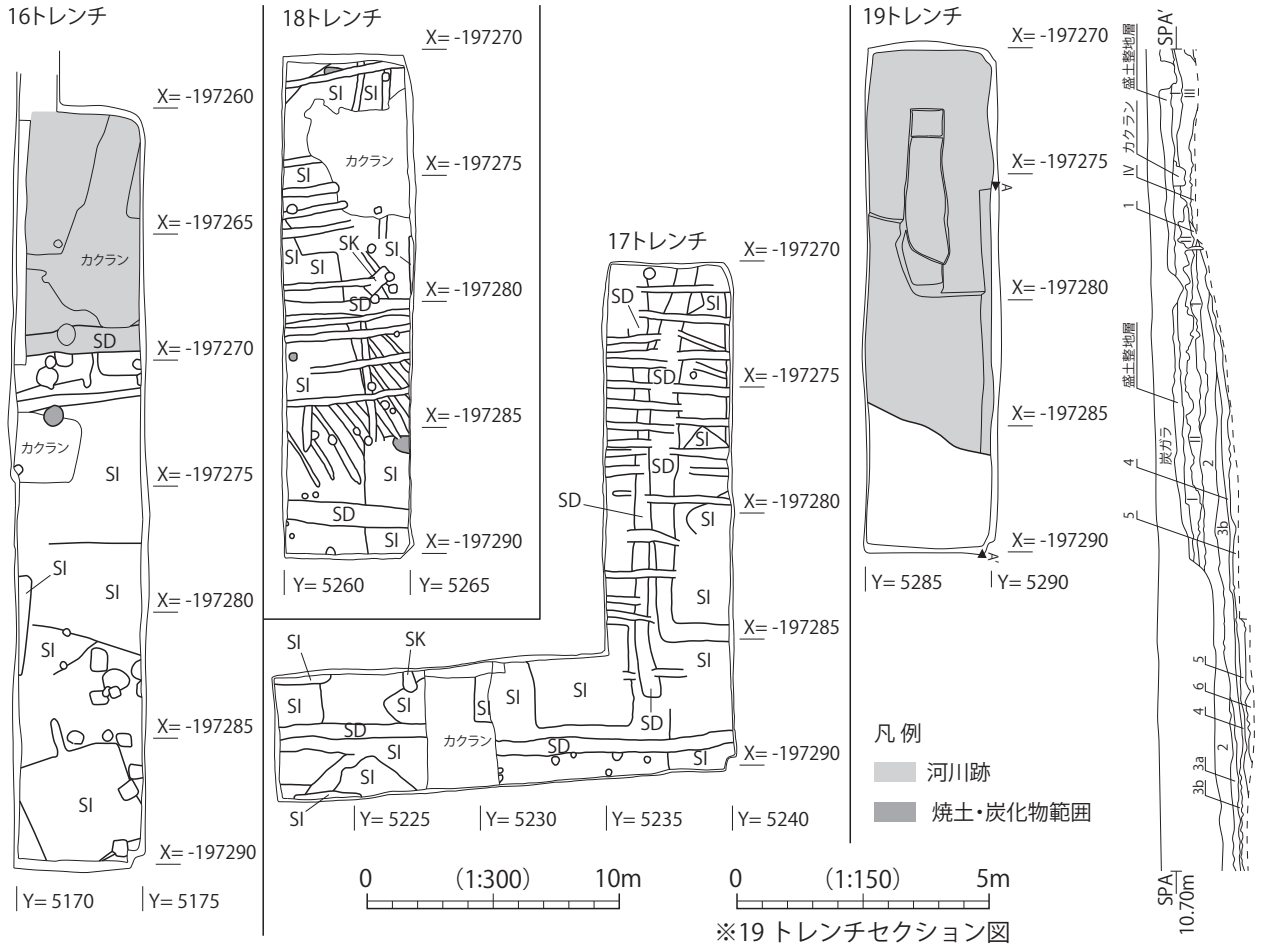
16T：竪穴住居跡 5 軒、溝跡 2 条、土坑・ピット 20 基程度、河川跡を検出した。竪穴住居跡のうち 2 軒にカマドがあり、いずれも北壁に付設されている。溝跡は河川跡の境に位置するものが 1 条認められた。

17T：竪穴住居跡 15 軒、小溝状遺構 20 条、溝跡 3 条、土坑・ピット 10 基程度が検出されたが、トレンチ東壁

際の竪穴住居跡とされる遺構は SD13 の西壁ラインであると思われる。小溝状遺構は全て東西方向で、溝跡は南北方向 2 条、東西方向 1 条が認められた。これらはいずれも竪穴住居跡より新しい。

18T：竪穴住居跡 5 ～ 8 軒、溝跡 2 条、小溝状遺構 25 条、溝跡 2 条、土坑・ピット 20 基程度が検出された。また焼土範囲が 3 箇所検出され、カマドの被熱部分が露呈した可能性が考えられる。小溝状遺構は東西・南北方向の群のほか、北西～南東に傾く群が重複している。溝跡は両者とも東西方向に延びる。これらは、いずれも竪穴住居跡よりは新しい。

26・28T：SD13 を中心に竪穴住居跡 14 ～ 17 軒、小溝状遺構 21 条、溝跡 3 条、土坑・ピット 20 基程度が検出された。このうち、26T からは SI32・34、SD17、28T からは SB14 といった、本書報告遺構の未調査部分が確認された（第 137・279・280・282 図）。



第 167 次確認調査　19 トレンチ　基本層序註記表

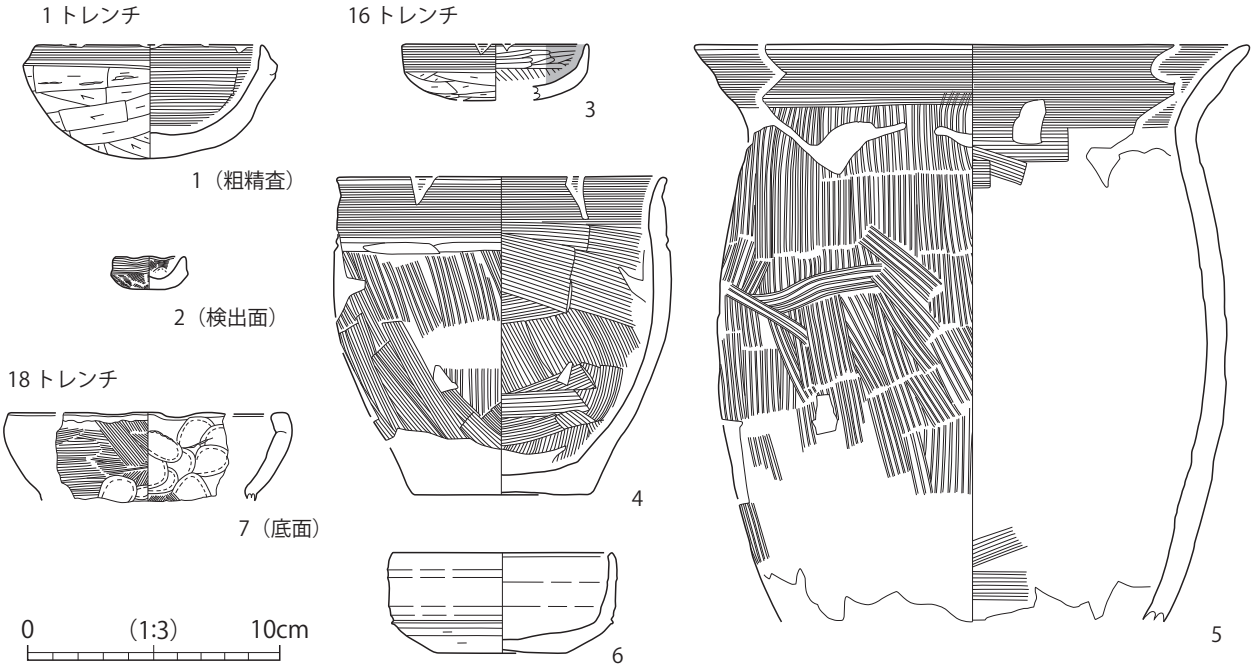
遺構名	層位	土色	土性	備考
基本土層	Ⅰ	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	耕作土。
	Ⅱ	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	—
	Ⅲ	10YR4/1 褐灰色	シルト	—
	Ⅳ	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	—
河川跡	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	—
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	河川南に向かい、色調暗く、グライ化進行。
	3a	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	グライ層。
	3b	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄縞状に含み、グライ化進行。
	4	2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン混入し、下位に酸化鉄集積。グライ化進行。
	5	2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン混入し、炭化物レンズ状に堆積。
	6	2.5Y6/4 にぶい黄色	粘土質シルト	砂粒レンズ状に堆積。

第 8 図　第 167 次 16 ～ 19 トレンチ

第 167 次調査 (平成 16･17 年度) 確認調査成果一覧

ﾄﾚﾝﾁ No.	調査年度	調査面積 (㎡)	備　考
1T	平成 16	133.9	古代遺構面確認 (本調査実施範囲内)
2T	—	—	欠番
3T	平成 16	136.8	河川跡内 (本調査実施範囲内)
4T	〃	85.9	河川跡内 (本調査実施範囲内)
5T	〃	86.8	河川跡内
6T	〃	132.1	竪穴住居跡、ピット (本調査実施範囲内)
7T	〃	122.5	河川跡内 (本調査実施範囲内)
8T	〃	84.1	河川跡内
9T	〃	86.7	近・現代水田跡
10T	〃	43.5	近・現代水田跡
11T	〃	40.2	河川跡内
12T	—	—	欠番
13T	平成 16	38.0	河川跡内
14T	〃	39.9	河川跡内
15T	—	—	

ﾄﾚﾝﾁ No.	調査年度	調査面積 (㎡)	備　考
16T	平成 16	141.6	竪穴住居跡、溝跡、土坑、ピット、河川跡端部確認
17T	〃	157.8	竪穴住居跡、溝跡、小溝状遺構、土坑、ピット
18T	〃	95.5	竪穴住居跡、溝跡、小溝状遺構、土坑、ピット
19T	〃	93.7	河川跡端部確認
20T	〃	116.6	河川跡内
21T	〃	63.9	河川跡内
22T	〃	94.3	河川跡内
23T	〃	66.5	河川跡内
24T	平成 17	158.1	河川跡内
25T	〃	166.0	河川跡内
26T	〃	32.1	郡山Ⅱ期官衙外溝、竪穴住居跡、溝跡、土坑、ピット
27T	〃	144.5	河川跡内
28T	〃	149.7	郡山Ⅱ期官衙外溝、竪穴住居跡、小溝状遺構、溝跡、土坑、ピット



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-630	04年度	1 ﾄﾚﾝﾁ	粗精査	土師器	埦	(9.1)	-	4.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		28
2	C-817	04年度	1 ﾄﾚﾝﾁ	検出面	土師器	ミニチュア土器	(2.8)	-	1.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ナデ	ナデ、指オサエ		28
3	C-963	04年度	16 ﾄﾚﾝﾁ		土師器	坏	(7.4)	-	(2.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		28
4	C-965	04年度	16 ﾄﾚﾝﾁ		土師器	甕	(13.5)	(7.0)	(12.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		28
5	C-949	04年度	16 ﾄﾚﾝﾁ		土師器	甕	(22.0)	-	(22.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		28
6	E-171	04年度	16 ﾄﾚﾝﾁ		須恵器	坏	(8.8)	(5.2)	(4.0)	ロクロ調整、体部下半～底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		28
7	C-951	04年度	18 ﾄﾚﾝﾁ	底面	土師器	ミニチュア土器	(11.0)	-	(3.5)	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ、輪積み痕		28

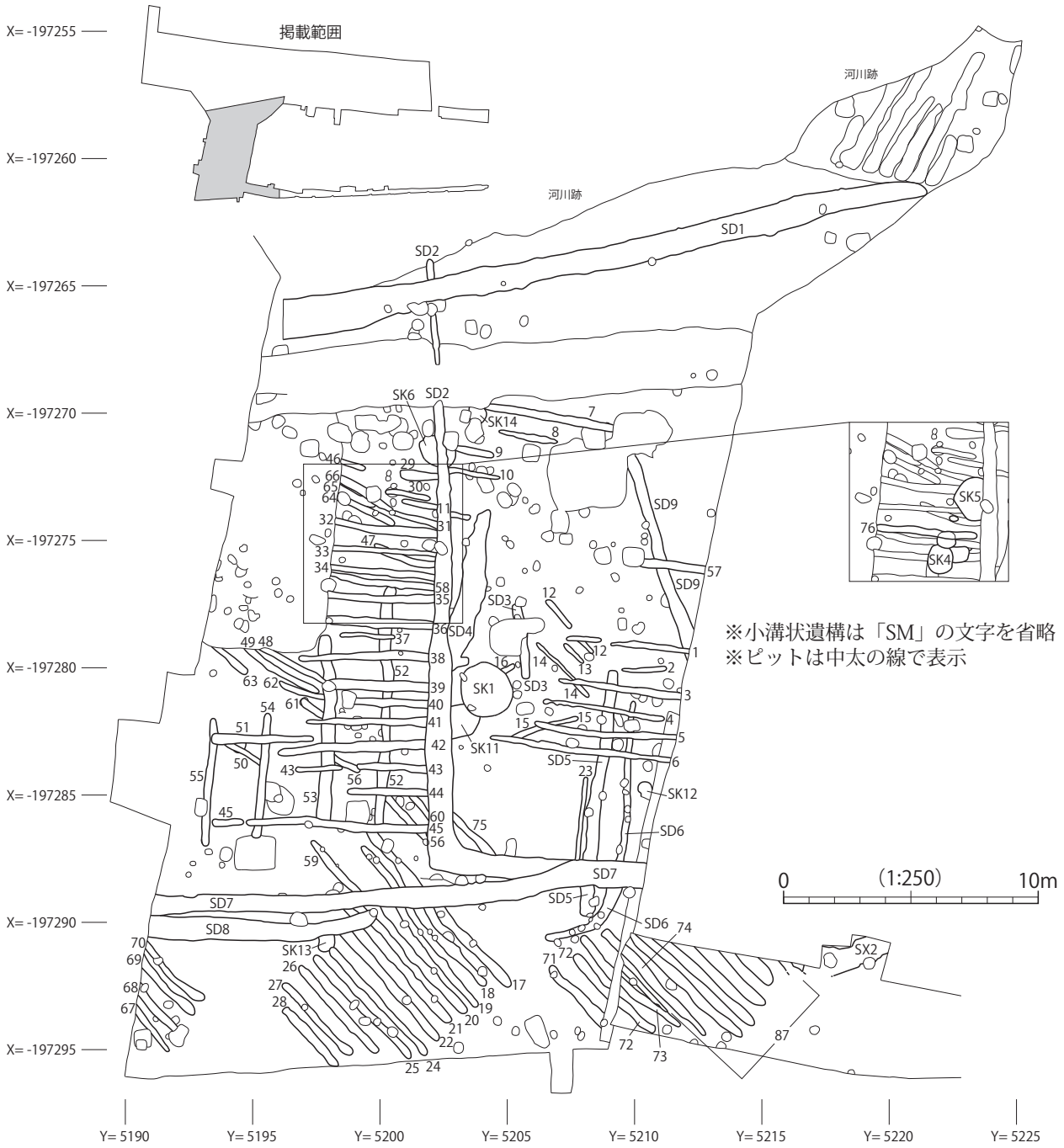
第９図　１・16・18 トレンチ出土遺物

遺物は、1･16･18 トレンチの土師器坏 1 点、埦 1 点、甕 2 点、ミニチュア土器 2 点、須恵器坏 1 点を掲載した。

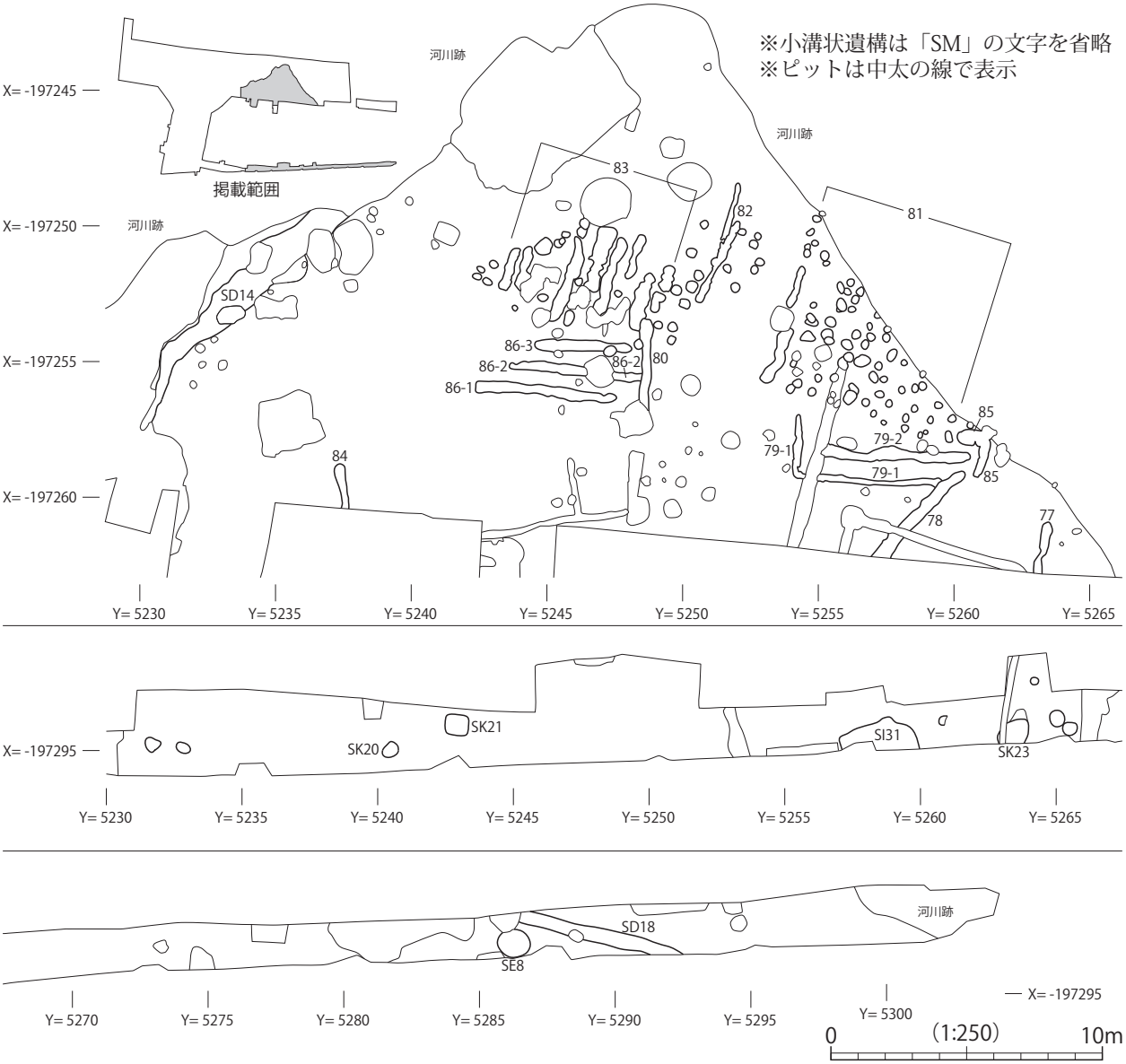
土師器のうち、1 の埦は厚手で、口縁部は短く内屈する。口縁部下の稜は、「く」字状に強く張り出している。2 のミニチュア土器は坏を模した器形で、口縁部と体部の境目にある稜も表現されている。3 の坏は小型品で、口縁部は直立する。4 の甕は口縁部が短く外反し、胴部が短い。5 の甕は口縁部が強く外反し、口縁部に最大径をもつ。4･5 ともに胴部外面がハケメ、内面がヘラナデ調整されている。7 のミニチュア土器は坏もしくは埦を模した器形であると思われ、口縁部が短く内屈する。6 の須恵器坏は平底で、口唇部がわずかに内湾する器形である。

第３節　古代～中世の遺構と遺物

第２節で記した通り、第 167 次・第 180 次調査の遺構検出は基本層Ⅳ層上面において実施した。概況としては本節で扱う小溝状遺構・溝跡・土坑、そして多数のピット等が新しい時期の遺構として検出され、これらに一部を壊された状態で古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、区画施設関連の溝跡などが検出された。こういった重複関係を考慮し、当該期の遺構については発掘調査の段階から古代の遺構とは時期的に区別して調査を進めたが、明確に遺構の時期を示すような遺物はなく、詳細な時期認定はできなかった。ただ一部の小溝状遺構やピットでは基本層Ⅱ層に類似した堆積土が観察されているため、本節では古代～中世という幅を与えた時期を設定した。また、ピットには調査時の所見で古代の遺構より古いとされるものが含まれるが、これについても一括記載した。



第 10 図　Ⅳ層上面遺構配置図（古代～中世）　第 167 次（1 年次）・第 180 次西部



第 11 図　Ⅳ層上面遺構配置図（古代〜中世）　第 167 次（2 年次）・第 180 次

検出された遺構は、竪穴遺構 1 基、小溝状遺構 114 条、溝跡 11 条、井戸跡 1 基、土坑 11 基、性格不明遺構 1 基、ピット 304 基である。中心となるのは小溝状遺構であり、畑の耕作痕と考えられる。単独で検出された 3 条を除けば、方向や形状などから A 〜 F の 6 つの群に大別される。土坑やピットも分布的には概ねこの小溝状遺構の範囲と重なるが、その新旧関係については判然としない。溝跡は小溝状遺構の構成単位を意識したような方向性を示す SD2・5 〜 8 のほか、河川跡に沿うようにして延びる SD1・14・18 などが認められることから、土地区画を目的とした溝跡が大半を占めると思われる。竪穴遺構・井戸跡・性格不明遺構については 1 基ずつを検出したのみだが、このうち竪穴遺構と井戸跡は小溝状遺構から離れた位置にあり、特に井戸跡は河川跡の縁辺で検出された。このような遺構の在り方から、当該期の調査区内は耕作域であったと考えられる。

なお、本章では 2004 〜 2006 年度の 3 ヶ年にわたる成果を一括しているため、調査区が逆「コ」字状に接続するかたちとなっている。文中において遺構の検出位置を示すときは 2004 年度の第 167 次（1 年次）調査部分を「西部」、2005 年度の第 167 次（2 年次）調査部分を「北部」、2006 年度の第 180 次調査部分を「南部」と表記した。遺構記号と番号は発掘調査時に付したものを原則的に使用するが、小溝状遺構・井戸跡・土坑・ピットについては

整理作業時に変更を行っている。その理由は文中あるいは観察表中に記したので参照されたいが、特にピットについては掘立柱建物跡の柱穴や小溝状遺構の底面ピットへの変更が多く、最終的に 191 基が欠番となっている。

(1) 竪穴遺構

SI31 竪穴遺構（第 12 図）

【位置・確認】調査区南部の中央寄りの、79 グリッドに位置する。南側 1/2 程は調査区外にかかる。

【重複】SI33 より新しい。本来の検出面はⅢ a 層上面に相当し、Ⅲ a 層直下の SI33 とは層位的にも異なる。

【規模･形態】検出部での規模は南北 130cm、東西 262cm を測る。平面形状は隅丸方形が想定されるが、北東コーナーから東壁にかけてのラインは緩やかな円弧を描く。

【方向】西壁基準で N―17°―W である。

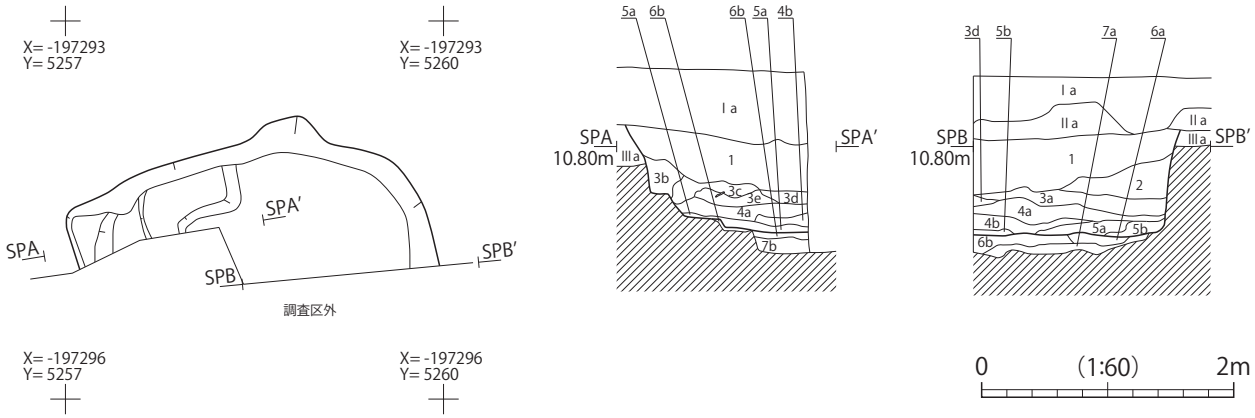
【堆積土】7 層に分層された。1 層は自然堆積とみられるが、2 ～ 5 層は基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。6・7 層は掘り方埋土である。

【壁面】北壁および東壁の検出部分は直線的に外傾し、上部で外反する。西壁の下半は二段の階段状を呈する。調査区壁面の観察で、最大高 81cm を測る。

【床面】わずかな起伏が認められるが、概ね平坦である。

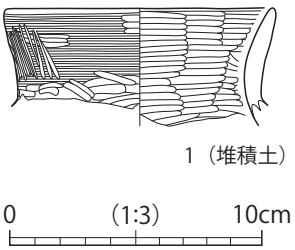
【掘り方】床面より 5 ～ 18cm 下がり、底面はやや起伏する。

【出土遺物】堆積土から土師器・須恵器の破片が少量出土している。土師器壺 1 点を掲載した（第 12 図）。本竪穴遺構とは時期の異なる、混入遺物である。



SI31　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、白色粒・炭化物微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、白色粒・焼土粒・炭化物微量含む。
	3a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトラミナ状に多量、灰白色粘土少量含む。
	3b	10YR6/8 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	3c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3d	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	3e	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	4a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色・褐灰色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	4b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色粘土ラミナ状に多量、炭化物微量含む。
	5b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
掘り方	6a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量含む。
	6b	10YR6/6 明黄褐色	粘土	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	7a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	酸化鉄多量、褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。
	7b	10YR6/8 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層　位	種　別	器　種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-064	06年度	SI31	堆積土	土師器	壺	(10.6)	-	(4.7)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ		28

第 12 図　SI31 竪穴遺構・出土遺物

(2) 小溝状遺構群

第 167 次（1 年次）調査で 76 条、同（2 年次）調査で 21 条、第 180 次調査で 9 条が検出された。その後の整理で異なる調査年次の別番号の小溝状遺構が同一であること、ピットとした小穴の多くが小溝状遺構の底面の掘り込みであることが判明したため、遺構番号の変更や新規での登録を行い、112 条が確定した。なお、初年度の調査では全ての小溝状遺構に連番で番号を付していたが、第 167 次（2 年次）調査以降はそれぞれの単位ごとに番号を付し、個々に枝番を与えるという方法をとった。

小溝状遺構群は前述の通り、方向性や形状などから A ～ F の 6 群に大別される。A ～ D 群は第 167 次（1 年次）調査および第 180 次調査、E・F 群は第 167 次（2 年次）調査で検出された。単独で検出された SM77・78・84 は別個の溝跡とも解釈できるが、他の小溝状遺構と規模や形状などが共通することから、同じ性格の遺構として捉えた。出土遺物は古代の土師器が大部分を占め、須恵器や金属製品なども若干出土しているが、直接時期を示すような遺物は出土していない。なお、小溝状遺構は重複遺構が多いため、文中での記載については古代～中世の遺構のみを対象とする。観察表には古代の遺構も含め、全ての重複遺構を記載してあるので参照されたい。

小溝状遺構 A 群（第 13・14・20 図）

調査区西部の中央寄りの、6 ～ 17・19 グリッドに位置する。概ね東西方向に延びる SM1 ～ 11・29・30・32 ～ 46・51・57・58・76 の 32 条で構成され、東側の SM1 ～ 6・57、北側の SM7 ～ 11・29・30・46、西側の SM32 ～ 45・51・58・76 の 3 つの単位が存在する。SM34・76 は大部分が重複して検出されたが、掘り直し等の要因が考えられる。主な重複遺構は SD2 より古く、小溝状遺構 B ～ D 群、SD5・6・9 より新しい。主軸方向は N － 72 ～ 93° － W で、北側の単位では西方向への傾きが若干弱い。

規模は、検出長 100 ～ 690cm、上端幅 18 ～ 42cm、検出面からの深さ 3 ～ 16cm を測る。断面形状は逆台形もしくはU字形を呈し、底面は若干起伏する。SM33 の底面には浅いピット状の掘り込みが 2 箇所認められる。

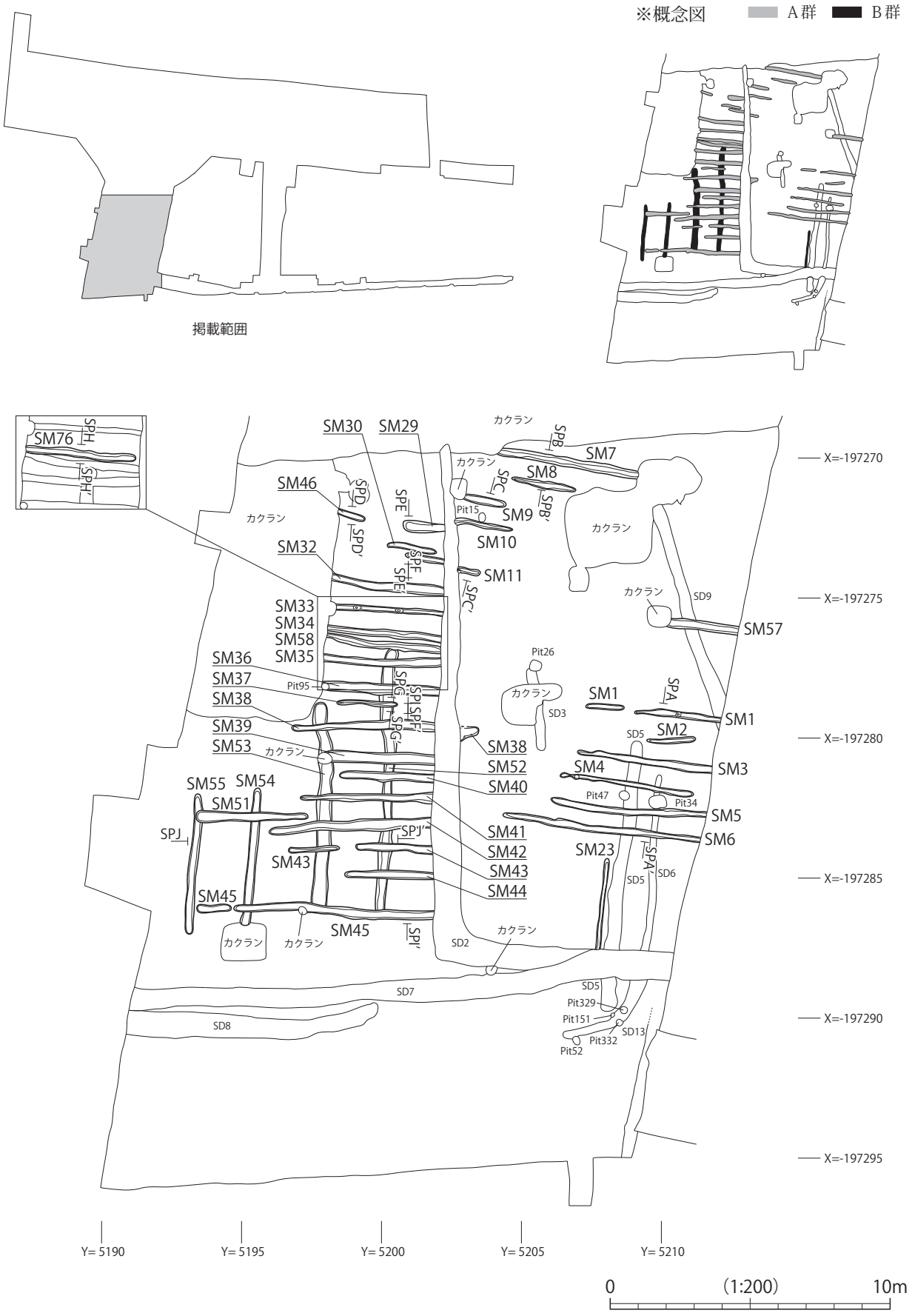
堆積土はにぶい黄褐色～褐色の粘土質シルトを主体とし、暗褐色シルトの堆積も一部で認められた。多くの堆積土で少量の炭化物が観察され、部分的に少量の基本層Ⅳ層由来のブロックを含む。遺物は SM1 ～ 8・10・11・29・30・32 ～ 36・38 ～ 45・51・57・58・76 から土師器・須恵器の破片などが少量出土しており、SM1 の土師器坏 1 点、SM58 の土師器ミニチュア土器 1 点、SM45 の石製品 1 点を掲載した（第 20 図）。1 の土師器坏は内湾気味に外傾する体部をもち、内外面の全体がヘラミガキ調整される。2 のミニチュア土器は内屈する口縁部をもち、坏の器形を模したものと思われる。3 は粘板岩製の砥石破片で、a の砥面は丸みを有している。

小溝状遺構 B 群（第 13・14・20 図）

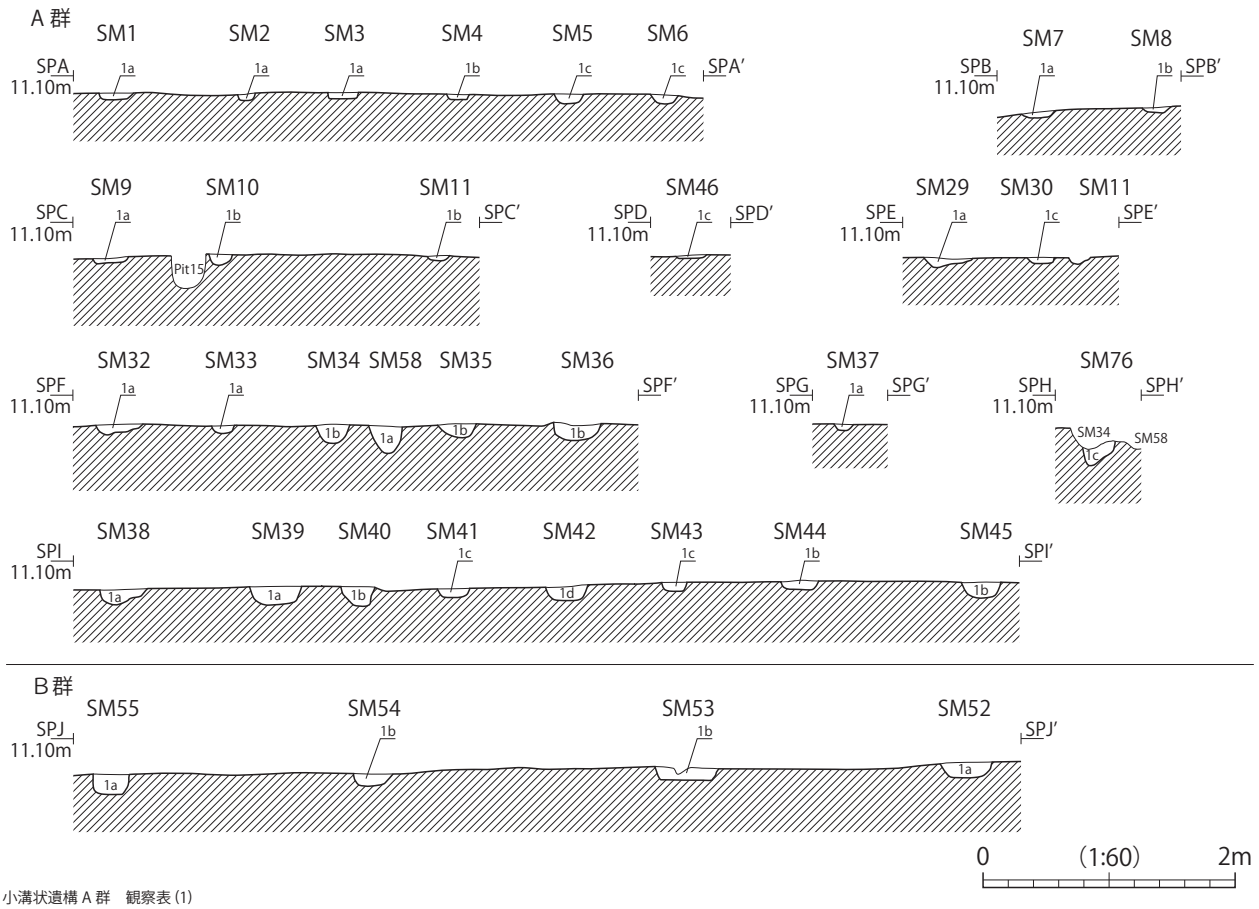
小溝状遺構 A 群の南寄りに重複して検出され、6・7・9・10・12・13 グリッドにかけて位置する。概ね南北方向に延びる SM23・SM52 ～ 55 の 5 条で構成される。東端の SM23 は SM52 から間隔を置いて位置し、単位が異なる可能性があるが判然としない。重複遺構は小溝状遺構 A 群、SD2・7 より古く、小溝状遺構 C 群より新しい。主軸方向は N － 2 ～ 6° － E である。

規模は、検出長 330 ～ 930cm、上端幅 18 ～ 50cm、検出面からの深さ 5 ～ 14cm を測る。断面形状は逆台形もしくは箱形を呈し、底面は若干起伏する。

堆積土はいずれも暗褐色シルトで、全体的に炭化物と基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含む。遺物は SM23・SM52 ～ 55 から土師器・須恵器の破片などが少量出土し、SM52 の金属製品 1 点、礫石器 1 点を掲載した（第 20 図）。4 は器種不明の鉄製品で、両端部側が弱く折れ曲がる。5 は軽石質凝灰岩の磨石で、平坦な b・d 面の広い範囲に磨面が形成されている。a ～ d 面には敲打痕も観察される。



第 13 図　小溝状遺構 A・B 群配置図



小溝状遺構 A 群　観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 長さ×幅	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SM1	13・14	N-84°-W	(480) × 30	9	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。	SD10、SM12 より新しい。
SM2	10・11・14	N-93°-W	160 × 24	5	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。	
SM3	10・11	N-82°-W	(480) × 30	5	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。	SD5、SM14、Pit304 ～ 306 より新しい。
SM4	10・11	N-81°-W	480 × 22	5	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。	SD5・6、Pit73 より新しい。
SM5	10・11	N-84°-W	(540) × 30	11	1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック含む。	Pit74 より古く、SD5・6、SM15 より新しい。
SM6	10・11	N-82°-W	(690) × 28	8	1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック含む。	SD5・6、SM15、Pit302・303・324 より新しい。
SM7	16	N-80°-W	(500) × 36	10	1a	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土ブロック含む。	SB1、SD10 より新しい。
SM8	16	N-79°-W	230 × 30		1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色土ブロック、炭化物微量含む。	SB1、SD10 より新しい。
SM9	16	N-78°-W	(150) × 30	4	1a	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土ブロック含む。	SK6 より新しい。
SM10	16	N-81°-W	(210) × 20	9	1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色土ブロック、炭化物微量含む。	SD2 より古く、Pit328 より新しい。
SM11	16	N-75°-W	280 × 22	11	1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色土ブロック、炭化物微量含む。	SD2 より古い。
SM29	16	N-85°-W	(150) × 42	3	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック含む。	SD2 より古い。
SM30	16	N-80°-W	(180) × 22	7	1c	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	炭化物含む。	Pit138 より新しい。
SM32	15・16	N-83°-W	(400) × 40	8	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。	SD2 より古く、SB5・9、SK5、Pit320 より新しい。
SM33	12・13	N-86°-W	(380) × 20	6	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。	SD2、Pit260・310 より古く、SB5、SK5、SM47 より新しい。
SM34	12・13	N-84°-W	(410) × 28	15	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量含む。	SD2 より古く、SM76、Pit258・259 より新しい。
SM35	12・13	N-88°-W	(410) × 36	9	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量含む。	SD2、Pit274 より古く、SB9、SK4・7、SM52 より新しい。
SM36	12・13	N-87°-W	(410) × 40	11	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量含む。	SD2、Pit95 より古く、SI6、SK7、SM52 より新しい。
SM37	12・13	N-87°-W	220 × 18	4	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。	SI6、SB8、SK7、SM52 より新しい。
SM38	12・13	N-90°-W	(510) × 38	16	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。	SD2 より古く、SI6、SB6、SM52・53 より新しい。
SM39	9・10	N-88°-W	(310) × 42	6	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。	SD2 より古く、SI6、SB8、SM52・53 より新しい。
SM40	9・10	N-88°-W	(320) × 34	15	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SD2 より古く、SI6、SB6・8、SM52、Pit252 より新しい。
SM41	9・10	N-90°-W	(430) × 28	8	1c	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	SD2、Pit93 より古く、SB6・7・8、SM52・53、Pit93・180・254 より新しい。
SM42	9・10	N-93°-W	(570) × 42	10	1d	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	SD2 より古く、SI6、SB6・7、SM52・53、Pit133 ～ 135・242 より新しい。
SM43	9・10	N-90°-W	(510) × 30	9	1c	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	SD2 より古く、SB5、SM44・52・53・56 より新しい。
SM44	6・7・9・10	N-89°-W	(310) × 28	16	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SD2、Pit184 より古く、SI6、SB6、SM52・56・60 より新しい。
SM45	6・7	N-88°-W	(840) × 40	14	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SD2 より古く、SM18・52 ～ 54・56、Pit124 より新しい。

第 14 図　小溝状遺構 A・B 群断面図

小溝状遺構 A 群　観察表 (2)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM46	15	N-72°-W	(100) × 20	5	1c	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	炭化物含む。	
SM51	9	N-90°-W	400 × 44	5	—	—	—	註記なし。	SI4、SB7、SM50･54･55 より新しい。
SM57	14	N-82°-W	(230) × 38	12	—	—	—	註記なし。	SD9･10 より新しい。
SM58	12･13	N-72°-W	(410) × 30	14	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)･炭化物少量含む。	SD2、Pit244 より古く、SK4、SM76、Pit238･258･259 より新しい。
SM76	12･13	N-89°-W	(400) × 40	8	1c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	SD2、SM34･58 より古く、SK4、Pit244 より新しい。

小溝状遺構 B 群　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM23	7･10	N-6°-E	(330) × 18	5	—	—	—	註記なし。	SD2･7 より古い。
SM52	6･7･9 12･13	N-3°-E	(930) × 50	14	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。	SM35 ～ 45、Pit325 より古く、SI6、SB6、SD12、SK4･7、Pit135 より新しい。
SM53	6･9･12	N-2°-E	(720) × 50	5	1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物、焼土微量含む。	SM38･39･41 ～ 43･45 より古く、SI6、SB2･6 ～ 8、SM48･56･61･62 より新しい。
SM54	6･9	N-5°-E	(490) × 30	9	1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物、焼土微量含む。	SM45･51 より古く、SI6、SB2･3、SM50 より新しい。
SM55	6･9	N-4°-E	500 × 34	13	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。	SM51、50 より古く、SI6、SB2･10、SB3 より新しい。

小溝状遺構 C 群（第 15・16 図）

調査区西部の中央寄りから南部の西端にかけての、2 ～ 7･9･10･12･13･15･16 グリッドおよび 70･71 グリッドに位置する。概ね北西－南東方向に延びる SM12 ～ 14・17 ～ 22・24 ～ 28・31・47 ～ 50・56・59 ～ 75・87 － 1 ～ 6 の 43 条で構成され、北側では東から SM12 ～ 14、SM31・47・64 ～ 66、SM48 ～ 50・56・61 ～ 63、南側では東から SM71 ～ 74・87、SM17 ～ 22・24 ～ 28・56・60・75、67 ～ 70 の合計 6 つの単位が存在する。SM87 は 180 次調査で検出されたため番号の付け方が異なり、調査時に検出された 8 条のうち 3 条が SM72 ～ 74 と同一であったため、枝番の変更を行っている。主な重複遺構は小溝状遺構群 A・B 群、SD2・7・8、SK1 よりも古く、SX2 より新しい。主軸方向は N － 35 ～ 78 －° W である。

規模は、検出長 90 ～ 720cm、上端幅 20 ～ 58cm、検出面からの深さ 4 ～ 21cm を測る。断面形状は逆台形もしくはU字形を呈し、底面は若干起伏する。

堆積土は褐色シルト、黄褐色・暗褐色粘土質シルトを主体とする。全体的に炭化物の混入は少なく、南側の堆積土には基本層Ⅳ層由来のブロックが多く含まれる傾向がある。遺物は SM17・20・22・24 ～ 28・49・50・56・59･64 ～ 66･68 ～ 70･72･75 から土師器･須恵器の破片が少量出土したが、いずれも図化可能なものはなかった。

小溝状遺構 D 群（第 15・16 図）

調査区西部の中央寄り、10 グリッドから 13 グリッドの南端に位置する。C 群とは直交方向にあたる北東－南西方向に延び、SM15・16 の 2 条が検出された。主な重複遺構は小溝状遺構 A 群、SK1 より古い。

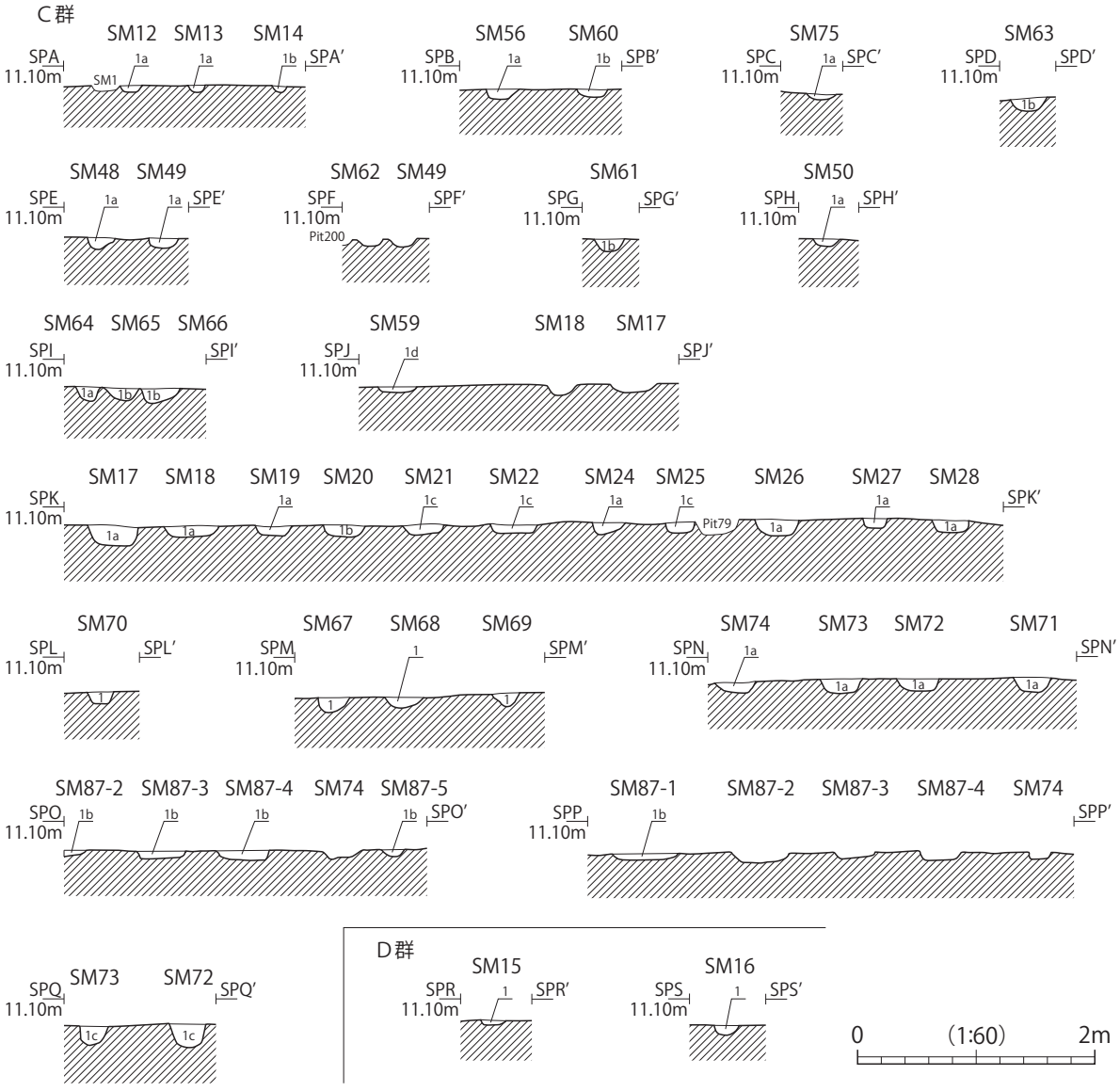
規模は検出長 50 ～ 270cm、上端幅 24 ～ 26cm、検出面からの深さ 4 ～ 7cm を測る。断面形状は逆台形もしくはU字形を呈し、底面は若干起伏する。

堆積土は暗褐色・黒褐色シルトで、微量の炭化物が混入する。基本層Ⅳ層由来のブロックは含まれない。遺物は SM15・16 ともに出土しなかった。

小溝状遺構 E 群（第 17 ～ 19 図）

調査区北部の南寄りの、40・41・46・52 グリッドに位置する。SM79 － 1・2、SM80、SM85、SM86 － 1 ～ 3 の 7 条で構成される。東西 2 つの単位が認められ、東側の単位では「L」字状の SM79 － 1 と SM85 に区画されるようにして東西方向の SM79 － 2 が延び、西側の単位では南北方向の SM80 を起点に東西方向の SM86 － 1 ～ 3 が西側へと延びている。SM80 と SM86 － 2 の先端は重複しているが、新旧関係は不明である。主な古代～中世

第 15 図　小溝状遺構 C・D 群配置図



小溝状遺構 C 群　観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 長さ×幅	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SM12	13	N-41°-W	270 × 24	8	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。	SM1 より古い。
SM13	13	N-45°-W	160 × 20	4	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。	
SM14	10・13	N-44°-W	290 × 20	6	1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色土ブロック含む。	SM3 より古い。
SM17	5・6・7	N-42°-W	(830) × 46	19	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土・黄褐色土含む。	SD7、Pit60・92・128 より古く、Pit58 より新しい。
SM18	5・6・7	N-36°-W	(720) × 50	10	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土・黄褐色土含む。	SD7、SM45、Pit65・126・128・183 より古く、SB10、Pit76 より新しい。
SM19	5・7	N-35°-W	(510) × 40	13	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土・黄褐色土含む。	SD7、Pit63・126 より古い。
SM20	4・5	N-43°-W	(560) × 40	13	1b	10YR4/6 褐色	シルト		SD7・8、Pit66・90 より古く、Pit77 より新しい。
SM21	4・5・7	N-42°-W	(600) × 44	11	1c	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック含む。	SD7 より古く、SD8 より古い。
SM22	4・5	N-41°-W	(560) × 44	10	1c	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック含む。	SD8、Pit67 より古い。
SM24	4・5	N-42°-W	560 × 30	18	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土・黄褐色土含む。	SK13、SD8 より古く、SD11 より新しい。
SM25	4・5	N-44°-W	550 × 36	21	1c	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック含む。	Pit79・80・208 より古く、SD11 より新しい。
SM26	2・4	N-43°-W	460 × 38	16	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土・黄褐色土含む。	SD11 より新しい。
SM27	2・4	N-44°-W	390 × 36	10	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土・黄褐色土含む。	Pit81 より古く、SD11 より新しい。
SM28	2・4	N-43°-W	310 × 40	11	1a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土・黄褐色土含む。	SD11 より新しい。
SM31	16	N-78°-W	(190) × 28	9	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	炭化物少量含む。	SD2、SM66、Pit137 より古く、SB5、SK5 より新しい。
SM47	13	N-70°-W	(250) × 30	7	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	炭化物少量含む。	SD2、SM33 より古く、SB5、SK5、Pit318 より新しい。
SM48	9・12	N-60°-W	(290) × 24	7	1a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SM53 より古く、SB8 より新しい。
SM49	9・12	N-57°-W	(330) × 26	9	1a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SM62 より新しい。
SM50	9	N-58°-W	(160) × 22	5	1a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SM51・54 より古く、SB7 より新しい。
SM56	7	N-64°-W	(160) × 30	8	1a	10YR4/4 褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度)、炭化物少量含む。	SD2・7、SM43 ～ 45・52、Pit31 より古く、SB7 より新しい。

第 16 図　小溝状遺構 C・D 群断面図

小溝状遺構 C 群　観察表 (2)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM59	6	N-43°-W	(280) × 32	6	1d	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色土ブロック含む。	SD7 より古い。
SM60	7	N-36°-W	(120) × 26	5	1b	10YR4/6 褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。	SD2、SM44 より古い。
SM61	9	N-55°-W	(90) × 30	12	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒含む。	SM53、39 より古く、SB7 より新しい。
SM62	9	N-73°-W	(200) × 22	11	—	—	—	註記なし。	SM49・53 より古く、SB7 より新しい。
SM63	9・12	N-47°-W	(190) × 30	7	1b	10YR4/4 褐色	シルト	黄褐色土粒含む。	SB3 より新しい。
SM64	15・16	N-63°-W	(250) × 32	10	1a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	上位に褐色土多量含む。	SM65、Pit152・321 より古く、SB5 より新しい。
SM65	15	N-61°-W	(160) × 26	6	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黄褐色土含む。	SM66、Pit152 より古く、SM64 より新しい。
SM66	15・16	N-61°-W	(240) × 30	11	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黄褐色土含む。	SB5、SM31・65 より新しい。
SM67	4	N-38°-W	(200) × 26	7	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック、黒褐色土ブロック微量含む。	SD11 より新しい。
SM68	4	N-42°-W	(230) × 30	10	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック、黒褐色土ブロック微量含む。	SI1、Pit82・215・217 より古く、Pit269 より新しい。
SM69	4	N-44°-W	(210) × 32	10	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック、黒褐色土ブロック微量含む。	SI1 より古い。
SM70	4	N-45°-W	(160) × 24	12	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック、黒褐色土ブロック微量含む。	Pit218 より古い。
SM71	5	N-45°-W	(380) × 50	9	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)、炭化物少量含む。	Pit54・57・329 より古い。
SM72	5	N-46°-W	(541) × 40	9	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)、炭化物少量含む。	
					1c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
SM73	5	N-48°-W	(429) × 40	9	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)、炭化物少量含む。	
					1c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
SM74	6	N-44°-W	(130) × 33	14	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)、炭化物少量含む。	
SM75	7	N-45°-W	(240) × 40	7	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)、炭化物少量含む。	SD2 より古い。
SM87-1	71	N-46°-W	(184) × 59	12	1b	10YR5/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。	SI27 より新しい。
SM87-2	71	N-44°-W	(355) × 58	11	1b	10YR5/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。	
SM87-3	71	N-47°-W	(523) × 42	9	1b	10YR5/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。	
SM87-4	70・71	N-48°-W	(588) × 42	9	1b	10YR5/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。	Pit478 より新しい。
SM87-5	70・71	N-44°-W	(251) × 25	4	1b	10YR5/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。	SM73 より古く、Pit482 より新しい。
SM87-6	71	N-42°-W	(96) × 35	13	1b	10YR5/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。	SI27 より新しい。

小溝状遺構 D 群　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM15	10	N- 73°-E	(270) × 26	4	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物微量含む。	SM5・6 より古い。
SM16	10	N- 61°-E	(50) × 24	7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色土ブロック含む。	SK1 より古い。

の遺構との重複関係は、SM83 よりも新しく、SM78 よりも古い。また SM85 が SM81 と重複するが、SM81 が整理時に新たに登録された遺構であるため新旧関係は不明である。主軸は南北方向で N － 2・17° － E、東西方向で N － 91 ～ 93° － E である。

規模は、東西検出長 125 ～ 544cm、南北検出長 147 ～ 419cm、上端幅 31 ～ 56cm、検出面からの深さ 9 ～ 37cm を測る。断面形状は逆台形もしくはU字形を呈し、底面は起伏が激しく、ピット状の掘り込みや段差を伴う。堆積土はにぶい黄褐色～暗褐色シルトを主体とし、全体的にⅣ層土由来のブロックを多く含む。遺物は SM79 － 1・2、SM80、SM86 － 1 ～ 3 から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、いずれも図化可能なものはなかった。

小溝状遺構 F 群（第 17 ～ 20 図）

小溝状遺構 E 群の北側の、40・41・46 ～ 48 グリッドに位置する。SM81 － 1 ～ 11、SM82、SM83 － 1 ～ 8 の 20 条で構成され、東側から M81、SM82、SM83 の 3 つの単位が存在する。SM81 は整理時にピットの分布状況から抽出され、新規に登録した。SM82 は 1 条だけが検出されたが、周囲のピットの分布状況から、これらのピットも含めて 1 つの単位と捉えた。第 18 図に関連すると思われるピットを同時掲載したが、SM81 のような明確な並びは抽出されなかった。主な重複遺構は、小溝状遺構 E 群より古い。また、SM81 の北側は河川跡により失われている。主軸方向は N － 14 ～ 27° － E である。

規模は検出長 111 ～ 650cm、上端幅 6 ～ 49cm、検出面からの深さ 6 ～ 49cm を測る。断面形状は逆台形や箱形、U字形、V字形と一定しておらず、底面は起伏が激しく、ピット状の掘り込みが多数並ぶものが大半を占める。特に SM81 では柱穴列のように深い掘り込みが連続して並ぶ。

堆積土はにぶい黄橙色～灰黄褐色シルトを主体とし、全体的にⅣ層土由来のブロックを多く含む。遺物は SM81 － 1・3・4・8 ～ 10、SM82、SM83 － 1・3・5・8 から出土し、SM83 － 3 の金属製品 1 点を掲載したほか（第

20 図)、SM83 － 3 の火打石とみられる水晶を写真掲載した（写真図版 28 － 15)。このほか、土師器・須恵器の破片が少量出土している。第 20 図－ 6 は帯状の鉄製品残欠であるが、器種は不明である。

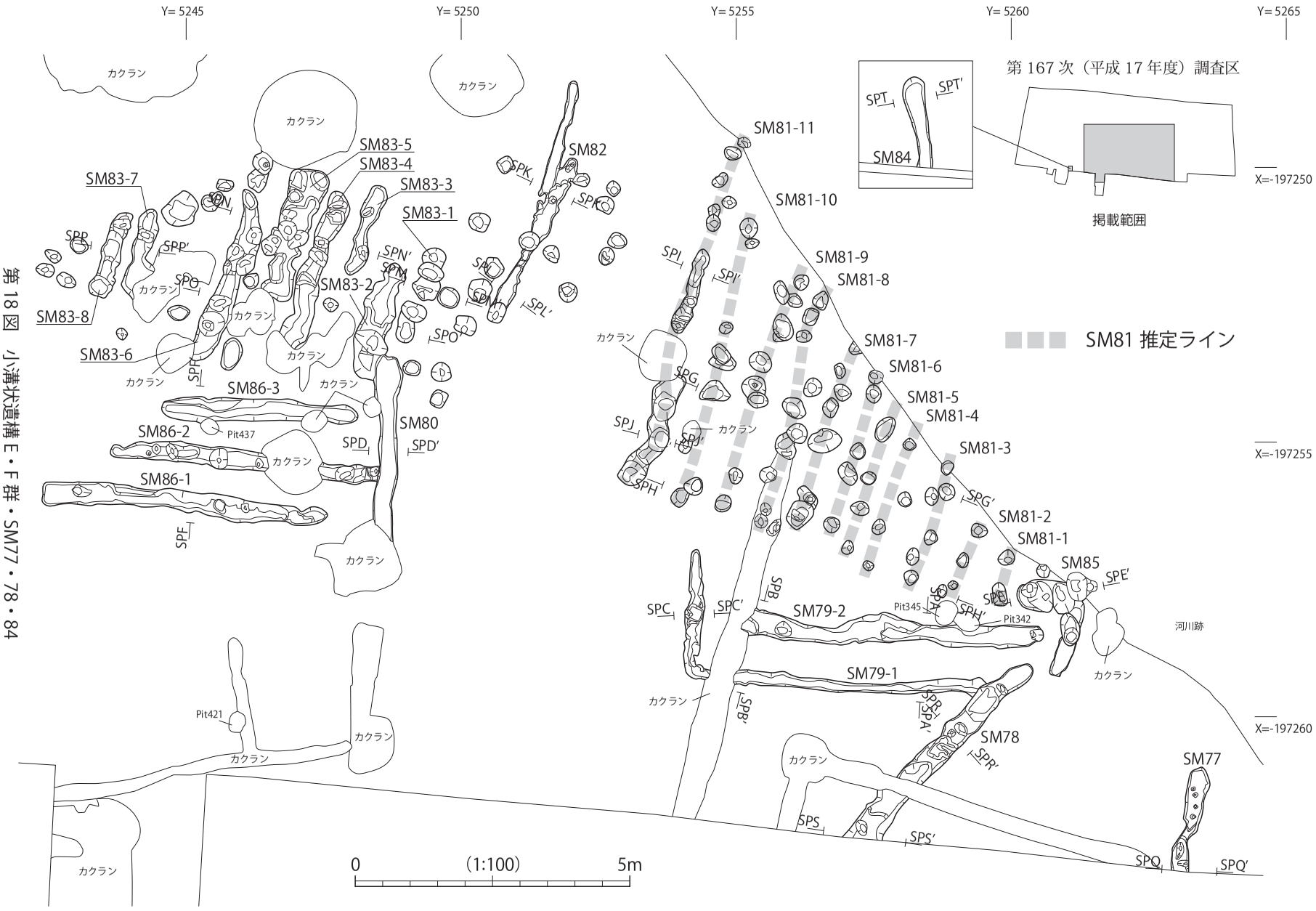
小溝状遺構 SM77・78・84（第 17 ～ 19 図）

SM77 は、調査区北部の南端東寄りの 51 グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はなく、主軸方向は N － 13° － E である。規模は、検出長 195cm、上端最大幅 40cm、検出面からの深さは最深部で 11cm を測る。断面形状は逆台形を呈する。底面は階段状に起伏し、浅いピット状の掘り込みが 6 箇所認められる。堆積土は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、基本層Ⅳ層由来のブロックが下部に集中する。遺物は出土しなかった。

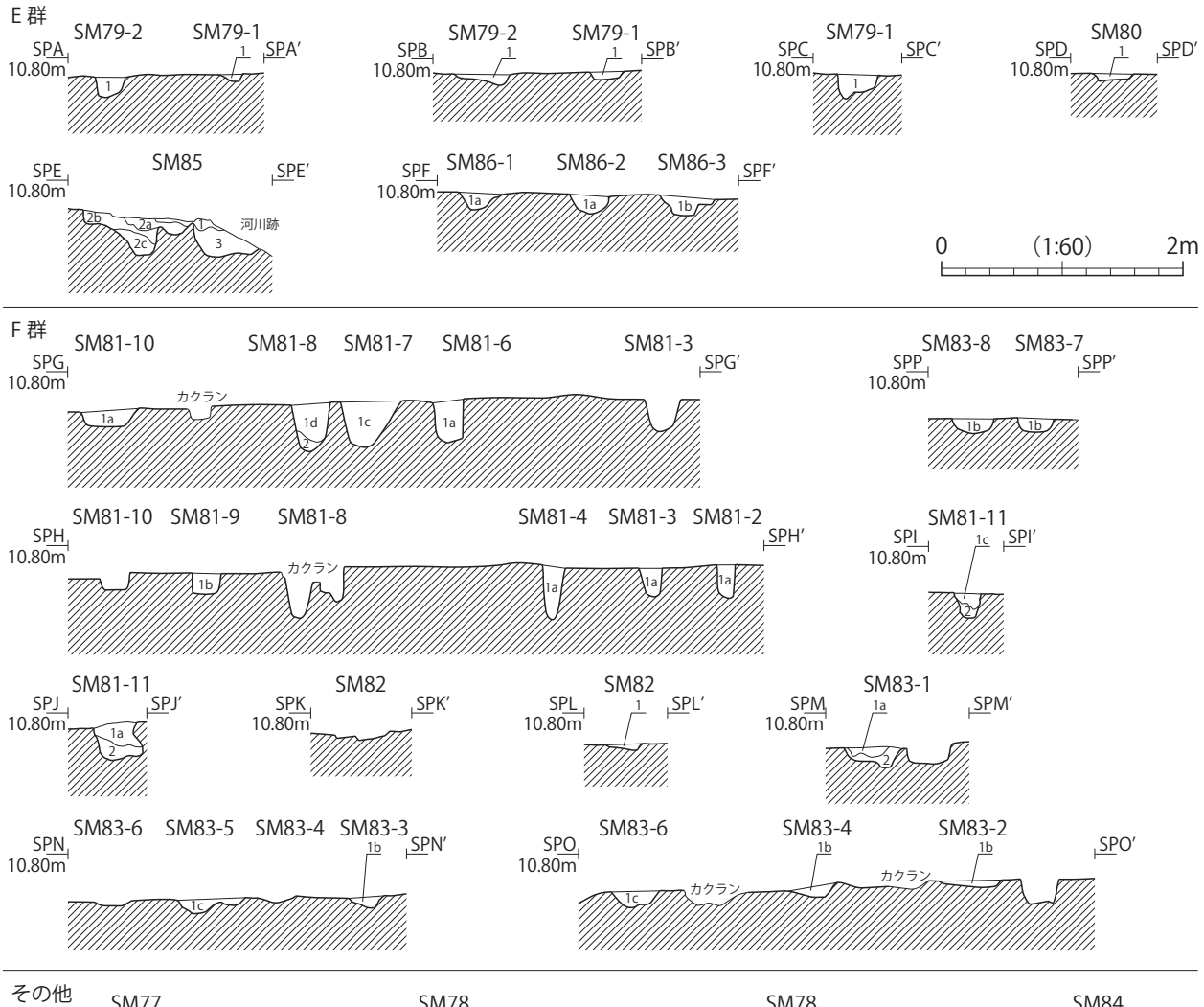
SM78 は SM77 の西側で検出され、45・46・52 グリッドに位置する。主な重複遺構は、小溝状遺構群 E 群の SM79 － 1 より新しい。主軸方向は N － 45° － E である。規模は、検出長 442cm、上端最大幅 63cm、検出面からの深さは最深部で 19cm を測る。断面形状は逆台形､もしくはU字形を呈する。底面は階段状に起伏し､浅いピット状の掘り込みが 6 箇所認められる。堆積土はにぶい黄褐色シルトと灰黄褐色砂質シルトを主体とし、基本層Ⅳ層由来のブロックが下部に集中する。遺物は土師器の破片が少量出土したが、図化可能なものはなかった。

SM84 は調査区北部の南端西寄りの、33・34 グリッドにかけて位置する。当該期遺構との重複関係はない。主軸方向は N － 9° － W である。規模は、検出長 167cm、上端最大幅 40cm、検出面からの深さは最深部で 19cm を測る。断面形状は逆台形を呈し、底面は若干起伏する。堆積土は暗褐色シルトで、Ⅳ層土ブロックの混入が多い。先端部の底面付近には、炭化物が集中する。遺物は土師器の破片が少量出土したが、図化可能なものはなかった。

第 17 図　小溝状遺構 E・F 群・他配置図



第 18 図　小溝状遺構 E・F 群・SM77・78・84



小溝状遺構 E 群　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 長さ×幅	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SM79-1	46	N-2°-E N-93°-E	231 × 34 (544) × 28	9 14	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。	SM78 より古い。
SM79-2	46	N-93°-E	549 × 54	17	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。	Pit342・345 より古い？ (ともに併存か)
SM80	40・41	N- 2°-E	419 × 55	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土ブロック微量含む。	SM83-2、86-2、SI19 より新しい。
SM85	52	N-17°-E N-91°-E	147 × 31 125 × 56	37	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量含む。	
					2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					2c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック斑状に多量、炭化物微量含む。	
SM86-1	40	N-94°-E	518 × 44	27	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	SI19・20 より新しい。
SM86-2	40	N-95°-E	492 × 41	32	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	SM80 より古く、SI19・20 より新しい。
SM86-3	41	N-93°-E	355 × 49	21	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 30㎜) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	Pit437 より古く、SI19・20 より新しい。

小溝状遺構 F 群　観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 長さ×幅	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SM81-1	46・52	N-14°-E	112 × 28	38	—	—	—	註記なし。	
SM81-2	46	N-24°-E	173 × 30	42	1a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量、灰白色火山灰微量含む。	
					1c	10YR4/1 褐灰色	シルト	上位に地山ブロック集中。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。	
SM81-3	46	N-19°-E	239 × 25	43	1a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	

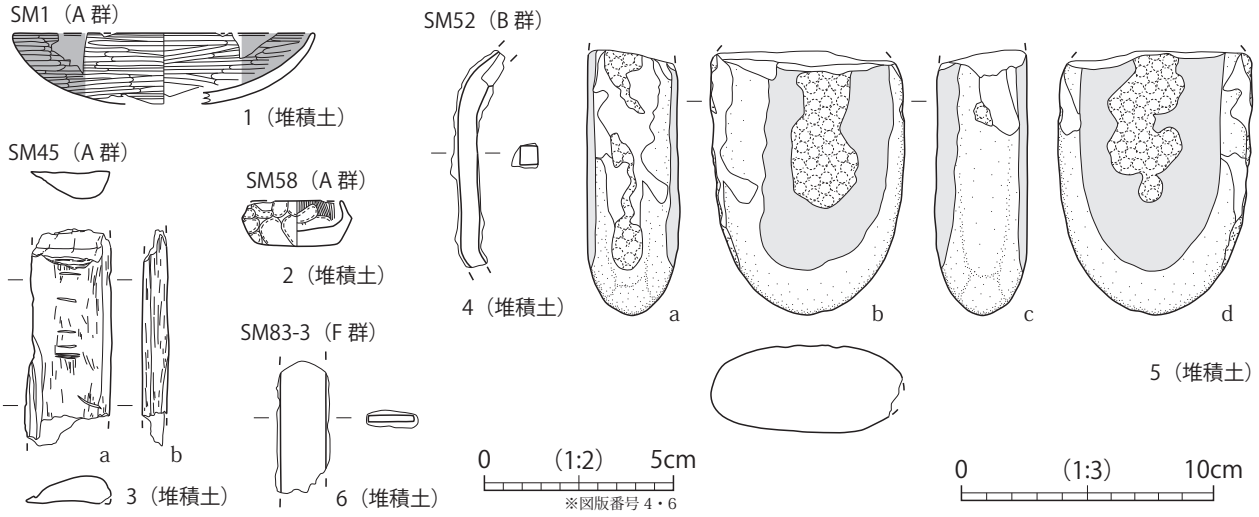
第 19 図　小溝状遺構 E・F 群・SM77・78・84 断面図

小溝状遺構 F 群　観察表 (2)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 長さ×幅	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SM81-4	46	N-19°-E	275 × 24	44	1a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	上位に灰白色火山灰か、全体に地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
SM81-5	46・47	N-18°-E	290 × 34	42	—	—	—		
SM81-6	46・47	N-17°-E	309 × 34	41	1a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度)・灰白色火山灰か少量含む。	
SM81-7	46・47	N-19°-E	350 × 54	49	1c	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	上位に地山ブロック (10 ～ 15㎜程度) 集中。	
SM81-8	46・47	N-15°-E	445 × 44	36	1d	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
SM81-9	46・47	N-19°-E	456 × 44	33	1b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	地山ブロック多量含む。	
SM81-10	46・47	N-14°-E	536 × 47	18	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
SM81-11	46・47 48	N-17°-E	(650) × 48	26	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック多量含む。	
					1c	10YR4/1 褐灰色	シルト	上位に地山ブロック集中。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
SM82	47・48	N-27°-E	435 × 35	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SD13 より新しい。
SM83-1	41	N-21°-E	44 × (38)	16	1a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
SM83-2	41	N-17°-E	218 × 64	27	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SM80 より古く、SI19 より新しい。
SM83-3	41	N-18°-E	173 × 35	6	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
SM83-4	41	N-19°-E	300 × 50	13	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
SM83-5	41	N-18°-E	247 × 77	19	1c	10YR4/4 褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
SM83-6	41	N-20°-E	333 × 52	30	1c	10YR4/4 褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SI19 より新しい。
SM83-7	41	N-14°-E	169 × (49)	13	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
SM83-8	41	N-17°-E	111 × 42	20	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	

小溝状遺構群 (その他)　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 長さ×幅	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SM77	51	N-13°-E	(195) × 40	11	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	下位に地山ブロック集中。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
SM78	45・46 52	N-45°-E	(442) × 63	19	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック・灰白色火山灰微量含む。	SM79-1 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR5/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					5	10YR5/1 褐灰色	シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
SM84	33・34	N-9°-W	(167) × 40	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量、炭化物少量、灰白色火山灰微量含む。	SI22 より新しい。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-511	04年度	SM1	堆積土	土師器	坏	(12.0)	-	(2.8)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理		28
2	C-488	04年度	SM58	堆積土	土師器	ミニチュア土器	(3.6)	(3.4)	1.8	指オサエ	口縁部ナデ、体部指オサエ		28

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
3	Kd-021	04年度	SM45	堆積土	石製品	砥石	(8.6)	3.3	1.05	37.8	粘板岩	砥面 2 面、破片、被熱	28
5	Kc-017	04年度	SM52	堆積土	礫石器	磨石	(10.5)	7.7	3.6	257.7	軽石質凝灰岩	磨 2 面 (平)、敲 (a 面 2 ヶ所、b ～ d 面 1 ヶ所)、程度弱、上部欠損	28

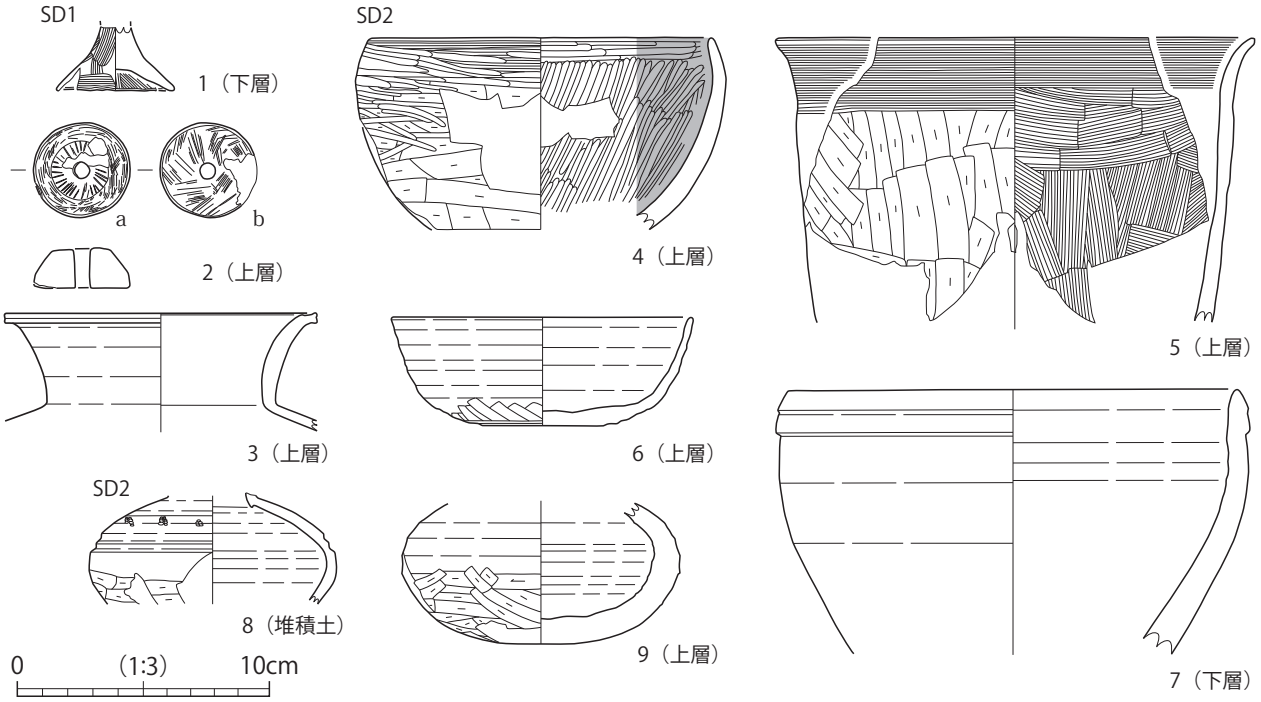
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
4	N-014	04年度	SM52	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(5.7)	0.45	0.5	7.9	角柱状、両端部欠損	28
6	N-005	05年度	SM83-3	堆積土	金属製品	帯状鉄製品	(3.5)	1.2	0.2	2.9	両端部欠損	28

第 20 図　小溝状遺構群出土遺物

(3) 溝跡（第 21 ～ 24 図）

第 167 次（1 年次）調査の SD1 ～ 9、第 167 次（2 年次）調査の SD14、第 180 次調査の SD18 の、合計 11 条が検出された。全体が検出されたのは SD3 ～ 6 のみである。規模や形状は様々で、概ね直線的に延びる東西方向の SD1・7・8・18、同じく南北方向の SD5・9、「L」字状に屈曲する SD2・6、小刻みに蛇行し幅が不定な SD4・14 がある。断面形状は逆台形が多いが、SD3・5 のようにU字形、SD2・9 のようにV字形に近いものも存在する。SD1・2・7 は上端最大幅 109 ～ 159cm、検出面からの深さは最深部で 52 ～ 63cm を測り、検出された溝跡の中では大型である。SD1・14・18 は、河川跡の縁辺に沿うようにして延びる。SD2 は、SM10・11・32 ～ 45･58 よりも新しいが、SD7 とともに小溝状遺構 A･B 群の単位を意識したような方向性や位置関係を示している。これらの大部分の溝跡は自然堆積とみられるが、SD9 の堆積土は基本層Ⅳ層由来のブロックが多く含まれ、人為的に埋め戻されたと考えられる。

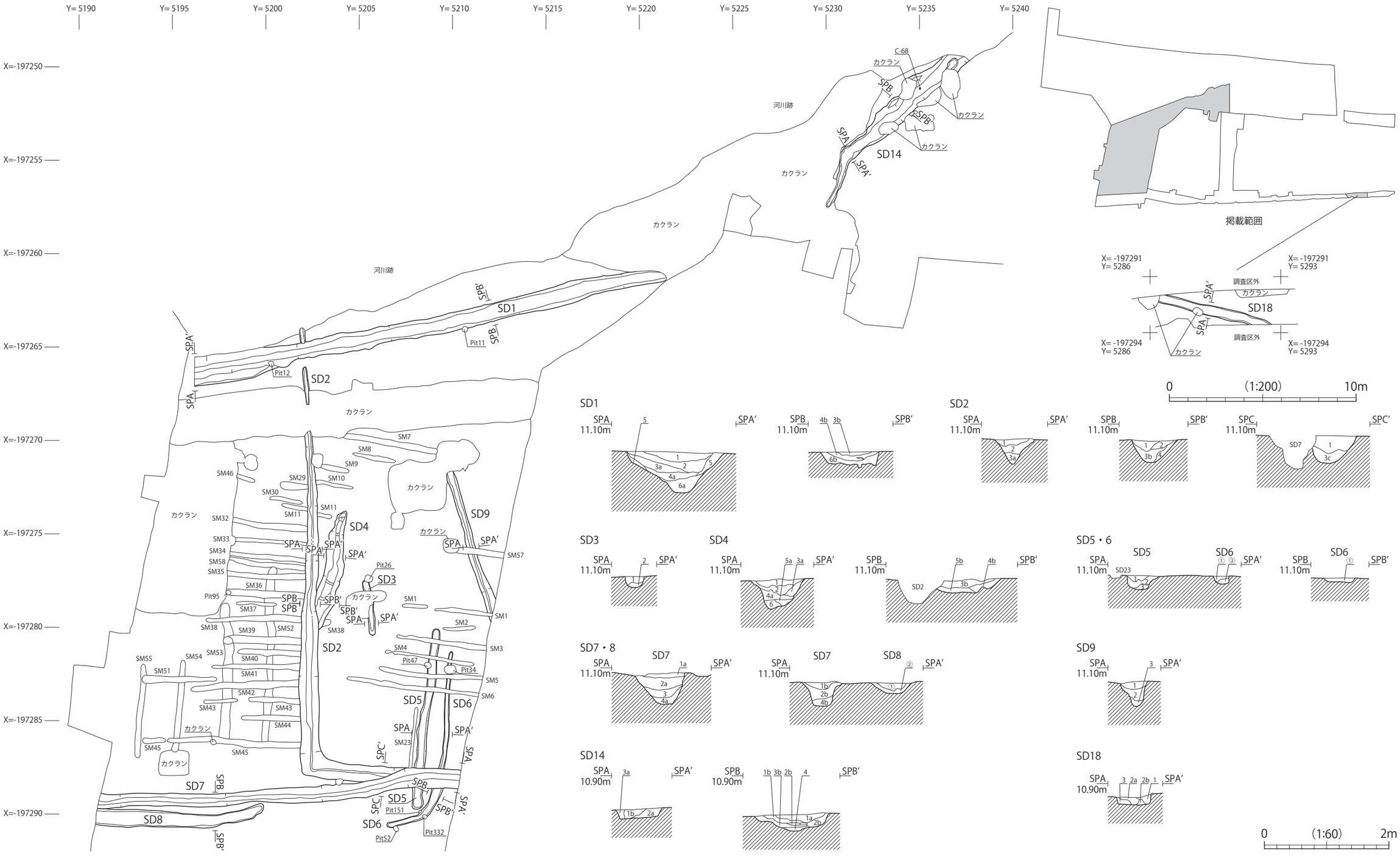
遺物は SD1・2・4 ～ 9・14 から出土し、SD1 の土師器ミニチュア土器 1 点、須恵器甕 1 点、石製品 1 点、SD2 の土師器埦 1 点・甕 1 点、須恵器坏 1 点・鉢 1 点・壺 2 点・甕 2 点、SD4 の土師器甕 1 点、石製品 1 点、SD5 の土師器壺 1 点、SD7 の須恵器壺 1 点・蓋 1 点・円面硯把手 1 点、金属製品 1 点、SD9 の石製品 1 点、SD14 の土師器坏 2 点を掲載した（第 21･23･24 図）。全体的に土師器･須恵器の破片がほとんどで、SD2 からの出土が多い。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-520	04年度	SD1	下層	土師器	ミニチュア土器	-	(4.7)	(2.5)	脚部ヘラナデ	脚部ヘラナデ	高坏型	28
3	E-035	04年度	SD1	上層	須恵器	甕	(12.4)	-	(4.7)	ロクロ調整	ロクロ調整		28
4	C-526	04年度	SD2	上層	土師器	埦	(13.6)	-	(7.6)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ→上半ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		28
5	C-528	04年度	SD2	上層	土師器	甕	(19.0)	-	(11.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		28
6	E-055	04年度	SD2	上層	須恵器	坏	(11.8)	4.3	4.8	ロクロ調整、体部下端～底部ヘラケズリ	ロクロ調整		28
7	E-064	04年度	SD2	下層	須恵器	鉢	(17.8)	-	(8.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		28
8	E-058	04年度	SD2	堆積土	須恵器	壺	-	-	(4.4)	ロクロ調整、胴部上半一部縄目文、胴部下半ヘラケズリ	ロクロ調整		28
9	E-051	04年度	SD2	上層	須恵器	壺	-	-	(5.7)	ロクロ調整、胴部下半ヘラケズリ	ロクロ調整		28

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
2	Kd-005	04年度	SD1	上層	石製品	紡錘車	上径 2.2	下径 3.9	1.6	34.7	滑石	ケズリ→研磨→穿孔、孔径 6㎜、一部欠損	28

第 21 図　溝跡（古代～中世）出土遺物（1）


Y= 5190
Y= 5195
Y= 5200
Y= 5205
Y= 5210
Y= 5215
Y= 5220
Y= 5225
Y= 5230
Y= 5235
Y= 5240
X=-197250
X=-197255
X=-197260
X=-197265
X=-197270
X=-197275
X=-197280
X=-197285
X=-197290
河川跡
カクラン
C-68
SD14
SD1
SD2
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
Pit11
Pit12
Pit26
Pit95
Pit47
Pit34
Pit151
Pit52
Pit332
SM1
SM2
SM3
SM4
SM5
SM6
SM7
SM8
SM9
SM10
SM11
SM23
SM29
SM30
SM32
SM33
SM34
SM35
SM36
SM37
SM38
SM39
SM40
SM41
SM42
SM43
SM44
SM45
SM46
SM51
SM52
SM53
SM54
SM55
SM57
SM58
SPA
SPA′
SPB
SPB′
SPC
SPC′
掲載範囲
X= -197291
Y= 5286
X= -197291
Y= 5293
X= -197294
Y= 5286
X= -197294
Y= 5293
調査区外
0
(1:200)
10m
SD1
SD2
SD3
SD4
SD5・6
SD7・8
SD9
SD14
SD18
11.10m
10.90m
0
(1:60)
2m

第 22 図　溝跡（古代～中世）

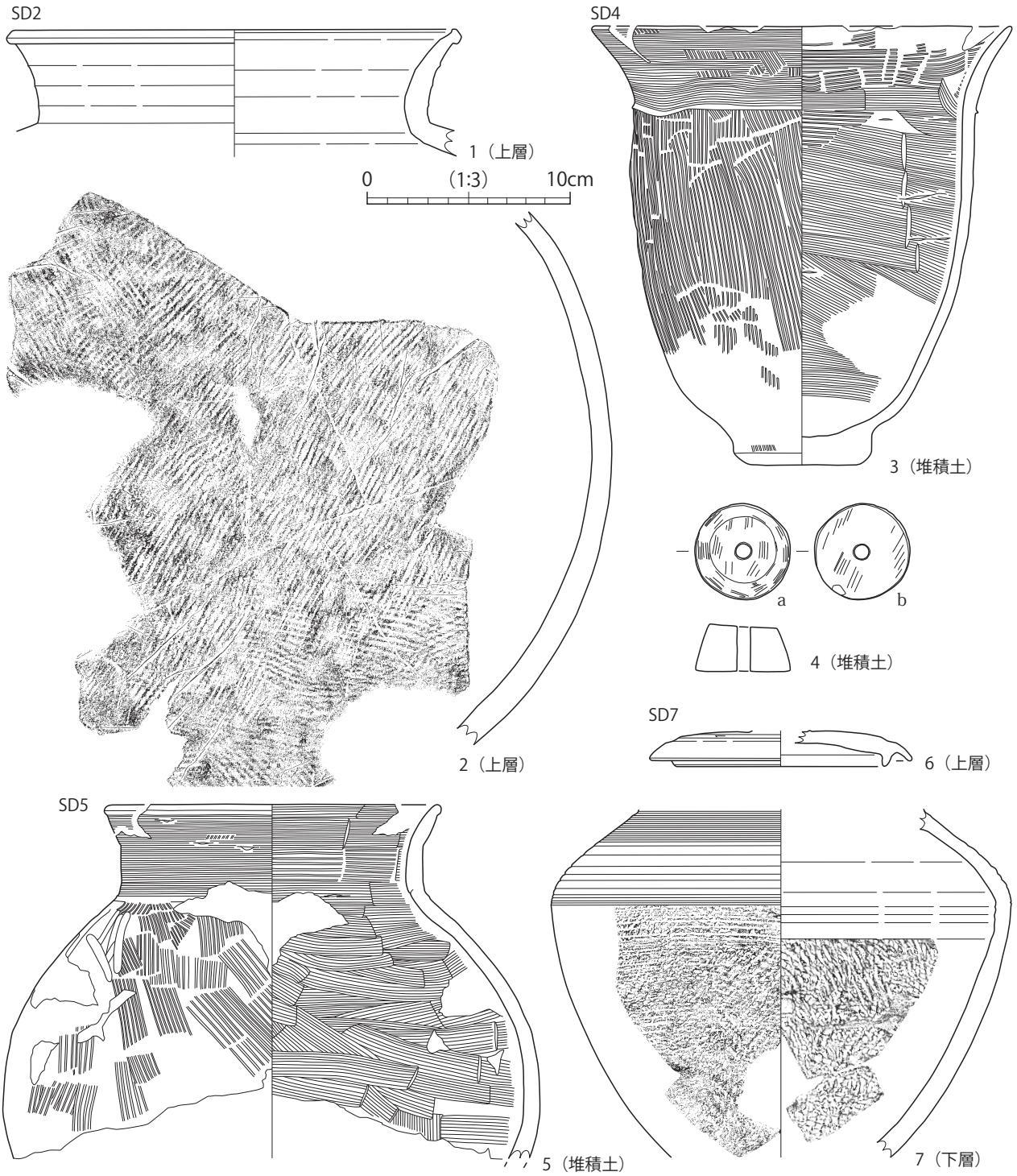
溝跡 (古代〜中世)　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD1	18･19･21 〜 24	N-78°-E	2567	76 〜 159	21 〜 79	12 〜 63	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	炭化物少量含む。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック含む。
							3a	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物、にぶい黄褐色土ブロック微量含む。
							3b	10YR3/1 黒褐色	シルト	
							4a	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色土粒含む。
							4b	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色土ブロック・にぶい黄褐色土粒含む。
							5	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物、にぶい黄褐色土ブロック含む。
							6a	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック含む。
							6b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物少量含む。
SD2	7･10･13･16･19	N-2 〜 85°-E	2924	24 〜 132	7 〜 39	6 〜 52	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物微量含む。
							2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物含む。
							3a	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック、炭化物微量含む。
							3b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、Ⅳ層土ブロック、下位に黒褐色土ブロック含む。
							3c	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、黒褐色土ブロック混在。
							4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量、Ⅳ層土ブロック含む。
SD3	10･13	N-8°-W	298	31 〜 38	18 〜 31	10 〜 21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック混入。
							2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック混入。
SD4	13･16	N-14°-E	626	50 〜 100	19 〜 70	24 〜 49	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色土ブロック微量含む。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色土ブロック含む。
							3a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、下位に褐色土ブロック含む。
							3b	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量、下位に褐色土ブロック含む。
							4a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
							4b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック含む。
							5a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック微量含む。
							5b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック少量含む。
							6	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック含む。
SD5	7･8･10･11	N-6°-E	972	39 〜 59	25 〜 44	4 〜 22	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。
							2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量、褐色土ブロック含む。
							3	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック微量含む。
SD6	7･8･10･11	N-4 〜 74°-E	1106	18 〜 58	12 〜 40	2 〜 14	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。
							②	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック含む。
SD7	6 〜 8	N-78 〜 88°-E	1961	55 〜 109	14 〜 35	40 〜 52	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
							1b	10YR3/3 暗褐色	シルト	白色粒・炭化物微量含む。
							2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色土ブロック・焼土粒微量含む。
							2b	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	白色粒・焼土粒・炭化物、両端にⅣ層土ブロック含む。
							3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量、Ⅳ層土ブロック含む。
							4a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	両端にⅣ層土ブロック混在。
							4b	10YR3/4 暗褐色	シルト	白色粒・焼土粒・炭化物微量含み、Ⅳ層土ブロック混在。
SD8	4･6･14	N-88°-W 〜 72°-E	913	53 〜 96	43 〜 76	8 〜 21	①	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。
							②	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック含む。
SD9	14･16･17	N-18°-W	811	36 〜 60	7 〜 32	27 〜 54	1	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 〜 20㎜程度) 多量含む。
							2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。
							3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 〜 10㎜程度) 多量含む。
SD14	34 〜 36	N-19 〜 48°-E	1110	34 〜 125	9 〜 70	14 〜 40	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 〜 10㎜程度) 多量含む。
							1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 〜 10㎜程度) 微量含む。
							2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 〜 20㎜程度) 少量、灰白色火山灰微量含む。
							2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	下位にⅣ層土ブロック (5 〜 10㎜程度) 集中。
							3a	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量含む。
							3b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	上位にⅣ層土ブロック (5㎜程度) 集中。
							4	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
SD18	84･85	N-76°-W	615	48 〜 60	32 〜 43	9 〜 25	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (30 〜 50㎜程度) 多量含む。
							2a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 〜 20㎜程度) 少量含む。
							2b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (30 〜 50㎜程度) 少量含む。
							3	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 〜 30㎜程度) 多量含む。

第 21 図− 1 のミニチュア土器は、高坏を模した器形と思われる。2 は滑石製の紡錘車で、a・b 面には無数の使用痕が残る。4 の土師器埦は体部から口縁部にかけて内湾し、内面は黒色処理される。5 は甕としたが、残存する器形から甑の可能性もある。6 の須恵器坏は底部が静止ヘラ切り離しである。8・9 の壺は別個体であるが、全体の器形は類似すると考えられる。ともに肩の張る扁平な胴部をもち、8 の肩部外面には小さな縄目文が巡る。

第 23 図− 2 の須恵器甕は外面に平行タタキ、内面に青海波状の当て具痕が残る。3 の土師器甕は最大径が口縁部にあり、胴部外面には細かいハケ調整がされる。4 は流紋岩製の紡錘車で、使用痕はあまり観察されない。5 の土師器壺は胴部中位に最大径をもち、口縁部の開きが弱い。6 の須恵器蓋は内側に返りが付き、扁平な器形である。7 の壺は酸化焔焼成気味で、赤褐色の色調を呈する。外面にはカキメのほかに縄目状タタキの痕跡が残る。

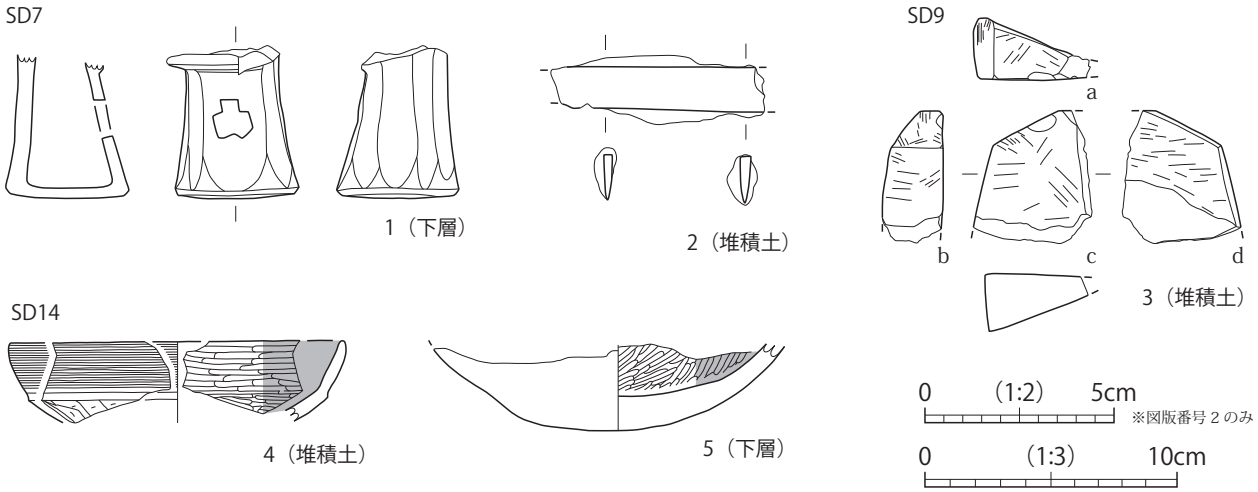
第 24 図− 1 は中空円面硯の把手部分である。柄尻に向かってラッパ状に広がり、上面には「凸」字状の孔が穿たれている。2 は鉄製刀子の刃部残欠である。3 は頁岩製の砥石で、a 〜 d の各面を砥面としている。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-062	04年度	SD2	上層	須恵器	甕	(21.8)	-	(6.3)	ロクロ調整	ロクロ調整		28
2	E-065	04年度	SD2	上層	須恵器	甕	-	-	(26.3)	胴部平行タタキ	胴部青海波文		29
3	C-538	04年度	SD4	堆積土	土師器	甕	20.7	(5.4)	21.6	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁～頸部ヘラナデ→ハケメ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		29
5	C-540	04年度	SD5	堆積土	土師器	壺	(16.5)	-	(17.4)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→一部ヘラミガキ、輪積み痕	口縁部ヘラナデ・ハケメ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		29
6	E-071	04年度	SD7	上層	須恵器	蓋	(13.0)	-	(1.8)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		29
7	E-072	04年度	SD7	下層	須恵器	壺	-	-	(17.1)	ロクロ調整、胴上部カキメ	ロクロ調整		29

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
4	Kd-006	04年度	SD4	堆積土	石製品	紡錘車	上径 3.3	下径 4.8	2.4	49.5	流紋岩	ケズリ→研磨→穿孔、孔径 6.5㎜、ほぼ完形品	29

第 23 図　溝跡（古代～中世）出土遺物（2）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-074	04年度	SD7	下層	須恵器	円面硯把手	長 (6.0)	幅 4.9	厚 4.9	中空、ヘラケズリ、上面「凸」状に穿孔	ナデ		29
4	C-067	05年度	SD14	堆積土	土師器	坏	(13.2)	-	(3.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		29
5	C-068	05年度	SD14	下層	土師器	坏？	-	-	(4.4)	摩耗のため不明瞭	ヘラミガキ、黒色処理		29

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
2	N-007	04年度	SD7	堆積土	金属製品	刀子	(5.6)	1.1	0.4	10.6	刃部、両端部欠損	29

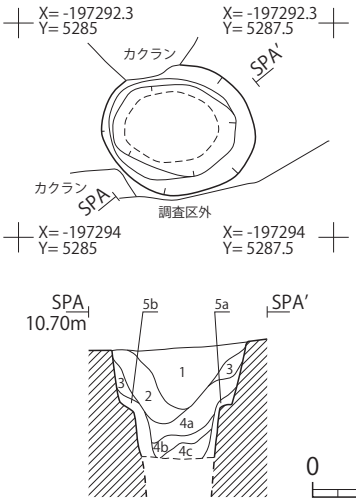
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
3	Kd-020	04年度	SD9	堆積土	石製品	砥石	(5.3)	(4.7)	2.4	55.6	頁岩	砥面 4 面、破片	29

第 24 図　溝跡（古代〜中世）出土遺物（3）

（4）井戸跡

SE1 井戸跡（第 25 図）

調査区南部東端の 84 グリッドに位置し、当該期の SD18 の西側に接する。東側 13 m程には河川跡が存在する。井戸枠等を伴わない掘り抜きの井戸であり、平面形状は楕円形、断面形状は筒形を呈し、壁には幅の狭い段を伴う。検出された規模は長軸 123cm ×短軸 106cm を測る。底面は検出できなかったが、ボーリングでの確認を含め 200cm 以上の深さを測る。堆積土は灰黄褐色シルトを主体とし、全体的に基本層Ⅳ層由来のブロックが多く含まれる。下層は粘性が強く、締まっている。遺物は出土しなかった。



SE1 井戸跡　観察表

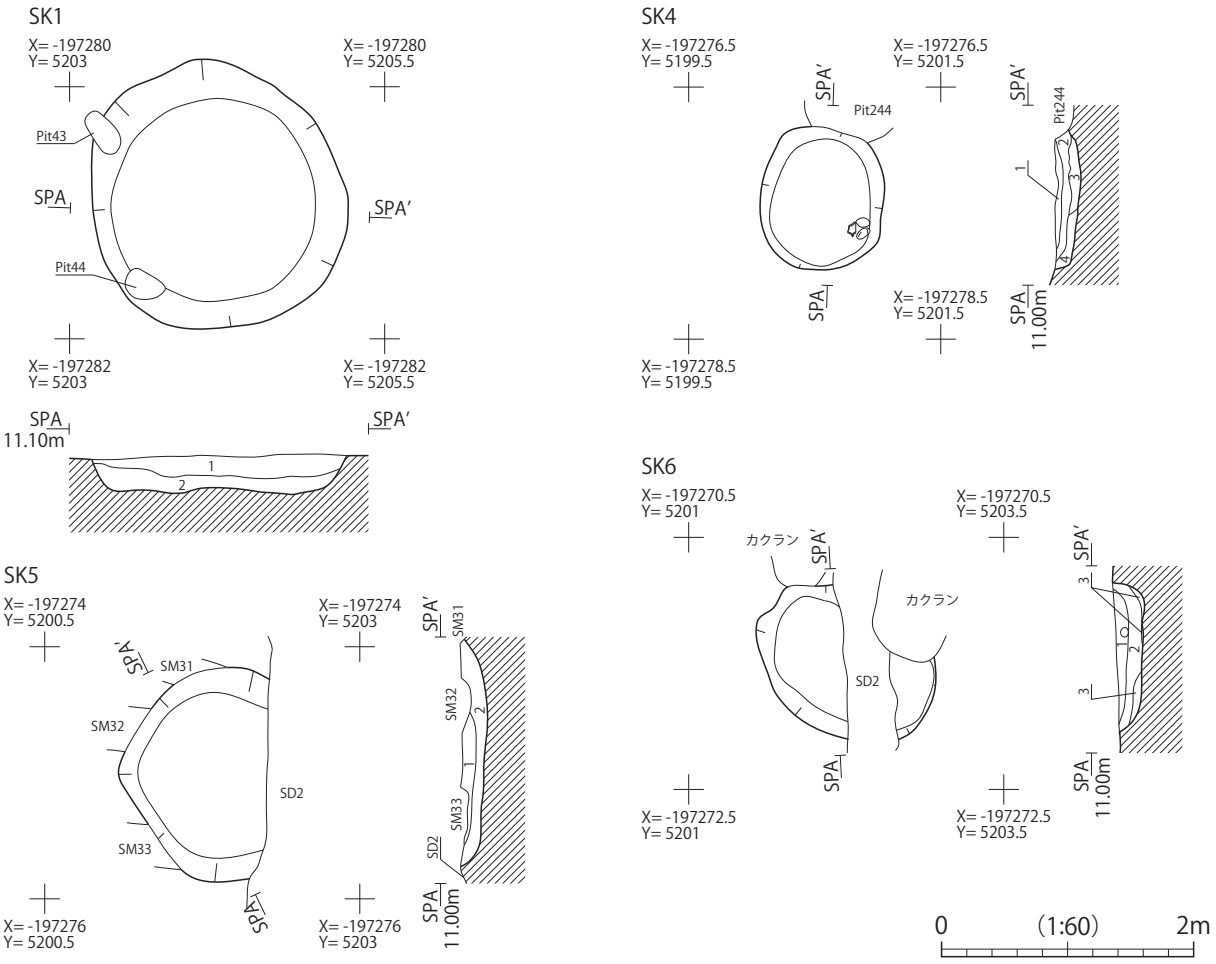
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考
SE1	84	楕円形	123 × 106	(200)	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20 〜 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10 〜 30㎜程度)・炭化物少量含む。
					3	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 〜 20㎜程度) 少量含む。
					4a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 〜 50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
					4b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 〜 30㎜程度) 少量含む。
					4c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (20 〜 50㎜程度) 少量含む。
					5a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	明黄褐色シルトブロック (20 〜 30㎜程度) 少量含む。
					5b	10YR4/1 褐灰色	粘土	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 〜 50㎜程度) 多量含む。

第 25 図　SE1 井戸跡

(5) 土坑（第 26 ～ 28 図）

11 基が検出された。SK20・21・23 は第 180 次調査、ほかは第 167 次（1 年次）調査で検出されている。平面形状は SK21 が隅丸方形で、ほかは円形・楕円形などの円形基調である。規模は長軸 65 ～ 223cm と様々であり、SK1 が最大、SK20 が最小である。このように形状や規模などに規格性は認められない。堆積土は灰黄褐色やにぶい黄褐色の粘土質シルトが大半を占める。遺物は SK1・4 ～ 6・11 ～ 13・20・21 から出土しており、SK4 の土師器ミニチュア土器 1 点、SK6 の土師器甕 1 点、SK21 の金属製品 1 点を掲載した（第 28 図）。このほか土師器・須恵器の破片が少量出土している。

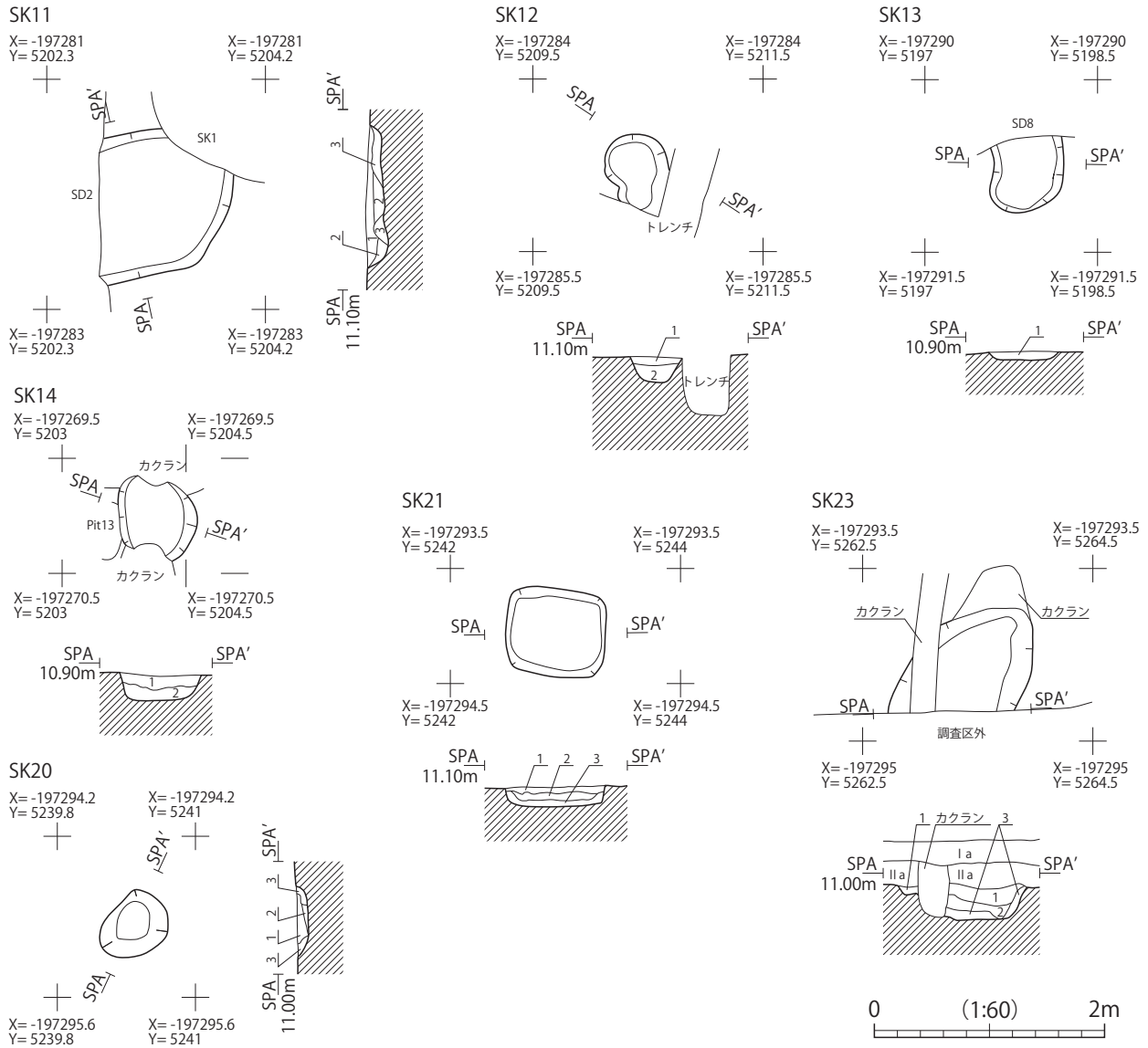
第 28 図－ 1 の土師器ミニチュア土器は、甕の器形を模したものと思われる。2 の土師器甕は器壁が磨滅するが、外面は全体がヘラケズリ調整とみられる。底部には木葉痕が観察される。3 は鉄鏃で、小型長頸鏃の一部である。刃部は欠損し、茎関は台関である。



土坑（古代～中世） 観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK1	10・13	円形	223 × 198	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物含む。	Pit43・44・309 より古く、SM16、SK11 より新しい。
					2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物含む。	
SK4	13	楕円形	111 × 97	23	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。	SM35・52・58、Pit244 より古く、SK7、Pit274 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック (5 ～ 8㎜程度)・炭化物含む。	
					3	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	淡黄灰色シルト多量、炭化物含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	白色粘土粒・炭化物少量含む。	
SK5	13・16	楕円形	138 × (120)	22	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SM31 ～ 33・47、SD2、P23 より古く、Pit239 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。	
SK6	16	楕円形	152 × (88)	28	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	SM9、SD2 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	

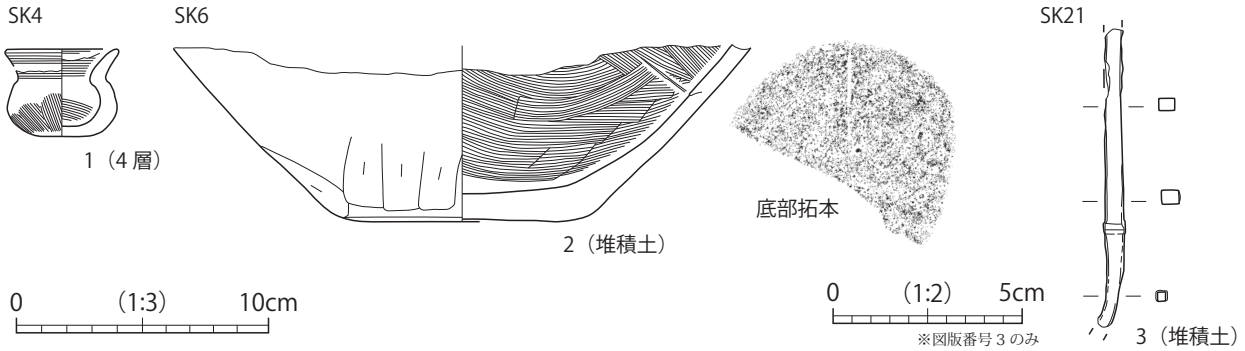
第 26 図　土坑（古代～中世）（1）



土坑 (古代～中世)　観察表 (2)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK11	10	楕円形	124 × (117)	20	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	SK1、SD2 より古く、SB6-P9 より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
SK12	11	楕円形	(73) × 47	16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。	
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 多量含む。	
SK13	4	楕円形	(65) × 60	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物混入。	SM24、SD8 より古い。
SK14	16・19	楕円形	80 × 58	24	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック状に混入。	Pit13 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト		
SK20	77・78	楕円形	65 × 50	10	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SD17 より新しい。
					2	5Y7/1 灰白色	粘土質シルト	灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR7/2 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
SK21	77	隅丸方形	86 × 76	18	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度)・炭化物少量含む。	SD17 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
SK22	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
SK23	81	楕円形	(134) × (99)	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SB15-P4 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (ラミナ状) 多量、炭化物微量含む。	

第 27 図　土坑（古代～中世）(2)



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-384	04年度	SK4	4 層	土師器	ミニチュア土器	(4.5)	-	3.5	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		29
2	C-383	04年度	SK6	堆積土	土師器	鉢	-	(8.8)	(7.0)	体部ヘラケズリ、底部木葉痕	ヘラナデ、輪積み痕		30

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
3	N-002	06年度	SK21	堆積土	金属製品	鉄鏃	(7.9)	0.5	0.35	6.3	頸～茎部、台関	30

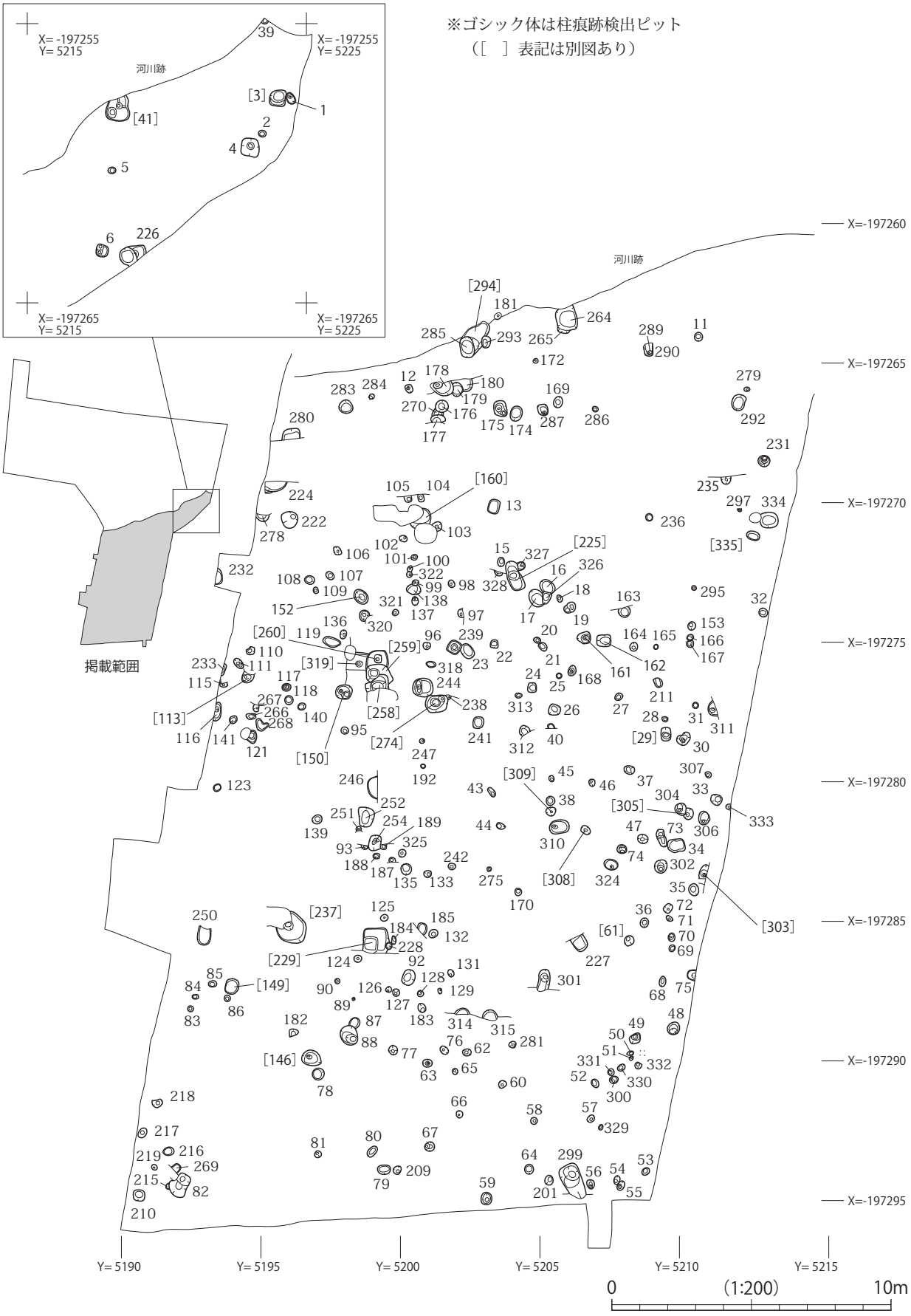
第 28 図　土坑（古代～中世）出土遺物

(6) ピット（第 29 ～ 34 図）

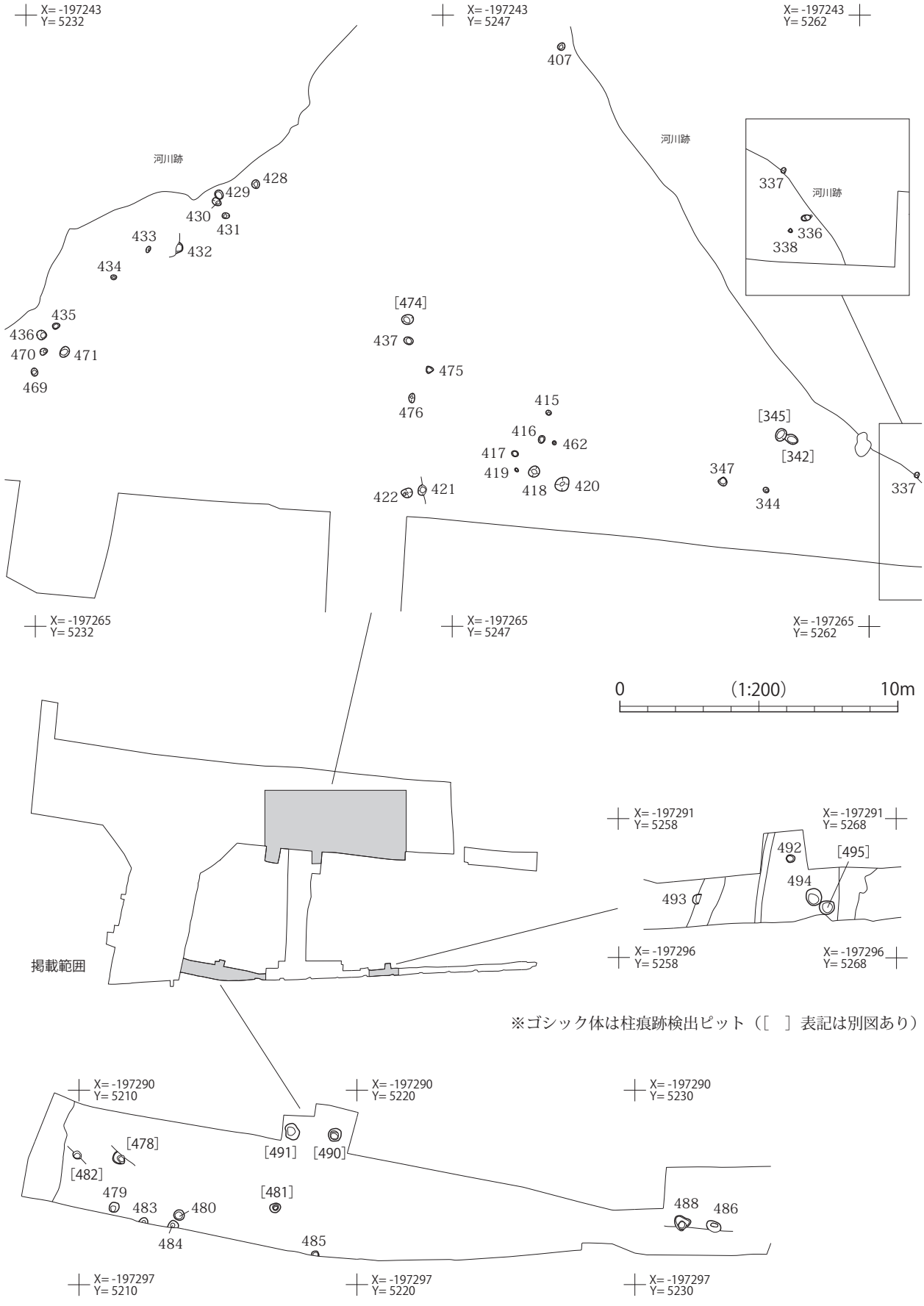
304 基が検出された。この 5/6 以上にあたる 255 基が第 167 次（1 年次）調査で検出された。ピットの番号は第 180 次調査で検出された 16 基が新規で Pit1 から付けられているため、整理の段階で 167 次調査からの通し番号に変更した。また、Pit180・183・211・227・236・237・246・247・251・258 ～ 260・267・279・292・293・319・320・334・335・486・493 の 22 基は調査時の所見により古代以前に属すことが指摘されているが、便宜上ここに一括して報告する。

ピットの分布に規則性は見出せないが、Pit229 は SB10 の範囲内に、Pit259 ～ 260 は SB9 の柱筋上に位置し、形状もこれら掘立柱建物跡の柱穴と酷似することから何らかの関連性が考えられる。柱痕跡が認められたピットも 38 基あり、柱の圧痕のような窪みを底面に伴うピットも多く存在する。Pit225 では、根石とみられる礫が検出されている。遺物は、Pit3 ～ 5・12・13・16・17・19・20・29・31・32・34 ～ 36・38・41・45・52・53・58・59・61・63 ～ 65・67・72・74・75・78・82・85 ～ 89・92・105・108・111・113・116 ～ 118・121・124・125・128・129・131・132・135・136・140・146・149・150・153・160・166・168・169・175 ～ 179・181・183・188・189・192・209・211・217・222・224 ～ 226・229・231 ～ 233・235 ～ 237・244・246・250・258・259・264 ～ 266・270・274・275・278・280・283・285 ～ 287・292 ～ 295・300 ～ 302・304 ～ 306・319・325・329・330・334・345・418・420・429・430・434・437・471・479 ～ 481・484・485・488・491・493 の合計 135 基から出土したが、少量の土師器にわずかな須恵器が混じる程度の、破片資料がほとんどである。Pit82 の土師器壺 1 点、Pit88 の土師器高坏 1 点、Pit163 の金属製品 2 点、Pit225 の土師器坏 1 点、Pit229 の土師器高坏 2 点、Pit287 の土錘 1 点、Pit334 の土師器甕 1 点、Pit481 の須恵器壺 1 点を掲載した（第 34 図）。6 の高坏は完形に近い個体であるが、Pit229 堆積土の最上層からの出土である。

1 の土師器壺は口唇部が突出し、外面下位がヘラミガキ調整される。焼成も良好で、硬質である。2 の高坏は脚部に三角形の透孔が 3 箇所穿たれ、坏部内面は黒色処理される。3・4 はともに鉄釘の残欠と思われる。5 は土師器坏で、体部は内湾気味に外傾する。内面は全体がヘラミガキ調整されるが、外面は上半部のみヘラミガキで、下半部にはヘラケズリを残す。6・7 の高坏は、6 が脚部に長方形の透孔が 3 箇所穿たれるが、7 は無孔である。ともに坏部内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。10 の須恵器長頸壺は、口唇部が突出し、受口状となる。外面下端と内面全体には、緑色の自然釉が付着している。



第 29 図　ピット配置図　第 167 次（1 年次）調査



第 30 図　ピット配置図　第 167 次（2 年次）調査・第 180 次調査

ピット　観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit1	28	隅丸方形	43 × 30	44	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
Pit2	28	隅丸方形	29 × 23	56	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。	
Pit3	28	方形	54 × 48	26	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック・炭化物含む。(柱痕跡)	
					2	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック含む。	
					3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック含む。	
Pit4	28	隅丸方形	76 × 23	25	1	暗褐色	粘土質シルト	柱痕跡あり。	
Pit5	27	円形	28 × 23	13	1	暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit6	23	隅丸方形	53 × 43	14	1	暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物微量含む。	SI9 より新しい。
Pit7	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI19-P5 に変更)	
Pit8	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB4-P2 に変更)	
Pit9	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB4-P3 に変更)	
Pit10	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB4-P4 に変更)	
Pit11	23	方形	32 × 30	19	1	暗灰褐色	粘土	灰色～淡青灰色粘土主体。	SD1 より新しい。
Pit12	22	方形	31 × 25	46	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SD1 より新しい。
Pit13	16･19	方形	50 × 38	14	1	暗黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SK14 より新しい。
Pit14	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB11-P1 に変更)	
Pit15	16	長方形	33 × 24	27	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、白色粘土粒微量含む。	
Pit16	16	円形	57 × 44	14	1	暗黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック (10㎜程度) 含む。	
Pit17	16	長方形	65 × 50	15	1	暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物含む。	
Pit18	16	円形	27 × 22	29	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	Pit19 より古い。
Pit19	16	長方形	47 × 28	22	1	暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)･ 灰白色粘土粒少量含む。	Pit18 より新しい。
Pit20	16	方形	23 × 20	17	1	黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒・炭化物少量含む。	
Pit21	13	円形	34 × 25	18	1	黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒・淡灰色粘土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
Pit22	13	方形	30 × 27	32	1	暗褐色土	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SK4 より新しい。
Pit23	13	隅丸方形	57 × 41	24	1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	SD2、SK5 より新しい。
Pit24	13	方形	34 × 30	46	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (2 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit25	13	方形	22 × 20	15	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit26	13	隅丸方形	47 × 43	58	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒少量含む。	SD3 より新しい。
Pit27	13	長方形	28 × 24	17	1	暗黄褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒多量含む。	
Pit28	13	方形	20 × 17	16	1	暗黄褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒多量含む。	
Pit29	13	方形	47 × 34	52	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR3/3 暗褐色	シルト		
					2b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック含む。	
					3	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック含む。	
Pit30	14	楕円形	52 × 30	46	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	
Pit31	14	方形	22 × 21	14	1	暗褐色	シルト	炭化物多量含む。	
Pit32	17	方形	31 × 30	43	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	SI14 より新しい。
Pit33	11	楕円形	42 × 39	17	1	暗黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit34	10･11	隅丸方形	59 × 45	11	1	暗黄褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	SD6 より新しい。
Pit35	11	方形	45 × 36	26	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒多量含む。	
Pit36	7･10	隅丸方形	34 × 28	23	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒少量、炭化物微量含む。	SD5 より新しい。
Pit37	13	隅丸方形	37 × 30	35	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/4 褐色	シルト		
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック含む。	
Pit38	10	隅丸方形	36 × 34	31	1	暗褐色	シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
Pit39	28	隅丸方形	(20) × (20)	14	1	黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
Pit40	13	円形	(16) × (21)	39	1	暗黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SD3 より新しい。
Pit41	27	隅丸方形	78 × 65	24	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物ラミナ状に含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	
					1c	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック含む。(柱痕跡)	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。	
					3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック含む。	
Pit42	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P8 に変更)	
Pit43	10	長円形	37 × 20	36	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量含む。	SK1 より新しい。
Pit44	10	楕円形	32 × 22	14	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	SK1 より新しい。
Pit45	13	円形	24 × 17	18	1	暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit46	10･13	楕円形	27 × 22	19	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit47	10	楕円形	37 × 33	37	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土粒含む。	SD5 より新しい。
Pit48	7	楕円形	48 × 44	47	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SD11 より新しい。
Pit49	7	楕円形	43 × 37	47	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	SD5 より新しい。
Pit50	7	楕円形	25 × 16	18	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	SD5 より新しい。
Pit51	7	円形	19 × 17	21	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SD6 より新しい。
Pit52	5	長方形	33 × 23	15	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SD6 より新しい。
Pit53	5	楕円形	30 × 25	28	1	黒褐色	粘土	淡青灰色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SM71 より新しい。
Pit54	5	楕円形	30 × 22	26	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit55	5	楕円形	35 × 23	31	1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	
Pit56	5	隅丸方形	32 × 26	24	1	黒褐色	粘土質シルト	粘土ブロック多量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit57	5	楕円形	28 × 25	19	1	暗黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	SM71 より新しい。
Pit58	5	円形	25 × 24	27	1	黒褐色	粘土	淡青灰色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	SM17 より古い。
Pit59	5	隅丸方形	43 × 36	15	1	黒褐色	粘土	Ⅳ層土・黒褐色土の混合。	SD11 より新しい。
Pit60	5	楕円形	28 × 25	28	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SM17 より新しい。
Pit61	7	楕円形	38 × 34	71	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色土ブロック含む。(柱痕跡)	SD5 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色土ブロック・炭化物含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物微量含む。	
Pit62	7	楕円形	30 × 25	20	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	SM17 より古い。
Pit63	5	楕円形	35 × 27	31	1	暗茶褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物含む。	SM19 より新しい。
Pit64	5	楕円形	36 × 30	13	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)･ 炭化物含む。	
Pit65	5	楕円形	22 × 20	18	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	SM18 より新しい。
Pit66	5	楕円形	27 × 24	32	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SM20 より新しい。
Pit67	5	円形	35 × 34	50	1	暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 含む。	SM22 より新しい。

ピット　観察表 (2)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit68	7	方形	38 × 22	23	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量含む。	SD6 より新しい。
Pit69	7	方形	28 × 19	39	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量含む。	SD6 より新しい。
Pit70	7	長方形	30 × 23	27	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	SD6 より新しい。
Pit71	10	長方形	27 × 18	15	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SD6 より新しい。
Pit72	10	長方形	34 × 26	40	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量、地山ブロック (10㎜程度) 含む。	SD6 より新しい。
Pit73	10	楕円形	64 × 28	42	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量含む。	SM4 より古い。
Pit74	10	楕円形	36 × 32	44	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	SM5 より古い。
Pit75	8	隅丸方形	(30) × 39	20	1	黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量含む。	
Pit76	7	方形	33 × 25	28	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物含む。	SM18 より古い。
Pit77	6	楕円形	33 × 31	33	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 15㎜程度) 少量、炭化物含む。	SM20 より古く、SD8 より新しい。
Pit78	4	楕円形	42 × 41	20	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 15㎜程度) 少量含む。	SD8 より古い。
Pit79	4	隅丸方形	45 × 34	15	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒少量含む。	SM25 より新しい。
Pit80	4	楕円形	43 × 26	20	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒少量含む。	SM25 より新しい。
Pit81	4	円形	25 × 24	16	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒少量含む。	SM27 より新しい。
Pit82	4	楕円形	86 × 48	60	1	暗黄褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SM68、Pit215 より新しい。
Pit83	6	円形	22 × 22	23	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit84	6	楕円形	23 × 17	27	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	SB2 の範囲内。
Pit85	6	楕円形	30 × 22	17	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	SB2 の範囲内。
Pit86	6	楕円形	25 × 22	17	1	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	SB2 の範囲内。
Pit87	6	隅丸方形	36 × 34	11	1	黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物多量含む。	Pit88 より新しい。
Pit88	6	円形	71 × 65	77	1	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	SD7、Pit87 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
Pit89	6	円形	10 × 10	10	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SM20 より新しい。
Pit90	6	円形	18 × 18	12	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	SM20 より新しい。
Pit91	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB10-P4 に変更)	
Pit92	7	隅丸方形	55 × 42	33	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	SM36 より新しい。
Pit93	9	楕円形	(15) × 27	18	1	暗褐色	粘土質シルト	粘土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	SM41 より古い。
Pit94	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB8-P2 に変更)	
Pit95	12	楕円形	28 × 25	19	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	
Pit96	13	方形	27 × 24	38	1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit97	16	方形	30 × (19)	27	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SD2 より古い。
Pit98	16	楕円形	26 × 22	15	1	暗褐色	粘土質シルト	淡灰色粘土粒少量含む。	
Pit99	16	楕円形	25 × 20	20	1	暗褐色	粘土質シルト	淡灰色粘土粒少量含む。	Pit138 より新しい。
Pit100	16	楕円形	23 × 18	58	1	黒褐色	粘土質シルト	地山粒少量、炭化物含む。	Pit322 より新しい。
Pit101	16	円形	22 × 20	17	1	暗褐色	粘土質シルト	灰色粘土粒少量、炭化物含む。	
Pit102	15・16	楕円形	26 × 24	32	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
Pit103	16	楕円形	33 × 26	34	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit104	19	楕円形	(27) × 20	15	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
Pit105	18・19	方形	(22) × 25	18	1	暗褐色	粘土質シルト	白色粘土粒・炭化物少量含む。	
Pit106	15	方形	30 × 23	27	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物含む。	
Pit107	15	方形	31 × 24	47	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
Pit108	15	円形	35 × 31	17	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
Pit109	15	方形	20 × 18	15	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
Pit110	12	楕円形	33 × 26	20	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
Pit111	12	楕円形	43 × 25	52	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
Pit112	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P10 に変更)	
Pit113	12	楕円形	(45) × 42	47	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物少量、地山粒含む。(柱痕跡)	SB5 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 8㎜程度) 多量含む。	
Pit114	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB11-P1 に変更)	
Pit115	12	楕円形	30 × (15)	39	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SB11 より古い。
Pit116	12	楕円形	67 × (23)	23	—	—	—		
Pit117	12	円形	30 × 29	26	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物含む。	
Pit118	12	楕円形	33 × 30	9	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit119	12・15	長方形	60 × 35	12	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit120	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB11-P3 に変更)	
Pit121	12	長方形	43 × (30)	25	1	10YR4/4 褐色	シルト	地山粒少量含む。(柱痕跡)	SB11 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト		
Pit122	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB11-P4 に変更)	
Pit123	9	楕円形	30 × 24	9	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	
Pit124	6	円形	27 × (13)	11	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	SM45 より古い。
Pit125	6・9	方形	27 × 22	9	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土粒・炭化物含む。	SM44 より古い。
Pit126	6	楕円形	23 × 21	18	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	SM19 より新しい。
Pit127	6	楕円形	26 × 25	17	1	暗褐色	粘土質シルト		SM19 より古い。
Pit128	7	円形	22 × 21	14	1	暗褐色	粘土質シルト		SM18 より新しい。
Pit129	7	楕円形	18 × 15	11	1	暗褐色	粘土質シルト		
Pit130	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB10-P3 に変更)	
Pit131	7	楕円形	26 × 22	33	1	暗褐色	粘土質シルト		SM56 より新しい。
Pit132	7	楕円形	35 × 28	23	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。根石あり。	
Pit133	10	円形	26 × 22	12	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量含む。	SM42 より古い。
Pit134	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB10-P1 に変更)	
Pit135	10	楕円形	40 × 37	10	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SM42 より古い。
Pit136	15	楕円形	31 × 22	42	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit137	16	楕円形	30 × 23	24	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 含む。	SM31 より新しい。
Pit138	16	楕円形	50 × 33	29	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SM30、Pit99 より古い。
Pit139	9	円形	38 × 32	13	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	SM61 より古く、SB7 より新しい。
Pit140	12	円形	27 × 24	31	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	SB9 より新しい。
Pit141	12	楕円形	31 × 25	18	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit142	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P10 に変更)	
Pit143	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P9 に変更)	
Pit144	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P5 に変更)	
Pit145	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P6 に変更)	

ピット　観察表 (3)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit146	4･6	楕円形	68 × 54	48	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量含む。(柱痕跡)	SD7･8 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量含む。	
Pit147	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P7 に変更)	
Pit148	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P8 に変更)	
Pit149	6	隅丸方形	55 × 47	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	SI4 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit150	12	隅丸方形	59 × 52	79	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SM35 より古い。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山粒多量含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物少量含む。	
					5	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20 ～ 30㎜程度) 含む。	
Pit151	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P5 に変更)	
Pit152	15	楕円形	56 × 44	8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	SM64･65 より新しい。
Pit153	17	楕円形	30 × 25	44	1	暗褐色	粘土質シルト		SD9 より新しい。
Pit154	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P1 に変更)	
Pit155	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P2 に変更)	
Pit156	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P3 に変更)	
Pit157	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P4 に変更)	
Pit158	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB11-P2(1 層)、SB9-P5(2 ～ 4 層) に変更)	
Pit159	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB9-P1 に変更)	
Pit160	16	楕円形	75 × (54)	31	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit161	13･16	楕円形	48 × 42	19	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、焼土粒含む。(柱痕跡)	SD10 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
					4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit162	16	長方形	50 × 42	28	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒微量含み、地山ブロック混在。(柱痕跡)	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土ブロック含む。	
Pit163	16	円形	(35) × 42	18	1	茶褐色	砂質シルト	地山ブロック (10 ～ 30㎜程度) 含む。	
Pit164	13	楕円形	32 × 28	29	1	黒褐色	粘土質シルト	青灰色粘土ブロック (10㎜程度) 少量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit165	13	円形	18 × 16	8	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
Pit166	17	楕円形	25 × 20	11	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit167	14	円形	25 × 24	12	1	暗褐色土	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
Pit168	13	楕円形	39 × (28)	34	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (10 ～ 15㎜程度) 含む。	SD10 より新しい。
Pit169	19	楕円形	42 × 31	29	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	SI17 より新しい。
Pit170	10	円形	26 × 26	23	1	暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	SI1 より新しい。
Pit171	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI17-P4 に変更)	
Pit172	22	円形	17 × 16	21	1	黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	SD1 より新しい。
Pit173	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI17-P3 に変更)	
Pit174	19	楕円形	54 × 42	20	1	暗灰色	粘土質シルト	淡青灰色粘土ブロック多量含む。	SI17 より新しい。
Pit175	18	長方形	55 × 44	34	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SI17 より新しい。
Pit176	19	円形	47 × 43	24	1	暗褐色	粘土質シルト	淡青灰色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SI16 より新しい。
Pit177	19	楕円形	51 × (28)	39	1	暗褐色	粘土質シルト	淡青灰色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	SI16 より新しい。
Pit178	19	楕円形	(60) × 68	43	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。	SD1 より古く、SI16、Pit179 より新しい。
Pit179	19	円形	50 × (34)	18	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	Pit178 より古く、SI16、SD2、Pit180 より新しい。
Pit180	19	不明	(73) × (47)	19	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SI16、SD1、Pit179 より古い。
Pit181	22	楕円形	26 × 21	17	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit182	6	長方形	(24) × 32	—	1	暗黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土多量含む。	SD7 より古い。
Pit183	7	楕円形	35 × 27	41	1	暗茶褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	SD12、SM18 より古い。
Pit184	6	長方形	28 × (11)	9	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	SM44･52 より古い。
Pit185	7	隅丸方形	(40) × 30	11	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物含む。	SM56 より古い。
Pit186	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB10-P2 に変更)	
Pit187	9	円形	24 × 19	9	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山粒多量含む。	SM42 より古く、SI17 より新しい。
Pit188	9	方形	23 × 17	13	1	暗黄灰色	粘土質シルト	黄灰色粘土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
Pit189	9	方形	(18) × 23	13	1	暗橙褐色	粘土質シルト	焼土粒多量含む。	SM41 より古く、Pit254 より新しい。
Pit190	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB7-P1 に変更)	
Pit191	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB8-P4 に変更)	
Pit192	13	円形	17 × 16	19	1	暗褐色	粘土質シルト	灰色粘土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	SM38 より古い。
Pit193	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P1 に変更)	
Pit194	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P2 に変更)	
Pit195	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P3 に変更)	
Pit196	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB2-P4 に変更)	
Pit197	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB7-P5 に変更)	
Pit198	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB7-P6 に変更)	
Pit199	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB7-P7 に変更)	
Pit200	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB7-P8 に変更)	
Pit201	5	楕円形	34 × 29	19	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	
Pit202	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P3 に変更)	
Pit203	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P4 に変更)	
Pit204	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P5、SB7-P3 に変更)	
Pit205	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P6 に変更)	
Pit206	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB8-P5 に変更)	
Pit207	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P7 に変更)	
Pit208	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB7-P2 に変更)	
Pit209	4･5	円形	30 × 30	42	1	暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物多量含む。	SM25 より古い。
Pit210	4	方形	41 × 39	13	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SD11 より新しい。
Pit211	13	長方形	(28) × 24	16	1	黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。	SD10 より古い。
Pit212	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB4-P5 に変更)	

ピット観察表 (4)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit213	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB4-P1 に変更)	
Pit214	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB4-P6 に変更)	
Pit215	4	円形	23 × (13)	15	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SM68、Pit82 より古い。
Pit216	4	楕円形	38 × 30	13	1	褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	
Pit217	4	楕円形	38 × 26	23	1	褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SM68 より新しい。
Pit218	4	楕円形	35 × 32	34	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SM70 より新しい。
Pit219	4	楕円形	22 × 17	19	1	褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
Pit220	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB9-P6 に変更)	
Pit221	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB9-P7 に変更)	
Pit222	15	円形	60 × 58	83	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SI8 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物少量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	
Pit223	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P9 に変更)	
Pit224	15・18	円形	(75) × (36)	23	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物多量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡黄色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit225	16	楕円形	108 × 49	35	1a	10YR4/4 褐色	シルト	粘土粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SM10 より古く、Pit327 より新しい。
					1b	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物含み、上位に河原石集積。(柱痕跡)	
					1c	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	淡黄白色粘土層。(柱痕跡)	
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit226	23	楕円形	100 × (55)	45	1	10YR4/4 褐色	シルト	地山粒少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI9・10 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
					5	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	
					6	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山粒密、暗褐色土粒少量含む。	
Pit227	7	長方形	(67) × 49	28	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色土ブロック微量含む。	SI3 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色土・黒褐色土ブロック微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色土ブロック混在。	
					4	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色土ブロック混在。	
Pit228	6	楕円形	25 × 22	25	1	褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	Pit229 より新しい。
Pit229	6	方形	93 × 89	47	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物多量含む。	SM45、Pit228 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
					6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
					7	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
					8	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 30㎜程度) 密に含む。	
Pit230	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI12-P1 に変更)	
Pit231	14	円形	41 × 40	51	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物含む。	
Pit232	15	不明	57 × (22)	11	—	—	—		
Pit233	15	(楕円形)	43 × (10)	20	—	—	—		
Pit234	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB8-P6 に変更)	
Pit235	20	(楕円形)	(26) × 32	26	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SI11 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit236	16	円形	26 × 25	36	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SD10 より古い。
Pit237	6	楕円形	34 × 29	61	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	地山粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SB2-P3 より古く、SI4 より新しい。
					2	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	淡白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 30㎜程度) 含む。	
Pit238	13	(円形)	(20) × (13)	11	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SM58、Pit274 より古い。
Pit239	13	方形	48 × 47	14	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	SK5、Pit23 より古い。
Pit240	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB9-P2 に変更)	
Pit241	13	(円形)	(50) × (19)	16	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒含み、10cm程の礫あり。	
Pit242	10	楕円形	30 × 23	14	1	黒褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SD2、SM42 より古い。
Pit243	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P2 に変更)	
Pit244	13	円形	71 × 67	42	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5㎜程度)・粘質土含む。(柱痕跡)	SM35・58・76、Pit238 より古く、SK4 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土混在し、炭化物点在。	
					5	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック微量含む。	
Pit245	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P1 に変更)	
Pit246	9	(円形)	82 × (36)	12	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM39、SI6、SB8-P7 より古い。
					2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色の粘質土混在。(柱痕跡)	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	地山粒・黒褐色土混在。	
					4	10YR4/6 褐色	シルト	黒褐色土ブロック・炭化物微量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、下位に黒褐色土ブロック含む。	
					6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック・炭化物微量含む。	
Pit247	13	楕円形	19 × 17	22	1	暗褐色	シルト		SI6 より古い。
Pit248	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB8-P1 に変更)	
Pit249	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB8-P7 に変更)	
Pit250	6	長方形	(59) × 47	10	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	SM55 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (40㎜程度) 混在し、炭化物点在。	
Pit251	9	円形	19 × (15)	8	1	—	—	炭化物微量含む。	SB7-P1 より古い。

ピット　観察表 (5)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit252	9	方形	69 × 56	31	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SM40 より古い。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (30㎜程度) 含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・焼土粒・炭化物含む。	
					4	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
					5	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、暗褐色土ブロック (30㎜程度) 含む。	
					6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit253	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB8-P3 に変更)	
Pit254	9	方形	54 × 40	24	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	SM41、Pit189 より古い。
Pit255	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P6 に変更)	
Pit256	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P8 に変更)	
Pit257	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB9-P3 に変更)	
Pit258	13	不整形	58 × (49)	31	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	SB9 より古く、Pit259 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量含み、暗褐色土混在。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量、にぶい黄褐色土ブロック含む。	
Pit259	13	隅丸方形	(76) × 70	52	①	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	Pit258 より古く、SK7、Pit260 より新しい。
					②	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、地山ブロック含む。	
					③	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物、地山ブロック (20㎜程度) 微量含む。	
					④	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
Pit260	13	隅丸方形	70 × (43)	37	1	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、暗褐色土混在。(柱痕跡)	Pit259 より古く、SM33・34、Pit319 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。	
Pit261	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI11B-P1 に変更)	
Pit262	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI11A-P6 に変更)	
Pit263	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB9-P4 に変更)	
Pit264	22	隅丸方形	83 × 75	39	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 含む。	SI17 より新しい。
					2	5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色	粘土	淡青灰色粘土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。	
					4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック密、暗褐色土ブロック (10㎜程度) 含む。	
Pit265	22	方形	43 × (11)	13	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit266	12	長方形	32 × 20	35	1	暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit267	12	長方形	23 × 19	38	1	暗褐色	粘土質シルト		SB9・11 より古い。
Pit268	12	不整形	44 × 30	10	1	にぶい黄褐色	粘土質シルト	上位に暗褐色土含む。	
Pit269	4	楕円形	(26) × 29	20	1	暗褐色	粘土質シルト	粘土ブロック微量、黒褐色土ブロック含む。	SM68 より古い。
Pit270	10	楕円形	(12) × 39	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物少量含む。	
					2	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土	淡白色粘土多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物含む。	
					4	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	黄白色粘土多量含む。	
Pit271	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P11 に変更)	
Pit272	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P12 に変更)	
Pit273	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB5-P7 に変更)	
Pit274	13	隅丸方形	80 × 60	56	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄褐色土粒少量含む。	SM35、SK4 より古く、Pit239 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック含む。	
					3	暗褐色	粘土質シルト		
					4	黒褐色	粘土質シルト	褐色土・暗褐色土混在。	
					5	褐色	粘土	暗褐色土含む。	
Pit275	10	方形	16 × 15	9	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
Pit276	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI8-P5 に変更)	
Pit277	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI8-P8 に変更)	
Pit278	15	楕円形	(45) × (30)	18	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量、地山ブロック含む。	
Pit279	20	楕円形	21 × 16	10	1	暗黄褐色	粘土質シルト		SI11(A・B) より古い。
Pit280	18	方形	62 × (38)	13	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
Pit281	7	円形	24 × 23	36	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SD12 より新しい。
Pit282	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI8-P7 に変更)	
Pit283	18	円形	49 × 48	22	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SD1 より古く、SI16 より新しい。
Pit284	18	円形	20 × 19	31	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SD1 より古い。
Pit285	22	不整形	75 × 60	33	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	Pit294 より新しい。
Pit286	19	円形	20 × 18	30	1	暗褐色	粘土質シルト		SI11・17 より新しい。
Pit287	19	長方形	38 × 35	38	1	暗黄灰色	粘土	淡黄灰色粘土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	SI17 より新しい。
Pit288	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI11B-P3 に変更)	
Pit289	22	円形	18 × 13	14	1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	Pit290 より新しい。
Pit290	22	長方形	44 × 33	12	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SD1、Pit289 より古く、SI11 より新しい。
Pit291	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI17-P1 に変更)	
Pit292	20	隅丸方形	58 × 44	17	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 30㎜程度) 含む。	SI11 より古い。
Pit293	22	楕円形	43 × 31	19	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 15㎜程度) 含む。	SI16 より古い。
Pit294	22	楕円形	130 × 79	53	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)	Pit285 より古い。
					2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土粒・炭化物の混合。	
					4a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (10㎜程度) 含む。	
					4b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック密に含む。	
					5	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック・淡灰色粘土ブロック含む。	
Pit295	17	楕円形	16 × 13	5	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SI12 より新しい。
Pit296	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI12-P3 に変更)	
Pit297	17	円形	14 × (10)	26	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SI12 より新しい。
Pit298	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI17-P2 に変更)	
Pit299	5	隅丸方形	(130) × 72	54	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。	SK2 より古く、SD11 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
					6	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit300	5	円形	32 × 20	21	1	暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物、東側に地山ブロック含む。	

ピット　観察表 (6)

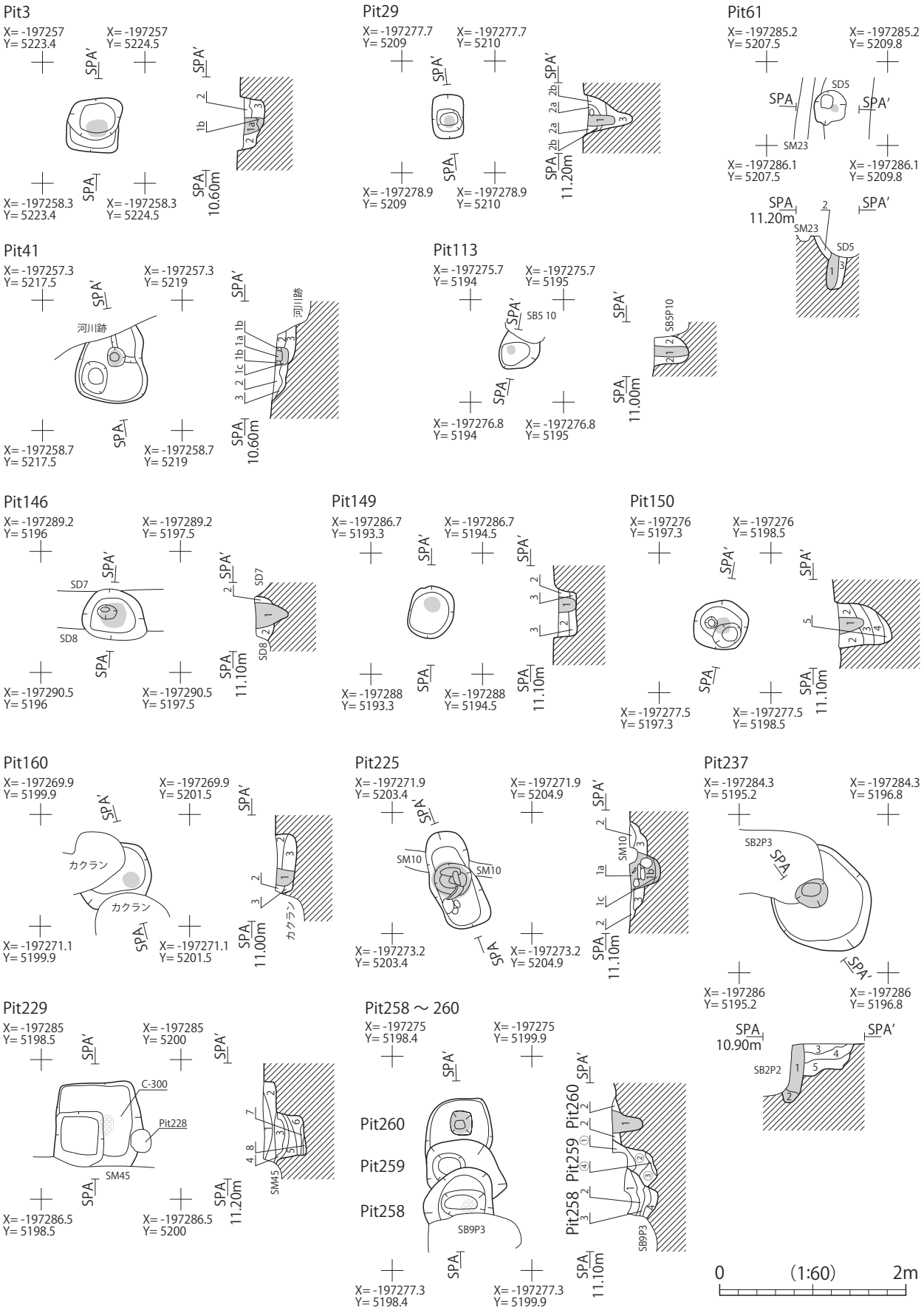
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit301	7	楕円形	(78) × 36	26	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物少量含む。	SD2 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit302	11	円形	46 × 43	58	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物含む。	
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 15㎜程度) 含む。	
Pit303	11	楕円形	56 × (28)	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit304	11	円形	41 × (40)	34	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SM3 より古い。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit305	11	楕円形	41 × (32)	55	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物含む。(柱痕跡)	SM3 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit306	14	楕円形	48 × 39	13	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SM3 より古い。
Pit307	14	長方形	22 × 19	47	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量含む。	
Pit308	10	楕円形	33 × 27	49	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	地山粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量含む。	
Pit309	10	円形	33 × 31	53	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	地山粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SK1 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	
					3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量含む。	
					3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 密、暗褐色土ブロック少量含む。	
Pit310	10	楕円形	70 × 46	22	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SM33 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 密、暗褐色土ブロック少量含む。	
Pit311	14	楕円形	(29) × 58	26	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (8㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	SD9 より古い。
Pit312	13	楕円形	(32) × 37	10	1	褐色	粘土質シルト	上位に暗褐色土含む。	
Pit313	12	楕円形	23 × 17	11	1	暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SD4 より古い。
Pit314	7	楕円形	(16) × 53	10	1	暗黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SD2 より古い。
Pit315	7	楕円形	(38) × 54	15	1	暗黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、地山ブロック (5㎜程度) 含む。	SD7 より古い。
Pit316	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB7-P7 に変更)	
Pit317	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P10 に変更)	
Pit318	13	円形	34 × 23	6	1	褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 含む。	SM47 より古い。
Pit319	12	不明	—	35	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物多量含む。(柱痕跡)	
					1c	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 含む。	
Pit320	15	隅丸方形	37 × 34	24	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物含む。	SB9-P2、SM32 より古い。
Pit321	16	楕円形	23 × 20	19	1	暗褐色	粘土質シルト	地山粒少量含む。	SM64 より新しい。
Pit322	16	方形	21 × 15	32	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	Pit100 より古い。
Pit323	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB6-P9 に変更)	
Pit324	10	楕円形	51 × (38)	24	1	暗黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	SM71 より新しい。
Pit325	9・10	円形	30 × 28	38	1	暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	SM45 より古い。
Pit326	16	楕円形	43 × 30	18	1	暗褐色	—	地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
Pit327	16	円形	30 × (26)	22	1	暗黄褐色	—	地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	Pit225 より古い。
Pit328	16	楕円形	(15) × 30	11	1	暗黄褐色	—	地山ブロック (5㎜程度) 多量含む。	SM10 より古い。
Pit329	5	楕円形	20 × 15	12	1	黒褐色	粘土質シルト	地山粒多量含む。	SM71 より古い。
Pit330	5	楕円形	32 × 27	21	1	黒褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SD6 より新しい。
Pit331	5	円形	23 × 22	17	1	黒褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SD6 より新しい。
Pit332	5	円形	25 × 21	17	1	黒褐色	粘土質シルト	地山粒含む。	SD6 より新しい。
Pit333	11	円形	24 × (19)	23	1	暗褐色	—	地山粒含む。	SI15 より新しい。
Pit334	17	隅丸方形	63 × 54	26	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・炭化物少量含む。	SI12 より古い。
					2	7.5YR4/3 褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量、焼土ブロック (10㎜程度) 含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	
Pit335	17	楕円形	47 × 30	37	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	地山粒・炭化物含む。(柱痕跡)	SI12 より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (20㎜程度)・淡白色粘土ブロック含む。	
Pit336	51	楕円形	35 × 20	12	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック多量含む。	Pit16・17 より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit337	52	円形	(22) × (18)	28	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	河川跡より古い。
Pit338	51	方形	14 × 13	10	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 斑状に多量含む。	
Pit339	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SM85 の一部)	
Pit340	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81-1 の一部)	
Pit341	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81-2 の一部)	
Pit342	46	楕円形	(47) × 34	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM79-2、Pit345 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	2 層に近似するが、地山ブロック少量含む。	
Pit343	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81-3 の一部)	
Pit344	45	楕円形	23 × 18	23	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	

ピット　観察表 (7)

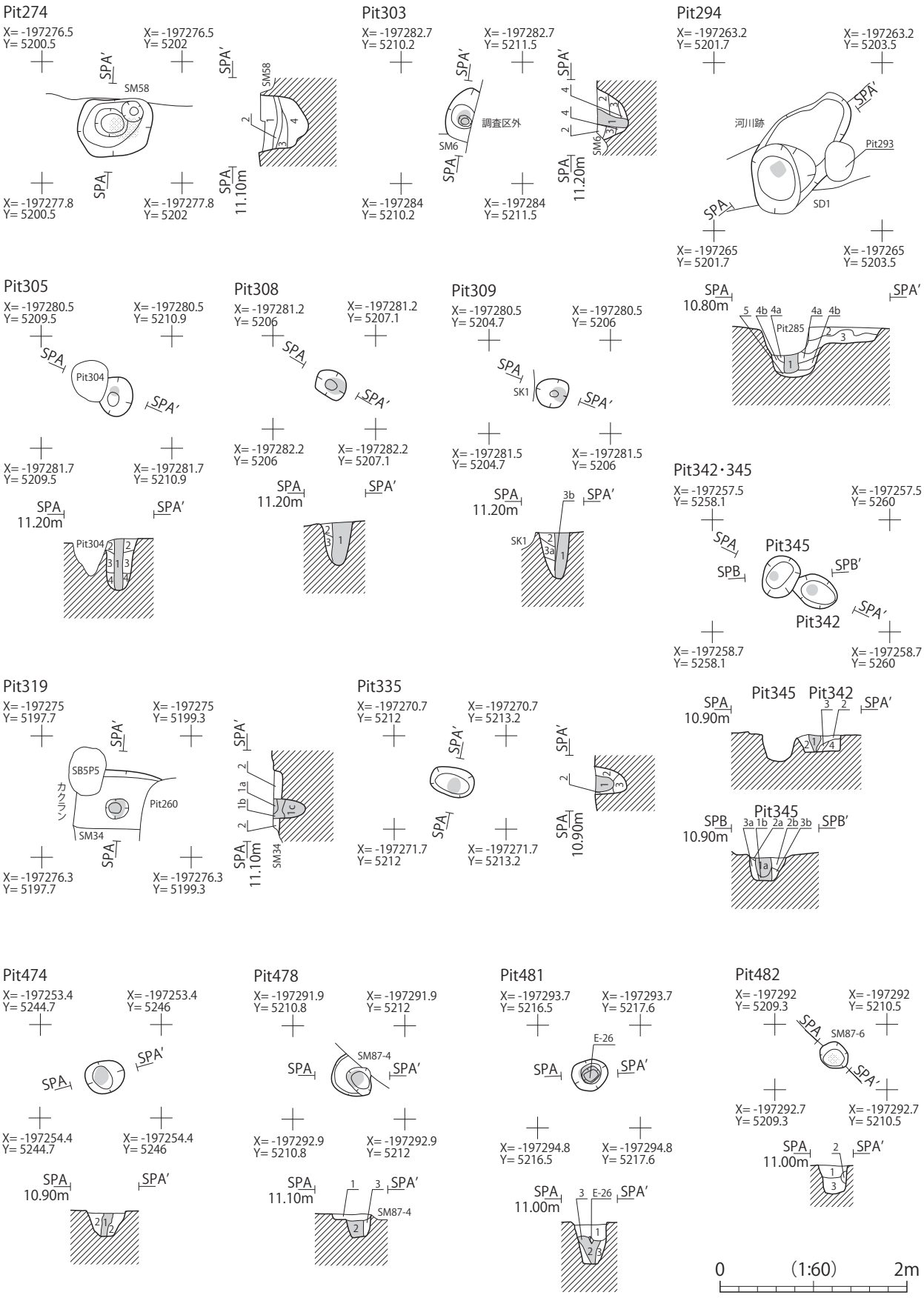
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit345	46	楕円形	46 × 36	28	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	Pit342 より新しい。
					1b	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 微量含む。	
					2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度) 微量含む。	
Pit346	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81-4 の一部)	
Pit347	46	円形	31 × 31	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit348 ～ 386		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81 関連ピット)	
Pit387 ～ 394		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM82 関連ピット)	
Pit395 ～ 406		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM83 関連ピット)	
Pit407	49	円形	28 × 25	15	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit408 ～ 414		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM83 関連ピット)	
Pit415	46	隅丸方形	19 × 17	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
Pit416	46	楕円形	30 × 23	8	1	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量含む。	SI20 より新しい。
Pit417	40	隅丸方形	22 × 22	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 下位に多量含む。	SI19 より新しい。
Pit418	40･46	円形	41 × 36	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
					4	10YR6/6 明黄褐色	シルト	地山ブロック微量含む。	
Pit419	40	長方形	15 × 11	8	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit420	45･46	円形	51 × 47	36	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、灰白色砂粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度)・灰白色砂粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
					5	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量含む。	
Pit421	39･40	楕円形	(38) × (30)	21	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (10㎜程度)・酸化鉄少量含む。	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・酸化鉄少量含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック (20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	地山ブロック (20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
					5	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	酸化鉄少量含む。	
					6	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
Pit422	39	楕円形	39 × 32	20	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色火山灰多量、地山ブロック (5㎜程度) 微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (10㎜程度)・酸化鉄少量含む。	
					3	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト		
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit423	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB14-P2 に変更)	
Pit424 ～ 427		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM83 関連ピット)	
Pit428	36･42	円形	30 × 29	18	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量含む。	SD13 より新しい。
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
Pit429	36	楕円形	34 × 29	12	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	Pit430 より新しい。
Pit430	36	楕円形	32 × 26	24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、灰白色火山灰微量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	Pit429 より古い。
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
					5	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 微量含む。	
Pit431	35	楕円形	26 × 20	17	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	上層に地山ブロック斑状に多量含む。	SD13 より新しい。
Pit432	35	隅丸方形	35 × (24)	20	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック少量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
Pit433	35	楕円形	(23) × (15)	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック多量含む。	
Pit434	35	円形	21 × 17	8	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR4/6 褐色	シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit435	35	隅丸方形	25 × 21	26	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit436	35	隅丸方形	34 × 32	29	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
Pit437	41	楕円形	35 × 27	18	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰白色火山灰多量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SM86-3、SI19 より新しい。
					3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	上部に地山ブロック (5㎜程度)、下部に灰白色火山灰少量含む。	
					4	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	3 層に近似するが、焼土粒多量含む。	
Pit438 ～ 440		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81 関連ピット)	
Pit441 ～ 443		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM83 関連ピット)	
Pit444 ～ 460		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81 関連ピット)	
Pit461	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SM83 関連ピット)	
Pit462	46	隅丸方形	13 × 12	12	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	
Pit463 ～ 468		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM81 関連ピット)	
Pit469	34	円形	26(24)	15	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック (20㎜程度) 多量含む。	
Pit470	34	円形	28 × 24	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック少量、灰白色火山灰・炭化物微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit471	34･35	不整円形	34 × 31	27	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、灰白色火山灰・炭化物微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量、灰白色火山灰・炭化物微量含む。	
Pit472･473		—	—	—	—	—	—	欠番 (SM83 関連ピット)	

ピット　観察表 (8)

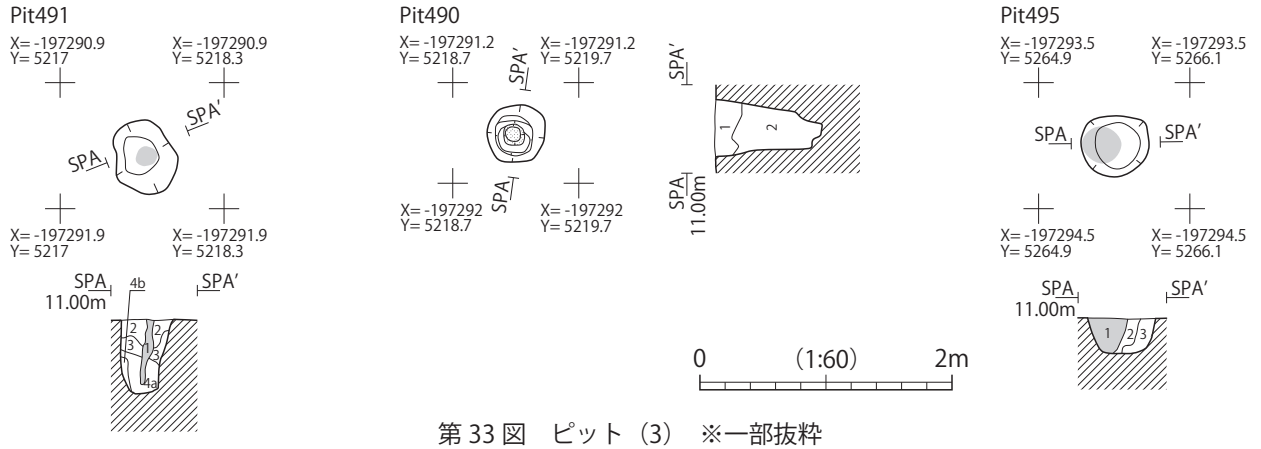
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit474	41	楕円形	47 × 34	27	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI19 より新しい。(併存の可能性あり)
					2	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック斑状に多量含む。	
Pit475	40	不整方形	25 × 24	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (10㎜程度) 多量・焼土粒微量含む。	SI19･20 より新しい。
Pit476	40	楕円形	32 × 22	31	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SI19･20 より新しい。
Pit477	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB17-P1 に変更)	
Pit478	71	楕円形	50 × 38	24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	SM87 より古い。※調査時 Pit1
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit479	71	円形	35 × 35	25	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト少量、炭化物微量含む。	※調査時 Pit2
Pit480	71	円形	38 × 37	33	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度)･炭化物少量含む。	※調査時 Pit3
Pit481	71	楕円形	38 × 34	54	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SI27 より新しい。※調査時 Pit4
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit482	70･71	円形	33 × 28	27	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SM87 より古い。※調査時 Pit5
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit483	71	円形？	(33) × (19)	37	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	※調査時 Pit6
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (30㎜程度) 微量含む。	
Pit484	71	円形？	36 × (28)	41	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	白色粒・焼土粒・炭化物微量含む。	※調査時 Pit7
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物少量、明黄褐色シルトブロック (10㎜程度)･焼土粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					5	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。	
Pit485	72	円形？	26 × (22)	71	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SI27 より新しい。※調査時 Pit8
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					5	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
Pit486	75･76	楕円形	54 × 37	51	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SD11 より古く、SI34 より新しい。※調査時 Pit9
					2a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
Pit487	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI34-P3 に変更)	※調査時 Pit10
Pit488	75	不整円形	54 × 3747	28	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	SD11･16 より新しい。※調査時 Pit11
Pit489	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI34-P4 に変更)	※調査時 Pit12
Pit490	71	円形	46 × 45	66	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SI27、SX2 より新しい。※調査時 Pit13
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	
Pit491	71	楕円形	60 × 45	67	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。(柱痕跡)	SX2 より新しい。※調査時 Pit14
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物微量含む。	
					4a	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					4b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit492	81	楕円形	32 × 27	33	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	SB15 の範囲内。※調査時 Pit15
Pit493	81	円形？	(33) × (32)	48	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 微量含む。	SA1 より古い。※調査時 Pit16
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					4	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
					5	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit494	81	円形	62 × 55	12	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SB15 の範囲内。※調査時 Pit17
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit495	81	円形	53 × 48	25	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量・炭化物微量含む。(柱痕跡)	SB15 の範囲内。※調査時 Pit18
					2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (30㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR6/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度)･酸化鉄少量含む。	



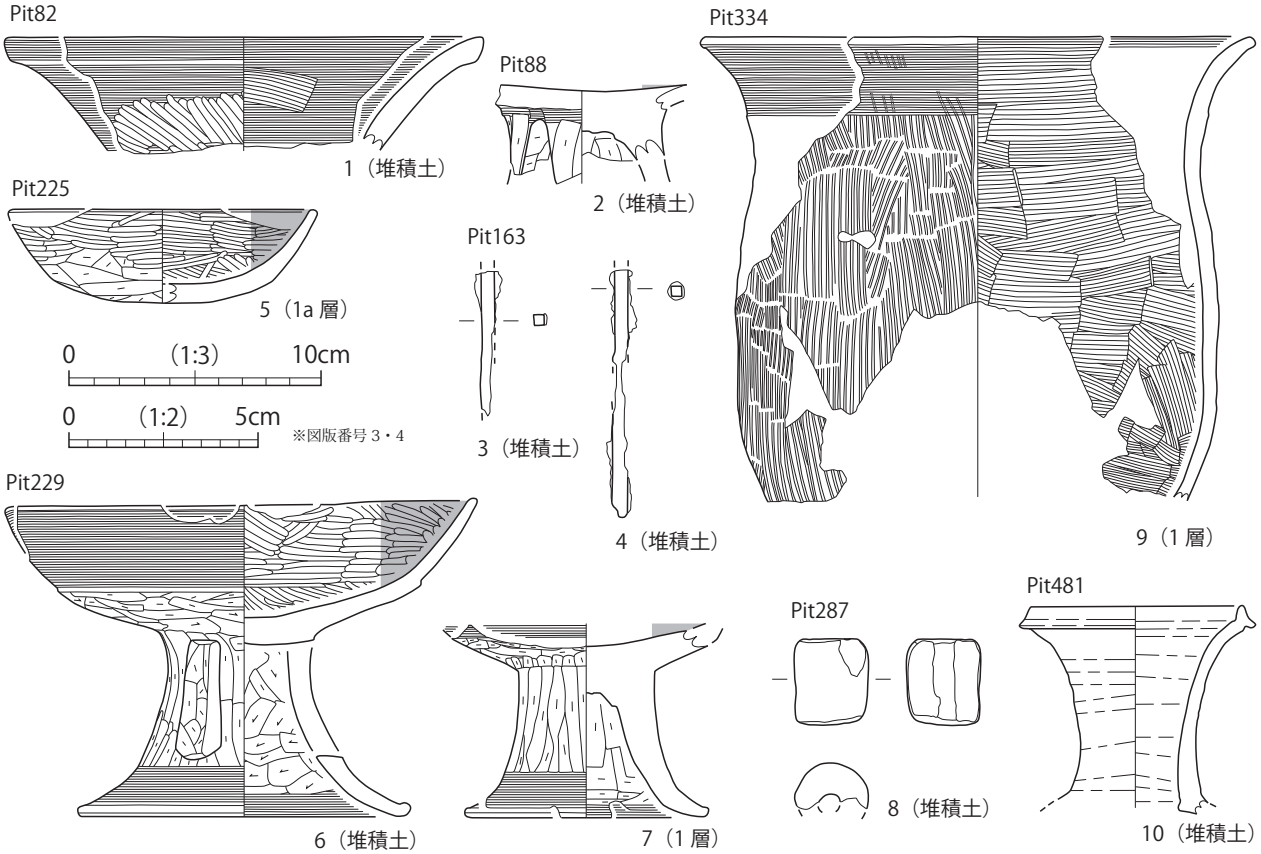
第 31 図　ピット（1）　※一部抜粋



第 32 図　ピット（2）　※一部抜粋



第 33 図　ピット（3）　※一部抜粋



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-312	04年度	Pit82	堆積土	土師器	壺	(19.0)	-	(4.5)	口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ・ヘラナデ		30
2	C-316	04年度	Pit88	堆積土	土師器	高坏	-	-	(3.3)	脚部ヘラナデ→ヘラケズリ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ	スカシ 3 ヶ所	30
5	C-322	04年度	Pit225	1a 層	土師器	坏	(12.2)	-	3.7	口縁～体部ヘラミガキ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		30
6	C-300	04年度	Pit229	堆積土	土師器	高坏	(18.8)	13.2	12.6	口縁部ヨコナデ、体部～脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	スカシ 3 ヶ所	30
7	C-303	04年度	Pit229	1 層	土師器	高坏	-	(9.6)	(7.6)	口縁部ヨコナデ、体部～脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		30
9	C-298	04年度	Pit334	1 層	土師器	甕	(22.0)	-	(18.4)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、胴部ヘラナデ		30
10	E-026	06年度	Pit481	堆積土	須恵器	長頸壺	8.4	-	(8.3)	ロクロ調整	ロクロ調整		30

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
3	N-015	04年度	Pit163	堆積土	金属製品	釘か	(3.8)	0.3	0.3	2.0	角柱状、両端部欠損	30
4	N-016	04年度	Pit163	堆積土	金属製品	釘か	(6.5)	0.4	0.3	1.8	角柱状、上端部欠損	30
8	P-008	04年度	Pit287	堆積土	土製品	土錘	3.4	3.0	1.3	19.8	ナデ、孔径 (1.4)㎜	30

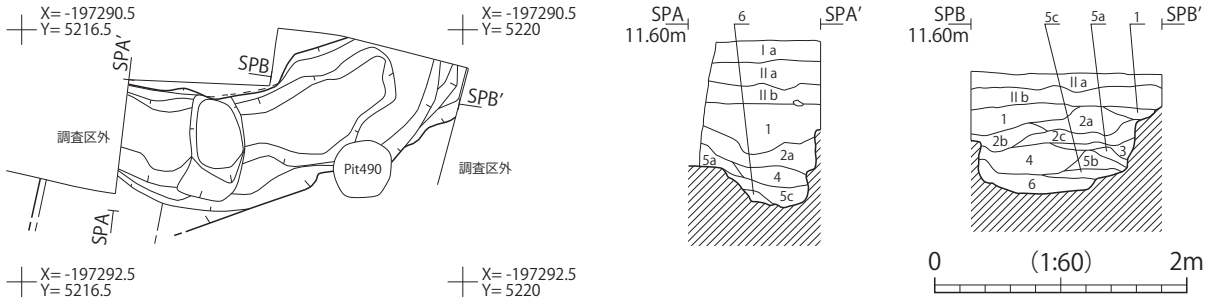
第 34 図　ピット出土遺物

(7) 性格不明遺構

SX2 性格不明遺構（第 35 図）

調査区南部の西寄りの、71 グリッドに位置する。重複遺構は小溝状遺構群 C 群、Pit490・491 より古く、SI27 より新しい。

いびつな溝状を呈し、主軸方向は N － 73°－ W ～ N － 61°－ E である。検出部では概ね東西方向に延び、北方向へと緩やかに湾曲する。検出された長さは 287cm、幅は上端で 77 ～ 105cm、下端で 36 ～ 85cm、検出面からの深さは 54 ～ 82cm を測る。南壁にはテラス状の段差を伴っている。断面形状は逆台形もしくは箱形を呈し、平面形状同様いびつである。底面は複雑に起伏し、土坑状の掘り込みを 1 箇所伴っている。堆積土は 6 層に大別され、このうち 2 層と 5 層が a ～ c の 3 層に細別される。全体的に基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は土師器の破片が少量出土したが、図化可能なものはなかった。



SX2　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SX2	71	N-73°-W ～ N-61°-E	(287)	77 ～ 105	36 ～ 85	54 ～ 82	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(人為的埋土)
							2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、炭化物・焼土微量含む。(人為的埋土)
							2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。(人為的埋土)
							2c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土微量含む。(人為的埋土)
							3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック (5 ～ 50㎜程度) 少量含む。(人為的埋土)
							4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト (ラミナ状) 多量含む。(人為的埋土)
							5a	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	(人為的埋土)
							5b	10YR6/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。(人為的埋土)
							5c	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含む。(人為的埋土)
							6	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。(人為的埋土)

第 35 図　SX2 性格不明遺構

第 4 節　古墳時代～古代の遺構と遺物

本節ではⅣ層上面で検出された遺構のうち、重複状況や構造、出土遺物などから明らかに古墳時代～古代の所産と認定できる遺構について扱う。当該期の遺構は前節の古代～中世の遺構同様に削平や撹乱の影響を受けており、残存状況は良好とはいえない。特に第 167 次（2 年次）調査区内では竪穴住居跡のほとんどが壁を失った状態で検出され、具体的な構造が明らかにできなかったものも存在する。

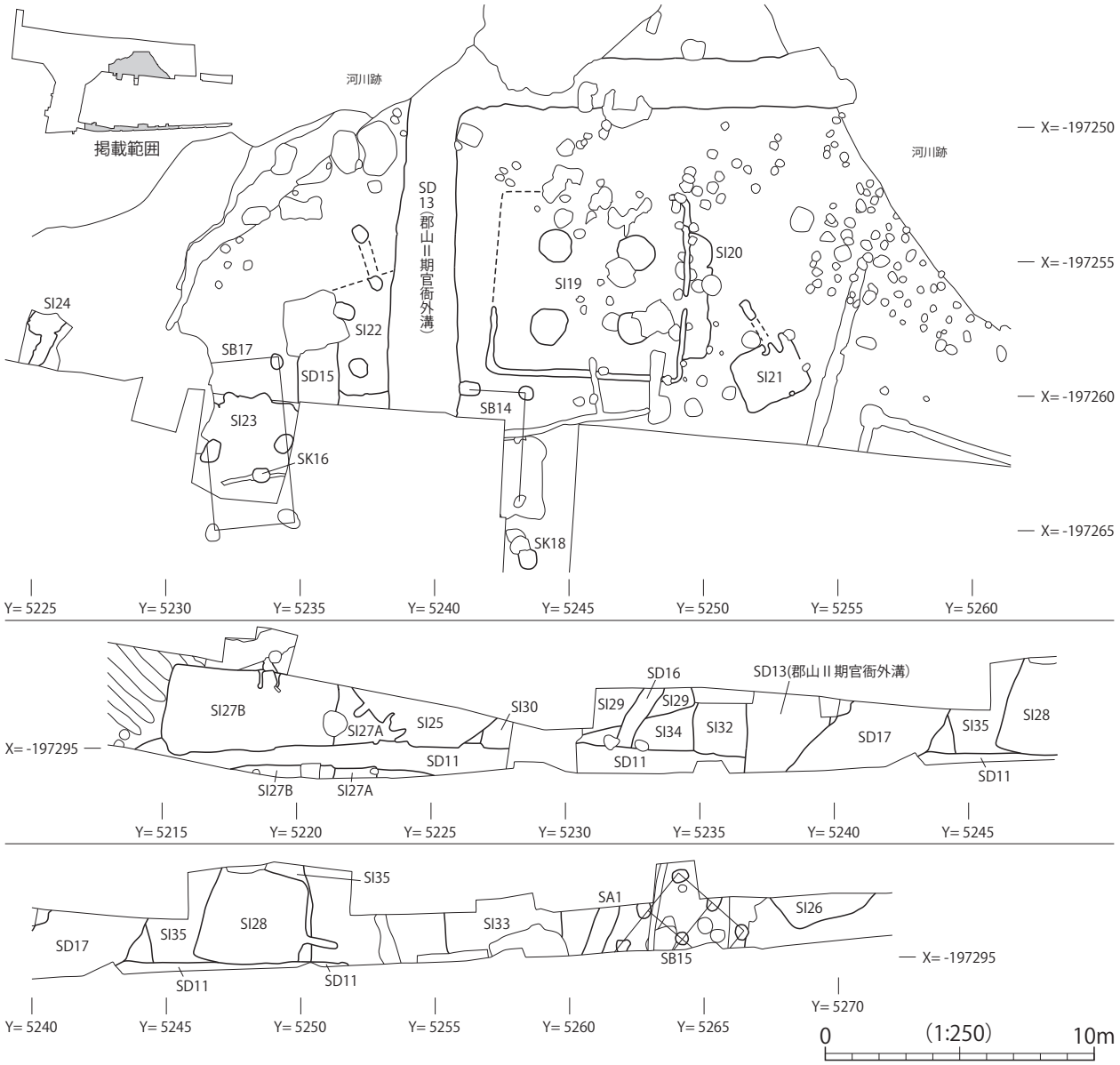
遺構は、竪穴住居跡 34 軒、掘立柱建物跡 14 棟、区画施設関連の溝跡 5 条、材木列跡 1 条、土坑 8 基が検出された。溝跡のうち SD13 は、郡山Ⅱ期官衙の外溝に該当し、今回の調査で北西コーナーと北辺の一部が確認されたことによって外溝が北側にも巡っていることが明らかとなった。

遺物は、土師器・須恵器を主体にコンテナで 200 箱程度が出土している。このうち 160 箱近くが第 167 次（1 年次）調査の出土である。土師器の器種には坏・高坏・埦・鉢・甕・甑・ミニチュア土器などがあり、須恵器の器種には坏・埦・盤・蓋・高坏・鉢・壺・瓶・提瓶・甕などがある。そのほか金属製品、石製品、土製品、礫石器なども出土している。特筆すべき遺物としては、SI28 の鉄鏃、SB2 の銅製丸鞆、SD13（郡山Ⅱ期官衙外溝）の銅製荊棘轡（うばらぐつわ）、遺構外の鉄製鋲具などが認められた。銅製荊棘轡については、正倉院宝物「金銀泥絵鞍」に酷似する轡が認められる。

第 36 図　Ⅳ層上面遺構配置図（古墳時代～古代）　第 167 次（1 年次）

(1) 竪穴住居跡

第 167 次（1 年次）調査で 18 軒、第 167 次（2 年次）調査で 6 軒、第 180 次調査で 10 軒、合計 34 軒を検出した。登録番号は第 167 次（1 年次）調査が SI1 ～ 18、第 167 次（2 年次）調査が SI19 ～ 24、第 180 次調査が SI25 ～ 30・32 ～ 35 となっている。調査範囲の制約や削平、撹乱、重複遺構などの影響により、全体を検出した竪穴住居跡は少ないが、平面形状が把握できた住居跡はいずれも方形基調である。柱穴配置は 4 本の主柱穴が基本となっており、SI3 のような変則的な配置や、SI8・19 のように壁柱穴を巡らした例は少ない。カマドは SI1 ～ 4A・4B・6・7・10・11A・11B・12・17・19・21・22・25・27・28・35 の 19 軒で検出され、SI3・6・28 の 3 軒が東壁、残りの 15 軒が北壁に付設されている。SI1・4A（4B）・25 では造り替えの痕跡が



第 37 図　Ⅳ層上面遺構配置図（古墳時代～古代）　第 167 次（2 年次）・第 180 次

認められる。燃焼部は壁内に位置する形態が大多数で、壁外に張り出すのは SI10・11B・12 の 3 軒である。袖の構築材は盛土が主体だが、SI3・17 では加工礫を、SI35 では棒状礫を、SI28 では半裁した土師器甑を焚口に埋設して芯材としている。SI3・28 では懸架材に使用されたとみられる直方体の加工礫が出土している。煙道部の底面は概ね平坦なものが多く、SI2・4A・6・10・11A・21・22 では先端がピット状に掘り窪められている。SI21 ではこの部分から土師器の甕が潰れた状態で出土しており、煙出し部分の構築材とみられる。

その他の床面施設としては周溝や、貯蔵穴もしくはカマドに関連するとみられる土坑などがある。床面の掘り方は SI3・18 を除いて認められ、ほとんどが貼床構造であったとみられる。

これら竪穴住居跡の出土した土器を検討した結果、竪穴住居跡の構築時期について、1 ～ 5 期の分類ができた（第 7 章第 1 節）。実年代にあてはめると、7 世紀初頭～ 8 世紀後半の期間である。この年代は隣接する西台畑遺跡第 1・2 次調査の時期区分（仙台市教委、2010 年）におおよそ並行するものであり、本遺跡の 2 期が郡山Ⅰ期官衙、4 期が郡山Ⅱ期官衙の時期にそれぞれ対応するものと考えられる。

以下、今回の調査で検出された遺構について、個別に報告を行う。なお文中の重複遺構については、小溝状遺構群や一部のピットなどは省略したが、遺構観察表中には全ての重複遺構を記してある。

SI1 竪穴住居跡（第 38 ～ 43 図）

【位置・確認】調査区南西端部の 2・4 グリッドに位置する。南壁は SD11 との重複で失う。

【重複】SD11、Pit82 より古く、SI5 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 320cm、東西 386cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 19° － W である。

【堆積土】大別で 18 層、細別で 30 層に分層された。大別 1 ～ 6 層は住居堆積土である。4 層は炭化物を主体とする層で、灰白色粘土粒や灰・焼土が多く含まれる。7 ～ 13 層はカマド 1 関連の堆積土で、7・8・12 層は天井および袖の崩落土と思われ、底面上の 13c 層は焼土層である。7・8 層は燃焼部内から西側に流れ出している。14 層は周溝堆積土である。15 層はカマド 1 の袖構築土で、基本層Ⅳ層土に類似する。16・17 層はカマド 2 煙道部の堆積土、18 層は掘り方埋土である。

【壁面】中位まで直立気味に立ち上がり、これより上は直線的に外傾する。壁高は最大で 56cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

【周溝】東壁と、北西コーナー付近から西壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 4 ～ 12cm、深さ 3 ～ 14cm を測る。

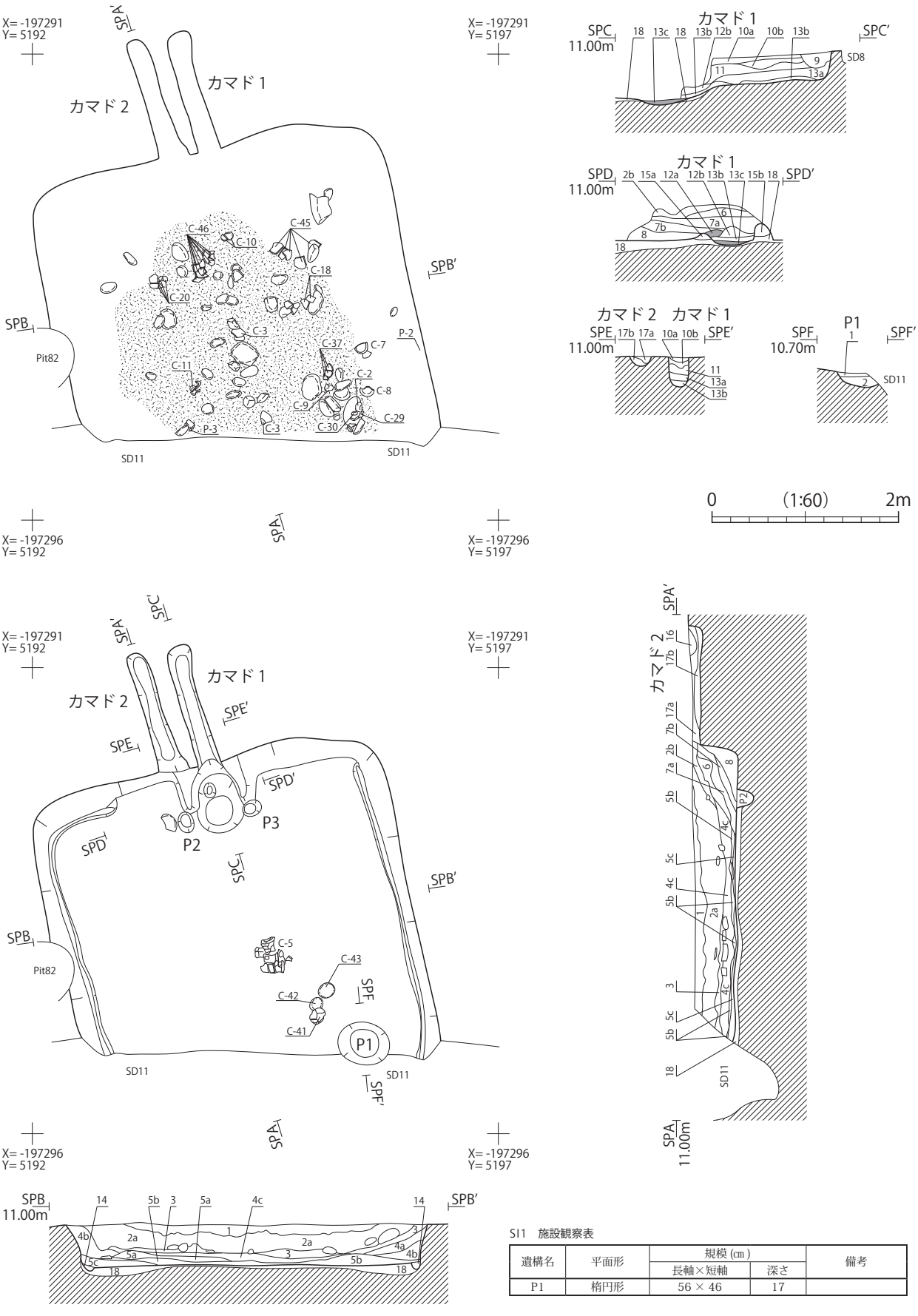
【カマド】北壁から 2 基検出した。カマド 1 は壁の中央に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は東袖で長さ 55cm、幅 16 ～ 25cm、西袖で長さ 42cm、幅 16 ～ 35cm を測り、北壁に直交して延びる。両袖の先端には、芯材の抜き取り痕とみられる小規模なピットがある。燃焼部は奥行き 78cm、幅 37 ～ 57cm を測り、壁内に位置する。底面は皿状に窪み、奥壁寄りには支脚材の抜き取り痕とみられる小規模なピットがある。煙道部との繋がりは緩やかであり、奥壁と呼べるほどの明瞭な段差はもたない。煙道部は長さ 128cm、幅 23cm、深さ 18cm を測り、底面は概ね平坦である。平面形状は、煙出し部分がわずかに膨らむ。カマド 2 は煙道部のみが残存し、カマド 1 煙道部の西側に平行して構築されている。カマド 1 に先行するものと考えられる。煙道部はカマド 1 に比べかなり浅く、住居床面との比高差は 38cm を測る。規模は、長さ 134cm、幅 20cm、深さ 8cm を測る。底面は概ね平坦だが、煙出しの手前から緩やかに下がっている。

【その他の施設】南東コーナー付近から土坑 P1 を検出した。小規模で、浅い皿状を呈する。

【掘り方】深さ 2 ～ 12cm 程を測る。底面は中央部から北壁にかけて高まり、これ以外の壁側が低くなる。

【出土遺物】第 38 図に示したように、炭化物主体層の 4 層中から床面上にかけて、多量の遺物が出土している。大多数を占めるのは土師器と自然礫であるが、他の竪穴住居跡と比べると、須恵器の出土量が多いのが特徴といえる。土師器坏 6 点、高坏 3 点、鉢 1 点、ミニチュア土器 2 点、甕 6 点、甑 1 点、須恵器鉢 1 点、壺 4 点、甕 2 点、土製品 3 点、礫石器 1 点、石製品 3 点を掲載した（第 39 ～ 43 図）。第 39 図－ 1・3・4 の坏はいずれも鬼高系土師器の坏である。7・8 のミニチュア土器はともに厚手で大型である。第 40 図－ 1 ～ 3 の高坏は赤彩され、脚部は無孔である。第 41 図－ 4 の須恵器鉢は大型の製品で、体部中位には手捏ねの把手を貼り付けている。5 の壺は小型短頸壺、第 42 図－ 1 の壺は広口壺とみられ、後者の胴部には格子タタキが施されている。同様のタタキは 2 の甕にも認められる。5 の土錘は中位が突帯状に膨らみ、6・7 の紡錘車は全体がナデ調整されている。第 43 図－ 3 の砥石は軽石質凝灰岩製で、多数の溝状痕が認められる。

【時期】本竪穴住居跡からは、残存状態が良好な床面上の遺物が多数出土している。第 39 図－ 4 ～ 6、また多少浮いた状態で出土した第 40 図－ 1・3 なども直接伴う遺物と思われる。このことから本竪穴住居跡の時期は、本書の時期区分における 2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



SI1 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	56 × 46	17	

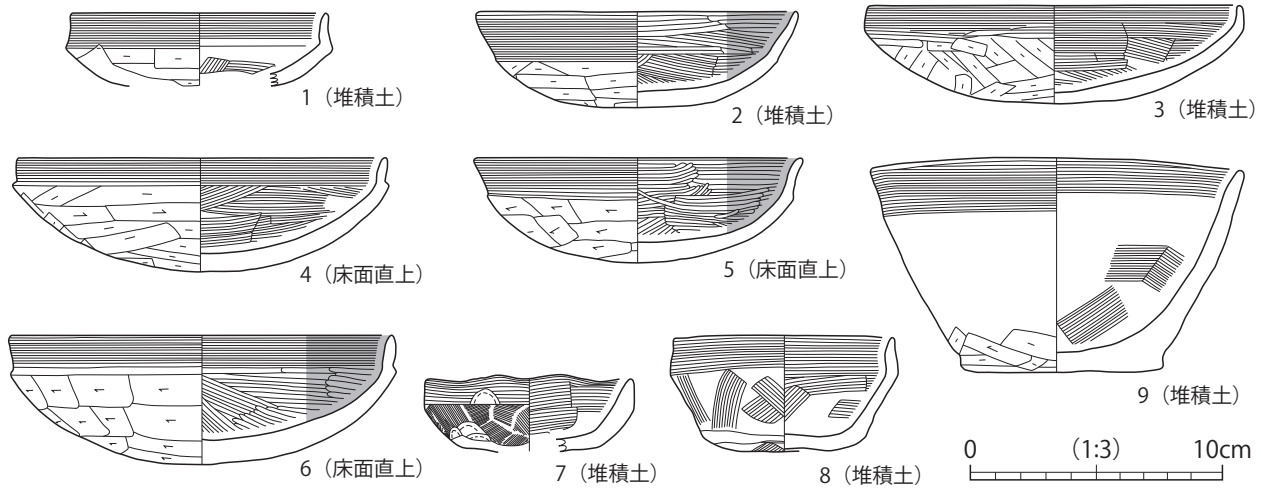
第 38 図　SI1 竪穴住居跡

SI1　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物含み、B-B' 西端上部に暗褐色粘土質シルトが入り込む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物含む。下半部はⅣ層土ブロックの粒径小さく、炭化物集中。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒、灰色粘土・炭化物少量含む。
	4a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。壁際は色調がやや明るくなり、灰色粘土粒多量、炭化物少量混入。
	4b	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物多量、焼土粒少量含む。
	4c	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物主体層。灰・焼土粒含む。下半部は厚さ 10㎜前後の炭化物集積層。
	5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰・炭化物をブロック状に含む。B-B' 西側ではⅣ層土ブロックが混入。
	5b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰白色粘土・灰・炭化物をブロック状に含む。下半部は色調やや明るく、炭化物点在。
	5c	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。上部に焼土ブロック混入。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。
カマド 1	7a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物含み、壁寄りにⅣ層土ブロック集中。
	7b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物含む。中間に厚さ 5 ～ 10cm前後の暗褐色シルトが入り込む。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。北側に焼土ブロックが集中。
	10a	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック含む。
	10b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。下部に焼土が薄く堆積し、西側にⅣ層土ブロックが集中。
	12a	5YR3/4 極赤褐色	―	焼土層。
	12b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒含む。下半部は色調やや明るく、西側に焼土ブロックが集中。
	13a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。
	13b	5YR2/2 黒褐色	―	炭化物と焼土の混合層。
	13c	2.5YR3/4 暗赤褐色	―	焼土層。
周溝	14	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。
カマド 1 袖	15a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒含み、内壁部分被熱。
	15b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	内壁部分被熱。
カマド 2	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物含む。
	17a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。
	17b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック含む。
住居掘り方	18	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック少量含む。

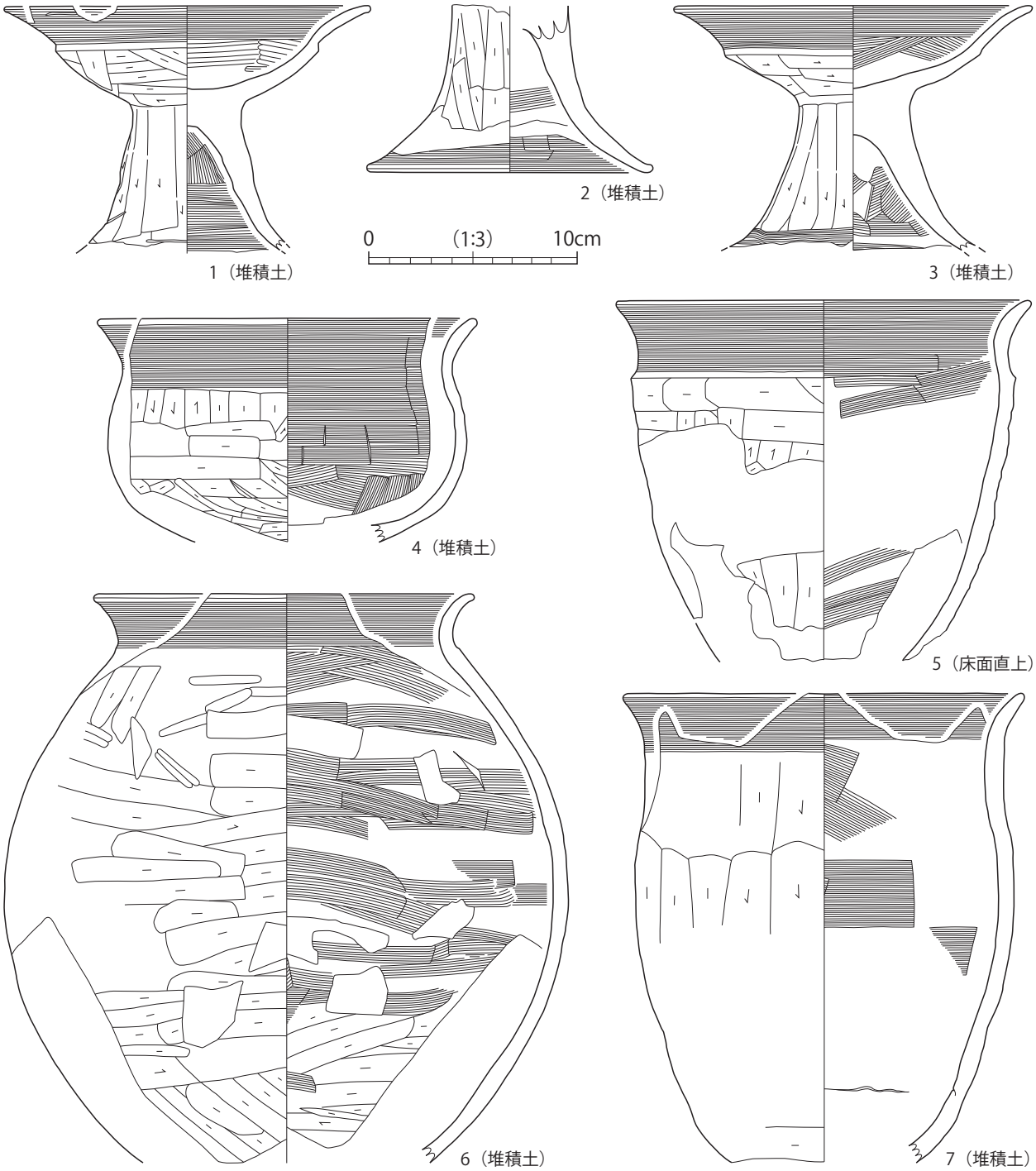
SI1　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。



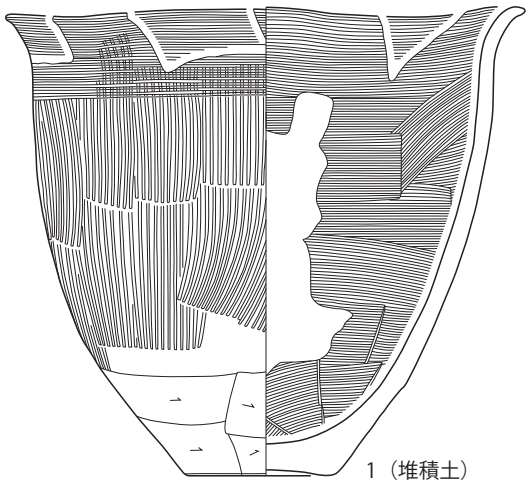
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-024	04年度	SI1	堆積土	土師器	坏	(10.0)	-	(2.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	赤彩か	30
2	C-036	04年度	SI1	堆積土	土師器	坏	(12.6)	-	3.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		30
3	C-037	04年度	SI1	堆積土	土師器	坏	14.6	-	3.9	口縁部ヨコナデ、口縁部と体部の境ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		30
4	C-041	04年度	SI1	床面直上	土師器	坏	14.6	-	4.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		30
5	C-042	04年度	SI1	床面直上	土師器	坏	12.8	-	4.2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		30
6	C-043	04年度	SI1	床面直上	土師器	坏	15.1	-	5.1	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ		30
7	C-029	04年度	SI1	堆積土	土師器	ミニチュア土器	(8.0)	-	(2.9)	口縁部ヨコナデ・指オサエ、体～底部ナデ・指オサエ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		30
8	C-030	04年度	SI1	堆積土	土師器	ミニチュア土器	(8.6)	-	4.6	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ナデ		30
9	C-002	04年度	SI1	堆積土	土師器	鉢	14.6	8.0	8.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ		30

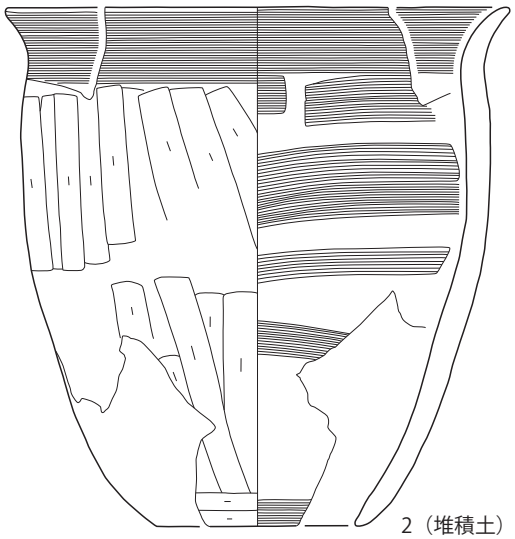
第 39 図　SI1 竪穴住居跡出土遺物（1）

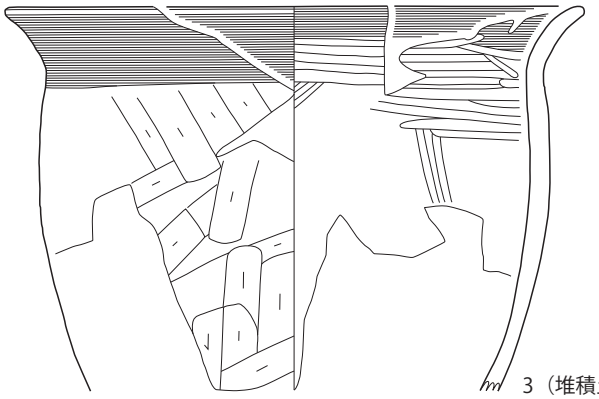


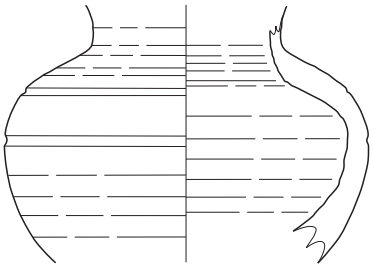
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-007	04年度	SI1	堆積土	土師器	高坏	(17.4)	-	(11.7)	口縁部ヨコナデ、体～脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ、赤彩	口縁部ヨコナデ、体～見込部ヘラミガキ、坏部赤彩、脚部ヘラナデ、端部ヨコナデ	SD11 出土破片と接合	30
2	C-011	04年度	SI1	堆積土	土師器	高坏	-	13.4	(8.0)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	脚部ヘラナデ、脚端部ヨコナデ	外面赤彩	30
3	C-008	04年度	SI1	堆積土	土師器	高坏	17.0	-	(11.7)	口縁部ヨコナデ、体～脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、体～見込部ヘラケズリ、脚部ヘラナデ、端部ヨコナデ	坏部内面～外面赤彩	30
4	C-015	04年度	SI1	堆積土	土師器	甕	(17.8)	-	(10.7)	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、頸～胴部ヘラナデ		30
5	C-005	04年度	SI1	床面直上	土師器	甕	19.8	-	(17.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		31
6	C-045	04年度	SI1	堆積土	土師器	甕	(17.8)	-	(27.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→ヘラナデ	外面煤	31
7	C-044	04年度	SI1	堆積土	土師器	甕	(18.8)	-	(22.5)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕、摩耗		31

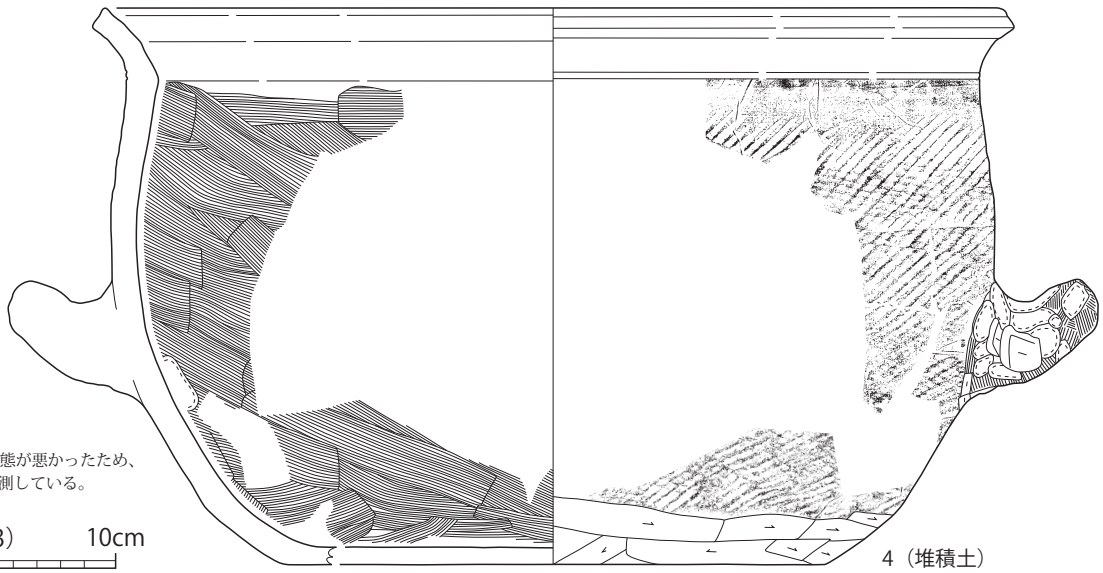
第 40 図　SI1 竪穴住居跡出土遺物（2）









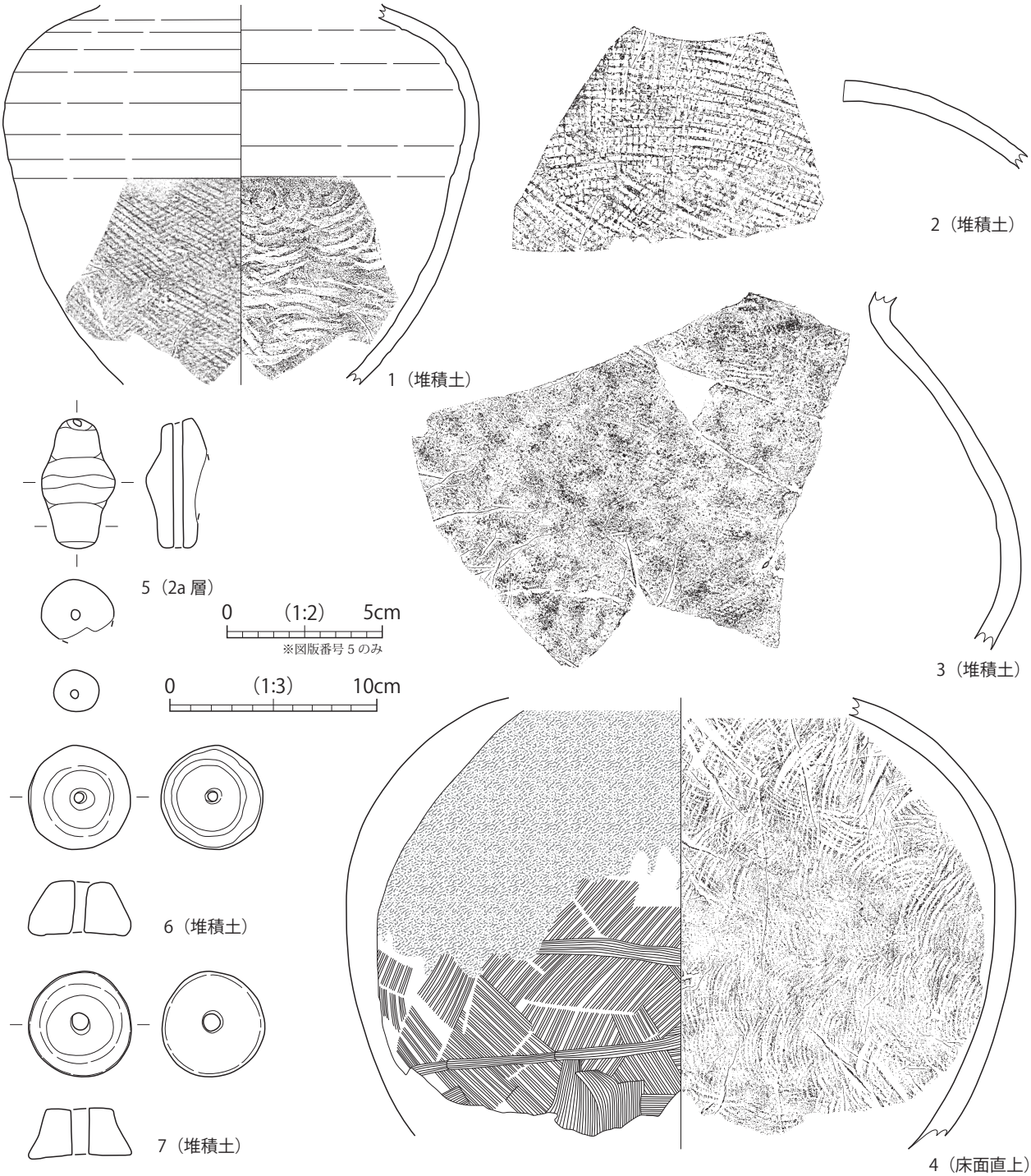


※ 4 のみ、残存状態が悪かったため、
通常とは逆に実測している。

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-046	04年度	SI1	堆積土	土師器	甕	20.5	6.0	18.6	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位ヘラケズリ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラナデ		31
2	C-003	04年度	SI1	堆積土	土師器	甑	(20.0)	(8.0)	20.5	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		31
3	C-018	04年度	SI1	堆積土	土師器	甕	(23.0)	-	(15.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、頸～胴部ヘラミガキ		31
4	E-001	04年度	SI1	堆積土	須恵器	把手付鉢	(36.4)	(22.4)	22.1	口縁部ロクロ調整、体部平行タタキ、体部下端ヘラケズリ、把手部ナデ・指オサエ	口縁部ロクロ調整、体～底部ヘラナデ		32
5	E-002	04年度	SI1	堆積土	須恵器	壺	-	-	(10.2)	ロクロ調整	ロクロ調整		32

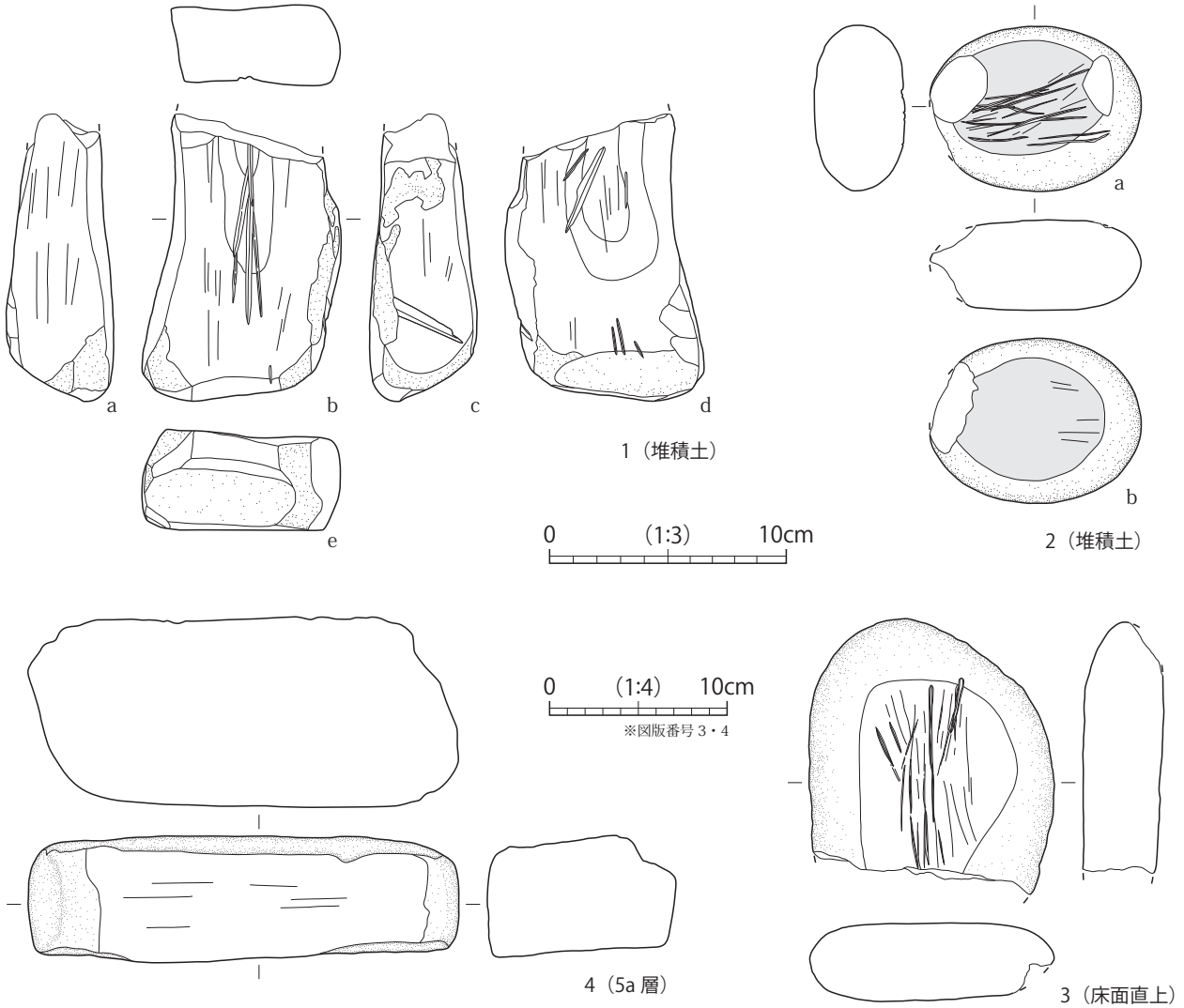
第 41 図　SI1 竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-010	04年度	SI1	堆積土	須恵器	壺	-	-	(18.4)	胴部上半ロクロ調整、胴部下半格子目タタキ	胴部上半ロクロ調整、胴部下半青海波文	SB5-P9 出土破片と接合	32
2	E-007	04年度	SI1	堆積土	須恵器	壺	-	-	(3.7)	外面格子目タタキ	青海波文	SD11 出土破片と接合	32
3	E-011	04年度	SI1	堆積土	須恵器	甕	-	-	(15.0)	頸部ロクロ調整、胴部平行タタキ→ヘラナデ	青海波文→ヘラナデ	SD11 出土破片と接合	32
4	E-013	04年度	SI1	床面直上	須恵器	甕	-	-	(21.8)	平行タタキ、ヘラナデ、自然釉	青海波文		32

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
5	P-001	04年度	SI1	2a 層	土製品	土錘	4.2	2.4	2.2	13.3	ナデ、孔径 3㎜	32
6	P-002	04年度	SI1	堆積土	土製品	紡錘車	上径 4.9	下径 5.0	2.6	67.0	ナデ、孔径 6㎜	32
7	P-003	04年度	SI1	堆積土	土製品	紡錘車	上径 3.2	下径 5.0	2.3	56.6	ナデ、孔径 9 ～ 11㎜	32

第 42 図　SI1 竪穴住居跡出土遺物（4）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
1	Kd-015	04年度	SI1	堆積土	石製品	砥石	(12.2)	7.5	4.5	577.5	砂岩	砥面 5 面、溝状痕 (b ～ d 面)、端部欠損	33
2	Kc-004	04年度	SI1	堆積土	礫石器	磨石	7.0	(8.9)	3.8	180.0	砂質凝灰岩	磨 2 面 (平)、溝状痕 (a 面)、端部欠損	33
3	Kc-005	04年度	SI1	床面直上	石製品	砥石	(15.5)	13.8	4.5	821.2	軽石質凝灰岩	砥面 1 面、溝状痕、端部欠損	32
4	Kc-002	04年度	SI1	5a 層	石製品	砥石	6.2	24.3	6.4	3050.0	流紋岩	砥面 1 面、完形品	32

第 43 図　SI1 竪穴住居跡出土遺物（5）

SI2 竪穴住居跡（第 44 ～ 46 図）

【位置・確認】調査区南端部の 3・5 グリッドに位置する。大半は調査区外にかかり、北東コーナー付近のみを検出した。調査区壁際は SD11 の重複で大半を失う。

【重複】SD11、SX1、Pit64 と重複し、これらより古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 258cm、東西 364cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 42° － W である。

【堆積土】大別で 9 層、細別で 22 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、下層には炭化物が集中する。4 ～ 7 層はカマド煙道部、8 層は周溝内の堆積土である。9 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直立気味に立ち上がり、上位で内湾気味に外傾する。壁高は最大で 68cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】1 基検出した。形状や位置関係から主柱穴と考えられる。柱痕跡が確認された。

【周溝】北壁から東壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 10 ～ 20cm、深さ 9 ～ 16cm を測る。

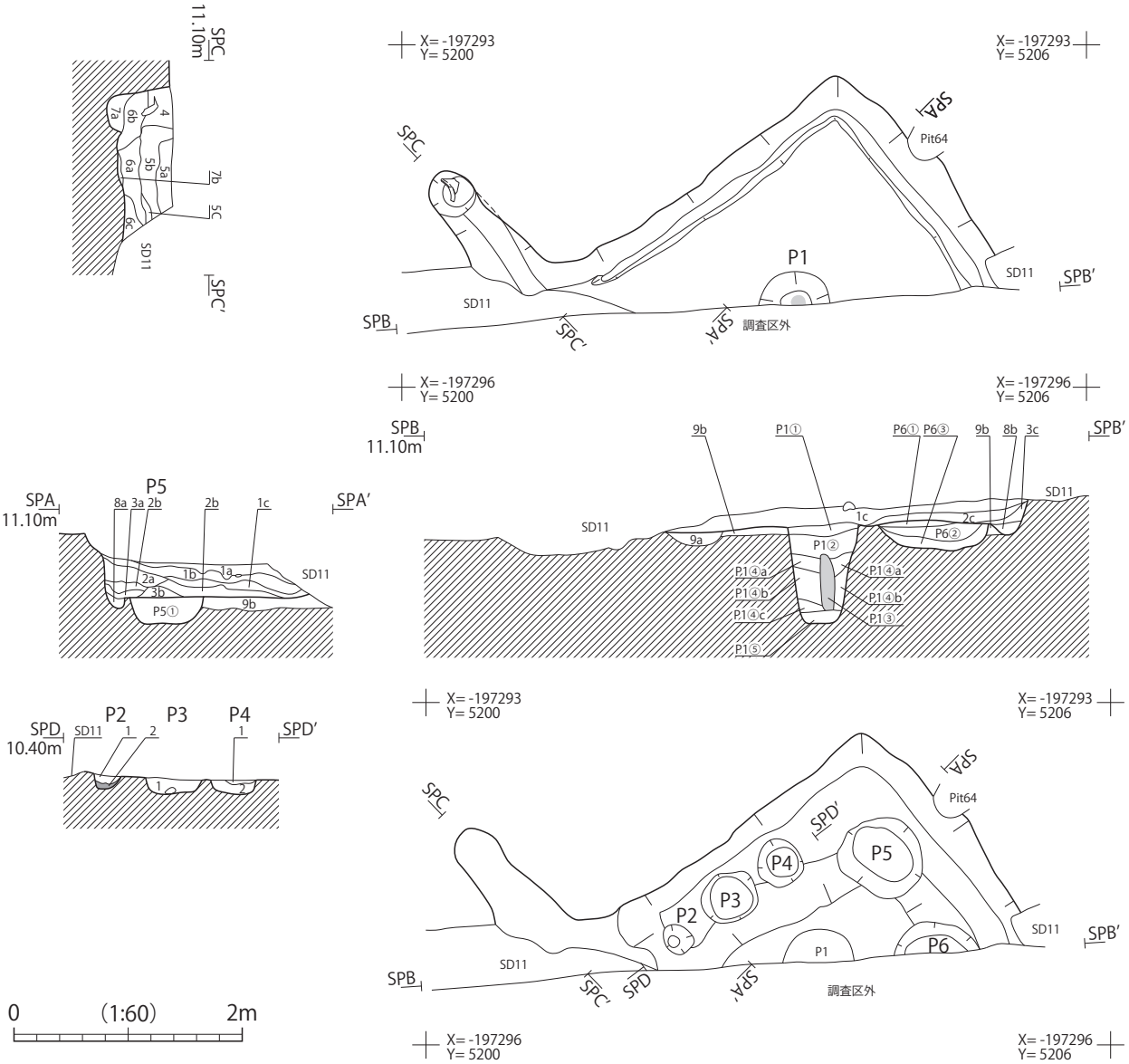
【カマド】北壁に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部は SD11 との重複で失われ、煙道部のみが残存する。煙道部は残存長 136cm、幅 48cm、深さ 50cm を測り、底面は煙出しに向かって緩やかに下がる。煙出し部分はピット状に掘り込まれる。

【その他の施設】掘り方調査時にピット P2、土坑 P3 ～ 6 を検出した。検出壁に沿うようにして位置している。P2 は堆積土に焼土を多く含み、カマドとの関連が考えられる。P5 は形状や位置関係から貯蔵穴の可能性がある。

【掘り方】深さ 0 ～ 13cm 程を測る。底面は中央部が高まり、それぞれの壁際が低くなる。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器坏 2 点、鉢 1 点、ミニチュア土器 3 点、甕 2 点、土製品 2 点を掲載した（第 45・46 図）。第 45 図－ 2 の土師器坏は平底に近い底部をもち、口縁部は外反する。土製品は第 46 図－ 3 が丸玉、4 が管玉である。ともに焼成が悪く、軟質である。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、後述する 3 期（7 世紀後葉）の SD11 より古く、3 期以前と考えられる。



第 44 図　SI2 竪穴住居跡

SI2　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	マンガン含み、焼土粒・炭化物少量含む。
	1c	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	マンガン含み、焼土粒少量含む。下部に炭化物が薄く堆積。
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、焼土粒微量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルトブロック (20㎜程度) 多量含む。
	2c	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物含む。
	3a	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒微量含む。壁際に褐色シルトが混在。
	3b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒微量含む。
	3c	2.5Y3/2　黒褐色	粘土質シルト	
カマド	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。南側上部にⅣ層土が混じる。
	5a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック・焼土粒微量含む。
	5b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒微量含む。暗褐色・黒褐色シルトブロックが全体に混在。北端部に被熱痕あり。
	5c	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土ブロック微量含む。
	6a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	焼土ブロック多量含む。
	6b	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック多量、焼土粒微量含む。壁際は粘性が強く、褐色シルトブロックが少ない。
	6c	7.5YR3/4 暗褐色	粘土	焼土ブロック多量、炭化物少量含む。上部は焼土ブロックが少なく、褐色シルトブロックが少量混じる。
	7a	10YR2/2 黒褐色	粘土	上部に黒色シルトブロックが薄く堆積。
	7b	7.5YR2/3 極暗褐色	粘土	焼土粒微量含む。
周溝	8a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	8b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック含む。
住居掘り方	9a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	9b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック・焼土粒微量含み、極暗褐色シルトブロックを一部含む。

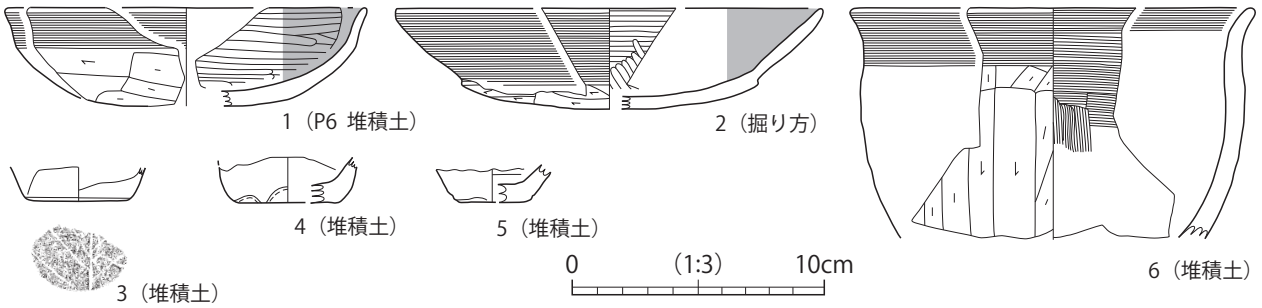
SI2　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色・暗褐色シルトブロック多量含む。
	③	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック含む。(柱痕跡)
	④a	2.5Y4/2　暗灰黄色	シルト	黒褐色シルトブロック多量含む。
	④b	2.5Y3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
	④c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	⑤	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
P2	1	7.5YR2/3 極暗褐色	粘土	焼土粒・炭化物含む。
	2	5YR2/3　極暗赤褐色	粘土	焼土主体層。
P3	1	7.5YR2/3 極暗褐色	粘土	焼土粒・炭化物含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土・焼土ブロック・炭化物含む。
P5	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	上部に焼土粒・炭化物含む。
P6	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物含む。
	②	2.5Y4/2　暗灰黄色	シルト	黒褐色シルトブロック・炭化物含む。
	③	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物含む。

SI2　施設観察表

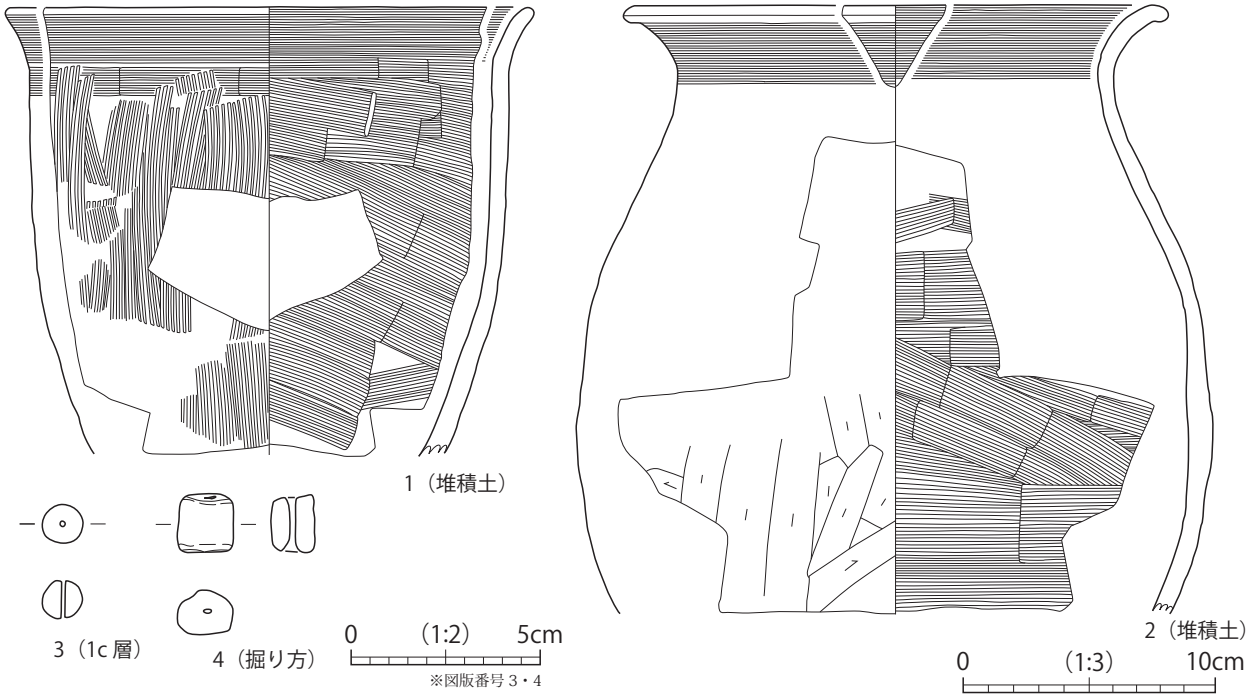
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不明	61 × (29)	86	
P2	楕円形	28 × 25	12	
P3	楕円形	50 × 43	15	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	40 × 40	13	
P5	楕円形	71 × 71	22	
P6	不明	71 × (27)	24	



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-056	04年度	SI2-P6	堆積土	土師器	坏	(14.2)	-	(3.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		33
2	C-058	04年度	SI2	掘り方	土師器	坏	(16.8)	-	4.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		33
3	C-049	04年度	SI2	堆積土	土師器	ミニチュア土器	-	(4.2)	(1.3)	ナデ、底部木葉痕	ナデ		33
4	C-052	04年度	SI2	堆積土	土師器	ミニチュア土器	-	(4.2)	(2.0)	ナデ、指オサエ	ナデ		33
5	C-053	04年度	SI2	堆積土	土師器	ミニチュア土器	-	(3.6)	(1.5)	ナデ	ナデ		33
6	C-057	04年度	SI2-P3	堆積土	土師器	甕	(15.6)	-	(9.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		33

第 45 図　SI2 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-051	04年度	SI2	堆積土	土師器	甕	(20.6)	-	(17.8)	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		33
2	C-054	04年度	SI2	堆積土	土師器	甕	(20.8)	-	(24.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		33

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
3	P-004	04年度	SI2	1c 層	土製品	丸玉	1.0	1.0	1.0	1.0	ナデ、孔径 1㎜	33
4	P-005	04年度	SI2	掘り方	土製品	管玉	1.5	1.5	1.2	2.8	ナデ、孔径 1.5㎜	33

第 46 図　SI2 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI3 竪穴住居跡（第 47 ～ 51 図）

【位置・確認】調査区南東部の 7・10 グリッドに位置する。

【重複】SB6・SD2 より古く、SD12、Pit277 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 334cm、東西 341cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 63° － E である。

【堆積土】大別で 15 層、細別で 26 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で、6 ～ 9 層はカマド付近の堆積土である。10 層は周溝内の堆積土である。11・12 層はカマド袖構築土で、基本層Ⅳ層に類似し、被熱による赤化が著しい。13・14 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 47cm を測る。

【床面】中央部がわずかに高まっている。

【柱穴】2 基検出した。P1・2 ともに形状から柱穴と捉えたが、配置が不規則である。

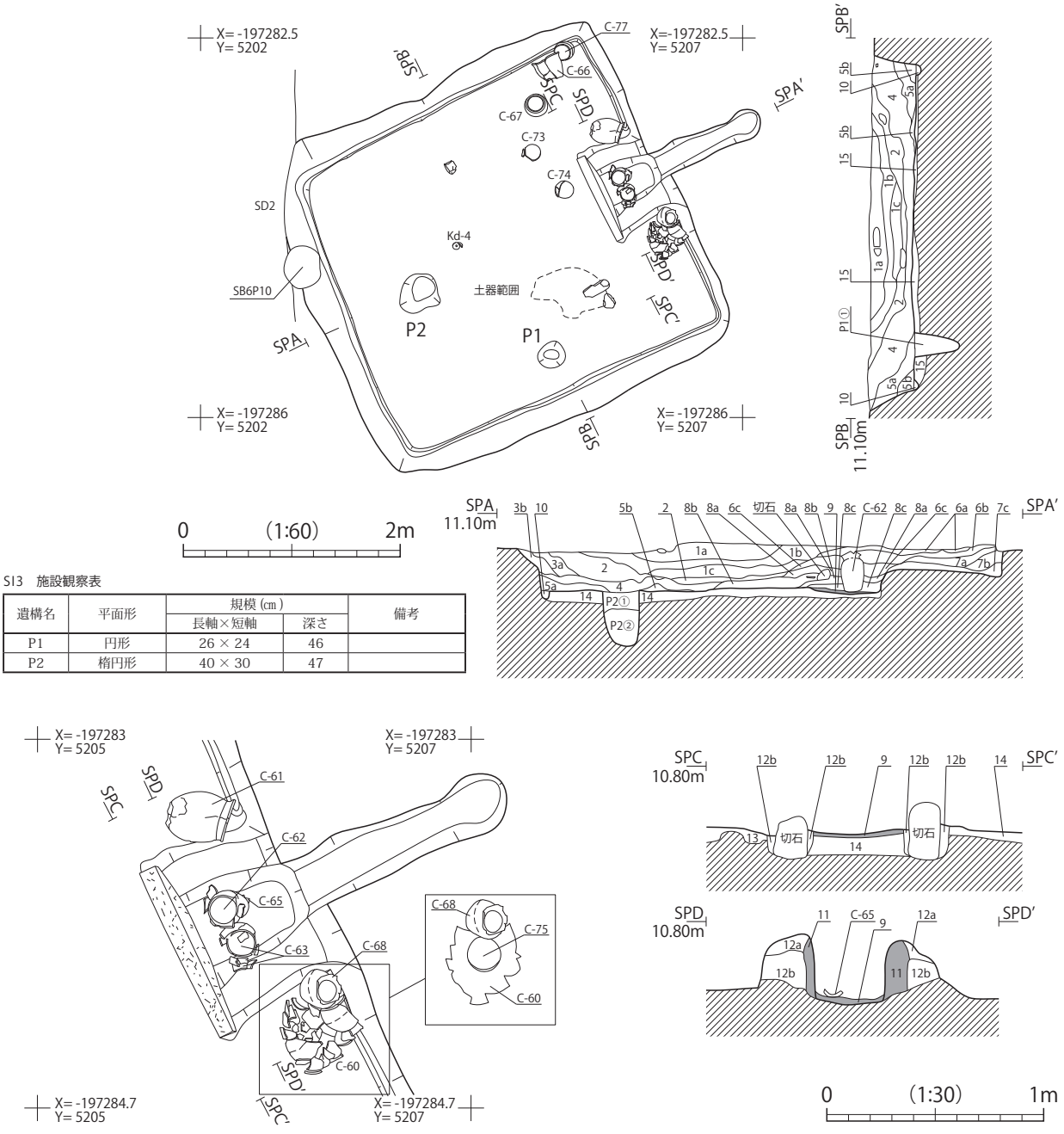
【周溝】壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 5 ～ 11cm、深さ 3 ～ 6cm を測る。

【カマド】東壁に位置し、壁面に直交して付設される。南袖の規模は長さ 66cm、幅 25 ～ 30cm、北袖の規模は長さ 52cm、幅 25 ～ 28cm を測り、東壁に対しわずかに「ハ」字状に開いて構築されている。焚口は加工礫の芯材を組み、幅 47cm、高さ 26cm を測る。燃焼部は奥行き 67cm、幅 26 ～ 35cm、奥壁高 27cm を測り、壁内に位置する。底面は皿状に窪み、奥壁は直立気味に立ち上がる。奥壁から 50cm 程手前には土師器甕 2 個体（第 50 図－ 1・3）が正位で並列し、カマド使用時の状態を留めていると考えられる。煙道部は長さ 105cm、幅 29cm、深さ 24cm を測り、底面は概ね平坦であるが、煙出しの手前から緩やかに下がる。煙出し平面はわずかに膨む。

【掘り方】深さ 5 ～ 14cm 程を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】第 47 図に示したように、床面上やカマド内外から良好な状態で遺物が出土している。土師器坏 4 点、鉢 3 点、高坏 1 点、ミニチュア土器 1 点、甕 7 点、甑 2 点、須恵器提瓶 1 点、甕 1 点、石製品 1 点を掲載した（第 48 ～ 51 図）。土師器のうち第 48 図－ 1 ～ 3 の坏は鬼高系土師器の坏で、2 は内面に放射状の暗文が施されている。3 は底部の外面にヘラ記号がある。甕（第 49 図－ 3 ～ 5、第 50 図－ 1 ～ 4）は器形や法量に様々な形態があり、甑（第 51 図－ 1・2）はともに単孔である。第 51 図－ 3 の須恵器提瓶と 4 の甕はともにカキメ調整で、提瓶の左側端には把手の剥落痕がある。5 の紡錘車は頁岩製で、表面が風化し、溝状痕が不明瞭である。

【時期】床面上から出土した第 48 図－ 1 ～ 3、第 49 図－ 1 ～ 3・5、第 50 図－ 2・4、カマド内から出土した第 50 図－ 1・3、第 51 図－ 2 が本竪穴住居跡に直接伴う遺物と考えられ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



SI3　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	26 × 24	46	
P2	楕円形	40 × 30	47	

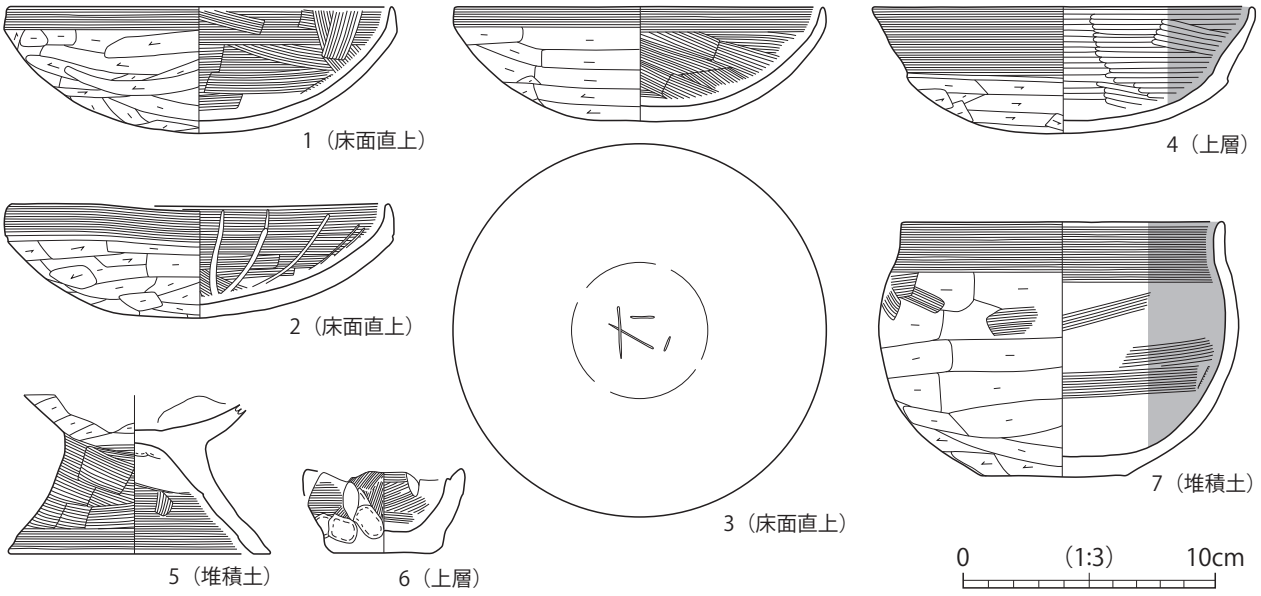
第 47 図　SI3 竪穴住居跡

SI3　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量含み、褐灰色粘土混在。
	1b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒微量、炭化物含む。
	1c	10YR2/3 黒褐色	粘土	炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物含む。
	3a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量、焼土粒・炭化物含む。
	3b	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物含む。
	5a	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物微量含む。
	5b	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック微量含む。
カマド	6a	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物微量含む。
	6b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
	6c	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック含む。
	7a	10YR2/3 黒褐色	粘土	炭化物含む。
	7b	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 30㎜程度）混在。
	7c	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒含む。
	8a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	8b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック（20㎜程度）含む。
	8c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック（20 ～ 30㎜程度）含む。
	9	5YR3/4　極赤褐色	粘土質シルト	焼土層。
周溝	10	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック微量含む。
カマド袖	11	5YR4/6　赤褐色	砂質シルト	焼土層。
	12a	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	焼土粒微量含む。
	12b	10YR4/6 褐色	シルト	暗褐色土粒少量含む。
住居掘り方	13	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック（5㎜程度）・炭化物微量含む。
	14	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。

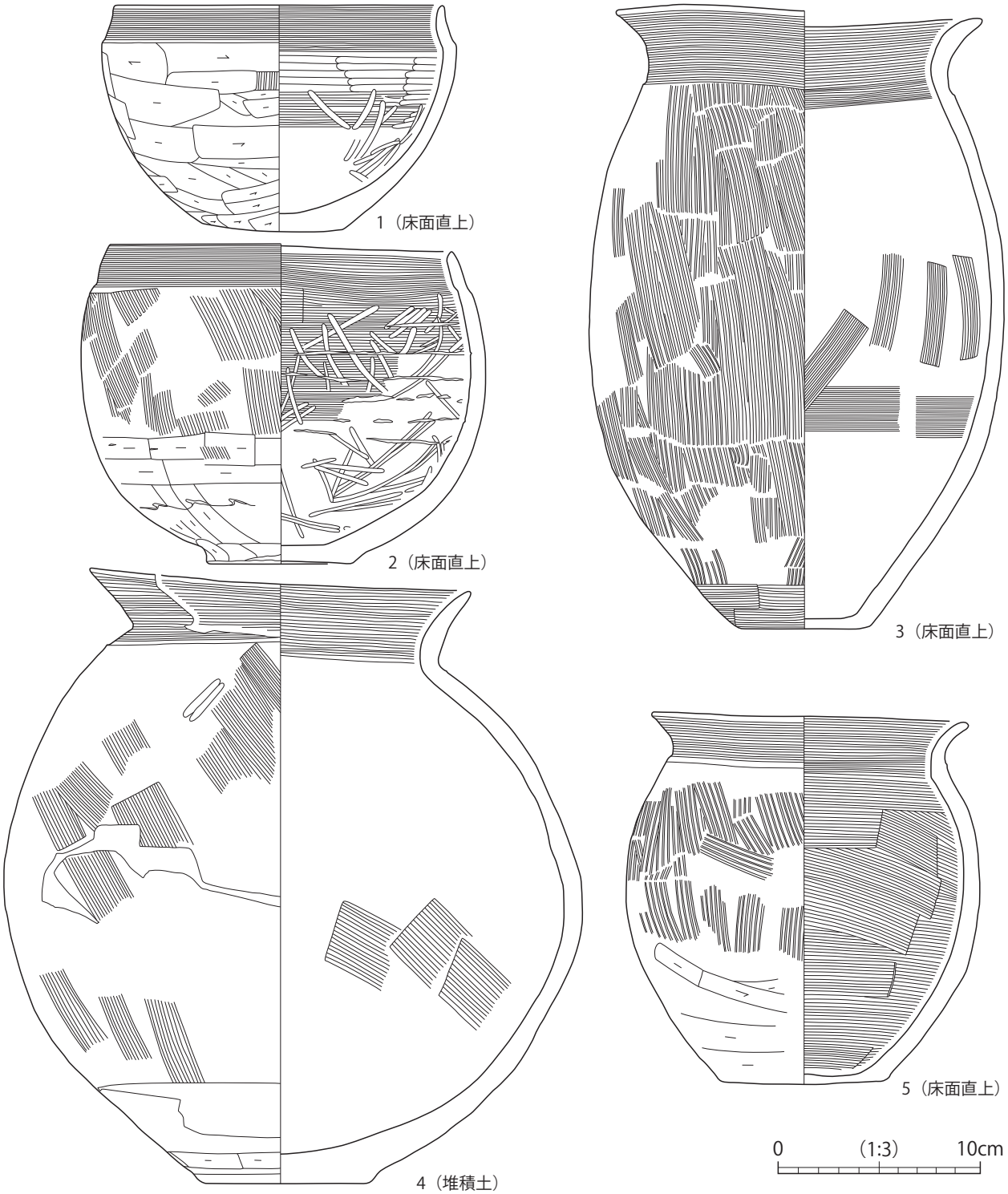
SI3　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）含む。
P2	①	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック混在。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	



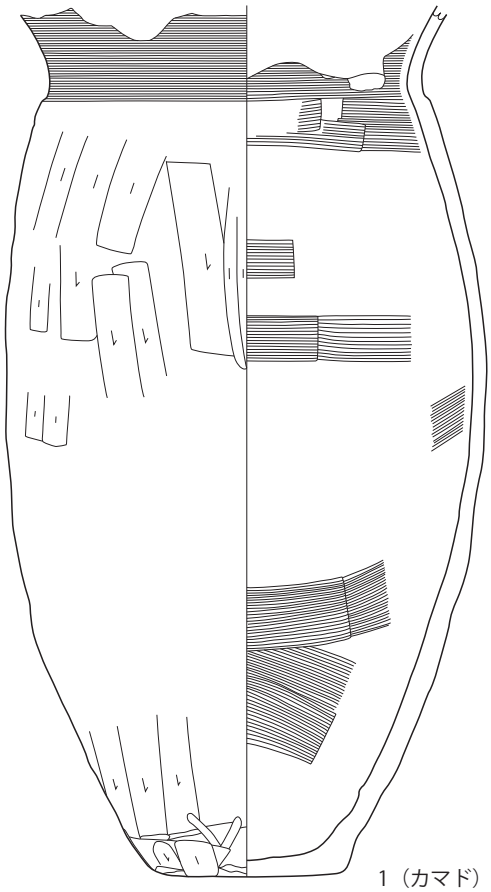
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-074	04年度	SI3	床面直上	土師器	坏	15.2	-	5.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→内面ヘラナデ	外面煤	33
2	C-075	04年度	SI3	床面直上	土師器	坏	15.0	-	4.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、放射状暗文	内外面に漆の痕跡	33
3	C-073	04年度	SI3	床面直上	土師器	坏	14.6	-	4.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部線刻	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	内外面に漆の痕跡	33
4	C-069	04年度	SI3	上層	土師器	坏	15.0	-	5.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		33
5	C-072	04年度	SI3	堆積土	土師器	高坏	-	10.0	(6.3)	坏部ヘラナデ、脚部ヘラナデ、脚端部ヨコナデ	坏部摩滅、脚部ヘラナデ		33
6	C-070	04年度	SI3	上層	土師器	ミニチュア土器	(6.0)	(4.0)	3.3	ナデ、指オサエ	ナデ		33
7	C-078	04年度	SI3	堆積土	土師器	鉢	12.7	5.8	10.1	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、一部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、黒色処理		33

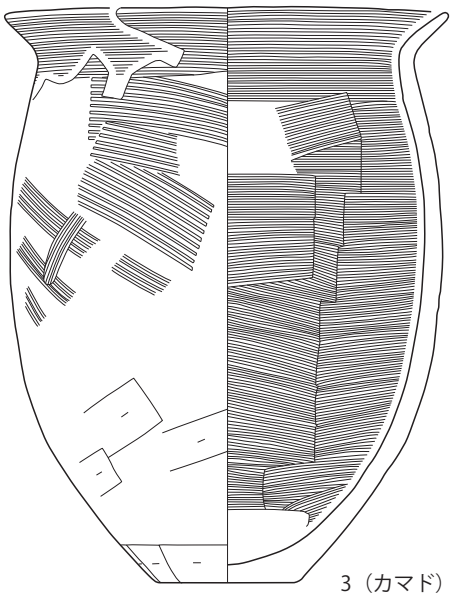
第 48 図　SI3 竪穴住居跡出土遺物（1）

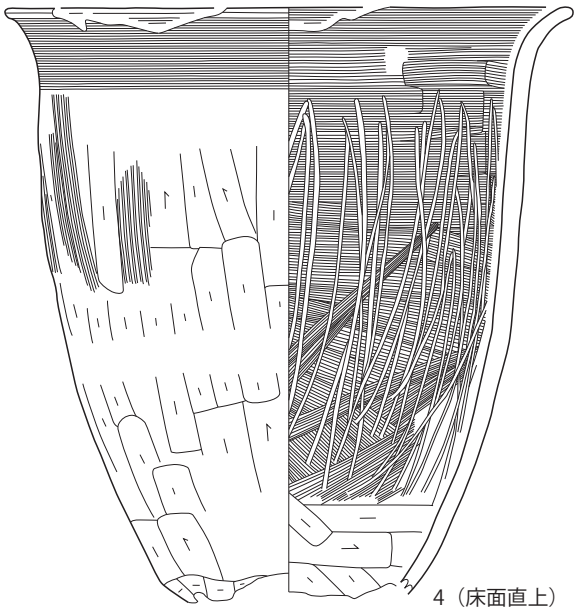


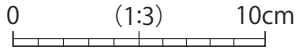
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-077	04年度	SI3	床面直上	土師器	鉢	16.1	7.0	11.2	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ、底部ヘラナデ		33
2	C-067	04年度	SI3	床面直上	土師器	鉢	16.9	7.2	15.8	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、体部下半ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ、輪積み痕、黒色処理		34
3	C-061	04年度	SI3	床面直上	土師器	甕	18.1	6.7	30.8	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下端ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		34
4	C-064	04年度	SI3	堆積土	土師器	甕	(18.7)	7.9	30.5	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、一部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		34
5	C-068	04年度	SI3	床面直上	土師器	甕	(15.4)	8.4	18.4	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下半～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	骨片あり	34

第 49 図　SI3 竪穴住居跡出土遺物（2）



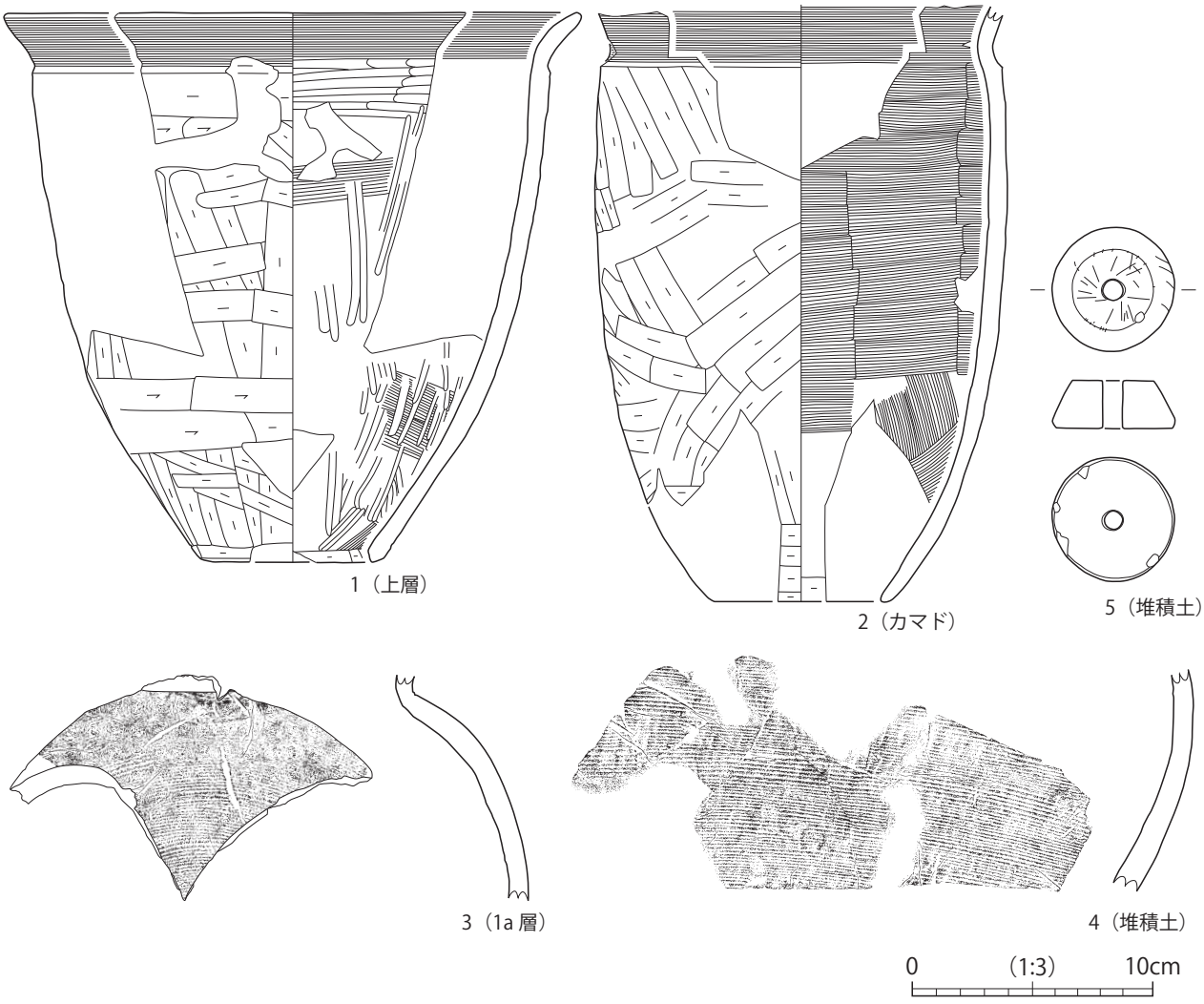






図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-062	04年度	SI3	カマド	土師器	甕	-	7.7	(34.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		34
2	C-060	04年度	SI3	床面直上	土師器	甕	20.4	7.5	31.5	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下端ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		35
3	C-063	04年度	SI3	カマド	土師器	甕	17.5	5.6	22.8	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、一部ヘラナデ、胴部下位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		35
4	C-066	04年度	SI3	床面直上	土師器	甑	22.2	-	(23.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、一部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→ヘラミガキ、胴部下端ヘラケズリ		35

第 50 図　SI3 竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-079	04年度	SI3	上層	土師器	甑	(22.6)	(6.6)	22.8	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→ヘラミガキ、胴部下端ヘラケズリ		35
2	C-065	04年度	SI3	カマド	土師器	甑	-	(7.4)	(24.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下端ヘラケズリ		36
3	E-017	04年度	SI3	1a 層	須恵器	提瓶	-	-	(9.4)	ロクロ調整、胴部カキメ→ヘラナデ	ロクロ調整、頸部指オサエ		35
4	E-016	04年度	SI3	堆積土	須恵器	甕	-	-	(9.5)	カキメ	青海波文		35

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
5	Kd-004	04年度	SI3	堆積土	石製品	紡錘車	上径 3.4	下径 5.1	2.0	69.1	頁岩	ケズリ→研磨→穿孔、孔径 8.5㎜、ほぼ完形品	36

第 51 図　SI3 竪穴住居跡出土遺物（4）

SI4A 竪穴住居跡（第 52 ～ 54 図）

【位置・確認】調査区西部の 6・9 グリッドに位置する。SI4 は掘り方調査の段階で、範囲内に別の竪穴住居跡が 2 軒重複することを確認したため、新しい方から SI4A → SI4B → SI4C とした。SI4C の全体を拡張したものが SI4B、SI4B の西辺と南辺を拡張したものが SI4A と考えられる。

【重複】SI4 関連以外の遺構では、SB2・3・7 より古く、SI18 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 584cm、東西 578cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 34° － W である。

【堆積土】大別で 17 層、細別で 29 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、上半部の 1 層は基本層Ⅳ層由来とみられるブロックが多く含まれ、床面の大部分を覆う 2b 層には灰色粘土ブロックや炭化物の集中が認められ

る。3 ～ 7 層はカマド 1 付近の堆積土である。基本層Ⅳ層土類似の 5 層は天井崩落土とみられる。8 層は周溝堆積土である。9 ～ 11 層はカマド 1 構築土で、基本層Ⅳ層土に類似する。袖下部の 9b 層は被熱による赤化が著しい。12 ～ 15 層はカマド 2 煙道部の堆積土および掘り方埋土である。にぶい黄褐色粘土質シルトの 14 層は崩落した天井材か。16・17 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 54cm を測る。

【床面】中央部がわずかに高まる。

【柱穴】7 基検出した。P1 ～ 4 が主柱穴である。柱痕跡は P1・2・4 で確認された。P5・13・15 は補助的な柱穴であると考えられる。

【周溝】壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 13 ～ 30cm、深さ 9 ～ 15cm を測る。

【カマド】北壁から 2 基検出したカマドのうち、カマド 1 が対応するものと思われる。カマド 1 は壁面に直交して付設される。東袖の規模は長さ 86cm、幅 26 ～ 46cm、西袖の規模は長さ 69cm、幅 18 ～ 37cm を測り、北壁に対し直交して構築されている。燃焼部は奥行き 104cm、幅 60cm を測り、壁内に位置する。底面は皿状に窪み、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。煙道部は長さ 138cm、幅 35cm、深さ 21cm を測り、底面は概ね平坦である。煙出し部分はピット状に掘り込まれる。

【その他の施設】ピット P8 ～ 11、土坑 P12・14 を検出した。ピットはカマド 1 周辺に位置し、カマド関連施設とみられるが、詳細不明である。土坑 P14 も堆積土中に焼土や炭化物を多く含んでいることから、カマドとの関連が想定される。

【掘り方】深さ 5 ～ 18cm 程を測る。底面は中央部が高まり、北東の壁際および南壁の内側 30 ～ 60cm 程が平面 L 字状に掘り込まれている。この掘り込みは後述する SI4B 竪穴住居跡の痕跡と考えられる。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占めるが、上層より下層からの出土がやや多い傾向にある。床面遺物もわずかに確認される。土師器坏 6 点、高坏 3 点、鉢 1 点、甕 5 点、蓋 1 点、ミニチュア土器 2 点、須恵器壺 1 点、金属製品 2 点、石製品 3 点を掲載した（第 53・54 図）。第 53 図－ 4・6、第 54 図－ 3 は掘り方出土の遺物であり、後述する SI4B あるいは SI4C に伴う可能性も否定できないが、本竪穴住居跡の遺物として一括掲載した。土師器のうち坏 1 点（第 53 図－ 2）は鬼高系土師器の坏で、高坏（同－ 7）には長方形の透孔が 3 箇所あけられている。ミニチュア土器（第 54 図－ 4）は高坏の器形を呈する。第 54 図－ 7 は鉄製刀子の刃部破片である。8 は鉄釘もしくは鉄鏃茎部の可能性もあるが、判然としない。9 は琥珀製の管玉である。10 の石製紡錘車は流紋岩製で、穿孔途中の未製品である。11・12 は登録段階では礫石器に分類したが、用途や加工状況などから、ここでは石製品として扱う。ともに砂質凝灰岩製である。12 には、表裏面ともに多数の溝状痕が観察される。

【時期】床面上から出土した第 53 図－ 8 が本竪穴住居跡に直接伴う遺物と考えられ、堆積土下層から出土した第 53 図－ 3・5 もその可能性がある。このことから 1 期（7 世紀前葉前後）と考えられる。

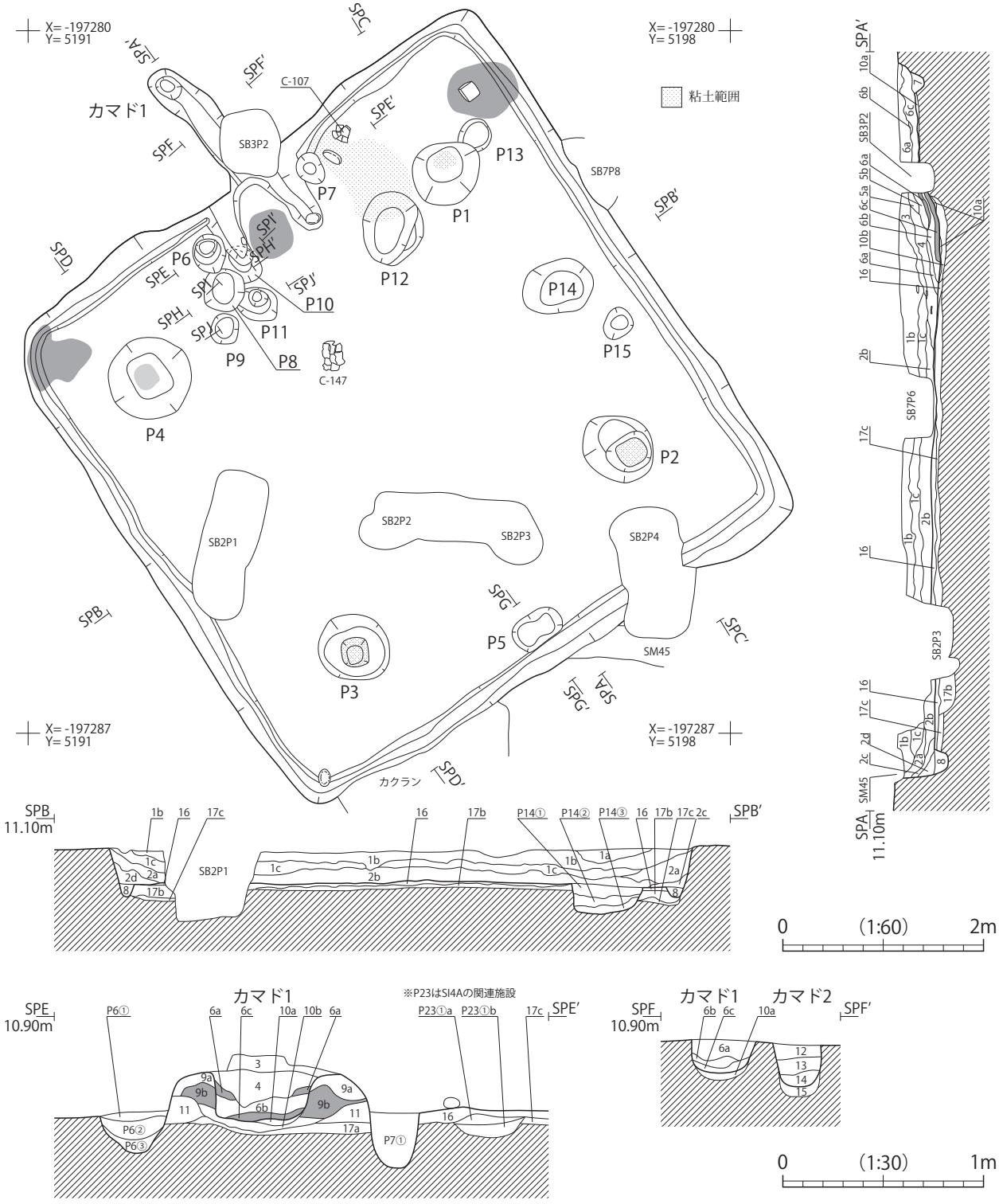
SI4B・SI4C 竪穴住居跡（第 55・56 図）

【位置・確認】ともに SI4A の範囲内に位置する。前記の通り、SI4C → SI4B → SI4A の順で拡張されたと思われる。

【重複】SI4B は SI4A 内のほぼ全体に、SI4C は若干北西に寄った位置に重複する。他の遺構との重複は、SI4A に準じる。

【規模・形態】ともに正確な規模・形態は不明である。SI4B は SI4A の掘り方形状から南北長 540cm 前後と、南壁の位置が SI4A よりやや内側に狭まるものとみられる。SI4C は柱穴のみが検出され、主柱穴の柱間寸法から SI4B よりもさらに小規模であったと考えられる。

【方向】SI4B はカマド基準で N － 37° － W、SI4C は主柱穴の配置を基準に N － 39° － W を測る。



SI4A　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	62 × 70	79	
P2	楕円形	77 × 65	56	
P3	円形	73 × 67	68	
P4	円形	84 × 82	80	
P5	楕円形	51 × (32)	20	
P6	円形	37 × 33	20	
P7	楕円形	32 × 27	23	
P8	隅丸方形	41 × 40	28	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P9	隅丸方形	30 × 28	16	
P10	楕円形	40 × (26)	40 × (26)	
P11	楕円形	(35) × 33	51	
P12	楕円形	73 × 60	29	
P13	楕円形	(25) × 30	8	
P14	隅丸方形	72 × 53	24	
P15	楕円形	36 × 32	16	

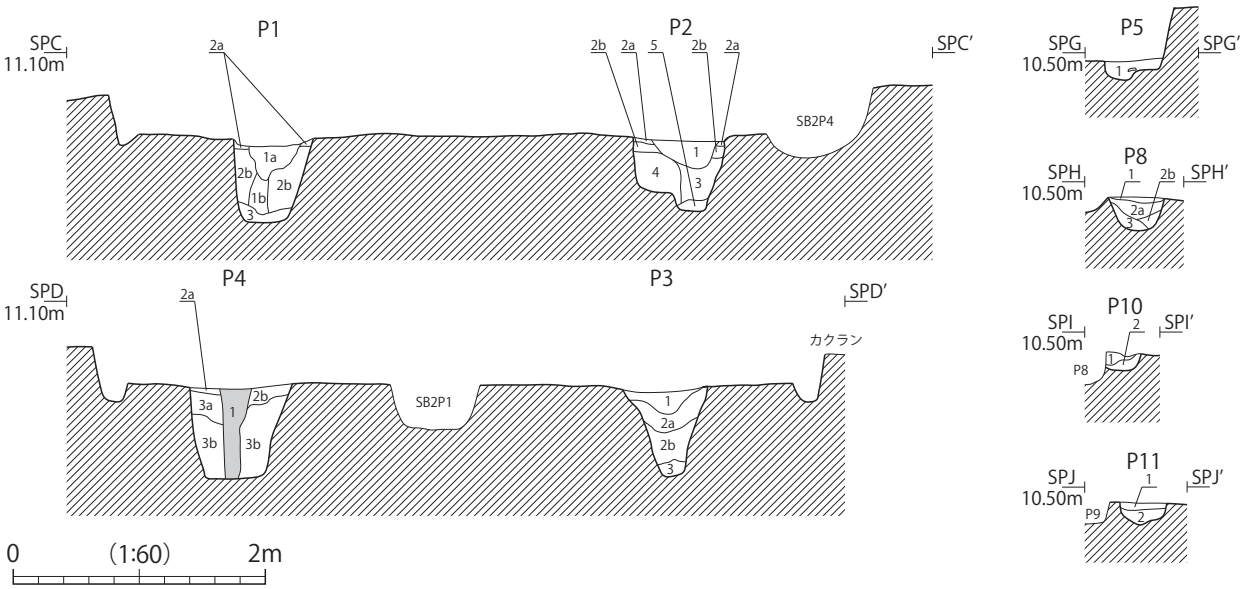
第 52 図　SI4A 竪穴住居跡（1）

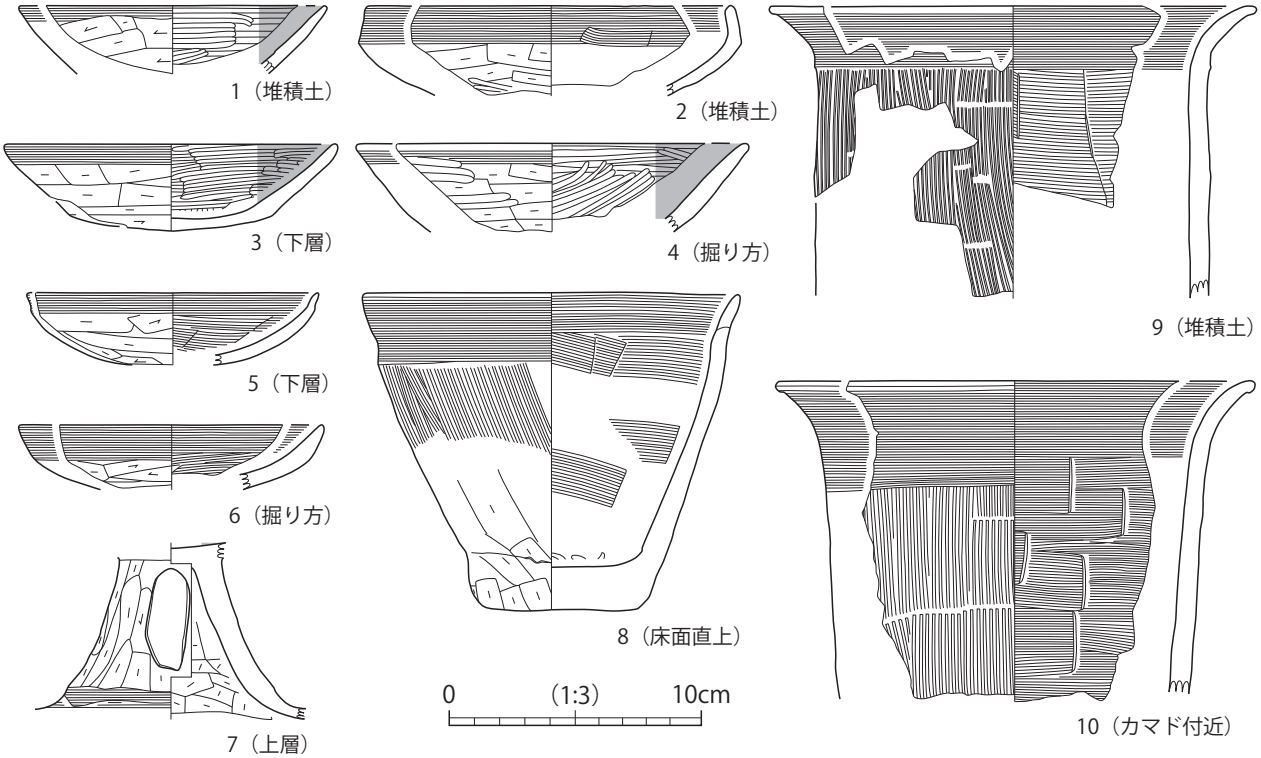
SI4　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物含む。
	1c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・灰色粘土粒少量含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰色粘土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 多量、部分的に炭化物集中。
	2c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土粒微量含む。
	2d	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
カマド 1	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡黄灰色粘土粒・炭化物含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	淡黄灰色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度)、Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
	5a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	天井崩落土。(煙道部)
	5b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	6a	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 15㎜程度) 多量含む。
	6b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5㎜程度)・炭化物多量含む。
	6c	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土多量含み、被熱焼土化。(火床面)
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量含む。
周溝	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
カマド 1 袖	9a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
	9b	5YR4/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土粒主体。
カマド 1 掘り方	10a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒少量含む。
	10b	5YR4/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土粒少量含む。
	11	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。(袖)
カマド 2	12	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
	13	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。
	14	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 多量、暗褐色土粒含む。
カマド 2 掘り方	15	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物含む。
住居掘り方	16	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土と淡白色粘土の互層。
	17a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・焼土粒含む。
	17b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	17c	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 密、暗褐色土ブロック (5㎜程度) 少量含む。

SI4A　施設堆積土註記表

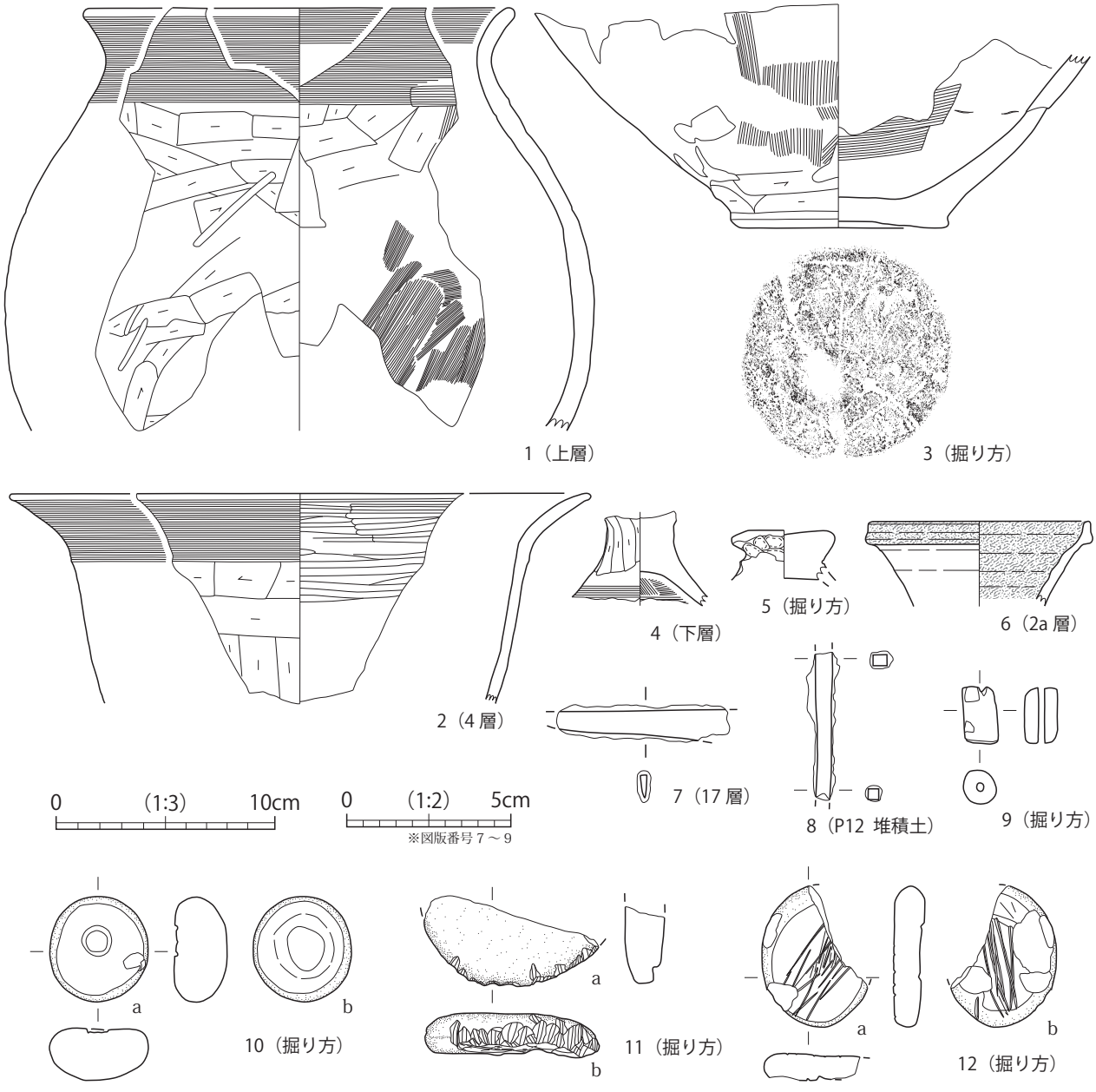
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。(柱抜取痕)
	1b	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。(柱抜取痕)
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	2b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	3	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	淡白色粘土密に含む。(柱痕跡最下部か)
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。(柱抜取痕)
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	2b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 少量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
	5	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	淡白色粘土密に含む。(柱痕跡最下部か)
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。(柱抜取痕)
	2a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	2b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 少量含む。
	3	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	淡白色粘土主体。(柱痕跡最下部か)
P4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物多量、Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	3a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	3b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。
P6	①	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。
	②	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。
	③	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物含む。
P7	①	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物含む。
P8	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	2a	5YR4/3 にぶい赤褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、獣骨片含む。
	2b	5YR4/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
P9	1	5YR4/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、炭化物含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
P10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物多量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
P11	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	粘土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
P12	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 含む。
	2	5YR4/3 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物多量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。
P13	1	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
P14	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土ブロック (10㎜程度)・炭化物の混土。
	③	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 多量含む。
P15	①	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・淡白色粘土ブロック (5㎜程度) 含む。
	②	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。





図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-117	04年度	SI4A	堆積土	土師器	坏	(12.0)	-	(2.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		36
2	C-118	04年度	SI4A	堆積土	土師器	坏	(14.3)	-	(3.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、一部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		36
3	C-123	04年度	SI4A	下層	土師器	坏	13.0	-	3.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		36
4	C-128	04年度	SI4A	掘り方	土師器	坏	(13.6)	-	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、一部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		36
5	C-124	04年度	SI4A	下層	土師器	坏	(11.4)	-	(2.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		36
6	C-129	04年度	SI4A	掘り方	土師器	坏	(12.0)	-	(2.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		36
7	C-133	04年度	SI4A	上層	土師器	高坏	-	-	(7.0)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ	スカシ2ヶ所	36
8	C-107	04年度	SI4A	床面直上	土師器	鉢	14.8	6.2	12.6	口縁部ヨコナデ、体部上半ハケメ、体部下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		36
9	C-091	04年度	SI4A	堆積土	土師器	甕	(19.0)	-	(11.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		36
10	C-104	04年度	SI4A	ｶﾏﾄﾞ付近	土師器	甕	(18.8)	-	(12.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		36

第 53 図　SI4A 竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）

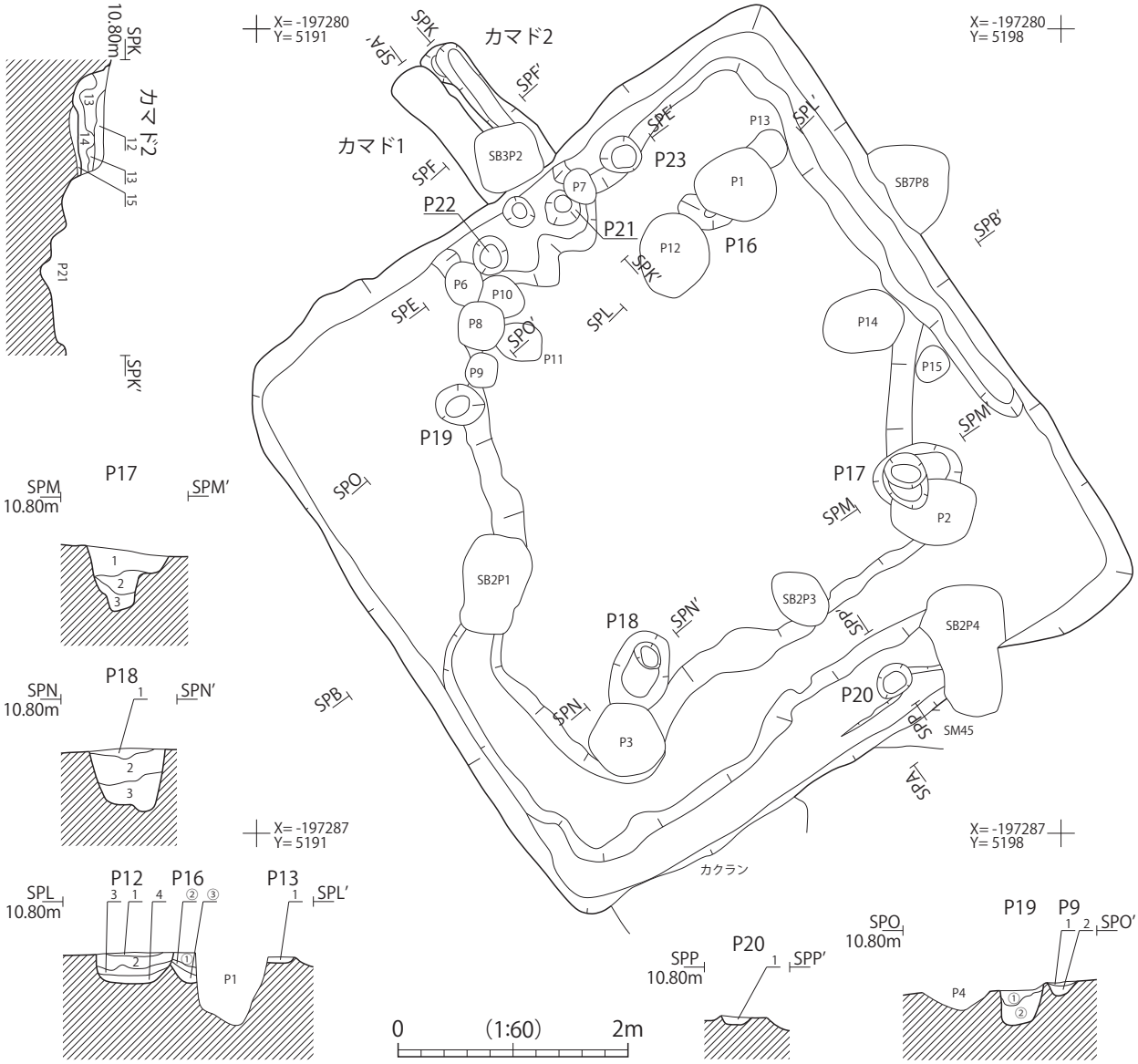


図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-095	04年度	SI4A	上層	土師器	甕	(19.2)	-	(19.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、一部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ→ヘラケズリ、胴部中位ナデ		36
2	C-114	04年度	SI4A	4 層	土師器	甕	(26.4)	-	(9.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁～頸部ヘラミガキ		36
3	C-089	04年度	SI4A	掘り方	土師器	甕	-	(9.4)	(10.2)	胴部ハケメ、胴部下端ヘラケズリ、底部木葉痕	胴部ヘラナデ、輪積み痕		36
4	C-136	04年度	SI4A	下層	土師器	高坏	-	-	(4.3)	脚部ヘラケズリ、脚部下端ヨコナデ	脚部ナデ、一部ヘラミガキ、脚部下端ヨコナデ		36
5	C-143	04年度	SI4A	掘り方	土師器	蓋のツマミ	-	-	(2.3)	指オサエ、沈線	ナデ		36
6	E-028	04年度	SI4A	2a 層	須恵器	瓶	(10.0)	-	(3.9)	ロクロ調整、口縁部自然釉	ロクロ調整、自然釉		36

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
7	N-002	04年度	SI4	17 層	金属製品	刀子	(5.3)	0.9	0.4	6.4	刃部、両端部欠損	36
8	N-003	04年度	SI4-P12	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	4.5	0.5	0.35	3.0	角柱状、両端部欠損	36

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
9	Kd-001	04年度	SI4	掘り方	石製品	管玉	1.7	1.0	0.4	1.1	琥珀	孔径 2㎜、完形品	36
10	Kd-008	04年度	SI4	掘り方	石製品	紡錘車	4.8	4.5	2.3	62.5	流紋岩	a･b 面ケズリ・研磨、孔径 10㎜程の穿孔途中、未製品	36
11	Kc-010	04年度	SI4	掘り方	石製品	不明	(4.15)	(8.0)	1.8	29.7	砂質凝灰岩	扁平礫、溝状痕 (b 面)、破片	36
12	Kc-011	04年度	SI4	掘り方	石製品	砥石	(6.5)	(4.8)	1.4	21.5	砂質凝灰岩	砥面 2 面、溝状痕 (a･b 面)、1/3 欠損	36

第 54 図　SI4A 竪穴住居跡出土遺物（2）



SI4B　施設堆積土註記表

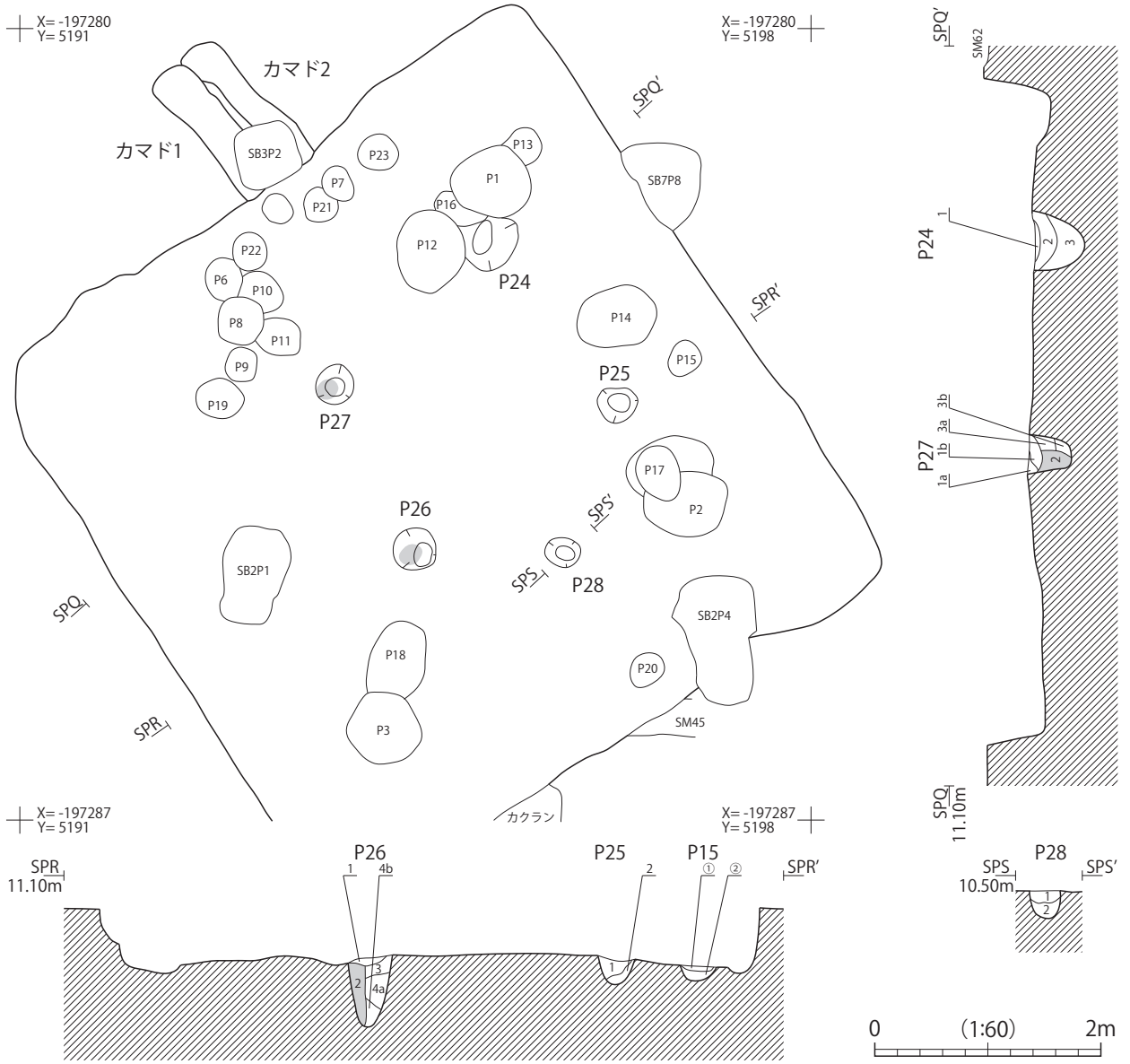
遺構名	層位	土色	土性	備考
P16	①	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒含む。
	③	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・骨粉含む。
P17	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 40㎜程度) 含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 40㎜程度) 多量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。
P18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度)・焼土粒・炭化物含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30㎜程度) 多量含む。
P19	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。
	②	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
P20	1	5YR4/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
P21	1	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
P22	—	—	—	註記なし。
P23	① a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物多量含む。
	① b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。

SI4B　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P16	円形	45 × (15)	25	
P17	楕円形	78 × (52)	56	
P18	楕円形	(65) × 50	55	
P19	楕円形	40 × 36	34	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P20	楕円形	32 × 26	6	
P21	円形	40 × 26	7	
P22	楕円形	(34) × 30	9	
P23	円形	35 × 31	16	

第 55 図　SI4B 竪穴住居跡



SI4C　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P24	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	3	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、獣骨片少量含む。
P25	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、骨片少量含む。
P26	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・淡白色粘土粒多量含む。
	2	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	淡白色粘土密、暗褐色土粒少量含む。(柱痕跡)
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	4a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック密、暗褐色土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	4b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック密、暗褐色土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
P27	1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡黄色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。
	1b	5YR5/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	2	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	淡白色粘土粒主体。(柱痕跡か)
	3a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
	3b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
P28	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。
	2	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	淡黄灰色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。

SI4C　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P24	方形	51 × (40)	46	
P25	円形	35 × 30	38	
P26	円形	38 × 37	66	

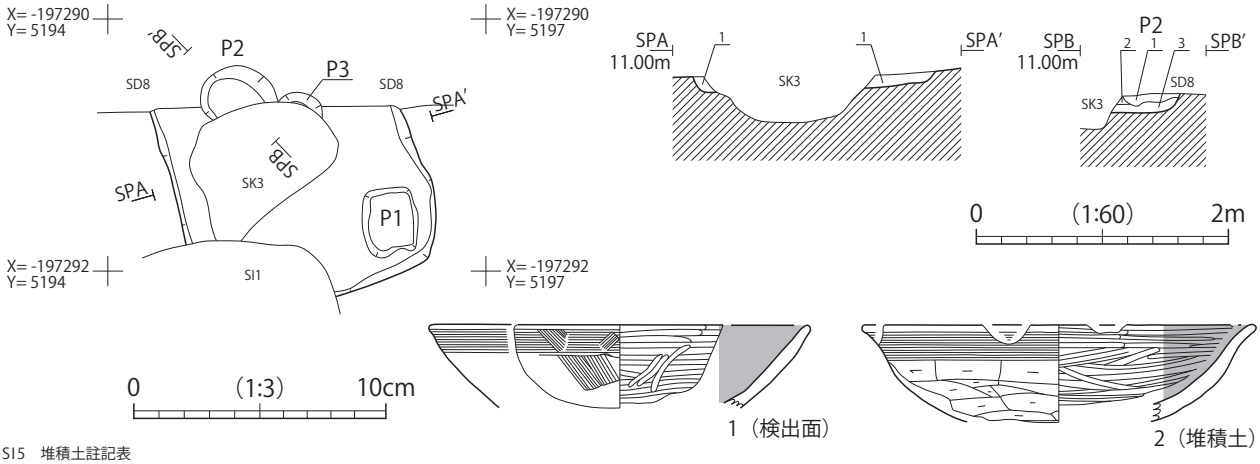
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P27	円形	34 × 34	39	
P28	円形	35 × 30	26	

第 56 図　SI4C 竪穴住居跡

【柱穴】ともに 5 基ずつ検出した。SI4B では P16 ～ 19 が主柱穴である。P20 は壁柱穴とみられる。SI4C では P24 ～ 27 が主柱穴、P28 が壁柱穴に相当すると考えられる。柱痕跡は P26・27 で確認された。
【カマド】カマド 2 が SI4B に対応するものと思われる。煙道部のみが残存し、1/3 程が SB3 との重複により失われている。煙道部は長さ 143cm、幅 26cm、深さ 26cm を測り、煙出し部分はピット状に掘り込まれている。
【その他の施設】SI4B からピット 3 基を検出した。カマド 2 の前方に P21 ～ 23 が北壁に沿うようにして位置する。カマド 2 構築関連のピット（袖石および支脚材の埋設坑など）と考えられる。
【出土遺物】SI4A の掘り方出土の遺物が SI4B・SI4C のいずれかに伴う可能性があるが、詳細不明である。
【時期】】ともに SI4A とは建て替え（拡張）の関係にあるとみられ、1 期（7 世紀前葉前後）と考えておきたい。

SI5 竪穴住居跡（第 57 図）
【位置・確認】調査区南西端部の 4 グリッドに位置する。
【重複】SI1、SD8、SK3 より古い。
【規模・形態】検出した規模は、南北 202cm、東西 191cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。
【方向】西壁基準で N － 15° － W である。
【堆積土】黄褐色シルトの単層である。
【壁面】高さ 7 ～ 10cm が残存するのみで、詳細不明である。
【床面】概ね平坦である。掘り方をもたず、基本層Ⅳ層を床面としている。
【その他の施設】土坑 P1 ～ 3 を検出した。P1 は形状や位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。
【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占めるが、本竪穴住居跡は床面までの深さがあまりなく、ほとんどが床面に近い位置からの出土と考えられる。土師器坏 2 点を掲載した（第 57 図）。
【時期】第 57 図－ 2 は直接伴う可能性が高く、SI1 との新旧関係からも 1 期（7 世紀前葉前後）と考えられる。

SI6 竪穴住居跡（第 58・59 図）
【位置・確認】調査区中央部南寄りの 9・10・12・13 グリッドに位置する。
【重複】SD2・4 より古く、SB6・8 より新しい。
【規模・形態】検出した規模は、南北 328cm、東西 375cm を測る。平面形状は方形を呈する。
【方向】カマド基準で N － 85° － E である。
【堆積土】大別で 12 層、細別で 28 層に分層された。大別 1 ～ 6 層は住居堆積土で、上層の 2c 層は焼土と炭化物を多く含む。7 ～ 10 層はカマド関連層、11 層は周溝内の堆積土である。12 層は掘り方埋土である。
【壁面】北壁は直立気味であるが、他の壁は概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 35cm を測る。
【床面】中央部がわずかに高まる。
【周溝】南壁と北壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 5 ～ 20cm、深さ 1 ～ 6cm を測る。
【カマド】東壁に位置し、壁面に直交して付設されるが、SD2 との重複により袖を含む燃焼部の大半が失われている。燃焼部は奥壁から手前 20cm 程が残存し、煙道部との繋がりは緩やかである。煙道部は長さ 160cm、幅 23 ～ 35cm、深さ 19 ～ 26cm を測り、底面は概ね平坦である。煙出し部分はピット状に掘り込まれる。
【掘り方】深さ 0 ～ 23cm 程を測る。底面は中央部が高まり、四方の壁際が低くなる。
【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器坏 2 点、高坏 1 点、甕 1 点を掲載した（第 58 図）。1 は鬼高系土師器の坏である。3 の高坏は脚部に長方形の透孔が 2 箇所あけられている。
【時期】床面上から出土した第 58 図－ 2 ～ 4 が直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



SI5　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/8　黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック（10㎜程度）含む。

SI5　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4　褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック・にぶい黄褐色土ブロック（10㎜程度）含む。
P2	1	10YR3/2　黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）含む。
	2	10YR3/2　黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	3	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック（10㎜程度）微量含み、暗褐色土粒混在。
P3	1	10YR3/4　暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、Ⅳ層土ブロック混在。

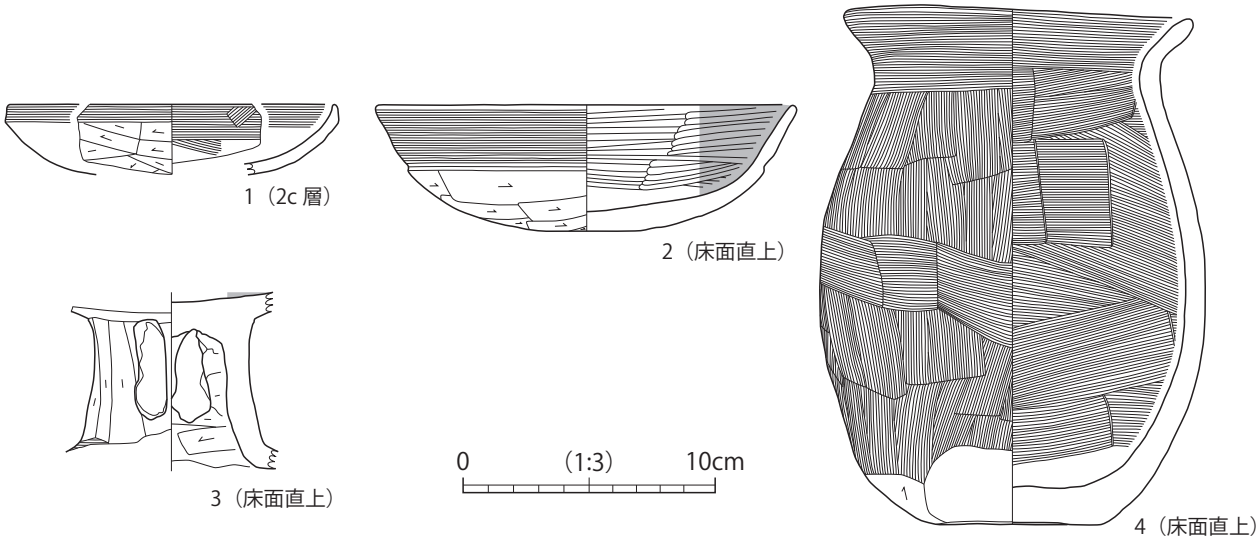
SI5　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	方形	53 × 45	9	
P2	楕円形	(53) × 50	18	

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	不明	38 × (12)	23	

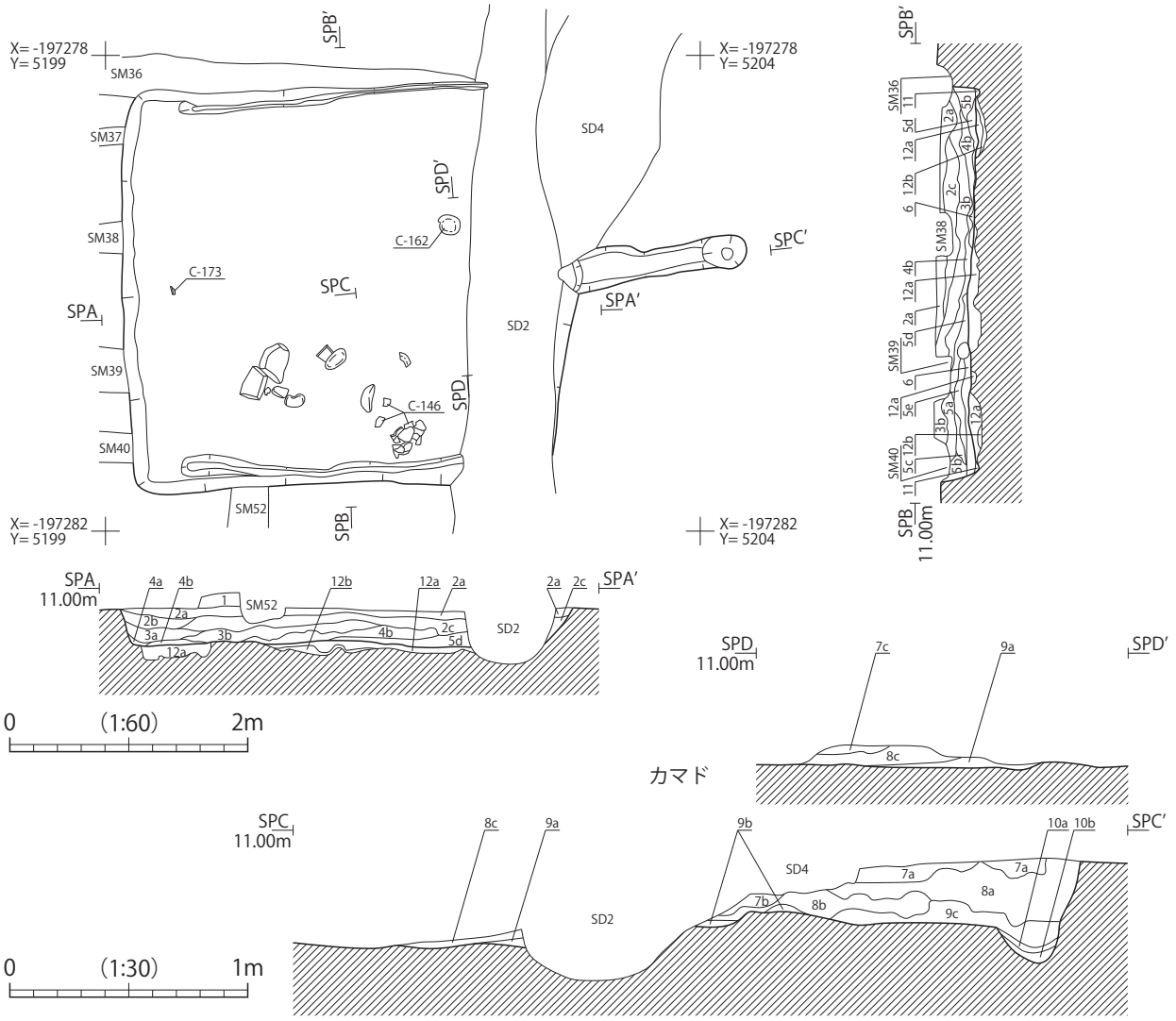
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-148	04年度	SI5	検出面	土師器	坏	(14.8)	-	(3.3)	口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、体部ヘラナデ	ヘラミガキ、黒色処理		37
2	C-149	04年度	SI5	堆積土	土師器	坏	(15.4)	-	(3.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	ヘラミガキ、黒色処理		37

第 57 図　SI5 竪穴住居跡・出土遺物



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-156	04年度	SI6	2c 層	土師器	坏	(12.8)	-	(2.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→内面ヘラナデ		37
2	C-162	04年度	SI6	床面直上	土師器	坏	16.4	-	5.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		37
3	C-158	04年度	SI6	床面直上	土師器	高坏	-	-	(7.0)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ	スカシ 2 ヶ所	37
4	C-146	04年度	SI6	床面直上	土師器	甕	23.5	6.5	20.6	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下端ヘラケズリ・摩滅、底部木葉痕→ナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		37

第 58 図　SI6 竪穴住居跡出土遺物



SI6　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物含み、Ⅳ層土ブロック混在。
	2b	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物点在。
	2c	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	全体に炭化物、上位に焼土ブロック含む。
	3a	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物含む。
	3b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含み、Ⅳ層土ブロック混在。
	4a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック微量、炭化物含む。
	5a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック少量含む。
	5b	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。
	5c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物含み、Ⅳ層土混在。
	5d	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、Ⅳ層土ブロック含む。
	5e	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒微量含み、Ⅳ層土ブロック混在。
カマド	7a	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒微量含み、下位に被熱土点在。
	7b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (10㎜程度) 含む。
	7c	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。
	8a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。
	8b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 含み、焼土粒点在。
	8c	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物含み、Ⅳ層土・暗褐色土ブロック点在。
	9a	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック・炭化物混在。(燃焼部)
	9b	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック微量含む。
	9c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒微量含む。
	10a	10YR2/1 黒色	粘土	
	10b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
周溝	11	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	
住居掘り方	12a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土粒混在。
	12b	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (10㎜程度) 点在。

第 59 図　SI6 竪穴住居跡

SI7 竪穴住居跡（第 60・61 図）

【位置・確認】調査区西端部の 15 グリッドに位置する。

【重複】Pit232 より古く、SB5 より新しい。範囲的には、SB9 とも重複する。

【規模・形態】検出した規模は、南北 293cm、東西 312cm を測る。平面形状は隅丸長方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 2° － E である。

【堆積土】大別で 7 層、細別で 14 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、床面直上には炭化物が薄く堆積する。3 層はカマド関連層である。天井崩落土とみられ、基本層Ⅳ層土に類似するが、堆積範囲は部分的である。4 層は周溝内の堆積土である。5・6 層はカマド構築土で、袖構築土の 5 層は基本層Ⅳ層土に類似し、内壁面は被熱により赤化している。7 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 22cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

【周溝】壁面全体に沿って巡るが、北東コーナー付近で断続する。規模は、幅 7 ～ 20cm、深さ 5 ～ 8cm を測る。

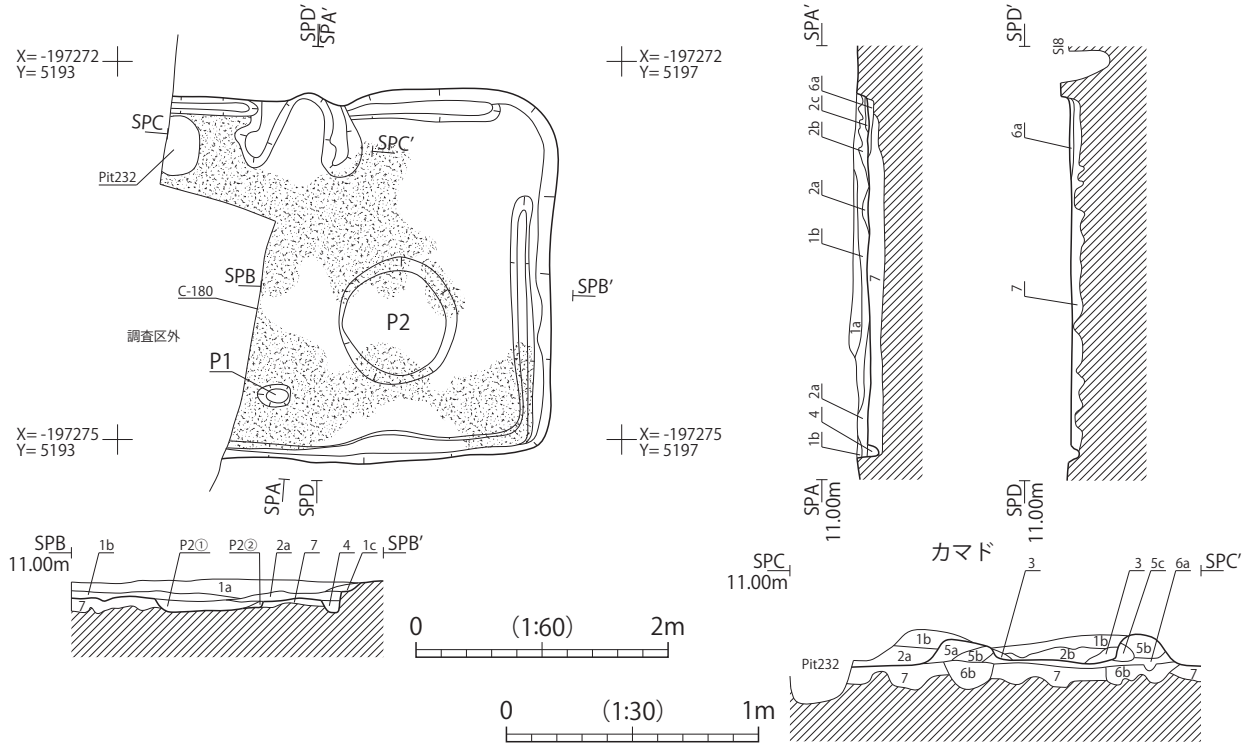
【カマド】北壁に位置し、壁面に直交して付設される。煙道部は残存しない。東袖の規模は長さ 57cm、幅 20 ～ 30cm、西袖の規模は長さ 55cm、幅 25 ～ 32cm を測り、北壁に対し「ハ」字状に開いて構築されている。燃焼部は奥行き 72cm、幅 28 ～ 47cm、奥壁高 7cm を測り、壁内に位置する。底面は皿状に窪み、奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。

【その他の施設】ピット P1、土坑 P2 を検出した。P1 は内部に床面上と同様の炭化物が堆積し、本竪穴住居跡の廃絶時には開口していたと考えられる。P2 は人為的に埋め戻されている。

【掘り方】深さ 4 ～ 12cm 程を測る。底面には起伏がみられる。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器甑 1 点を掲載した（第 61 図）。1 の甑は単孔で、下端部が弱く外反する。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



第 60 図　SI7 竪穴住居跡

SI7　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	炭化物微量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	1c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	下位に炭化物密に含む。
	2b	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック (5㎜程度) 含む。
	2c	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック微量含む。
カマド	3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (5㎜程度) 含む。
周溝	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
カマド袖	5a	7.5YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物の混土。
	5b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。内壁面は被熱により赤化。
	5c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。
カマド掘り方	6a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 多量含む。
	6b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。(袖下ピット)
住居掘り方	7	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。

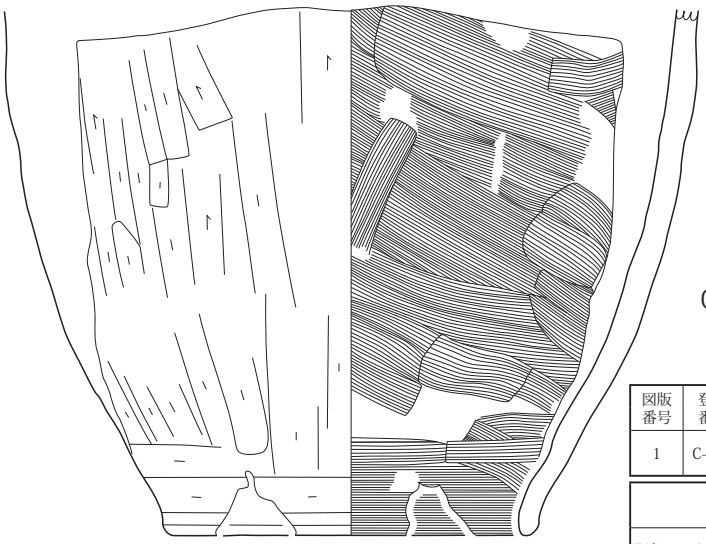
SI7　施設堆積土注記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/1 黒色	炭化物	焼土ブロック少量含む。
P2	①	2.5Y6/4 にぶい黄色	粘土質シルト	淡黄色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	②	2.5Y5/4 黄褐色	粘土質シルト	淡黄色粘土粒少量含む。

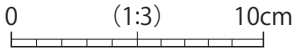
SI7　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	27 × 18	7	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P2	円形	95 × 93	6	



1（堆積土）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)		
							口径	底径	器高
1	C-180	04年度	SI7	堆積土	土師器	甑	-	(14.0)	(20.8)

外面調整	内面調整	備考	写真図版
胴部ヘラケズリ	胴部ヘラナデ、胴部下端ヘラナデ・ヨコナデ		37

第 61 図　SI7 竪穴住居跡出土遺物

SI8 竪穴住居跡（第 62・63 図）

【位置・確認】調査区西端部の 15・18 グリッドに位置する。西側は調査区外にかかり、北半部は SD1 との重複や撹乱により大部分が失われている。南半部も重複遺構の影響から残存が悪い。

【重複】SB9、SD1、Pit222・223 より古く、SB5 より新しい。また SI7 北壁とは 10 ～ 20cm と近接するが、新旧関係は不明である。

【規模・形態】検出した規模は、南北 485cm、東西 400cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】東壁基準で N － 4° － W である。

【堆積土】3 層に分層された。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 23cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

【周溝】検出部では、壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 7 ～ 15cm、深さ 5 ～ 13cm を測る。

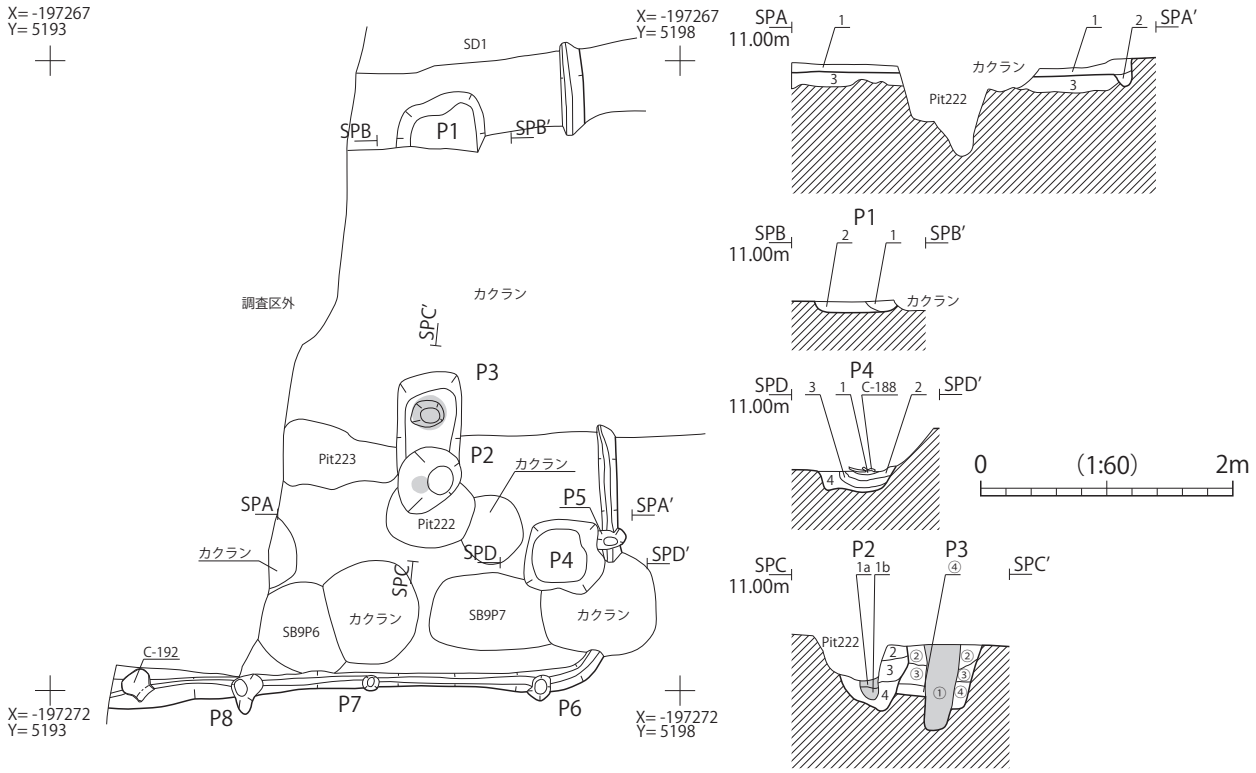
【柱穴】6 基検出した。P2・3 は位置関係から主柱穴と考えられる。これら 2 基は重複し、P3 の方が古い。ともに柱痕跡が確認されている。P5 ～ 8 は壁柱穴で、東壁の南寄りから南壁にかけて配置されている。

【その他の施設】土坑 P1・4 を検出した。P1 は位置関係から主柱穴の可能性も否定できないが、形状が P2・3 とは著しく異なるため別施設とした。P4 は形状や位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。

【掘り方】深さ 20 ～ 24cm 程を測る。底面には起伏がみられる。

【出土遺物】堆積土や周溝出土の遺物が主体である。土師器坏 1 点、甕 2 点、ミニチュア土器 1 点、鉄製刀子 1 点を掲載した（第 63 図）。4 のミニチュア土器は坏型の器形である。5 の鉄製刀子は刃部の破片である。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



SI8　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
周溝	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
住居掘り方	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。

SI8　施設堆積土註記表

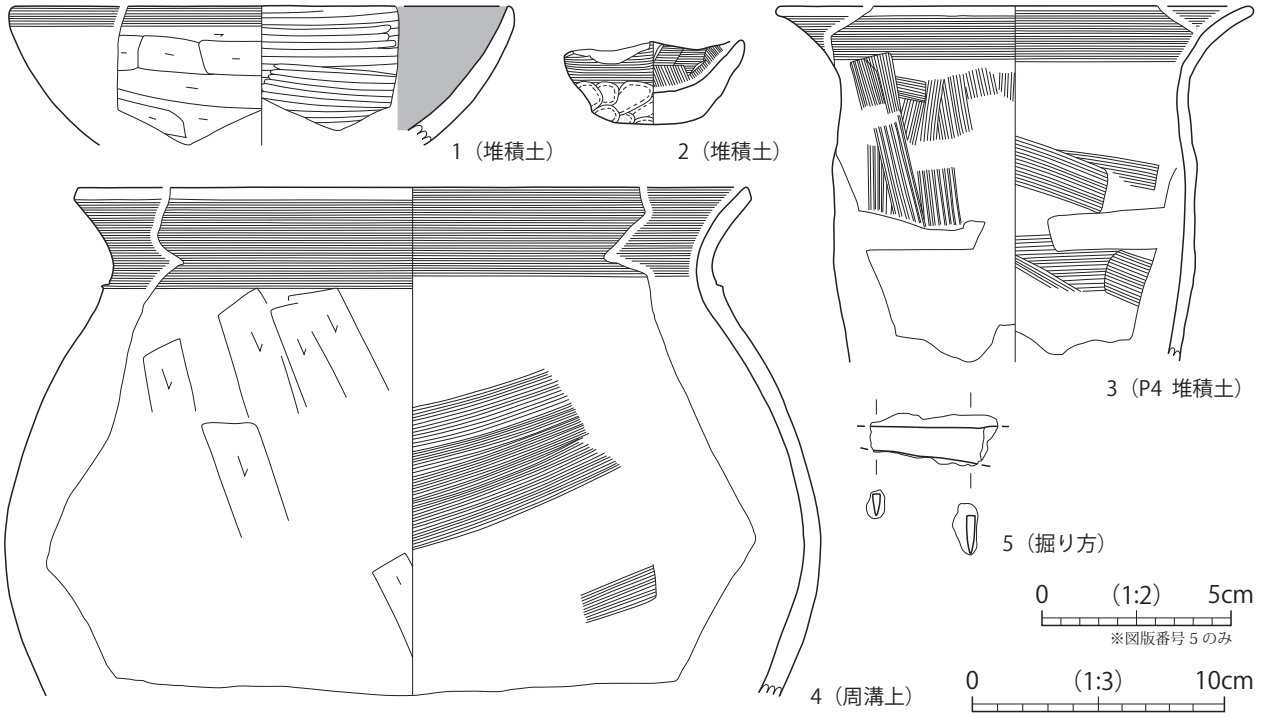
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック・炭化物微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒微量、暗褐色土ブロック (10㎜程度) 含む。
P2	1a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土ブロック微量含む。(柱痕跡)
	1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土	炭化物微量含み、暗褐色土混在。(柱痕跡)
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量、暗褐色土ブロック (10㎜程度) 含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック (20 ～ 30㎜程度)、焼土粒・炭化物微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土混在し、下位に鉄分集積。
P3	①	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物少量含み、暗褐色土ブロック混在。(柱痕跡)
	②	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。
	③	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック・炭化物微量含む。
	④	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	焼土粒・炭化物微量含み、暗褐色土ブロック混在。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 密に含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック主体。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
P6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。

第 62 図　SI8 竪穴住居跡

SI8　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不明	50 × (47)	11	
P2	楕円形	52 × 50	55	
P3	長方形	(77) × 55	69	
P4	方形	58 × 52	16	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	27 × (16)	54	
P6	楕円形	19 × 14	34	
P7	円形	13 × 12	32	
P8	不整円形	29 × 25	36	



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-191	04年度	SI8	堆積土	土師器	坏	(19.6)	-	(5.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		37
2	C-197	04年度	SI8	堆積土	土師器	ミニチュア土器	7.0	3.4	3.4	口縁部ヨコナデ、体部指オサエ	ヘラナデ		37
3	C-188	04年度	SI8-P4	堆積土	土師器	甕	(18.6)	-	(14.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ・ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		37
4	C-192	04年度	SI8	周溝上	土師器	甕	(26.4)	-	(20.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
5	N-004	04年度	SI8	掘り方	金属製品	刀子	(3.3)	0.7	0.2	3.8	刃部、両端部欠損	37

第 63 図　SI8 竪穴住居跡出土遺物

SI9 竪穴住居跡（第 64 図）

【位置・確認】調査区北東部の 20・23 グリッドに位置する。南壁は調査区外にかかり、カマドから東側は河川跡に浸食され、SD1 が床面を南北に分断する。削平のため壁の残存もわずかである。

【重複】SI10、SB4、SD1、Pit6･226 と重複する。新旧関係は SB4、SD1、Pit6･226 より古く、SI10 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 545cm、東西 572cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】カマド基準で N － 24° － W である。

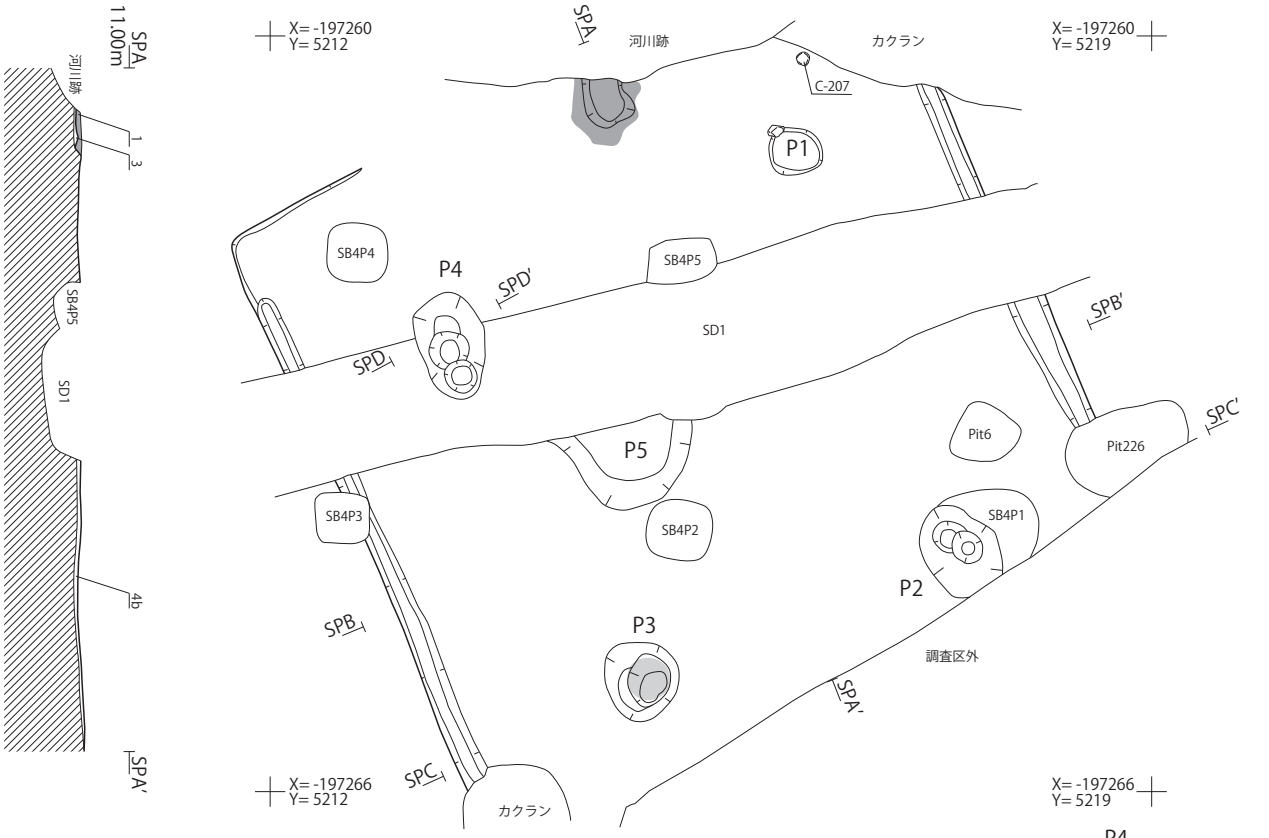
【堆積土】大別で 4 層、細別で 6 層に分層された。大別 1 層はカマド関連層で、燃焼部底面上の焼土層である。2 層は周溝堆積土、3 層はカマド底面の構築土、4 層は掘り方埋土である。

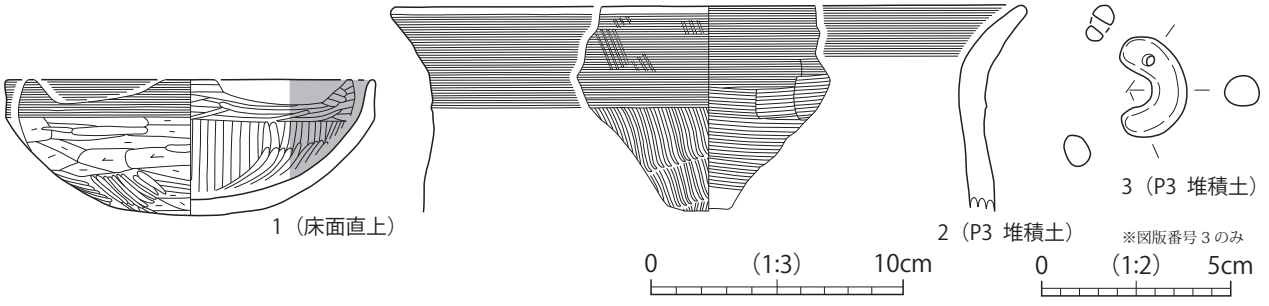
【壁面】北西コーナー部分に高さ 3 ～ 4cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】4 基検出した。いずれも主柱穴で、P3 には柱痕跡が伴う。

【周溝】東壁と西壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 15 ～ 30cm、深さ 6 ～ 10cm を測る。





図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-207	04年度	SI9	床面直上	土師器	坏	(14.4)	-	5.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、一部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		37
2	C-199	04年度	SI9-P3	堆積土	土師器	甕	(24.8)	-	(8.1)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		37

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
3	P-006	04年度	SI9-P3	堆積土	土製品	勾玉	2.65	1.0	0.8	3.1	ナデ、黒色処理、孔径 3㎜	37

第 64 図　SI9 竪穴住居跡・出土遺物

SI9　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	―	焼土主体で、炭化物少量含む。(火床面)
周溝	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
カマド掘り方	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
住居掘り方	4a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量含む。(貼床)
	4b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密に含む。

SI9　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	―	―	―	註記なし。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
	2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。
	2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。
	4	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	淡白色粘土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P3	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒含む。(柱痕跡)
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。(柱痕跡)
	1c	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	暗褐色土粘土少量含む。(柱痕跡)
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。
	3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	4a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。
	4b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	淡白色粘土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、淡灰色粘土ブロック (5㎜程度) 含む。
	2a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック密に含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	淡灰色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、Ⅳ層土粒少量含む。
	2c	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	3	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	粘土主体。
P5	―	―	―	註記なし。

SI9　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	43 × 37	6	
P2	楕円形	(74) × 59	87	
P3	楕円形	65 × 59	76	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	85 × 56	85	
P5	不明	115 × (65)	10	

【カマド】北壁に位置し、燃焼部の底面のみが残存する。底面は皿状に窪み、奥行き 39cm、幅 36cm を測る。平面形状は不整楕円形を呈し、全体が壁内に位置する。

【その他の施設】土坑 P5 を検出した。

【掘り方】深さ 2 ～ 12cm 程を測る。底面は概ね平坦で、東壁と西壁際に溝状の掘り込みがある。

【出土遺物】堆積土や P5 出土の遺物が主体である。土師器坏 1 点、甕 1 点、土製勾玉 1 点を掲載した（第 64 図)。3 の土製勾玉は主柱穴 P3 から出土した。粗くナデ調整され、黒色処理を施している。

【時期】床面上から出土した第 64 図－ 1 は直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。

SI10 竪穴住居跡（第 65 図）

【位置･確認】調査区北東部の 23 グリッドに位置する。SI9 の範囲内に重複し､SD1 より北側の狭い範囲が残存する。本竪穴住居跡の全体をを拡張したものが SI9 と思われるが、遺構番号は調査時のものを使用した。

【重複】SI9、SB4、SD1 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 143cm、東西 463cm を測る。平面形状は隅丸の方形と推定される。

【方向】カマド基準で N － 22° － W である。

【堆積土】カマド部分のみ観察し、大別で 3 層、細別で 5 層に分層された。大別 1・2 層は燃焼部の堆積土で、3 層は煙出し掘り込みの堆積土である。

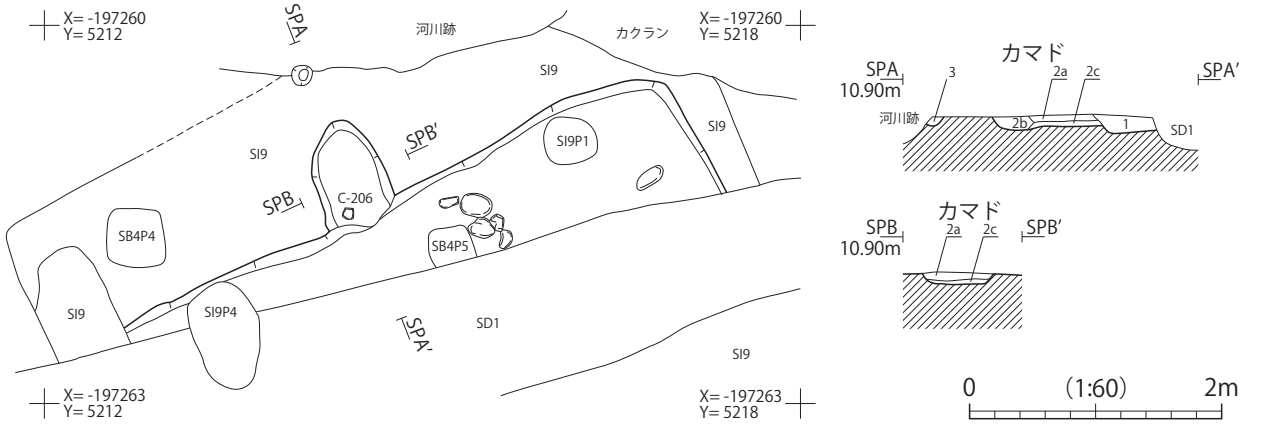
【壁面】北壁と北東コーナー部分に高さ 6 ～ 15cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】残存部では概ね平坦である。掘り方をもたず、基本層Ⅳ層を床面としている。

【カマド】北壁に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部は奥行き 80cm、幅 45cm、奥壁高 8cm を測り、全体が壁外に張り出して位置する。煙道部は煙出し部分の掘り込みだけが残存し、径 16cm のピット状を呈する。

【出土遺物】カマド内から土師器の破片がわずかに出土したが、図化可能なものはなかった。

【時期】直接伴う遺物はないが、2 期（7 世紀中葉前後）の SI9 と建て替え（拡張）の関係にある可能性が高く、2 期と考えておきたい。



SI10　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。
	2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	―	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
	2c	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物密、焼土粒少量含む。

第 65 図　SI10 竪穴住居跡

SI11A 竪穴住居跡（第 66・68 図）

【位置・確認】調査区北東部の 19・20・22・23 グリッドに位置する。上部は削平され、重複遺構や撹乱のため残存状況は悪く、撹乱で南北に分断される。SI11 も範囲内に別の竪穴住居跡が重複しており、新しい方から SI11A → SI11B とした。SI11B の東辺と北辺を拡張したものが SI11A と思われる。

【重複】SB1、SD1・10、Pit235・286・290・297 より古く、SI11B・12・17、SK10、Pit292 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 560cm、東西 567cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 2° － E である。

【堆積土】大別で 8 層、細別で 12 層に分層された。大別 1･2 層は住居堆積土である。3 ～ 6 層はカマド関連層で、このうち 6 層は燃焼部の焼土層である。7 層は周溝堆積土、8 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は南東コーナーで 32cm を測るが､ほかは 10 ～ 20cm 前後である。

【床面】中央部に向かってわずかに高まっている。

【柱穴】4 基検出した。いずれも主柱穴である。柱痕跡は P1・2・4 で確認された。

【周溝】壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 9 ～ 20cm、深さ 7 ～ 16cm を測る。

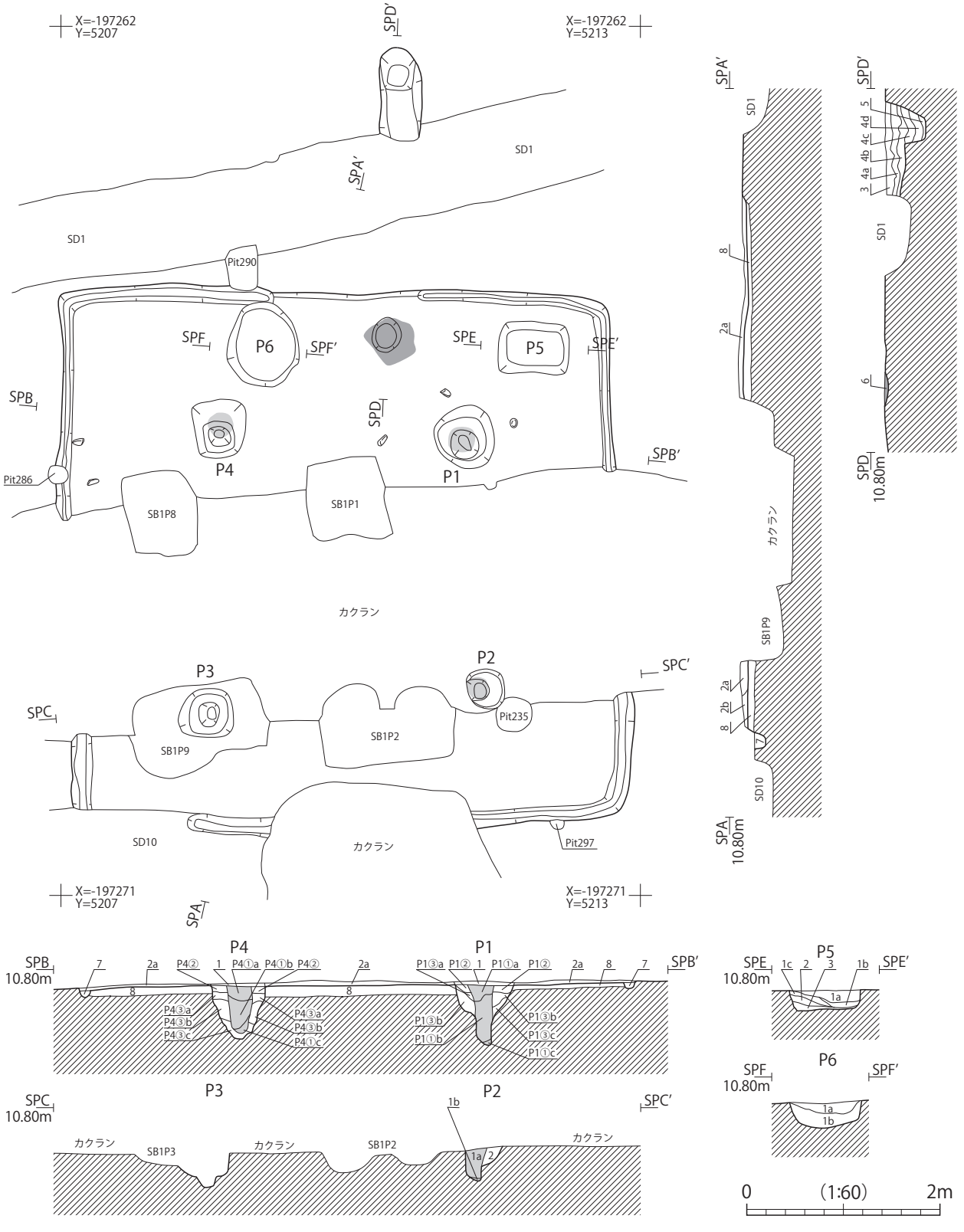
【カマド】北壁に位置し、燃焼部底面と煙道部先端付近のみが残存する。燃焼部底面は皿状に窪み、奥行き 36cm、幅 30cm を測る。平面形状は円形を呈し、壁内に位置する。煙道部は長さ 254cm が推定され、残存部では幅 42cm、深さ 18cm を測る。底面は煙出しに向かって緩やかに下がる。煙出し部分はピット状に掘り込まれる。

【その他の施設】土坑 P5･6 を検出した。P5 は形状や位置関係から貯蔵穴とみられる。P6 は堆積土に粘土ブロック・焼土・炭化物が多く含まれ、カマドとの関連が考えられる。

【掘り方】深さ 4 ～ 11cm 程を測る。底面は概ね平坦で、南東コーナー付近が低くなる。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器甕 1 点を掲載した（第 68 図）。

【時期】直接伴う遺物はないが、後述する 4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）の SI12 より新しく、4 期以降と考えられる。



SI11A　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	65 × 62	64	
P2	楕円形	41 × 38	38	
P3	隅丸方形	56 × 51	23	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	隅丸方形	61 × 55	57	
P5	長方形	57 × 55	31	
P6	楕円形	86 × 74	27	

第 66 図　SI11A 竪穴住居跡

SI11A　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。(柱穴窪み内堆積土)
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
	2b	10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
カマド	3	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。
	4a	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 含む。
	4b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。
	4c	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土ブロック (5㎜程度) 含む。
	4d	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土粒少量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	6	5YR4/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土粒多量含む。
周溝	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
住居掘り方	8	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。

SI11A　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。(柱痕跡)
	①b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)
	①c	2.5Y6/2 灰黄色	粘土	下位に酸化鉄面形成。(柱痕跡)
	②	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。(貼床)
	③a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	③b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	③c	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
P2	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	暗灰褐色土粒多量含む。(柱痕跡)
	1b	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	(柱痕跡)
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
P3	—	—	—	註記なし。
P4	①a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。(柱痕跡)
	①b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)
	①c	2.5Y6/2 灰黄色	粘土	下位に酸化鉄面形成。(柱痕跡)
	②	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。(貼床)
	③a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	③b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	③c	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。
P5	1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	1c	2.5Y6/3 にぶい黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5㎜程度)・炭化物多量含む。
	3	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	淡黄色粘土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
P6	1a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	淡黄灰色粘土・焼土ブロック・炭化物の混土。
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	粘土ブロック (5 ～ 20㎜程度)・炭化物の混土。

SI11B 竪穴住居跡（第 67・68 図）

【位置・確認】調査区北東部の 19・20 グリッドに位置する。前記の通り、SI11A の拡張前の状態と考えられる。SI11A 同様に残存状況が悪い。

【重複】SI11A の南西寄りに重複する。他の遺構との重複は、SI11A に準じる。

【規模・形態】検出した規模は、南北 430cm、東西 457cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 3° － W である。

【堆積土】大別で 5 層、細別で 7 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、SI11A に拡張する際の埋土とみられる。2・3 層はカマド関連層で、4 層は周溝堆積土、5 層は掘り方埋土である。

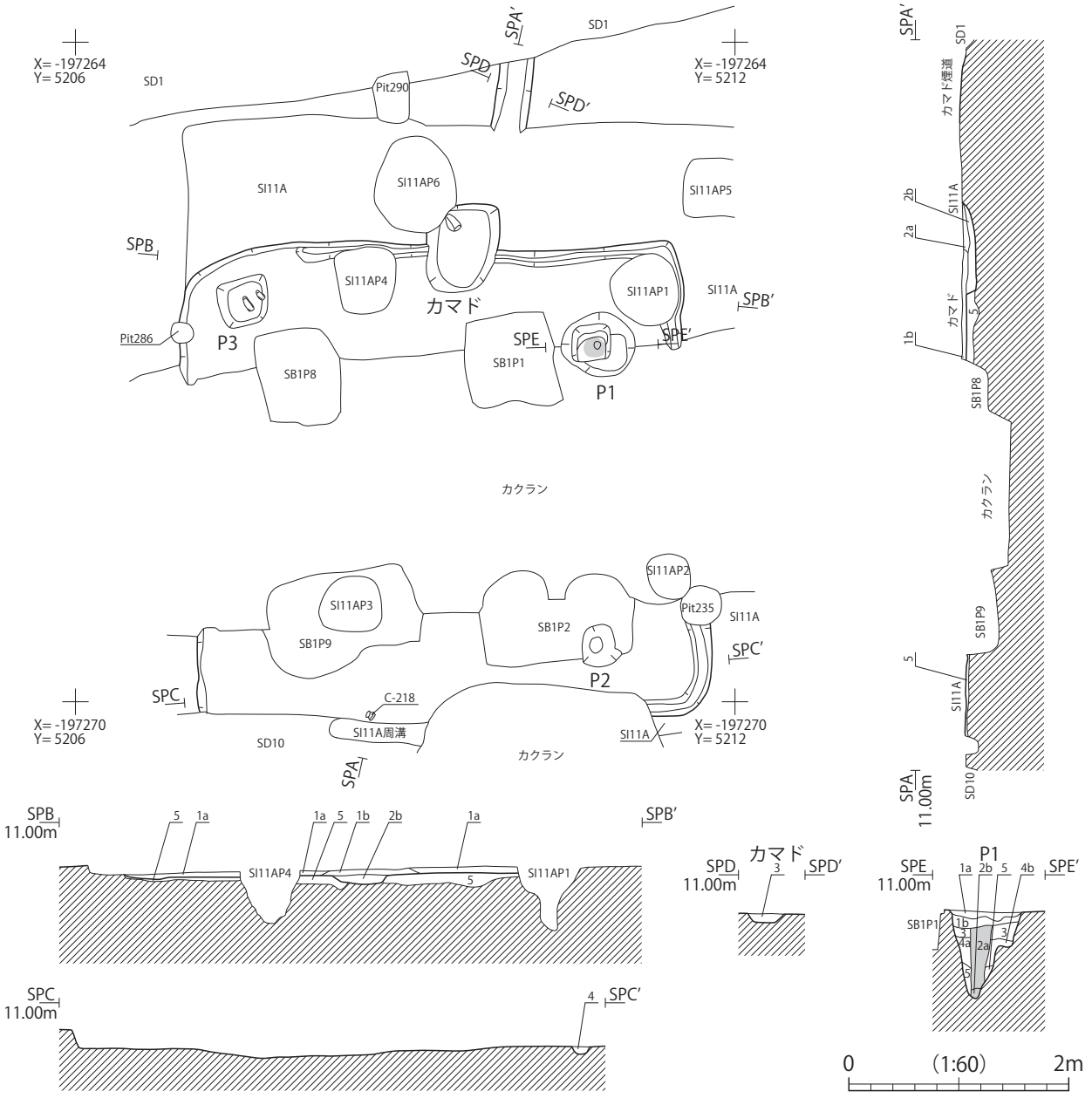
【壁面】高さ 6 ～ 7cm が残存するのみで、詳細不明である。西壁は SI11A の西壁ラインと重なる。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】2 基検出した。ともに位置関係などから主柱穴と思われ、東側の柱列を構成する。西側の柱列は SB1 との重複により失われたと考えられる。P1 で柱痕跡が確認された。

【周溝】北壁と、南東コーナー付近の壁面に沿って巡る。規模は、幅 9 ～ 16cm、深さ 4 ～ 15cm を測る。

【カマド】北壁に位置し、燃焼部底面と煙道部の一部が残存する。燃焼部は壁面に直交して付設されるが、煙道部は燃焼部の中軸線上から 43cm 東にずれ、壁面から約 6° 東に傾いて延びる。燃焼部底面は皿状に窪み、奥行き 78cm、幅 67cm を測る。平面形状は隅丸長方形を呈し、奥壁側 1/2 程が壁外に張り出して位置する。煙道部は燃焼部奥壁から 72cm 離れて残存し、煙出し部分は SD1 との重複で失われている。残存部は長さ 67cm、幅 31cm、深さ 5cm を測る。底面は概ね平坦である。



0 (1:60) 2m

SI11B 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
	1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・焼土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
カマド	2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物含む。
	2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量含む。(煙道)
周溝	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
住居掘り方	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。(貼床)

SI11B 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)
	2b	2.5Y7/2 灰黄色	粘土	淡黄灰色粘土含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。
	4a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
	4b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)
P3	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物多量含む。

第 67 図　SI11B 竪穴住居跡

SI11B　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	68 × 58	68	
P2	楕円形	38 × 35	33	

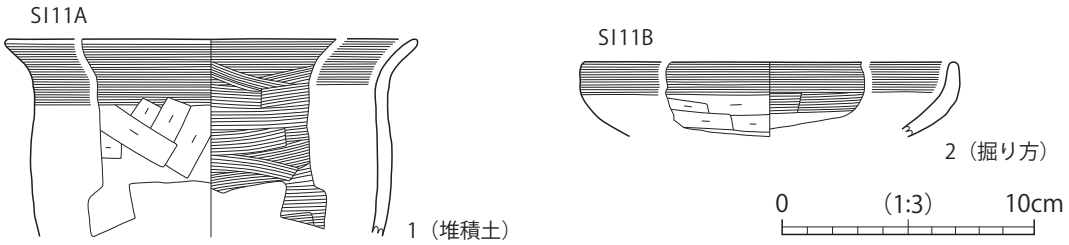
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	方形	45 × 42	6	

【その他の施設】土坑 P3 を検出した。形状や位置関係から貯蔵穴とみられる。

【掘り方】深さ 3 ～ 13cm 程を測る。底面は中央部に向かって高まり、壁際が低くなる。

【出土遺物】掘り方から出土した、土師器坏 1 点を掲載した（第 68 図）。

【時期】SI11A とは建て替え（拡張）の関係にあり、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）以降と考えておきたい。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-210	04年度	SI11A	堆積土	土師器	甕	(16.2)	-	(7.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、頸～胴部ヘラナデ		37
2	C-215	04年度	SI11B	掘り方	土師器	坏	(14.6)	-	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		37

第 68 図　SI11A・B 竪穴住居跡出土遺物

SI12 竪穴住居跡（第 69 ～ 71 図）

【位置・確認】調査区北東部の 16・17・19・20 グリッドに位置する。東壁は調査区外にかかる。重複遺構や撹乱などから残存状況は悪く、壁は部分的に、床面は東側から南側にかけて「L」字状に残存する。

【重複】SI11A・11B・13、SB1、SD10、Pit235・295・297 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 630cm、東西 544cm を測る。平面形状は隅丸方形と推定される。

【方向】カマド基準で N － 7° － W である。

【堆積土】大別で 7 層、細別で 11 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土である。4 層はカマド関連層で、燃焼部底面上の焼土層である。5 層は周溝堆積土、6・7 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 30cm を測るが、大半が 10cm 未満と低い。

【床面】概ね平坦である。

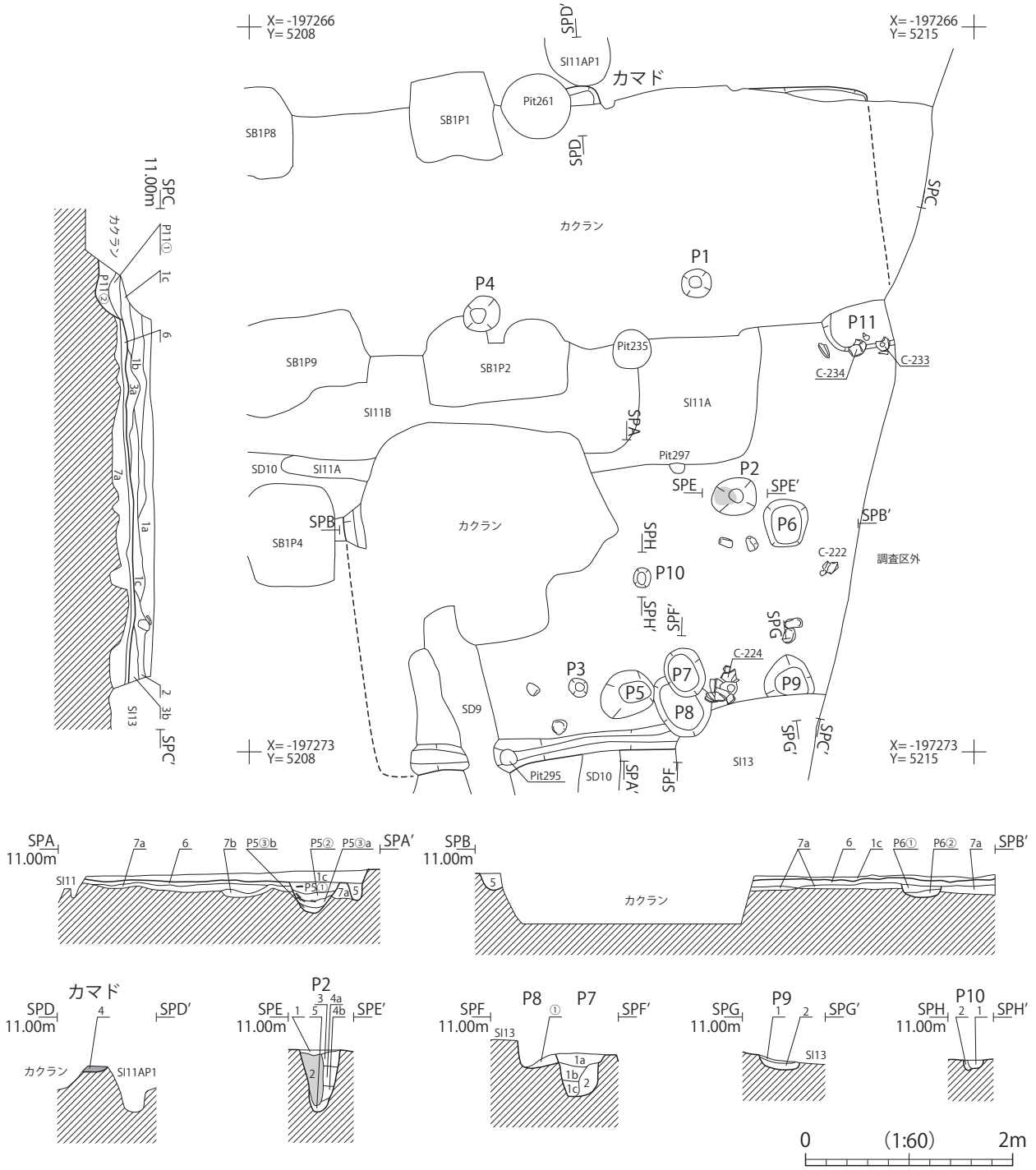
【柱穴】6 基検出した。P1･2･4 が位置関係から主柱穴と思われ､南西側の柱穴は撹乱のため失われたと考えられる。これらの主柱穴は壁面位置からかなり内側に寄って配置される。柱痕跡は P2 で確認された。P3・7・10 は補助的な柱穴と思われ、P3・10 は P7 より一回り以上小さい。P7 は南壁に寄って配置されるため、入口施設関連の柱穴である可能性も考えられる。P7・10 には柱の抜き取り痕が認められる。

【周溝】南壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 17 ～ 24cm、深さ 11 ～ 18cm を測る。

【カマド】北壁に位置し、燃焼部底面の奥壁付近が残存する。奥行き 18cm、幅 29cm を測り、残存する範囲は壁外に張り出した部分である。底面は皿状に窪む。

【その他の施設】土坑 P5･6･8･9･11 を検出した。P5 は人為的に埋め戻され、堆積土の中位には炭化物を多く含む。P8 は P5・7 と重複し、これらよりも古い。南壁の周溝とも重複し、P8 埋没後に周溝が掘削される。P11 は堆積土中に焼土や炭化物が多く含まれ、カマドとの関連が想定される。

【掘り方】深さ 4 ～ 16cm 程を測る。底面は中央部が高まり、南壁際が低くなる。南壁際から 85 ～ 120cm 程内側と東壁側には幅 24 ～ 55cm を測る溝状の掘り込みがあり、建て替え前の古い住居跡の痕跡とも考えられる。



SI12　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。
	1b	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物多量含む。
	1c	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。
	2	10YR3/4　暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物多量含む。
	3a	7.5YR4/3 褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物含む。
	3b	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
カマド	4	5YR4/4　にぶい赤褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物少量含む。
周溝	5	10YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。
住居掘り方	6	2.5Y6/2　灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量、淡黄灰色粘土ブロック (10㎜程度) 含む。
	7a	10YR5/6　黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度)・暗褐色土ブロックの混土。
	7b	10YR5/6　黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。

第 69 図　SI12 竪穴住居跡

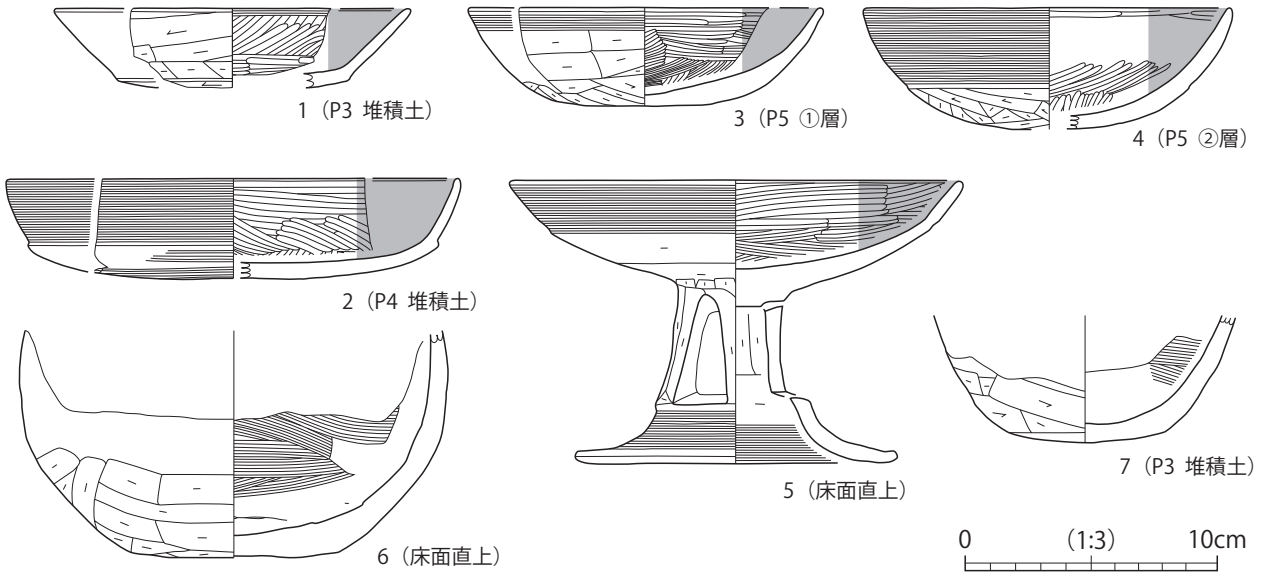
SI12　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 含む。
	4a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	4b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡黄灰色粘土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P4	1	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土粒含む。
P5	①	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物多量含む。
	③ a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。
	③ b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
P6	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物含む。
P7	1a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。(柱抜取痕)
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。(柱抜取痕)
	1c	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
P8	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡黄灰色粘土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物少量、淡灰色粘土ブロック (10㎜程度) 含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。
P10	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10m 程度) 多量含む。
P11	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・焼土粒・炭化物多量含む。
	②	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。

SI12　施設観察表

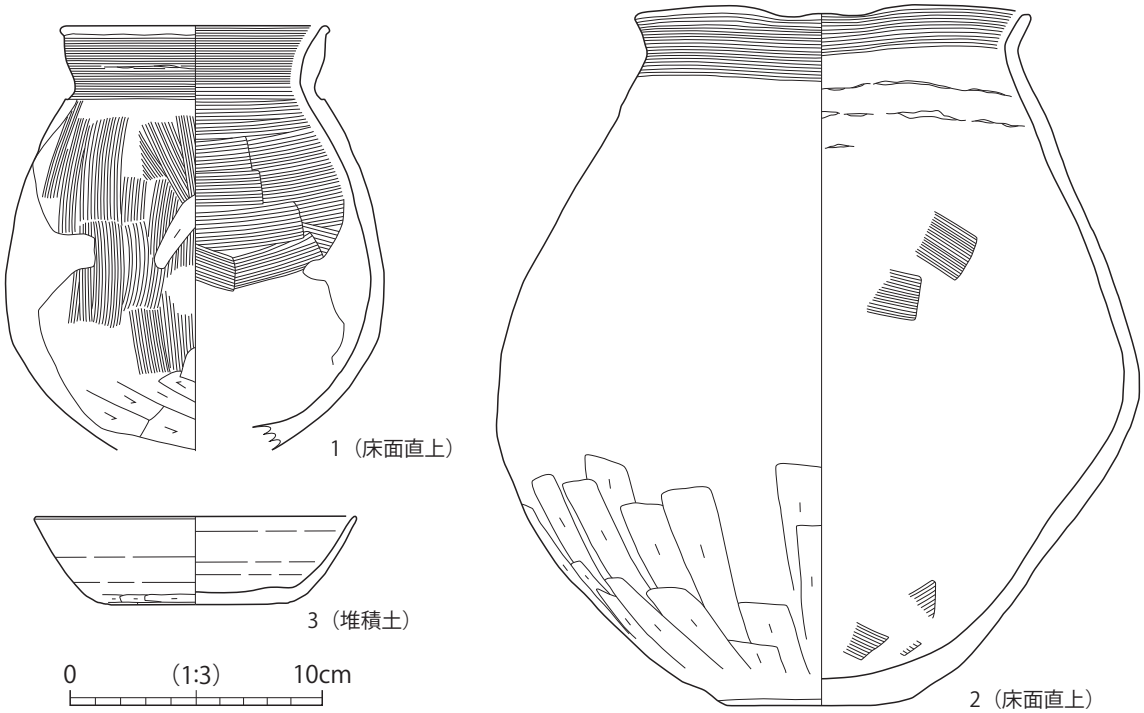
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	29 × 27	36	
P2	楕円形	44 × 35	60	
P3	楕円形	20 × 17	6	
P4	楕円形	38 × 33	15	
P5	楕円形	54 × 42	28	
P6	隅丸方形	45 × 40	9	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	隅丸方形	47 × 36	44	
P8	楕円形	64 × 49	11	
P9	円形	(46) × 45	21	
P10	楕円形	19 × 16	13	
P11	不明	(63) × (46)	18	



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-235	04年度	SI12-P3	堆積土	土師器	坏	(14.0)	-	(3.2)	坏部ヘラケズリ	坏部ヘラミガキ、黒色処理		37
2	C-236	04年度	SI12-P4	堆積土	土師器	坏	(17.8)	-	4.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		37
3	C-237	04年度	SI12-P5	①層	土師器	坏	(14.0)	-	3.9	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		37
4	C-238	04年度	SI12-P5	②層	土師器	坏	(14.4)	-	4.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラナデ、黒色処理		37
5	C-233	04年度	SI12	床面直上	土師器	高坏	17.6	12.8	11.2	口縁部ヨコナデ、体～脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	スカシ3ヶ所	38
6	C-234	04年度	SI12	床面直上	土師器	鉢	-	8.2	(9.0)	胴～底部ヘラケズリ	胴部ヘラナデ、輪積み痕		38
7	C-223	04年度	SI12-P3	堆積土	土師器	甕	-	6.2	(5.1)	ヘラケズリ	ヘラナデ		38

第 70 図　SI12 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-222	04年度	SI12	床面直上	土師器	甕	10.6	-	(16.8)	口縁部ヨコナデ、輪積み痕、胴部ハケメ、一部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		38
2	C-224	04年度	SI12	床面直上	土師器	甕	(15.6)	7.4	27.8	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		38
3	E-047	04年度	SI12	堆積土	須恵器	坏	(12.6)	(7.1)	3.5	ロクロ調整、体部下端ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り→ヘラナデ	ロクロ調整		38

第 71 図　SI12 竪穴住居跡出土遺物（2）

【出土遺物】堆積土のほか、柱穴、住居内土坑出土の遺物が多い。第 70 図－ 5 の高坏と 6 の鉢は P11 の縁辺、第 71 図－ 2 の甕は P7・8 縁辺の床面で、それぞれ 1 個体が潰れた状態で出土した。第 71 図－ 1 の甕も床面の出土遺物である。土師器坏 4 点、高坏 1 点、鉢 1 点、甕 3 点、須恵器坏 1 点を掲載した（第 70・71 図）。土師器坏のうち 1・2 は扁平な器形を呈し、底部が平底に近い。口縁部は 1 が直線的に外傾し、2 がやや内湾気味に外傾する。ともにシャープな作りである。3 は口縁部が短く外反する。5 の高坏は脚部に三角形の透孔が 3 箇所あけられ、透孔の下辺には明瞭な稜が巡る。裾部は強く外反して開く。6 の鉢は器壁が厚く、内外面の調整が粗い。甕の下位部分の可能性もある。9 の甕は強く張り出す胴部と短く外反する口縁部をもつ。第 71 図－ 3 の須恵器坏は夾雑物の少ない緻密な胎土で、全体的にシャープな作りである。底部は回転ヘラ切りで、仕上げはヘラナデ調整である。
【時期】床面直上や住居内土坑 P5 から出土した第 70 図－ 3・4 ～ 6、第 71 図－ 1・2 が直接伴う遺物と思われる。また、本竪穴住居跡は床面までの深さがあまりなく、第 71 図－ 3 の須恵器坏も直接伴う遺物である可能性が高い。このことから、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）と考えられる。

SI13 竪穴住居跡（第 72 図）

【位置・確認】調査区東端部の 17・20 グリッドに位置する。東側の大半は調査区外にかかり、北西コーナーを含む西側の狭い範囲を検出した。東側 2.2 m程では平成 22 年度の郡山遺跡第 200 次調査で、本竪穴住居跡の東端部とされる部分が検出されている（仙台市教委 2011 年）。
【重複】Pit32 より古く、SI12・14 より新しい。
【規模・形態】検出した規模は、南北 354cm、東西 160cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】西壁基準でＮ－ 15°－ Ｗである。

【堆積土】大別で 7 層、細別で 10 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土である。上半部の 1 層はⅣ層土を多く含み、床面の大部分を覆う 3 層は焼土粒や炭化物を多く含む。このことから、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻された可能性がある。5 層は周溝堆積土、6・7 層は掘り方埋土である。

【壁面】直立気味的に立ち上がる。壁高は最大で 39cm を測る。

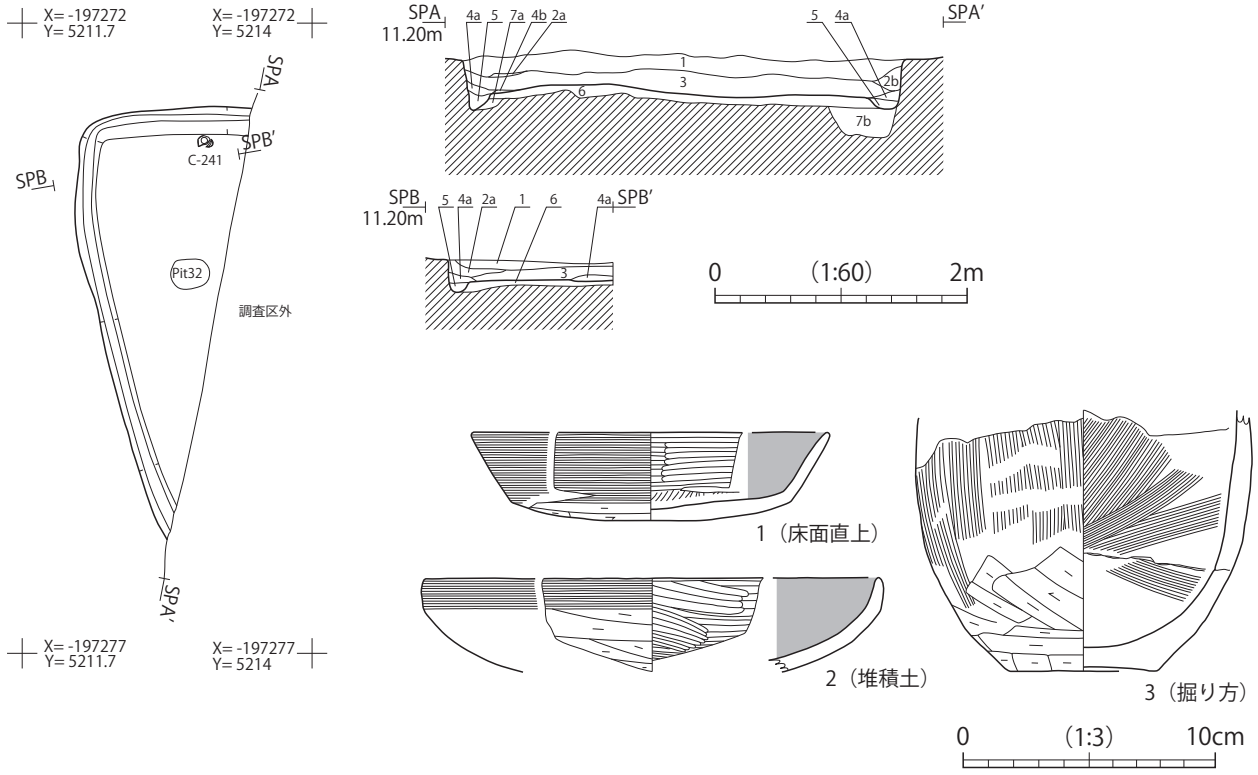
【床面】概ね平坦である。

【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 13 ～ 25cm、深さ 7 ～ 13cm を測る。

【掘り方】深さ 3 ～ 10cm 程を測る。底面は中央部が高まり、壁際が幅 28 ～ 42cm 程の溝状に掘り込まれている。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器坏 2 点、甕 1 点を掲載した（第 72 図）。1 の坏は床面の出土遺物で、平底に近い形状である。

【時期】床面上から出土した第 72 図－ 1 が直接伴う遺物と思われ、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）と考えられる。



部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、淡青灰色粘土ブロック (5㎜程度) 含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、炭化物含む。
	4a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量含む。
	4b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・焼土粒含む。
周溝	5	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
住居掘り方	6	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・淡黄色粘土粒多量含む。
	7a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量含む。
	7b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、暗褐色土ブロック・炭化物少量含む。

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-241	04年度	SI13	床面直上	土師器	坏	(14.0)	-	3.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
2	C-243	04年度	SI13	堆積土	土師器	坏	(18.0)	-	(3.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
3	C-245	04年度	SI13	掘り方	土師器	甕	-	6.0	(10.3)	胴部ハケメ、胴部下位～底部ヘラケズリ	ヘラナデ、輪積み痕		38

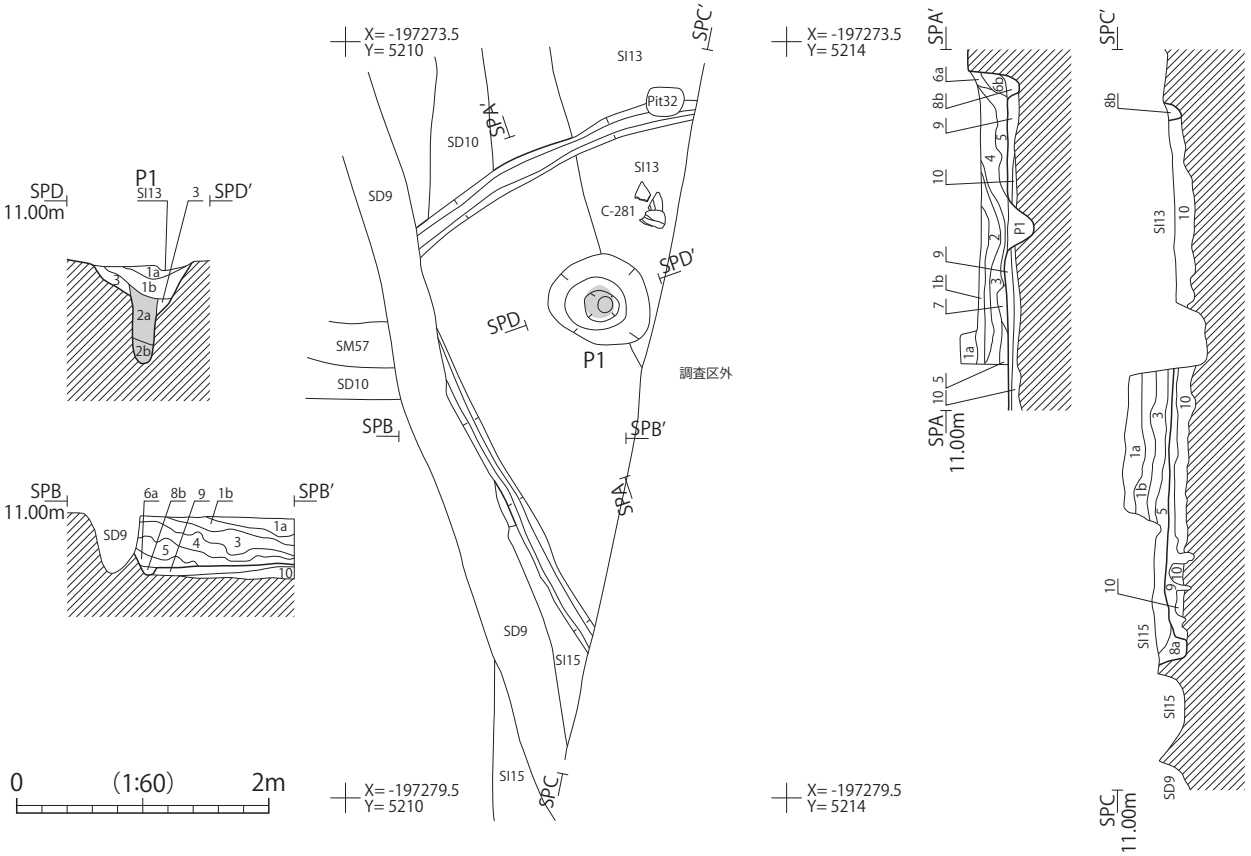
第 72 図　SI13 竪穴住居跡・出土遺物

SI14 竪穴住居跡（第 73 ～ 75 図）

【位置・確認】調査区東端部の 14・17 グリッドに位置する。東側の大半は調査区外にかかり、北西コーナーを含む北西側 1/4 程を検出した。

【重複】SI113・15、SD9・10、Pit32 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 545cm、東西 572cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。



SI14　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含み、下位に炭化物薄層状に集積。
	1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物、Ⅳ層土粒少量含む。
	3	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、焼土粒少量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡黄褐色粘土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	5	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、炭化物含む。
	6a	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	6b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。
	7	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。
周溝	8a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度)・炭化物少量含む。
	8b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。
住居掘り方	9	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・灰黄色粘土ブロック含む。
	10	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック密、暗褐色土ブロック・焼土粒少量含む。

SI14　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化材 (20 ～ 30㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 多量含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)
	2b	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	淡黄白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。

SI14　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	83 × 67	81	

第 73 図　SI14 竪穴住居跡

【方向】西壁基準でN－28°－Wである。

【堆積土】大別で10層、細別で13層に分層された。大別1～7層は住居堆積土で、上半部の1～3層はⅣ層土や炭化物を多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。8層は周溝堆積土、9・10層は掘り方埋土である。

【壁面】直立気味に立ち上がる。壁高は最大で37cmを測る。

【床面】概ね平坦である。

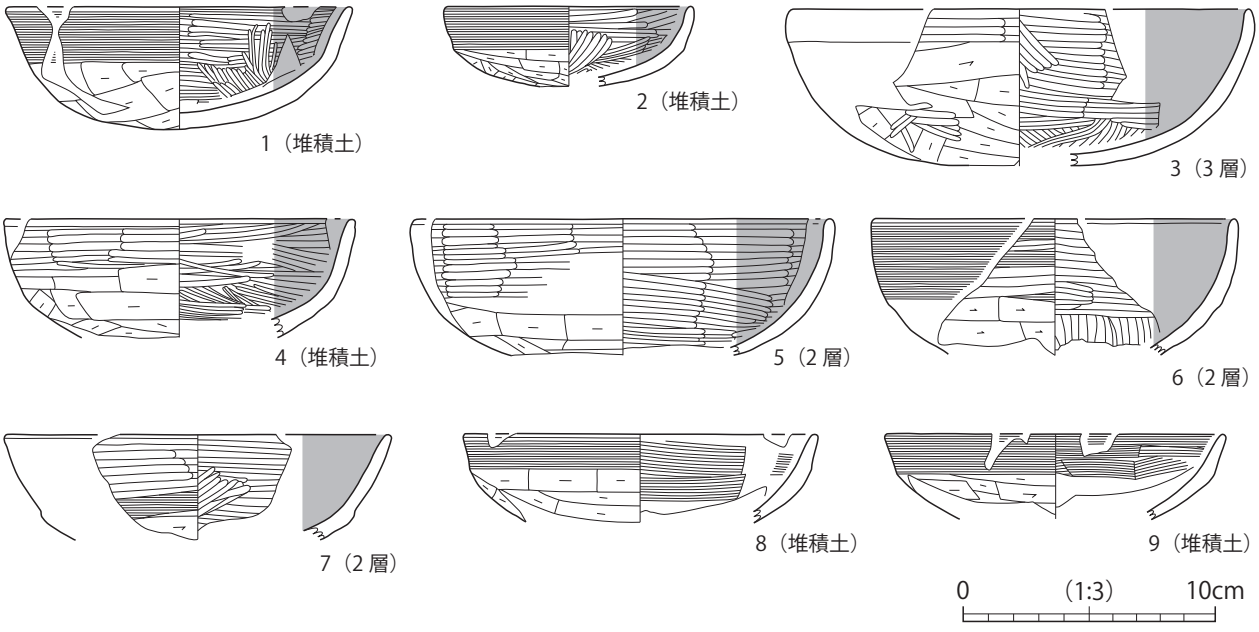
【柱穴】1基検出した。形状や位置関係から主柱穴とみられ、柱痕跡が確認された。

【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅13～22cm、深さ6～16cmを測る。

【掘り方】深さ10～19cm程を測る。底面は概ね平坦で、壁際が幅26～47cm程の溝状に掘り込まれている。この溝状の掘り込みは北壁で分岐し、主柱穴P1に繋がっている。

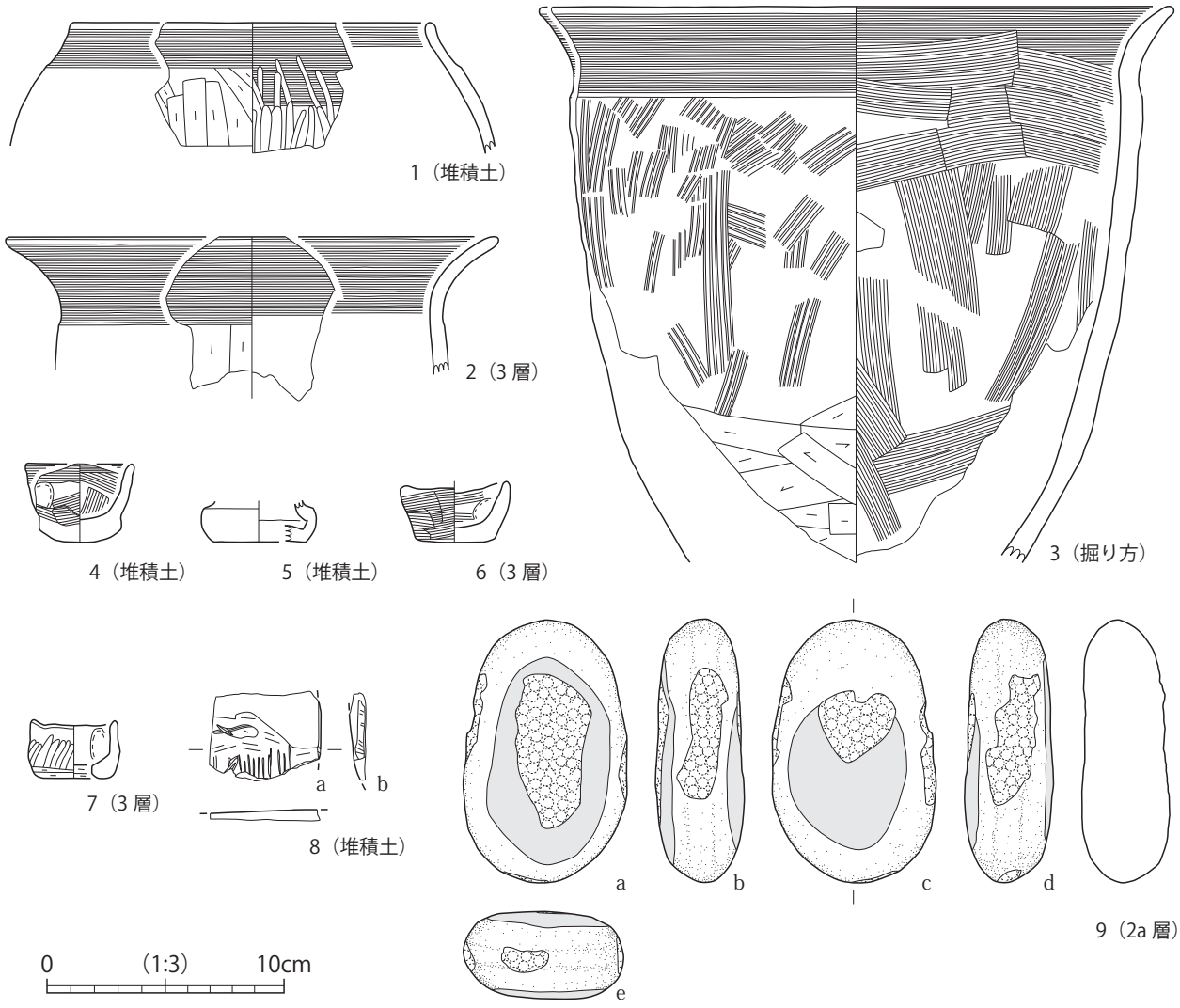
【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器坏9点、甕3点、ミニチュア土器5点、礫石器1点、石製品1点を掲載した（第74・75図）。坏のうち第74図－3・5・6は全体に丸みをもつ椀状の器形を呈し、法量も他の坏より大きい。甕は口縁部の形態にバラエティーがあり、短く直立する第75図－1、大きく外反する2、中間的な3がある。第75図－4～7はミニチュア土器である。5は壺型の器形とみられ、肩部が強く張る。8は粘板岩製の砥石破片で、擦痕のほか平行する溝状痕が認められる。9は軽石凝灰岩製の磨石で、上面を除く各面に敲打痕が観察される。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、4期（7世紀末葉～8世紀前葉）のSI13より古く、4期以前と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-246	04年度	SI14	堆積土	土師器	坏	13.5	-	4.9	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
2	C-249	04年度	SI14	堆積土	土師器	坏	(9.8)	-	(3.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
3	C-252	04年度	SI14	3層	土師器	坏	(18.4)	-	(5.3)	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
4	C-250	04年度	SI14	堆積土	土師器	坏	(13.6)	-	(4.7)	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
5	C-254	04年度	SI14	2層	土師器	坏	(16.4)	-	(5.4)	口縁部ヘラミガキ、黒色処理、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
6	C-255	04年度	SI14	2層	土師器	坏	(14.2)	-	(5.4)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
7	C-256	04年度	SI14	2層	土師器	坏	(15.0)	-	(4.2)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、黒色処理、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		38
8	C-259	04年度	SI14	堆積土	土師器	坏	(13.8)	-	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラナデ		38
9	C-261	04年度	SI14	堆積土	土師器	坏	(13.2)	-	(3.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		38

第74図　SI14竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-272	04年度	SI14	堆積土	土師器	鉢	(15.0)	-	(5.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ		38
2	C-278	04年度	SI14	3 層	土師器	甕	(20.6)	-	(6.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ		38
3	C-281	04年度	SI14	掘り方	土師器	甕	(24.4)	-	(23.4)	口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	外面煤付着か	38
4	C-265	04年度	SI14	堆積土	土師器	ミニチュア土器	(4.4)	-	3.3	ヘラナデ、指オサエ、輪積み痕	ヘラナデ		39
5	C-266	04年度	SI14	堆積土	土師器	ミニチュア土器	-	(4.0)	(1.8)	ナデ	ナデ		39
6	C-269	04年度	SI14	3 層	土師器	ミニチュア土器	(4.4)	3.3	2.6	体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ	ナデ、指オサエ		39
7	C-268	04年度	SI14	3 層	土師器	ミニチュア土器	(3.4)	2.7	2.5	体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	体部指オサエ、穿孔部ヘラケズリ、穿孔径 1.4 ～ 1.7cm		39

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
8	Kd-016	04年度	SI14	堆積土	石製品	砥石	(3.7)	(4.7)	(0.6)	11.6	粘板岩	砥面 2 面、溝状痕 (a･b 面)、破片	39
9	Kc-012	04年度	SI14	2a 層	礫石器	磨石	11.1	6.9	3.6	286.9	軽石凝灰岩	磨 2 面 (凸)、敲 (a ～ e 面 1 ヶ所)、程度弱、完形品	39

第 75 図　SI14 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI15 竪穴住居跡（第 76 図）

【位置・確認】調査区東端部の 11・14 グリッドに位置する。東側の大半は調査区外にかかり、北西コーナーを含む西側の狭い範囲を検出した。

【重複】SD9、Pit333 より古く、SI14 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 337cm、東西 107cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】西壁基準でＮ－2°－Ｗである。

【堆積土】大別で 4 層、細別で 7 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、床面上を覆う 2b 層は炭化物を多く含み、焼土ブロックも含む。3 層は周溝堆積土、4 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、調査区壁の断面で 21cm の残存を確認した。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】1 基検出した。その P2 からは柱痕跡が確認されたが、形状や位置関係から補助的な柱穴とみられる。

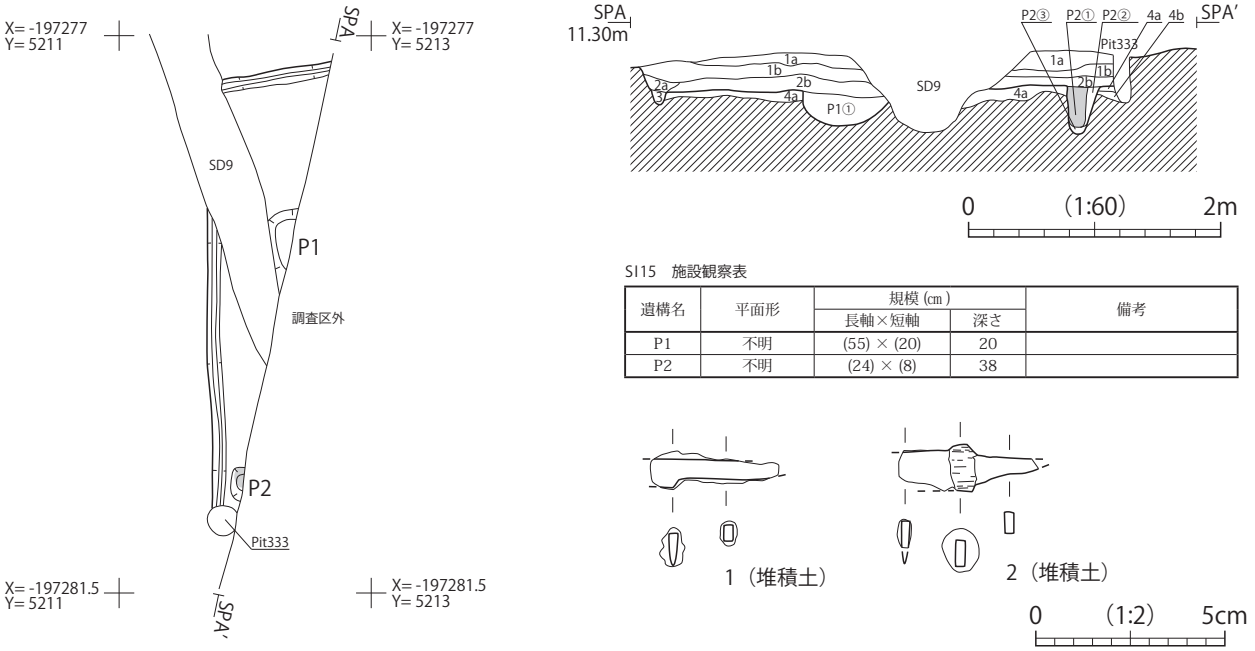
【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 9 ～ 12cm、深さ 1 ～ 3cm を測る。

【その他の施設】土坑 P1 を検出した。堆積土は基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

【掘り方】深さ 3 ～ 13cm 程を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占め、出土量もわずかである。金属製品 2 点を掲載した（第 76 図）。ともに鉄製刀子で、茎部から刃部の根元にかけての破片である。2 の関部には木質が残存する。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



SI15　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不明	(55) × (20)	20	
P2	不明	(24) × (8)	38	

SI15　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。
	1b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。
	2b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物 (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土ブロック (5㎜程度) 含む。
周溝	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
住居掘り方	4a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。

SI15　施設堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物含む。
P2	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)
	②	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	③	2.5Y6/2　灰黄色	粘土	灰黄褐色粘土ブロック多量含む。

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
1	N-005	04年度	SI15	堆積土	金属製品	刀子？	(3.4)	0.8	0.3	2.5	刃～茎部、両端部欠損	39
2	N-006	04年度	SI15	堆積土	金属製品	刀子	(3.7)	1.0	2.5	3.1	刃～茎部、両端部欠損、木質残存	39

第 76 図　SI15 竪穴住居跡・出土遺物

SI16 竪穴住居跡（第 77 図）

【位置・確認】調査区北西部の 18・19・21・22 グリッドに位置する。北側は河川跡に浸食され、SD1 が床面を南北に分断する。南側の大半は撹乱のため失われている。削平により壁の残存状態も悪い。

【重複】SI8、SD1・2、Pit176 ～ 180・270 より古く、SI17 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 626cm、東西 450cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】東壁基準で N － 26° － E である。

【堆積土】3 層に分層された。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 9 ～ 11cm が残存するのみで、詳細不明である。

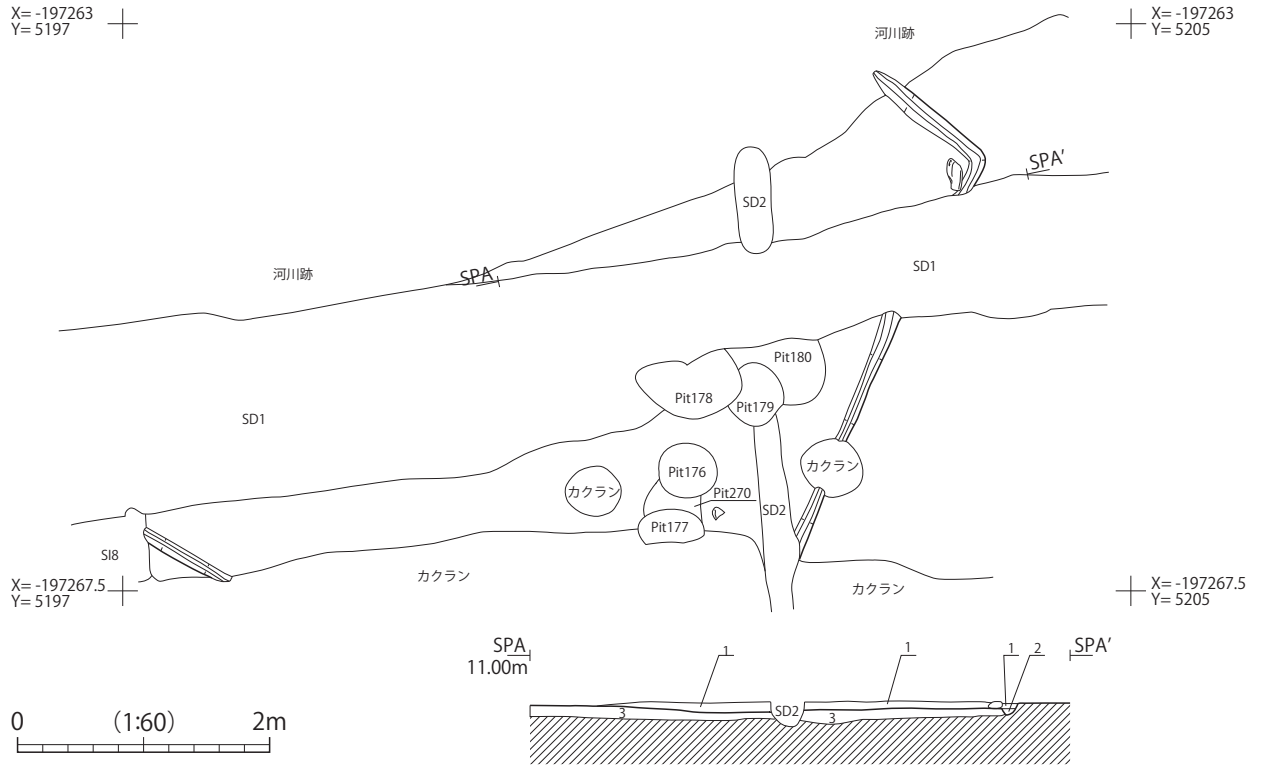
【床面】概ね平坦である。

【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 7 ～ 14cm、深さ 4 ～ 7cm を測る。

【掘り方】深さ 4 ～ 11cm 程を測る。底面は中央部が高まり、壁際が低くなる。

【出土遺物】堆積土や掘り方埋土から土師器・須恵器の破片がわずかに出土したが、図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、後述する 1 期（7 世紀前葉前後）の SI17 よりは新しい。



SI16　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。
周溝	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
住居掘り方	3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20㎜程度）密、暗褐色土ブロック少量含む。

第 77 図　SI16 竪穴住居跡

SI17 竪穴住居跡（第 78・79 図）

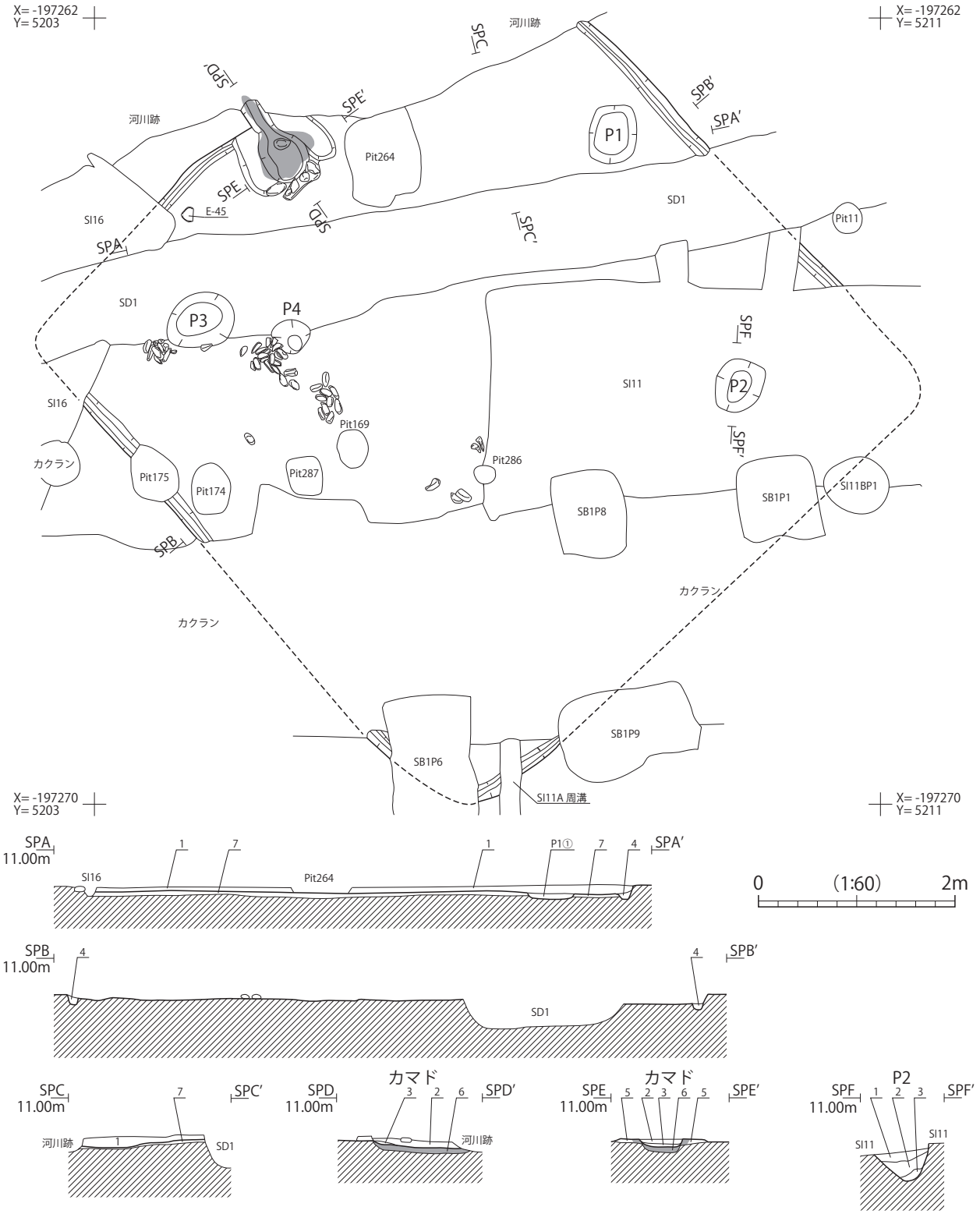
【位置・確認】調査区北部の 19・22 グリッドに位置する。北側は河川跡に浸食され、SD1 と撹乱が住居内を横断している。

【重複】SI11A・11B・16、SB1、SD1、Pit169・174・175・264・286・287 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 690cm、東西 643cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】カマド基準で N － 36° － W である。

【堆積土】7 層に分層された。1 層は住居堆積土、2・3 層はカマド関連層である。にぶい黄褐色粘土質シルトの 2 層は天井崩落土と考えられ、3 層は燃焼部底面上の焼土層である。4 層は周溝堆積土、5・6 層はカマド構築土で、



第 78 図　SI17 竪穴住居跡

SI17　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、灰色粘土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。
カマド	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・灰色粘土粒・焼土ブロック (5㎜程度) の混土。
	3	5YR4/4　にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック (5㎜程度)・灰色灰含む。(火床面)
周溝	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物含む。
カマド袖	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	内面が暗赤褐色に被熱。
カマド掘り方	6	5YR3/6　暗赤褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物含む。
住居掘り方	7	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。

SI17　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック密、暗褐色土粒少量含む。
P3	1	10YR7/6 暗黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
P4	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	淡青灰色粘土 (10 ～ 20㎜程度) 含む。

SI17　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	58 × 48	7	
P2	隅丸方形	52 × 48	39	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	楕円形	56 × 51	51	
P4	楕円形	42 × 33	53	

袖構築土の 5 層内壁は被熱により赤化する。7 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 26cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】3 基検出した。形状や位置関係から P2・3 が主柱穴とみられる。P4 は補助的な柱穴と考えられる。

【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 10 ～ 17cm、深さ 3 ～ 17cm を測る。

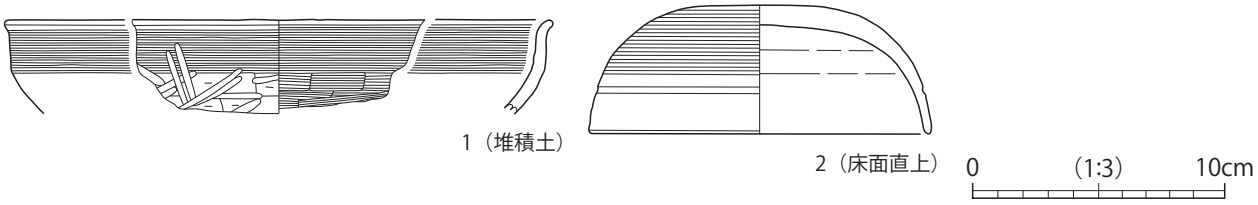
【カマド】北壁に位置し、煙道部の後方は失われている。燃焼部は壁面に直交して付設される。東袖の規模は長さ 70cm、幅 31cm、西袖の規模は長さ 70cm、幅 38cm を測り、北壁に対し「ハ」字状に開いて構築されている。西袖の先端には加工礫の芯材が埋設され、焚口前方には懸架材とみられる加工礫が崩落していた。燃焼部は奥行き 50cm、幅 38cm を測り、壁内に位置する。底面は皿状に窪み、煙道部へは高低差をもたずに直接繋がる。中央からやや奥壁に寄った位置には、棒状礫の支脚が埋設されている。煙道部は長さ 43cm、幅 19cm、深さ 6cm が残存し、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】土坑 P1 を検出した。平面長方形を呈する、皿状の浅い土坑である。

【掘り方】深さ 3 ～ 5cm 程を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器坏 1 点、須恵器坏 1 点を掲載した（第 79 図）。2 の須恵器蓋はカマド西側の床面出土遺物である。焼成は不良で灰白色を呈し、体部全体がカキメ調整される。

【時期】床面上から出土した第 79 図－ 2 が直接伴う遺物と思われ、1 期（7 世紀前葉前後）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-289	04年度	SI17	堆積土	土師器	坏	(21.6)	-	(3.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ→一部ヘラミガキ	ヨコナデ、体部ヘラナデ		39
2	E-045	04年度	SI17	床面直上	須恵器	蓋	(13.4)	-	5.1	ロクロ調整、天井部カキメ	ロクロ調整		39

第 79 図　SI17 竪穴住居跡出土遺物

SI18 竪穴住居跡（第 80 図）

【位置・確認】調査区西部の 9 グリッドに位置する。SI4A との重複によりほとんどの部分が失われ、北壁から東および西側コーナーにかけての狭い範囲が残存する。

【重複】SI4A・4B、SB3 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 39cm、東西 327cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】北壁基準で N － 35° － E である。

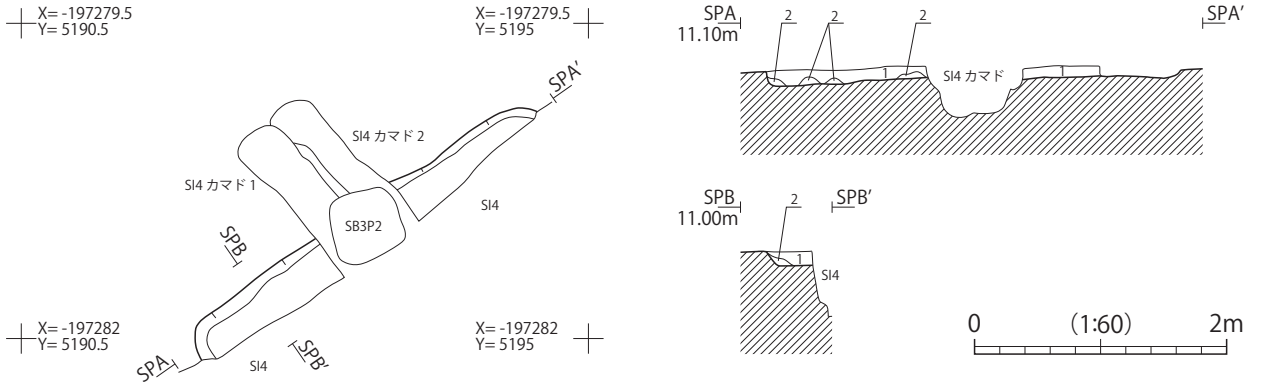
【堆積土】2 層に分層された。ともに住居堆積土である。

【壁面】高さ 7 ～ 11cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】検出範囲が狭く、詳細不明である。掘り方をもたず、基本層Ⅳ層を床面としている。

【出土遺物】堆積土から土師器の破片がわずかに出土したが、図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、1 期（7 世紀前葉前後）の SI4A ～ C より古く、1 期以前と考えられる。



SI18　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。

第 80 図　SI18 竪穴住居跡

SI19 竪穴住居跡（第 81 ～ 83 図）

【位置・確認】調査区南部中央の 40・41 グリッドに位置する。重複遺構や撹乱、削平などにより壁のほとんどが失われ、床面が部分的に残存するのみである。

【重複】SM83・86、Pit417・437・474・475・478 より古く、SI20 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 703cm、東西 730cm を測る。平面形状は隅丸方形と推定される。

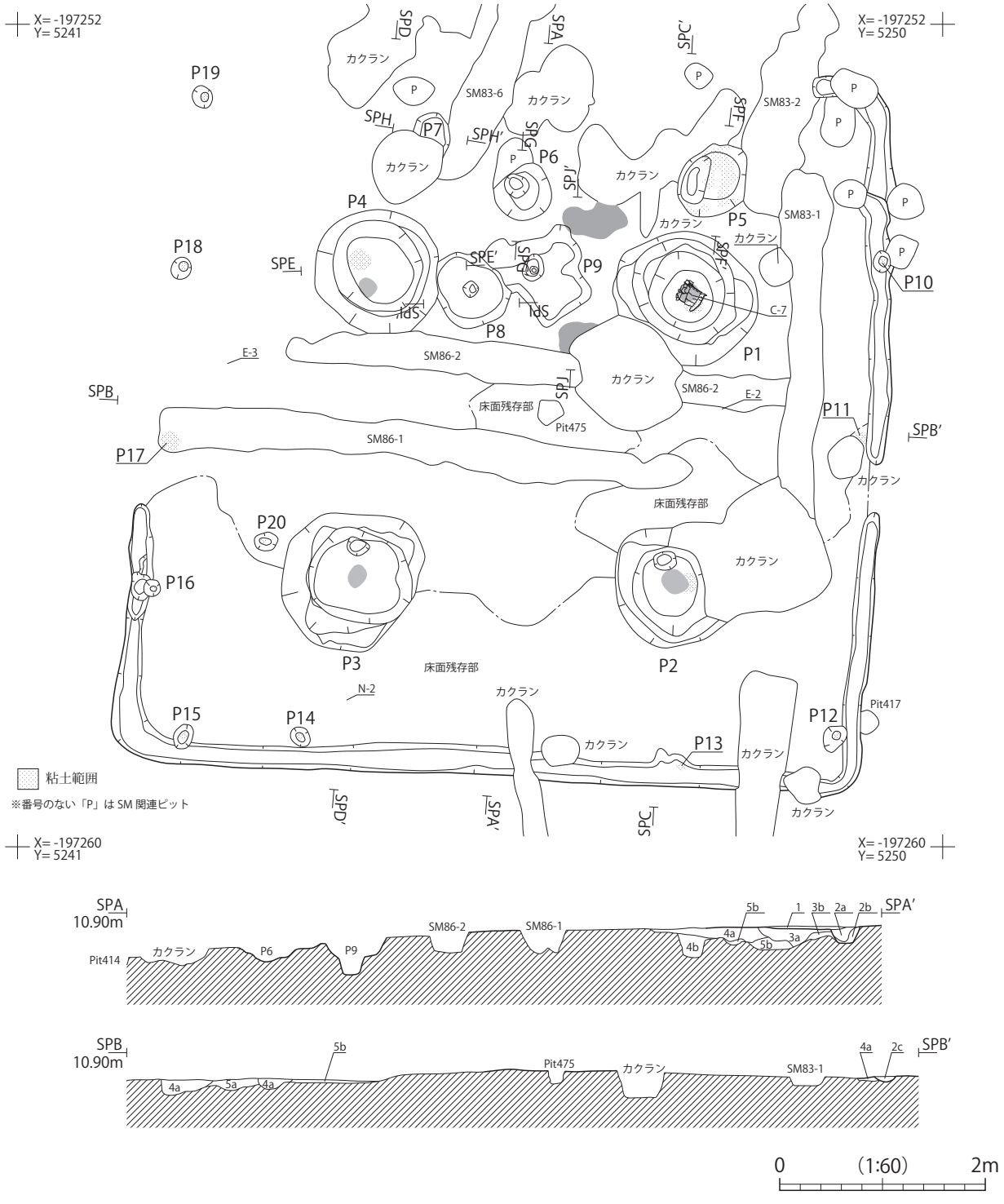
【方向】東壁基準で N － 4° － E である。

【堆積土】大別で 5 層、細別で 10 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、床面が残存する南側のみに薄く堆積している。2 層は周溝堆積土、3 ～ 5 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 2 ～ 5cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】残存範囲が狭く、詳細不明である。

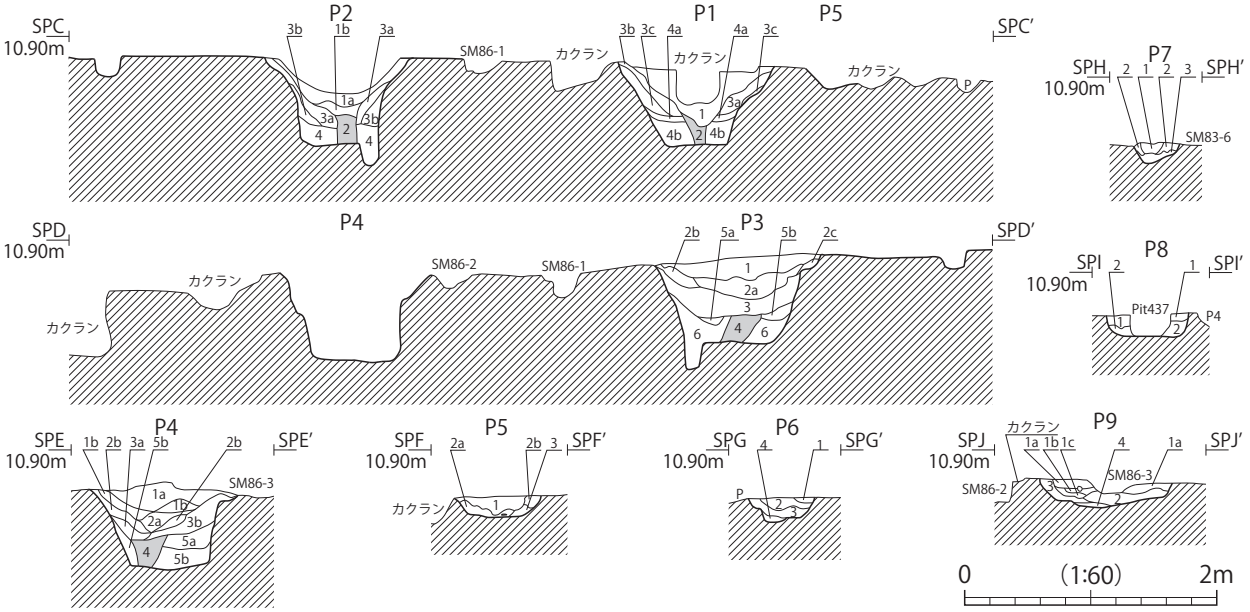
【柱穴】15 基検出した。P1 ～ 4 が主柱穴である。これら 4 基のいずれにも、柱痕跡が確認された。柱痕跡は土層断面で確認できたほか底面の変色範囲（あたり）としても認められ、両者の位置が整合しないため柱の据え替えが行われたと考えられる。P4 堆積土の中層からは、柱の抜き取り後に転落したとみられる土師器甕（第 83 図－ 4）が出土した。P10 ～ 19 は壁柱穴、P20 は補助的な柱穴であると思われる。いずれの底面にもあたりが伴う。



SI19　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック少量含む。
周溝	2a	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック微量含む。
	2c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
住居掘り方	3a	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	3b	10YR7/2 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	4a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	4b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	5a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	5b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。

第 81 図　SI19 竪穴住居跡（1）



SI19　施設堆積土註記表

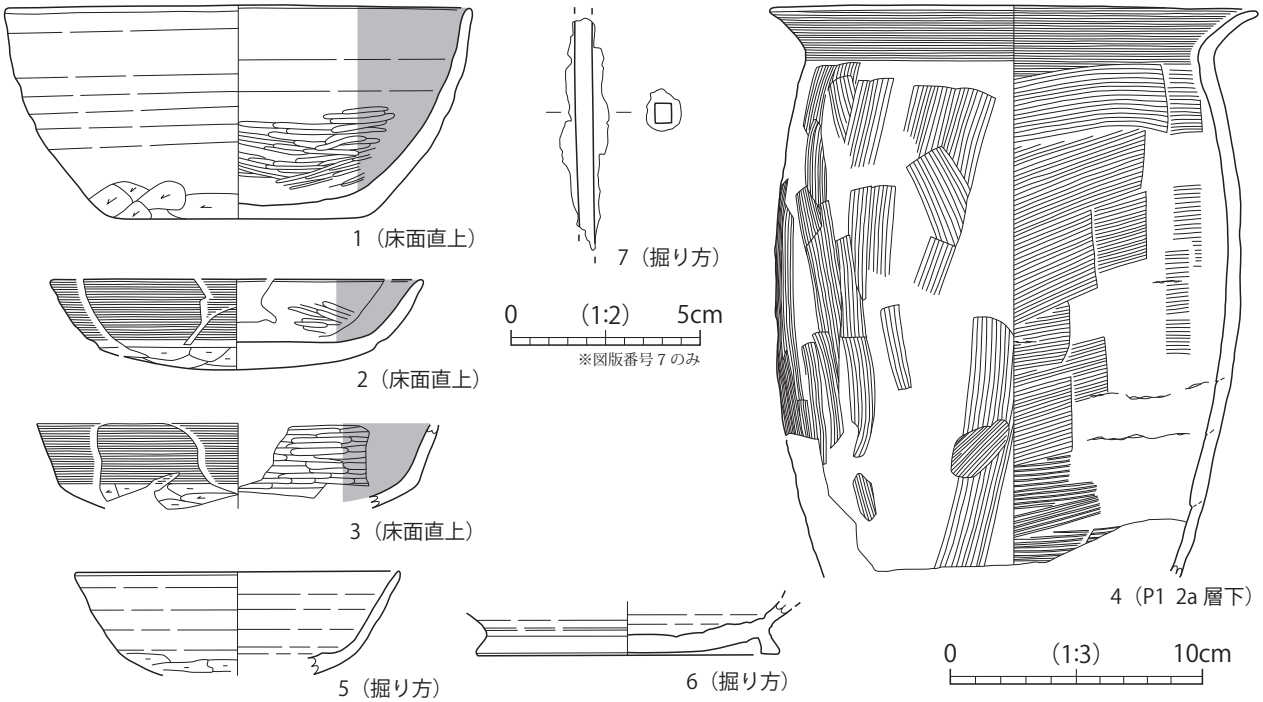
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	2	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。
	3c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	4a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
	4b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
P2	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量、灰白色火山灰微量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。(柱抜取時の崩落土か)
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。(柱痕跡)
	3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量含む。
	3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。
	4	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	2a	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	2c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 斑状に多量、焼土粒・炭化物微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 斑状に多量含む。(柱痕跡)
	5a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。
	5b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	6	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
P4	1a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	1b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	2a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・焼土粒微量含む。
	3a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。(柱抜取時の崩落土か)
	3b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
	4	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含み、全体に酸化鉄浸透。(柱痕跡)
	5a	10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・マンガン微量含む。
	5b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
P5	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	2a	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	浅黄橙色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	2b	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・浅黄橙色粘土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック多量、浅黄橙色粘土ブロック・炭化物微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック微量含む。
P7	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、上位に酸化鉄微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、焼土粒微量含む。
P9	1a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	焼土ブロック少量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・白色粒・酸化鉄微量含む。
	1b	7.5YR5/4 にぶい褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量、焼土ブロック (10㎜程度) 少量、灰白色粘土粒微量含む。
	1c	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土ブロック微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	焼土ブロック微量含み、下位にⅣ層土ブロック集中。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック微量含む。

第 82 図　SI19 竪穴住居跡（2）

SI19　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	139 × 130	68	
P2	円形	116 × (108)	69	
P3	円形	133 × 130	73	
P4	円形	127 × 119	78	
P5	楕円形	(76) × (65)	17	
P6	円形	57 × (55)	23	
P7	楕円形	45 × (37)	16	
P8	楕円形	79 × 65	20	
P9	不整形	100 × 82	20	
P10	楕円形	21 × 17	—	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	不明	—	—	
P12	楕円形	28 × 20	11	
P13	不明	—	—	
P14	楕円形	22 × 17	11	
P15	楕円形	25 × 18	11	
P16	円形	17 × 16	11	
P17	不明	—	—	
P18	楕円形	22 × 19	12	
P19	楕円形	22 × 20	12	
P20	楕円形	22 × 18	12	



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-001	05年度	SI19	床面直上	土師器	坏	18.6	10.0	8.4	ロクロ調整、体部下端～底部ヘラケズリ、底部線刻「×」	ロクロ調整、体部下半ヘラミガキ、黒色処理		39
2	C-004	05年度	SI19	床面直上	土師器	坏	(14.8)	-	3.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		39
3	C-006	05年度	SI19	床面直上	土師器	坏	-	-	(3.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		39
4	C-007	05年度	SI19-P1	2a 層下	土師器	甕	19.4	-	(22.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下位ハケメ、輪積み痕		39
5	E-001	05年度	SI19	掘り方	須恵器	坏	(13.0)	-	(4.1)	ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ロクロ調整		39
6	E-002	05年度	SI19	掘り方	須恵器	壺	-	12.0	(2.1)	ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ→高台貼付	ロクロ調整		39

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
7	N-002	05年度	SI19	掘り方	金属製品	釘か	(6.2)	4.05	0.55	8.7	角柱状、両端部欠損	39

第 83 図　SI19 竪穴住居跡出土遺物

【周溝】西壁の南半部と南壁、東壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 16 ～ 30cm、深さ 6 ～ 15cm を測る。

【カマド】主柱穴 P1 の西側に被熱部分が 2 箇所検出されたが、カマドとの関連は判然としない。

【その他の施設】土坑 P5 ～ 9 を検出した。いずれも人為的に埋め戻されている。P5 は壁面や底面に灰白色粘土を薄く貼り付けている。P6・8・9 は堆積土に焼土が多く含まれ、カマドとの関連が考えられる。

【掘り方】深さ 4 ～ 22cm 程を測る。底面は中央部が高まり、西壁から南壁の壁際が「L」字状に低くなる。

【出土遺物】残存状況から、床面施設内や掘り方埋土など出土層位に偏りがあるが、床面上の遺物も数点認められる。土師器坏 3 点、甕 1 点、須恵器坏 1 点、壺 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 83 図）。1 の土師器坏はロクロ調整後、

内面の下半をヘラミガキ調整する。2 の坏は平底に近い器形を呈する。5 の須恵器坏はシャープな作りで、体部から口縁部にかけて直線的に外傾して開く。底部は丸底であると思われる。6 の壺は高台を伴う底部の破片で、高台部は「ハ」字状に開く。7 は鉄釘と思われる。

【時期】床面上や柱穴 P1 から出土した第 83 図－ 1 ～ 3・4 が直接伴う遺物と思われ、5 期（8 世紀後半）と考えられる。

SI20 竪穴住居跡（第 84・85 図）

【位置・確認】調査区南部中央の 40・41 グリッドに位置する。SI19 の南東側に重複して検出された。壁面および床面は北東コーナー周辺に残存するのみであり、掘り方も重複遺構や撹乱の影響を著しく受けている。

【重複】SI19、SM83・86、Pit475・476 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 478cm、東西 491cm を測る。平面形状は隅丸方形と推定される。

【方向】東壁基準で N － 1°－ E である。

【堆積土】大別で 3 層、細別で 12 層に分層された。いずれも掘り方埋土である。

【壁面】北東コーナーに高さ 2 ～ 4cm 程が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】残存範囲が狭く、詳細不明である。

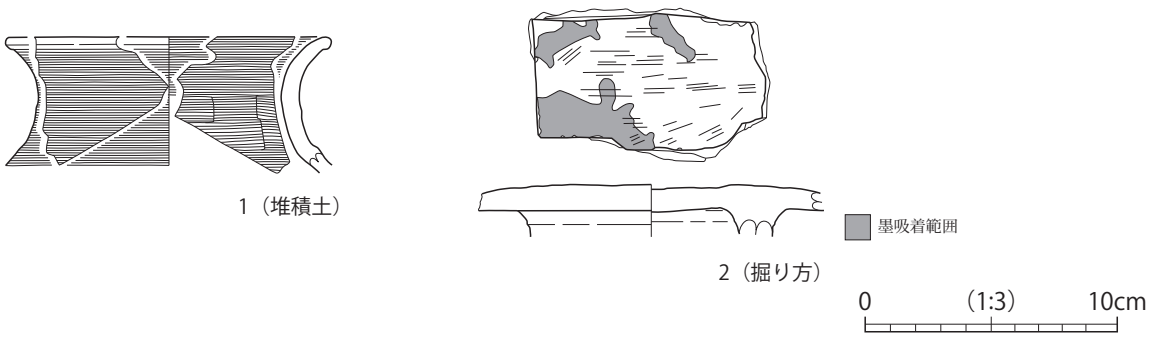
【柱穴】8 基検出した。P1 ～ 4 が主柱穴である。いずれの柱穴にも柱痕跡が底面のあたりとして認められるほか、P3 では土層断面でも観察された。このような柱痕跡は P1 ～ 3 では 2 箇所ずつ認められ、このことから柱の据え替えが行われたと考えられる。また、P3 の底面には長さ 38cm、幅 12cm の細長いあたりがあり、柱材の断面形状が長方形であった可能性も考えられる。P6 ～ 8 は補助的な柱穴、P9 は壁柱穴と考えられる。P6 ～ 8 の底面にはあたりが認められる。

【その他の施設】土坑 P5・10 ～ 12 を検出した。いずれも人為的に埋め戻されている。P10・11 は壁面や底面に灰白色粘土が薄く貼り付けられている。P10 は、位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。

【掘り方】深さ 7 ～ 10cm 程を測る。底面には、溝状・土坑状の掘り込みが不規則に掘り込まれている。

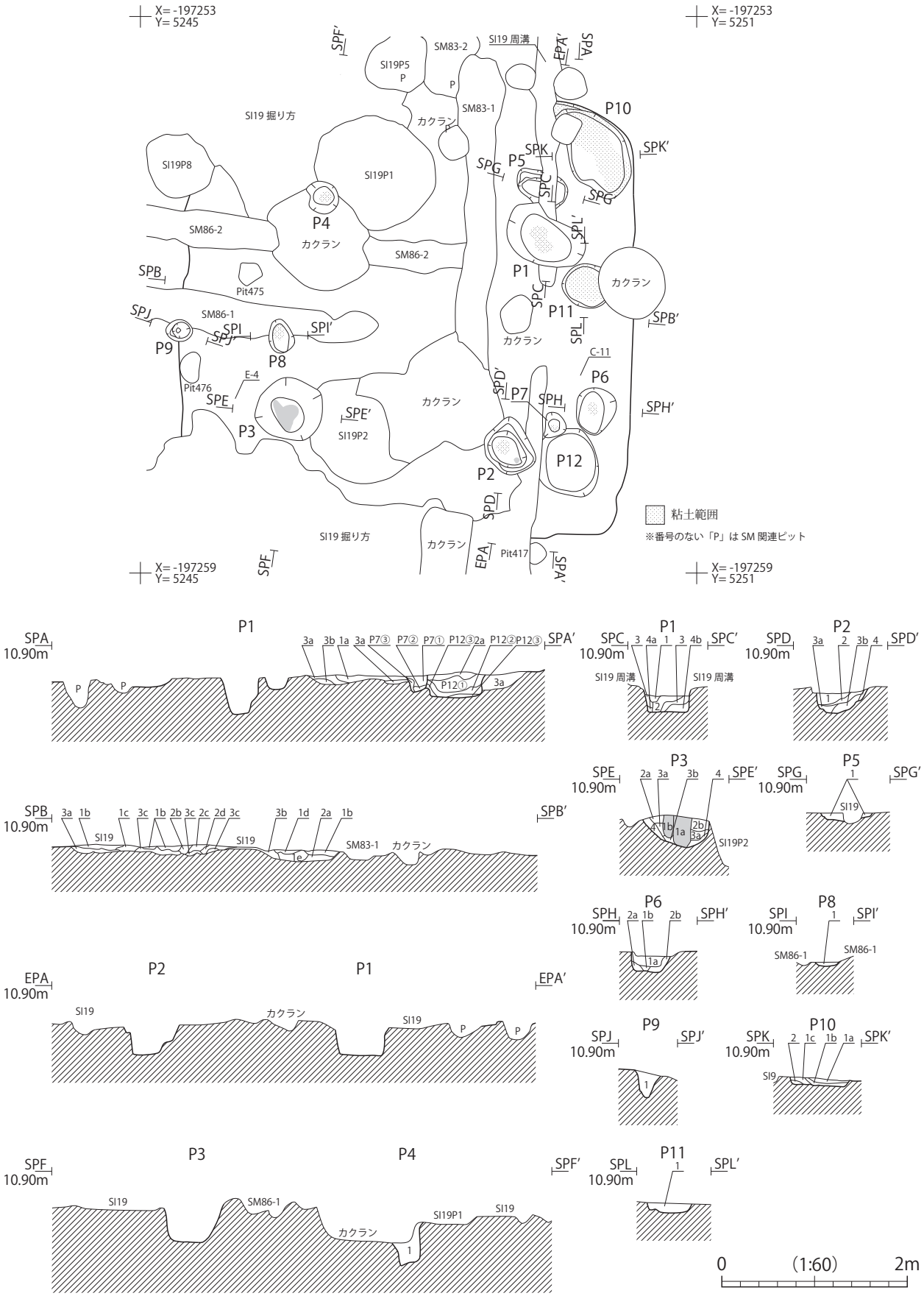
【出土遺物】床面施設内や掘り方埋土からの出土遺物のほか、床面出土遺物も数点認められた。土師器甕 1 点、須恵器壺 1 点を掲載した（第 84 図）。2 の須恵器壺は高台を伴う底部の破片で、硯に転用されている。このため内面は平滑になっており、墨が薄く吸着している。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、5 期（8 世紀後半）の SI19 よりは古い。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-010	05年度	SI20-P1	堆積土	土師器	甕	(13.0)	-	(5.4)	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ・ヘラナデ		39
2	E-004	05年度	SI20	掘り方	須恵器	転用硯	-	-	(2.1)	ロクロ調整	ロクロ調整、底部に墨痕		39

第 84 図　SI20 竪穴住居跡出土遺物



第 85 図　SI20 竪穴住居跡

SI20　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR6/1 褐灰色	粘土	酸化鉄微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、灰白色粘土粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	4a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	
	4b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
P2	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	2	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土粒微量含む。
	3a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
	3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。
	4	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
P3	1a	—	—	(柱痕跡)
	1b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)
	2a	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 斑状に多量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、灰白色粘土粒微量含む。
	3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・灰白色粘土粒微量含む。
	3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色粘土ブロック多量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量、焼土粒・炭化物少量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰白色粘土ブロック多量、焼土粒・炭化物少量含む。
P6	1a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	1b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック微量含む。
	2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量含む。
P7	①	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、灰白色粘土粒微量含む。
	②	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	③	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
P8	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
P9	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
P10	1a	10YR8/4 浅黄橙色	粘土	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	1b	2.5Y6/2　灰黄色	シルト	焼土粒微量含み、浅黄橙色粘土ブロック一部に集中。
	1c	10YR8/3 浅黄橙色	粘土	Ⅳ層土ブロック微量含む。
	2	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土主体。
P11	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物多量含む。
P12	①	5YR4/2　灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	②	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	③	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。

SI20　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
	1c	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	1d	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
	1e	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック多量含む。
	2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	2b	5YR4/2　灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	2c	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
	2d	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 部分的に集中。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土ブロック (5㎜程度) 微量含む。
	3c	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。

SI20　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	89 × 50	39	
P2	隅丸方形	55 × 47	28	
P3	楕円形	75 × 63	34	
P4	円形	36 × 34	51	
P5	楕円形	57 × (33)	8	
P6	楕円形	51 × 42	23	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	楕円形	27 × 22	24	
P8	楕円形	37 × 26	4	
P9	楕円形	29 × 24	22	
P10	楕円形	102 × 65	9	
P11	円形	51 × (45)	11	
P12	楕円形	73 × (43)	23	

SI21 竪穴住居跡（第 86 ～ 88 図）

【位置・確認】調査区南東部の 46 グリッドに位置する。削平のため、壁の大半は失われている。

【重複】他遺構との重複は認められない。

【規模・形態】検出した規模は、南北 213cm、東西 254cm を測る。平面形状は隅丸長方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 22° － W である。

【堆積土】大別で 9 層、細別で 17 に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土、3 層はカマド関連層である。カマド使用時の堆積とみられ、焼土・炭化物・灰を主体とする。4 ～ 6 層はカマド構築土。袖構築土の 4 層は基本層Ⅳ

層土に類似する。7 ～ 9 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 1 ～ 4cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】4 基検出した。壁際にそれぞれ 1 基ずつ配置されている。柱痕跡は、P4 の底面にあたりが認められる。

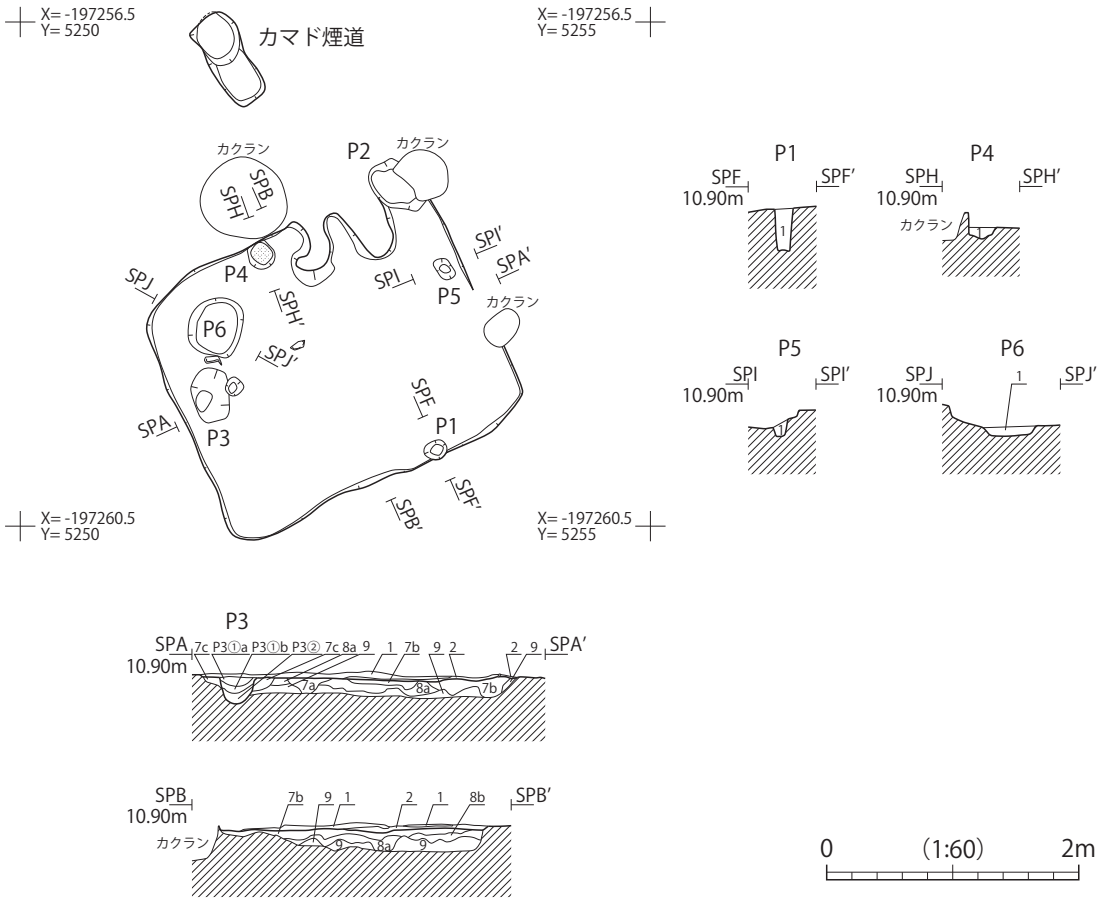
【カマド】北壁に位置し、煙道部の 1/2 程は失われている。燃焼部は壁面に直交して付設される。東袖の規模は長さ 56cm、幅 39cm、西袖の規模は長さ 53cm、幅 21 ～ 33cm を測り、北壁に対し「ハ」字状に開いて構築されている。燃焼部は奥行き 48cm、幅 16 ～ 26cm、奥壁高 11cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦で、奥壁は緩やかに立ち上がる。煙道部は長さ 185cm と推定されるが、残存するのは煙出しを含む長さ 75cm、幅 30cm、深さ 24cm の部分である。底面は煙出しに向かって緩やかに下がる。煙出し部分はピット状に掘り込まれ、底面から構築材に転用したとみられる土師器甕（第 88 図－ 4）が出土した。

【その他の施設】土坑 P2・6 を検出した。P2 は位置関係から貯蔵穴と考えられ、土師器甕（第 88 図－ 3）が置かれた状態で出土した。P6 は人為的に埋め戻されている。

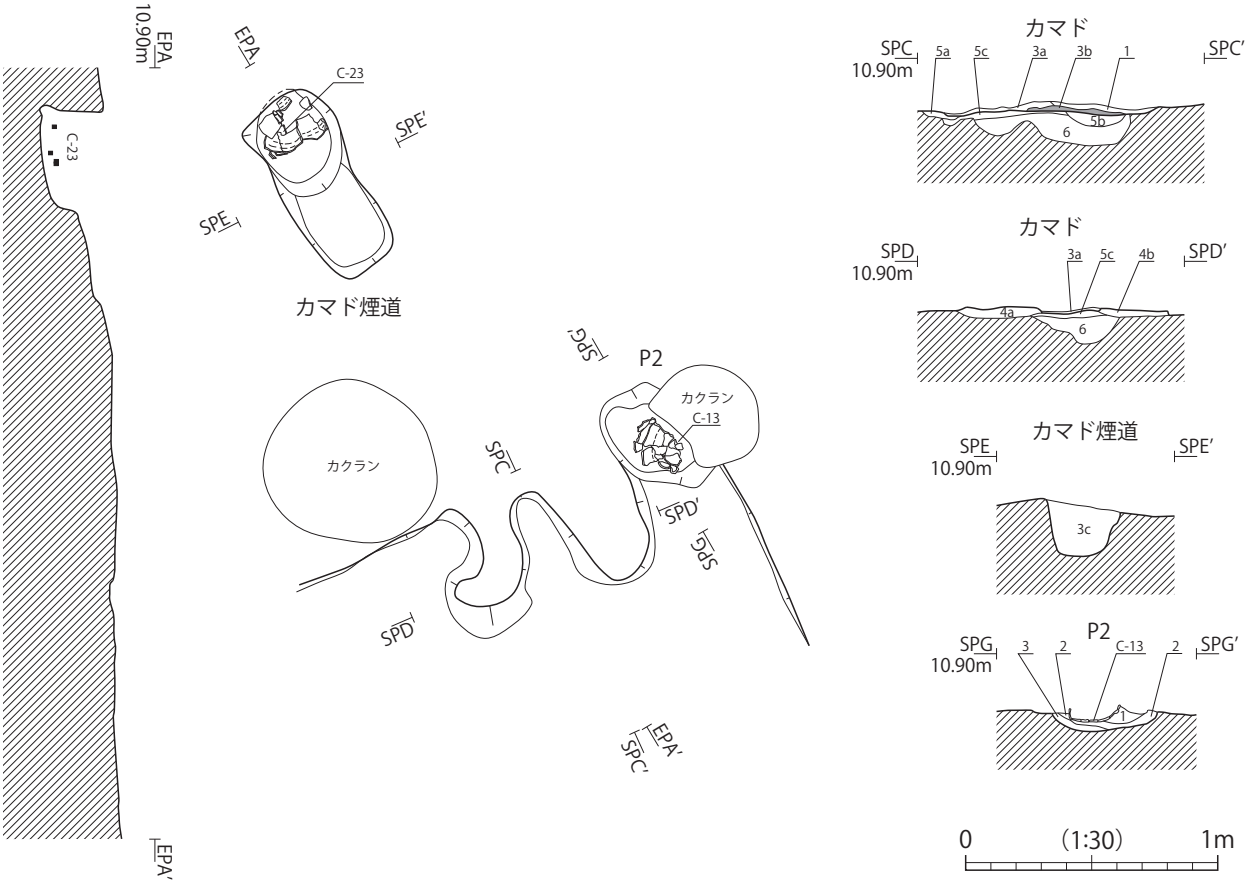
【掘り方】深さ 6 ～ 18cm 程を測る。底面は南側に下がる階段状を呈する。

【出土遺物】堆積土出土の遺物のほか、床面出土遺物や床面施設内の出土遺物が数点認められる。土師器坏 2 点、甕 2 点を掲載した（第 88 図）。甕の外面は、ともにハケメ調整される。

【時期】床面上や住居内土坑 P2、カマド煙道内から出土した第 88 図－ 2 ～ 4 が直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



第 86 図　SI21 竪穴住居跡（1）



SI21　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含み、部分的にグライ化。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、橙色焼土粒微量含む。
カマド	3a	5YR5/2　灰褐色	シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
	3b	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物微量含む。
	3c	7.5YR6/2 灰褐色	粘土質シルト	炭化物ラミナ状に多量含む。
カマド掘り方	4a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量、灰白色粘土粒・暗褐色土ブロック少量含む。(被熱により内壁赤化)
	4b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・暗褐色土ブロック少量含む。(被熱により内壁赤化)
	5a	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	焼土粒・炭化物多量含む。
	5b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物多量、黄白色粘土粒少量含む。
	5c	5GY5/1　ｵﾘｰﾌﾞ灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
	6	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック多量、炭化物少量含む。
住居掘り方	7a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	7b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
	7c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	8a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	8b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	9	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。

SI21　施設堆積土註記表

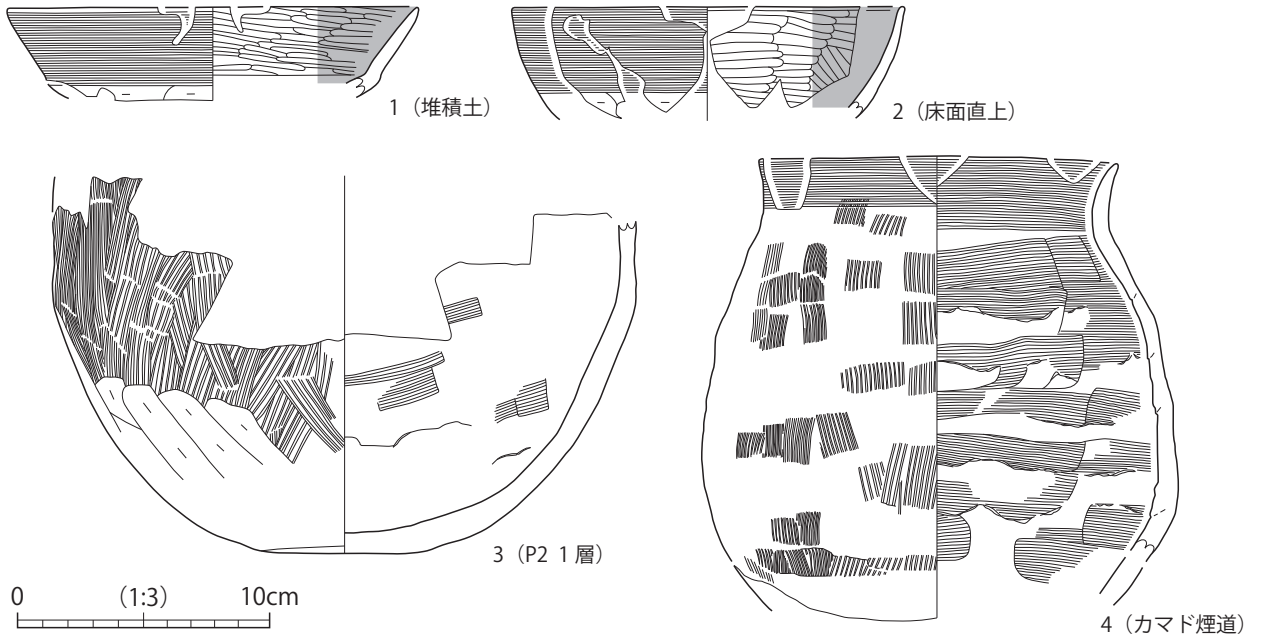
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック少量含む。
P2	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	炭化物微量含む。
	2	2.5YR4/2 灰赤色	粘土質シルト	焼土粒少量、明黄褐色粘土ブロック・炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
P3	① a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 多量含む。
	① b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。
	②	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック多量、炭化物微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。

SI21　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	19 × 15	33	
P2	楕円形	47 × (30)	11	
P3	隅丸方形	42 × 28	36	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	22 × 21	9	
P5	隅丸方形	19 × 12	7	
P6	隅丸方形	46 × 42	8	

第 87 図　SI21 竪穴住居跡 (2)



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-012	05年度	SI21	堆積土	土師器	坏	16.3	-	(3.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		39
2	C-014	05年度	SI21	床面直上	土師器	坏	(15.5)	-	(4.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		39
3	C-013	05年度	SI21-P2	1層	土師器	甕	-	-	(15.0)	胴部ハケメ、胴部下位ヘラケズリ	胴部ヘラナデ、輪積み痕		39
4	C-023	05年度	SI21	カマド煙道	土師器	甕	14.2	-	(18.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		40

第 88 図　SI21 竪穴住居跡出土遺物

SI22 竪穴住居跡（第 89・90 図）

【位置・確認】調査区南西部の 34 グリッドに位置する。残存状態が悪く、重複遺構や撹乱などによって、床面や壁のほとんどが失われている。

【重複】SD13・15、SM84 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 430cm、東西 204cm を測る。南北規模はカマドの位置から算出した推定値である。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 17° － W である。

【堆積土】大別で 10 層、細別で 18 層に分層された。住居堆積土は残存していない。大別 1 ～ 5 層はカマド関連層で、このうち 2 層は燃焼部底面直上の炭化物層、3 ～ 5 層は煙道部の堆積土である。6 層は周溝堆積土、7 ～ 10 層は掘り方埋土である。

【壁面】残存しない。

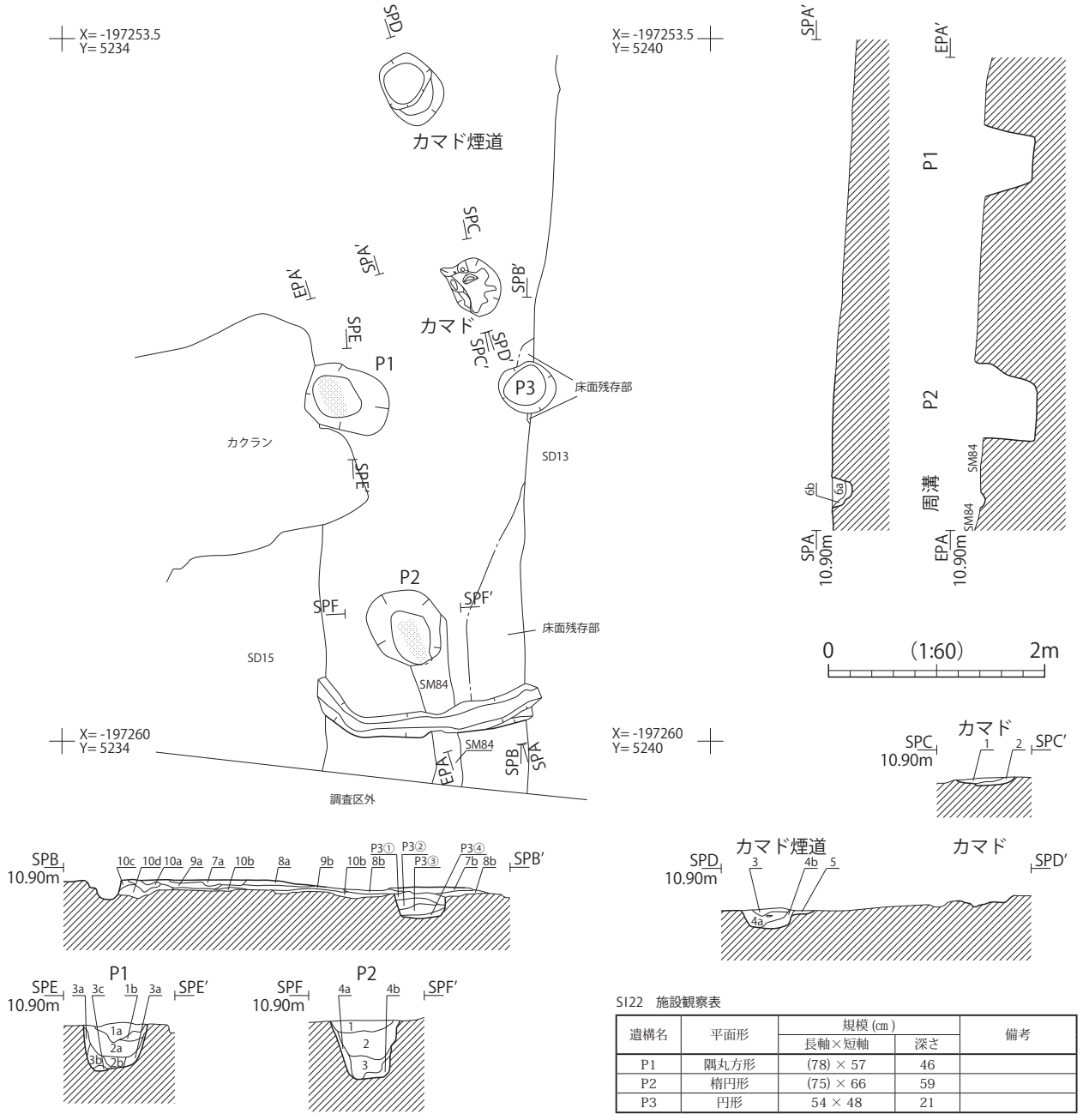
【床面】検出部分の東側に狭い範囲で残存するのみで、詳細不明である。

【柱穴】2 基検出した。形状や位置関係からともに主柱穴とみられる。柱痕跡は底面にあたりが認められたが、P1 のあたりは長さ 42cm、幅 19cm の長楕円形を呈し、P2 のあたりは長さ 43cm、幅 17cm の長方形を呈する。このことから柱材の断面形状が長方形であった可能性も考えられる。

【周溝】南側に検出された。規模は、幅 19 ～ 27cm、深さ 11 ～ 20cm を測る。

【カマド】北壁に位置し、燃焼部底面と煙出しのみが残存する。燃焼部底面は皿状に窪み、奥行き 54cm、幅 45cm を測る。平面形状は不整楕円形を呈する。煙道部は長さ 253cm が推定され、残存する煙出し部分は長さ 66cm、幅 52cm、深さ 19cm のピット状を呈する。

【その他の施設】土坑 P3 を検出した。人為的に埋め戻され、埋土には焼土や灰白色粘土が含まれる。



SI22　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	(78) × 57	46	
P2	楕円形	(75) × 66	59	
P3	円形	54 × 48	21	

SI22　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	5YR4/2　灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土粒少量含む。
	2	10YR2/1　黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。(風化炭化物層)
	3	10YR7/6　明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量含む。
	4a	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、焼土粒・炭化物少量含む。
	4b	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量、炭化物微量含む。
	5	10YR7/6　明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
周溝	6a	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
	6b	10YR6/4　にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
住居掘り方	7a	10YR5/2　灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・褐灰色粘土ブロック多量含む。
	7b	10YR6/6　明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、浅黄橙色粘土ブロック・焼土粒微量含む。
	8a	10YR5/1　褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
	8b	10YR6/3　にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、灰白色粘土ブロック微量含む。
	9a	10YR5/3　にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量含む。
	9b	10YR5/1　褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒少量含む。
	10a	10YR6/2　灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 少量、焼土ブロック (10㎜程度) 微量含む。
	10b	10YR6/4　にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量含む。
	10c	10YR6/4　にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	10d	10YR5/3　にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含み、下位にⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 集中。

第 89 図　SI22 竪穴住居跡

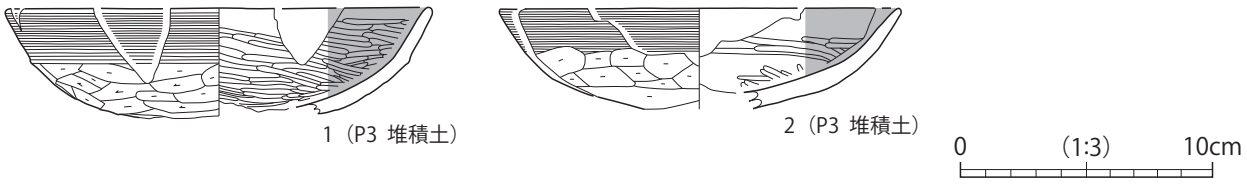
SI22　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・焼土ブロック少量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、酸化鉄微量含む。
	2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量、浅黄橙色粘土ブロック (10㎜程度) 微量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	浅黄橙色粘土ブロック少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・焼土粒微量含む。
	3a	10YR6/8 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
	3b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・浅黄橙色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	3c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度)・炭化物少量、白色粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	4a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。
	4b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土主体。
P3	①	5YR5/2　灰褐色	粘土質シルト	灰白色粘土粒・焼土ブロック・炭化物微量含む。
	②	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度)・灰白色粘土ブロック少量含む。
	③	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	浅黄橙色粘土ブロック多量、焼土ブロック少量含む。
	④	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。

【掘り方】床面が残存する南東側で、深さ 18cm 程を測る。底面は南側が低くなり、全体に土坑状の掘り込みが不規則に掘り込まれている。

【出土遺物】床面施設および掘り方埋土から少量出土している。このうち、土師器坏 2 点を掲載した（第 90 図）。ともに P3 の出土遺物である。

【時期】第 90 図－ 1・2 はともに直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀前葉前後）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-017	05年度	SI22-P3	堆積土	土師器	坏	17.0	-	(4.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		40
2	C-018	05年度	SI22-P3	堆積土	土師器	坏	(16.0)	-	(4.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		40

第 90 図　SI22 竪穴住居跡出土遺物

SI23 竪穴住居跡（第 91・92 図）

【位置・確認】調査区南西部の 33 グリッドに位置する。北側以外は調査区外にかかる。重複遺構や撹乱、削平により、中央部から北側にかけての床面のみが残存する。

【重複】SB17、SD15、SK16 と重複する。新旧関係はこれらよりも古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 407cm、東西 335cm を測り、この範囲に床面が残存する。平面形状は判然としない。

【方向】不明である。

【堆積土】掘り方埋土のみ観察された。大別で 5 層、細別で 13 層に分層される。

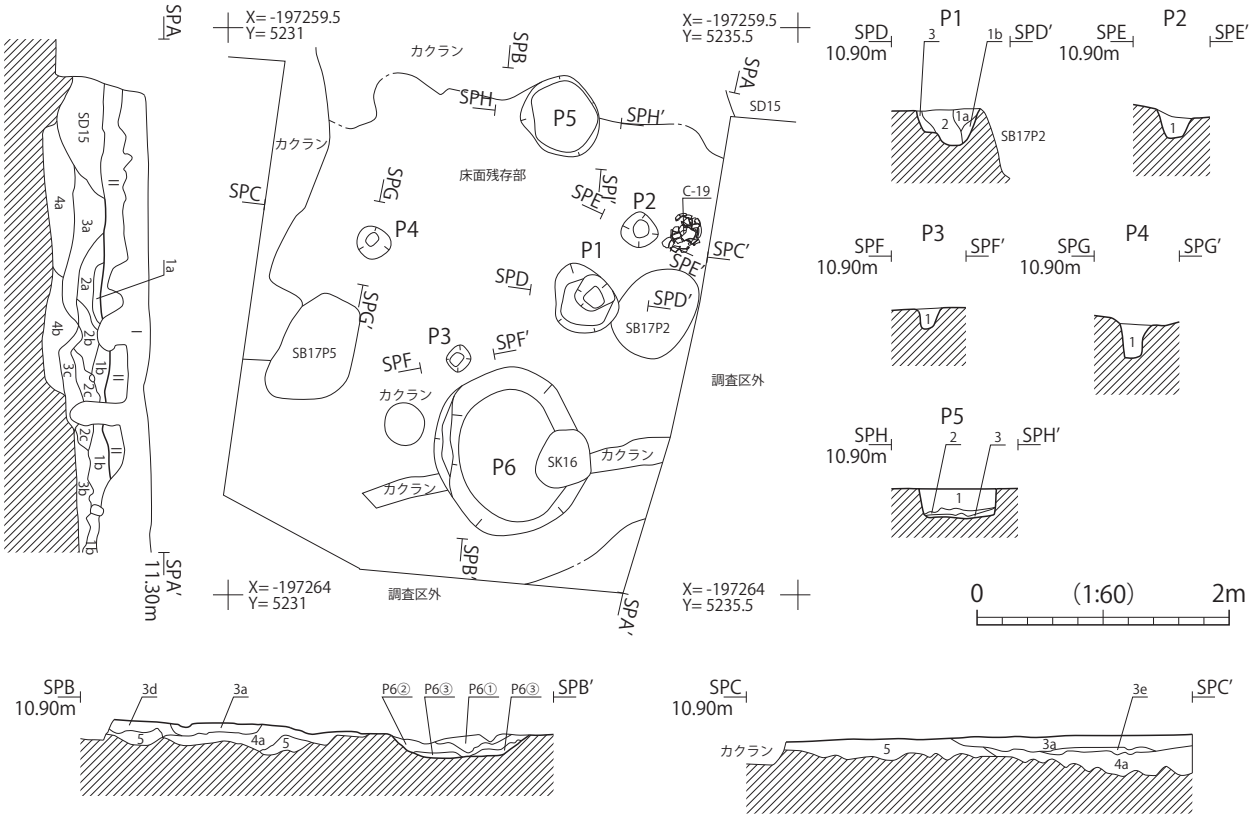
【壁面】残存しない。

【床面】検出部では概ね平坦である。

【柱穴】4 基検出した。このうち P1 が最大で深く、主柱穴の可能性が考えられる。土層断面には柱の抜き取り痕が認められる。

【その他の施設】土坑 P5・6 を検出した。ともに人為的に埋め戻されている。P5 の堆積土には灰白色粘土が多く含まれている。

【掘り方】深さ 8 ～ 43cm 程を測る。底面は東側が低くなる傾向があるが、全体的に不規則に掘り込まれている。



SI23　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック・炭化物微量含む。
	1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	2b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、褐灰色シルトブロック・炭化物少量含む。
	2c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・白色粒・炭化物微量含む。
	3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。
	3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	3c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・白色粒・赤褐色粘土粒・炭化物微量含む。
	3d	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	明黄褐色土ブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	3e	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	黒褐色土ラミナ状に多量含む。
	4a	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 多量含む。
	4b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰色粘土ブロック多量、焼土粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	明黄褐色土・酸化鉄多量含む。

SI23　施設堆積土註記表

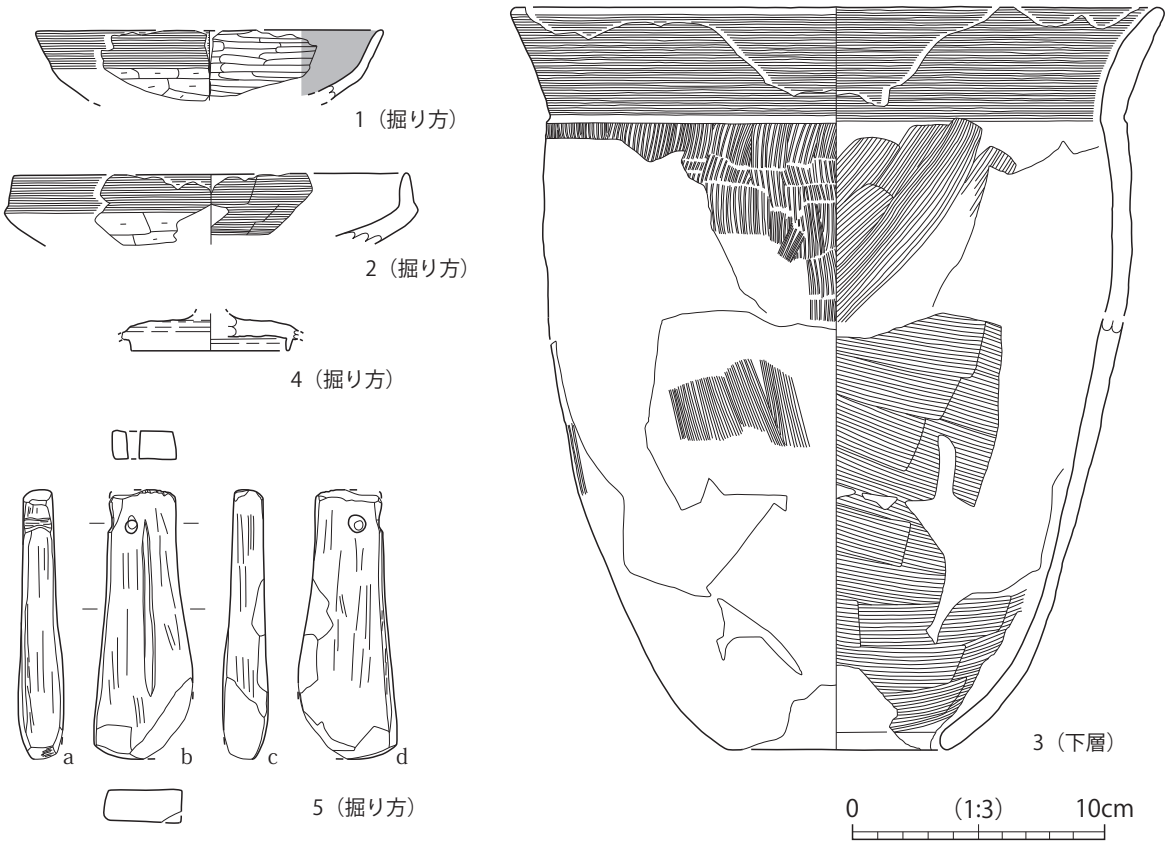
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	浅黄色粘土ブロック多量含む。
	1b	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・褐灰色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。(柱抜き取り痕)
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
P3	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
P5	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、Ⅳ層土ブロック微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック多量、Ⅳ層土ブロック微量含む。
P6	①	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量、灰白色粘土粒・焼土粒・微量含む。
	②	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	浅黄橙色粘土ラミナ状に多量、焼土粒微量含む。
	③	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。

SI23　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	56 × 49	37	
P2	隅丸方形	28 × 25	24	
P3	隅丸方形	19 × 18	15	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	26 × 25	31	
P5	楕円形	66 × 55	23	
P6	楕円形	129 × 113	15	

第 91 図　SI23 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-020	05年度	SI23	掘り方	土師器	坏	(13.7)	-	(2.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		40
2	C-021	05年度	SI23	掘り方	土師器	坏	(15.6)	-	(2.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラナデ	外面漆	40
3	C-019	05年度	SI23	下層	土師器	甑	(26.0)	(8.8)	30.0	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		40
4	E-005	05年度	SI23	掘り方	須恵器	蓋	-	-	(1.6)	ロクロ調整	ロクロ調整		40

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
5	Kd-001	05年度	SI23	掘り方	石製品	砥石	10.7	(3.9)	1.6	98.3	粘板岩	砥面 4 面、溝状痕（b 面）、穿孔 1 ヶ所、孔径 5 ～ 6.5㎜、一部欠損	40

第 92 図　SI23 竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】残存状況から、床面施設内や掘り方埋土の遺物がほとんどを占める。土師器坏 2 点、甑 1 点、須恵器蓋 1 点、石製品 1 点を掲載した（第 92 図）。2 の坏は鬼高系土師器の坏である。3 の甑は床面上 2cm 程のレベルから出土した。4 の蓋は内面に返りが付くタイプで、ツマミ部が欠損している。5 は粘板岩製の下げ砥石である。

【時期】第 92 図－ 3 は直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。

SI24 竪穴住居跡（第 93 図）

【位置・確認】調査区南西端部の 28 グリッドに位置する。大半が撹乱で失われ、削平のため東壁周辺の掘り方のみが残存する。

【重複】他遺構との重複は認められない。

【規模・形態】検出した規模は、南北 210cm、東西 135cm を測る。平面形状は判然としない。

【方向】東壁基準で N － 23° － E である。

【堆積土】掘り方埋土のみ観察された。灰黄褐色粘土質シルトの単層である。

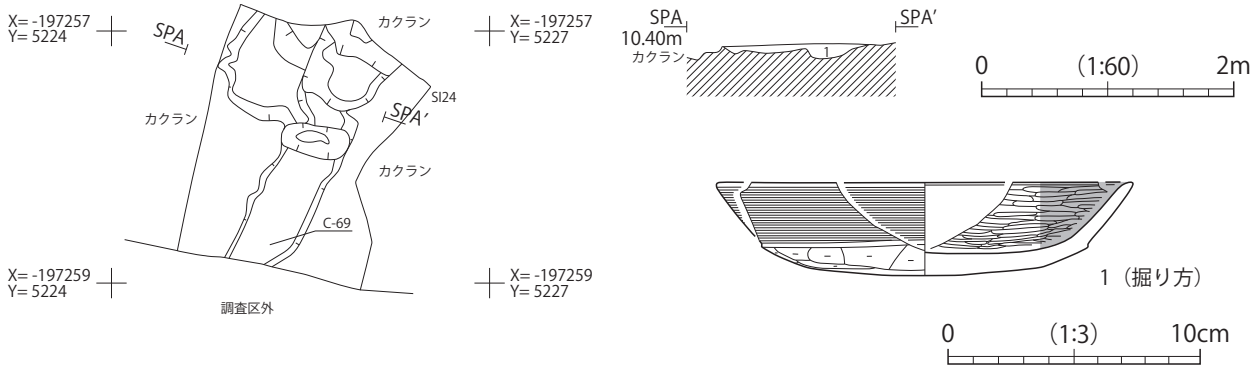
【壁面】残存しない。

【床面】残存しない。

【掘り方】深さ 4 ～ 14cm 程度が残存する。底面は東壁際および北側が低くなる。

【出土遺物】掘り方埋土からわずかに出土している。土師器坏 1 点を掲載した（第 93 図）。この坏は検出時の出土であり、床面に近い層位であると考えられる。

【時期】第 93 図－ 1 の土師器坏は本竪穴住居跡に直接伴う可能性があり、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）と考えておきたい。



SI24　堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物・灰少量 (一部ラミナ状) 含む。

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-069	05年度	SI24	掘り方	土師器	坏	(16.6)	-	3.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		40

第 93 図　SI24 竪穴住居跡・出土遺物

SI25 竪穴住居跡（第 94・95 図）

【位置・確認】調査区西部の 73 グリッドに位置する。大半が調査区外にかかり、カマド周辺の南西側 1/4 程の範囲を検出した。

【重複】SD11 より古く、SI27・30 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 408cm、東西 384cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 138° － W である。

【堆積土】大別で 14 層、細別で 32 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、床面直上の 2c 層は灰をラミナ状に多く含む。3・4 層はカマド 1 関連層である。4 層はカマド使用時の堆積とみられ、炭化物・灰を主体とし、下位に焼土が集中する。5 ～ 8 層はカマド 1 構築土で、袖構築土の 4・5 層は基本層Ⅳ層に類似する。9 ～ 11 層はカマド 2 関連層である。黄色系統の粘土質シルトが主体であり、人為的に突き崩された構築土で埋土したものと考えられる。12 ～ 14 層は掘り方埋土である。

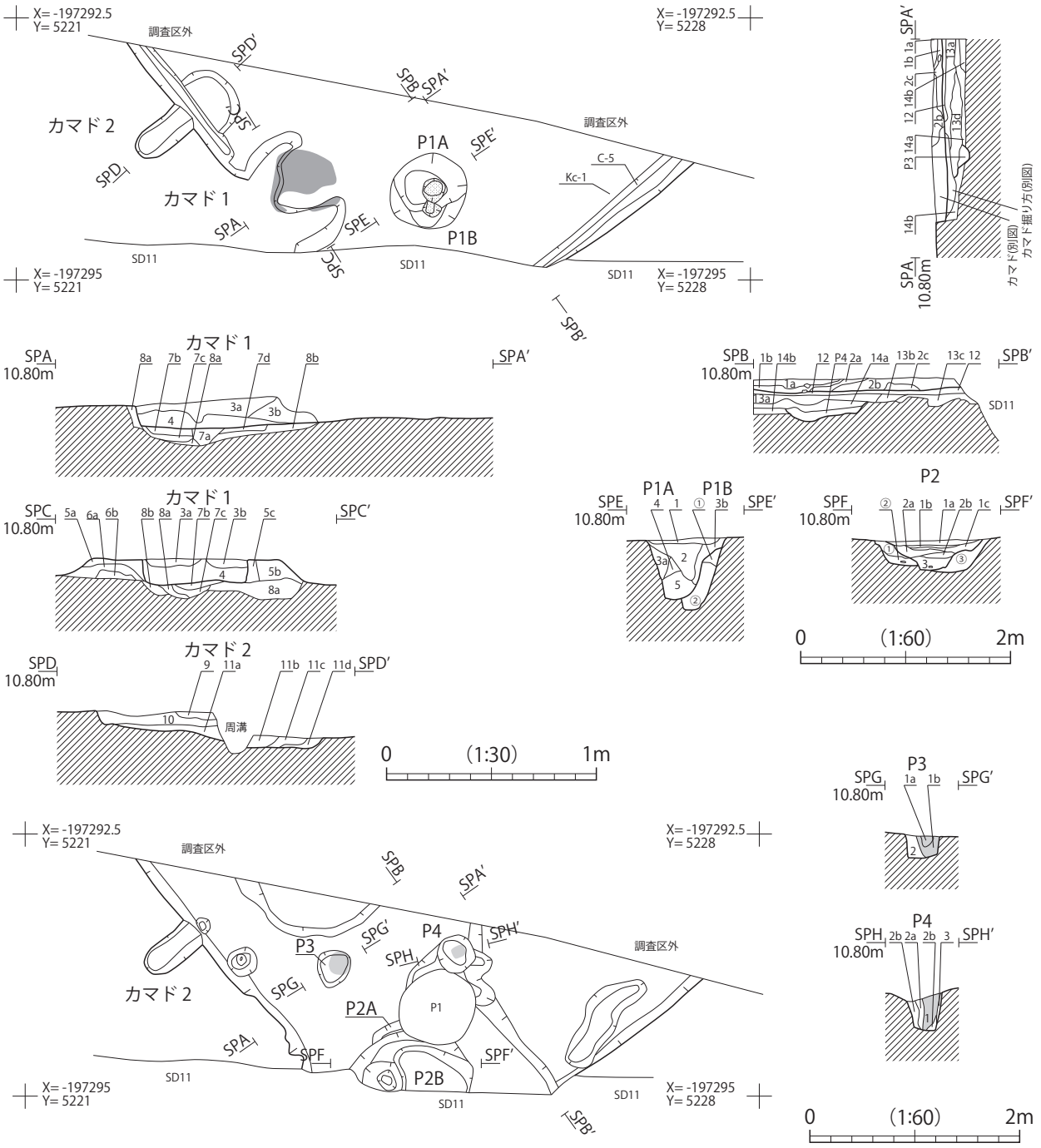
【壁面】直立気味に立ち上がる。壁高は最大で 17cm を測る。

【床面】検出部では概ね平坦である。

【柱穴】3 基検出した。P1 は形状や位置関係から主柱穴とみられ、新しい方から P1A → P1B の順で 2 基が重複する。柱痕跡は、P1A・P1B ともに底面にあたりが認められた。P1A の土層断面には、柱の抜き取り痕とみられる不自然な堆積部分がある（2 層）。掘り方で検出した P4 も、建て替え前の主柱穴の可能性があるが、規模は P1 よりも一回り以上小さい。土層断面には柱痕跡が認められる。P3 は補助的な柱穴と考えられ、土層断面には柱痕跡が認められる。掘り方で検出した。

【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 10 ～ 20cm、深さ 4 ～ 12cm を測る。西壁の周溝はカマド 2 を壊して掘り込まれている。

【カマド】西壁から 2 基検出した。カマド 1 は壁の南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。煙道部は失われている。南袖の規模は長さ 62cm、幅 28 ～ 44cm、北袖の規模は長さ 65cm、幅 20 ～ 39cm を測り、西壁に対し「ハ」字状に開いて構築されている。燃焼部は奥行き 57cm、幅 25 ～ 58cm、奥壁高 10cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦で、奥壁は直立気味に立ち上がる。カマド 2 はカマド 1 の北側で検出した。燃焼部底面と煙道部が残存し、カマド 1 に先行するものと考えられる。燃焼部底面は皿状に窪み、奥行き 48cm、幅 62cm を測る。平



第 94 図　SI25 竪穴住居跡

SI25　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	2.5Y5/3　黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度)・焼土・炭化物微量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物密、灰多量、明黄褐色シルトブロック (5㎜程度)・焼土少量含む。
	2a	10YR3/4 暗褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量、焼土微量含む。
	2b	10YR3/4 暗褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度)・焼土・炭化物微量含む。
	2c	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰ラミナ状に多量、焼土・炭化物微量含む。
カマド 1	3a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト多量、焼土・炭化物微量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト多量、焼土・炭化物・灰一部に集中。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・灰密、下位に焼土集中。
カマド 1 袖	5a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	5b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土少量含む。
	5c	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土微量含む。
	6a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10㎜程度)・焼土少量含む。(袖壁構築土)
	6b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。(袖壁構築土)
カマド 1 掘り方	7a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土多量、明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	7b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	焼土微量含む。(火床面構築土)
	7c	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (30㎜程度)・炭化物多量含む。(火床面構築土)
	7d	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	焼土多量含む。(火床面構築土)
	8a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 20㎜程度)・焼土・炭化物少量含む。(火床面・奥壁構築土)
	8b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒色シルトラミナ状に少量、焼土微量含む。(火床面構築土)
カマド 2	9	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルト密、焼土・炭化物微量含む。(天井部崩落土・煙道部)
	10	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物密、灰多量、明黄褐色シルトラミナ状に・焼土少量含む。
	11a	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土質シルト	明黄褐色シルト多量、炭化物微量含む。
	11b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・焼土・灰多量、炭化物少量含む。(天井部崩落土・燃焼部)
	11c	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰密、焼土・炭化物少量含む。
	11d	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・焼土・灰多量、炭化物少量含む。(火床面)
住居掘り方	12	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	13a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト多量、焼土・炭化物微量含む。
	13b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	13c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	13d	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	14a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	14b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色・灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。

SI25　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1A	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・灰色シルトラミナ状に少量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土・炭化物少量含む。
	3a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト多量、炭化物少量、焼土微量含む。
	3b	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土・炭化物多量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルト多量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト多量、焼土・炭化物微量含む。
P1B	①	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	焼土・炭化物少量含む。
	②	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土質シルト	明黄褐色シルト多量、炭化物少量、焼土微量含む。
P2A	1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度)・焼土少量、炭化物微量含む。
	1b	7.5YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	焼土多量、明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	1c	2.5Y6/2　灰黄色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土少量含む。
	2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 密に含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量、焼土・炭化物少量含む。
P2B	①	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	③	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	炭化物多量、明黄褐色シルトブロック (20㎜程度)・焼土微量含む。
P3	1a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (50㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。

S25　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	77 × 70	48	
P2	不明	(118) × (57)	32	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	楕円形	34 × 33	23	
P4	円形	35 × 35	38	

面形状は半円形を呈し、全体が壁内に位置する。煙道部は長さ 56cm、幅 28cm、深さ 8cm を測る。底面は、煙出しに向かってごく緩やかに立ち上がり、燃焼部底面との比高差は 8cm を測る。

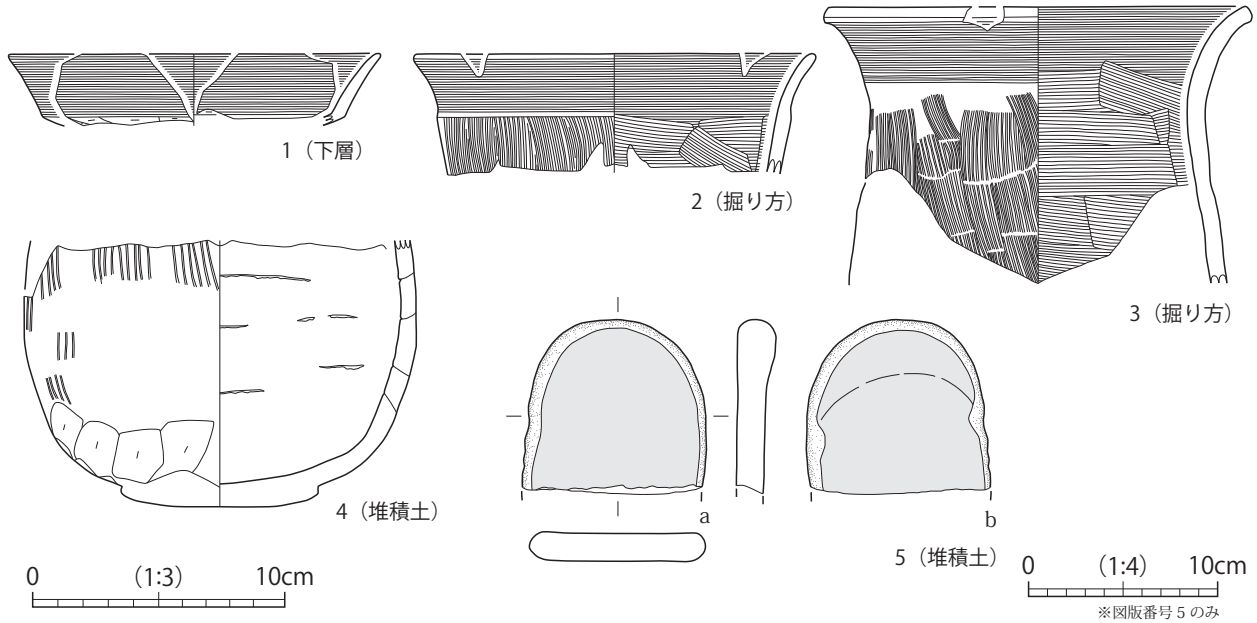
【その他の施設】土坑 P2 を検出した。新しい方から P2A → P2B の順で 2 基が重複する。形状や位置関係から貯蔵穴と考えられるが、ともに人為的に埋め戻されている。堆積土は灰白色粘土・焼土・炭化物を多く含む。

【掘り方】深さ 10 ～ 23cm 程を測る。底面はカマド 2 の正面が高まり、P1・2 周辺が一段低くなる。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器坏 1 点、甕 3 点、礫石器 1 点を掲載した（第 95 図）。

1 の坏は平底に近い形状と考えられる。甕はいずれも外面がハケメ調整される。2 と 3 は掘り方出土遺物である。5 は砂質凝灰岩製の磨石で 1/2 を欠損するが、表裏面の広い範囲に擦痕が観察される。

【時期】第 95 図－ 1 の土師器坏は床面近くからの出土であり、直接伴う可能性がある。また、後述する 3 期（7 世紀後葉）の SD11 より古く、このことから 2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-001	06年度	SI25	下層	土師器	坏	(14.7)	-	(2.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ		40
2	C-008	06年度	SI25	掘り方	土師器	甕	(16.0)	-	(4.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		40
3	C-007	06年度	SI25	掘り方	土師器	甕	(17.0)	-	(11.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		40
4	C-005	06年度	SI25	堆積土	土師器	甕	-	7.9	(10.6)	胴部ハケメ、胴部下端ヘラケズリ	輪積み痕		40

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
5	Kc-001	06年度	SI25	堆積土	礫石器	磨石	(9.2)	9.7	2.0	152.5	砂質凝灰岩	扁平礫、磨 2 面 (平)、下部欠損	40

第 95 図　SI25 竪穴住居跡出土遺物

SI26 竪穴住居跡（第 96 図）

【位置・確認】調査区中央部東寄りの 81・83 グリッドに位置する。北側 2/3 程が調査区外にかかり、西壁から南壁周辺を検出した。

【重複】他遺構との重複は認められない。

【規模・形態】検出した規模は、南北 126cm、東西 304cm を測る。平面形状は方形基調と推定されるが、南壁の東側ラインがやや内側に湾曲する。

【方向】西壁基準で N － 40° － W である。

【堆積土】大別で 8 層、細別で 15 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックを多く含むことから、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。5 層は周溝堆積土、6 ～ 8 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 28cm を測る。

【床面】検出部では概ね平坦である。

【柱穴】1 基検出した。P1 は形状や位置関係から主柱穴とみられ、柱痕跡が確認された。

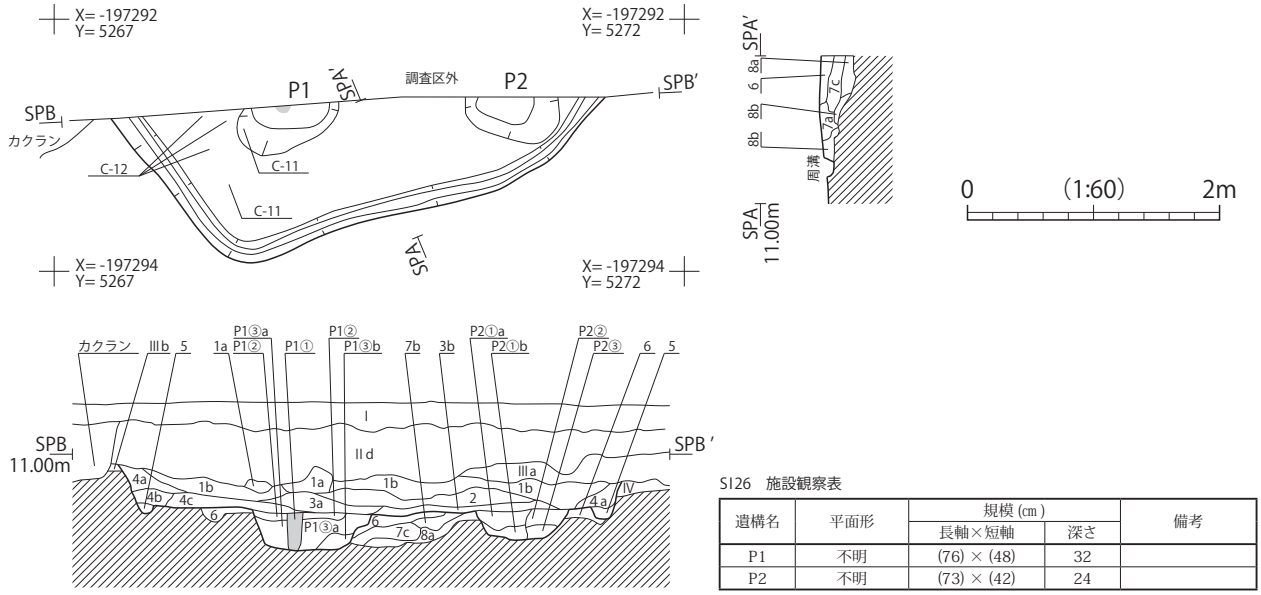
【周溝】検出部では全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 12 ～ 22cm、深さ 3 ～ 9cm を測る。

【その他の施設】土坑 P2 を検出した。人為的に埋め戻されている。

【掘り方】深さ 5 ～ 10cm 程を測る。底面は P1 と P2 の間が大きく窪む。

【出土遺物】全体的な出土量は少ないが、床面出土遺物が大半を占める。土師器甕 1 点を掲載した（第 96 図）。胴部がやや張り、口縁部が短く外反する器形を呈する。比較的シャープな作りで、焼成も良好である。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

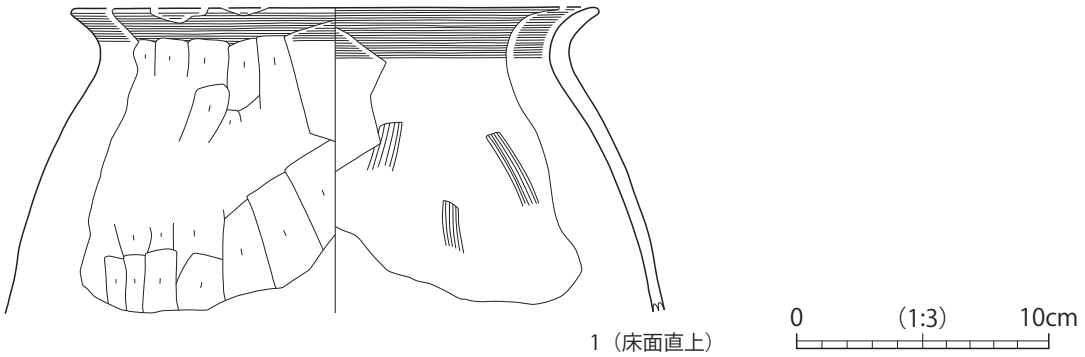


SI26　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不明	(76) × (48)	32	
P2	不明	(73) × (42)	24	

SI26　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	1b	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、白色粒・炭化物微量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	4a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土微量含む。
	4c	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度)・炭化物少量含む。
周溝	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
住居掘り方	6	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	7a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量含む。
	7b	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	7c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土微量含む。
	8a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	8b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-011	06年度	SI26	床面直上	土師器	甕	(21.0)	-	(12.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		40

第 96 図　SI26 竪穴住居跡・出土遺物

SI26　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物少量含む。
	②	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	③ a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	③ b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P2	① a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	① b	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度)・酸化鉄少量含む。
	②	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	③	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土微量含む。

SI27A 竪穴住居跡（第 97 ～ 100 図）

【位置・確認】調査区西部の 71 ～ 74 グリッドに位置する。北壁の東側と南半部が調査区外にかかり、SD11 により南北に分断されている。SI27 については、別の竪穴住居跡が範囲内に重複しており、新しい方から SI27A → SI27B とした。SI27B の東辺を拡張したものが SI27A と考えられる。

【重複】SI25、SM87、SD11、Pit481・485・490、SX2 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 406cm、東西 814cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 6° － E である。

【堆積土】大別で 16 層、細別で 30 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックを多く含むことから、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。6 ～ 9 層はカマド関連層で、7・8 層は天井崩落土、9 層はカマド使用時の焼土・炭化物層である。10 層は周溝堆積土である。11 ～ 15 層はカマド構築土で、袖構築土の 11 層は基本層Ⅳ層に類似する。12 層は燃焼部の底面に堆積する焼土・炭化物・灰の混土層で、西袖の下にまで延びることから、カマドの造り直しが行われた可能性が考えられる。16 層は掘り方埋土で、SI27B の範囲にのみ堆積している。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がり、中位に稜を有する。壁高は最大で 45cm を測る。

【床面】検出部では概ね平坦である。SI27B 重複部分のみ床が貼られ、この外側（東側）ではほとんどの範囲が基本層Ⅳ層を床面としている。

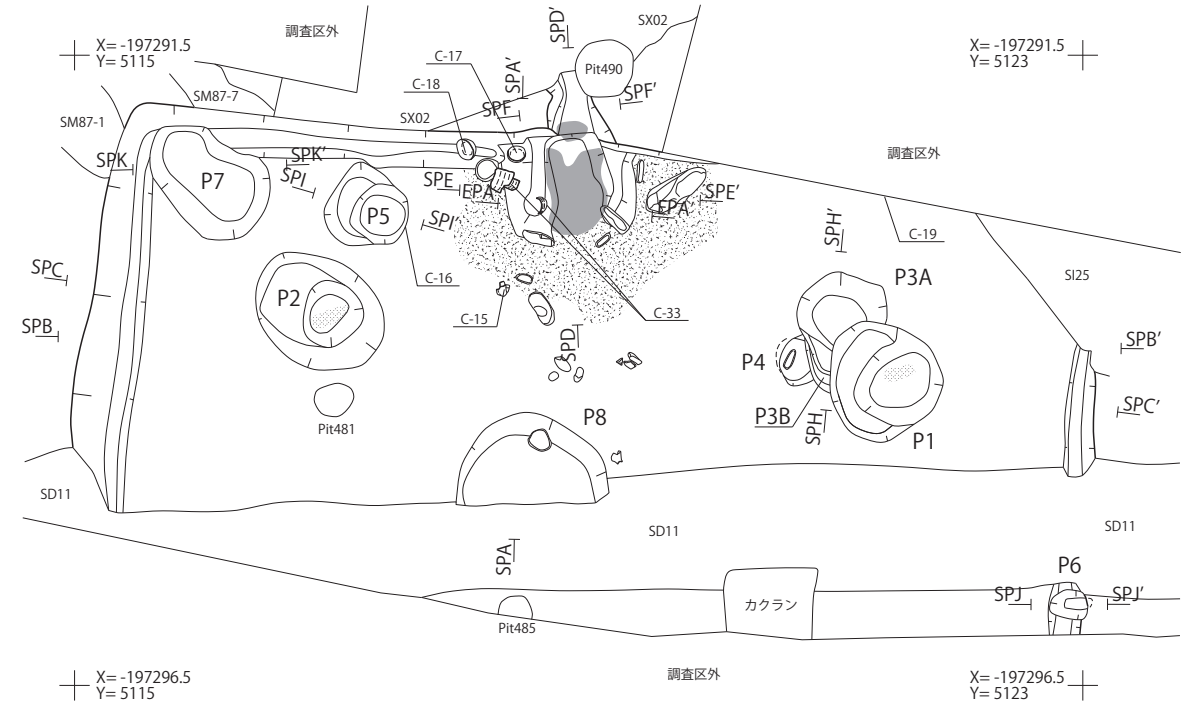
【柱穴】7 基検出した。P1 ～ 3 は形状や位置関係から主柱穴とみられ、重複する P1・3 については、P1 の方が新しい。さらに P3 は P3A・P3B の新旧 2 基に分けられ、古い方から P3B → P3A → P1 の順で建て替えに伴う柱穴の掘り直しが行われたと考えられる。柱痕跡は P1 と P2 の底面にあたりが認められ、P1 のあたりは長さ 25cm、幅 10cm、P2 のあたりは 31cm、幅 12cm のそれぞれ隅丸長方形に近い形状を呈する。このことから、柱材の断面形状が長方形であった可能性も考えられる。P4・P5 は補助的な柱穴、P6 は壁柱穴と考えられる。

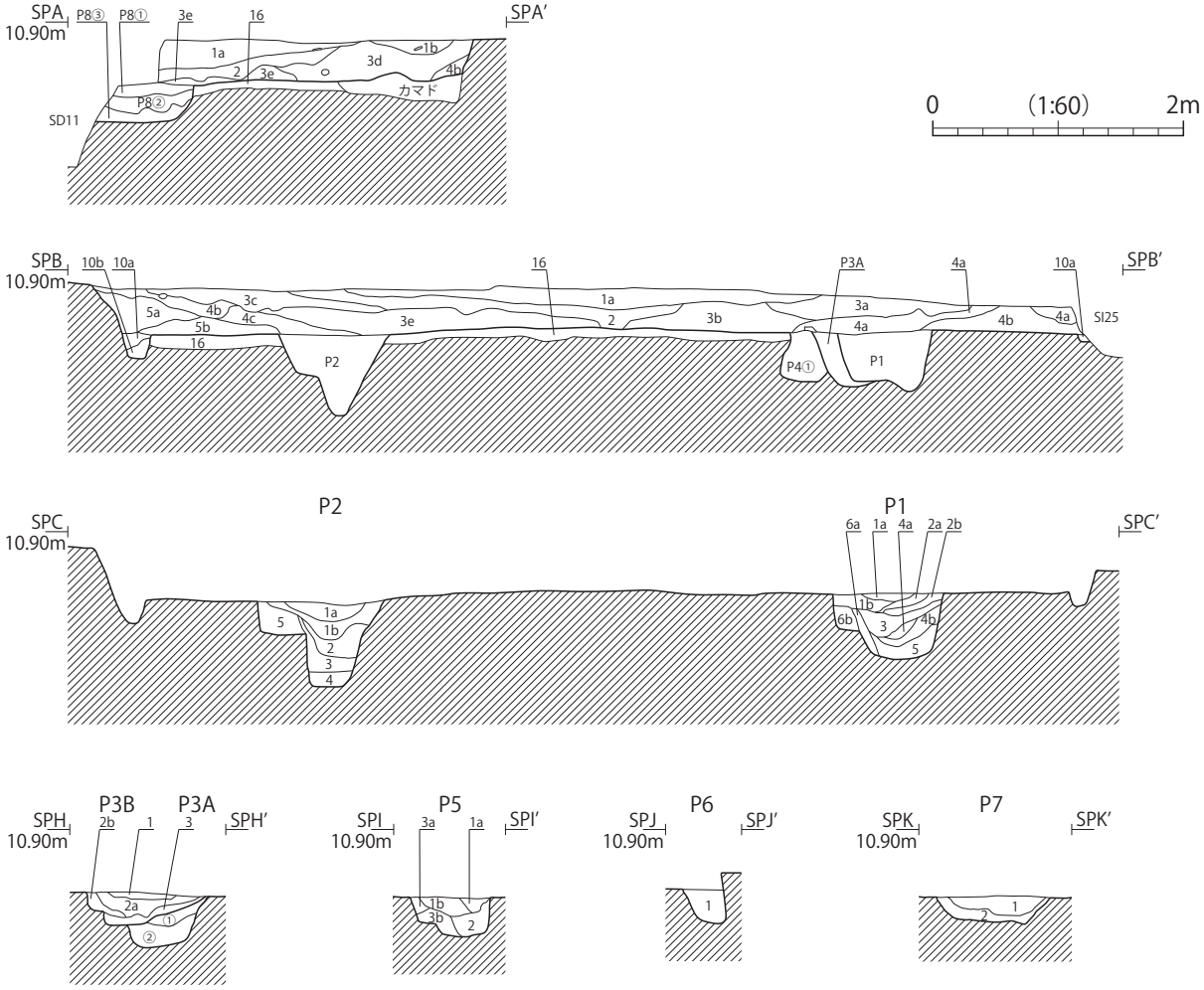
【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 17 ～ 26cm、深さ 5 ～ 17cm を測る。

【カマド】北壁に位置し、壁面に直交して付設される。煙道部の後方は Pit490 や SX2 との重複により失われている。東袖の規模は長さ 68cm、幅 28cm、西袖の規模は長さ 88cm、幅 39cm を測り、北壁に対し直交して構築されている。両袖の先端には棒状礫が倒れ掛かった状態で検出され、カマドの東側には長さ 56cm、幅 23cm の礫が検出された。これらの礫は、いずれも被熱による赤化が認められ、焚口の構築材と考えられる。また、第 100 図－ 8 の土師器甕は 1/2 程が西袖に埋め込まれた状態で、残りが西袖の脇に転落したような状態で出土した。燃焼部は奥行き 76cm、幅 35cm、奥壁高 9cm を測り、壁内に位置する。底面は皿状に窪み、奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。煙道部は長さ 49cm、幅 36cm、深さ 28cm 程が残存し、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】土坑 P7・8 を検出した。P7 は形状や位置関係から貯蔵穴と考えられる。P8 は人為的に埋め戻されている。堆積土は灰白色粘土ブロックを多く含む。

【掘り方】深さ 0 ～ 12cm 程を測る。前記の通り SI27B 部分を中心に埋め戻され、この範囲の外側ではほとんど掘り方をもたない。





第 97 図　SI27A 竪穴住居跡（1）

SI27A　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土・炭化物微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	3c	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	3d	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土微量含む。
	3e	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土微量含む。
	4a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	4b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土微量含む。
	4c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	5a	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトと黒褐色シルトの互層、炭化物微量含む。
	5b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土・炭化物微量含み、下位に明黄褐色シルトブロック集中。
カマド	6a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	6b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土・炭化物少量含む。
	8	10YR6/6 明黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土微量含む。
	9	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	焼土多量、炭化物少量含む。
周溝	10a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	10b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
カマド袖	11a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	焼土少量、灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。
	11b	7.5YR6/2 灰褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	11c	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	下位に炭化物集中。
カマド掘り方	12	5YR6/6　橙色	粘土質シルト	焼土・炭化物・灰の混土。
	13a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	13b	2.5Y6/4　にぶい黄色	粘土質シルト	焼土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含み、下位に明黄褐色シルトブロック集中。
	14a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土少量含む。
	14b	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 微量含み、下部に炭化物集中。
	15	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量、焼土微量含む。
住居掘り方	16	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (50㎜程度) 多量、灰黄褐色シルト少量、炭化物微量含む。

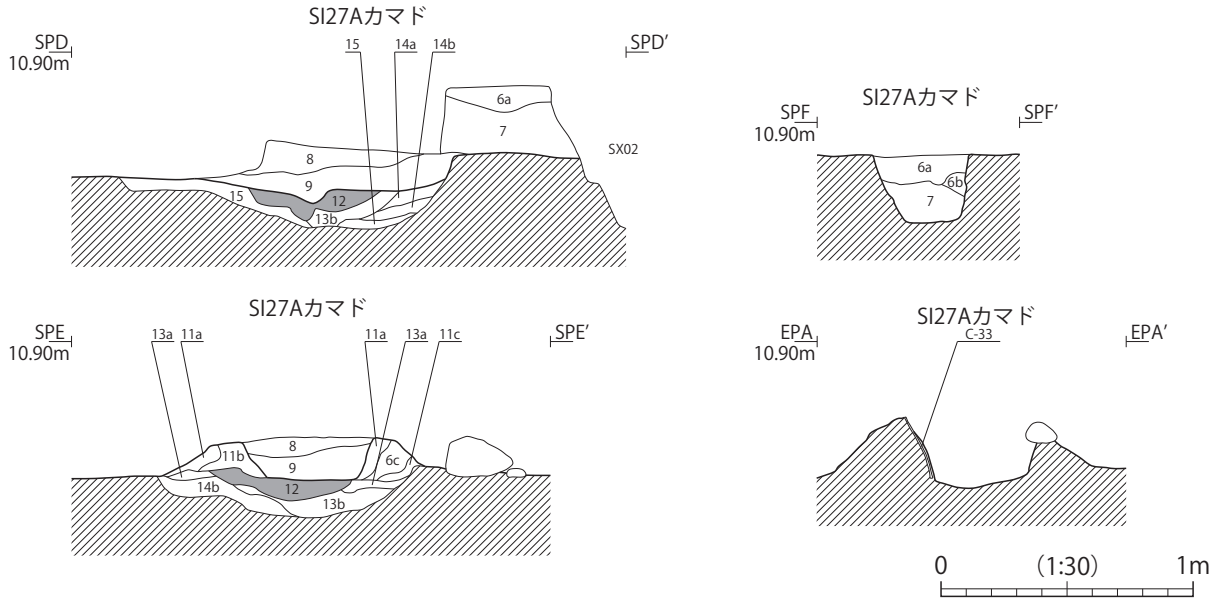
SI27A　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	1b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。
	2a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトラミナ状に多量、黒褐色シルトブロック少量含む。
	4a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	4b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	6a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	6b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
P2	1a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色・黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	5	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
P3A	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。
	2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトラミナ状に多量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
P3B	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 密に含む。
	②	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルト密に含む。
P4	—	—	—	註記なし。
P5	1a	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度)・炭化物微量含む。
	2	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、焼土微量含む。
	3b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P7	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	2	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土微量含む。
P8	①	10YR5/1 褐灰色	粘土	灰白色粘土ブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	②	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度)・酸化鉄少量含む。
	③	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。

SI27A　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(95) × 91	52	
P2	楕円形	110 × 85	68	
P3A・B	楕円形	94 × 71	38	
P4	楕円形	44 × 33	25	

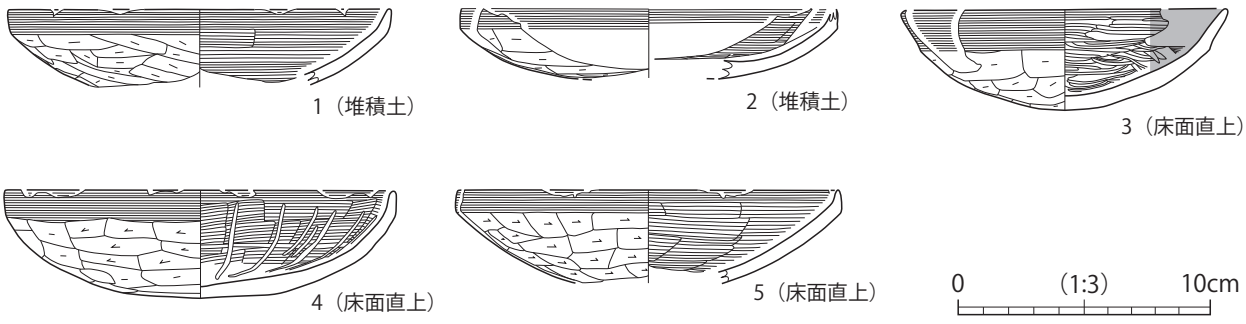
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	不整円形	64 × 63	32	
P6	楕円形	30 × 23	12	
P7	楕円形	106 × 76	23	
P8	不明	(121) × (78)	29	



第 98 図　SI27A 竪穴住居跡（2）

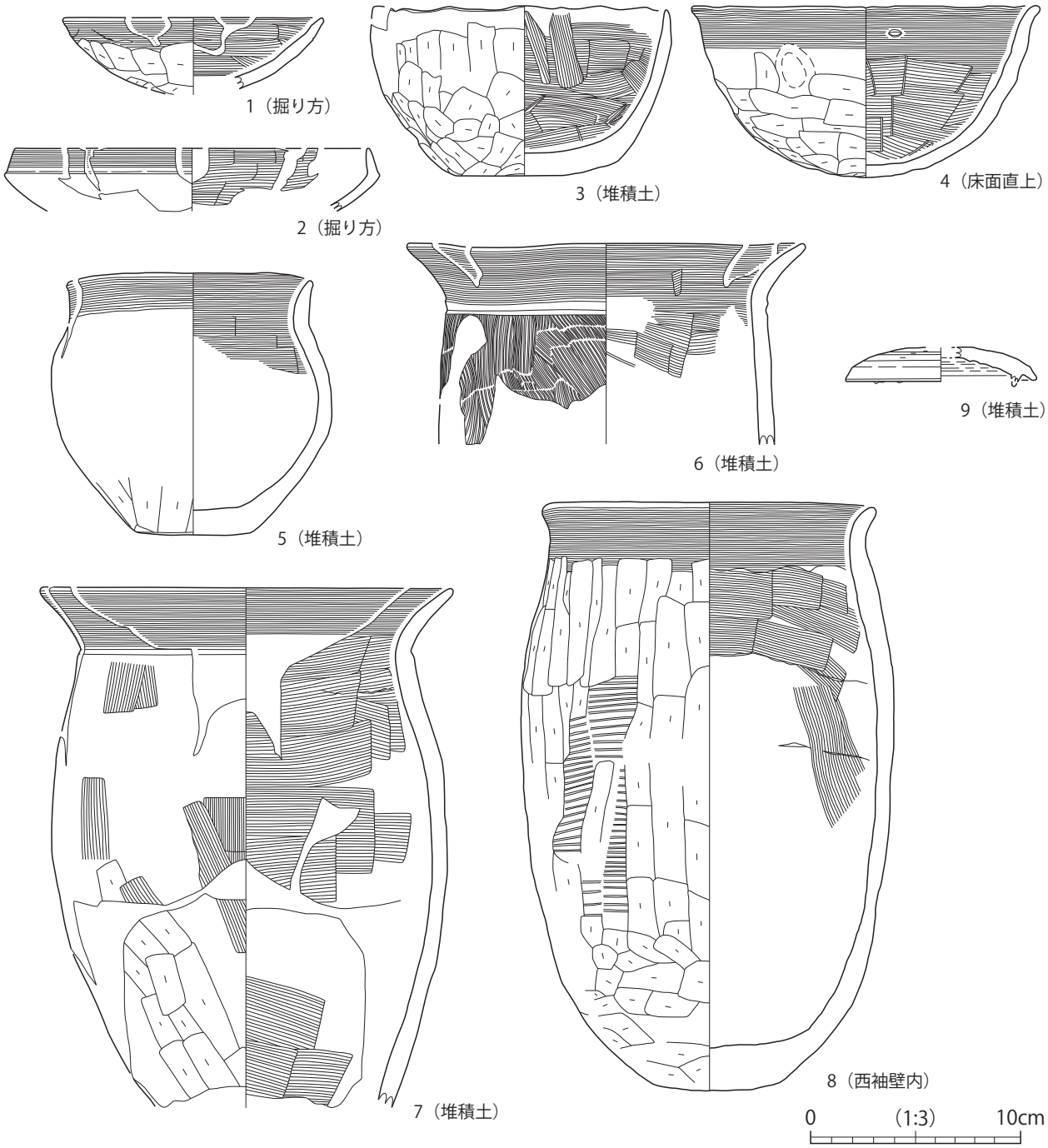
【出土遺物】カマド周辺から、良好な状態で遺物が出土している。土師器坏 7 点、鉢 2 点、甕 4 点、須恵器蓋 1 点を掲載した（第 99・100 図）。土師器坏は第 99 図－ 3・第 100 図－ 1 を除く 5 点が鬼高系土師器の坏であり、口縁部は第 100 図－ 2 が内屈するが、ほかは直立する。また、第 99 図－ 4 の内面には放射状のミガキが施されている。鬼高系以外の坏である 2 点は、口縁部が外反する。第 100 図－ 3 の鉢は平底で厚みをもち、調整技法などからも甕の下半部のような印象を受ける。4 の鉢は深い坏のような形状で、3 に比べて丁寧な作りである。甕は小型の第 100 図－ 5 以外はいずれも長胴甕で、口縁部が強く外反する 6・7 と短く外反する 8 があり、6・7 は口縁部に、8 は胴部中位に最大径を有している。9 の須恵器蓋は小型で厚みをもち、内面に返りを有する。

【時期】床面上やカマド内外から出土した第 99 図－ 3 ～ 5、第 100 図－ 3・4・8 などは直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-013	06年度	SI27A	堆積土	土師器	坏	(15.2)	-	(3.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	内外面漆	40
2	C-014	06年度	SI27A	堆積土	土師器	坏	(14.9)	-	(2.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		40
3	C-015	06年度	SI27A	床面直上	土師器	坏	13.0	-	4.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、見込み黒色処理		40
4	C-016	06年度	SI27A	床面直上	土師器	坏	(15.6)	-	4.3	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→放射状ミガキ		40
5	C-019	06年度	SI27A	床面直上	土師器	坏	(15.3)	-	(3.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		40

第 99 図　SI27A 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-021	06年度	SI27A	掘り方	土師器	坏	(12.6)	-	(3.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		40
2	C-022	06年度	SI27A	掘り方	土師器	坏	(16.8)	-	(3.0)	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		41
3	C-017	06年度	SI27A	堆積土	土師器	鉢	14.0	-	8.1	体～底部ヘラケズリ	体～底部ヘラナデ		41
4	C-018	06年度	SI27A	床面直上	土師器	鉢	16.6	-	8.2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ・指オサエ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		41
5	C-024	06年度	SI27A	堆積土	土師器	甕	11.6	5.5	12.6	口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		41
6	C-031	06年度	SI27A	堆積土	土師器	甕	(19.0)	-	(9.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		41
7	C-023	06年度	SI27A	堆積土	土師器	甕	(19.8)	-	(24.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ・ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		41
8	C-033	06年度	SI27A	西袖壁内	土師器	甕	15.9	5.6	28.1	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		41
9	E-002	06年度	SI27A	堆積土	須恵器	蓋	(9.2)	-	(1.6)	ロクロ調整、天井部ヘラケズリ	ロクロ調整		41

第 100 図　SI27A 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI27B 竪穴住居跡（第 101・102 図）

【位置・確認】調査区西部の 71 ～ 74 グリッドに位置する。SI27A と入れ子状に重複し、建て替えの関係にあると考えられる。

【重複】SI27A に準じる。

【規模・形態】検出した規模は、南北 406cm、東西 639cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 6° － E である。

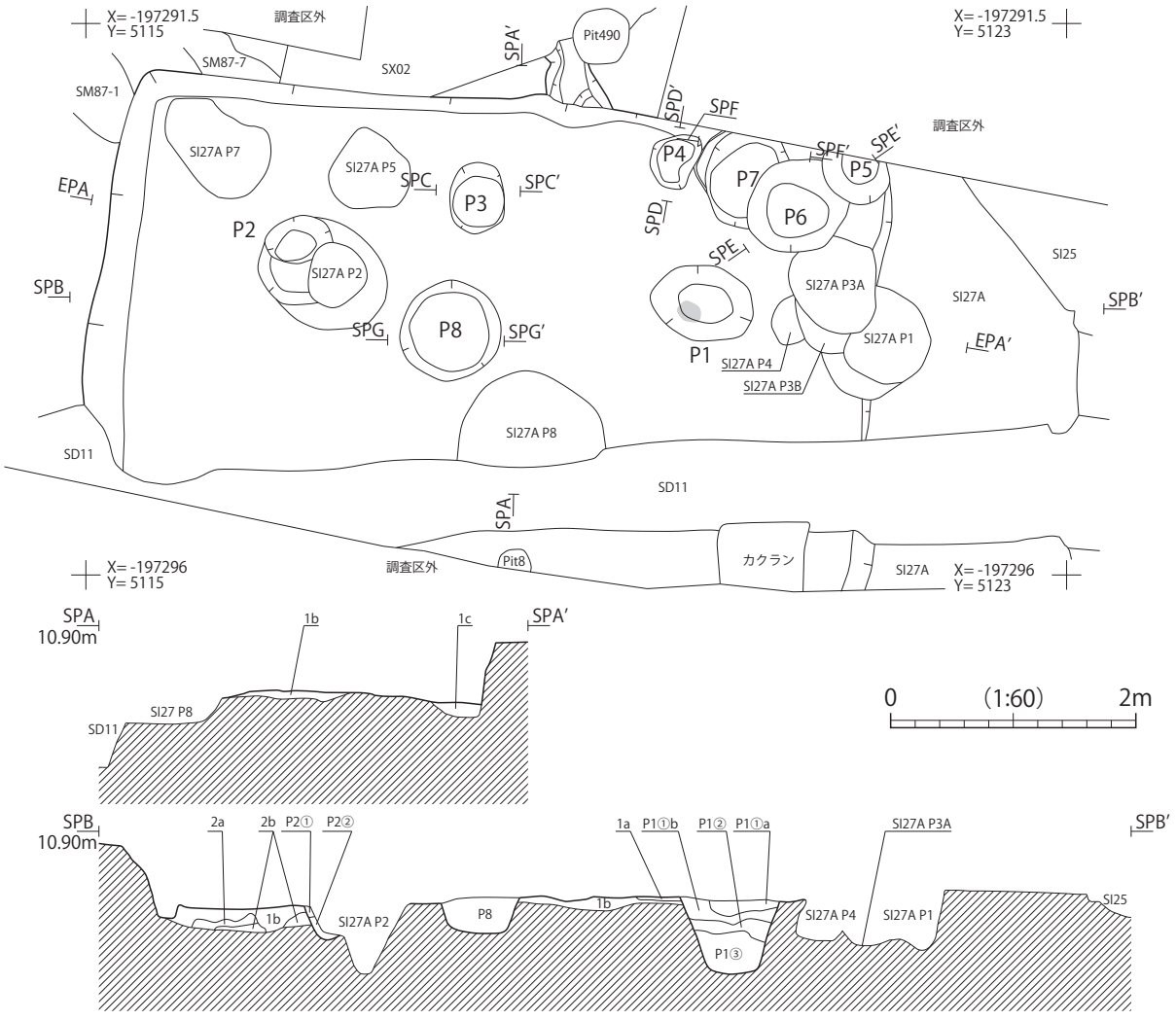
【堆積土】大別で 2 層、細別で 7 層に分層された。本竪穴住居跡は、SI27A への建て替え時に全体が埋め戻されており、残存する堆積土は床面以下の掘り方埋土である。

【壁面】西壁と北壁は SI27A と同一である。東壁は SI27A のそれよりも、167cm 西側に位置する。東壁は高さ 10 ～ 16cm 程が残存するが、詳細は不明である。

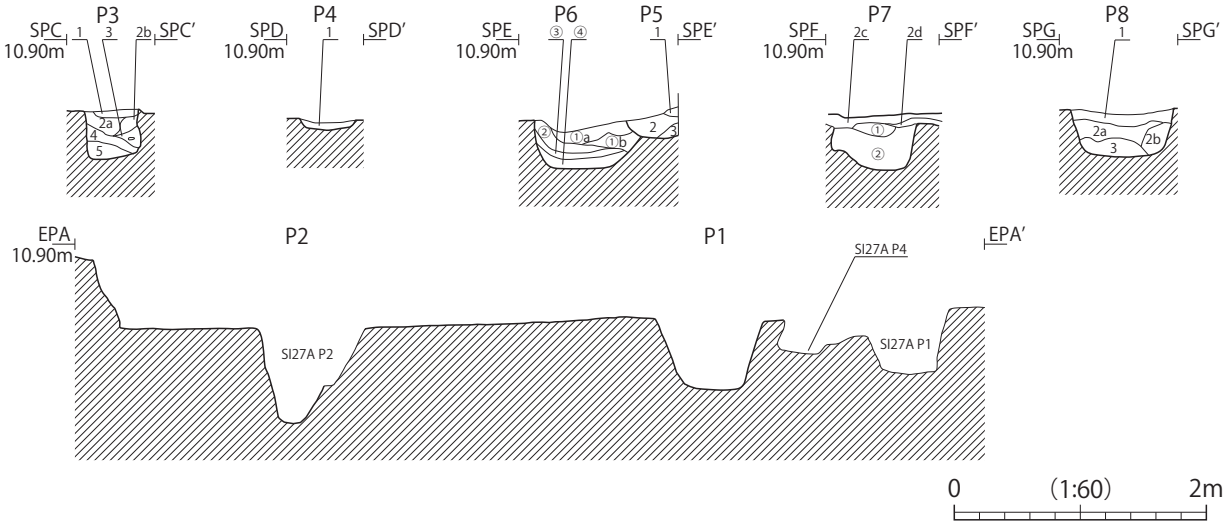
【床面】検出部では概ね平坦である。大半が貼床であるが、中央部周辺は部分的に基本層Ⅳ層を床面とする。

【柱穴】3 基検出した。P1･2 は形状や位置関係から主柱穴とみられる。柱痕跡は P1 の底面にあたりが認められた。P3 は補助的な柱穴と考えられる。

【カマド】SI27A のカマドに造り直しの痕跡が認められ、ほかにカマドの存在を示す痕跡が確認できないことから、このカマドが本竪穴住居跡の段階から存在していた可能性が考えられる。



第 101 図　SI27B 竪穴住居跡（1）



SI27B　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1a	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルト多量、酸化鉄微量含む。
	1b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土	灰白色粘土ブロック (50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	1c	2.5Y6/3 にぶい黄色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	2a	10YR7/6 明黄褐色	粘土	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	2c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色・灰白色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	2d	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。

SI27B　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	① a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	① b	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土・炭化物微量含む。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	③	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
P2	①	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
	②	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	灰白色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 微量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物多量、焼土微量含む。
	2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量、焼土微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック・焼土・炭化物多量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	5	10YR6/6 明黄褐色	粘土	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物層。
P5	1	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土微量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	焼土微量含む。
P6	① a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	① b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含み、下位に明黄褐色シルトブロック集中。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	③	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄微量含む。
	④	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
P7	①	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	②	10YR7/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (50㎜程度)・酸化鉄少量含む。
P8	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (20 ～ 50㎜程度) 少量含む。
	2b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含む。

SI27B　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	84 × 61	55	
P2	円形	74 × (53)	56	
P3	楕円形	58 × 44	29	
P4	楕円形	45 × 35	11	

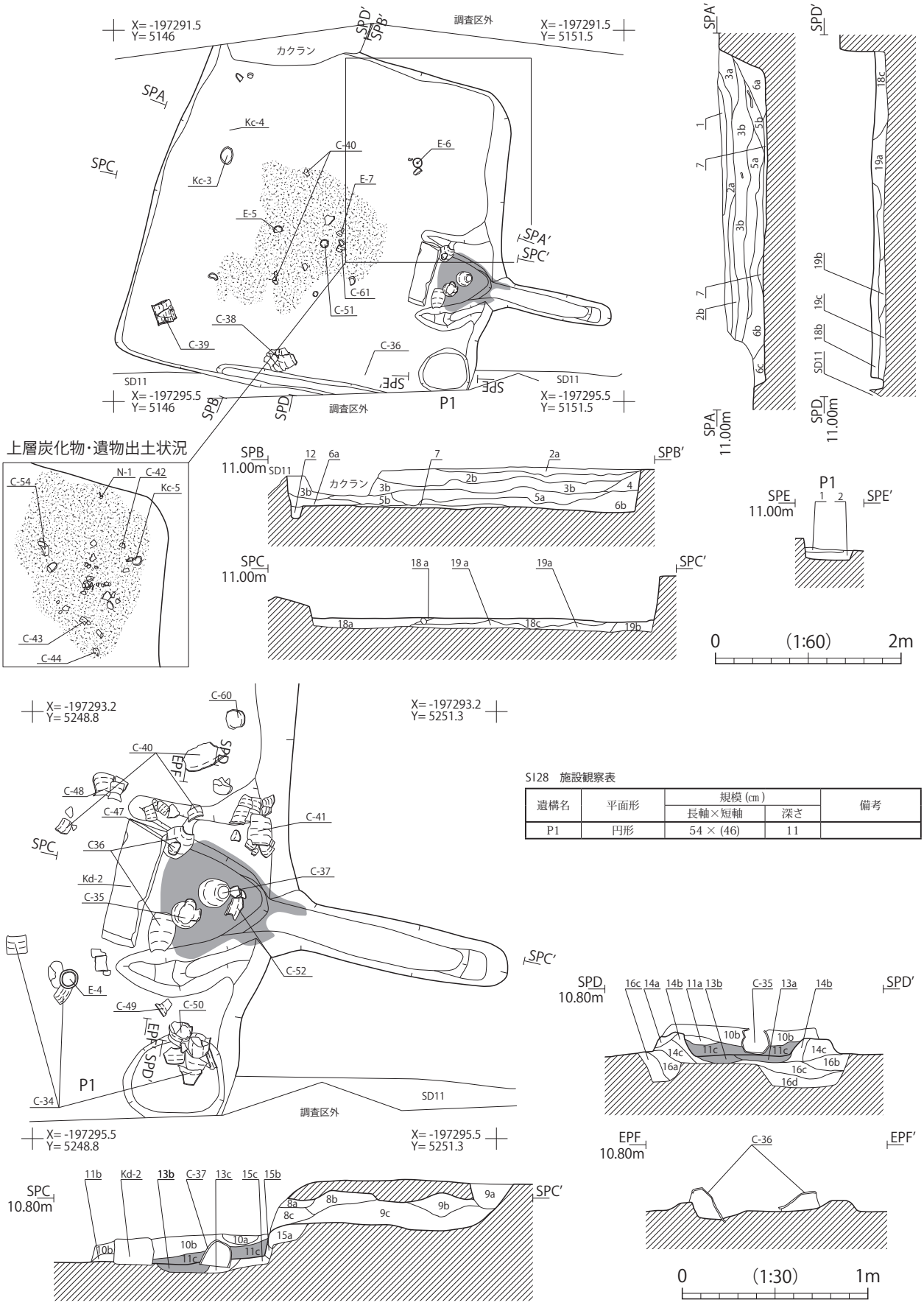
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	不明	(55) × (47)	22	
P6	楕円形	85 × (76)	37	
P7	楕円形	(75) × 70	34	
P8	円形	82 × 81	41	

第 102 図　SI27B 竪穴住居跡（2）

【その他の施設】土坑 P4 ～ 8 を検出した。P4 の堆積土は炭化物層である。P5 ～ 7 は北東コーナーに重複して位置し、形状や位置関係から貯蔵穴の掘り直しと考えられる。3 基とも人為的に埋め戻されている。P8 も人為的に埋め戻されており、その埋土には灰白色粘土ブロックが多く含まれている。

【掘り方】深さ 0 ～ 12cm 程を測る。底面は中央部から東側が高まり、西壁および北壁側が低くなる。
【出土遺物】SI27A の掘り方、P5・6 出土遺物などが伴う可能性もあるが、SI27A 出土遺物として扱った。
【時期】SI27A とは建て替え（拡張）の関係にあるとみられ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えておきたい。

SI28 竪穴住居跡（第 103 ～ 107 図）
【位置・確認】調査区中央部の 77 ～ 80 グリッドに位置する。南東コーナーは調査区外にかかる。
【重複】SD11 より古く、SI35 より新しい。
【規模・形態】検出した規模は、南北 364cm、東西 375cm を測る。平面形状は、ゆがんだ隅丸方形を呈する。
【方向】カマド基準で N － 102° － E である。
【堆積土】大別で 19 層、細別で 44 層に分層された。大別 1 ～ 7 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトや灰白色粘土のブロックを多く含み、人為的に埋め戻されていると考えられる。7 層は床面直上に堆積する風化炭化物層である。炭化物は、上層の 1・2a 層中にも多く含まれている。8 ～ 11 層はカマド関連層である。10a ～ 11b 層は天井や袖構築土の崩落土で、基本層Ⅳ層土がくすんだような色調を呈する。11c 層はカマド使用時の焼土・灰層である。12 層は周溝堆積土である。13 ～ 16 層はカマド構築土で、底面を形成する 13 層には焼土や炭化物が非常に多く含まれている。袖構築土の 14 層は基本層Ⅳ層に類似し、内壁が被熱により薄く赤化する。18・19 層は掘り方埋土である。
【壁面】東壁は概ね直線的に外傾して立ち上がるが、ほかは直立気味である。壁高は最大で 56cm を測る。
【床面】概ね平坦である。
【周溝】南壁に沿って延び、南西コーナーの手前で断続する。規模は、幅 14 ～ 17cm、深さ 8 ～ 17cm を測る。
【カマド】東壁に位置し、壁面に直交して付設される。南袖の規模は長さ 77cm、幅 22 ～ 27cm、北袖の規模は長さ 82cm、幅 13 ～ 51cm を測り、東壁に対しわずかに「ハ」字状に開いて構築されている。両袖の先端には半裁した土師器甑（第 106 図－ 4）が芯材として埋設されている。焚口からは長さ 61cm、幅 20cm を測る直方体の加工礫（写真図版 43 － 8）が出土しており、これが懸架材と考えられる。燃焼部は奥行き 80cm、幅 40 ～ 73cm、奥壁高 12cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦で、奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。中央には土師器甕（第 105 図－ 2）が逆位で設置され、支脚に転用されたと考えられる。煙道部は長さ 132cm、幅 28cm、深さ 30cm を測り、底面は概ね平坦である。煙道は天井部が残存し、天井部の厚さは 5 ～ 13cm を測る。
【その他の施設】土坑 P1 を検出した。形状や位置関係から貯蔵穴と考えられる。
【掘り方】深さ 4 ～ 22cm 程を測る。底面は概ね平坦であるが、南東コーナー周辺は一段低くなる。東側には不整形の土坑状の掘り込みが 3 箇所認められる。
【出土遺物】床面上やカマド内外から良好な状態で遺物が出土している。また、2a 層中にも遺物が集中する。土師器坏 6 点、甕 12 点、甑 2 点、須恵器蓋 3 点、金属製品 1 点、礫石器 2 点を掲載した（第 104 ～ 107 図）。第 104 図－ 1 の土師器坏、第 105 図－ 4 の土師器甕、第 106 図－ 1 の金属製品、3 の礫石器は 2a 層出土遺物である。土師器甕は様々な形態に分かれ、外面調整はハケメ主体の第 105 図－ 1・2・6 ～ 8・10、第 106 図－ 1・2、ヘラケズリまたはヘラナデ主体の第 105 図－ 3 ～ 5・9 などがある。第 106 図－ 3・4 の甑はともに単孔で、内面をヘラミガキ調整する。須恵器蓋は擬宝珠状のツマミと内面に返りをもつ 5・6 と、ツマミおよび返りをもたない 7 がある。第 107 図－ 1 は鉄鏃である。鏃身は幅広の三角形で腸抉をもたず、関は角関である。2 は流紋岩製の磨石、3 は安山岩製の凹石である。2 には溝状痕がまばらに観察される。
【時期】床面上やカマドから出土した第 104 図－ 1、第 105 図－ 1 ～ 10、第 106 図－ 1・2・4 ～ 7 は直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



SI28　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	54 × (46)	11	

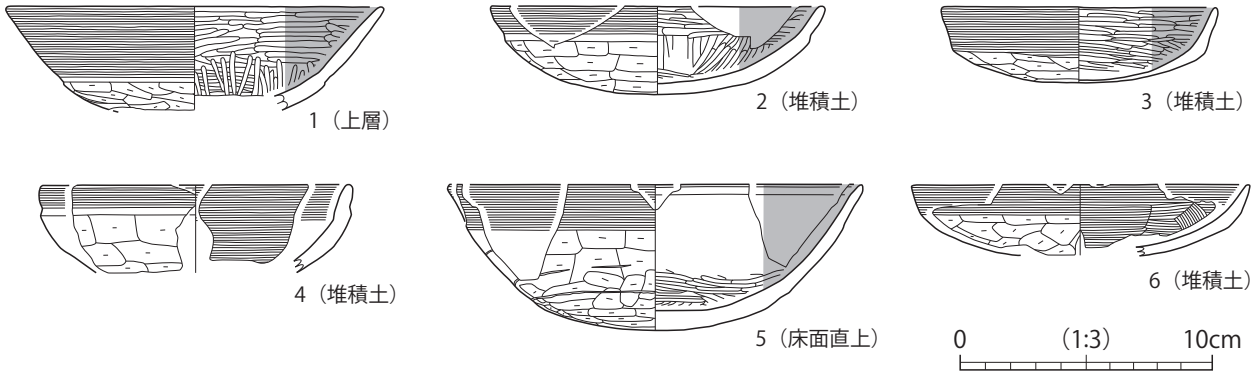
第 103 図　SI28 竪穴住居跡

SI28　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土・炭化物多量、灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	2a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	炭化物多量、灰白色粘土ブロック (20 ～ 40㎜程度) 少量含む。
	2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (20㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物少量含む。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土・炭化物微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	5a	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	5b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土・炭化物少量含む。
	6a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	6b	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度)・炭化物少量、焼土微量含む。
	6c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土・炭化物少量含む。
	7	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	風化炭化物層。
カマド	8a	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	焼土少量、炭化物微量含む。
	8b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。
	8c	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土・炭化物少量含む。
	9a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土微量含む。(煙出し)
	9b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	9c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度)・焼土・炭化物少量含む。
	10a	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	焼土多量、炭化物少量含む。
	10b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度)・焼土少量、炭化物微量含む。
	11a	10YR7/3 にぶい黄橙色	シルト	焼土少量、炭化物微量含む。
	11b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	11c	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	焼土と灰の混土、炭化物少量含む。
周溝	12	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
カマド火床面	13a	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	焼土多量、炭化物微量含む。
	13b	5YR6/4　にぶい橙色	砂質シルト	焼土層。
	13c	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物層。焼土微量含む。
カマド袖	14a	7.5YR6/3 にぶい褐色	シルト	焼土多量、灰白色粘土ブロック (20㎜程度) 少量含む。
	14b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度)・焼土・炭化物少量含む。
	14c	10YR6/6 明黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。
カマド掘り方	15a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	15b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	焼土多量含む。
	15c	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	16a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	16b	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	16c	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	16d	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
煙道部天井材	17	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
住居掘り方	18a	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	18b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトラミナ状に多量、炭化物微量含む。
	18c	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物少量。
	19a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	19b	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	19c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色・灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。

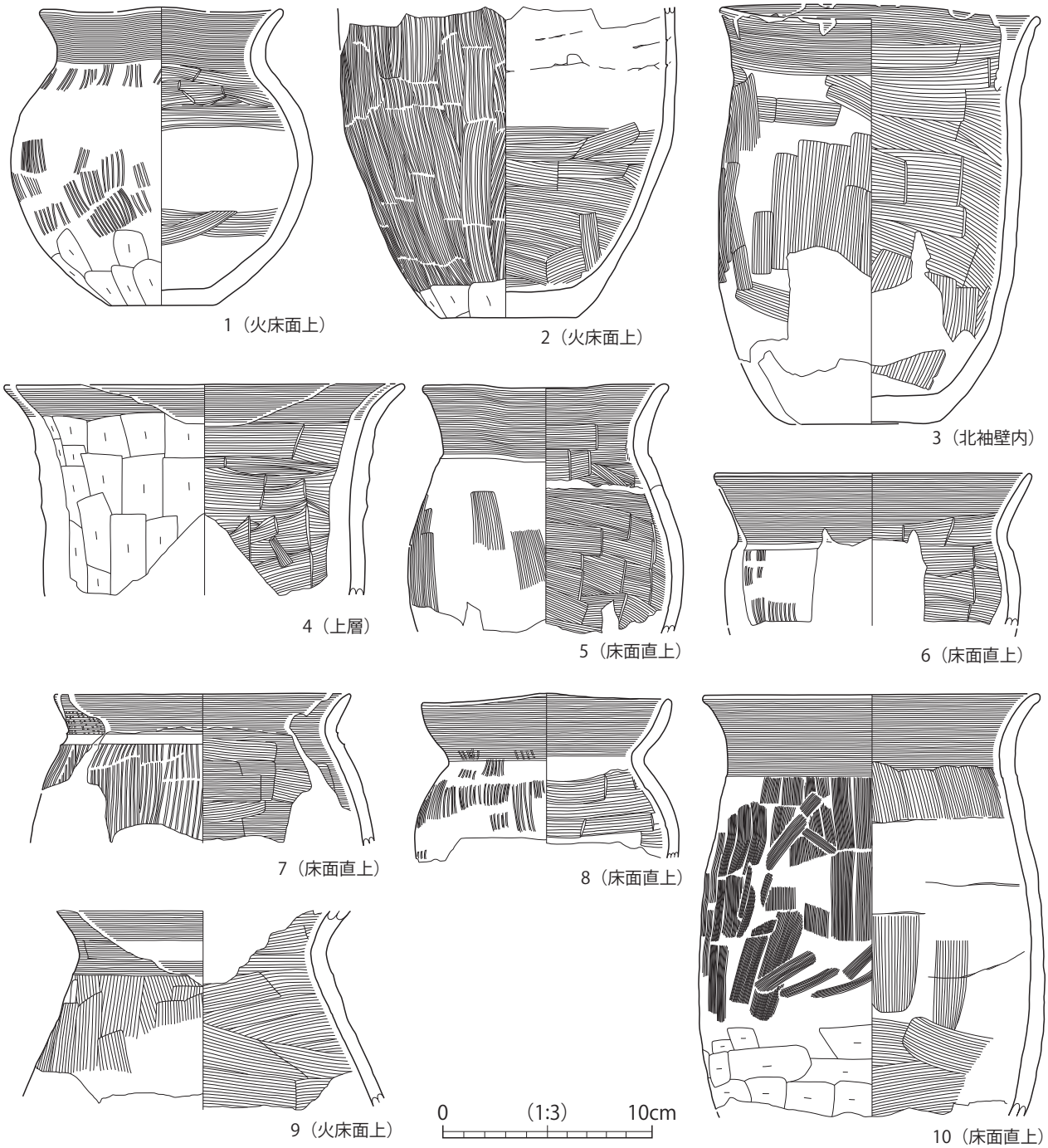
SI28　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量含み、明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 下位に集中。



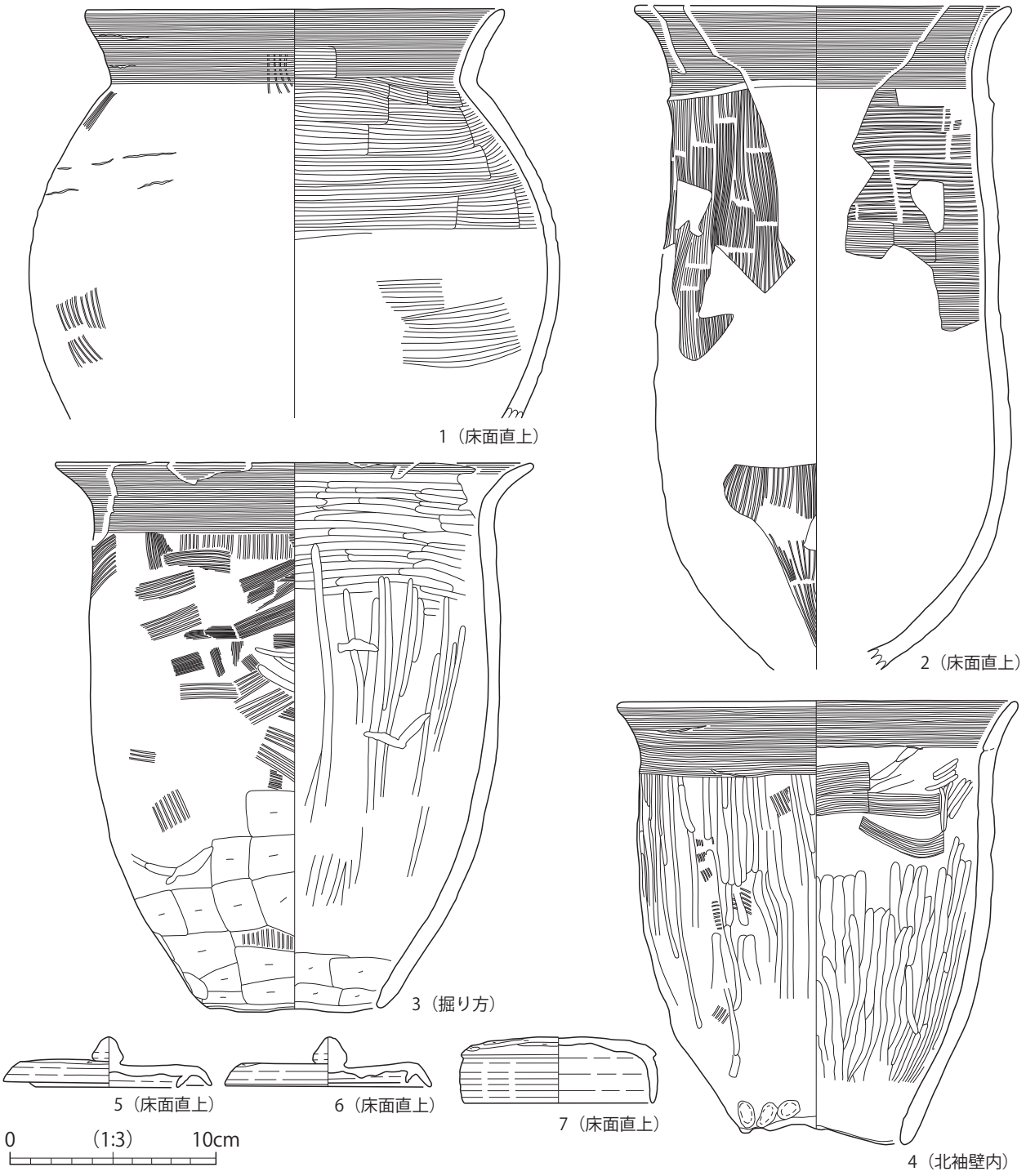
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-054	06年度	SI28	上層	土師器	坏	(15.0)	-	(4.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		41
2	C-057	06年度	SI28	堆積土	土師器	坏	(13.0)	-	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		41
3	C-058	06年度	SI28	堆積土	土師器	坏	(11.0)	-	3.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		41
4	C-059	06年度	SI28	堆積土	土師器	坏	(12.4)	-	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		41
5	C-060	06年度	SI28	床面直上	土師器	坏	16.5	-	5.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		41
6	C-063	06年度	SI28	堆積土	土師器	坏	(13.4)	-	(2.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		41

第 104 図　SI28 竪穴住居跡出土遺物（1）



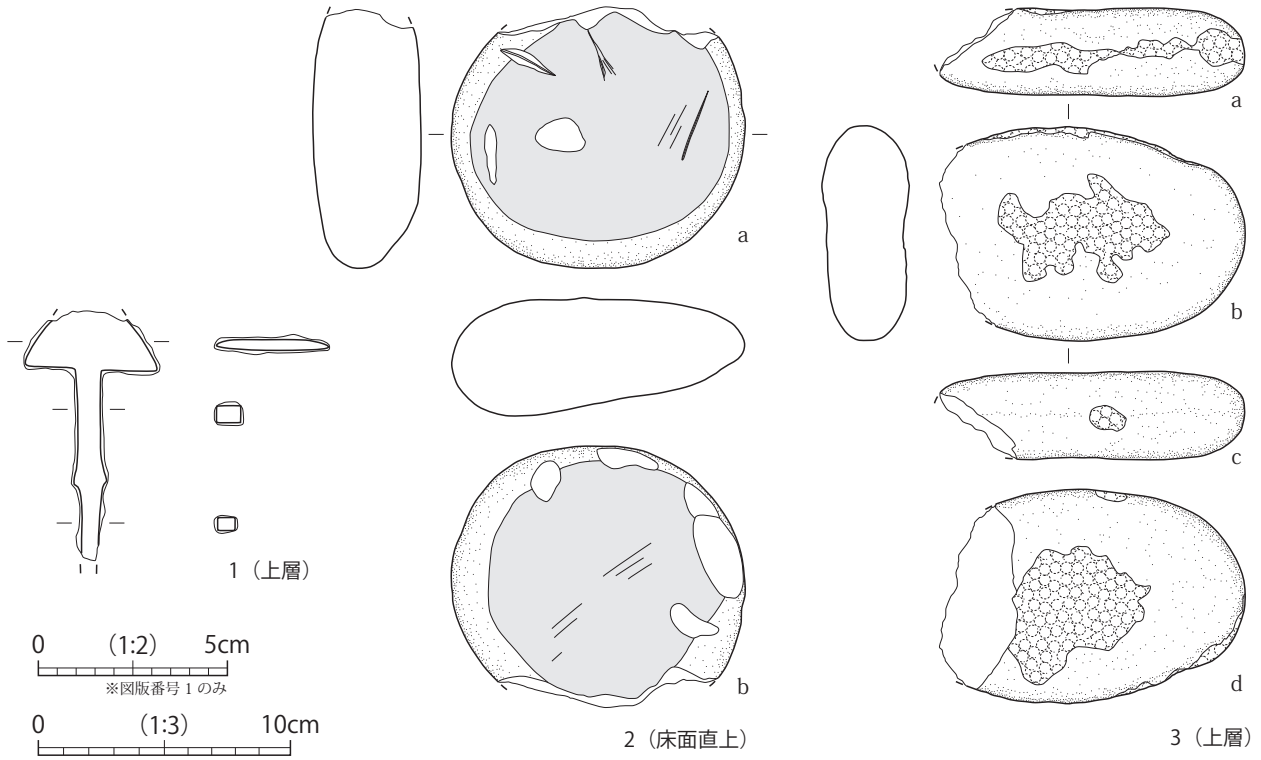
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-035	06年度	SI28	火床面上	土師器	甕	11.7	5.1	14.2	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		41
2	C-037	06年度	SI28	火床面上	土師器	甕	-	6.6	(15.9)	胴部ハケメ、胴部下端ヘラケズリ	胴部ヘラナデ、輪積み痕		41
3	C-041	06年度	SI28	北袖壁内	土師器	甕	15.6	6.9	18.1	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		41
4	C-043	06年度	SI28	上層	土師器	甕	(19.2)	-	(10.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		42
5	C-048	06年度	SI28	床面直上	土師器	甕	11.8	-	(11.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		42
6	C-049	06年度	SI28	床面直上	土師器	甕	(15.2)	-	(7.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		42
7	C-047	06年度	SI28	床面直上	土師器	甕	(14.2)	-	(7.1)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		42
8	C-050	06年度	SI28	床面直上	土師器	甕	12.0	-	(8.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		42
9	C-052	06年度	SI28	火床面上	土師器	甕	-	-	(9.5)	口縁～頸部ヨコナデ、頸～胴部ヘラナデ	ヘラナデ		42
10	C-039	06年度	SI28	床面直上	土師器	甕	16.2	-	(22.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		42

第 105 図　SI28 竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-034	06年度	SI28	床面直上	土師器	甕	20.4	-	(19.9)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、胴部ヘラナデ		42
2	C-040	06年度	SI28	床面直上	土師器	甕	(18.4)	-	(32.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ・ヘラナデ		42
3	C-038	06年度	SI28	掘り方	土師器	甑	(23.4)	(8.4)	26.7	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、一部ヘラミガキ、胴部下位ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、頸～胴部ヘラミガキ、胴部下端ヘラケズリ		42
4	C-036	06年度	SI28	北袖壁内	土師器	甑	19.5	7.8	21.6	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラミガキ、胴部下端指オサエ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ・ヘラミガキ		43
5	E-004	06年度	SI28	床面直上	須恵器	蓋	10.1	-	2.4	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		43
6	E-006	06年度	SI28	床面直上	須恵器	蓋	10.0	-	2.4	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		43
7	E-005	06年度	SI28	床面直上	須恵器	蓋	9.2	-	3.2	ロクロ調整、天井部ヘラケズリ	ロクロ調整、天井部ヘラナデ		43

第 106 図　SI28 竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
1	N-001	06年度	SI28	上層	金属製品	鉄鏃	(6.6)	3.5	0.45	12.4	刃部三角形広身、角関、両端部欠損	43

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
2	Kc-004	06年度	SI28	床面直上	礫石器	磨石	(10.3)	11.7	4.5	533.0	流紋岩	扁平礫、磨 2 面 (凸)、溝状痕 (a 面)、一部欠損、被熱	43
3	Kc-005	06年度	SI28	上層	礫石器	敲石	8.5	(12.1)	3.5	410	安山岩	扁平礫、敲 (a ～ d 面 1 ヶ所)、程度弱、下端欠損	43

第 107 図　SI28 竪穴住居跡出土遺物（4）

SI29 竪穴住居跡（第 108 図）

【位置・確認】調査区中央部西寄りの 75 グリッドに位置する。大半が調査区外にかかり、南東コーナーから南壁周辺の狭い範囲が検出された。西側は撹乱により失われている。

【重複】SD16 より古く、SI34 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 155cm、東西 437cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】南壁基準で N － 76° － E である。

【堆積土】大別で 6 層、細別で 12 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、部分的に残存するのみである。4 層は周溝堆積土、5・6 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 2 ～ 5cm が部分的に残存するのみで、詳細不明である。

【床面】検出部では概ね平坦である。

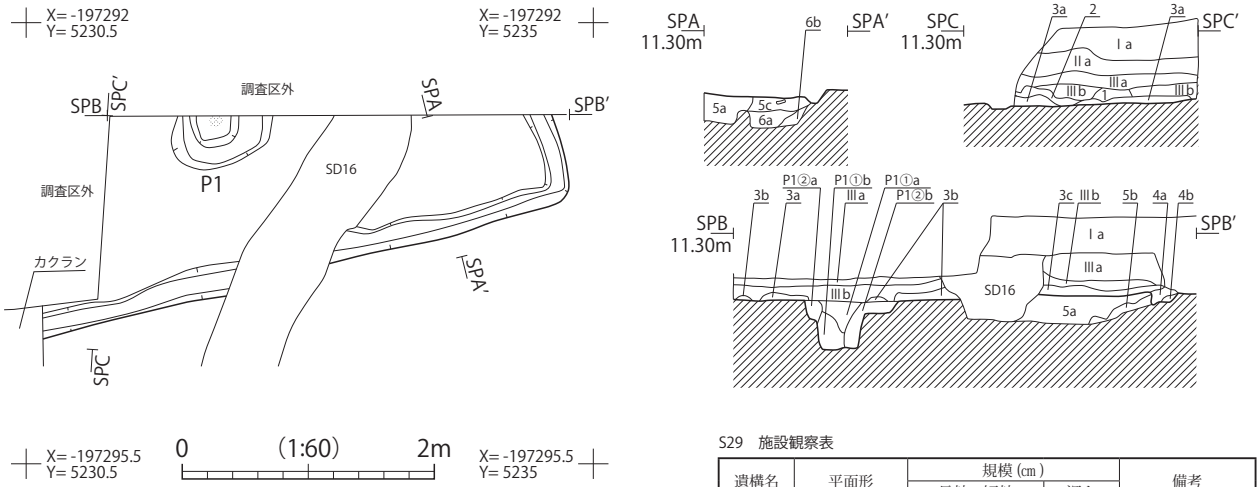
【柱穴】1 基検出した。形状や位置関係から主柱穴とみられる。柱痕跡は底面にあたりが認められ、土層断面にその抜き取り痕跡が観察された。

【周溝】検出部では全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 15 ～ 26cm、深さ 2 ～ 8cm を測る。

【掘り方】深さ 0 ～ 29cm 程を測る。底面は南西側が不規則に低くなる。

【出土遺物】床面上から土師器の破片がわずかに出土したが、図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、後述する 3 期（7 世紀後葉）の SD11 → SD16 →本竪穴住居跡の順で古くなることから、3 期以前と考えられる。



S29　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	83 × (36)	39	

SI29　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	
	3a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	3b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	3c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
周溝	4a	10YR6/1 褐灰色	シルト	酸化鉄多量含む。
	4b	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色粘土ブロック (20㎜程度) 微量含む。
住居掘り方	5a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・黒褐色粘土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含む。
	5b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	5c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
	6a	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量含み、明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 部分的に集中。
	6b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。

SI29　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	① a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土微量含む。
	① b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	② a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	② b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。

第 108 図　SI29 竪穴住居跡

SI30 竪穴住居跡（第 109 図）

【位置・確認】調査区西部の 73 グリッドに位置する。北側は調査区外にかかり、重複遺構や撹乱によって壁や床面のほとんどが失われている。

【重複】SI25、SD11 と重複する。新旧関係はこれらよりも古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 115cm、東西 108cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】西壁基準で N － 10° － E である。

【堆積土】大別で 6 層、細別で 14 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。6 層は掘り方埋土である。

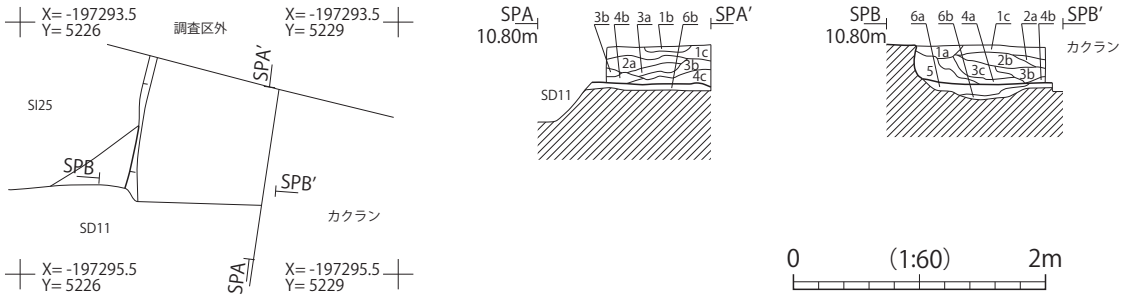
【壁面】残存する西壁は直立気味に立ち上がる。壁高は最大で 30cm を測る。

【床面】検出範囲が狭く、詳細不明である。

【掘り方】深さ 4 ～ 12cm 程を測る。底面は東側が一段低くなり、土坑状の窪みを伴う。

【出土遺物】掘り方埋土から土師器甕の破片が 1 点出土したのみで、図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、2 期（7 世紀中葉前後）の SI25 より古く、2 期以前と考えられる。



SI30　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (50㎜程度)・黒褐色シルトブロックラミナ状に少量含む。
	1c	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	2a	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土微量含む。
	2b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト多量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	3c	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	4a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	4b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	4c	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
住居掘り方	6a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	6b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量含む。

第 109 図　SI30 竪穴住居跡

SI32 竪穴住居跡（第 110・111 図）

【位置・確認】調査区中央部東寄りの 75・76 グリッドに位置する。北側は調査区外にかかる。東側および南壁周辺は SD11・13 との重複により失われ、南西側の 1/3 程を検出した。

【重複】SI34、SD11・13 と重複する。新旧関係は SD11・13 が新しく、SI34 が古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 239cm、東西 236cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】西壁基準で N － 6° － E である。

【堆積土】大別で 7 層、細別で 14 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層由来の明黄褐色・褐灰色シルトや灰白色粘土のブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。4 層は周溝堆積土、5 ～ 7 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 30cm を測る。

【床面】検出部では概ね平坦である。

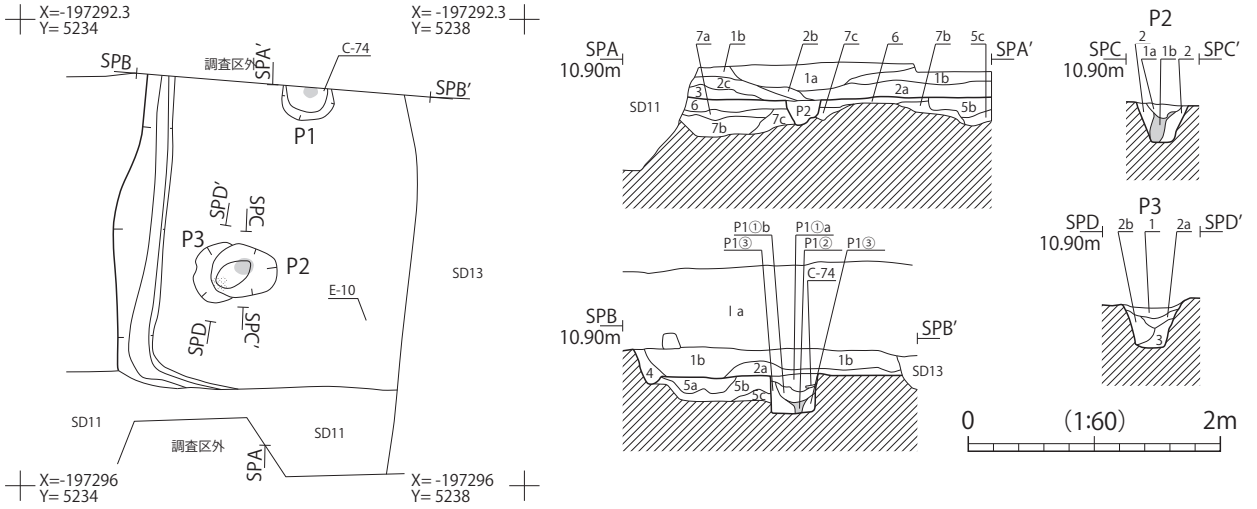
【柱穴】3 基検出した。P1・2 は形状や位置関係から主柱穴とみられる。柱筋は若干東に傾き、西壁のラインとは平行しない。P2 と重複する P3 はそれぞれ掘り直しの関係にあるとみられ、P3 の方が古い。柱痕跡は P1 ～ 3 のいずれにも認められるが、P3 の柱痕跡は底面のあたりのみである。

【周溝】検出部では全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 14 ～ 23cm、深さ 2 ～ 10cm を測る

【掘り方】深さ 7 ～ 24cm 程を測る。底面は中央部が高まり、壁側が低くなる。

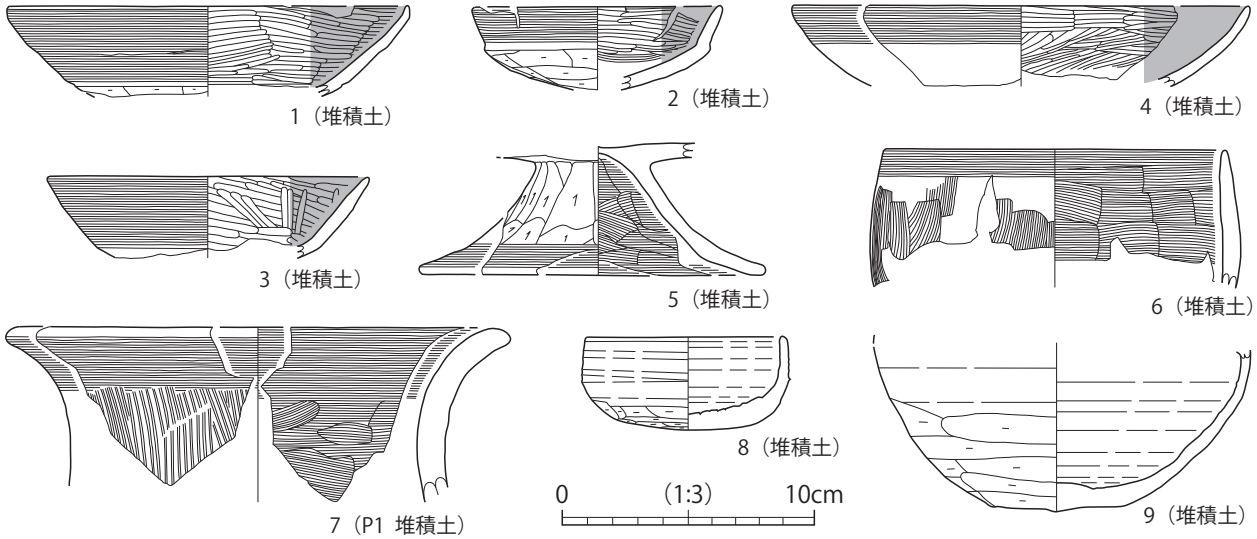
【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器坏 4 点、高坏 1 点、鉢 1 点、甕 1 点、須恵器坏 1 点、壺 1 点、丸瓦 1 点を掲載した（第 110・111 図）。5 の土師器高坏は短脚で無孔である。8 の須恵器坏は小型で稜が外面を巡る形状である。9 の壺は丸底の胴下半部である。10 の丸瓦は粘土板巻き作りで、凸面の一部には平行タタキが残る。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、後述する 3 期（7 世紀後葉）の SD11 より古く、3 期以前と考えられる。



SI32　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色・褐灰色シルトブロック (5 ～ 50㎜程度)・炭化物少量含む。
	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色・褐灰色シルトブロック (5 ～ 50㎜程度) 多量含み、下位に灰白色粘土が 5cm程度堆積。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	2c	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトラミナ状に多量、灰白色粘土ブロック (30㎜程度)・炭化物微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色・褐灰色シルトブロック (5 ～ 50㎜程度) 多量含む。
周溝	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰白色粘土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。
住居掘り方	5a	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	5b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	5c	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。
	6	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	7a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土微量含む。
	7b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色・褐灰色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	7c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含み、下位に明黄褐色シルトブロックが 5cm程度堆積。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-066	06年度	SI32	堆積土	土師器	坏	(16.0)	-	(3.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラミガキ、黒色処理		43
2	C-068	06年度	SI32	堆積土	土師器	坏	(9.8)	-	(3.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		43
3	C-071	06年度	SI32	堆積土	土師器	坏	(12.8)	-	(3.3)	口縁部ヨコナデ	ヘラミガキ、黒色処理		43
4	C-073	06年度	SI32	堆積土	土師器	坏	(18.2)	-	(3.2)	口縁部ヨコナデ	ヘラミガキ、黒色処理		43
5	C-069	06年度	SI32	堆積土	土師器	高坏	-	(14.2)	(5.2)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラナデ、脚端部ヨコナデ		43
6	C-072	06年度	SI32	堆積土	土師器	鉢	(13.6)	-	(5.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		43
7	C-074	06年度	SI32-P1	堆積土	土師器	甕	(20.0)	-	(6.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		43
8	E-010	06年度	SI32	堆積土	須恵器	鉢	7.9	-	3.7	ロクロ調整、体部下位～底部ヘラケズリ	ロクロ調整		43
9	E-009	06年度	SI32	堆積土	須恵器	壺	-	-	(6.5)	ロクロ調整、胴部下位～底部ヘラケズリ	ロクロ調整		43

第 110 図　SI32 竪穴住居跡・出土遺物（1）

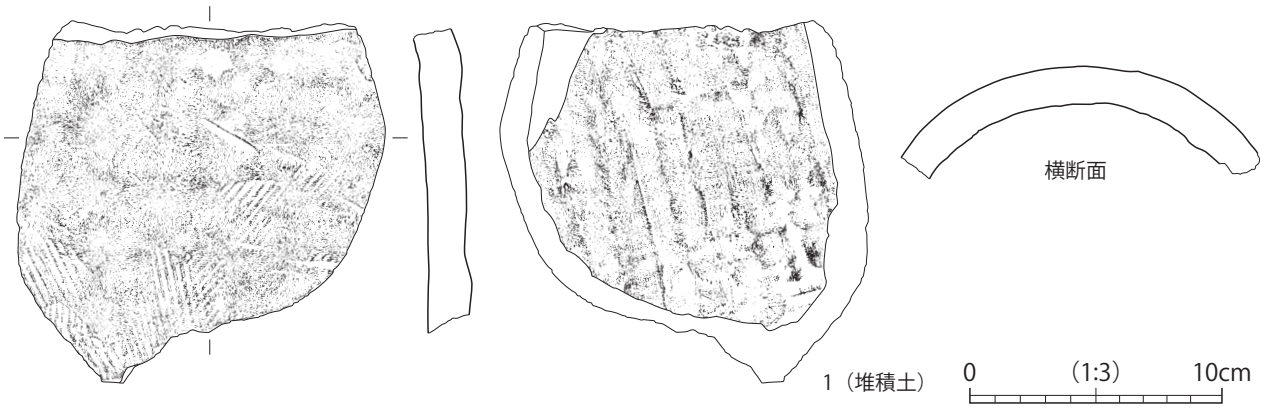
SI32　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	① a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	① b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	②	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (40㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)
	③	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量、黒褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。
P2	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。(柱痕跡)
	1b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄少量含む。(柱痕跡)
	2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄微量含む。
P3	1	2.5Y7/3 浅黄色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	2a	2.5Y6/3 にぶい黄色	粘土	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
	2b	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土	灰白色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含む。

SI32　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不明	41 × (26)	31	
P2	楕円形	(53) × 42	38	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	49 × 43	33	



図版番号	登録番号	調査年度	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量 (cm)			備　考	写真図版
							全長	幅	厚さ		
1	F-001	06年度	SI32	堆積土	瓦	丸瓦	(14.1)	(14.2)	1.7	外面平行タタキ→ヘラナデ、内面指ナデ	43

第 111 図　SI32 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI33 竪穴住居跡（第 112 図）

【位置・確認】調査区中央部東寄りの 79 グリッドに位置する。北側は調査区外にかかり、南東側は SI31 との重複により失われている。削平のため床面と周溝のみ残存している。

【重複】SI31 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 218cm、東西 434cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】西壁基準で N － 4° － W である。

【堆積土】大別で 3 層、細別で 7 層に分層された。住居堆積土は残存しておらず、床面直上に基本層Ⅲ層が堆積している。残存する 1 層は周溝堆積土、2・3 層は掘り方埋土である。

【壁面】全体が失われ、詳細不明である。

【床面】やや起伏があり、削平の影響を受けていると考えられる。

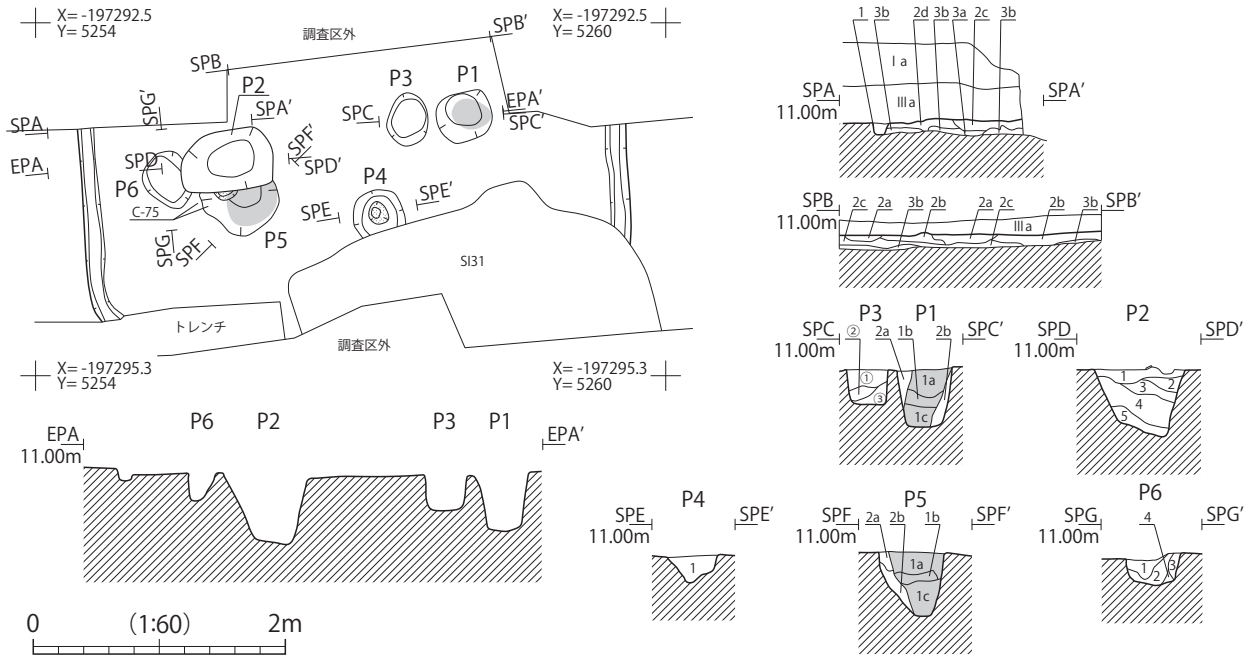
【柱穴】6 基検出した。P1・2 は形状や位置関係から主柱穴とみられる。柱筋は若干北に傾き、住居の軸とは異なっている。P2 は P5 の掘り直しと思われ、P5 の方が古い。P3・4・6 は補助的な柱とみられるが、P3・6 は主柱の補強のための柱穴と考えられる。柱痕跡は P1・2・4 で認められ、P4 では底面のあたりのみが残存する。

【周溝】検出部では東壁と西壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 12 ～ 17cm、深さ 4 ～ 10cm を測る

【掘り方】深さ 4 ～ 16cm 程を測る。底面は東壁側が帯状に高まり、西壁側が低くなる。

【出土遺物】P1・2・5 から土師器の破片がわずかに出土したが、図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



SI33　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
住居掘り方	2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	2b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
	2c	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量含む。
	2d	10YR6/6 明黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。
	3a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	3b	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。

SI33　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	1b	10YR3/1 黒褐色	粘土	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	1c	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)
	2a	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P3	①	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	②	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	③	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
P5	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	1b	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	1c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)
	2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	2b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色・黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。

SI33　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	43 × 38	45	
P2	楕円形	73 × (48)	52	
P3	楕円形	42 × 38	28	
P4	楕円形	42 × (32)	21	
P5	不明	(54) × (50)	48	
P6	隅丸方形	43 × 37	22	

第 112 図　SI33 竪穴住居跡

SI34 竪穴住居跡（第 113 図）

【位置・確認】調査区中央部西寄りの 75 グリッドに位置する。北側は調査区外にかかり、重複遺構や削平のため掘り方の一部と、主柱穴が残存する。

【重複】SI29・32、SD11・16、Pit486 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 261cm、東西 218cm を測る。平面形状は判然としない。

【方向】柱穴配置基準で N － 9° － W である。

【堆積土】大別で 3 層、細別で 4 層に分層された。いずれも掘り方埋土である。

【壁面】全体が失われ、詳細不明である。

【床面】全体が失われ、詳細不明である。

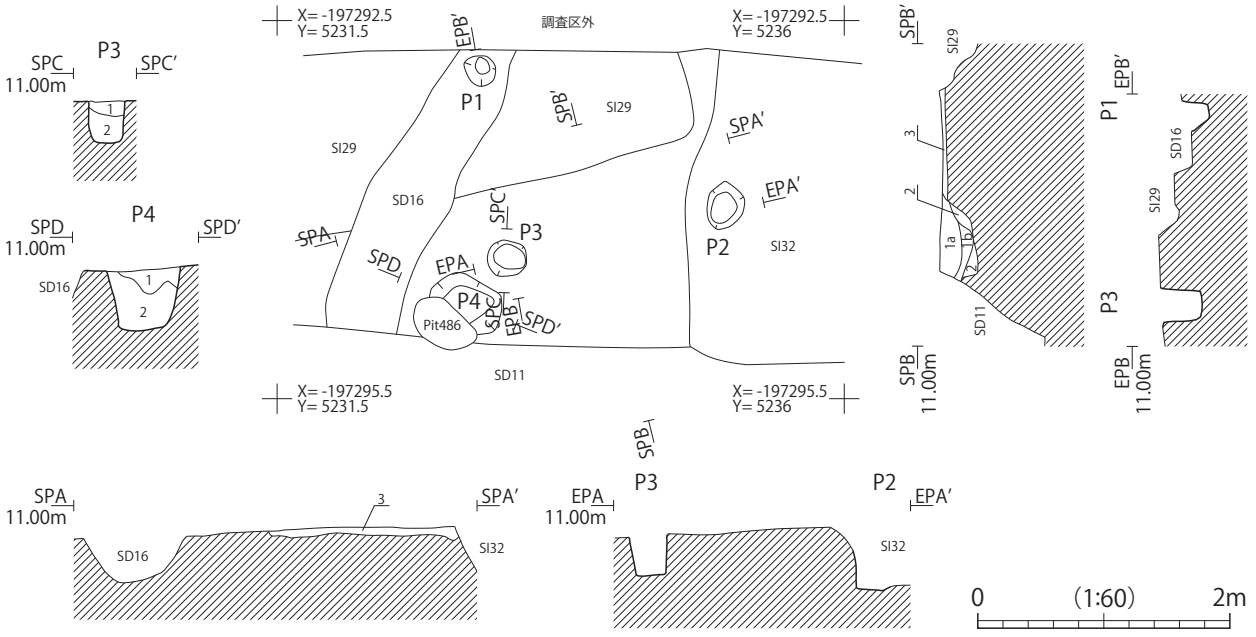
【柱穴】3 基検出した。いずれも形状や位置関係から主柱穴とみられる。P1 は SD16 の底面から、P2 は SI32 の掘り方から検出された。このため上部は失われているが、ともに 40 ～ 50cm 前後の深さが推定される。柱痕跡はこれら 3 基には認められなかった。

【その他の施設】土坑 P4 を検出した。人為的に埋め戻されている。

【掘り方】深さ 3 ～ 30cm 程が残存する。底面は中央部が高まり、北東側と南側が低くなる。

【出土遺物】掘り方から土師器甕の破片が 2 点出土したが、図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、後述する 3 期（7 世紀中葉）の SD11 より古く、3 期以前と考えられる。



SI34　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量、炭化物微量含み、下位に灰黄褐色シルトブロックが 5cm程度堆積。
	1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 多量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 多量含む。

SI34　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	—	—	—	註記なし。
P2	—	—	—	註記なし。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。

SI34　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	26 × 23	18	
P2	楕円形	38 × 29	10	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	31 × 30	32	
P4	楕円形	59 × (37)	54	

第 113 図　SI34 竪穴住居跡

SI35 竪穴住居跡（第 114・115 図）

【位置・確認】調査区中央部の 77 ～ 80 グリッドに位置する。南側と北側は調査区外にかかり、一部を重複遺構や撹乱で失うが、比較的残存状況は良い。SI28 が入れ子状に重複し、この掘り方底面が本竪穴住居跡の床面と同一レベルになる。

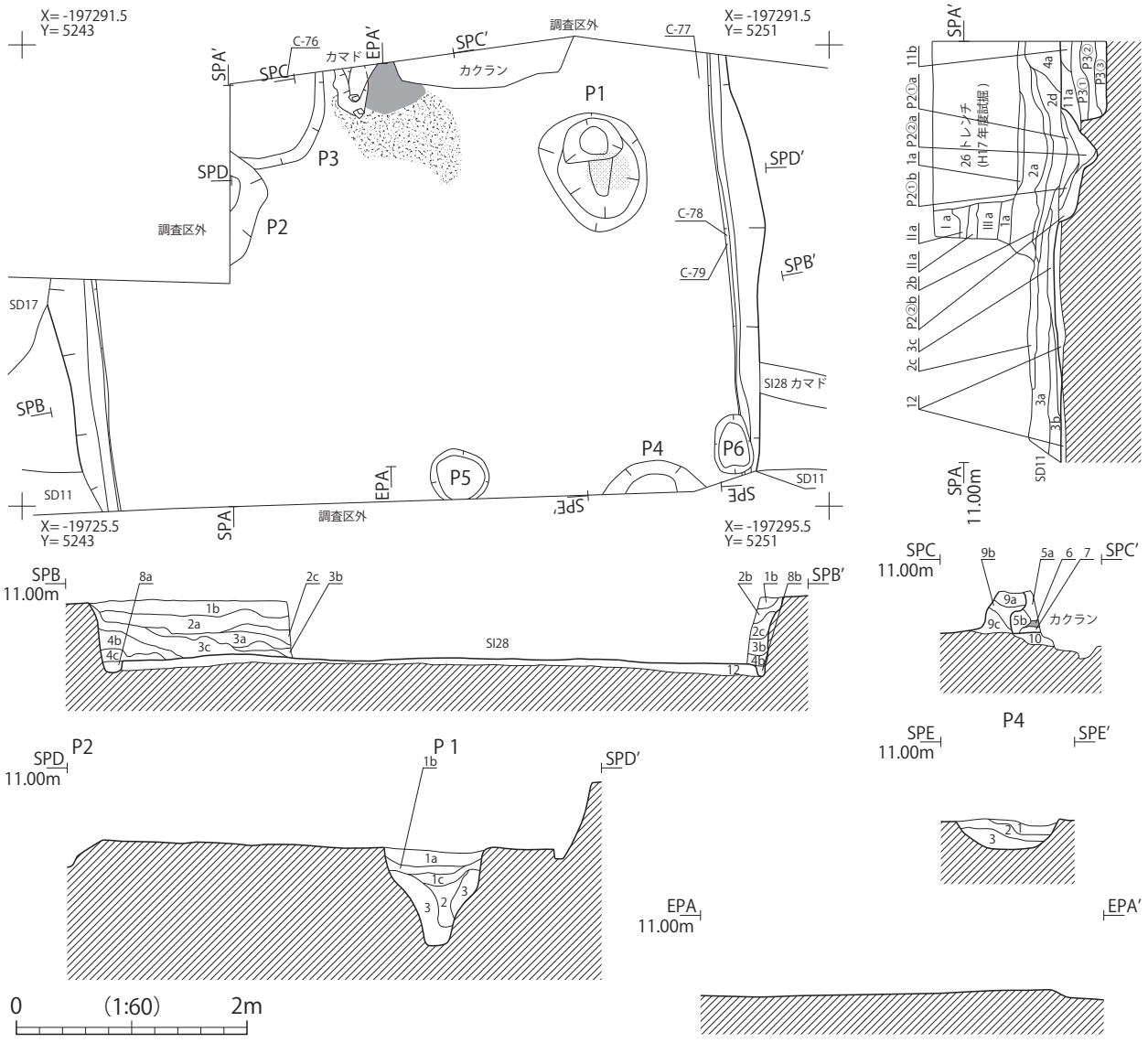
【重複】SI28、SD11・17 と重複する。新旧関係はこれらよりも古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 400cm、東西 620cm を測る。平面形状は、方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 5° － W である。

【堆積土】大別で 12 層、細別で 25 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、SI28・30 同様に明黄褐色シルトと灰白色粘土を多く含む。5 ～ 7 層はカマド関連層で、5a 層は燃焼部の天井崩落土、5b 層と 7 層は袖の崩落土とみられる。5b 層と 7 層の間には焼土主体の 6 層を挟む。8 層は周溝堆積土である。9･10 層はカマド構築土で、9 層は袖構築土、10 層は底面の被熱層である。11・12 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 58cm を測る。



第 114 図　SI35 竪穴住居跡

SI35　堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
	1b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2a	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄少量含む。
	2b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト多量含む。
	2c	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10㎜程度) 少量、明黄褐色シルトブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。
	2d	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	4a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	4b	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	4c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含み、明黄褐色シルトブロック一部に集中。
カマド	5a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土・炭化物微量含む。
	5b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度)・焼土・炭化物多量含む。
	6	7.5YR7/4 にぶい橙色	シルト	焼土多量含む。
	7	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20㎜程度)・焼土少量含む。
周溝	8a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。
	8b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
カマド袖	9a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	9b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	9c	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土・炭化物少量含む。
カマド掘り方	10	5YR5/3　にぶい赤褐色	粘土質シルト	明黄褐シルトブロック (10 ～ 30㎜程度)・焼土・炭化物多量含む。
住居掘り方	11a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	11b	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルト多量含む。
	12	10YR8/2 灰白色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。

SI35　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。
	1c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (50㎜程度) 少量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
P2	① a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	① b	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	② a	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	② b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。
P3	①	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土少量、灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 微量含む。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度)・焼土少量含む。
	③	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	焼土・炭化物少量、灰黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 微量含む。
P4	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。
P5	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。

SI35　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	103 × 85	100	
P2	不明	(99) × (33)	(23)	
P3	隅丸方形	(82) × (80)	38	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	不明	(90) × (28)	20	
P5	円形	51 × (43)	17	
P6	隅丸方形	51 × 33	15	

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】2 基検出した。形状や位置関係から P1・2 ともに主柱穴に相当すると思われる。P1 では土層断面に柱痕跡と掘り返しの痕跡が観察できる。南東側の P4 も主柱穴相当の位置関係にあるが、断面形状の違いから、住居内土坑とした。

【周溝】検出された東西両方の壁面に沿って延びる。規模は、幅 11 ～ 19cm、深さ 7 ～ 12cm を測る。

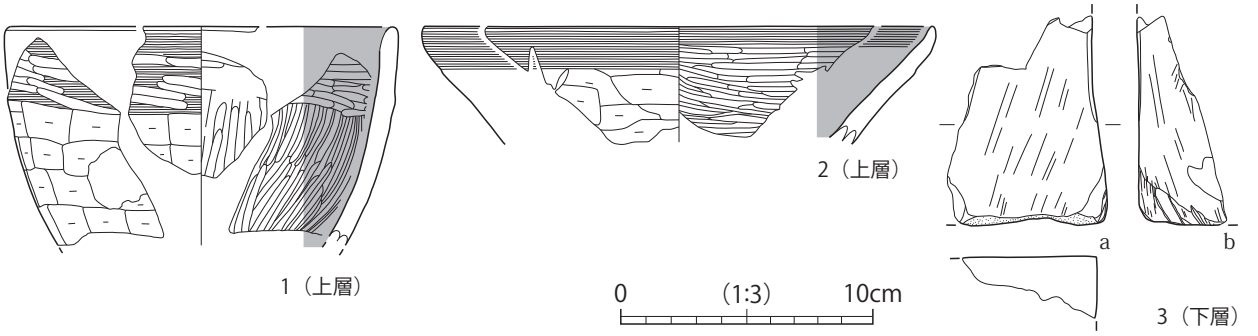
【カマド】北壁に位置する。燃焼部の後方は調査区外にかかり、東袖は撹乱で失われている。西袖は長さ 43cm、幅 30cm が検出された。壁との接続部分は調査区外となるため、袖の傾きは不明である。袖は基本層Ⅳ層土を主体とする盛土で構築されている。先端からは棒状礫が 2 点並んで出土しており、焚口の芯材と思われる。手前の礫は上部が欠損している。燃焼部は奥行き 43cm を測り、幅は 26 ～ 48cm が残存する。底面は概ね平坦である。

【その他の施設】土坑 P3 ～ 6 を検出した。いずれも人為的に埋土されている。P3 は掘り方埋土の 11 層より下位から検出した。P4 は前述の通り主柱穴に相当する可能性もある。

【掘り方】深さ 0 ～ 11cm 程を測る。底面は概ね平坦で、南西側と北東側には浅い土坑状の掘り込みがある。

【出土遺物】堆積土出土の遺物がほとんどを占める。土師器鉢 2 点、石製品 1 点を掲載した（第 115 図）。2 の土師器鉢は体部が直線的に外傾し、口縁部で内湾気味に直立する。内面は黒色処理されている。3 は粘板岩製の砥石の破片で、下端部には自然面が残る。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、SI28・SD11 よりは古く、2 期（7 世紀中葉前後）以前と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-076	06年度	SI35	上層	土師器	鉢	(15.6)	-	(8.7)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		44
2	C-078	06年度	SI35	上層	土師器	鉢	(20.4)	-	(4.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、黒色処理		44

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
3	Kd-001	06年度	SI35	下層	石製品	砥石	(8.3)	(6.3)	(3.0)	144.9	粘板岩	砥面 2 面、溝状痕 (b 面)、破片	44

第 115 図　SI35 竪穴住居跡出土遺物

(2) 掘立柱建物跡

第 167 次（1 年次）調査で 11 棟、第 167 次（2 年次）調査で 2 棟、第 180 次調査で 1 棟、合計 14 棟を検出した。棟方向は真北に対し概ね平行する建物が多い。建物構造では側柱建物が 11 棟、総柱建物が 3 棟で、前者には庇付建物が 2 棟含まれる。全体の分布では第 167 次（1 年次）調査区の西側に集中する傾向があり、9 棟が柱穴や建物範囲を重複している。

各次調査における遺構番号は、第 167 次（1 年次）調査が SB1 ～ 11、第 167 次（2 年次）調査が SB14・17、第 180 次調査が SB15 である。SB12・13 は整理時に欠番とした。SB16 は郡山遺跡第 200 次調査（平成 22 年度）で検出され、報告済みである（仙台市教委 2011 年）。SB17 は 200 次調査で検出されたピットとの照合作業の結果、存在が明らかになった建物跡である。

SB1 掘立柱建物跡（第 116・117 図）

調査区北東部の 16・17・19・20 グリッドに位置する。建物範囲を大きく撹乱され、完存する柱穴はないが、建物全体に相当する 11 基を検出した。このうち P2A・2B と P9A・9B は建て替えの関係にあると考えられ、本来は 9 基の柱穴で構成される建物跡である。主な他遺構との重複関係は、SI11A・11B・12・17、SD10 より新しい。

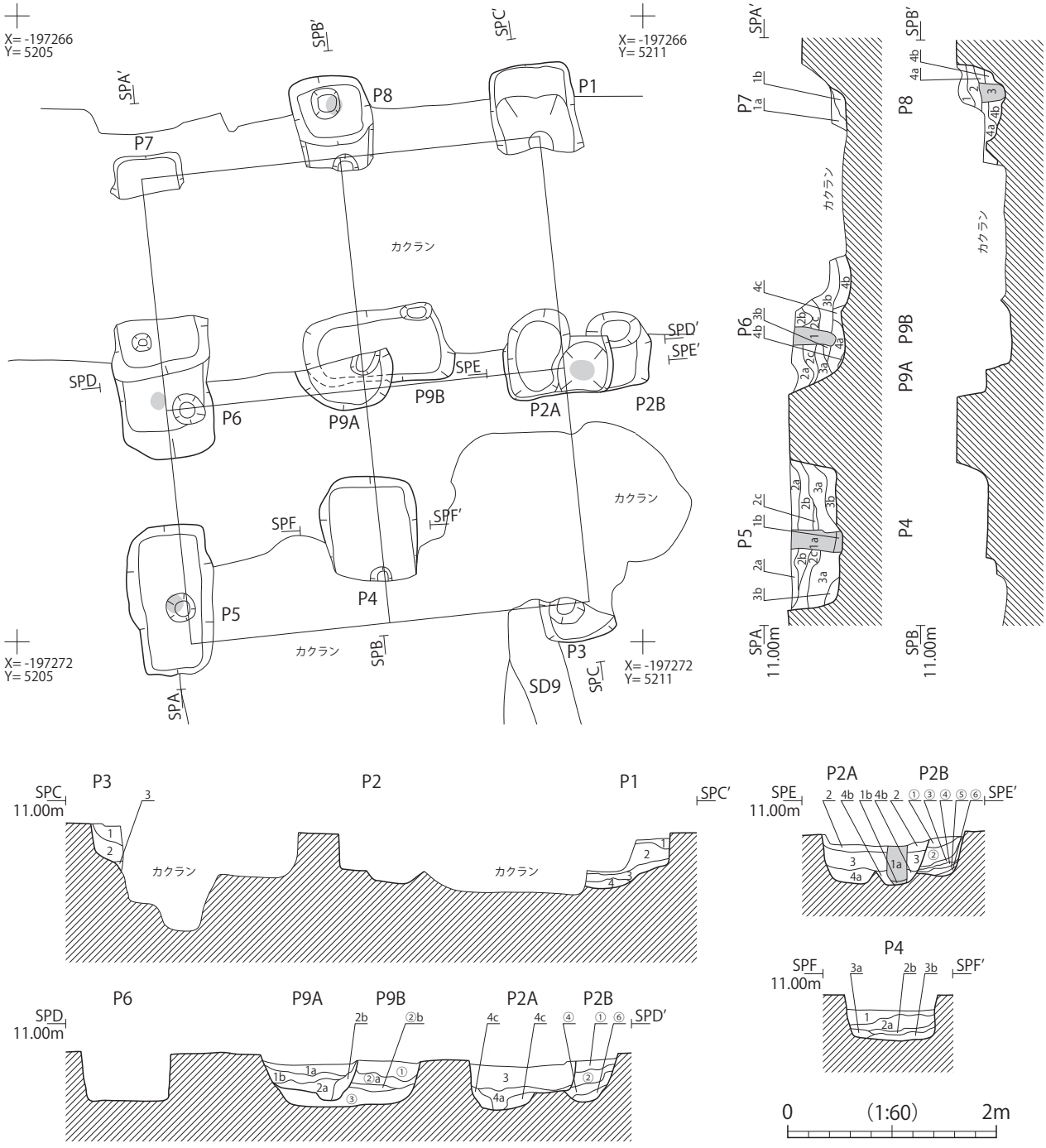
東西 2 間、南北 2 間の総柱建物である。規模は東西総長 375 ～ 380cm、南北総長 400 ～ 450cm を測り、平面形状はややゆがんだ方形を呈する。棟方向は東側柱列で N － 6° － W である。

柱間寸法は、柱穴同士の芯々距離あるいは柱痕跡や底面の窪みなどを参考にした。本掘立柱建物跡の東西方向の柱列では、北側柱列が東から 180cm － 200cm、中央柱列が 200cm 等間隔、南側柱列が 180cm － 195cm である。南北方向の柱列では、東側柱列が 225cm 等間隔、中央柱列が 200cm 等間隔、西側柱列は P7 が不明瞭であるが恐らく 200cm 等間隔と思われる。このように柱穴配置は不揃いであるが、底面に複数の窪みをもつ P6・8 や、P2・9 の A・B 柱穴が示すように、建て替えによる変形も考慮する必要がある。

柱穴の平面形状は、南北方向の隅丸長方形が基本形状と思われる。柱穴の規模は、撹乱の影響を受け不明な点が多いが、長軸 140 ～ 150cm 前後、短軸 80 ～ 90cm 前後が推定される。深さは 34 ～ 58cm と均一ではないが、南側柱列の P3 ～ 5 が浅くなる傾向がある。柱痕跡は P2A・5・6・8 で確認され、径 16 ～ 19cm を測る。

遺物は土師器坏 1 点、土製品 1 点を図示した（第 117 図）。1 は P1、2 は P8、3 は P4 からの出土である。1 の坏は、内面がヘラミガキ調整された鬼高系土師器の良品である。2 は青銅製の丸鞆である。装着面は縁辺や孔の四周を折り返している。3 は棒状土製品としたが若干湾曲し、把手の破片と思われる。焼成は悪く、軟質である。

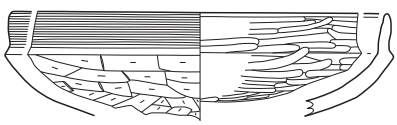
本掘立柱建物跡の時期は、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）の SI12 より新しく、4 期以降と考えられる。



第 116 図　SB1 掘立柱建物跡

SB1　観察表

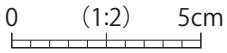
遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	方形	(77) × 78	55	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	SI11A・12・17 より新しい。
				2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				4	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密、褐色土少量含む。	
P2A	方形	103 × (53)	47	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	(柱痕跡)	SI11A・12 より新しい。
				1b	2.5Y5/3 黄褐色	粘土	(柱痕跡)	
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物少量含む。	
				4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
				4b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				4c	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密、褐色土少量含む。	
P2B	方形	138 × (86)	58	①	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SI11A・12 より新しい。
				②	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
				③	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
				④	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
				⑤	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 程度) 多量含む。	
				⑥	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、暗褐色土粒少量含む。	
P3	方形	(43) × (69)	34	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。	SD9 より古い。
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
P4	方形	(98) × 92	36	1	10YR3/3 暗褐色	シルト		SM7 より古く、SD10 より新しい。
				2a	2.5Y5/3 黄褐色	粘土		
				2b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
				3a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。	
				3b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	
P5	方形	143 × 85	37	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	(柱痕跡)	SM8 より古い。
				1b	2.5Y5/3 黄褐色	粘土	(柱痕跡)	
				2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。	
				2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	
				2c	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物少量含む。	
				3a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				3b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密、褐色土少量含む。	
P6	方形	(134) × 89	58	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	(柱痕跡)	SM7 より古い。
				2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。	
				2b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
				2c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	
				3a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				3b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物少量含む。	
				4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
				4b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				4c	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密、褐色土少量含む。	
P7	方形	(36) × 71	42	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
				1b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密、褐色土少量含む。	
P8	方形	(92) × 78	51	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。	SI11A・12・17 より新しい。
				2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)	
				4a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				4b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密、褐色土少量含む。	
P9A	方形	95 × (52)	41	1a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 8㎜程度) 含む。	SI11A・12 より新しい。
				1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	
				2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物少量含む。	
P9B	方形	151 × (36)	36	①	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化粒微量含む。	SI11A・12 より新しい。
				② a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
				② b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
				③	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 程度) 多量含む。	



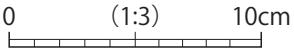
1 (P1 3 層)

2 (P8 1 層)

3 (P4 堆積土)



※図版番号 2・3



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-391	04年度	SB1-P1	3 層	土師器	坏	(15.0)	-	(4.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ		44

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
2	N-001	04年度	SB1-P8	1 層	金属製品	青銅製丸鞆	(1.7)	2.4	0.2	1.6	孔 1.7 × 0.5㎝、装着面折り返し	44
3	P-007	04年度	SB1-P4	堆積土	土製品	棒状土製品	2.1	1.0	1.0	2.3	ナデ	44

第 117 図　SB1 掘立柱建物跡出土遺物

SB2 掘立柱建物跡（第 118 ～ 120 図）

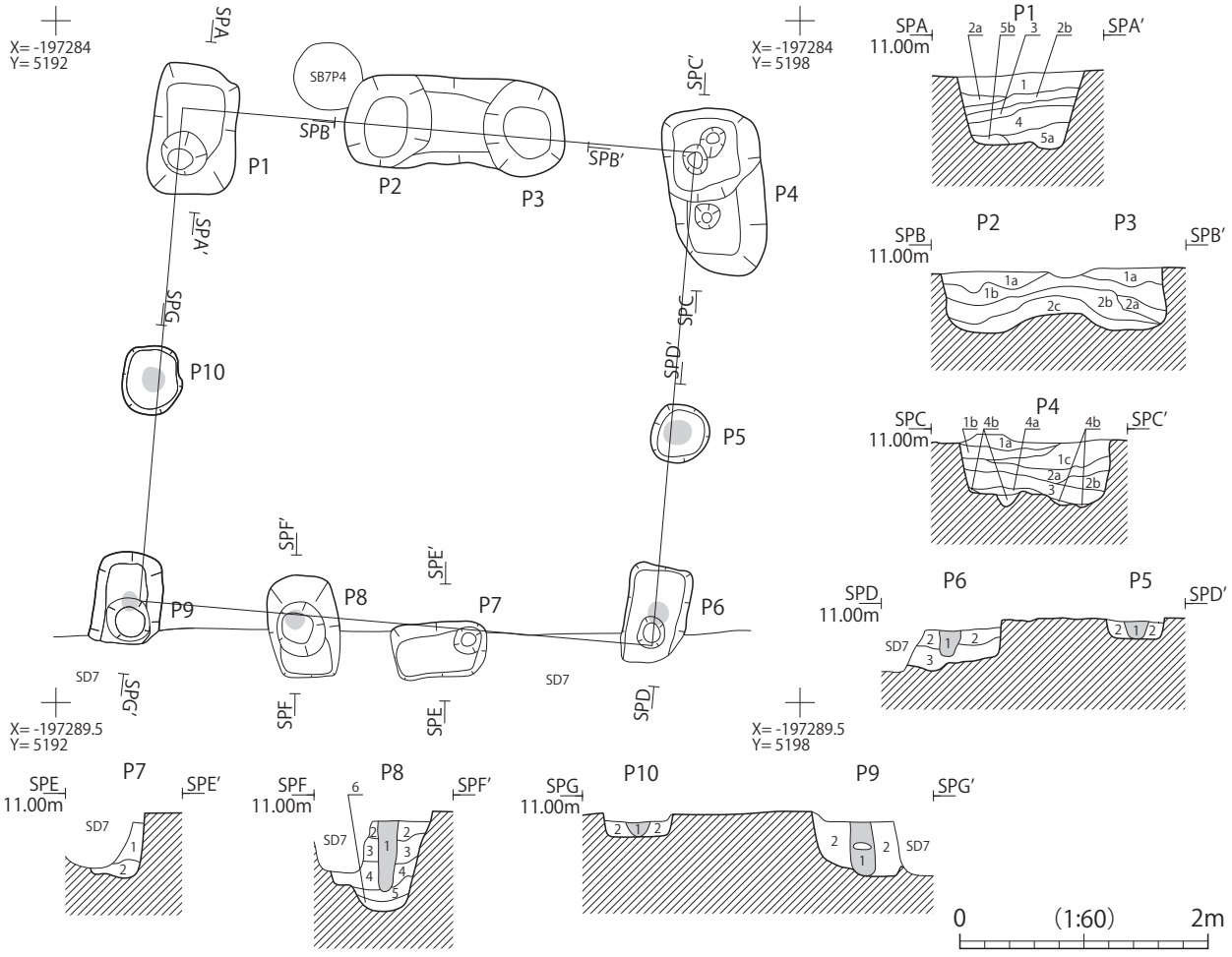
調査区南西部の 9・12 グリッドに位置する。南側柱列の一部を SD7 との重複で失うが、比較的残存状況は良い。10 基の柱穴で構成される。主な他遺構との重複関係は、SB7、SD7 より古く、SI4 より新しい。

P1 ～ 4・P6 ～ 9 の柱列と中軸上の P5・9 の柱列とでは、明らかに柱穴の規格が異なっており、妻梁は東西に面していたと推定される。桁行（東西）3 間、梁行（南北）2 間の側柱建物である。規模は桁行総長 420cm、梁行総長 360 ～ 370cm を測り、平面形状はほぼ方形を呈する。棟方向は桁部の南側柱列で N － 85° － W である。

柱間寸法は、桁行南側柱列が東から 150cm － 130cm － 140cm、北側柱列が 140cm － 110cm － 170cm である。梁行では東側柱列が北から 220cm － 150cm、西側柱列が 180cm 等間隔で、全体的に柱間が不揃いである。

柱穴の平面形状は隅丸長方形を基本形状とし、P1・4・6・8・9 が南北方向、P7 が東西方向の長方形である。P2・3・5・10 は円形基調で、このうち P2・3 は溝状の掘り込みで連結し、同時に埋め戻されている。柱穴の規模は棟柱の P5・10 よりも、南北両柱列の方が確実に大きい。前者では長軸 45 ～ 56cm、短軸 45 ～ 48cm、深さ 16 ～ 17cm を測るのに対し、後者では規模が測定可能な柱穴で長軸 74 ～ 135cm、短軸 45 ～ 77cm、深さ 45 ～ 85cm を測る。この中でも北側柱列が南側柱列より一回り以上大きい傾向がある。柱痕跡は P5・6・8 ～ 10 で確認され、径 17 ～ 20cm を測る。P4 の底面には 3 箇所の窪みが確認され、建て替えによるものと考えられる。

遺物は土師器坏 2 点、埦 1 点、鉢 1 点、須恵器坏 1 点、高坏 1 点、金属製品 1 点、石製品 1 点を図示した（第 119・120 図）。図化しなかった遺物も含め、SI4 と重複する柱穴から多く出土する傾向が認められる。



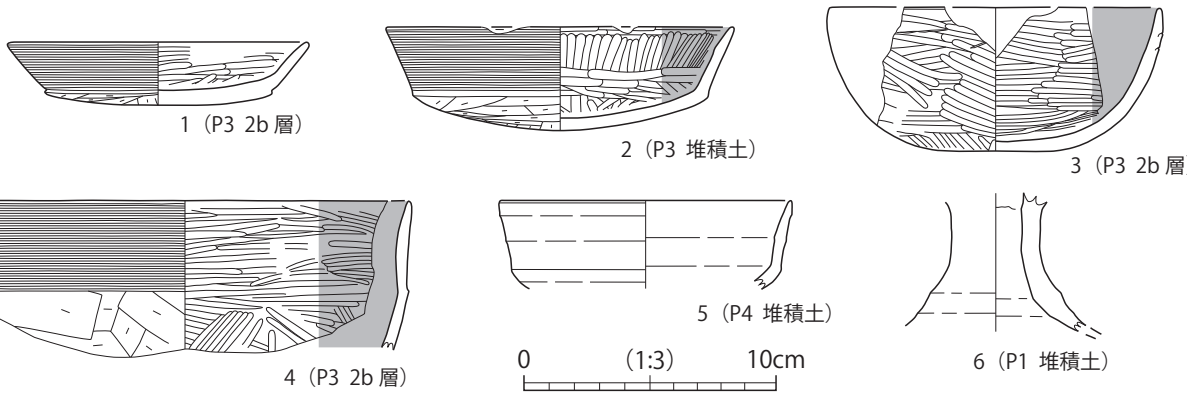
第 118 図　SB2 掘立柱建物跡

SB2　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	方形	104 × 68	68	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	SM55 より古く、SI4 より新しい。
				2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				2b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。	
				5a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
				5b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
P2	隅丸方形	175 × 67	48	1a	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	SB7-P5、SM54 より古く、SI4 より新しい。
				1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
P3			54	2a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	
				2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				2c	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。	
P4	隅丸方形	135 × 77	60	1a	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	SM45・53 より古く、SI4 より新しい。
				1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				1c	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物含む。	
				2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				2b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。	
				3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物含む。	
				4a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
				4b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
P5	円形	47 × 45	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	
P6	方形	(78) × 51	45	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	SD7 より古い。
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	
P7	方形	74 × 44	54	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	SD7 より古い。
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
P8	方形	83 × 56	85	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	SD7 より古い。
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	
				3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
				4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
				5	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				6	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
P9	方形	(74) × 54	55	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。(柱痕跡)	SD7 より古い。
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
P10	隅丸方形	56 × 48	16	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	SM55 より古い。
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	

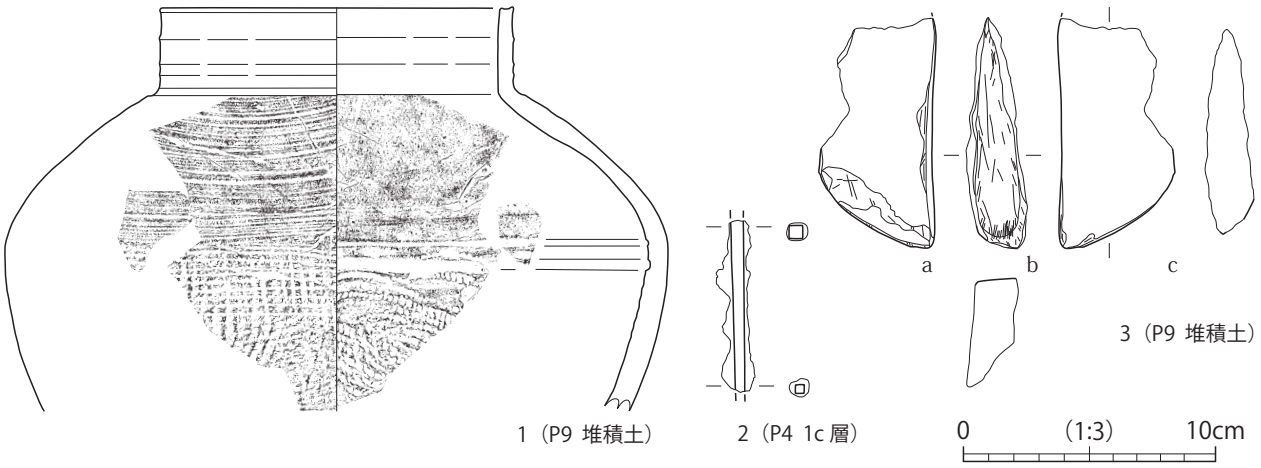
第 119 図－ 1 の土師器坏は平底に近い形状で、4 の鉢は口縁部と体部の境に稜を有する。第 120 図－ 1 の須恵器壺は口縁部が直立し、内外面を縄目タタキ後、外面をカキメ調整している。2 は鉄釘もしくは鉄鏃の茎部と思われるが、判然としない。3 はホルンフェルス製の砥石で、砥面が 2 面だけ残存する。

本掘立柱建物跡の時期は、古い順に SI4（1 期－ 7 世紀前葉前後）→ SB2 → SB7（2 期－ 7 世紀中葉前後－以降）と重複すること、出土遺物の特徴などから 2 期（7 世紀中葉前後）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-427	04年度	SB2-P3	2b 層	土師器	坏	(12.0)	-	2.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ		44
2	C-428	04年度	SB2-P3	堆積土	土師器	坏	13.8	-	4.1	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		44
3	C-429	04年度	SB2-P3	2b 層	土師器	埦	(13.0)	-	5.7	ヘラナデ→ヘラミガキ、輪積み痕	ヘラミガキ、黒色処理		44
4	C-430	04年度	SB2-P3	2b 層	土師器	鉢	(18.0)	-	(5.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		44
5	E-144	04年度	SB2-P4	堆積土	須恵器	坏	(11.6)	-	(3.5)	ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ロクロ調整		44
6	E-127	04年度	SB2-P1	堆積土	須恵器	高坏	-	-	(5.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		44

第 119 図　SB2 掘立柱建物跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-134	04年度	SB2-P9	堆積土	須恵器	壺	(14.1)	-	(16.0)	口縁部ロクロ調整、胴部上半カキメ、胴部下半カキメ→平行タタキ	口縁～胴部上半ロクロ調整、胴部下半縄目当て具痕、沈線		44

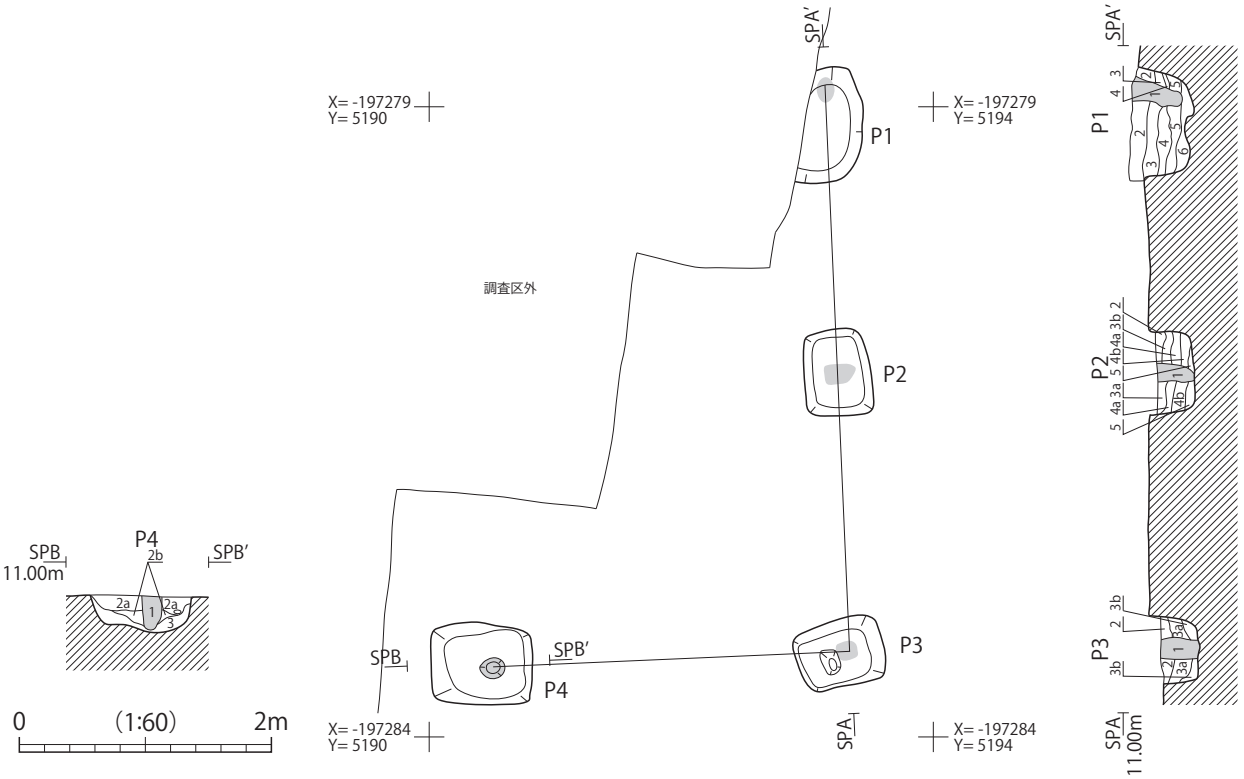
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
2	N-017	04年度	SB2-P4	1c 層	金属製品	棒状鉄製品	(6.8)	0.7	0.6	10.8	角柱状、両端部欠損	44

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
3	Kd-017	04年度	SB2-P9	堆積土	石製品	砥石	(9.2)	(4.5)	(1.7)	92.8	ホルンフェルス	砥面２面、破片	44

第 120 図　SB2 掘立柱建物跡出土遺物（2）

SB3 掘立柱建物跡（第 121 図）

調査区西端部の 19・20 グリッドに位置する。半分程は調査区外にかかる。東側と南側の柱列に相当する、4 基の柱穴を検出した。SI4・18 と重複し、これらよりも新しい。



第 121 図　SB3 掘立柱建物跡

SB3　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		層位	土　色	土　性	備考	重複
		長軸×短軸	深さ					
P1	隅丸方形	96 × (47)	34	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SM63 より古い。
				2	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
				3	7.5YR4/3 褐色	粘土質シルト	淡黄白色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土ブロック (3 ～ 10㎜程度)・炭化物多量含む。	
				4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	淡灰色粘土粒多量、炭化物含む。	
				5	7.5YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物多量含む。	
				6	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
P2	方形	69 × 50	38	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SI4 より新しい。
				2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
				3a	7.5YR4/3 褐色	粘土質シルト	淡黄白色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土ブロック (3 ～ 10㎜程度)・炭化物多量含む。	
				3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
				4a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	淡灰色粘土粒多量、炭化物含む。	
				4b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
				5	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土粒少量含む。	
P3	方形	69 × 50	44	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SM55 より古い。
				2	7.5YR4/3 褐色	粘土質シルト	淡黄白色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土ブロック (3 ～ 10㎜程度)・炭化物多量含む。	
				3a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	淡灰色粘土粒多量、炭化物含む。	
				3b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
P4	方形	80 × 51	33	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)	
				2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
				2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	淡灰色粘土粒多量、炭化物含む。	
				3	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土粒少量含む。	

検出したのは東西1間、南北2間の範囲で、側柱建物と思われる。規模は東西総長280cm、南北総長420cmを測る。棟方向は東側の柱列でN－3°－Wである。

東側柱列の柱間寸法は、210cm等間隔を測る。南側柱列の柱間寸法とは70cmの差があり、梁行1間の南北棟である可能性が考えられる。

柱穴の平面形状は、いずれも隅丸長方形を呈する。長軸方向は、P1・2が南北方向、P3とP4が東西方向である。規模は長軸69 ～ 96cm、短軸はP2 ～ 4で50 ～ 51cm、深さ33 ～ 44cmを測る。P1が一回り大きいが、他は概ね同規模である。柱痕跡はP1 ～ 4全ての柱穴で確認され、径12 ～ 16cmを測る。

遺物は土師器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、1期（7世紀前葉前後）のSI4よりは新しいが、詳細は不明である。

SB4 掘立柱建物跡（第122図）

調査区北東部の23グリッドに位置する。建物全体に相当する6基の柱穴を検出した。北側のP5南半部とP6上部は、SD1との重複により失われている。主な他遺構との重複関係は、SD1より古く、SI9・10より新しい。

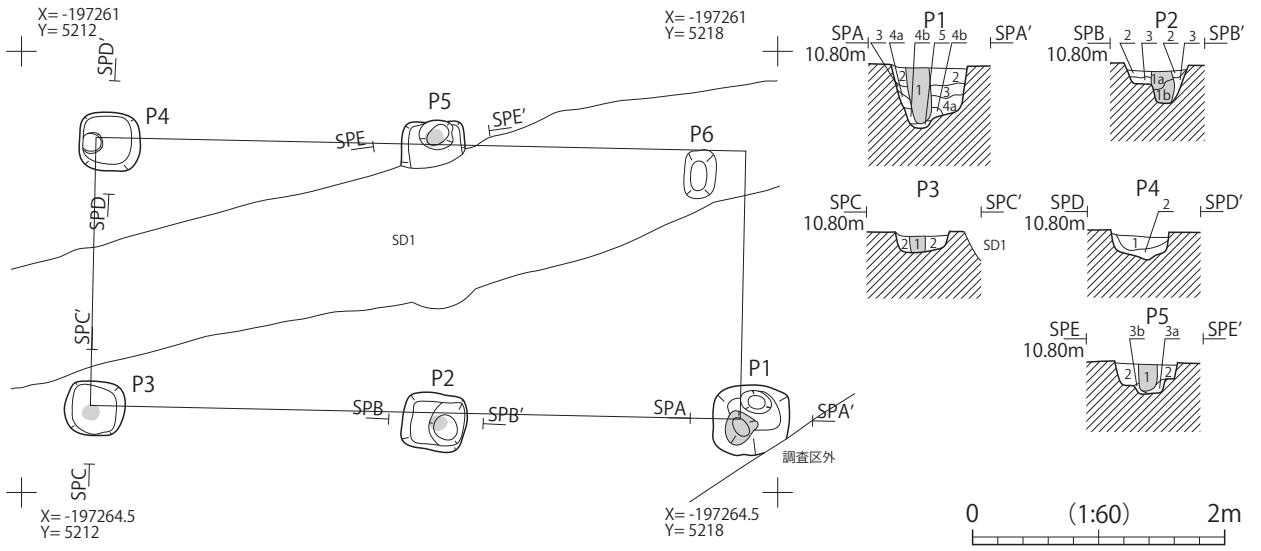
桁行（東西）2間、梁行（南北）1間の側柱建物である。規模は桁行総長480 ～ 520cm、梁行総長200 ～ 210cmを測り、平面形状は長方形の東西棟である。棟方向は桁部の南側柱列でN－89°－Wである。

桁部における柱間寸法は、南側柱列が東から240cm－280cm、北側柱列が東から200cm－280cmを測るが、P6の上部が失われていることを考慮すると、本来は南北両列とも同等な配置であったと思われる。

柱穴の平面形状は、いずれも隅丸方形が基本形状と考えられる。P5・P6は判然としないが、規模はP6を除き長軸46 ～ 61cm、短軸41 ～ 56cmを測り、概ね同規模である。深さは16 ～ 67cmと均一ではなく、P1が極端に深い。柱痕跡はP1 ～ 3・5で観察され、径15 ～ 19cmを測る。

遺物は土師器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、2期（7世紀中葉前後）のSI9より新しく、2期以降と考えられる。



SB4　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	隅丸方形	61 × 56	67	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)	SI9 より新しい。
				2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
				4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
				4b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	
				5	2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色	粘土	淡白色粘土密に含む。	
P2	方形	52 × 47	32	1a	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物多量含む。(柱痕跡)	SI9 より新しい。
				1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄褐色土ブロック含む。(柱痕跡)	
				2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物含む。	
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色土ブロック含む。	
P3	隅丸方形	46 × 41	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	SI9 より新しい。
				2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。	
P4	方形	47 × 46	18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色土ブロック一部に集中、炭化物少量含む。	SI9 より新しい。
				2	10YR4/6 褐色	シルト	黒褐色土ブロック含む。	
P5	方形	51 × (36)	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	(柱痕跡)	SD1 より古く、SI9・10 より新しい。
				2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	
				3a	2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色	粘土	淡白色粘土密に含む。	
				3b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土粒少量含む。	
P6	隅丸方形	38 × 25	12	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	SD1 より古く、SI9 より新しい。

第 122 図　SB4 掘立柱建物跡

SB5 掘立柱建物跡（第 123 図）

調査区西部の 12・16・18 グリッドに位置する。北西部は調査区外にかかる。12 基の柱穴を検出した。西側の柱穴は、重複遺構により上部が失われているものが多い。主な他遺構との重複関係は、SI7・8 より古い。範囲的には SB9 とも重複している。

庇付建物で、身舎は桁行（南北）3 間、梁行（東西）2 間の側柱建物と思われるが、北側柱列は SI8 との重複のためか中央の柱穴が検出されなかった。身舎の規模は桁行総長 530 ～ 550cm、梁行総長 380 ～ 430cm を測り、平面形状は、やや北側に広がる不整長方形の南北棟である。棟方向は桁部の東側柱列で N － 8° － W である。庇は西面に付き、3 基の柱穴を検出した。身舎からの距離は 170 ～ 180cm を測る。

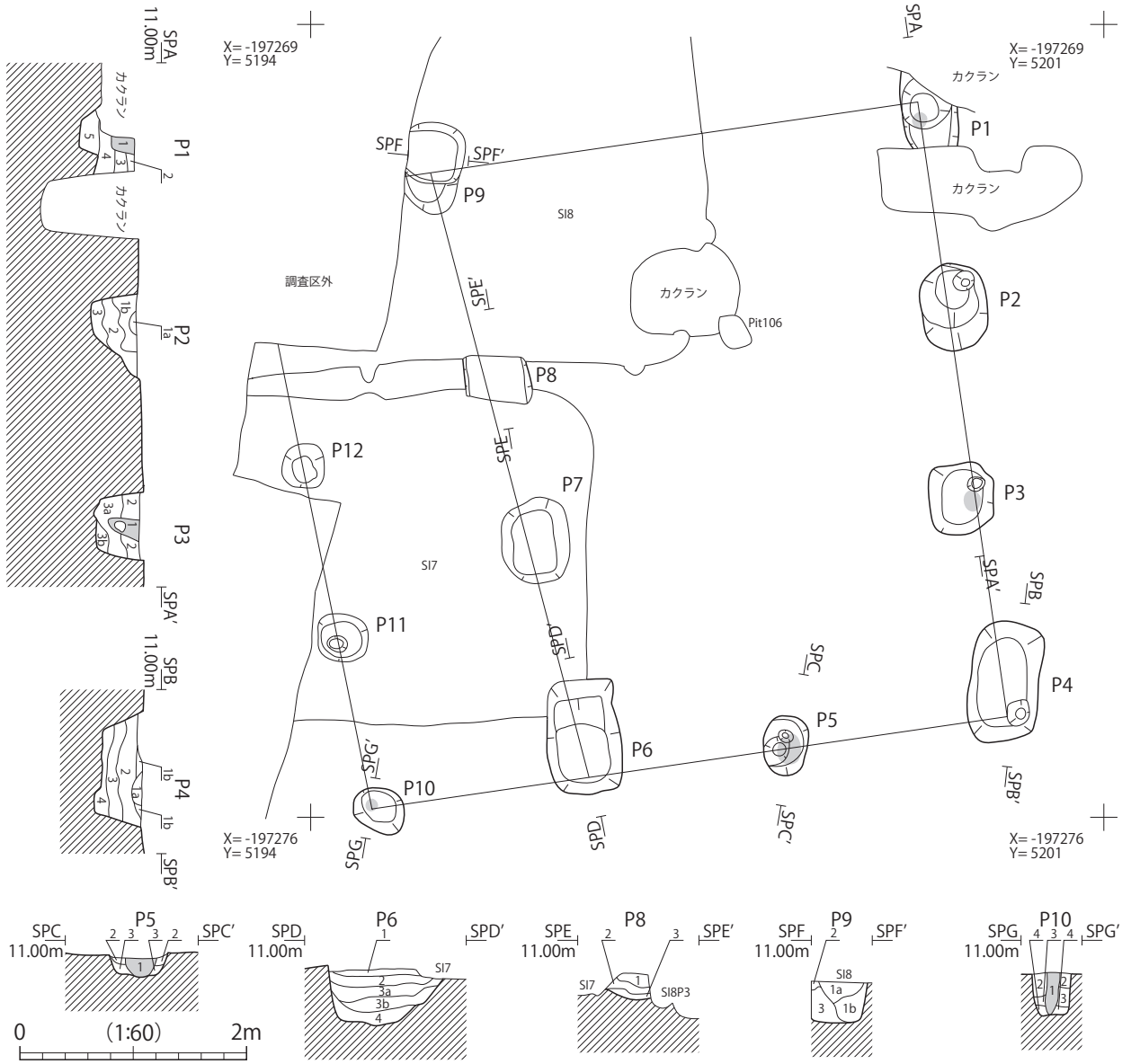
柱間寸法は、桁行東側柱列が北から 150cm － 180cm － 200cm、西側柱列が 200cm － 150cm － 200cm を測り、梁行南側柱列が東から 210cm － 170cm を測る。北側柱列は前記の理由から判然としない。このように柱穴配置は不揃いである。庇部の柱間寸法は、北から 160cm － 140cm を測る。

柱穴の平面形状は、身舎部では隅丸長方形、隅丸方形、楕円形と多様であるが、概ね長軸を南北に向けている。規模は、棟柱の P5 以外が大きく、測定可能な柱穴で長軸 54 ～ 105cm、短軸 47 ～ 65cm、深さ 21 ～ 56cm を測る。庇部の柱穴の平面形状は円形基調で、規模は長さ 39 ～ 47cm、幅 37 ～ 43cm を測る。深さは P11・12 の上部が

失われているが、底面標高から判断すると 35 ～ 40cm 前後と推定される。柱痕跡は P1・3・5・10 で確認され、径 11 ～ 26cm を測る。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。



SB5　観察表 (1)

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	不明	(67) × 47	54	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (3 ～ 8㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。	
				4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	淡青灰色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
				5	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
P2	楕円形	77 × 57	56	1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。	
				1b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
				2	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。	
				3	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
P3	隅丸方形	54 × 51	46	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量含む。(柱痕跡)	SM31・66 より古い。
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
				3a	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				3b	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密に含む。	

第 123 図　SB5 掘立柱建物跡

SB5　観察表 (2)

遺構名	平面形	規模 (cm)		層位	土　色	土　性	備考	重複
		長軸×短軸	深さ					
P4	方形	105 × 56	43	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物少量含む。	SM32・33・43・47・64 より古い。
				1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物ブロック (5 ～ 15㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量含む。	
				4	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
P5	楕円形	52 × 39	27	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	SM33 より古い。
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
P6	方形	102 × 65	50	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量、下位にⅣ層土ブロック含む。	SI7 より古い。
				2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、Ⅳ層土粒含む。	
				3a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	
				3b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、Ⅳ層土ブロック (30㎜程度) 含む。	
				4	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、下位にⅣ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	
P7	隅丸方形	75 × 49	16	1	2.5Y4/2　暗灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	SI7 より古い。
P8	不明	(54) × 55	21	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量、炭化物含む。	SI7・8 より古い。
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	
				3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト		
P9	隅丸方形	80 × (47)	25	1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物多量、Ⅳ層土粒微量含む。	SI8 より古い。
				1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)、炭化物少量含む。	
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土との互層、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
P10	楕円形	47 × 37	41	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・粘土粒多量、炭化物少量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物少量含む。	
				4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
P11	隅丸方形	44 × 43	22	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (10㎜程度) 少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	SI7 より古い。
P12	円形	39 × 37	9	1	2.5Y4/2　暗灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 含む。	SI7 より古い。

SB6 掘立柱建物跡（第 124・126 図）

調査区中央部の 9・10・12・13 グリッドに位置する。10 基の柱穴を検出した。北東隅の P1 は、重複遺構により上部が失われている。南西隅の P5 は SB7 － P3 との重複により、底面のあたりだけを検出した。主な他遺構との重複関係は、SI6、SB7、SD2・4 より古く、SI3、SB8・10 より新しい。

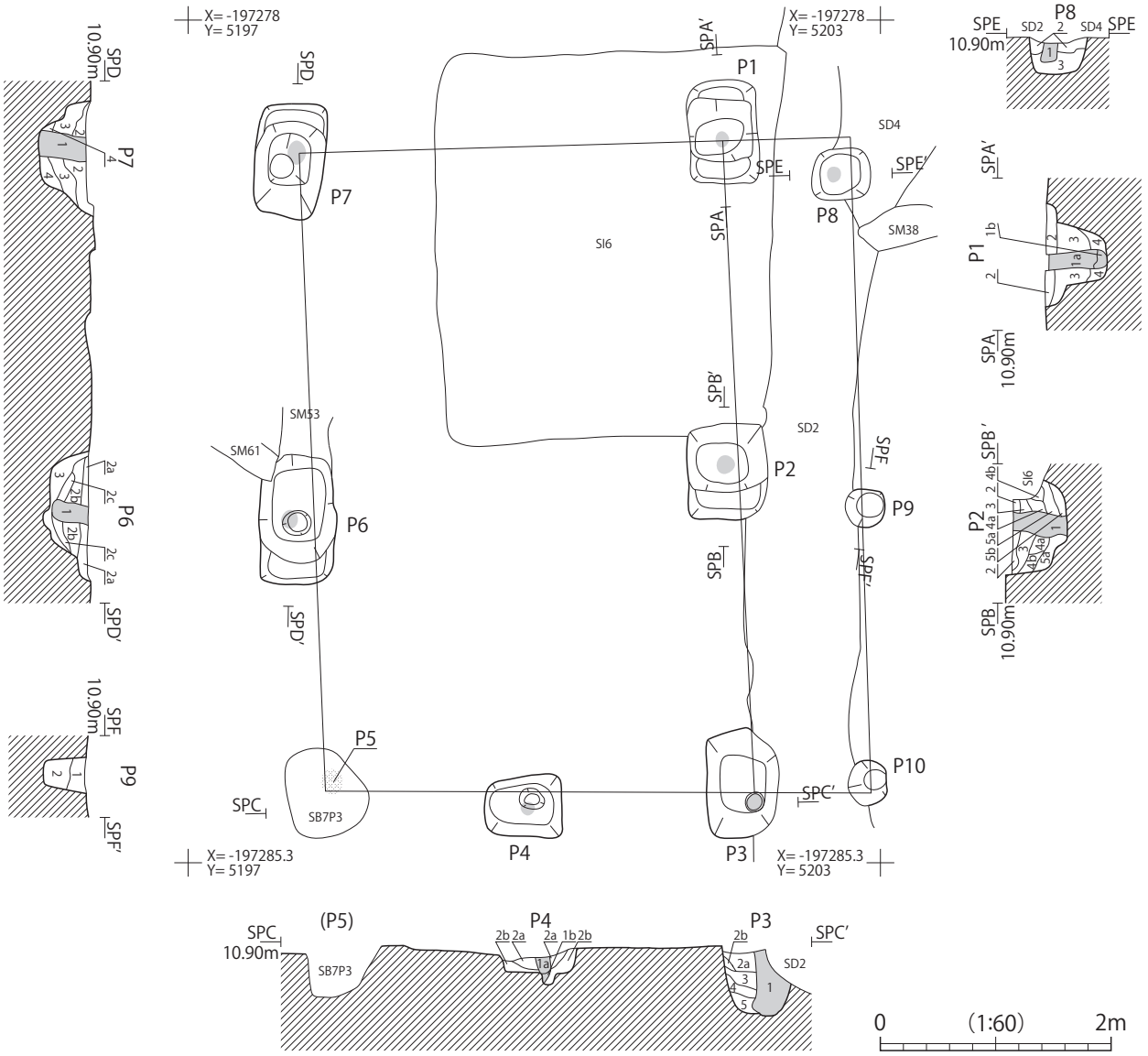
庇付建物で、身舎は桁行（南北）2 間、梁行（東西）2 間の側柱建物と思われるが、北側柱列は中央の柱穴が検出されず、SI6 との重複により失われたものと考えられる。身舎の規模は桁行総長 550 ～ 570cm、梁行総長 350 ～ 370cm を測り、平面形状は長方形の南北棟である。棟方向は桁部の東側柱列で N － 3° － W である。庇は東面に付き、3 基を検出した。身舎からの距離は 100 ～ 110cm を測る。

柱間寸法は、桁行東側柱列が北から 270cm － 300cm、西側柱列が 330cm － 220cm を測り、両者には若干の不整合が認められる。梁行は、南側柱列が東から 190cm － 160cm を測るが、北側柱列は前記の理由から判然としない。庇部の柱間寸法は、北から 290cm － 240cm を測る。

柱穴の平面形状は、身舎桁柱の東西柱列が隅丸長方形を基本形状とし、長軸を南北に向ける。棟柱の P4 も隅丸長方形の平面形を呈するが、長軸を東西に向け、規模も若干小さい。庇柱の P8 ～ 10 はさらに小型で、方形もしくは円形の整った平面形を呈する。桁柱の P1 ～ 3・6・7 の規模は、長軸 91 ～ 111cm、短軸 59 ～ 70cm、深さ 59 ～ 64cm を測る。梁支柱の P4 は長軸 64cm、短軸 52cm、深さ 36cm である。庇柱の P8 ～ 10 は長軸 34 ～ 50cm、短軸 30 ～ 45cm、深さは P8 の上部が失われているが、底面標高から判断すると 40cm 前後と推定される。柱痕跡は身舎部の P1 ～ 4・6・7、庇部の P8 で確認され、身舎部では径 13 ～ 22cm、庇部では径 12cm を測る。

遺物は土師器・須恵器の破片などが出土し、土師器高坏 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 126 図）。SI6 重複部分の P1・2 よりも他の柱穴の方から多く出土する傾向がある。1 の高坏は短脚で、無孔である。2 の金属製品は鉄製の鉇（やりがんな）で、ほぼ完形品である。刃部の平面形状は、柳葉状を呈する。1 は P6、2 は P2 から出土した。2 は、本来は SI8 に帰属する遺物であると考えられる。

本掘立柱建物跡の時期は、2 期（7 世紀中葉前後）の SI3・6 の中間に位置付けられ、2 期と考えられる。



SB6　観察表 (1)

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	方形	(91) × (60)	(54)	1a	10YR3/3 暗褐色	粘土	焼土粒・炭化物微量、北側層境に縦位に暗灰黄色土含む。(柱痕跡)	SI6、SM38 より古い。
				1b	2.5Y5/3　黄褐色	粘土	下位に酸化鉄 (層厚 2㎜) 集積。(柱痕跡)	
				2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土粒・炭化物含む。	
				3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 40㎜程度)・焼土粒・炭化物含む。	
				4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土	黒褐色土粒微量含む。	
P2	方形	(81) × (70)	64	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物、中位に焼土粒含む。(柱痕跡)	SI6、SD2、SM40・41 より古く、SB8-P2 より新しい。
				2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (40㎜程度)・炭化物含む。	
				4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒混在。	
				4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘土ブロック・炭化物微量含む。	
				5a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、暗褐色土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 混在	
				5b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
P3	隅丸方形	91 × (63)	64	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。(柱痕跡)	SD2、SM43・44 より古い。
				2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物多量含む。	
				2b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土密に含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	
				4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 含む。	
P4	方形	64 × 52	36	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	(柱痕跡)	SM43・52 より古い。
				1b	2.5Y5/2　暗灰黄色	粘土	(柱痕跡)	
				2a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
				2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	

第 124 図　SB6 掘立柱建物跡

SB6　観察表 (2)

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P5	—	—	—	—	—	—	SB7P3 の底面に 19 × 22cmのあたり確認。	SM53、SB7-P3 より古く、SB10-P5 より新しい。
P6	方形	(111) × 59	48	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物含む。(柱痕跡)	SM41・53・61 より古く、SB8-P4 より新しい。
				2a	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
				2b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
				2c	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
P7	方形	99 × 61	59	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含み、下部がにぶい黄色に変色。(柱痕跡)	SB8-P6 より新しい。
				2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度)・炭化物多量含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	
				4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土ブロック少量含む。	
P8	隅丸方形	(50) × (45)	(32)	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物含む。(柱痕跡)	SD2・4 より古い。
				2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色土ブロック・炭化物含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色土ブロック・炭化物含む。	
P9	楕円形	34 × (30)	40	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	SD2 より古い。
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト		
P10	円形	37 × (34)	41	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	SD2 より古い。

SB7 掘立柱建物跡（第 125・126 図）

調査区西部の 9 グリッドに位置する。7 基の柱穴を検出した。主な他遺構との重複関係は、SI4、SB2・6・10 より新しい。

桁行（東西）は南側が 1 間、北側が 2 間である。梁行（南北）は 2 間で、側柱建物である。規模は桁行総長 380 ～ 400cm、梁行総長 280 ～ 350cm を測り、平面形状は西に広がる不整長方形の東西棟である。棟方向は桁方向の中心軸で N － 79° － W である。

柱間寸法は、桁行北側柱列が東から 200cm － 180cm を測り、梁行東側柱列が 140cm 等間隔、西側柱列が北から 215cm － 135cm を測り、柱間は不揃いである。

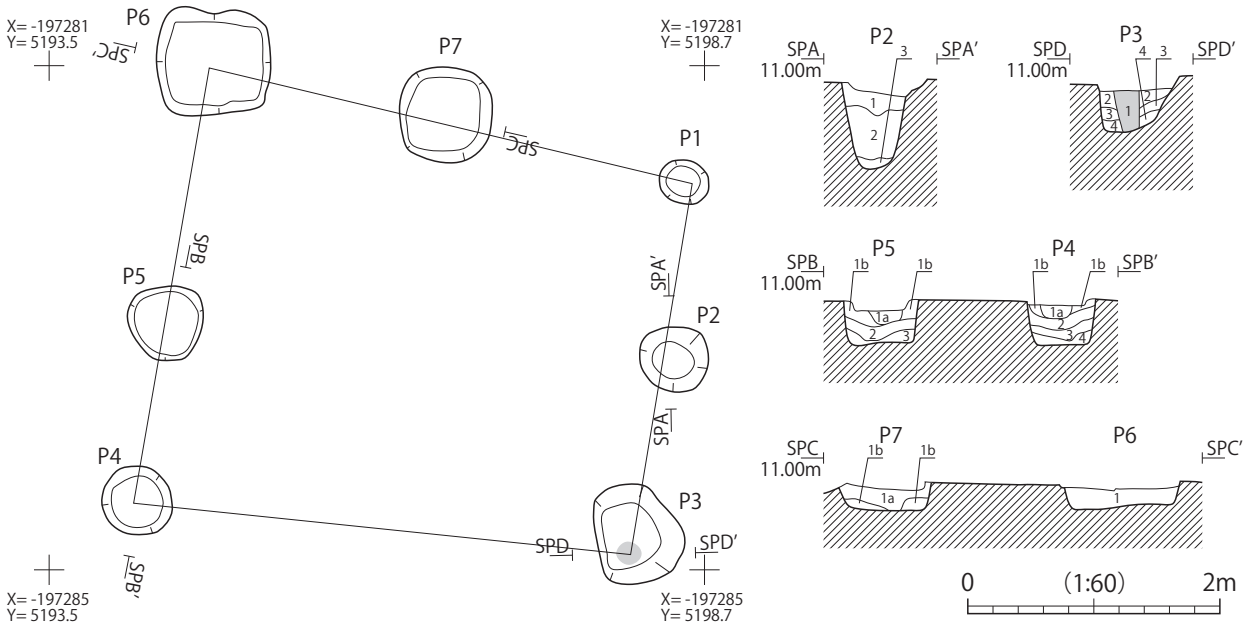
柱穴の平面形状は、P6・7 が隅丸の方形基調であるが、ほかは円形基調である。隅丸長方形の P6 は長軸を東西に向ける。規模は、長軸 40 ～ 89cm、短軸 37 ～ 85cm、深さ 20 ～ 72cm であり、統一性は認められない。柱痕跡は P3 で確認され、径 18 ～ 20cm を測る。

遺物は土師器・須恵器の破片などが出土し、須恵器壺 1 点、金属製品 2 点を掲載した（第 126 図）。SI4 と重複する P6・7 からの出土が多い。3 はラッパ状に開く口縁部の特徴から、鏃と思われる。4・5 は鉄釘もしくは鉄鏃茎部と思われるが判然としない。P5・6 からの出土で、本来は SI4 に帰属する遺物であると考えられる。

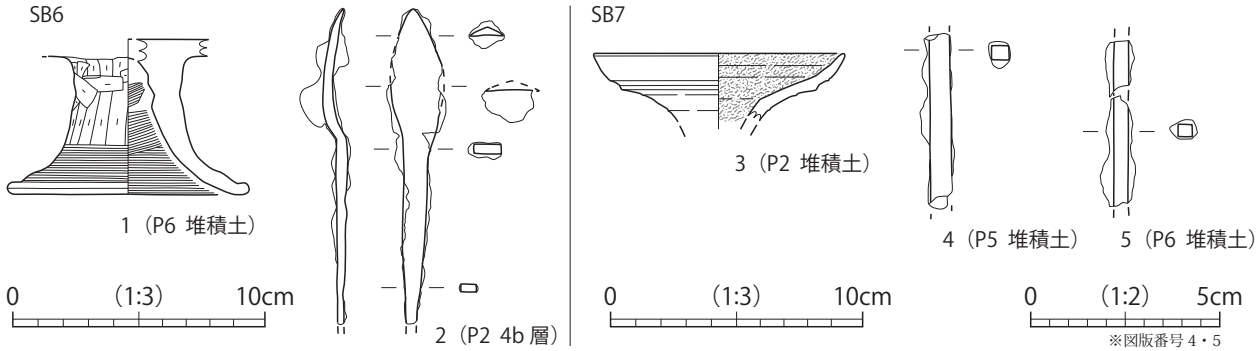
本掘立柱建物跡の時期は、2 期（7 世紀中葉前後）の SB6 より新しく、2 期以降と考えられる。

SB7　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	楕円形	40 × 37	16	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	SM41 より古い。
P2	円形	53 × 51	72	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。	SM42 より古く、SB10-P6 より新しい。
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、特に上位に密に含む。	
				3	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 含む。	
P3	楕円形	79 × 70	43	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物 (10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	SM53 より古く、SB6-P5 より新しい。
				2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物多量含む。	
				3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	
				4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
P4	円形	55 × 55	35	1a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SB2-P2 より新しい。
				1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
				4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
P5	円形	60 × 58	33	1a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SM50・51 より古い。
				1b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 15㎜程度) 多量含む。	
				2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
P6	方形	89 × 85	20	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	
P7	隅丸方形	75 × 73	23	1a	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	SM61・62 より古く、SI4 より新しい。
				1b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物少量含む。	



第 125 図　SB7 掘立柱建物跡



※図版番号 4・5

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-447	04年度	SB6-P6	堆積土	土師器	高坏	-	(9.6)	(6.2)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		44
3	E-142	04年度	SB7-P2	堆積土	須恵器	甕	(10.0)	-	(2.7)	ロクロ調整	ロクロ調整、自然釉		44

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
2	N-020	04年度	SB6-P2	4b 層	金属製品	鏃	(12.5)	1.9	0.5	22.7	ほぼ完形、刃部柳葉状	44
4	N-018	04年度	SB7-P5	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(4.6)	0.5	0.4	4.6	角柱状、両端部欠損	44
5	N-019	04年度	SB7-P6	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(4.4)	0.55	0.5	3.6	角柱状、両端部欠損	44

第 126 図　SB6・7 掘立柱建物跡出土遺物

SB8 掘立柱建物跡（第 127 図）

調査区中央部の 9・10・12・13 グリッドに位置する。7 基の柱穴を検出した。本来は 9 基の柱穴で構成されると思われるが、北東部の柱穴は失われている。主な他遺構との重複関係は、SI6、SB6 より古い。

東西 2 間、南北 2 間の総柱建物である。規模は東西総長 310cm、南北総長 290cm を測り、平面形状はほぼ方形を呈する。棟方向は西側柱列で N － 1° － E である。

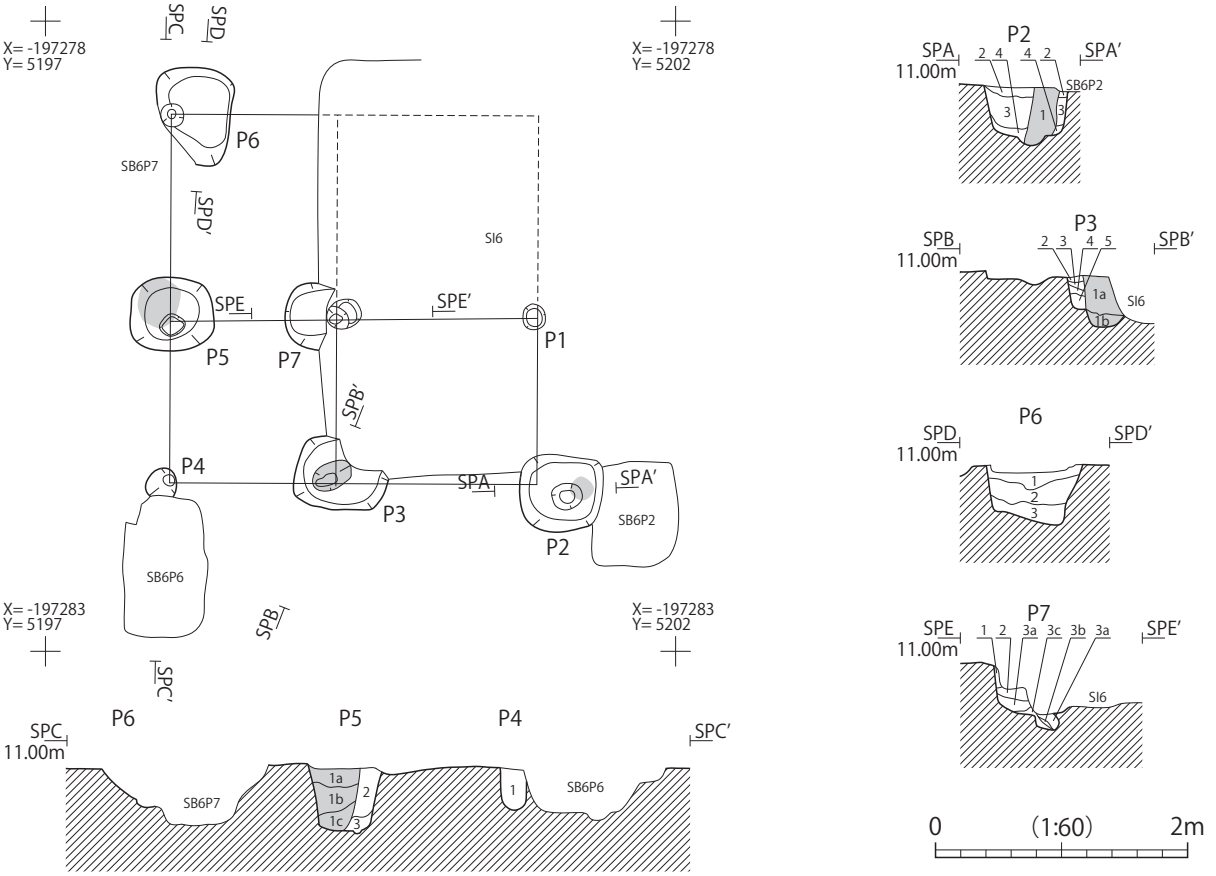
柱間寸法は、東西方向の南側柱列が東から 185cm － 125cm、中央柱列が 150cm － 130cm を測り、北側柱列は判然としない。南北方向の柱列では東側の P1・2 間が 150cm、中央の P3・7 間が 130cm、西側柱列が北から 185cm － 125cm を測る。

柱穴の平面形状は隅丸長方形を基本形状とするが、南西隅の P4 のみ円形で、他の柱穴よりも一回り以上小さい。P2・5・7 は東西、P6 は南北に長軸を向ける。規模は、最小の P4 で径 25 ～ 26cm、深さ 36cm を測り、P1 以外

の柱穴は長軸 65 ～ 75cm、短軸 57 ～ 60cm、深さ 44 ～ 69cm を測る。柱痕跡は P2・3・5 で確認され、径 20 ～ 36cm を測る。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、2 期（7 世紀中葉前後）の SI6・SB6 より古く、2 期以前と考えられる。



SB8　観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土　性	備考	重複
		長軸×短軸	深さ					
P1	楕円形	(23) × (18)	17	1	10YR3/3　暗褐色	シルト		SI6 より古い。
P2	隅丸方形	(65) × (60)	49	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック塊（100 × 30･20 × 30㎜程度）含む。（柱痕跡）	SI6、SB6-P2、SM40･41 より古い。
				2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	
				3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、Ⅳ層土ブロック塊（40 × 20㎜程度）含む。	
				4	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土ブロック含む。	
P3	方形	72 × (53)	44	1a	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土粒微量、焼土粒・炭化物含む。（柱痕跡）	SI6、SM40 より古い。
				1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	黒褐色土粒微量含む。（柱痕跡）	
				2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	
				3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）含む。	
				4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土ブロック（20㎜程度）・炭化物微量含む。	
				5	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量、炭化物塊（20 × 30㎜程度）含む。	
P4	円形	26 × 25	36	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	SB6-P6、SM53 より古い。
P5	隅丸方形	66 × 57	64	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 30㎜程度）多量含む。（柱痕跡）	SM39･53 より古い。
				1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。（柱痕跡）	
				1c	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・炭化物含む。（柱痕跡）	
				2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト		
				3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト		
P6	方形	75 × (60)	47	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒微量含み、黒褐色土ブロック混在。	SB6-P7、SM37･53 より古い。
				2	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量含み、黒褐色土ブロック混在。	
				3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック（10㎜程度）・炭化物微量、下位に黒褐色土ブロック含む。	
P7	隅丸方形	(53) × (25)	45	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色土混在。	SI6、SM39 より古い。
				2	10YR4/6 褐色	シルト	黒褐色土ブロック・炭化物微量含む。	
				3a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、黒褐色土ブロック含む。	
				3b	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土混在。	
				3c	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック・炭化物微量含む。	

第 127 図　SB8 掘立柱建物跡

SB9 掘立柱建物跡（第 128 図）

調査区西部の 12・15 グリッドに位置する。西側は調査区外にかかる。7 基の柱穴を検出した。主な他遺構との重複関係は、SB11、Pit140 より古く、SI8、SK7、Pit258 よりも新しい。範囲的には SI7、SB5 とも重複する。

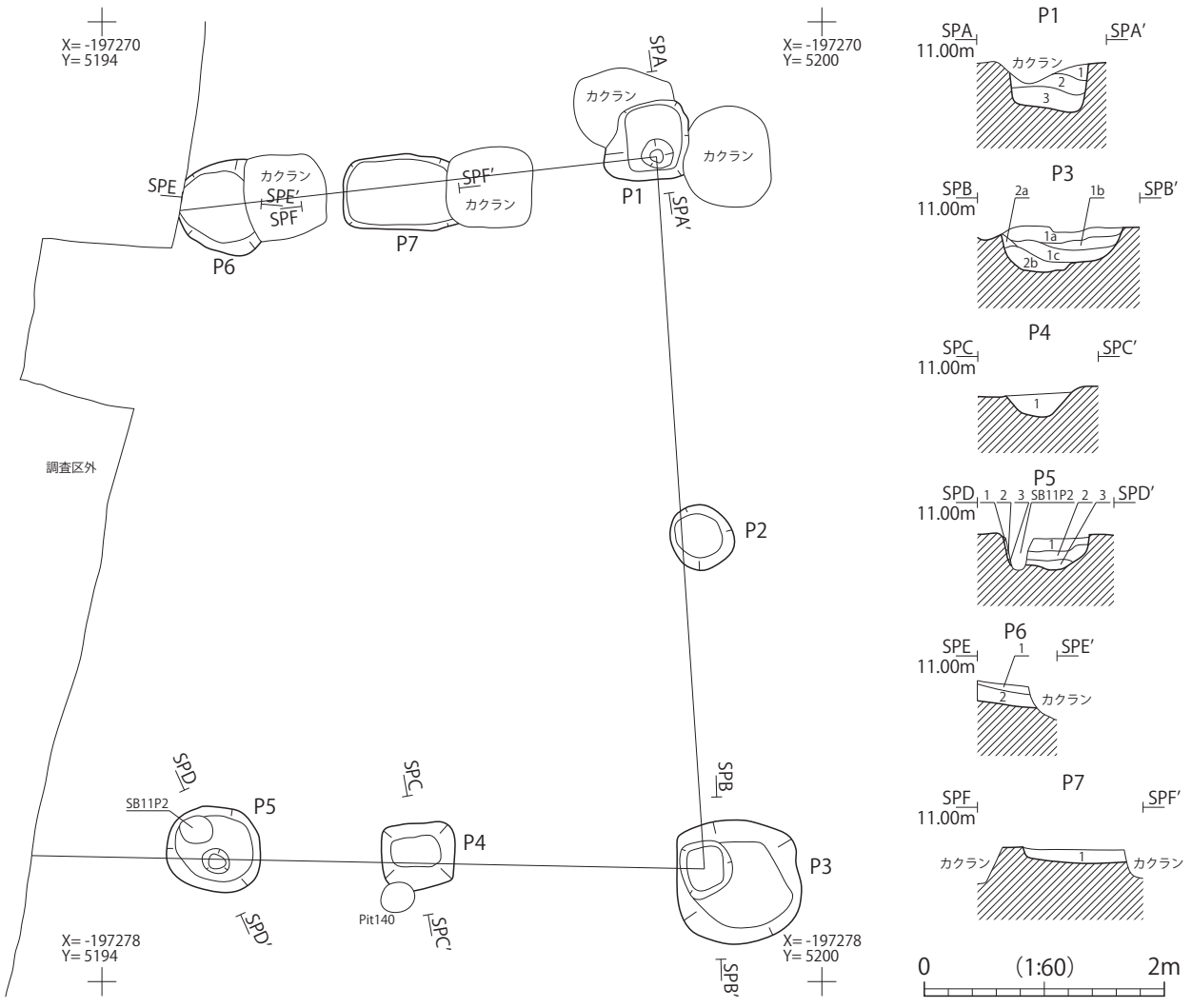
桁行（東西）2 間以上、梁行（南北）2 間の側柱建物である。規模は桁行総長 410cm 以上、梁行総長 590cm を測り、平面形状は東にやや広がる不整長方形の東西棟と推定される。棟方向は桁部の東側柱列で N － 89° － W である。

柱間寸法は、桁行南側柱列が東から 235cm － 165cm、西側柱列が 215cm － 150cm を測り、梁行東側柱列は北から 320cm － 280cm を測る。柱間は不揃いである。

柱穴の平面形状は、隅丸方形、隅丸長方形、円形、楕円形と統一性が認められない。規模も長軸 53 ～ 80cm、短軸 53 ～ 101cm、深さ 5 ～ 46cm と不揃いであるが、棟柱の P2 が小さく、他は大きい。柱痕跡はいずれの柱穴からも確認されなかった。P3 の土層断面には掘り直しの痕跡が認められる。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。



第 128 図　SB9 掘立柱建物跡

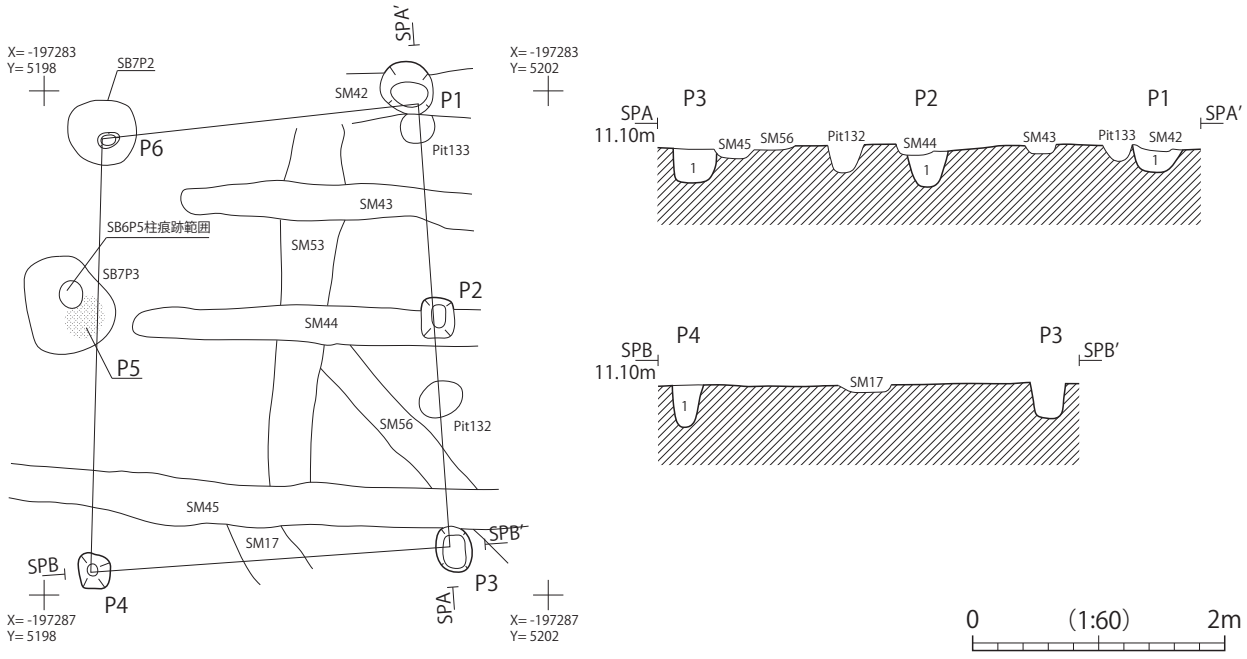
SB9　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	方形	(68) × (67)	46	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物、Ⅳ層土粒少量含む。	
				2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量含む。	
P2	円形	53 × 53	5	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	SM32･35 より古い。
P3	隅丸方形	102 × 101	42	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。	SK7、Pit258 より新しい。
				1b	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
				1c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒微量、炭化物含み、Ⅳ層土ブロック混在。	
				2a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土・炭化物微量含む。	
				2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、暗褐色土ブロック混在。	
P4	方形	61 × 56	25	1	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土含む。	Pit140 より古い。
P5	円形	76 × 74	32	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	淡青灰色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SB11-P2 より古い。
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	淡青灰色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
				3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
P6	円形	80 × (50)	5	1	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	SI8 より新しい。
				2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物含む。	
P7	隅丸方形	(86) × 53	12	1	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	SI8 より新しい。

SB10 掘立柱建物跡（第 129 図）

調査区中央部の 6・7・9・10 グリッドに位置する。建物全体に相当する範囲を検出したが、柱穴のうち西側の P5 は、SB7 － P3 の底面に SB6 とは別のあたりとして検出された。また P6 も、SB7 － P2 の底面に小規模な窪みだけが残存していたものを、本掘立柱建物跡の柱穴とした。主な他遺構との重複関係は、SB6・7 より古い。範囲的には SI4、SD12 とも重複する。

桁行（南北）2 間、梁行（東西）1 間の側柱建物である。規模は桁行総長 350 ～ 365cm、梁行総長 240 ～ 280cm を測り、平面形状はややゆがんだ長方形の南北棟である。棟方向は桁部の東側柱列で N － 4° － W である。



SB10　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	楕円形	42 × 41	18	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒含む。	SM42 より古い。
P2	方形	32 × 26	27	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物少量含む。	SM44 より古い。
P3	楕円形	35 × 27	30	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト		SM45 より古い。
P4	方形	32 × 27	33	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
P5	楕円形	－	－	－	－	－	SB6P5 の底面に 34 × 31㎝の柱痕跡確認。	SB6-P5、SB7-P3 より古い。
P6	楕円形	(18) × (13)	－	－	－	－		SB7-P2 より古い。

第 129 図　SB10 掘立柱建物跡

桁行の柱間寸法は、東側柱列が北から 180cm － 185cm、西側柱列が 150cm － 200cm を測る。

柱穴の平面形状は、P1・3 が楕円形、P2・4 が隅丸方形である。規模は長軸 32 ～ 42cm、短軸 26 ～ 41cm、深さ 18 ～ 33cm と、いずれの柱穴も小さい。柱痕跡は、前記の通り P5 のあたりのみ検出された。径 30cm を測る。

遺物は土師器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、2 期（7 世紀中葉前後）の SB6 より古く、2 期以前と考えられる。

SB11 掘立柱建物跡（第 130 図）

調査区西端部の 9・12 グリッドに位置する。西側は調査区外にかかる。4 基の柱穴を検出した。主な他遺構との重複関係は、SB9 より新しい。範囲的には SB3 とも重複する。

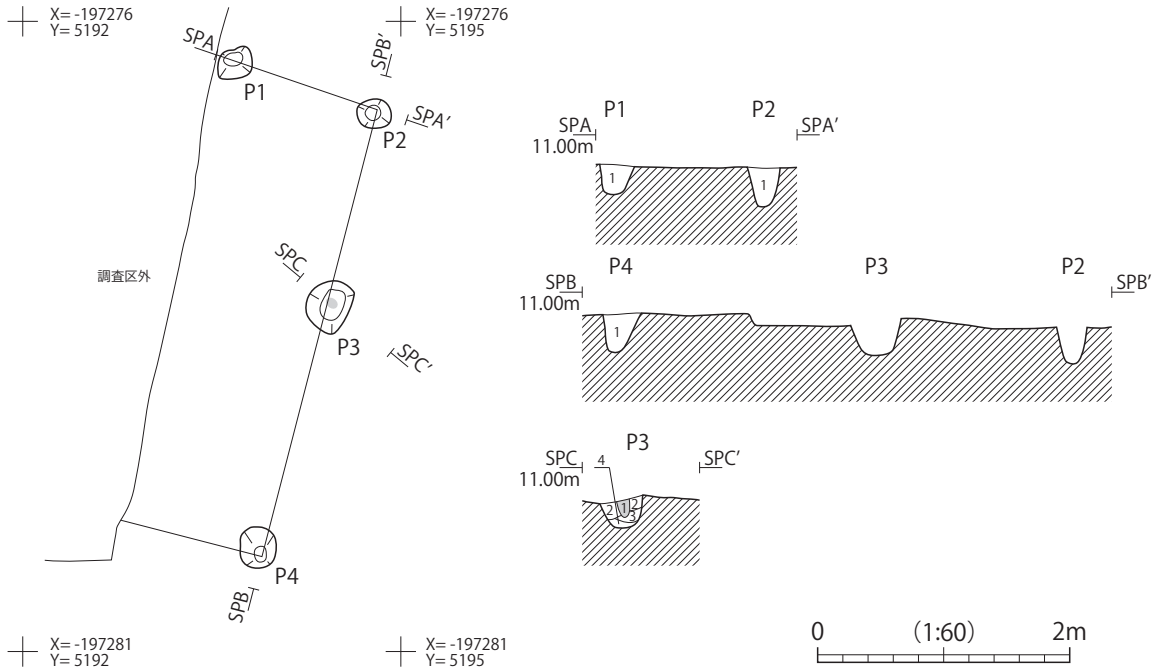
東西 1 間、南北 2 間を検出した。規模は東西総長 115cm 以上、南北総長 360cm を測り、平形状は不明であるが、柱穴の規模から SB10 同様小型の建物と思われる。棟方向は東側柱列で N － 15° － E である。

東側柱列における柱間寸法は、北から 150cm － 210cm を測る。

柱穴の平面形状はいずれも楕円形を呈し、規模は長軸 27 ～ 40cm、短軸 22 ～ 35cm、深さ 23 ～ 31cm を測る。柱痕跡は P3 で確認され、径 10cm を測る。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。



SB11　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	楕円形	27 × 22	23	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物含む。	Pit115 より新しい。
P2	円形	28 × 23	31	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量、Ⅳ層土粒含む。	SB9-P5 より新しい。
P3	楕円形	40 × 35	27	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物少量、Ⅳ層土粒含む。(柱痕跡)	
				2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。	
				3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	
				4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
P4	楕円形	33 × 28	31	1	10YR3/3 暗褐色	―	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 含む。	

第 130 図　SB11 掘立柱建物跡

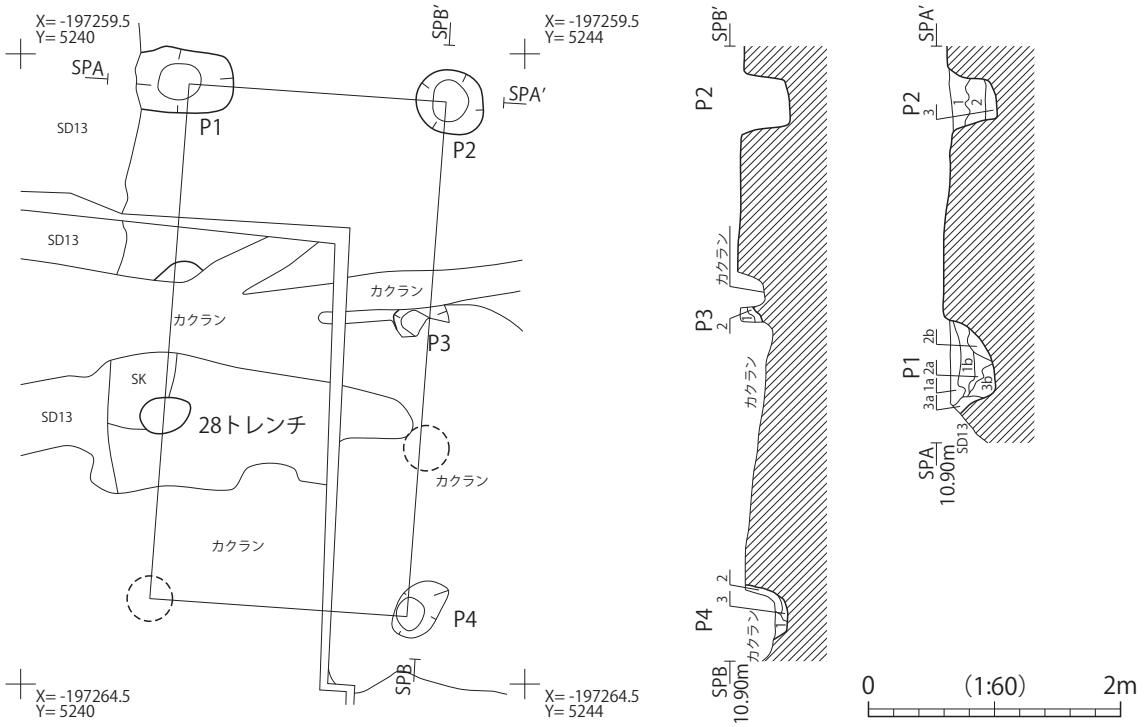
SB14 掘立柱建物跡（第 131 図）

調査区南部の 39 グリッドに位置する。南西側は確認調査の 28 トレンチにかかる。重複遺構や撹乱により残存状況は悪く、4 基の柱穴を検出した。主な他遺構との重複関係は、SD13（郡山Ⅱ期官衙外溝）より古い。

本掘立柱建物跡については、本調査と確認調査両方の成果を併記する。本調査部分では東西 1 間、南北 2 間を検出したが、確認調査（28 トレンチ）部分の状況をみると、本来は南北 3 間であった可能性が指摘でき、桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物と考えられる。規模は東西総長 215cm、南北総長 410cm を測り、後述する SB17 と同形式の細長い南北棟と思われる。棟方向は東側柱列で N － 4° － E である。

東側柱列における柱間寸法は、北から 180cm － 230cm を測る。西側柱列では南西隅の柱穴が未検出であるが、南 2 間目まで 160cm － 110cm を測る。

柱穴の平面形状は P1 が東西方向の隅丸長方形、P2 が隅丸方形、P4 が楕円形を呈する。規模は P1・2 で長軸 54 ～ 77cm 以上、短軸 51cm を測る。深さは P3 が判然としないが、底面標高からみると概ね 40cm 前後と均一である。柱痕跡はいずれの柱穴からも確認されなかったが、P1・4 下層に認められる土層の乱れは柱の抜き取りによる可能性が考えられる。



SB14　観察表

遺構名	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	方形	(77) × 51	40	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	SD13 より古い。
				1b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
				2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
				2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック微量含む。	
				3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	
				3b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、炭化物微量含む。	
P2	楕円形	54 × 51	39	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、灰白色火山灰か・炭化物微量含む。	
				2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
				3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック微量含む。	
P3	不明	(44) × 22	(18)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。	
				2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
P4	隅丸方形	(50) × 34	(34)	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・灰白色火山灰 ?・炭化物微量含む。	
				3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。	

第 131 図　SB14 掘立柱建物跡

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、SD13（郡山Ⅱ期官衙外溝）より古く、3 期（7 世紀後葉）以前と考えられる。

SB15 掘立柱建物跡（第 132・133 図）

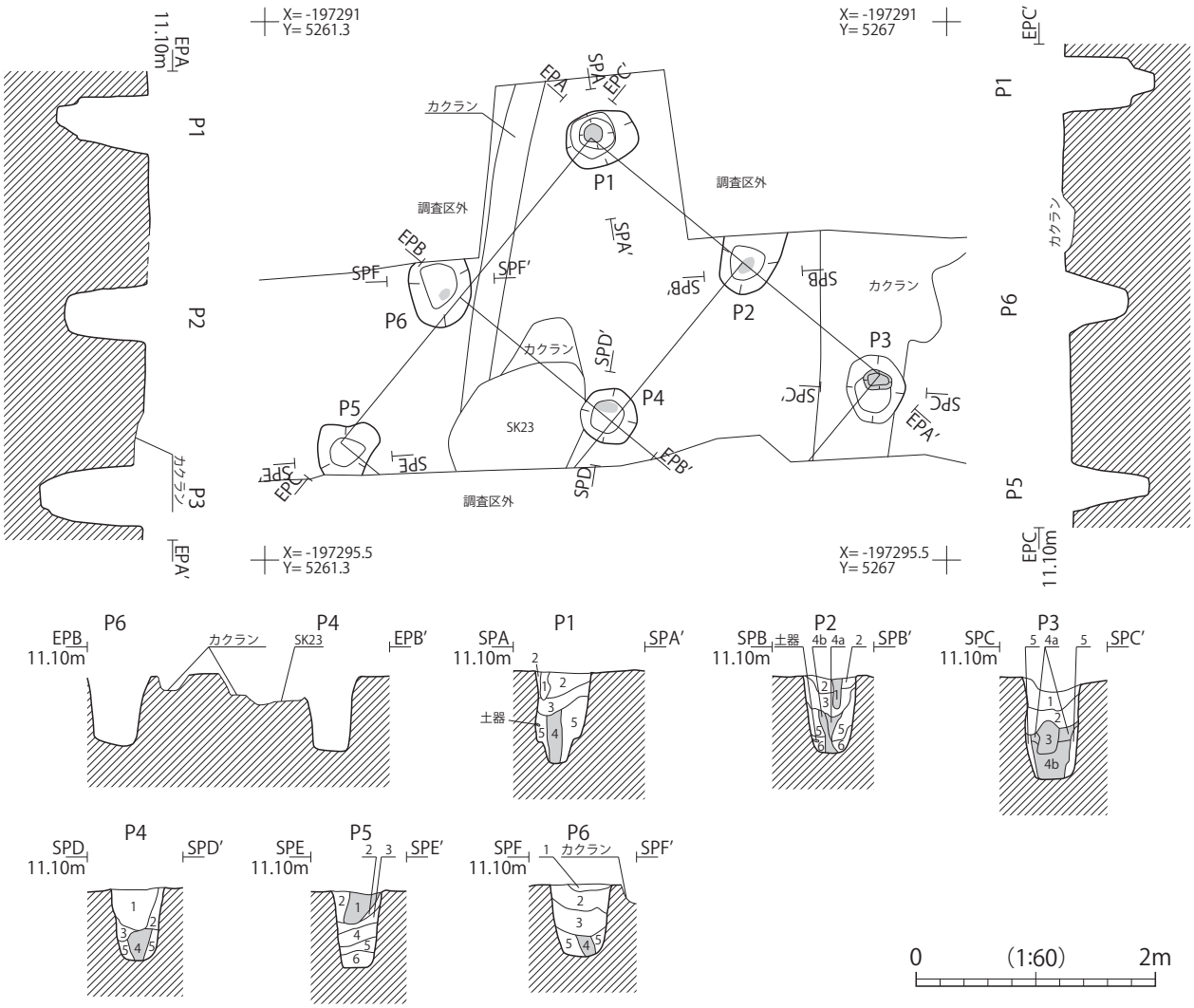
調査区中央部東寄りの 81 グリッドに位置する。南側と北側は調査区外にかかる。6 基を検出し、北東隅の P3 と中央の P4 が撹乱や重複遺構で上部を失うが、全体的に残存状態は良い。主な他遺構との重複関係は、SK23 より古い。すぐ西側には材木列跡 SA1 が近接する。

東西 2 間、南北 2 間を検出したが、東側へと延びる可能性もある。総柱建物である。規模は東西総長 340cm 以上、南北総長 315cm 以上を測り、平面形状は不明である。棟方向は北側柱列で N － 52° － E である。

柱間寸法は、東西方向で中央柱列の P2・4 間が 170cm、北側柱列が東から 185cm － 155cm、南北方向で東側柱列が北から 170cm － 145cm、中央柱列の P4・6 間が 165cm を測る。

柱穴の平面形状は、多少のゆがみがあるがいずれも円形基調である。規模は長軸 47 ～ 64cm 以上、短軸 46 ～ 51cm、深さ 59 ～ 76cm を測り、柱穴規格は概ね統一されている。柱痕跡は全ての柱穴で確認され、径 5 ～ 29cm を測る。これらには柱材を差し替えた痕跡が認められ、P2 では上下 2 つの柱痕跡が観察された。

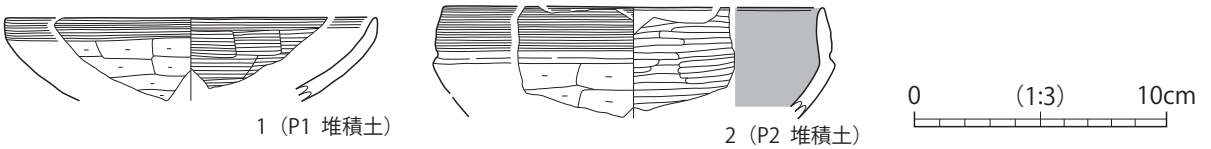
遺物は土師器の破片が少量出土し、坏 2 点を掲載した（第 133 図）。1 は鬼高系土師器の坏である。



第 132 図　SB15 掘立柱建物跡

SB15　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	隅丸方形	60 × 46	77	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(建替後・柱痕跡)	
				2	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。(建替後)	
				3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度)、焼土粒・炭化物微量含む。(建替後)	
				4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
				5	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
P2	楕円形	(64) × 48	68	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物多量、明黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。(建替後・柱痕跡)	
				2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。(建替後)	
				3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(建替後)	
				4a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	(柱痕跡)	
				4b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
				5	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 50㎜程度) 下位に集中。	
				6	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
P3	楕円形	56 × 49	(76)	1	10YR5/1 褐灰色	粘土	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度)・酸化鉄少量含む。(建替後)	
				2	10YR7/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(建替後)	
				3	10YR5/1 褐灰色	粘土	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。(建替後・柱痕跡)	
				4a	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				4b	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
				5	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
P4	円形	47 × 46	65	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(建替後)	
				2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。(建替後)	SK23 より古い。
				3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
				4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
				5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	
P5	不整円形	56 × 48	65	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。(建替後・柱痕跡)	
				2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(建替後)	
				3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。	
				5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
				6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。	
P6	楕円形	(60) × 51	59	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(建替後)	
				2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。(建替後)	
				3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(建替後)	
				4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				5	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 微量含む。	



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-123	06年度	SB15-P1	堆積土	土師器	坏	(14.7)	-	(3.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		44
2	C-124	06年度	SB15-P2	堆積土	土師器	坏	(15.0)	-	(4.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		44

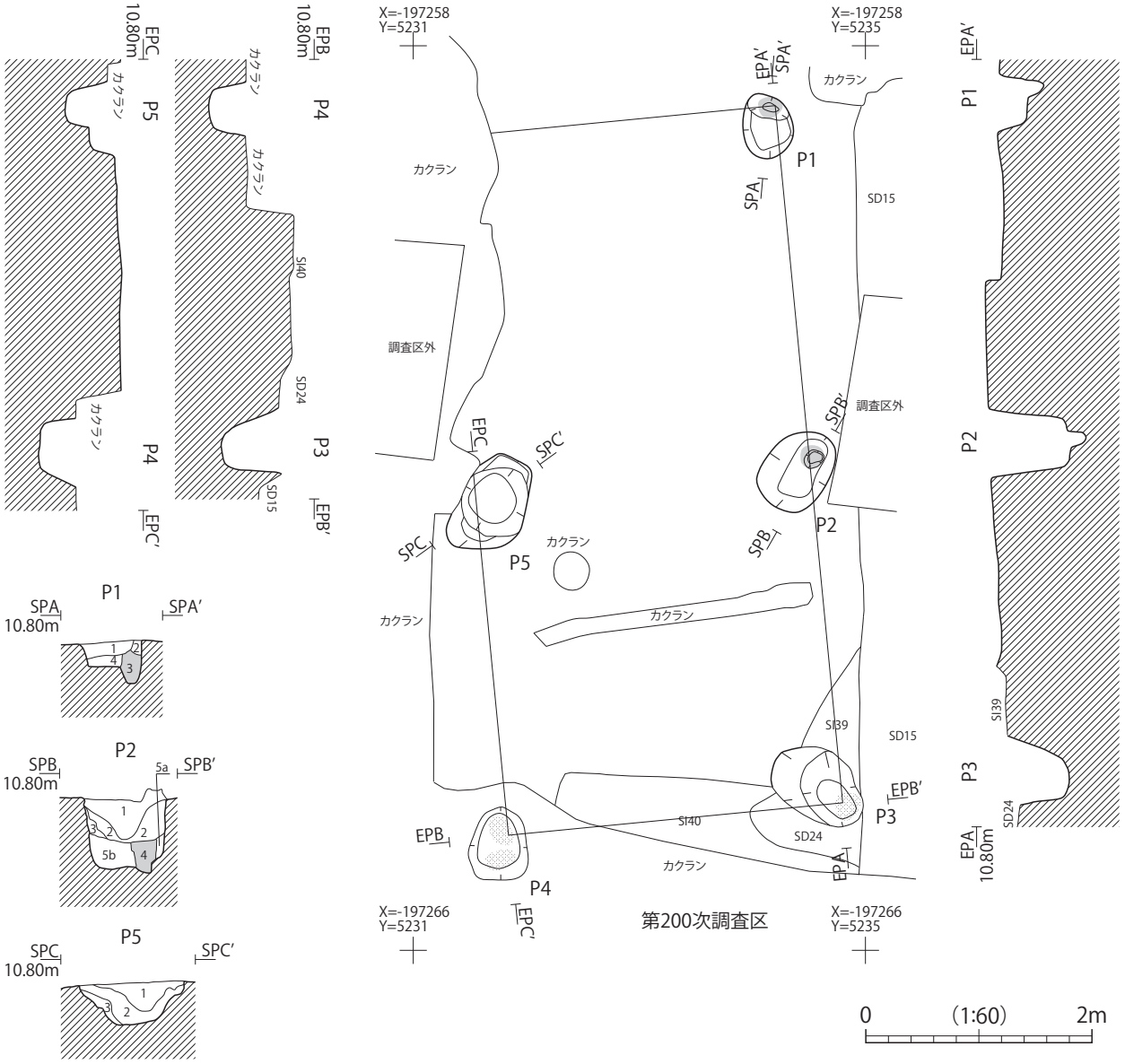
第 133 図　SB15 掘立柱建物跡出土遺物

本掘立柱建物跡の時期は、時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。

SB17 掘立柱建物跡（第 134 図）

調査区南端部の 33 グリッド、第 200 次調査の 3 グリッドに位置する。前記の通り、整理時の図面上の照合で確認された掘立柱建物跡である。撹乱や重複遺構により北西隅の柱穴が失われている。また南側の P3・4 も上部が失われている。第 167 次（2 年次）調査区内では SI23 と重複し、これよりも新しい。範囲的に SK16 とも重複する。第 200 次調査区内では SI39・40、SD15・24 と重複し、これらよりも古い。

南北 2 間、東西 1 間を検出した。側柱建物と思われるが判然としない。規模は南北総長 615cm、東西総長



SB17　観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	楕円形	58 × 45	38	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	
				2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
				3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				4	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。	
P2	楕円形	76 × 57	68	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。(柱抜取時の崩落土か)	SI23 より新しい。
				2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。(柱抜取時の崩落土か)	
				3	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・灰白色粘土ブロック少量含む。	
				4	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、浅黄橙色粘土ブロック微量含む。(旧柱跡)	
				5a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック微量含む。	
				5b	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、浅黄橙色粘土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
P3	楕円形	66 × 48	52	—	—	—		郡山第 200 次調査 Pit82
P4	楕円形	64 × 52	34	—	—	—		郡山第 200 次調査 Pit45
P5	不整楕円形	86 × 57	38	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物化物微量含む。	SI23 より新しい。
				2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、褐灰色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。	
				3	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。	

第 134 図　SB17 掘立柱建物跡

300cm を測る。棟方向は東側柱列で N － 5° － W である。

柱間寸法は、東側柱列が北から 315cm － 300cm、西側柱列の P4・5 間が 300cm を測る。

柱穴の平面形状は、楕円形が基本形状と考えられる。規模は長軸 58 ～ 86cm、短軸 45 ～ 57cm、深さは底面標高から 50 ～ 70cm 前後と推定される。柱痕跡は P1 ～ 4 で確認され、径 17 ～ 25cm を測る。P4 の柱痕跡は底面のあたりとして認められ、2 箇所検出された。柱材の差し替えなどが考えられる。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、3 期（7 世紀後葉）の SD15 より古く、2 期（7 世紀中葉前後）の SI23 より新しいことから、2 期と考えておきたい。

（3）区画施設・溝跡

溝跡は 5 条が検出され、そのうち 4 条（SD11・13・15・17）と、材木列跡 1 条（SA1）が区画施設に相当する。これらの方向性は、ほぼ正確に東西・南北を向く SD11・13・15 と、真北から東へ振れる SD17、SA1 の 2 方向が存在する。前者のうち SD13 は郡山Ⅱ期官衙の外溝であり、第 167 次（2 年次）調査において西辺から北辺にかけての部分を検出した。北辺は河川跡や撹乱の影響から残存部分が限られる。この SD13 に重複して SD11・17 が検出されており、新しい方から SD17 → SD13 → SD11 の新旧関係が確認されたことから、外溝の時期を前後する区画施設の変遷が存在すると考えられる。平成 22 年度に実施された第 200 次調査では、SD15 の延長部分や別の区画施設が検出されている。第 137 図に、これら区画施設や溝跡の全ての照合状況を示す。

SD11 溝跡（第 135 ～ 140 図）

第 167 次（1 年次）調査区南縁から第 180 次調査区南縁にかけて延び、2・3・72・74・76・78・80 グリッドを中心に位置する。南側の大部分は調査区外にかかる。主な他遺構との重複関係は、SD13・17 より古く、SI1・2・25・27A・27B・28・30・32・34・35、SD16 より新しい。このように多くの竪穴住居跡が廃絶した後の開削である。なお、第 180 次調査区の南側 10 mの地点では、西台畑遺跡第 6 次調査において本溝跡の延長部分とされる溝跡が検出されている（仙台市教委 2008 年）。

東西方向の溝跡で、概ね直線的に延びる。北壁上端を基準とする方位は、N － 88° － W である。規模は検出長 61.8 mを測る。西台畑遺跡第 6 次調査の所見では、今回検出した東端部から 21 m程東側で南側に屈曲する可能性が指摘されている。幅は計測可能な位置で上端幅 106 ～ 140cm、下端幅 22 ～ 47cm を測る。深さは 65 ～ 107cm を測り、底面は概ね平坦で、目立った傾斜は認められない。

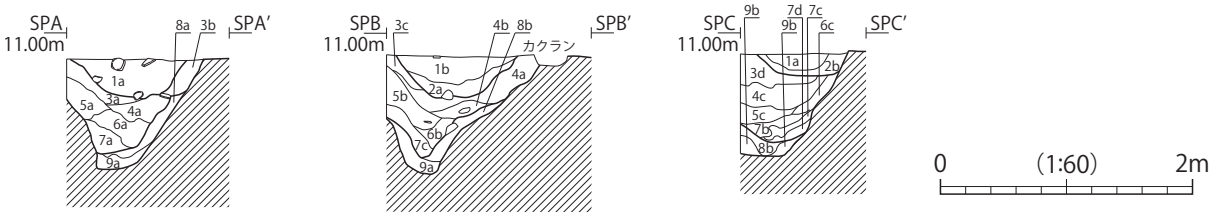
断面形状は、逆台形を基調とするが、底面幅は狭く「V」字状に近い。壁面には細かい凹凸が認められ、稜を有す箇所が多い。後述する掘り直しとの関係も考慮される。

堆積土は、A ～ C セクションを通じて大別で 9 層、細別で 25 層に分層された。全体に基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックを多く含み、炭化物が集中する層位も認められる。また、大別 2・3 層、7・8 層の層間には不自然な堆積状況が存在し、掘り直しの痕跡と考えられる。

遺物は堆積土全体に含まれるかたちで出土し、層位的な偏りは認められない。土師器坏 9 点、高坏 1 点、鉢 1 点、甕 6 点、甑 2 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器蓋 2 点、盤 1 点、壺 1 点、甕 2 点、金属製品 3 点、石製品 1 点、礫石器 1 点を掲載した。遺物の登録番号は年次ごとに別個に付してあり、出土位置も異なることから、第 167 次（1 年次）調査の出土遺物は第 136・138 図、第 180 次調査の出土遺物は第 139・140 図に区別して掲載している。

第 167 次（1 年次）調査出土遺物については、第 136 図の土師器坏のうち 1 は平底に近い形状で、2 も同様の特徴を持つと思われる。3 は埦状を呈する。5 の高坏は短脚で無孔である。第 138 図－ 1・2 の甑は、大小 2 つの

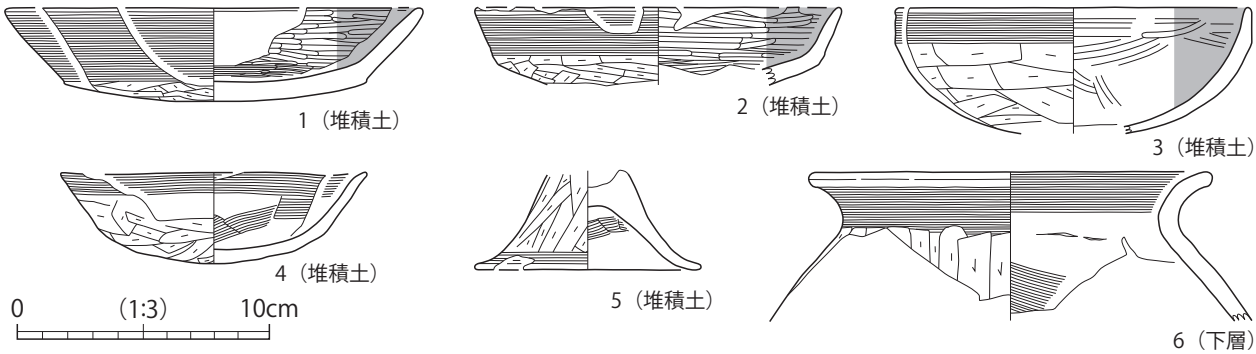
器形があり、ともに胴部は直線的に外傾し、口縁部が短く外反する。3 の須恵器蓋は内側に返りが付く。4 の盤は、厚く重量感のある脚部である。下端部の外反状況から短脚と考えられる。6 ～ 8 の金属製品はいずれも鉄製品で、6 が刀子、8 が鎌である。7 は釘の可能性があるが判然としない。6 は刃部～関部の破片で、切先は欠損する。8 は刃部～基部の破片で、直刃を呈す。基部の木柄装着部分は折り返しとなっている。9 は流紋岩製の紡錘車である。厚みがなく、下端部へは「ハ」字状に外反して広がる形状を呈する。10 は軽石質凝灰岩製の凹石である。a・b 面



区画施設　SD11 観察表

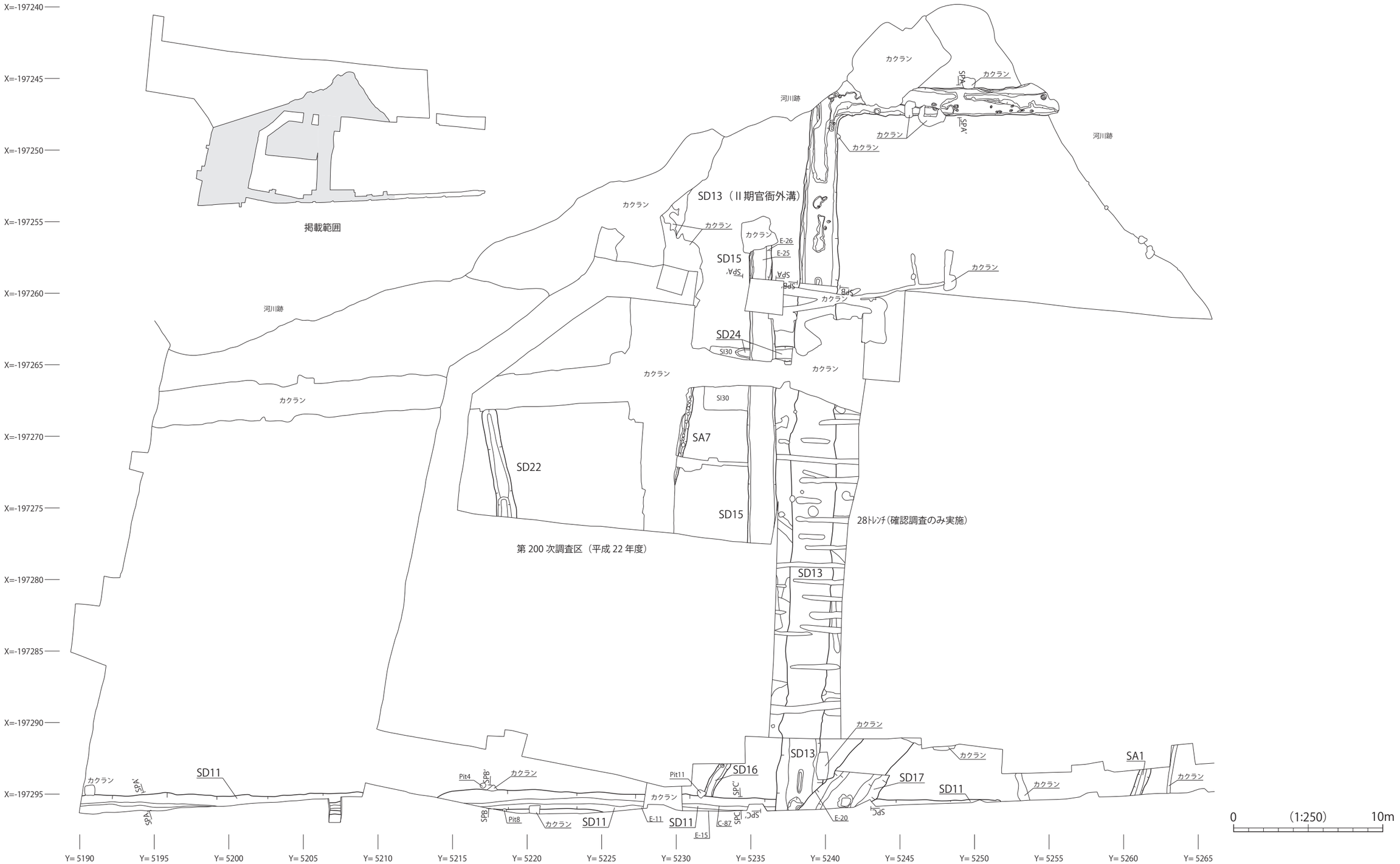
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SD11	2 ～ 5・72 ～ 76・78・80	N-88°-W	6180	106 ～ 140	22 ～ 47	65 ～ 107	1a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	炭化物少量含む。
							1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量、灰色シルト・焼土粒少量含む。
							2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰色シルト多量、炭化物微量含む。
							2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
							3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物、Ⅳ層土粒微量含む。
							3b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	炭化物少量含む。
							3c	10YR3/3 暗褐色	シルト	下位に明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 集中。
							3d	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 密、炭化物微量含む。
							4a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							4b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							4c	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルト少量含み、下位に明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 集中。
							5a	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
							5b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							5c	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色・灰色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。
							6a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物含む。
							6b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							6c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
							7a	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
							7b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色・灰色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。
							7c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色・灰色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							7d	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量含む。
							8a	10YR3/4 暗褐色	粘土	Ⅳ層土粒多量含み、下位に炭化物集中。
							8b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							9a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 50㎜程度) 多量含む。
							9b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。

第 135 図　SD11 溝跡断面図

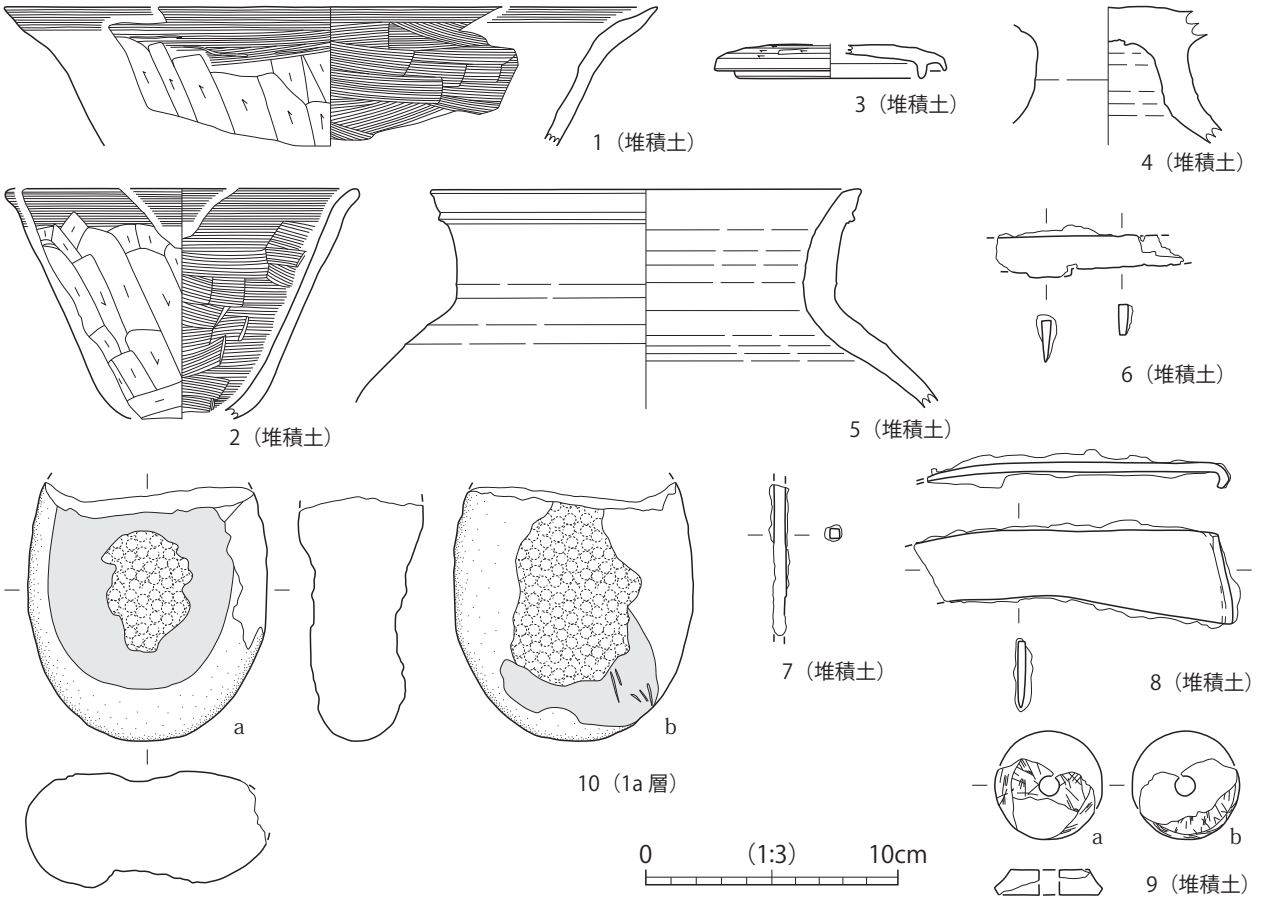


図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-571	04年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(16.6)	-	3.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		44
2	C-575	04年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(14.4)	-	(3.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		44
3	C-578	04年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(14.0)	-	(5.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		44
4	C-580	04年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(12.0)	-	3.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		44
5	C-581	04年度	SD11	堆積土	土師器	高坏	-	(8.8)	(3.9)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	ヘラナデ		44
6	C-595	04年度	SD11	下層	土師器	甕	15.6	-	(5.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		44

第 136 図　SD11 溝跡第 167 次（1 年次）調査出土遺物（1）



第 137 図　区画施設・溝跡－ SD11・13・15 ～ 17・SA1



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-592	04年度	SD11	堆積土	土師器	甑	(26.0)	-	(5.5)	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、輪積み痕、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		44
2	C-593	04年度	SD11	堆積土	土師器	甑	(13.8)	-	(9.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		44
3	E-095	04年度	SD11	堆積土	須恵器	蓋	(9.2)	-	(1.4)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		44
4	E-093	04年度	SD11	堆積土	須恵器	高坏	-	-	(5.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		44
5	E-089	04年度	SD11	堆積土	須恵器	甕	(17.0)	-	(8.7)	ロクロ調整	ロクロ調整		45

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
6	N-008	04年度	SD11	堆積土	金属製品	刀子	(7.4)	1.2	0.5	12.0	刃～関部、両端部欠損	45
7	N-009	04年度	SD11	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(6.0)	0.5	0.4	5.6	角柱状、上端部欠損	45
8	N-010	04年度	SD11	堆積土	金属製品	鎌	(12.8)	3.8	0.3	54.9	直刃、切先欠損、装着部折り返し	45

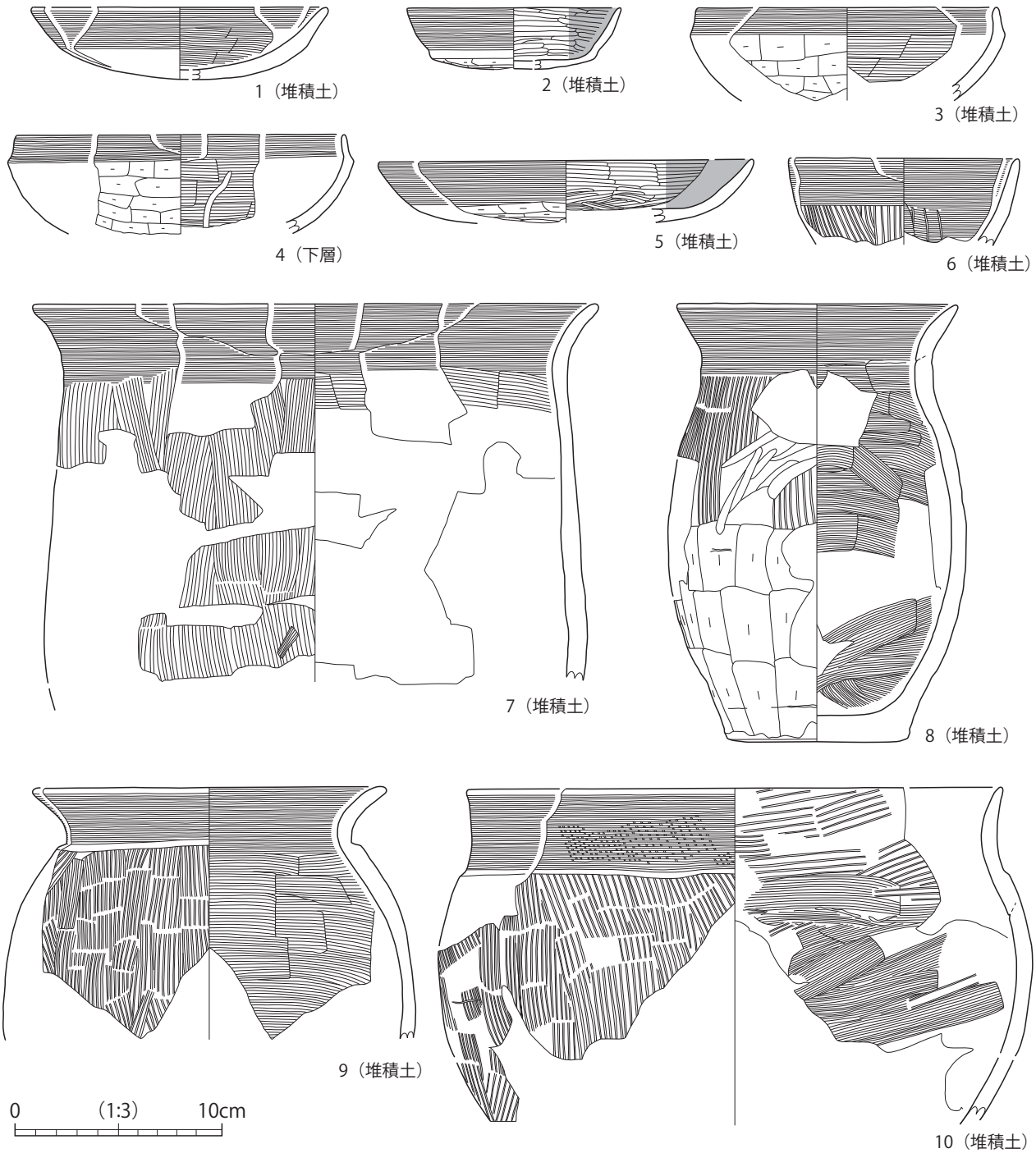
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
9	Kd-007	04年度	SD11	堆積土	石製品	紡錘車	上径 3.0	下径 4.3	1.0	12.2	蛇紋岩	ケズリ→研磨→穿孔、孔径 8㎜、破片	45
10	Kc-013	04年度	SD11	1a 層	礫石器	凹石	(10.3)	(9.5)	4.5	230.0	軽石質凝灰岩	磨 1 面 (凸)、敲 (a･b 面 1 ヶ所)、程度弱、上部欠損	45

第 138 図　SD11 溝跡第 167 次（1 年次）調査出土遺物（2）

ともに使用され、叩きによる窪みは両面ともに深い。

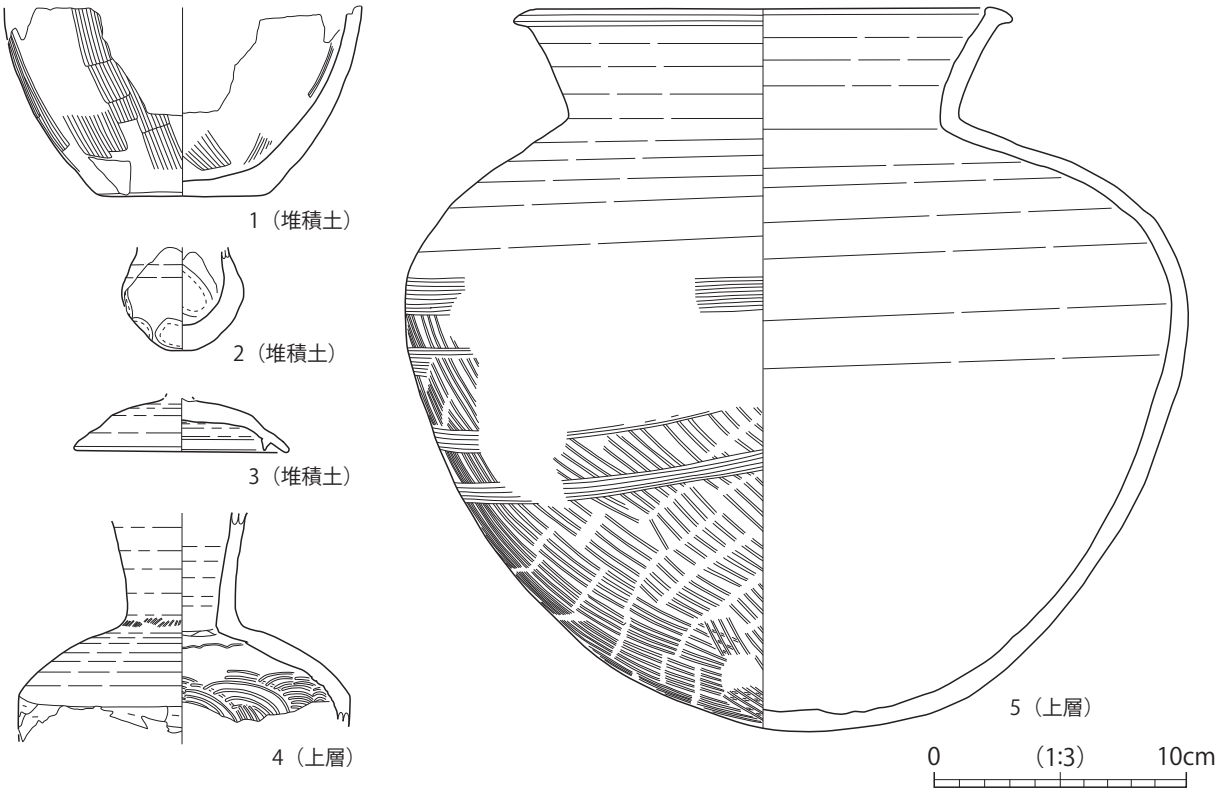
第 180 次調査の出土遺物については、第 139 図－ 1 の土師器坏は平底気味の形状で、3・4 はやや大振りな鬼高系土師器の坏である。5 は扁平で盤状を呈し、口縁部は外傾して開く。甕には法量が小さく長胴タイプの 8 や球胴タイプの 10、法量が大きく頸部の括れが弱い 7、10 などがある。第 140 図－ 2 のミニチュア土器は球状を呈し、壺型であると思われる。3 の須恵器蓋は内側に返りをもち、ツマミ部は欠損する。4 の壺は長頸壺で肩部が強く張り、内面には当て具痕の青海波文が残るが、外面のタタキ目はロクロナデおよびヘラケズリ調整で消されている。5 の甕は胴部中～下位の外面を平行タタキした後、横方向のヘラナデを意匠的に施している。

本溝跡の時期は、郡山Ⅱ期官衙外溝の SD13 より古く、2 期（7 世紀中葉前後）の SI28 より新しい。本溝跡の成立を 1 つの画期として据え、3 期（7 世紀後葉）の時期区分を設定した。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-107	06年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(14.6)	-	(3.5)	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		45
2	C-108	06年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(10.4)	-	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		45
3	C-109	06年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(14.5)	-	(4.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		45
4	C-111	06年度	SD11	下層	土師器	坏	(15.8)	-	(4.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、一部ヘラミガキ		45
5	C-113	06年度	SD11	堆積土	土師器	坏	(18.0)	-	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		45
6	C-104	06年度	SD11	堆積土	土師器	鉢	(11.2)	-	(4.2)	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		45
7	C-081	06年度	SD11	堆積土	土師器	甕	(27.4)	-	(18.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		45
8	C-083	06年度	SD11	堆積土	土師器	甕	(13.6)	(8.7)	21.4	口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、一部ヘラミガキ、胴部下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		45
9	C-086	06年度	SD11	堆積土	土師器	甕	(17.2)	-	(12.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		45
10	C-088	06年度	SD11	堆積土	土師器	甕	(26.0)	-	(16.3)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		45

第 139 図　SD11 溝跡第 180 次調査出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-106	06年度	SD11	堆積土	土師器	甕	-	6.8	(7.5)	胴部ヘラナデ	胴部ヘラナデ		45
2	C-089	06年度	SD11	堆積土	土師器	ミニチュア土器	-	-	(4.1)	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ		45
3	E-017	06年度	SD11	堆積土	須恵器	蓋	(8.6)	-	(2.1)	ロクロ調整	ロクロ調整		45
4	E-015	06年度	SD11	上層	須恵器	長頸壺	-	-	(9.2)	ロクロ調整、頸部ハケメ、胴部中位ヘラケズリ	頸部ロクロ調整、胴部青海波文		45
5	E-011	06年度	SD11	上層	須恵器	甕	(19.8)	-	28.8	口縁～肩部ロクロ調整、胴部平行タタキ→カキメ	ロクロ調整		46

第 140 図　SD11 溝跡第 180 次調査出土遺物（2）

SD13 溝跡（郡山Ⅱ期官衙外溝）（第 137・141 ～ 144・147 図）

第 167 次（2 年次）調査区中央部から第 180 次調査区中央部にかけて延び、33 ～ 36・42・48・75・76 グリッドを中心に位置する。南側は調査区外に延び、東側は河川跡に浸食され大半が失われている。主な他遺構との重複関係は、SD17 より古く、SI22・32、SB14、SD11 より新しい。第 167 次（2 年次）調査区と第 180 次調査区との間は外溝の残存状況を探るために確認調査を行った（28 トレンチ）。

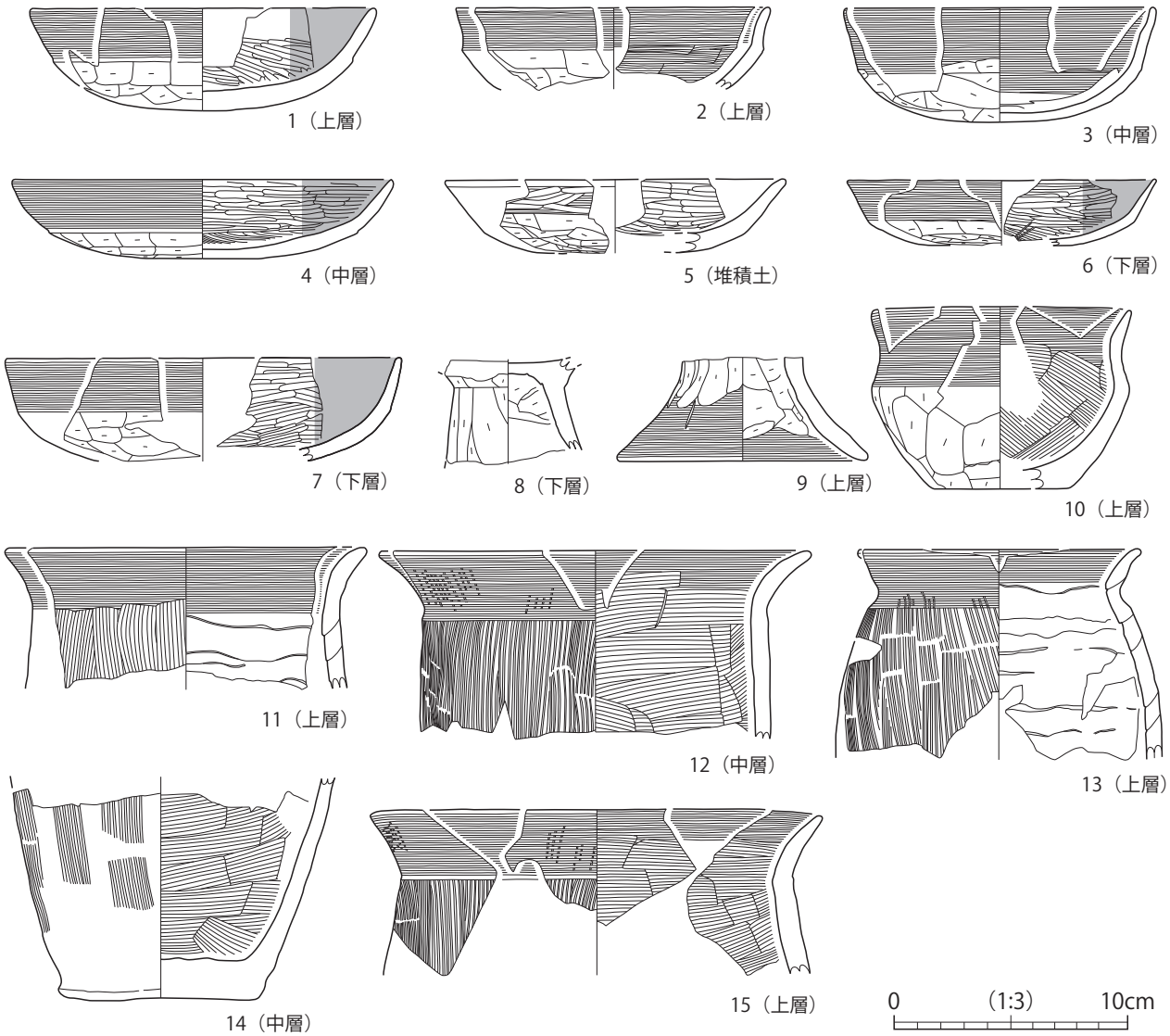
南北方向に延び、36・42 グリッド内で東へとほぼ直角に「L」字状に屈曲する溝跡である。前記の通り郡山Ⅱ期官衙の外溝で、その北西隅部に相当する。中軸を基準とする方位は、西辺で N － 2° － E、北辺で N － 89° － W を指す。規模は、検出長が西辺 47 m、北辺 14.6 mを測る。幅は上端幅 172 ～ 314cm、下端幅 141 ～ 185cm を測る。深さは 32 ～ 121cm を測り、北側は上部が削平を受けているため浅くなる。底面には溝状や土坑状の窪みが多く認められ、後述する掘り直しの影響と思われる。底面に明瞭な傾斜は認められない。

断面形状は逆台形を呈し、壁面には細かい凹凸が認められる。

堆積土は A ～ C セクションを通じ、大別で 10 層、細別で 38 層に分層された。全体に基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックを多く含み、大別 6・7 層の間には焼土や炭化物、灰が集中する。この層位には不自然な堆積状況が認められ、掘り直しの痕跡と考えられる。

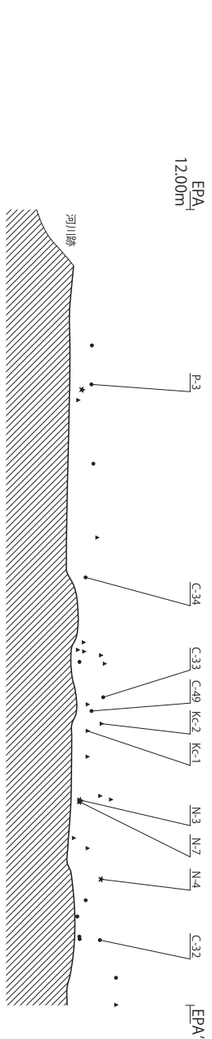
遺物は堆積土の全体に分布するが、概ね大別 6･7 層中に集中する傾向が認められる。土師器坏 7 点、高坏 2 点、

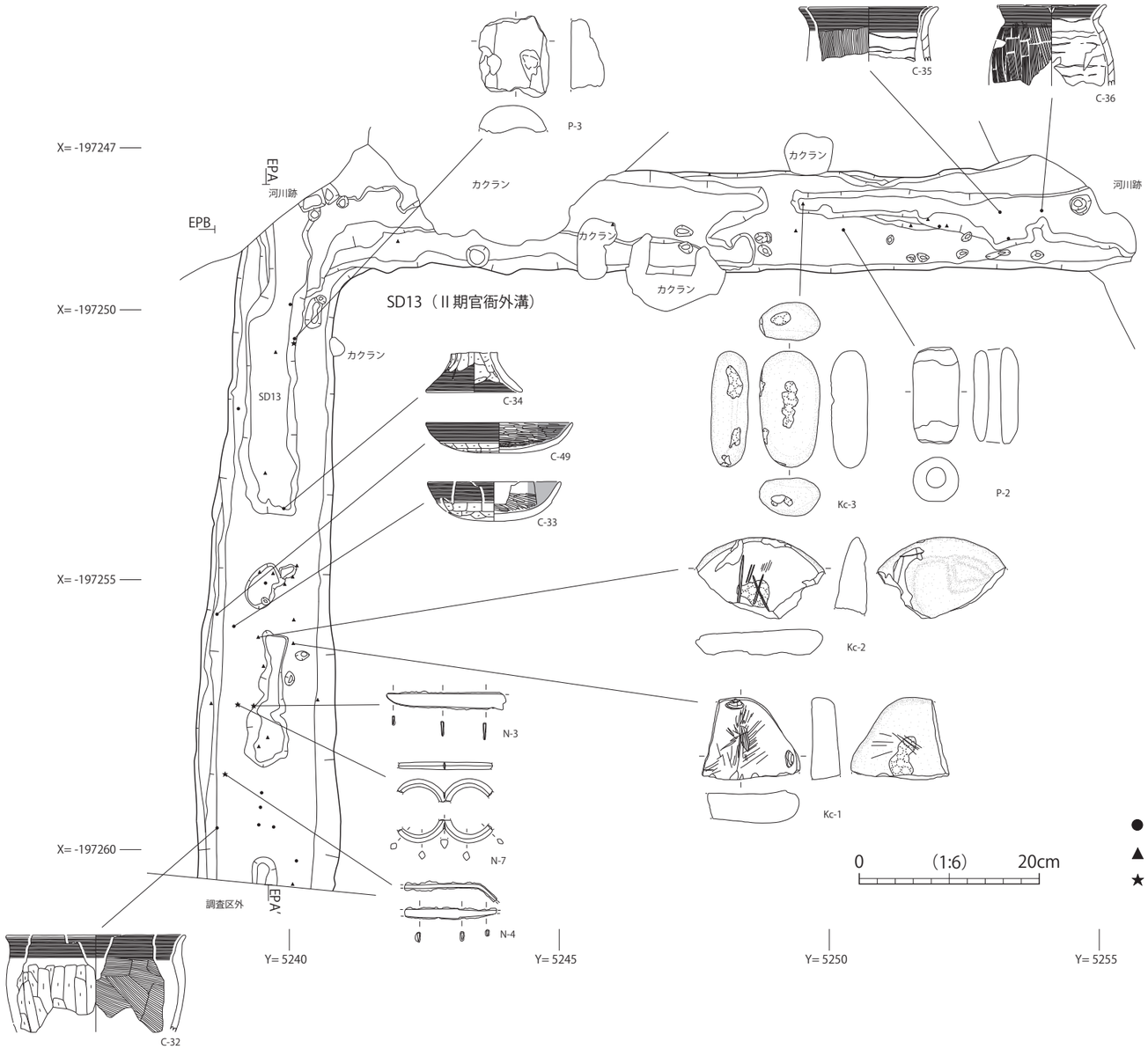
甕 7 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器坏 2 点、蓋 2 点、甕 1 点、金属製品 3 点、土製品 2 点、石製品 2 点、礫石器 1 点を掲載した（第 141・143・144 図）。このうち第 141 図－ 8 の土師器高坏と、第 143 図－ 7 の須恵器甕は第 180 次調査部分からの出土である。

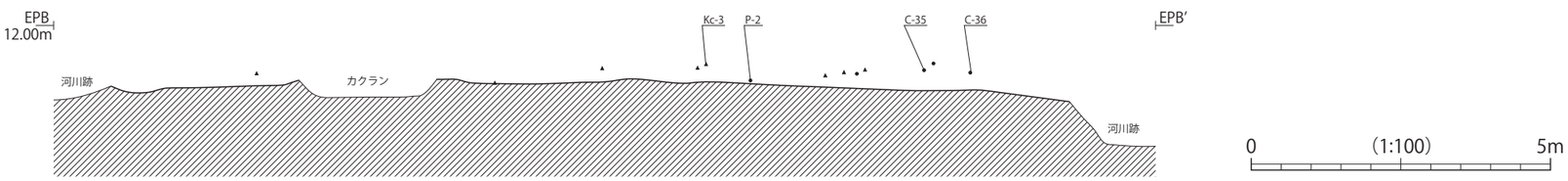


図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-033	05年度	SD13	上層	土師器	坏	(14.8)	-	4.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		46
2	C-039	05年度	SD13	上層	土師器	坏	(13.4)	-	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		46
3	C-041	05年度	SD13	中層	土師器	坏	(13.4)	-	4.9	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		46
4	C-049	05年度	SD13	中層	土師器	坏	(16.4)	-	3.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		46
5	C-056	05年度	SD13	堆積土	土師器	坏	(14.6)	-	(3.2)	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ		46
6	C-061	05年度	SD13	下層	土師器	坏	(13.2)	-	(2.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		46
7	C-060	05年度	SD13	下層	土師器	坏	(17.0)	-	(4.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		46
8	C-115	06年度	SD13	下層	土師器	高坏	-	-	(4.5)	脚部ヘラケズリ	脚部ヘラケズリ		46
9	C-034	05年度	SD13	上層	土師器	高坏	-	10.8	(4.5)	脚部ヘラケズリ、脚部下位ヨコナデ	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		46
10	C-040	05年度	SD13	上層	土師器	小型甕	(11.2)	(5.8)	(7.8)	口縁～胴部上位ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		46
11	C-035	05年度	SD13	上層	土師器	甕	(15.4)	-	(6.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、輪積み痕		46
12	C-043	05年度	SD13	中層	土師器	甕	(18.6)	-	(8.1)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		46
13	C-036	05年度	SD13	上層	土師器	甕	(12.2)	-	(9.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、輪積み痕		46
14	C-042	05年度	SD13	中層	土師器	甕	-	8.5	(9.6)	胴部ハケメ、底部木葉痕	胴部ヘラナデ		46
15	C-038	05年度	SD13	上層	土師器	甕	(19.4)	-	(7.1)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、頸～胴部ヘラナデ		46

第 141 図　SD13 溝跡出土遺物（1）

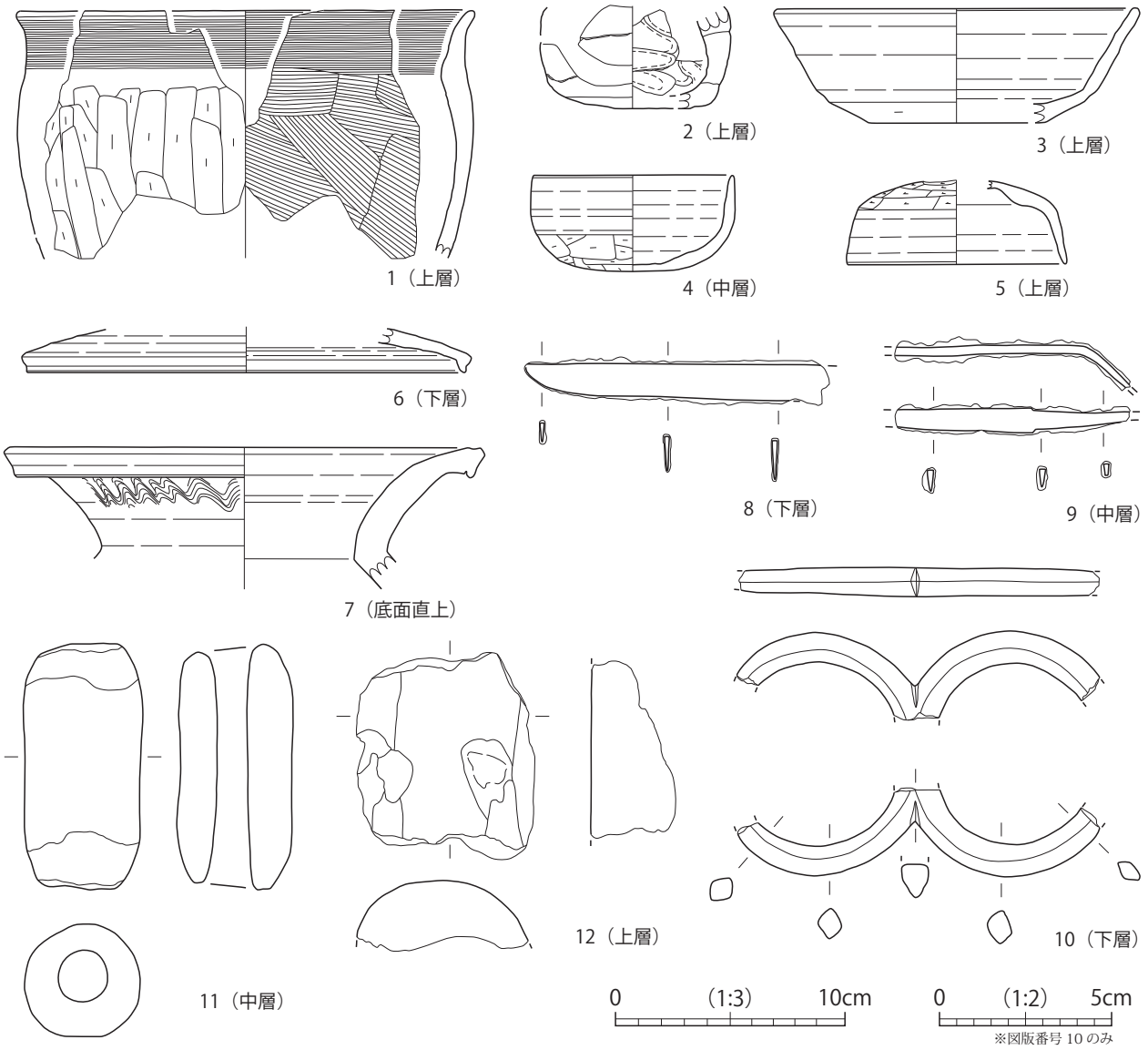






－凡例－
●：土器・土製品出土地点
▲：石器・石製品出土地点
★：金属製品出土地点

第 142 図　SD13 溝跡遺物出土状況



※図版番号 10 のみ

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-032	05年度	SD13	上層	土師器	甕	(20.0)	-	(10.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		46
2	C-030	05年度	SD13	上層	土師器	ミニチュア土器	(7.7)	-	(4.4)	ナデ、輪積み痕	ナデ		46
3	E-014	05年度	SD13	上層	須恵器	坏	(16.0)	-	(5.0)	ロクロ調整、体部下端回転ヘラケズリ	ロクロ調整		46
4	E-018	05年度	SD13	中層	須恵器	坏	(8.8)	-	(4.2)	ロクロ調整、体部下位～底部ヘラケズリ	ロクロ調整		46
5	E-010	05年度	SD13	上層	須恵器	蓋	(9.6)	-	(3.7)	ロクロ調整、天井部ヘラケズリ	ロクロ調整		46
6	E-019	05年度	SD13	下層	須恵器	蓋	(21.0)	-	(2.0)	ロクロ調整	ロクロ調整		46
7	E-020	06年度	SD13	底面直上	須恵器	甕	(21.0)	-	(6.2)	ロクロ調整、櫛描波状文	ロクロ調整		47

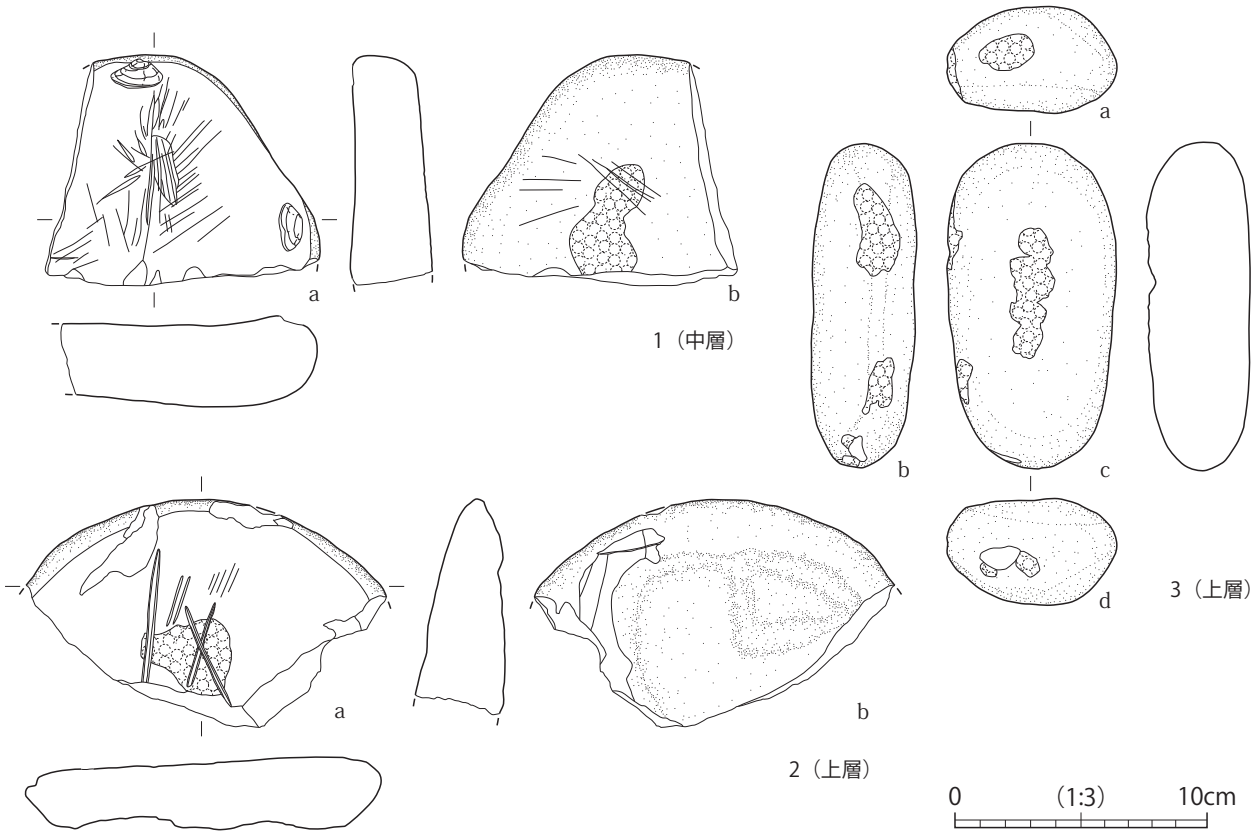
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
8	N-003	05年度	SD13	下層	金属製品	刀子	(13.2)	1.7	0.2	27.2	刃部	47
9	N-004	05年度	SD13	中層	金属製品	刀子	(10.2)	0.9	0.25	17.2	刃～茎部、両端部欠損	47
10	N-007	05年度	SD13	下層	金属製品	煎棘轡	(10.5)	-	-	26.5	銅製、眼鏡状	47
11	P-002	05年度	SD13	中層	土製品	土錘	10.7	5.0	5.0	300.1	ナデ、孔径 13 ～ 23㎜、完形品	47
12	P-003	05年度	SD13	上層	土製品	支脚	(9.0)	(7.7)	(3.7)	257.3	ナデ、破片	47

第 143 図　SD13 溝跡出土遺物（2）

第 141 図の土師器坏のうち、4 ～ 6 は口縁部の開きが強く、扁平な盤状を呈する器形である。9 の高坏は短脚と思われ、裾部は「ハ」字状に外反する。甕は小型の 10、最大径を口縁部にもつ 11・12、胴部中位にもつ 13、口縁部が短い広口タイプの第 143 図－ 1 などがある。須恵器坏は第 143 図－ 3 が平底、4 が丸底である。蓋は丸

みをもち深い器形の 5、扁平で口径が大きい 6 があり、6 の返りは口縁部の端部に付く。金属製品は 8・9 が鉄製刀子で、8 は刃部のみが残存する。9 はほぼ完形で切先を欠損する程度であるが、茎部は弱く折れ曲がっている。8 より 9 の方が細身で、小型品である。10 は銅製の荊棘轡（うばらぐつわ）である。銜（はみ）と手綱を接続するための金具であり、残存するのは 1/3 程である。11 は土錘、12 は土製支脚である。11 は長さ 10.7cm、径 5cm の大型品で厚みをもち、重量がある。第 144 図－ 1・2 は自然礫使用の砥石である。1 は凝灰岩製、2 は軽石質凝灰岩製である。ともに溝状痕が刻まれているが、1 では a・b 面、2 では a 面のみに認められる。1 の a 面には磨面、b 面には叩き痕も観察される。2 では a 面に磨面と叩き痕の両方が観察される。3 は緑色凝灰岩製の叩き石である。a ～ d 面に叩き痕が観察される。

本溝跡の時期は、4 期でも郡山Ⅱ期官衙存続期間の 7 世紀末葉～ 8 世紀初頭に位置付けられる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
1	Kc-001	05年度	SD13	中層	石製品	砥石	(9.2)	(10.9)	3.2	332.6	凝灰岩	扁平礫、砥面 1 面、溝状痕 (a･b 面)、敲 (b 面)、程度弱、破片	47
2	Kc-002	05年度	SD13	上層	石製品	砥石	(9.1)	(14.2)	3.5	255.0	軽石質凝灰岩	扁平礫、砥面 1 面、溝状痕 (a 面)、敲 (a 面)、程度弱、破片	47
3	Kc-003	05年度	SD13	上層	礫石器	敲石	13.0	6.7	4.2	561.6	緑色凝灰岩	敲 (a･c 面 1 ヶ所、b･d 面 2 ヶ所)、程度弱、完形品	47

第 144 図　SD13 溝跡出土遺物（3）

SD15 溝跡（第 137・145 図）

第 167 次（2 年次）調査区南端部の 33・34 グリッドに位置し、SD13（郡山Ⅱ期官衙外溝）の西側 0.85 ～ 1.9 m程に平行する。北側は撹乱や削平のため失われ、南側に残存する長さ 2.3 mを検出した。南側は第 200 次調査区に延び、平成 22 年度に延長部分の調査が実施されている。主な他遺構との重複関係は、SB17 より古く、SI22・23 より新しい。

南北方向の溝跡で、概ね直線的に延びる。中軸を基準とする方位は N － 1° － W を指す。規模は、第 200 次調査部分を含め 21.7 mの延長を確認している。幅は上端幅 141 ～ 153cm、下端幅 86 ～ 94cm、深さは 54cm を測

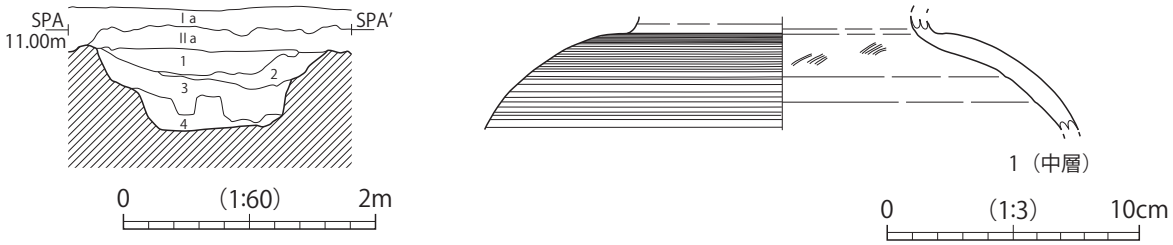
る。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。

断面形状は逆台形を呈し、壁面には細かい凹凸が認められる。

堆積土は 4 層に分層された。全体に基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。第 200 次調査区内の状況も含め、東側の SD13 の方向から埋め戻された状況が観察される。また埋土の層相も、SD13 と近似している。

遺物は、堆積土 4 層から底面にかけて土師器・須恵器の破片が少量出土しており、そのうち須恵器壺 1 点を掲載した（第 145 図）。頸部から肩部にかけての破片で、外面は全体がカキメ調整される。

本溝跡の時期は、主軸方向や埋土の状況から SD13 にやや先行する可能性があり、3 期（7 世紀後葉）と考えておきたい。



区画施設　SD15 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD15	33･34	N-1°-W	230	141 ～ 153	86 ～ 94	54	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック斑状に多量、炭化物微量含む。
							2	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山ブロック多量、炭化物微量含む。
							3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
							4	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。

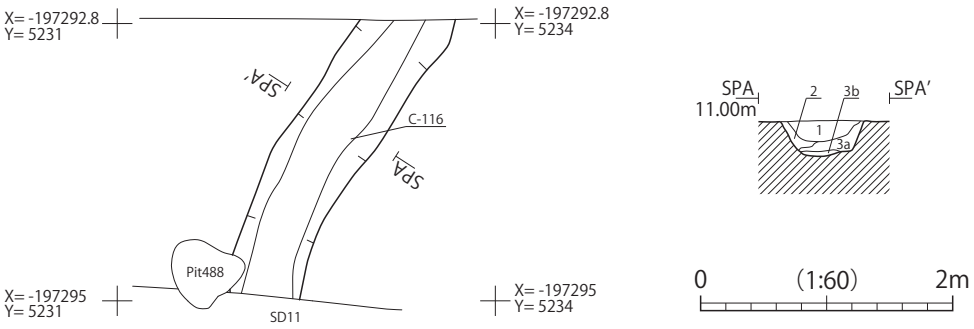
図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-026	05年度	SD15	中層	須恵器	壺	-	-	(4.7)	カキメ	ロクロ調整、当て具痕		47

第 145 図　SD15 溝跡断面図・出土遺物

SD16 溝跡（第 137・146 図）

第 180 次調査区南端部の 75・76 グリッドに位置する。北側は調査区外に延び、南側は SD11 との重複により失われている。SD15 の延長上に位置するが、規模・形状も全く異なるため別の溝跡として扱った。主な他遺構との重複関係は、SD11 より古く、SI29・34 より新しい。

南北方向の溝跡だが、やや東に湾曲して延びる。中軸を基準とする方位は N － 12 ～ 33° － E を指す。規模は、



区画施設　SD16 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD16	75･76	N-28°-E	264	59 ～ 68	28 ～ 40	29 ～ 33	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト多量、明黄褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。
							2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	下位に明黄褐色シルト集中。
							3a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量含む。
							3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。

第 146 図　SD16 溝跡

検出長 2.64 m、幅は上端幅 59 ～ 68cm、下端幅 28 ～ 40cm、深さは 29 ～ 33cm を測る。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。

断面形状は逆台形を呈し、壁面には細かい凹凸が認められる。

堆積土は大別で 3 層、細別で 4 層に分層された。全体に基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックや黒褐色シルトブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

遺物は堆積土上層から土師器甕 1 点が出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本溝跡の時期は、3 期（7 世紀後葉）の SD11 より古く、3 期以前と考えられる。

SD17 溝跡（第 137・147 ～ 149 図）

第 180 次調査区中央部の 75 ～ 78 グリッドに位置する。北側および南側は調査区外に延びる。主な他遺構との重複関係は、SI35、SD11・13 より新しい

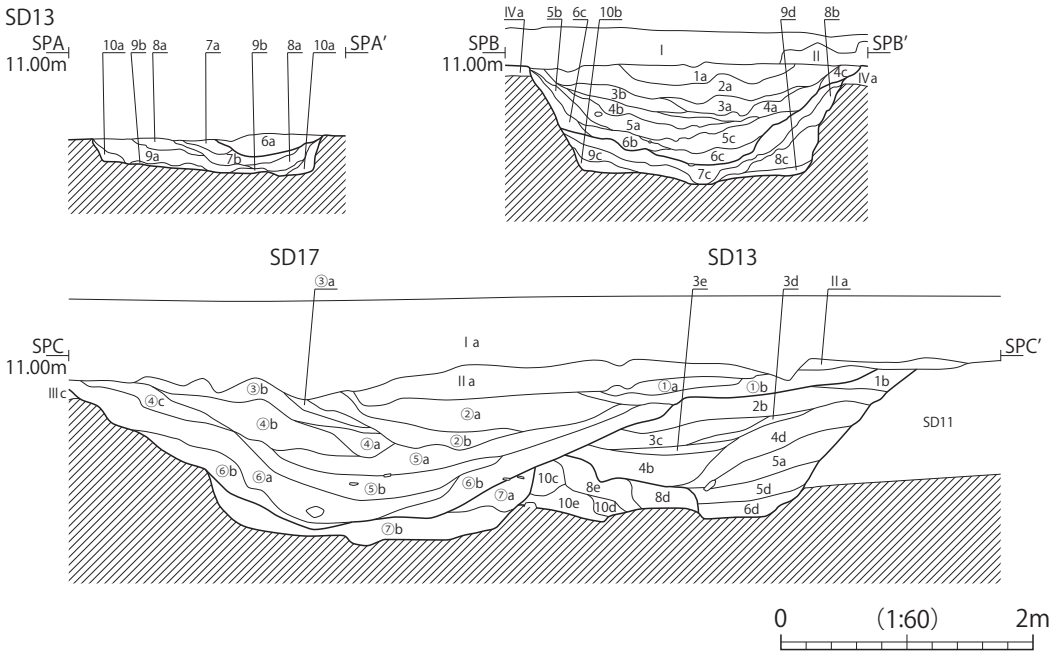
南北方向から大きく東に傾く溝跡である。検出範囲が狭いため、具体的な走行状況は不明である。中軸を基準とする方位は N － 39° － E を指す。規模は、検出長 5.68 m、幅は上端幅 310 ～ 338cm、下端幅 120 ～ 141cm、深さは 113 ～ 120cm を測る。底面はやや起伏する。

断面形状は逆台形を呈し、壁面には細かい凹凸が認められ、下部には稜をもつ。

堆積土は大別で 7 層、細別で 15 層に分層された。全体に基本層Ⅳ層由来の明黄褐色シルトブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。中層の 5b 層は灰を主体とする層で、層の上部には炭化物が薄く堆積する。また大別 6 層と 7 層の間には不自然な堆積状況が認められ、掘り直しの痕跡と考えられる。

遺物は、堆積土全体に含まれるかたちで出土するが、中層から下層にかけて集中する傾向が認められる。土師器坏 2 点、須恵器坏 2 点、盤 1 点、甕 1 点を掲載した（第 148・149 図）。第 148 図－ 1 の土師器坏は鬼高系土師器の坏である。第 149 図－ 1・2 の須恵器坏は、ともに口径と底径の比率が 5：3 の数値を示し、底部が大きく扁平な器形を呈する。3 の盤は体部が内湾気味に外傾し、口唇部で短く外反する。

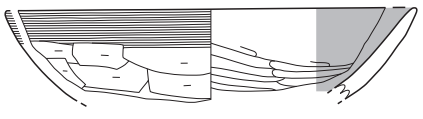
本溝跡の時期は、郡山Ⅱ期官衙外溝である SD13 より新しく、8 世紀前半以降と考えられる。



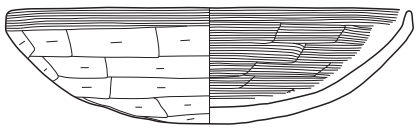
第 147 図　SD13・17 溝跡断面図

区画施設　SD13・17 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SD13	33 ～ 36・39 ～ 42・48・75・76	西辺 N-2°-E 北辺 N-89°-W	西辺 4701 北辺 1462	172 ～ 314	141 ～ 185	112 ～ 121	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック多量含む。
							1b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。
							2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、灰白色粘土粒・焼土粒・炭化物微量含む。
							2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量、灰白色粘土・焼土粒微量含む。
							3b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
							3c	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト少量含む。
							3d	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
							3e	10YR6/2 灰黄褐色	微砂	明黄褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。
							4a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
							4b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。C-C' 部分では地山ブロックの粒径大きく、量も増える。
							4c	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
							4d	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトラミナ状に多量、炭化物微量含む。
							5a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック多量、炭化物微量含む。C-C' 部分では地山ブロックがラミナ状に堆積。
							5b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
							5c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度)・炭化物少量含む。
							5d	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。
							6a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物・灰少量含む。
							6b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロック (5㎜程度)・焼土・炭化物微量含む。
							6c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量含む。
							6d	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
							7a	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 30㎜程度) 下位に集中、灰少量、炭化物微量含む。
							7b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 40㎜程度) 多量、酸化鉄少量、焼土粒・炭化物微量含む。
							7c	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							8a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量、焼土粒微量含む。
							8b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 中位に集中。
							8c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	地山ブロック斑状に多量、炭化物微量、下位に人頭大の地山ブロック有。
							8d	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトラミナ状に多量含む。
							8e	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトラミナ状に多量含む。
							9a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	地山ブロック (5 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物少量、中位に人頭大のブロック有。
							9b	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックラミナ状に多量含む。
							9c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック多量、炭化物微量含む。
							9d	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	下位に地山ブロック集中。
							10a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地山ブロック斑状に多量含む。
							10b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	地山ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
							10c	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
							10d	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
							10e	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
SD17	75 ～ 78	N-39°-E	568	310 ～ 338	120 ～ 141	113 ～ 120	① a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
							① b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。
							② a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
							② b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
							③ a	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
							③ b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。
							④ a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							④ b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							④ c	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							⑤ a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色・褐灰色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
							⑤ b	10YR6/1 褐灰色	粘土	酸化鉄多量、焼土微量含む。上位には炭化物が堆積。灰主体層。
							⑥ a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、黄褐色シルトラミナ状に・炭化物微量含む。
							⑥ b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルト・灰白色粘土ブロック (5 ～ 30㎜程度) 少量、灰白色火山灰・焼土・炭化物微量含む。
							⑦ a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
							⑦ b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 密に含む。



1（中～下層）

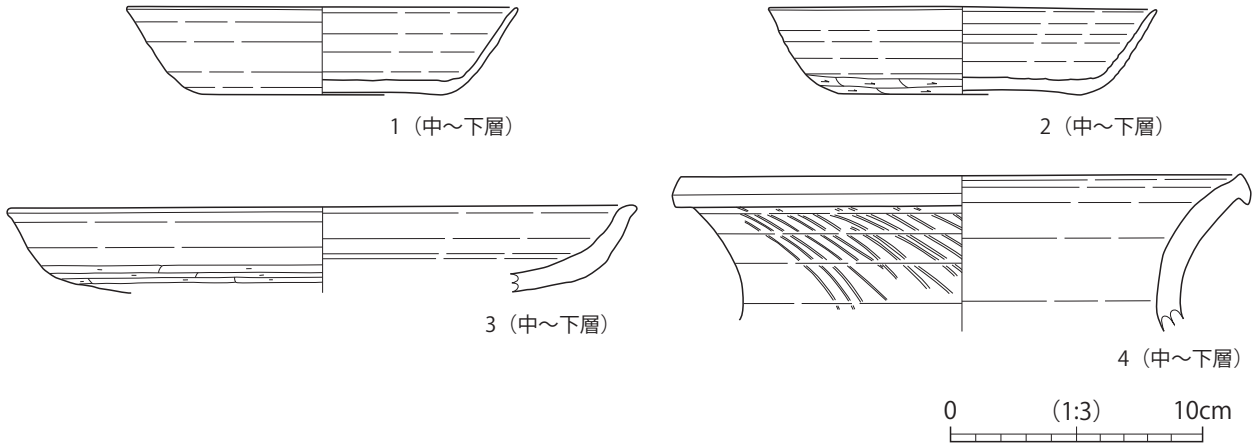


2（中～下層）

0　(1:3)　10cm

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-119	06年度	SD17	中～下層	土師器	坏	(16.4)	-	(3.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		47
2	C-117	06年度	SD17	中～下層	土師器	坏	(16.0)	-	4.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	Pit479 出土破片と接合	47

第 148 図　SD17 溝跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-024	06年度	SD17	中～下層	須恵器	坏	(15.6)	9.6	3.4	ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		47
2	E-025	06年度	SD17	中～下層	須恵器	坏	15.3	9.6	3.4	ロクロ調整、体部下位ヘラケズリ、底部ヘラ切り→回転ヘラケズリ	ロクロ調整		47
3	E-023	06年度	SD17	中～下層	須恵器	盤	(25.0)	(20.0)	(3.4)	ロクロ調整、体部下位ヘラケズリ	ロクロ調整		47
4	E-022	06年度	SD17	中～下層	須恵器	甕	(23.0)	-	(6.2)	タタキ→ロクロ調整	ロクロ調整		47

第 149 図　SD17 溝跡出土遺物（2）

SA1 材木列跡（第 137・150 図）

第 180 次調査区中央部の 81 グリッドに位置する。北側および南側は調査区外に延びる。他遺構との重複関係は、Pit493 より新しい。当初は溝跡として調査を進めたため、掘り方のみを検出した。

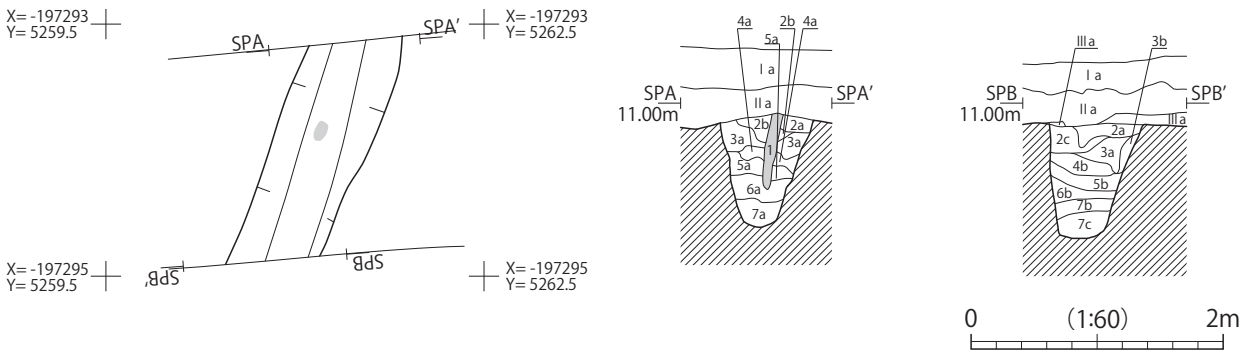
掘り方は、やや東に傾く南北方向の溝状を呈し、概ね直線的に延びる。中軸を基準とする方位は N － 16° － E を指す。規模は、検出長 2.19 m、幅は上端幅 67 ～ 78cm、下端幅 26 ～ 33cm、深さは 83 ～ 89cm を測る。このように掘り方は、幅に対しそれ以上の深さを有している。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。底面からは、長さ 16cm、幅 10cm の楕円形を呈すあたりが 1 箇所検出された。柱の配列状況については詳細不明である。

断面形状は逆台形を呈し、壁面には細かい凹凸が認められる。

堆積土は大別で 7 層、細別で 15 層に分層された。北側の A － A' セクションでは、長さ 61cm、幅 10cm の柱痕跡が確認できる。堆積土の下半部は概ね水平堆積であるが、柱痕跡が位置する上半部は層の乱れが著しい。このことから掘り方をある程度埋めて柱の埋設深度を調節し、柱を設置してから一気に埋め戻されたと考えられる。

遺物は出土していない。

本材木列跡の時期は、時期を決定できるような遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。



第 150 図　SA1 材木列跡

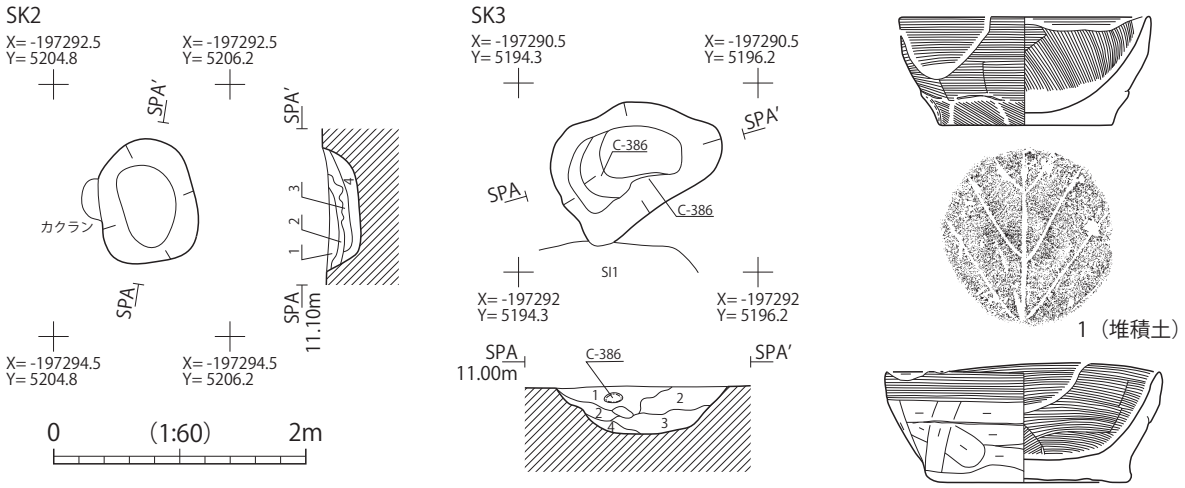
区画施設　SA1 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SA1	81	N-21°-E	(210)	67～79	24～32	96～111	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10～20㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)
							2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10～30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
							2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10～20㎜程度) 少量含む。
							2c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (10～30㎜程度) 多量含む。
							3a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (30～50㎜程度) 多量含む。
							3b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルト多量含む。
							4a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (20㎜程度) 少量含む。
							4b	10YR4/1 褐灰色	粘土	明黄褐色シルトブロック (10～20㎜程度) 少量含む。
							5a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10～30㎜程度) 少量含む。
							5b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック (10～30㎜程度) 多量含む。
							6a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック (10～30㎜程度) 下位に集中。
							6b	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック (5～10㎜程度) 微量含む。
							7a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック (10～50㎜程度) 少量含む。
							7b	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	灰白色シルトブロック (5～10㎜程度) 少量含む。
							7c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (5～10㎜程度)・酸化鉄少量含む。

(4) 土坑（第 151・152 図）

古墳時代～古代に帰属すると思われる土坑は、10 基検出された。SK2･3･7 ～ 10 は第 167 次（1 年次）調査区、SK16・18 は第 167 次（2 年次）調査区に位置する。古代～中世の土坑と同様に形状や規模が様々であり、ほとんどの土坑については性格不明と扱わざるを得ない。このような中でも、SK7 は隅丸方形の平面形状と長軸 200cm の規模をもち、堆積土に焼土や炭化物を多く含むことから、小型の建物である可能性が考えられる。SK16 の堆積土には柱痕跡とみられる層位が観察されることから、掘立柱建物跡などとの関連が想定される。

遺物は、SK3 の土師器埦 2 点を掲載した（第 151 図）。1・2 の埦はともに底部に木葉痕が残る。

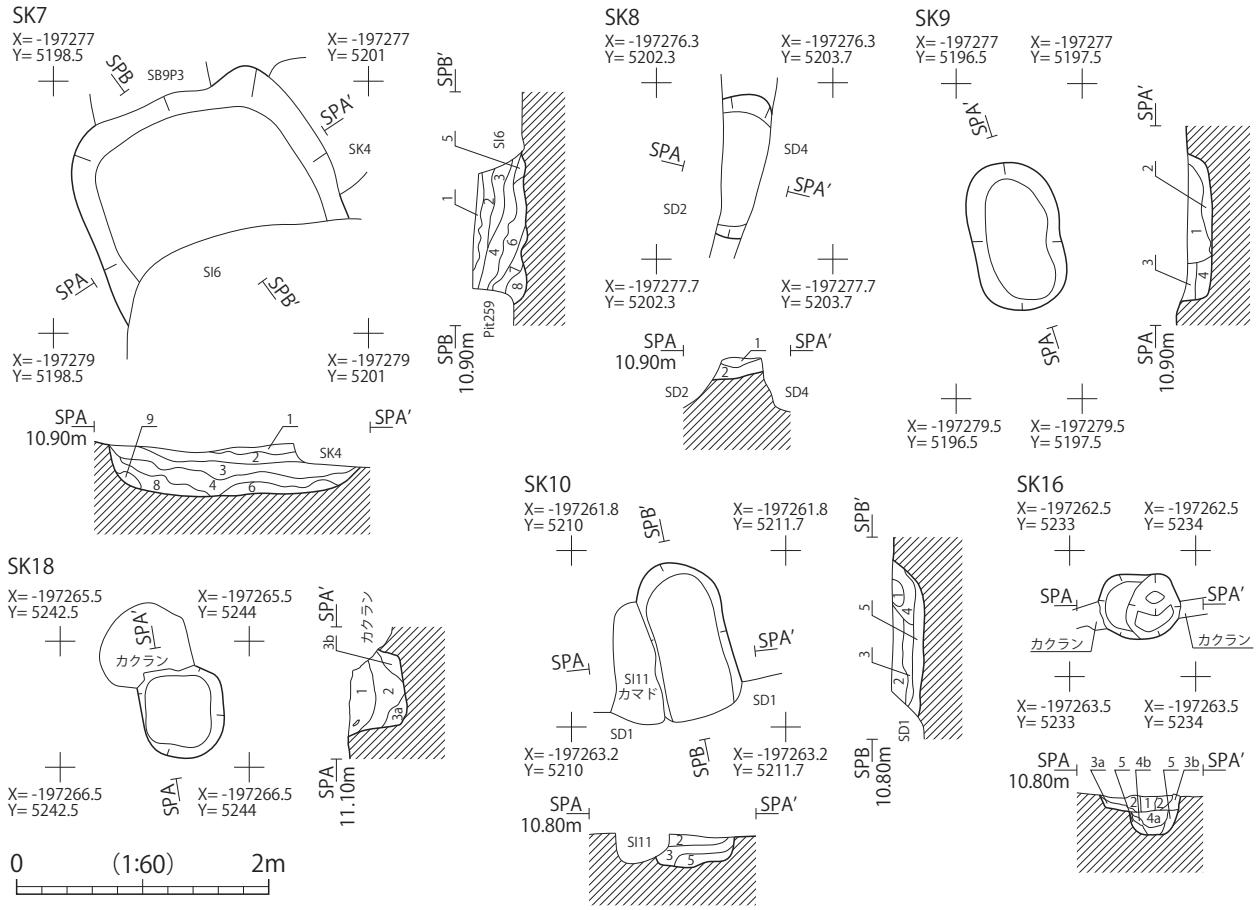


土坑 (古墳時代～古代)　観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK2	5	楕円形	98 × 77	28	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色土ブロック、炭化物微量含む。	Pit299 より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト		
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量、灰黄褐色粘土含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック含む。	
SK3	4	(楕円形)	136 × 87	32	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物含む。礫あり。	SI1 より古く、SI5 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10～30㎜程度) 含み、焼土粒・炭化物混在。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物微量、黒褐色土ブロック (30㎜程度) 含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色土ブロック (30㎜程度) 少量含む。	

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-385	04年度	SK3	堆積土	土師器	埦	(10.0)	6.8	4.3	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ナデ・指オサエ、輪積み痕、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		47
2	C-386	04年度	SK3	堆積土	土師器	埦	(11.0)	4.4～4.7	7.5～7.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積み痕、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ		47

第 151 図　土坑（古墳時代～古代）(1)・SK3 出土遺物



土坑（古墳時代～古代） 観察表 (2)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK7	12・13	隅丸方形	200 × (130)	48	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	SI6、SK4、SM35・36・37・52 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物含み、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 点在。	
					3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物多量含み、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 混在。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物含む。	
					5	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土ラミナ状に、炭化物微量含む。	
					6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物点在。	
					7	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
					8	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物含み、Ⅳ層土混在。	
					9	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
SK8	12	(円形)	115 × (90)	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SD2・4 より古い。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	下位に暗褐色土含む。	
SK9	12	楕円形	117 × 69	24	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒混在。	
					2	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色土含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	粘土粒・炭化物含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
SK10	23	(楕円形)	(125) × 60	25	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	SI11A、SD1 より古い。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	淡黄色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					5	10YR5/8 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
SK15	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SI21 カマド煙道部に変更)	
SK16	33	楕円形	64 × 51	31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、褐灰色シルトブロック (5㎜程度) 微量含む。	SI23 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					3a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	
					3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。	
					4a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・灰白色シルトブロック (5㎜程度) 微量含む。	
					4b	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック微量含む。	
					5	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
SK17	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB17-P5 に変更)	
SK18	SB14 南側	隅丸方形	(72) × 65	46	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。	
					3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
SK19	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB17-P2 に変更)	

第 152 図　土坑（古墳時代～古代）(2)

（5）性格不明遺構

第 167 次（1 年次）調査区から 3 基検出した。SX1 は、祭祀跡と思われる土器集積である。SD10 と SD12 は溝跡として調査したが、機能的に判然としないため性格不明遺構としてここで扱う。

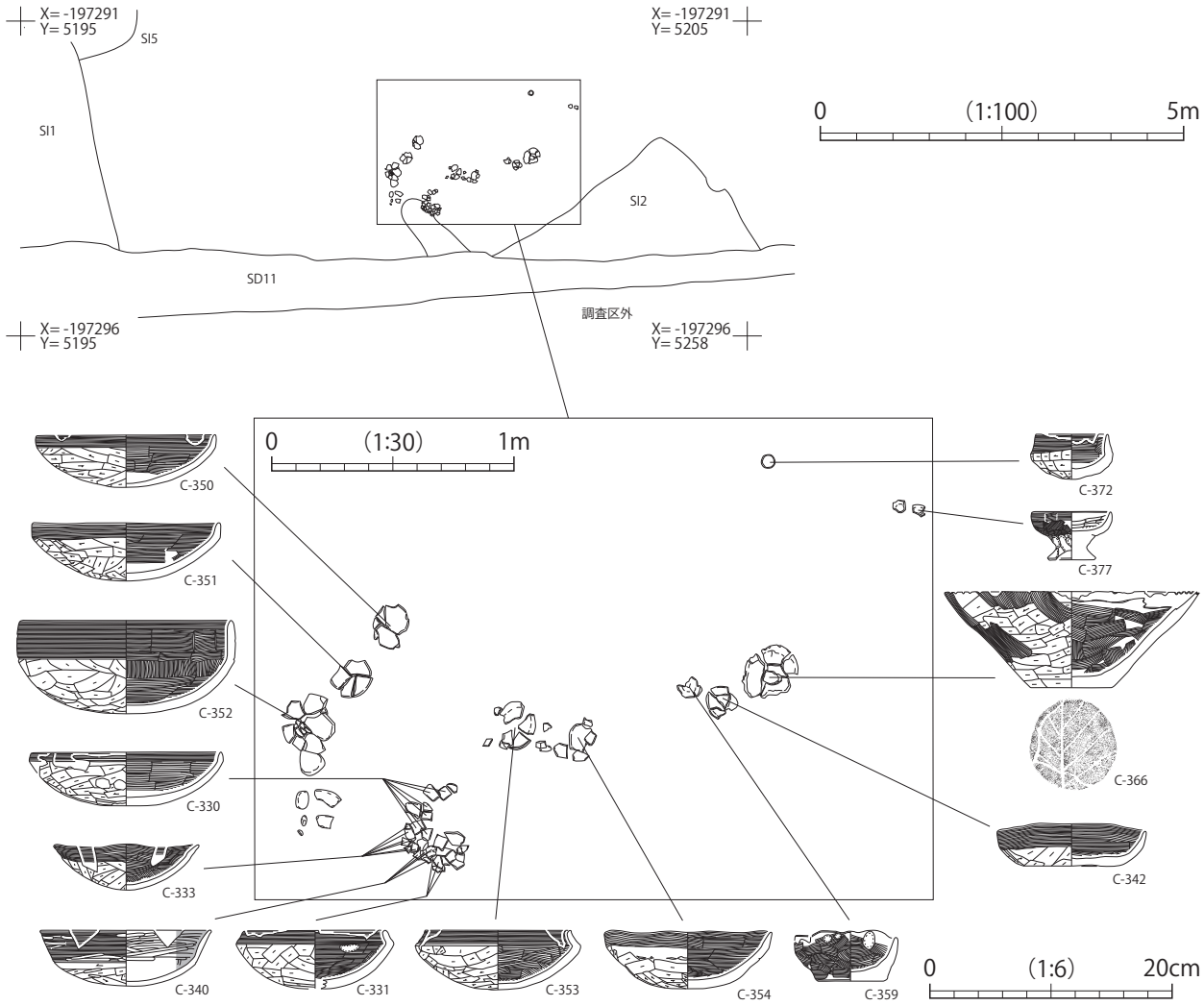
SX1 性格不明遺構（第 153 ～ 155 図）

調査区南部の 5 グリッドに位置する。主な他遺構との重複関係は、SI2 より新しい。

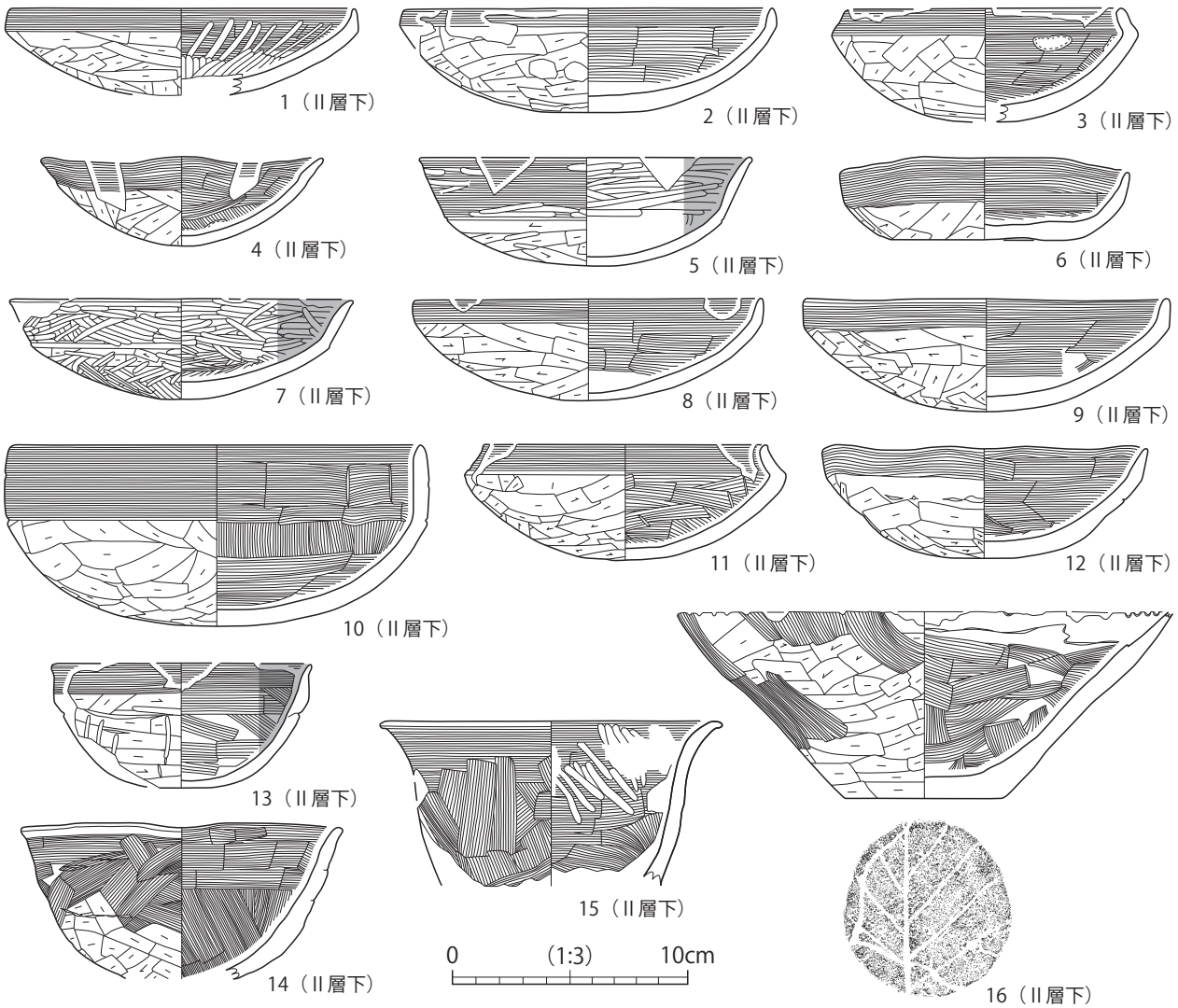
東西 2.7 m×南北 1.7 mの範囲に遺物が集中する。土師器の集積遺構であり、登録遺物だけでも 56 点を数える。器種は坏・高坏・鉢・甕・ミニチュア土器があり、特にミニチュア土器が全体の 1/4 を占める。層位的には基本層Ⅱ b 層からⅢ a 層にかけて分布していることから、本来はⅢ a 層に帰属すると考えられる。

これらの遺物は、多くが正位で出土した。西側には第 154 図－ 8 ～ 10 の坏 3 点が一列に並び、中央に 11・12 の坏が置かれる。東側には 6 の坏、16 の甕、第 155 図－ 3 のミニチュア土器が置かれ、北東側には第 155 図－ 7・11 を含むミニチュア土器がまとまっている。南側には第 154 図－ 2 ～ 5 などの坏と甕が重なり、そのまま潰れた状態で出土している。遺物は、土師器坏 12 点、埦 2 点、鉢 1 点、甕 3 点、ミニチュア土器 10 点、石製品 1 点を掲載した（第 154・155 図）。

坏は器形が豊富であり、口縁部が短く直立する第 154 図－ 1・2・8・9、やや外反する 12、内屈する 3・11、

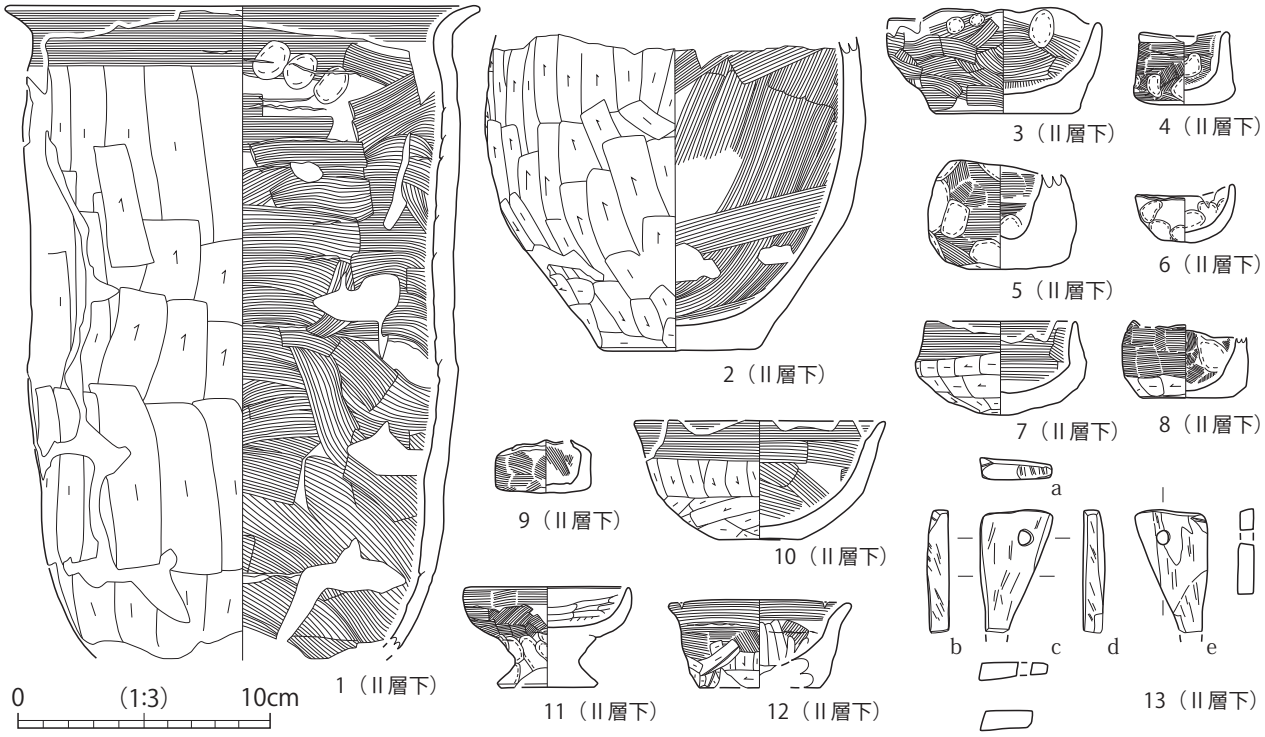


第 153 図　SX1 性格不明遺構



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-327	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	(14.6)	-	(3.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ		47
2	C-330	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	15.7	-	4.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	内外面漆処理	47
3	C-331	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	(11.8)	-	(4.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、一部指オサエ		47
4	C-333	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	(11.8)	-	3.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、一部指オサエ		48
5	C-340	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	14.1	-	4.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、一部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		48
6	C-342	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	(12.3)	(8.0)	3.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ		48
7	C-348	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	(14.6)	-	4.2	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		48
8	C-350	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	14.9	-	4.3	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	外面磨滅	48
9	C-351	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	(15.6)	-	4.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	外面磨滅	48
10	C-352	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	17.6	-	7.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		48
11	C-353	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	12.0	-	4.9	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		48
12	C-354	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	坏	(13.8)	-	4.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		48
13	C-341	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	埦	(11.0)	-	5.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、一部ヘラミガキ、輪積み痕、黒色処理	口縁部ヨコナデ,体～底部ヘラナデ、黒色処理		48
14	C-324	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	埦？	(13.6)	-	(6.6)	口縁～体部上半ヘラナデ、体部下半ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、体部ヘラナデ		48
15	C-355	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	鉢か	(14.6)	-	(7.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、一部ヘラミガキ		48
16	C-366	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	鉢	21.0	6.6	8.0	体部ヘラケズリ、一部ヘラナデ	ヘラナデ		48

第 154 図　SX1 性格不明遺構出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-364	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	甕	(18.8)	-	(15.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ､頸～胴部ヘラナデ、指オサエ、輪積み痕		48
2	C-363	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	甕	-	6.3	(12.0)	胴～底部ヘラケズリ	ヘラナデ		48
3	C-359	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	(8.2)	(5.4)	4.1	口縁部ヘラナデ→指オサエ、体部ヘラナデ、底部木葉痕	口縁部ヘラナデ→指オサエ、体～底部ヘラナデ		48
4	C-369	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	(3.6)	3.2	2.9	ナデ、指オサエ、輪積み痕	ナデ、指オサエ		48
5	C-367	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	-	4.8	(4.3)	体部ナデ・指オサエ、底部ヘラケズリ	上位ヘラナデ、下位ナデ		48
6	C-371	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	3.5～4.0	-	1.8～2.3	体部指オサエ	体部指オサエ		48
7	C-372	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	6.0	-	3.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラナデ		48
8	C-374	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	4.6	3.6	3.1	体部上位ナデ、体部下位ヘラケズリ	ナデ、指オサエ		48
9	C-375	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	1.2～2.3	2.9～3.8	2.1	指オサエ・ナデ	ナデ		48
10	C-376	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	(10.0)	(3.2)	4.7	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		48
11	C-377	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	(6.6)	(4.0)	4.0	口縁部ナデ、輪積み痕、体部ヘラナデ、脚部指オサエ	ヘラミガキ	高坏型	48
12	C-378	04年度	SX1	Ⅱ層下	土師器	ミニチュア土器	(7.2)	(4.8)	3.5	口縁部ヨコナデ、輪積み痕、体部ナデ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ、輪積み痕		48

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石　材	備考	写真図版
13	Kd-022	04年度	SX1	Ⅱ層	石製品	砥石	(4.9)	2.9	0.8	14.6	石英質粘板岩	砥面５面、穿孔１ヶ所、孔径5.5～7㎜、端部欠損	48

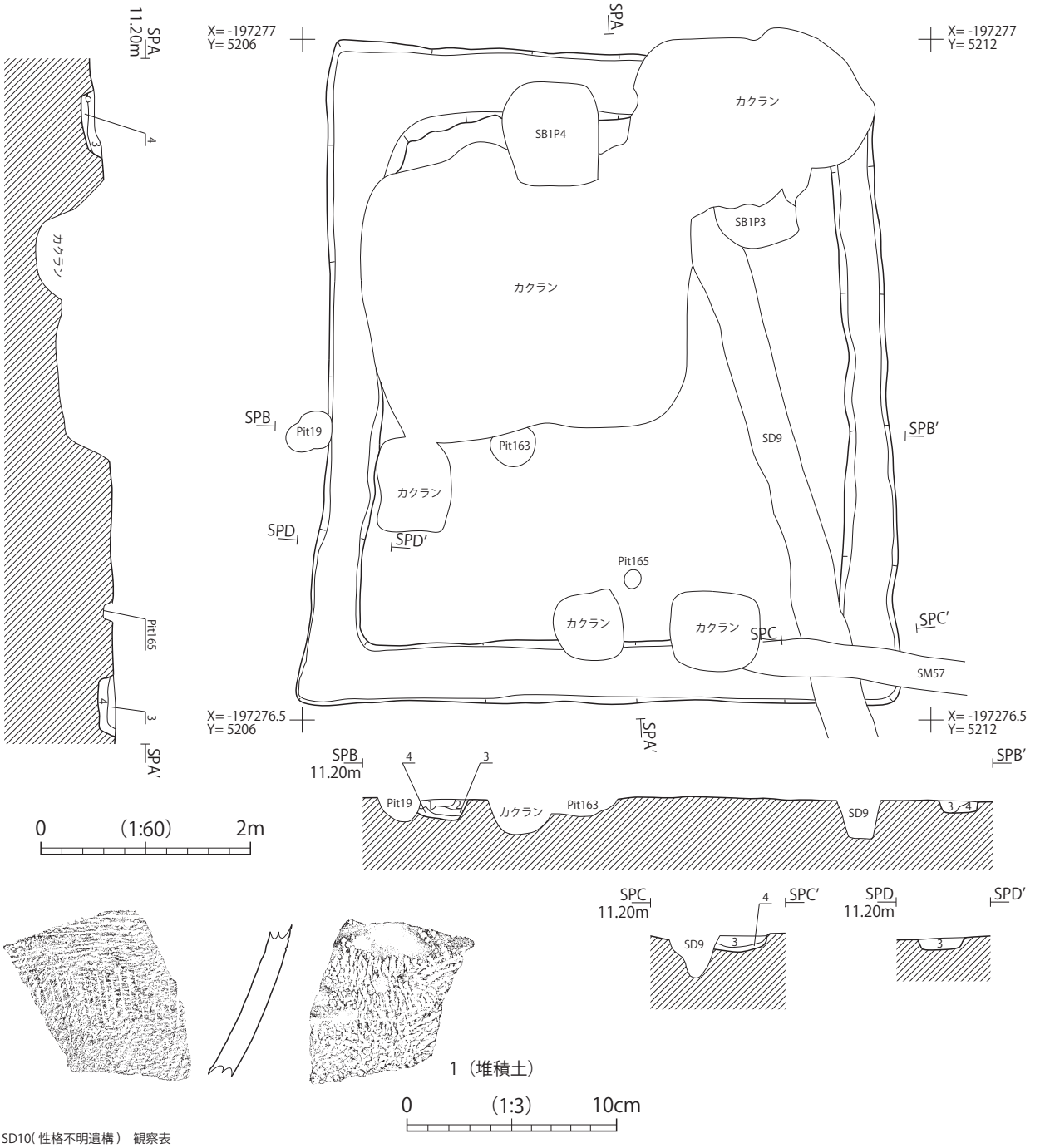
第 155 図　SX1 性格不明遺構出土遺物（2）

外反する 4・5・7 などがある。10 はほかの坏より法量が一回り以上も大きく、鉢ともよべる個体である。これらの坏の体部調整でヘラミガキを基調とするものは 7 だけで、ほとんどが外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ調整を基調とする。15 の鉢は薄手でシャープな作りである。16 の甕は、接合部位で剥落した胴下半部である。鉢状の器形を呈し、胴部は直線的に外傾する。底部には木葉痕が残り、上端の接合面にはヘラキザミが施される。上半部は出土しておらず、鉢に転用された可能性がある。第 155 図－ 1 の甕は整形が雑であり、内外面ともに器壁の凹凸が激しい。第 155 図のミニチュア土器のうち、7・10 はヘラケズリ調整を施した丁寧な仕上げである。11 は高坏型と考えられる。13 は石英質粘板岩製の小型の下げ砥石である。撥状を呈し、a ～ e の各面を砥面としている。

本性格不明遺構は祭祀跡と考えられ､時期は検出層位（3a 層）から 4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）と考えられる。

SD10 性格不明遺構（第 156 図）

調査区東部の 13・14・16・17 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構の影響を受け、残存状況は悪い。主な他遺構との重複関係は SB1 より古く、SI11A・11B・12・14 より新しい。



SD10(性格不明遺構) 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD10	13･14 16･17	N-5°-E	(2400)	28 ～ 87	25 ～ 49	7 ～ 18	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)、炭化物粒 (2㎜程度) 少量含む。
							2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土粒少量含む。
							3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 含む。
							4	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土粒少量含む。

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-080	04年度	SD10	堆積土	須恵器	甕	-	-	(7.2)	カキメ→縄目状タタキ→キザミ	縄目状当て具痕		48

第 156 図　SD10 性格不明遺構・出土遺物

方形に巡る溝状の遺構である。走行状況は、南北方向にやや長く、わずかに南辺が開く長方形に巡る。長軸を基準とする方位は、N － 5° － E を指す。規模は全長約 24 mが推定され、東辺 5.59 m以上、西辺 6.37 m、南辺 5.76 m、北辺 2.95 m以上を測る。幅は上端幅 28 ～ 87cm、下端幅 25 ～ 49cm、深さは 7 ～ 18cm を測る。

断面形状は逆台形を呈し、底面は概ね平坦である。

堆積土は 4 層に分層された。基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

遺物は、堆積土全体から少量の土師器・須恵器の破片が出土した。このうち、須恵器甕 1 点を掲載した（第 156 図－ 1）。甕の胴部破片で、酸化焔焼成であるため、色調は褐色を呈する。外面はカキメや縄目状タタキの後、縦方向のキザミが施される。内面には縄目状の当て具痕が残る。

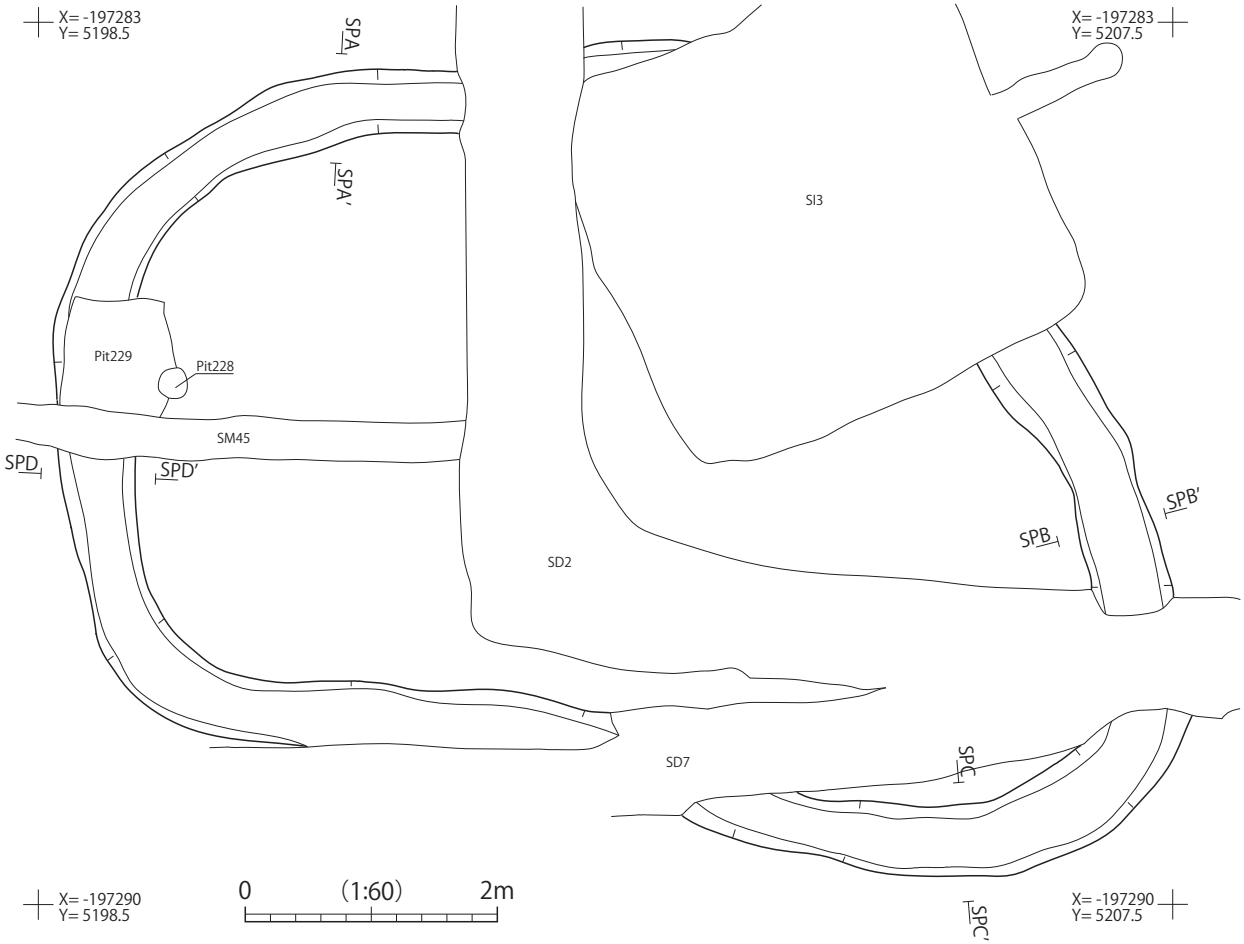
本溝跡の時期は、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）の SI12 より新しく、4 期以降と考えられる。

SD12 性格不明遺構（第 157・158 図）

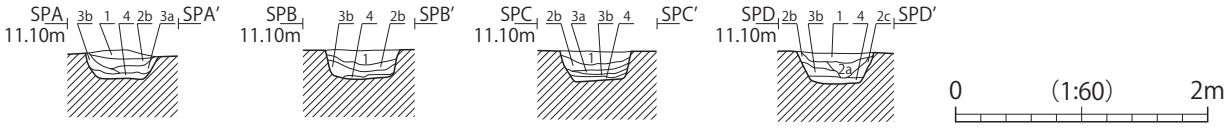
調査区南部の 6・7・9・10 グリッドに位置する。本遺構もまた、撹乱や重複遺構の影響から残存状況が悪い。主な他遺構との重複関係は、SI3 より古い。範囲的には SB6・10 とも重複するが、新旧関係は判然としない。

環状に巡る溝状の遺構である。走行状況は、東西に長い不整楕円形に巡る。規模は全長約 23.5 mが推定され、走行範囲の長径 8.93 m、短径 6.15 mを測る。幅は上端幅 42 ～ 69cm、下端幅 29 ～ 48cm、深さ 14 ～ 27cm を測る。

断面形状は逆台形を呈し、底面は概ね平坦である。



第 157 図　SD12 性格不明遺構（1）



SD12(性格不明遺構) 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD12	6･7 9･10	N-90°-E	(2350)	42 ～ 69	29 ～ 48	14 ～ 27	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (2㎜程度) 点在。
							2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	下半部にⅣ層土ブロック含む。
							2b	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック混在。
							2c	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック混在。
							3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (10㎜程度) 点在。
							3b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (10㎜程度) 微量含む。
							4	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック (10㎜程度) 微量含む。

第 158 図　SD12 性格不明遺構（2）

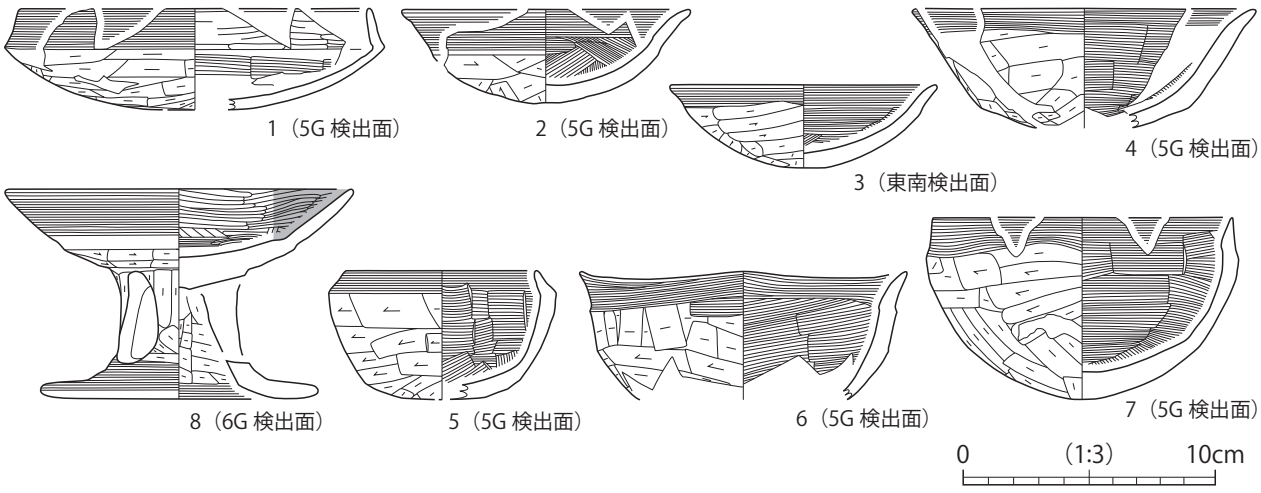
堆積土は 4 層に分層された。いずれの層も自然堆積と思われる。

遺物は土師器の破片がわずかに出土したが、図化可能なものはなかった。

本溝跡の時期は、2 期（7 世紀中葉前後）の SI3 より古く、2 期以前と考えられる。

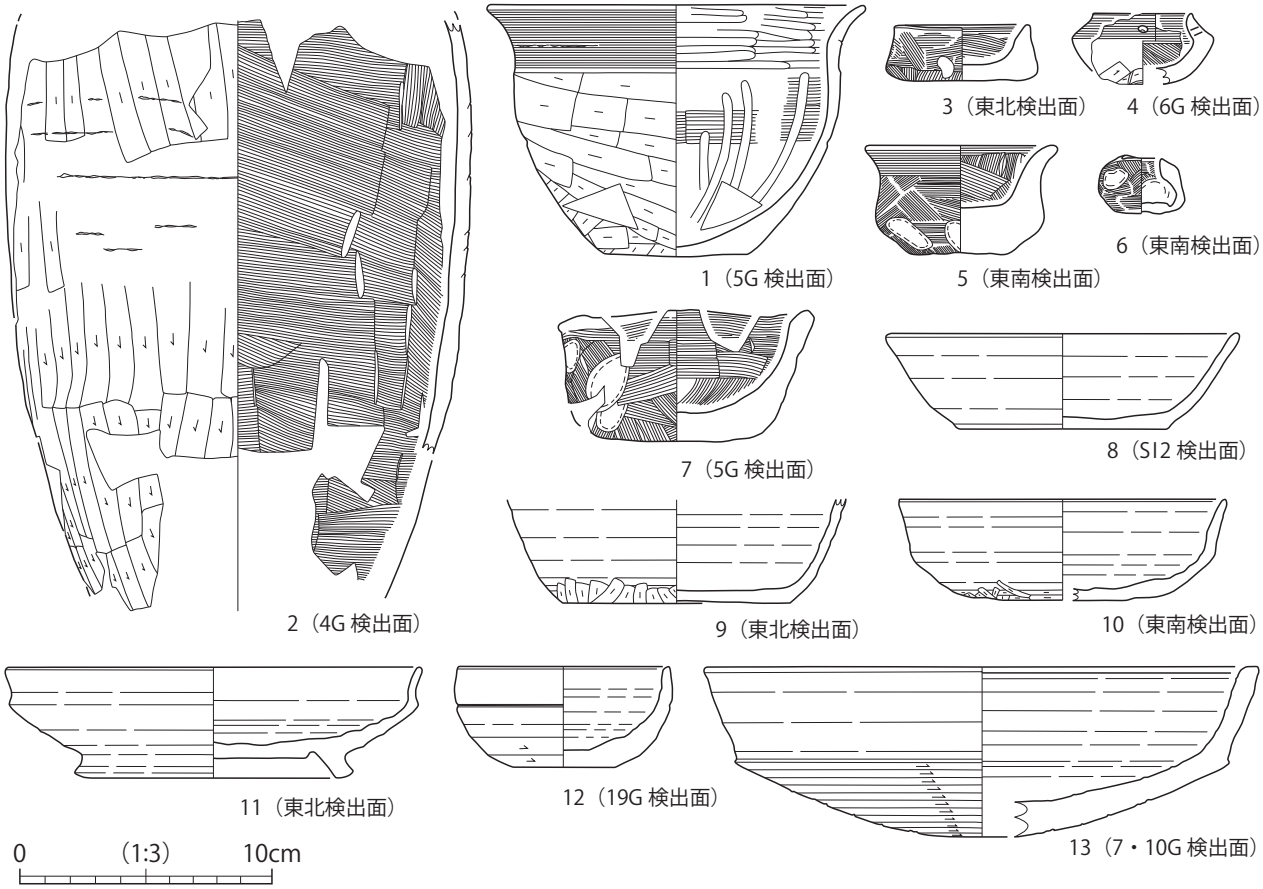
(6) 遺構外出土遺物（第 159 ～ 161 図）

遺構検出時、および撹乱などからの出土遺物について抜粋し、掲載する。掲載遺物は土師器坏 4 点、埦 4 点、高坏 1 点、甕 2 点、ミニチュア土器 5 点、須恵器坏 3 点、高台付坏 1 点、埦 1 点、盤 1 点、金属製品 7 点、石製品 3 点、土製品 1 点である。これらの遺物はいずれも第 167 次（1 年次）調査区から出土した。同調査区での出土量は多く、登録遺物だけでも 400 点を超える。出土位置は大半が調査区南半部の、4 ～ 10 グリッドに集中する傾向が認められる。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-663	04年度	5G	検出面	土師器	坏	(14.0)	-	(4.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラナデ、磨滅		49
2	C-668	04年度	5G	検出面	土師器	坏	(11.4)	-	3.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		49
3	C-672	04年度	東南	検出面	土師器	坏	(10.6)	-	3.3	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		49
4	C-646	04年度	5G	検出面	土師器	坏	(13.4)	-	(4.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		49
5	C-664	04年度	5G	検出面	土師器	埦	(7.6)	-	(5.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		49
6	C-666	04年度	5G	検出面	土師器	埦	(12.8)	-	(5.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、一部ナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		49
7	C-667	04年度	5G	検出面	土師器	埦	(11.8)	-	(7.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		49
8	C-718	04年度	6G	検出面	土師器	高坏	(13.6)	(11.0)	8.3	口縁部ヨコナデ、体～脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	スカシ 3 ヶ所	49

第 159 図　第 167 次（1 年次）調査遺構外出土遺物（1）

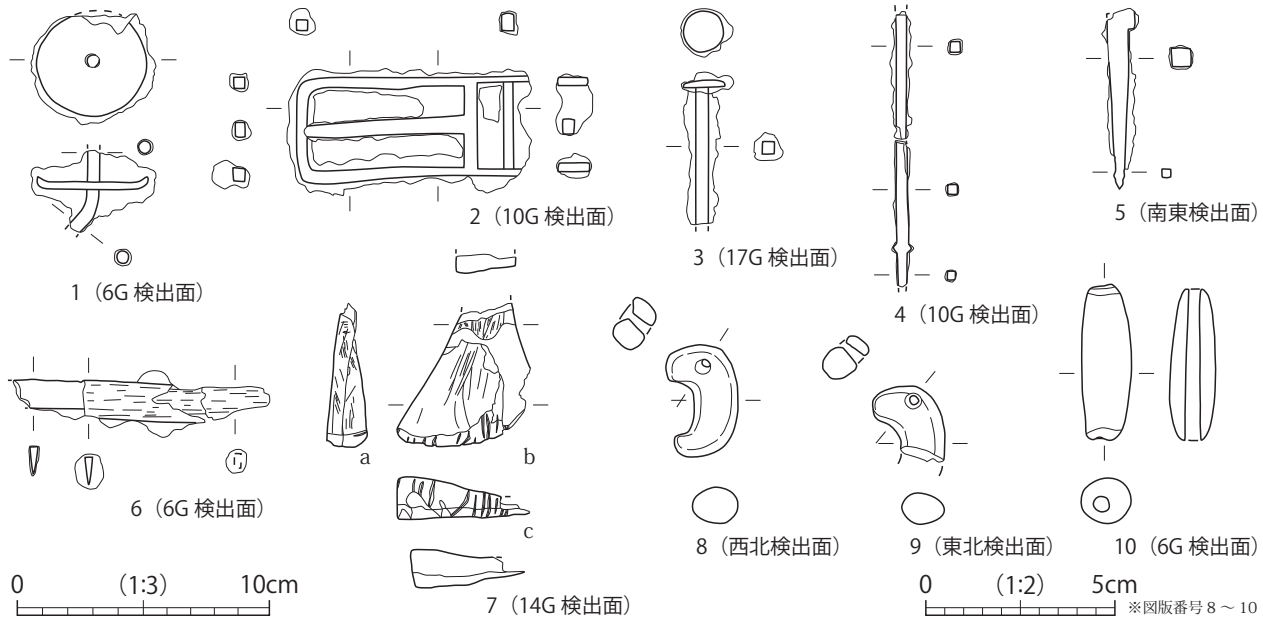


図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-892	04年度	5G	検出面	土師器	甕	(15.0)	(5.8)	10.0	口縁部ヨコナデ、輪積み痕、胴部ヘラケズリ、	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、胴部ヘラナデ→ヘラミガキ		49
2	C-877	04年度	4G	検出面	土師器	甕	-	-	(23.5)	ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラナデ		49
3	C-803	04年度	東北	検出面	土師器	ミニチュア土器	(5.4)	(6.0)	2.2	ナデ	ナデ		49
4	C-830・833	04年度	6G	検出面	土師器	ミニチュア土器	(3.9)	-	(2.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	口縁部穿孔	49
5	C-835	04年度	東南	検出面	土師器	ミニチュア土器	(7.4)	(3.5)	4.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ナデ・指オサエ	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ		49
6	C-840	04年度	東南	検出面	土師器	ミニチュア土器	1.5	-	2.3	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ		49
7	C-873	04年度	5G	検出面	土師器	ミニチュア土器	10.1	6.0	5.1	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ・指オサエ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	手捏ね	49
8	E-019	04年度	3･5G	SI2検出面	須恵器	坏	(14.0)	(8.2)	3.8	ロクロ調整、底部回転ヘラ切り→ヘラナデ調整	ロクロ調整	酸化焔焼成	49
9	E-237	04年度	東北	検出面	須恵器	坏	-	(9.0)	(4.1)	ロクロ調整、体部下端～底部ヘラケズリ	ロクロ調整		49
10	E-240	04年度	東南	検出面	須恵器	坏	(12.8)	(5.2)	4.0	ロクロ調整、体部下端～底部ヘラケズリ	ロクロ調整		49
11	E-238	04年度	東北	検出面	須恵器	高台付坏	(16.4)	10.0	4.4	ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ→高台貼付	ロクロ調整		49
12	E-250	04年度	19G	検出面	須恵器	埦	8.3	4.0	4.0	ロクロ調整、体部下位～底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		49
13	E-257	04年度	7･10G	検出面	須恵器	盤	(21.8)	-	(6.7)	ロクロ調整、体～底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整、底部当て具痕		49

第 160 図　第 167 次（1 年次）調査遺構外出土遺物（2）

土師器のうち、第 159 図－ 1 は鬼高系の坏である。2・3 は体部が外傾して開き、口縁部は外反する。埦は口縁部が外反する 4・6、内屈する 5、直立する 7 が認められる。8 の高坏は脚部に三角形の透孔を 3 箇所穿っており、裾部は強く外反する。第 160 図－ 1 の甕は口縁部が外反し、口縁部と胴部との境に稜をもつ。4 のミニチュア土器は比較的丁寧な作りで、口縁部は内屈し、貫通孔が穿たれている。5 のミニチュア土器は、2 の鉢に似た器形を呈する。

須恵器については、第 160 図－ 10 の坏が口縁部と体部との境が「く」字状に突出し、強い稜を形成している。11 の高台付坏は口縁部と体部との境に稜をもち、高台部は「ハ」字状に開く。12 の埦は小型の完形品である。体部から口縁部にかけて内湾し、口縁部と体部との境には沈線を巡らしている。13 の盤は見込みまでが深く、口縁部と体部との境に稜を有する器形である。底部の外面には脚部の剥落痕が観察される。



図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
1	N-021	04年度	6G	検出面	金属製品	紡錘車	(4.3)	4.9	(3.2)	46.6	孔径 4.5 ～ 6㎜、軸棒一部残存	49
2	N-022	04年度	10G	検出面	金属製品	鋏具	(9.7)	4.0	0.7	91.2	完形	49
3	N-025	04年度	17G	検出面	金属製品	釘	(5.7)	0.5	0.5	17.1	頭径 1.6cm	49
4	N-031	04年度	10G	検出面	金属製品	鉄鏃（茎部）	上 (5.1) 下 (5.8)	0.4	0.4	5.1(上) 4.7(下)	長頸、棘関	49
5	N-043	04年度	東南	検出面	金属製品	釘	(7.2)	0.85	0.9	16.1	角釘	49
6	N-035	04年度	6G	検出面	金属製品	刀子	(10.3)	1.1	0.3	17.5	刃～茎部、木質残存	49
10	P-009	04年度	6G	検出面	土製品	土錘	4.15	1.3	1.2	5.3	ナデ、孔径 3 ～ 4㎜	49

図版番号	登録番号	調査年度	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
7	Kd-018	04年度	14G	検出面	石製品	砥石	(5.7)	(4.5)	1.7	37.0	粘板岩	砥面 3 面、溝状痕 (c 面)、破片	49
8	Kd-003	04年度	西北	検出面	石製品	勾玉	3.0	1.3	0.9	6.5	瑪瑙	孔径 2 ～ 4㎜、完形品	49
9	Kd-002	04年度	東北	検出面	石製品	勾玉	(2.0)	1.3	0.8	4.0	瑪瑙	孔径 2 ～ 4㎜、端部欠損	49

第 161 図　第 167 次（1 年次）調査遺構外出土遺物（3）

第 161 図－ 1 ～ 6 はいずれも鉄製品である。1 は紡錘車とみられ、車輪部分と軸棒の一部が残存する。2 は鋏具で、完形品である。鋏具頭は長方形を呈し、中央に刺鉄（さすが）を渡している。3 は鉄釘とみられる。断面は方形を呈するが、釘頭は円形である。4 は鉄鏃で、長頸鏃の頸部から茎部の一部にかけて残存する。関部は棘関である。5 も鉄釘で、角釘と思われる。6 は刀子である。切先を欠損するが、それ以外は良好に残存している。鞘および柄部に装着された木質が残存する。

7 は粘板岩製の砥石である。欠損部分が多いが、元々は撥状の形状であったと思われる。a と b の面を砥面とし、c の面には溝状痕が観察される。8・9 は石製勾玉で、両者ともにほぼ同じ大きさであると思われる。石材はともに瑪瑙である。10 は土錘で、長さ 4cm 程の小型品である。

ここに掲載した遺物のうち、第 159 図－ 1・2 の土師器坏、4 ～ 7 の埦、第 160 図－ 1 の甕、7 のミニチュア土器はいずれも残存が良好であり、調査区南東部の 5 グリッドから出土している。同グリッド内には祭祀跡と考えられる SX1 が位置しており、坏・埦の形態などから同遺構との関係が考えられる。第 160 図－ 12 の完形の須恵器埦は、調査区北部の 19 グリッドから出土しており、SI11A・11B、SI17 との関係が考えられる。

第５章　第 196 次調査

第１節　基本層序

基本層序の観察は、Ⅰ～Ⅴ区それぞれの調査区四壁で実施した。Ⅱ区の北側からⅠ区にかけては低地にかかり、砂や粘土などの水成堆積物が互層状に堆積している。また南北方向の自然流路がⅠ区の東側で検出され、このため同部分では層位の乱れが生じている。

Ⅱ区の南側から最西のⅣ区にかけては微高地となり、黄色系統のシルトが主体を占めるようになる。遺構検出面としたⅣ層以下については下層調査時に観察を行い、弥生時代の水田跡や包含層の層位を確認した。Ⅲ区とⅣ区とでは概ね同様の層相を示し、最下層では粗砂の堆積を認めた。

今回掲載する基本層序図は、各調査区の主要な部分を抜粋したものである。Ⅴ区については、堆積状況がⅢ区と変化がないため、割愛した。

以下、各層の特徴について詳述する。Ⅲ層以下についてはⅠ区とⅡ～Ⅴ区を分離して記述した。

Ⅰ層：現代の整地層で、現表土を形成する。Ⅱ～Ⅳ区では 2、ないし 3 層に細別される。全体の層厚は 45 ～ 170cm 前後を測り、低地部分で厚くなる。層の大半はコンクリート片や砕石、粘土ブロックなどが占めるが、Ⅱ区のⅠｂ・Ⅰｃ層はこのような含有物が認められず、近代の耕作土とみられる。Ⅱ区の南半部では最上層のⅠａ層も、現在の畑の耕作土となっていた。

Ⅱ層：近世の耕作土とみられる層で、上面が近世の遺構掘り込み面である。層厚は 15 ～ 40cm 前後を測り、灰黄褐色シルトで形成される。Ⅱ区では堆積が認められない。Ⅰ区では層中に煉瓦片が含まれることから、近代において撹拌を受けたと思われる。

Ⅰ区

Ⅲ～Ⅷ層：粘土質シルトと粘土の互層である。いずれも層厚 5 ～ 10cm 前後の薄い水平堆積で、東側に向かって緩やかに傾斜している。Ⅲ～Ⅵ層は河川跡の直上にまで延び、同部分で厚みを増す。Ⅲ～Ⅴ層は黄色～褐色系統の、Ⅵ～Ⅷ層は灰色系統の色調を呈する。

Ⅸ層：にぶい黄褐色シルト層で、層中には灰白色の含有物が認められ、火山灰の可能性もある。

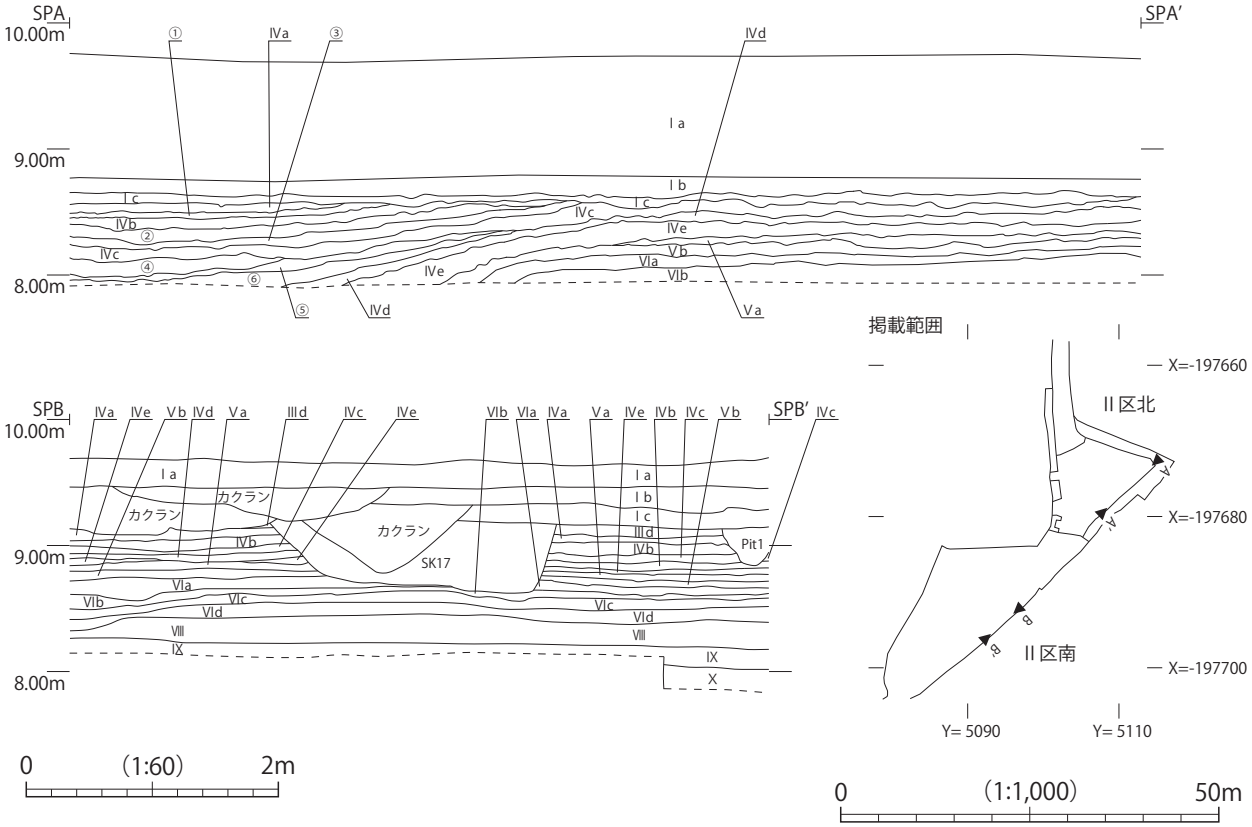
Ⅹ～ⅩⅦ層：粘土を主体とする層で、中間には粘土質シルトのⅩⅢ層、砂質シルトのⅩⅣ層を挟む。Ⅹ層はａ・ｂの２つの層に細別される。いずれも水平堆積で、Ⅹｂ層の方が層厚が厚く、色調が暗い。ⅩⅣ層とⅩⅦ層には、植生痕と思われる層の乱れが認められる。前記の通りⅩⅡ層は弥生時代中期前葉～中葉の遺物包含層、ⅩⅤ～ⅩⅦ層は縄文時代晩期中葉～後葉の遺物包含層である。

ⅩⅧ層：4 層に細別される、オリーブ灰色の層である。下位から細砂→砂質シルト→シルト→粘土の順に堆積し、次第に粒子が細かくなる。

Ⅱ～Ⅴ区

Ⅲ層：古代の遺物包含層で、一部の古代の遺構はこの上面から掘り込まれている。Ⅱ区の北側では認められず、削平されたと考えられる。4 層に細別され、層厚は 20 ～ 35cm 前後を測る。にぶい黄橙色～黄灰褐色シルトを主体とし、全体的にくすんだ色調を呈する。Ⅲｂ層は暗褐色シルトで、Ⅳ区の西側のみに堆積する。

Ⅳ層：5 層に細別され、にぶい黄橙色・にぶい黄褐色・灰黄褐色など黄色系統の層である。上面が今回の遺構検出面であり、粘土質シルトを主体に形成される。Ⅱ区北側の低地移行部分ではⅣａ～Ⅳｄ層の間に①～⑥の水成堆積層が挟まれるのに対し、微高地部分では介在層は認められない。



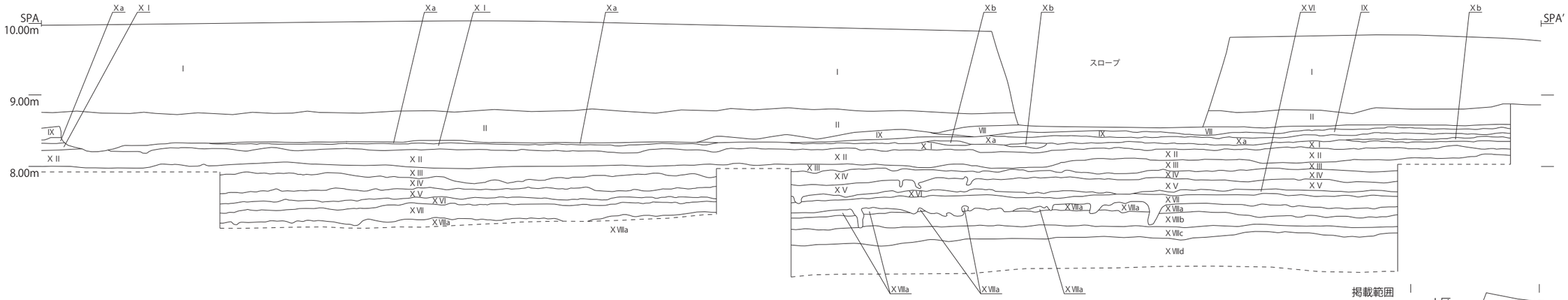
II区北側基本層序　土層註記表　A-A′

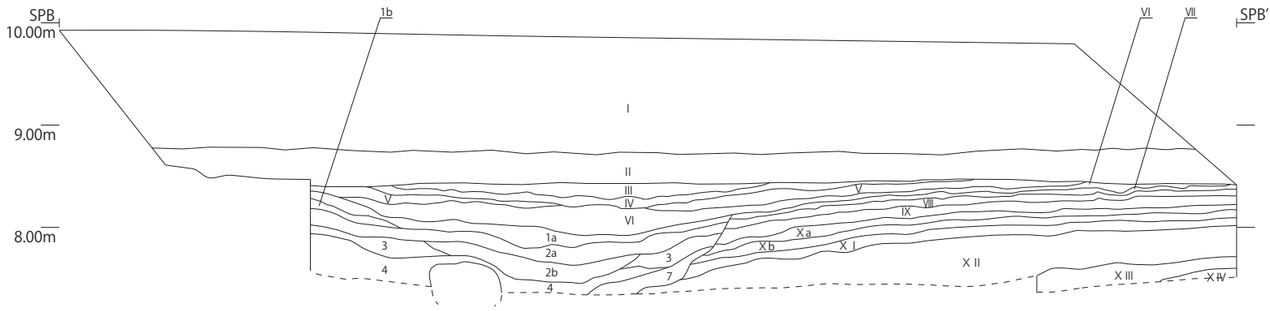
層位	土色	土性	備考
Ⅰa	10YR4/2 灰黄褐色	粗砂	上位は凝灰岩の風化砂、下位は褐色シルトと礫の混合。(現代の整地層)
Ⅰb	2.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	(近代の耕作土)
Ⅰc	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	(近代の耕作土)
Ⅳa	7.5YR6/6 橙色	シルト	褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、酸化鉄含む。(Ⅲ・Ⅳ区のⅣa 層に相当)
①	7.5YR4/4 褐色	砂質シルト	上位に褐色土ラミナ状に、酸化鉄・マンガン含む。
Ⅳb	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン含む。(Ⅲ・Ⅳ区のⅣb 層に相当)
②	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	褐色シルトブロックラミナ状に・酸化鉄・マンガン含む。
③	10YR2/1 黒色	シルト	黄褐色粘土質シルトブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄含む。
Ⅳc	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	黒色粘土質シルト粒多量、酸化鉄・マンガン含む。(Ⅲ・Ⅳ区のⅣc 層に相当)
④	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、酸化鉄含む。
⑤	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロック (10㎜程度) 多量、酸化鉄含む。
⑥	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐色シルト粒少量、酸化鉄含む。
Ⅳd	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルト粒少量、酸化鉄・マンガン含む。(Ⅲ・Ⅳ区のⅣd 層に相当)
Ⅳe	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト粒少量、酸化鉄・マンガン含む。(Ⅲ・Ⅳ区のⅣe 層に相当)
Ⅴa	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土質シルト粒多量、酸化鉄・マンガン含む。(Ⅲ・Ⅳ区のⅤa 層に相当)
Ⅴb	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	褐色粘土質シルトブロック多量、酸化鉄・マンガン含む。(弥生時代遺物包含層Ⅲ・Ⅳ区のⅤb 層に相当)
Ⅵa	2.5Y7/1 灰白色	粘土	黒色粘土質シルトブロック (10㎜程度) 微量、酸化鉄含む。
Ⅵb	2.5Y5/1 黄灰色	粘土	灰白色粘土質シルトブロック (5㎜程度) 微量、酸化鉄含む。

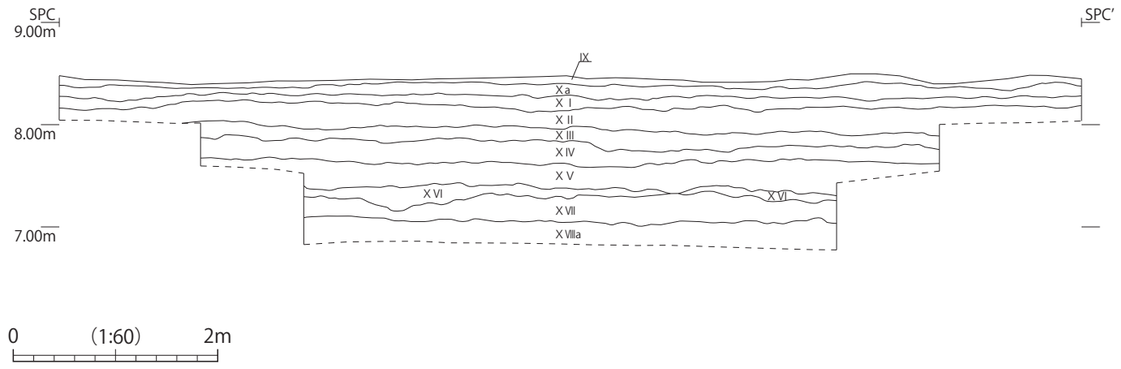
II区南側基本層序　土層註記表　B-B′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	10YR3/1 黒褐色	シルト	(現代の耕作土)
Ⅰb	10YR3/4 暗褐色	シルト	(近代の耕作土)
Ⅰc	10YR4/1 褐灰色	シルト	(近代の耕作土)
Ⅲd	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	黒色粘土質シルト粒多量、酸化鉄・マンガン含む。
Ⅳa	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	黒色粘土質シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、酸化鉄含む。
Ⅳb	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロック (10㎜程度) 多量、酸化鉄含む。
Ⅳc	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐色シルト粒少量、酸化鉄含む。
Ⅳd	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルト粒少量、酸化鉄・マンガン含む。
Ⅳe	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト粒少量、酸化鉄・マンガン含む。
Ⅴa	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土質シルト粒多量、酸化鉄・マンガン含む。
Ⅴb	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	褐色粘土質シルト粒多量、酸化鉄・マンガン含む。
Ⅵa	2.5Y7/1 灰白色	粘土	黒色粘土質シルトブロック (10㎜程度) 微量、酸化鉄含む。
Ⅵb	2.5Y5/1 黄灰色	粘土	灰白色粘土質シルトブロック (5㎜程度) 微量、酸化鉄含む。
Ⅵc	2.5Y6/2 灰黄色	粘土	酸化鉄多量、灰白色粘土質シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
Ⅵd	2.5Y5/1 黄灰色	粘土	黒褐色粘土ブロック (10㎜程度) 多量、酸化鉄・マンガン少量含む。
Ⅷ	7.5Y7/2 灰白色	粘土	Ⅸ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、砂少量含む。
Ⅸ	10YR3/1 黒褐色	粘土	酸化鉄・マンガン少量含む。
Ⅹ	2.5Y5/1 黄灰色	粘土	白色軽石少量、酸化鉄含む。

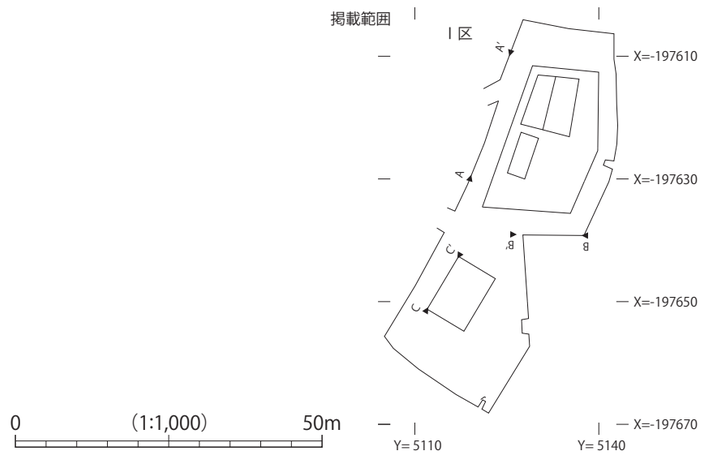
第 162 図　基本層序　第 196 次調査区－II区







0 (1:60) 2m

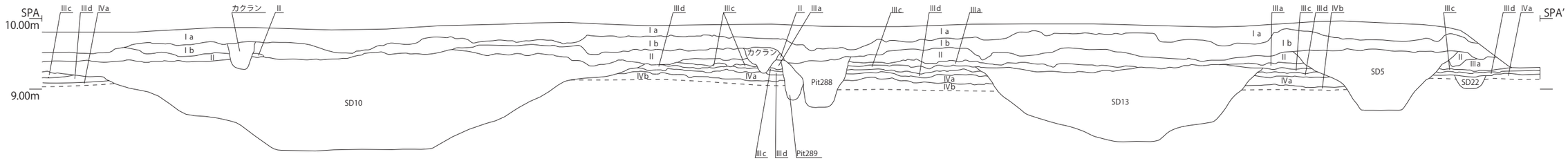


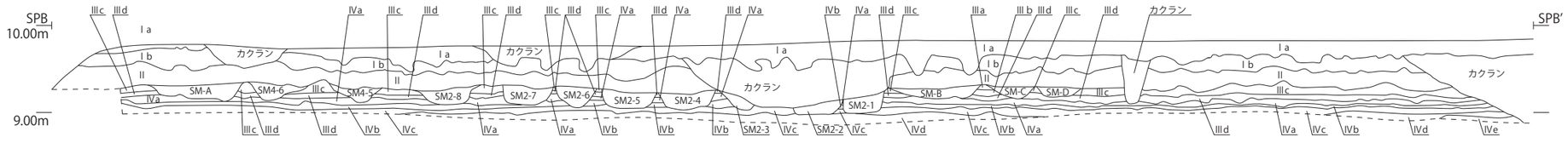
0 (1:1,000) 50m

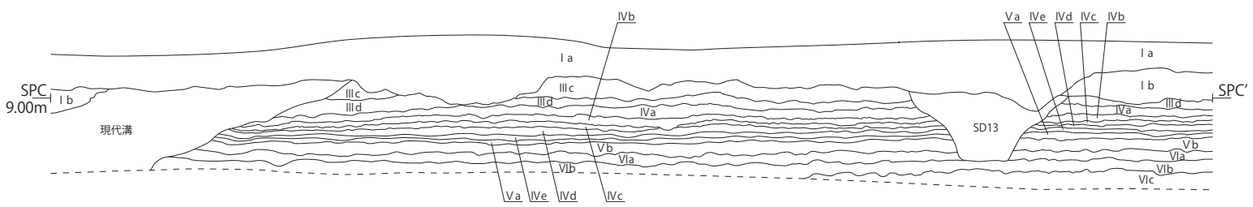
I 区基本層序　土層註記表　A-A′～C-C′

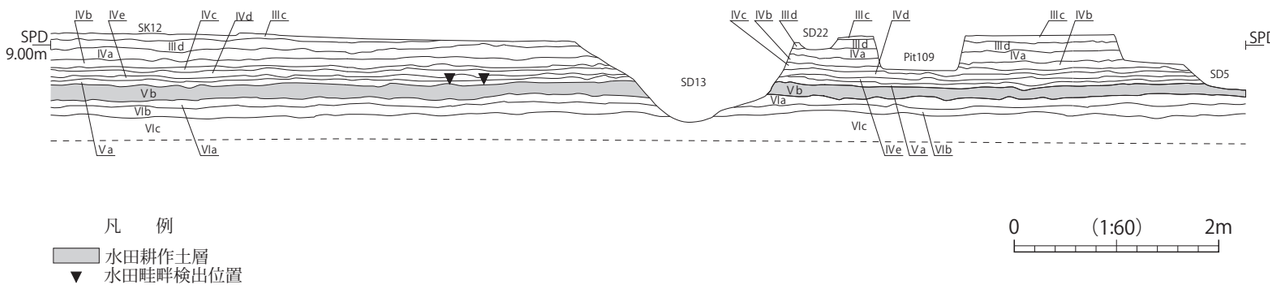
層位	土色	土性	備考
Ⅰ	2.5Y5/3　黄褐色	細砂	コンクリート片・礫多量含む。(現代の整地層)
Ⅱ	10YR4/2　灰黄褐色	粘土質シルト	レンガ片・炭化物少量含む。(近代の耕作土)
Ⅲ	10YR5/3　にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト帯状に含む。
Ⅳ	10YR4/1　褐灰色	粘土	炭化物少量含む。
Ⅴ	10YR6/4　にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
Ⅵ	10YR5/2　灰黄褐色	粘土	酸化鉄少量、灰白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
Ⅶ	10YR6/2　灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・酸化鉄少量含む。
Ⅷ	10YR5/2　灰黄褐色	粘土	酸化鉄・マンガン少量含む。
Ⅸ	10YR5/3　にぶい黄褐色	シルト	灰白色・褐色シルト粒・灰白色火山灰？少量含む。
Xa	10YR6/2　灰黄褐色	粘土	灰白色シルト粒微量含む。
Xb	10YR7/2　にぶい黄橙色	粘土	灰白色シルト粒少量、酸化鉄微量含む。
X Ⅰ	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	灰白色シルト粒微量含む。
X Ⅱ	10YR5/2　灰黄褐色	粘土	灰白色シルト粒・炭化物微量含む。(弥生時代遺物包含層)
X Ⅲ	10YR5/1　褐灰色	粘土質シルト	灰白色シルト粒含む。
X Ⅳ	2.5Y5/1　黄灰色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
X Ⅴ	10YR3/1　黒褐色	粘土	灰白色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度)、炭化物微量含む。(縄文時代遺物包含層)
X Ⅵ	10YR5/1　褐灰色	粘土	灰白色粘土粒密、炭化物含む。(縄文時代遺物包含層)
X Ⅶ	10YR4/1　褐灰色	粘土	灰白色粘土粒・炭化物少量含む。(縄文時代遺物包含層)
X Ⅷa	2.5GY5/1 オリーブ灰色	粘土	褐灰色粘土粒含む。
X Ⅷb	2.5GY5/1 オリーブ灰色	シルト	褐灰色粘土粒微量含む。
X Ⅷc	2.5GY5/1 オリーブ灰色	砂質シルト	炭化物、褐灰色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
X Ⅷd	2.5GY5/1 オリーブ灰色	細砂	褐灰色粘土粒微量含む。
1a	10YR6/2　灰黄褐色	粘土	酸化鉄少量、炭化物微量含む。(河川跡)
1b	2.5Y7/3　浅黄色	粘土質シルト	酸化鉄斑状に、炭化物少量、白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・マンガン微量含む。(河川跡)
2a	2.5Y7/2　灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄斑状に、マンガン少量、上位に黒褐色シルトラミナ状に含む。(河川跡)
2b	10YR3/1　黒褐色	粘土質シルト	灰黄色シルトラミナ状に、炭化物少量、木砕片微量含む。(河川跡)
3	10YR6/2　灰黄褐色	シルト	灰黄色シルトラミナ状に、炭化物・木砕片微量含む。(河川跡)
4	10YR6/1　褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄斑状に、マンガン少量、中位に黒褐色粘土ラミナ状に含む。(河川跡)
7	10YR6/1　褐灰色	シルト	酸化鉄斑状に、炭化物少量含み、下位に同色の細砂集中。(河川跡)

第 163 図　基本層序　第 196 次調査区－Ⅰ区

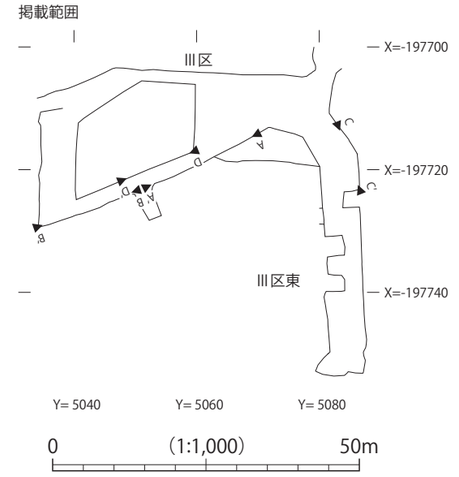








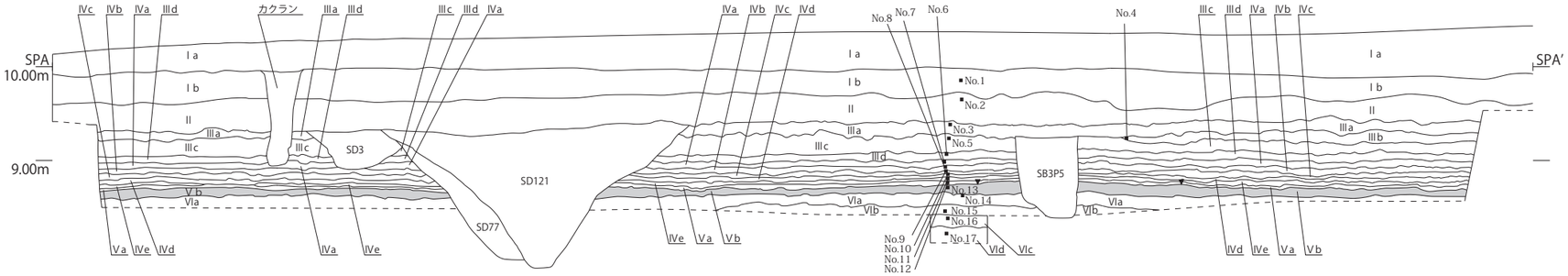
凡　例
水田耕作土層
▼ 水田畦畔検出位置

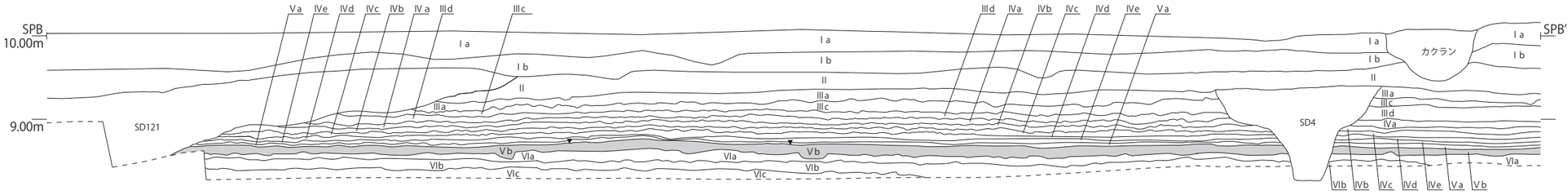


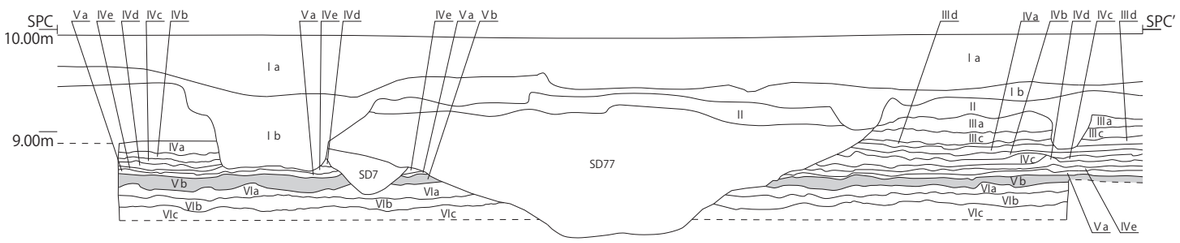
Ⅲ区基本層序　土層註記表　A-A′～D-D′

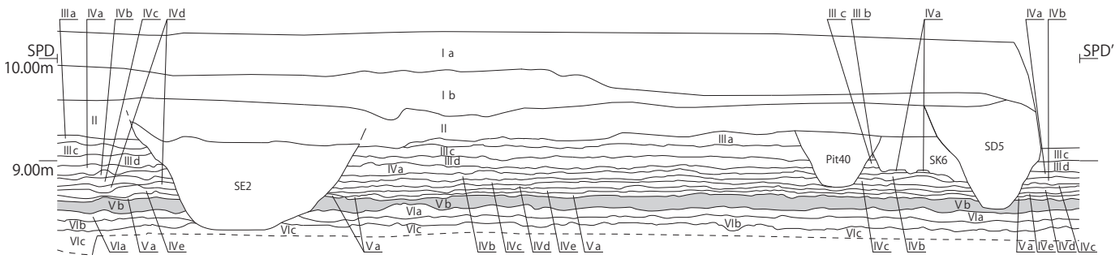
層位	土色	土性	備考
Ⅰa	10YR3/1　黒褐色	シルト	コンクリート・レンガ含む。(現代の整地層)
Ⅰb	5GY5/1　オリーブ灰色	シルト	レンガ片・陶磁器類含む。(近代の耕作土)
Ⅱ	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック (30～50㎜程度) 多量含む。
Ⅲa	10YR6/4　にぶい黄橙色	シルト	暗褐色シルトブロック (30～50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
Ⅲc	10YR5/3　にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
Ⅲd	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
Ⅳa	10YR6/3　にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅲd 層土ブロック (20～30㎜程度) 少量含む。
Ⅳb	10YR4/2　灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳa 層土粒多量、酸化鉄微量含む。
Ⅳc	10YR6/4　にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳb 層土ブロック (20～30㎜程度) 多量、酸化鉄・マンガン微量含む。
Ⅳd	10YR5/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳc 層土ブロック (30㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン微量含む。
Ⅳe	10YR6/3　にぶい黄橙色	シルト	Ⅳd 層土ブロック (10～20㎜程度) 少量、粘土粒・酸化鉄・マンガン微量含む。
Ⅴa	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	Ⅴb 層土粒・灰白色粘土ブロック (10㎜程度)、酸化鉄斑状に含む。
Ⅴb	10YR4/1　褐灰色	粘土	Ⅵa 層土ブロック (10～20㎜程度)・酸化鉄斑状に多量含む。(弥生遺物包含層・水田耕作土)
Ⅵa	10YR6/2　灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン斑状に、上位にⅤb 層土ブロック少量含む。
Ⅵb	10YR5/2　灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン含み、部分的に色調が褐色に変色。
Ⅵc	5Y5/4　オリーブ色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック (30～50㎜程度) 少量、黒褐色粘土質シルトブロック (10㎜程度) 微量、酸化鉄・マンガン含む。

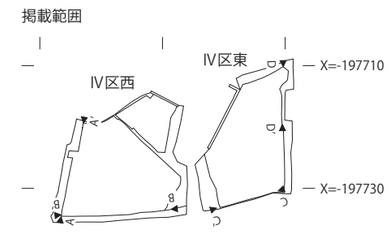
第 164 図　基本層序　第 196 次調査区－Ⅲ区











0 (1:1,000) 50m

凡　例

水田耕作土層
▼ 水田畦畔検出位置
■ 土壌サンプル採取点

0 (1:60) 2m

Ⅳ区基本層序　土層註記表　A-A′～D-D′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	10YR3/1　黒褐色	シルト	コンクリート・レンガ含む。(現代の整地層)
Ⅰb	5GY5/1　オリーブ灰色	シルト	レンガ片・陶磁器類含む。(近代の耕作土)
Ⅱ	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック (30～50㎜程度) 多量含む。
Ⅲa	10YR6/4　にぶい黄橙色	シルト	暗褐色シルトブロック (30～50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
Ⅲb	10YR3/3　暗褐色	シルト	黒色・黄褐色シルト粒・炭化物微量含む。
Ⅲc	10YR5/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅲa 層土粒多量、炭化物微量含む。
Ⅲd	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	Ⅲa 層土粒・炭化物微量含む。
Ⅳa	10YR6/3　にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅲd 層土ブロック (20～30㎜程度) 少量含む。
Ⅳb	10YR4/2　灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳa 層土粒多量、酸化鉄微量含む。
Ⅳc	10YR6/4　にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳb 層土ブロック (20～30㎜程度) 多量、酸化鉄・マンガン含む。
Ⅳd	10YR5/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳc 層土ブロック (30㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン微量含む。
Ⅳe	10YR6/3　にぶい黄橙色	シルト	Ⅳd 層土ブロック (10～20㎜程度) 少量、粘土粒・酸化鉄・マンガン微量含む。
Ⅴa	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	Ⅴb 層土粒・灰白色粘土ブロック (10㎜程度)・酸化鉄斑状に含む。
Ⅴb	10YR4/1　褐灰色	粘土	Ⅵa 層土ブロック (10～20㎜程度)・酸化鉄斑状に多量含む。(弥生遺物包含層・水田耕作土)
Ⅵa	10YR6/2　灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン斑状に、上位にⅤb 層土ブロック少量含む。
Ⅵb	10YR5/2　灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン含み、部分的に褐色に変色。
Ⅵc	10YR6/2　灰黄褐色	砂質シルト	黒色シルト粒少量、酸化鉄含む。
Ⅵd	5Y5/2　灰オリーブ色	粗砂	酸化鉄沈着。

第 165 図　基本層序　第 196 次調査区－Ⅳ区

Ⅴ層：本層以下は、下層調査で確認した。Ⅴ層は２層に細別される粘土層で、下層のⅤｂ層の方がやや暗い色調を呈する。全体の層厚は 10 ～ 15cm 前後を測る。弥生時代中期前葉～中葉の遺物包含層に相当し、Ⅲ・Ⅳ区のⅤｂ層上面では水田跡の畦畔が検出されている。このことから、Ⅴｂ層は水田耕作土と考えられる。

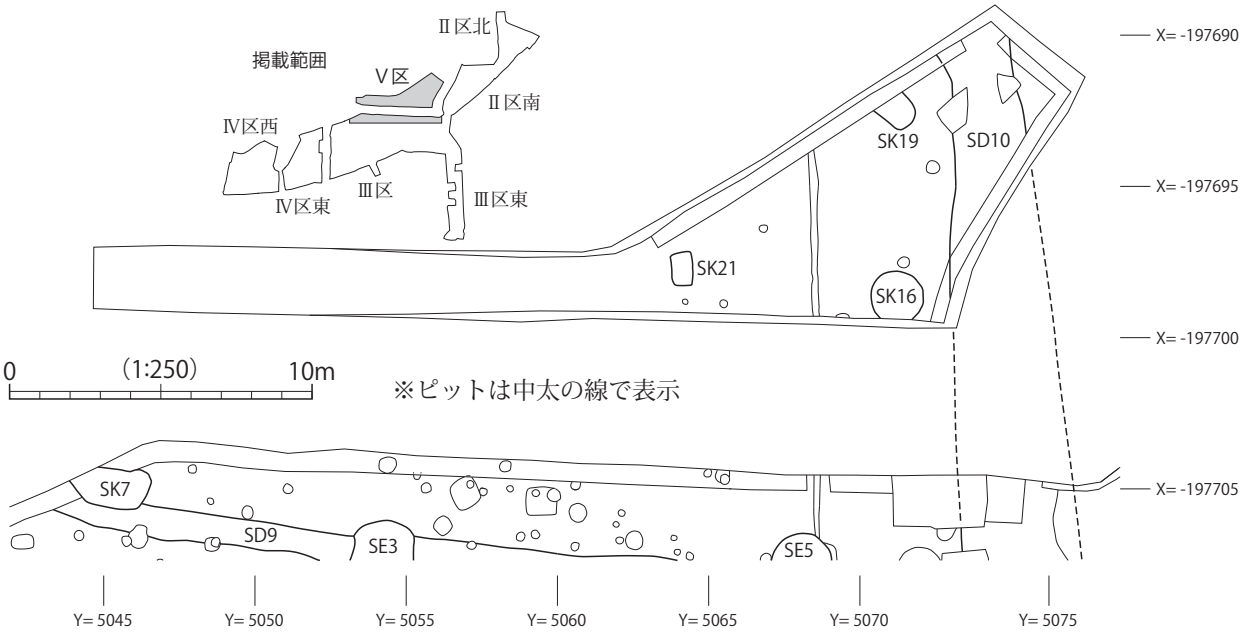
Ⅵ層：層厚 25 ～ 40cm 前後を測り、５層に細別される。Ⅲ・Ⅳ区ではⅥａ～Ⅵ層が砂質シルトであり、Ⅵ層の下層を確認したⅣ区では、Ⅵｄ層が粗砂、Ⅵｅ層が細砂である。Ⅱ区ではⅥ層はすべて粘土の堆積である。

Ⅶ層～ⅩⅤ層：Ⅱ区でⅩ層まで、Ⅳ区でⅩⅤ層まで確認した。Ⅶ層は２層、Ⅸ層は３層、ⅩⅣ層は３層に細別される。全体的に粘土層がほとんどを占めるが、最上層のⅦａ層と中間のⅩⅡ層は砂質が強い。Ⅸ層は黒色粘土を主体とする層で、ここから縄文時代晩期の土器片や石鏃がわずかに出土した。なお、Ⅶ層以下については第４節「弥生時代以前の遺構と遺物」に詳細な図を掲載している（第 260 図）。

第２節　中世～近世の遺構と遺物

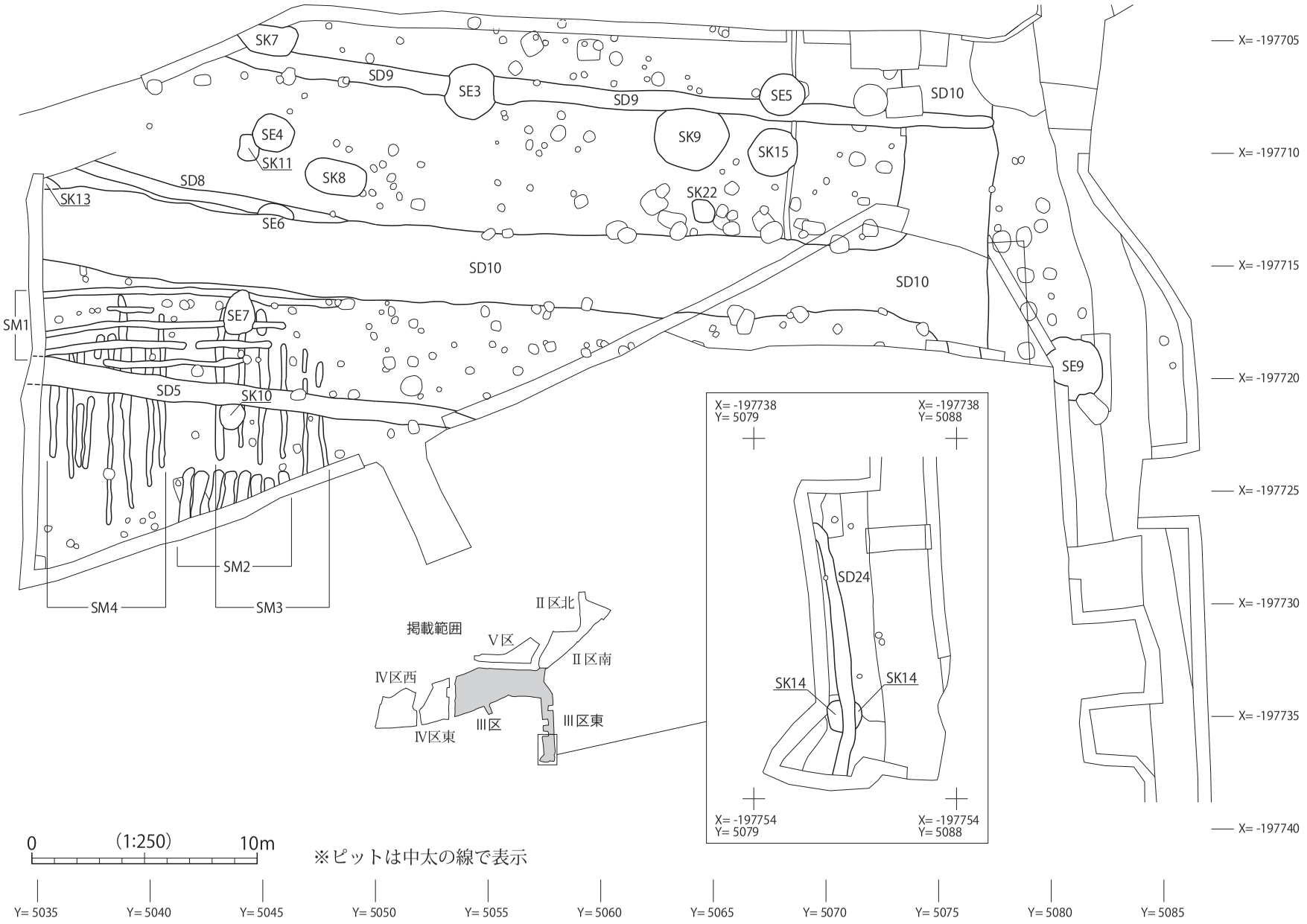
基本層Ⅳ層上面で検出された遺構のうち、堆積土や出土遺物などから当該期に位置付けられる遺構について、本節で取り上げる。当該期の遺構は、一部のピットを除けばほとんどが平成 21 年度調査で検出された。掘立柱建物跡１棟、小溝状遺構 27 条、溝跡 11 条、井戸跡９基、土坑 19 基、ピット 308 基を数える。これらは中央のⅢ区に集中する傾向があり、大型の溝跡である SD10 の周辺が最も分布密度が濃くなっている。この SD10 は屋敷の堀割りとみられる遺構で、東西方向から南・北両方向へと分岐し、北側はⅤ区を貫いて調査区外へと延びている。1952（昭和 27）年の空中写真によれば、該当部分に一辺 30 ～ 40 m程の方形を呈する地割りが写っており、同様の区画が４、５箇所連接して屋敷群を構成する可能性が考えられた。今回検出された遺構の多くが、こういった屋敷に関連すると考えられる。また SD10 やこれが区画する屋敷縄張り内の SE3 ～ 5 などからは、多量の鉄滓や鞴羽口、取鍋など鍛冶関連の遺物が出土しており、鍛冶施設の存在が想定される。

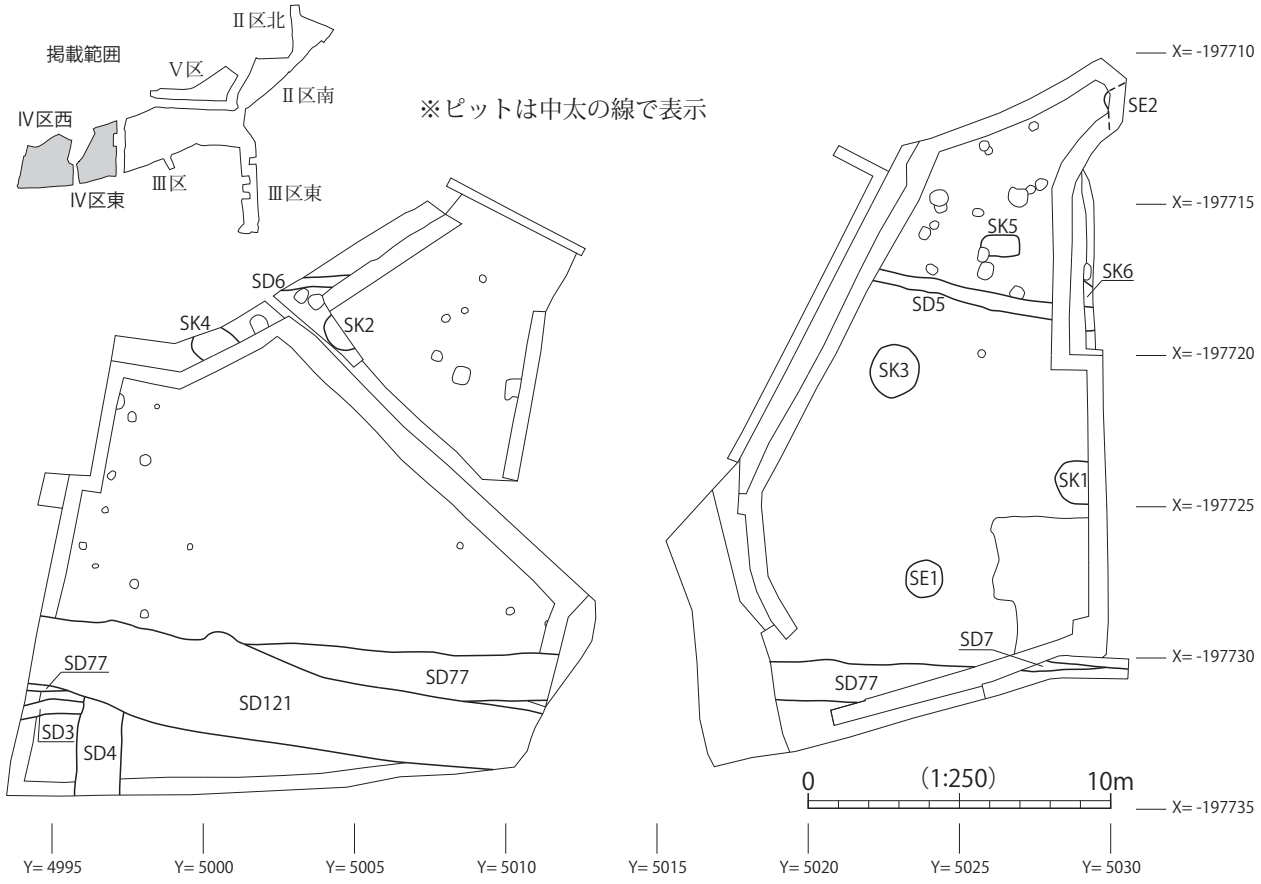
なお、ピットについては古代の所産も含まれると考えられるが、時期的な分離が明確にできなかったため、本節に一括記載した。また遺構配置図はⅠ・Ⅱ区がピットのみの検出であったためこれを省き、Ⅲ～Ⅴ区を掲載する。Ⅰ・Ⅱ区のピット配置については、第 196・197 図を参照されたい。



第 166 図　Ⅳ層上面遺構配置図（中世～近世）－Ⅴ区

第167図　Ⅳ層上面遺構配置図（中世～近世）－Ⅲ区





第 168 図　Ⅳ層上面遺構配置図（中世～近世）－Ⅳ区

（1）掘立柱建物跡

SB5 掘立柱建物跡（第 169 図）

Ⅲ区東部から検出され、81・91 グリッドに位置する。調査区の南側で実施した確認調査部分も含めて 8 基の柱穴を検出し、このうち 5 基を調査した。主な当該期遺構との重複関係は、SD10・27 よりも新しい。確認調査部分では本掘立柱建物跡よりも新しいピットが、3 基確認されている。

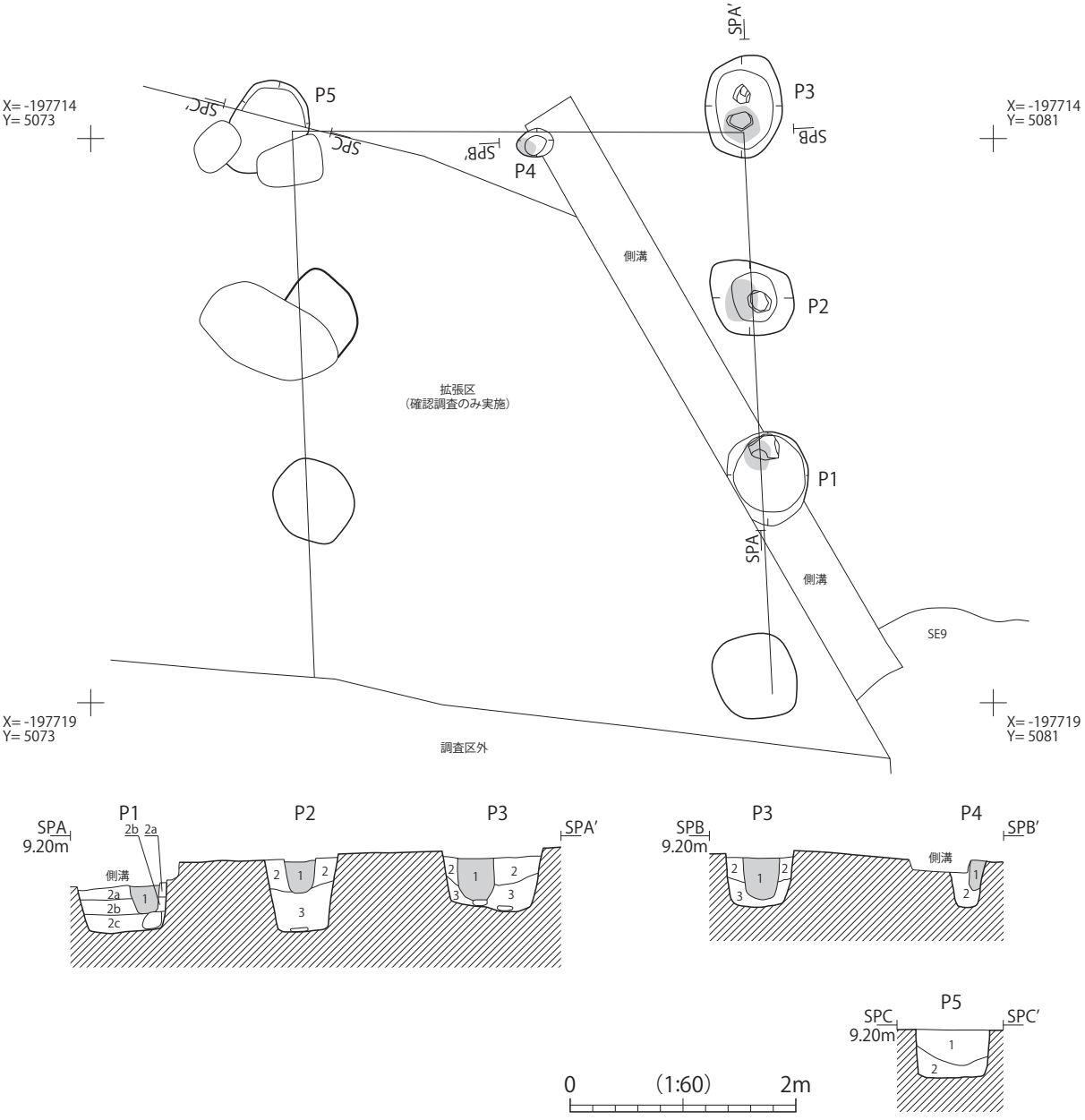
桁行（南北）3 間以上、梁行（東西）2 間の側柱建物である。規模は桁行総長 495cm、梁行総長 404cm を測り、建物形状は長方形の南北棟である。棟方向は東側柱列で N － 1° － W である。

桁部における柱間寸法は、東側柱列が南から 200cm － 138cm － 157cm、西側柱列が 171cm － 173cm を測る。梁部の柱間寸法は、東から 191cm － 213cm である。全体的に柱間はやや不揃いである。

柱穴の平面形状は、隅部の P3・5 と梁支柱の P4 が楕円形、ほかの桁柱は隅丸方形である。規模は P4 が極端に小さく長軸 33cm、短軸 25cm、深さ 42cm であるが、ほかは長軸 73 ～ 90cm、短軸 65 ～ 70cm、深さ 44 ～ 66cm と、しっかりとした掘り込みをもつ。柱痕跡は P1 ～ 4 で観察され、径は P4 が 18cm と小さいが、ほかの柱穴では径 24 ～ 34cm を測る。いずれも柱穴を途中まで埋土した後に柱を据えており、P1・3 では根石上に柱が設置されていた。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したのみで、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、SD10 との新旧関係から近世以降と考えられる。



SB5 掘立柱建物跡 (中世～近世) 観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	楕円形	80 × (70)	44	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
				2a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含む。	
				2b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
				2c	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含む。	
P2	楕円形	73 × 65	66	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	SD27 より新しい。
				3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
P3	楕円形	90 × 69	55	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	SD27 より新しい。
				2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
				3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
P4	楕円形	33 × 25	42	1	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	SD10 より新しい。
				2	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄多量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	
P5	楕円形	90 × (54)	46	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	SD10 より新しい。
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度)・酸化鉄少量含む。	

第 169 図　SB5 掘立柱建物跡

(2) 小溝状遺構群

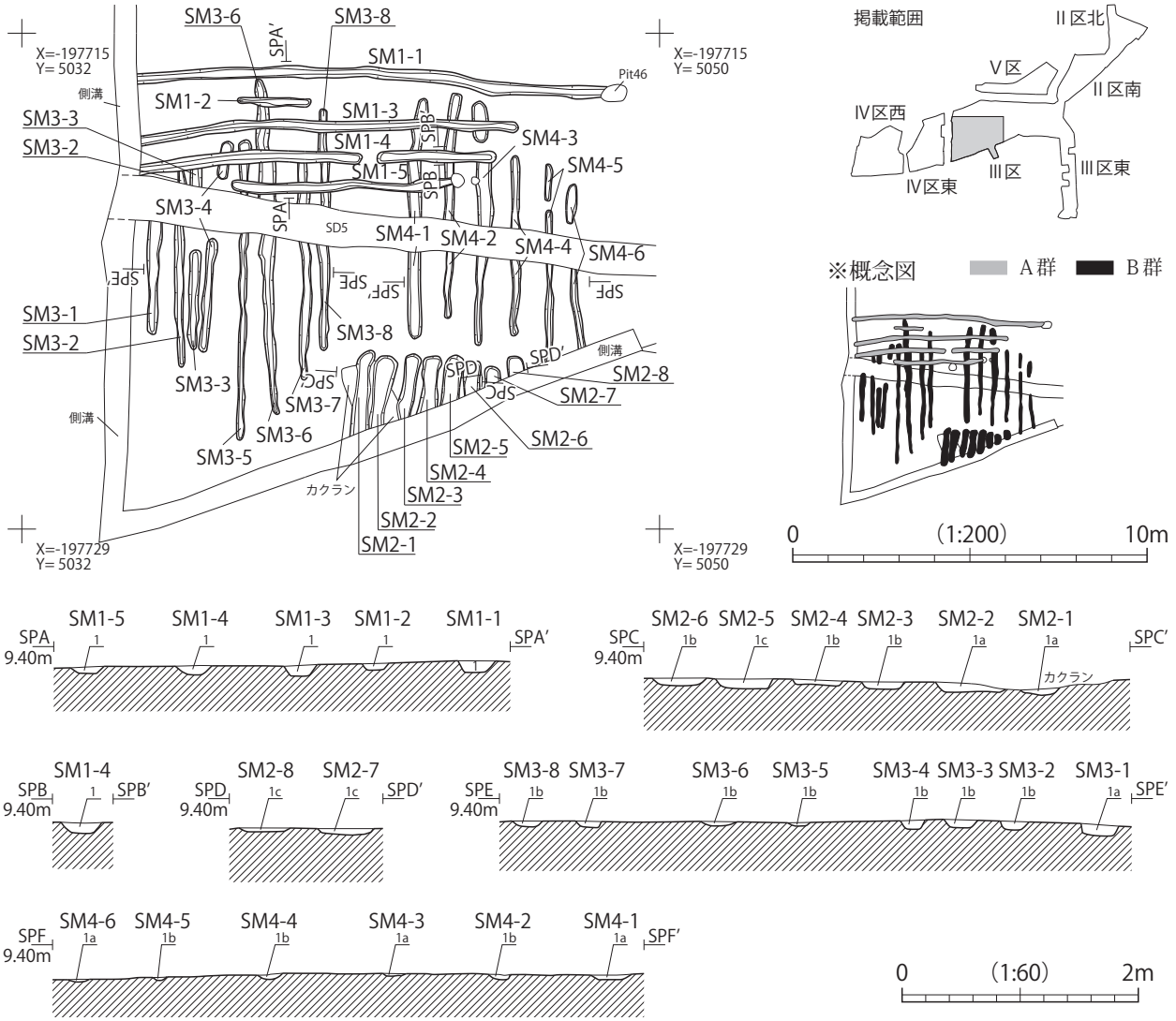
Ⅲ区から 2 群 27 条を検出した。調査区の南西側において A・B 群が重複して検出され、A 群が東西方向、B 群が南北方向に延びる。新旧関係は、A 群の方が新しい。これらは屋敷の堀割りとみられる SD10 の南側に接しており、屋敷外縁に営まれた耕作地関連の遺構と考えられる。遺物は古代の土師器・須恵器が主体だが、B 群の SM2 からは近世の陶器や瓦の細片がわずかに出土している。このことから、本小溝遺構群は近世以降に位置付けられる。

小溝状遺構 A 群（第 170 図）

87・88 グリッドにかけて位置する。概ね東西方向に延びる SM1 の 5 条で構成され、SM1 － 1・3・4 の西側は調査区外へと延びる。主な当該期遺構との重複関係は、小溝状遺構 B 群、SE7 より新しい。古代の遺構では SI3、SD11 と重複する。主軸方向は N － 88 ～ 92° － W である。

規模は検出長 205 ～ 1,062cm、上端幅 24 ～ 40cm、検出面からの深さ 6 ～ 10cm を測る。断面形状はいずれも逆台形を呈する。底面は若干起伏し、細かい凹凸が認められる。

堆積土はいずれも灰黄褐色シルトで、少量のⅣ層土ブロックが混入する。遺物は SM1 － 1・3 ～ 5 から少量の土師器・須恵器の破片が出土したが、図化可能なものはなかった。



第 170 図　小溝状遺構 A・B 群

小溝状遺構 A 群　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM1-1	87･88	N-88°-W	(1320) × 24	6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SI3、SD11、Pit46･89･100 より新しい。
SM1-2	87･88	N-88°-W	205 × 21	8	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SM3-6 より新しい。
SM1-3	87･88	N-92°-W	(1062) × 40	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SI3、SD11、SE7、SM3-6 ～ 8、SM4-1･3 より新しい。
SM1-4	87･88	N-92°-W	(993) × 38	6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SI3、SD11、SM3-4 ～ 8、SM4-1 ～ 3 より新しい。
SM1-5	87･88	N-90°-W	(620) × 39	10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SD11、SM3-5 ～ 8、SM4-1･2、Pit44･76 より新しい。

小溝状遺構 B 群　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM2-1	98･105	N-5°-E	(104) × 40	9	1a	2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)･酸化鉄少量含む。	
SM2-2	98･105	N-9°-E	(88) × 63	3	1a	2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)･酸化鉄少量含む。	
SM2-3	98･105	N-8°-E	(90) × 45	8	1b	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
SM2-4	98･105	N-6°-E	(85) × 50	6	1b	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
SM2-5	98･105	N-9°-E	(90) × 50	8	1c	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
SM2-6	98･105	N-4°-E	(70) × 48	8	1b	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
SM2-7	98･105	N-6°-W	(50) × 43	7	1c	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
SM2-8	97	N-12°-W	(50) × 48	6	1c	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
SM3-1	97	N-3°-E	(319) × 40	9	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土ブロック (5㎜程度)･炭化物微量含む。	SD5 より古く、SI2･3 より新しい。
SM3-2	87･97	N-1°-W	(553) × 28	10	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-4 より古く、SI2･3 より新しい。
SM3-3	87･97	N-2°-E	(510) × 32	12	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-4 より古く、SI3 より新しい。
SM3-4	87･97	N-7°-E	(598) × 33	9	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SM1-4 より古く、SI2 より新しい。
SM3-5	87･97･104	N-1°-E	847 × 36	8	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-4･5 より古く、SD11、Pit71･238 より新しい。
SM3-6	87･97･104	N-3°-W	1050 × 48	12	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-2 ～ 5 より古く、SD11 より新しい。
SM3-7	87･88･97･98	N-1°-W	610 × 48	6	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-4･5 より古く、SD11、Pit77 より新しい。
SM3-8	88･98	N-0°-E	682 × 31	8	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-3 ～ 5 より古く、SD11 より新しい。
SM4-1	88･97	N-0°-E	678 × 38	9	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-3 ～ 5 より古く、SK10、SD11 より新しい。
SM4-2	88･97	N-3°-E	634 × 32	7	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、マンガン微量含む。	SD5､SM1-3 ～ 5､Pit44 より古く、SK10、SE7、Pit75 より新しい。
SM4-3	88･97	N-1°-E	690 × 45	9	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5、SM1-4･5、Pit45 より古い。
SM4-4	88･97	N-1°-E	505 × 27	5	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、マンガン微量含む。	SD5 より古い。
SM4-5	88･97	N-1°-E	(552) × 22	8	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、マンガン微量含む。	SD5 より古く、Pit41 より新しい。
SM4-6	88･97	N-9°-W	(457) × 30	6	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SD5 より古い。

小溝状遺構 B 群（第 170 図）

小溝状遺構 A 群に重複して検出され、87・88・97・98・104・105 グリッドにかけて位置する。概ね南北方向に延びる SM2 ～ 4 の 27 条で構成され、SM4 の一部と SM2 の南側は調査区外へと延びる。主な当該期遺構との重複関係は小溝状遺構 A 群、SD5 より古く、SE7、SK10 より新しい。古代の SI2・3、SD11 とも重複する。主軸方向は N － 12°－ W ～ N － 9°－ E で、南側の SM2 が東に傾く傾向がある。

単位ごとにみると、溝幅が狭く間隔がやや疎らである SM3・4 と、溝幅が広く密接する SM2 の 2 つの形態が存在する。SM2 の規模は検出長 50 ～ 90cm、上端幅 43 ～ 50cm、検出面からの深さ 3 ～ 8cm を測る。断面形状は逆台形もしくは皿状を呈する。底面は若干起伏し、細かい凹凸が認められる。SM3･4 の規模は検出長 50 ～ 1,050cm、上端幅 22 ～ 48cm、検出面からの深さ 5 ～ 12cm を測る。断面形状は逆台形もしくは U 字形を呈する。底面は若干起伏し、細かい凹凸が認められる。

堆積土は SM2 が黄灰色～灰黄褐色の粘土質シルト・砂質シルトで、Ⅳ層土ブロックの混入が多い傾向が認められる。SM3・4 は灰黄褐色～にぶい黄褐色シルトで、Ⅳ層土ブロックの混入は少ない。

遺物は SM2 － 2・5、SM3 － 1 ～ 4・6 ～ 8、SM4 － 1・2・4 ～ 6 から出土している。土師器・須恵器の破片が主体だが、SM2 － 2・5 からはわずかに陶器や瓦の細片が出土した。いずれも図化可能なものはなかった。

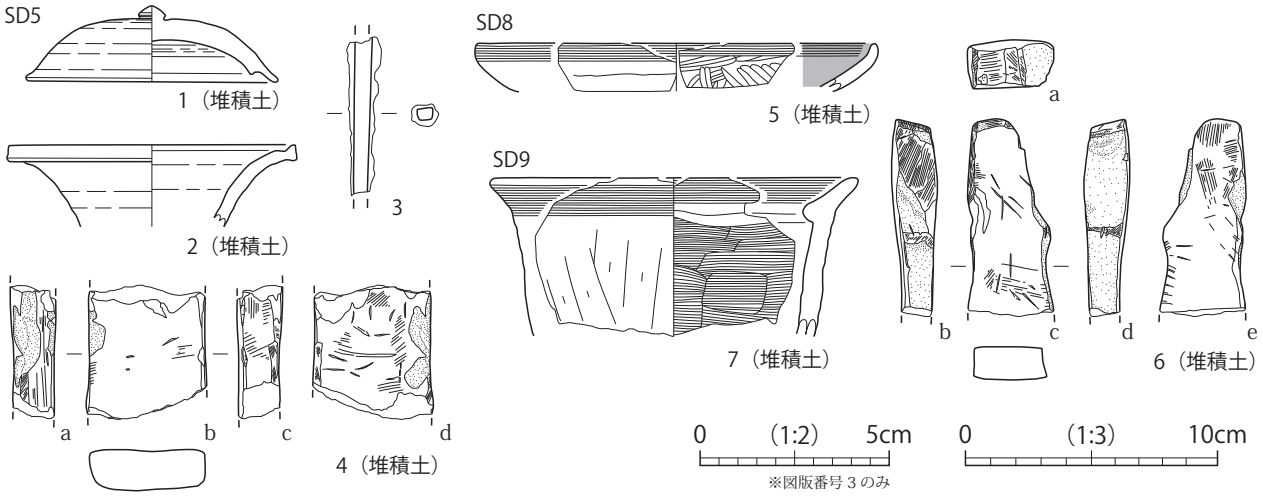
(3) 溝跡（第 171 ～ 182 図）

Ⅲ区からⅣ区にかけて 11 条を検出した。全体が検出された溝跡はないが、概ね直線的に延びる東西方向の SD3・5 ～ 9・77・121、南北方向の SD4・24、東西方向から南北方向に分岐する SD10 が存在する。規模や形状は様々で、このうち SD4・10・77・121 は上端幅が 150cm 前後、あるいはそれを上回る規模の大型の溝跡である。この 4 条については屋敷の堀割りなどの区画施設として捉えており、個別に記載を行う。なお、SD77・121 は西側に隣接する長町駅東遺跡の SD77・121 の延長部分であるため、同一の遺構番号を用いている。

SD3・5 ～ 9・24 は上端幅が最大でも 123cm、平均 66cm の規模である。特に SD6 の上端幅は、最大 36cm と小規模である。検出面からの深さは最深部で 3 ～ 64cm と様々であり、断面形状は逆台形を基本形としている。SD5・8・9 は概ね 6 ～ 7 m間隔で平行し、それぞれを意識したような位置関係を示している。SD9 の底面からは柱痕跡が観察されたピットが 4 基検出され、東から 400cm － 400cm － 460cm の間隔で並ぶ。柱列の存在が想定される。

これらの溝跡の堆積土は、SD3・5・7・8・24 が自然堆積、SD6・9 が基本層Ⅳ層由来のブロックや粒子の混入状況から、人為的な埋土と考えられる。遺物は SD5・6・8・9・24 から出土し、SD5 の須恵器蓋 1 点、壺 1 点、金属製品 1 点、石製品 1 点、SD8 の土師器坏 1 点、石製品 1 点、SD9 の土師器甕 1 点を掲載した（第 171 図）。全体的に土師器・須恵器の破片が主体であるが、SD8・9 からは少量の鉄滓や鞴羽口も出土した。

第 171 図－ 1 の須恵器蓋は内側に返りをもち、ツマミは擬宝珠状を呈する。2 の壺は、長頸壺と思われる。3 の金属製品は鉄鏃の頸部とも思われるが、判然としない。4 の石製品は砂岩製の砥石で、両側縁は打ち欠かれている。5 の土師器坏は扁平な盤状の器形が復元できる。6 の石製品は変質流紋岩製の砥石で、4 と同様に両側縁が欠かれているが、右側側縁にはノミ状の工具痕が観察される。7 の土師器甕は、口縁部の内面が受口状に突出する。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-009	Ⅳ区東	SD5	堆積土	須恵器	蓋	10.0	-	3.0	ロクロ調整、上半回転ヘラケズリ	ロクロ調整		25
2	E-007	Ⅲ区	SD5	堆積土	須恵器	長頸壺	(11.3)	-	(2.7)	ロクロ調整	ロクロ調整		25
5	C-043	Ⅲ区	SD8	堆積土	土師器	坏	(15.6)	-	(1.9)	口縁部ヨコナデ、体部輪積み痕あり	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、黒色処理		25
7	C-044	Ⅲ区	SD9	堆積土	土師器	甕	(14.6)	-	(6.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		25

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
3	N-001	Ⅲ区	SD5	堆積土	金属製品	鉄鏃	(4.2)	0.9	0.7	3.8	断面長方形、両端部欠損	25

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
4	Kd-016	Ⅳ区	SD5	堆積土	石製品	砥石	(5.35)	4.8	1.4	71.5	砂岩	砥面 4 面、溝状痕 (b・d 面)、上下欠損	25
6	Kd-017	Ⅲ区	SD8	堆積土	石製品	砥石	(7.8)	6.4	1.9	65.0	変質流紋岩	砥面 5 面、溝状痕 (c・e 面)、一部欠損	25

第 171 図　SD5・8・9 溝跡出土遺物

これらの溝跡の時期については、後述する遺構も含め重複関係で判断する。雑駁ではあるが、SD5・8・9 は小溝状遺構 B 群や後述する SD10 より新しく、近世以降に位置付けられる。SD3 は SD4、SD4 は SD121、SD7 は SD77 よりそれぞれ古く、後述する SD77・121 の年代観からいずれも中世と思われる。SD6・24 については判然としない。なお、SD6・7・24 の関連図および観察表については、第 173・174・179・180 図を参照されたい。

SD4 溝跡（第 179・180 図）

Ⅳ区の南西端部に検出され、106 グリッドに位置する。南側は調査区外に延び、北端部は SD121 の範囲内で止まる。当該期遺構との重複関係は、SD121 よりも古く、SD3 よりも新しい。

南北方向の溝跡で、概ね直線的に延びる。中軸を基準とする方位は N － 5° － E である。規模は検出長 4.0 m、上端幅 140 ～ 149cm、下端幅 26 ～ 32cm を測る。検出面からの深さは 73 ～ 76cm を測る。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。断面形状は薬研状を呈し、壁面には細かい凹凸が認められる。

堆積土は 5 層に分層された。暗褐色～黒褐色シルトを主体とし、いずれの層も自然堆積である。下層の 4・5 層には基本層Ⅳ層由来のブロックが集中し、壁からの崩落と思われる。

遺物は出土しなかった。

本溝跡の堆積土は、SD121 と重複する SD77 と類似している。SD4 近辺では SD77 の大半が失われているが、これらの位置関係は両者の関連性を十分に想定し得る状況であり、同時性が考えられる。なお、本溝跡の関連図および観察表については、第 179・180 図を参照されたい。

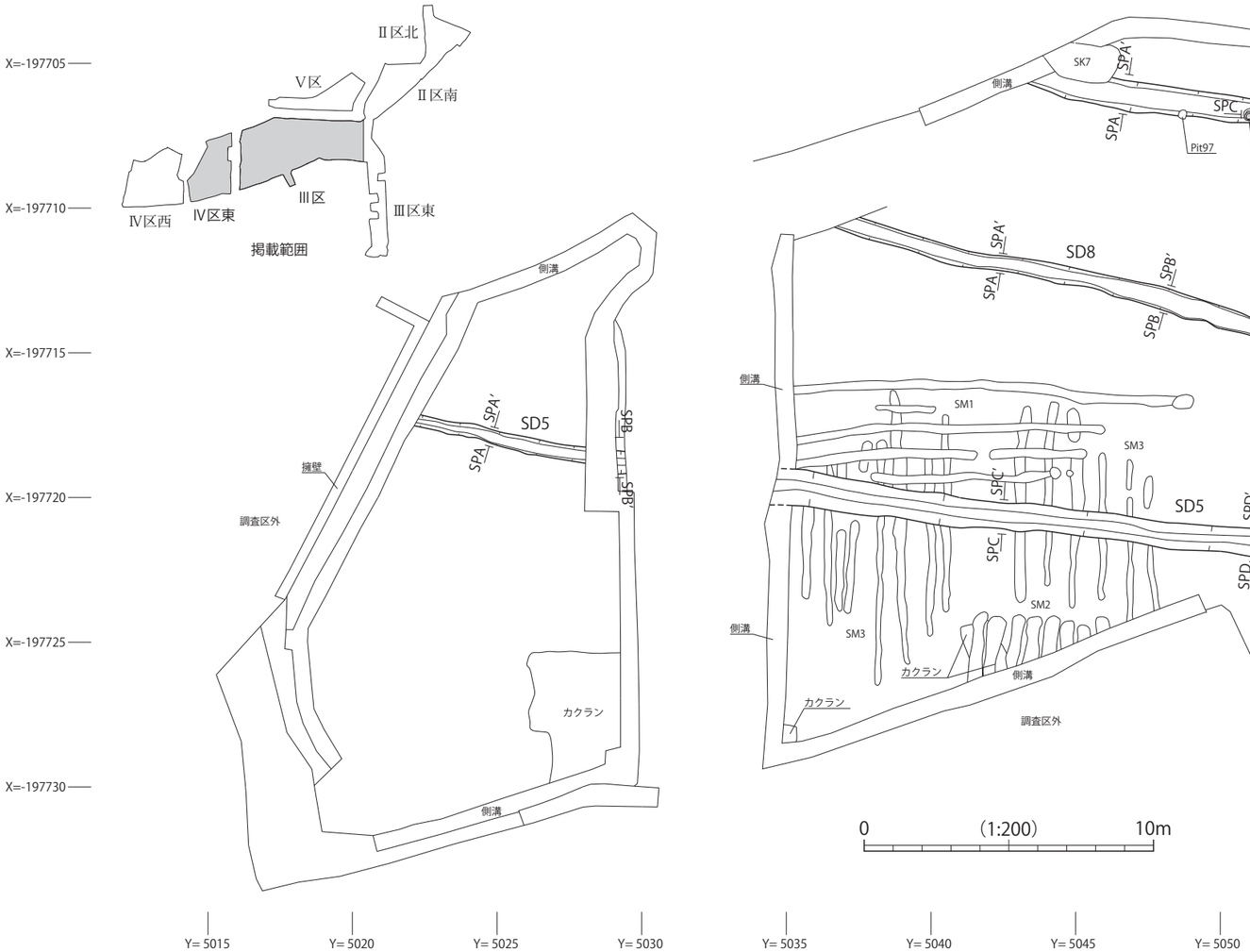
SD10 溝跡（第 173 ～ 178 図）

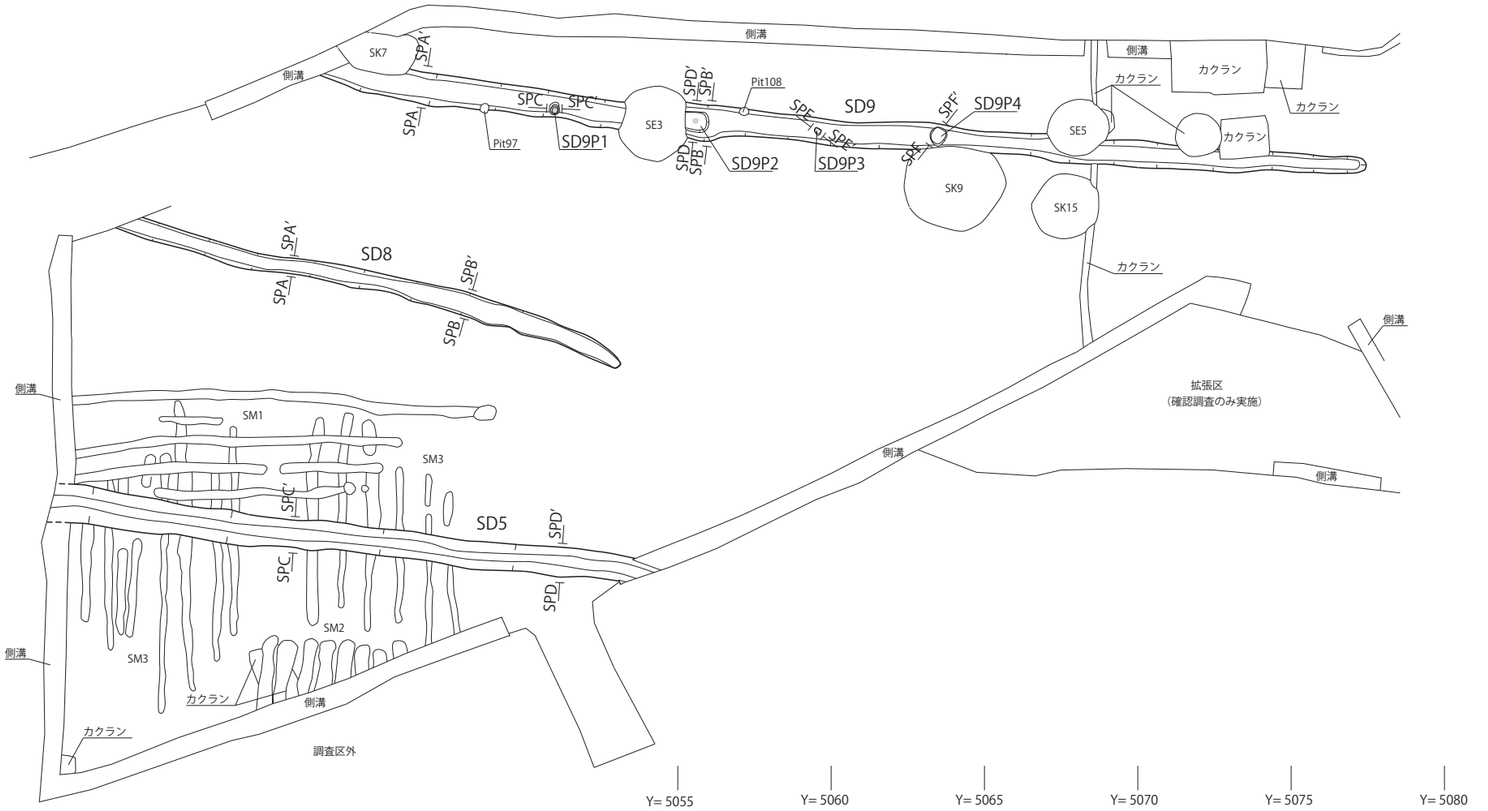
Ⅲ区からⅤ区にかけて検出され、72・77 ～ 81・87 ～ 91・55・60 グリッドに位置する。本溝跡についてはⅢ区の南側を拡張し、確認調査によって東西方向と南北方向の溝跡が同一であることが判明した。また、確認調査時の所見では南側にも分岐することが指摘されている。西側と南北の両側は調査区外に延び、当該期遺構との重複関係は、SB5、SD8・9 よりも古く、SE6、SK12・13 よりも新しい。古代の SI5・10、SD1・13・27 とも重複する。また前記の通り、屋敷の堀割りの可能性がある溝跡であり、周辺の井戸跡・土坑・ピットとの同時存在も考えられる。この点を考慮し、第 173 図にはこれらとの位置関係を示してある。

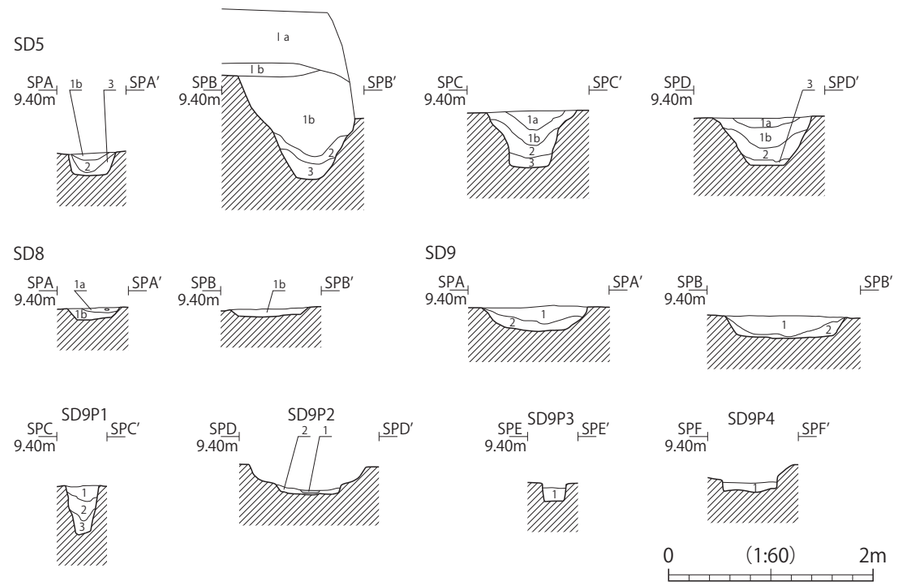
前記の通り、東西方向の延びから東側の 81・91 グリッド内で南と北の二方向へと分岐する。中軸を基準とする方位は東辺で N － 4° － E、南辺で N － 83° － W である。規模は、東辺で検出長 29.43 m、南辺で検出長 42.14 mを測り、上端幅 182 ～ 240cm、下端幅 40 ～ 61cm を測る。検出面からの深さは 78 ～ 94cm を測る。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。断面形状は逆台形を呈し、壁の中位から下位にかけて稜を有する。稜から上は緩やかに大きく開き、SD4・77・121 とは形状が異なる。壁面には細かい凹凸が認められる。72 グリッド内の東辺西壁には 3 本の木杭が打ち込まれ、礫の崩落が認められた。洗い場などの施設が存在していた可能性がある。

堆積土は A ～ E を通じて大別で 9 層、細別で 22 層に分層された。層の上半を占める 1 ～ 5 層は基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含むシルトが主体で、人為的な埋土と考えられる。下半の 6 ～ 9 層は自然堆積で、黒色系統の粘土質シルトや粘土が主体であり、壁下部の酸化鉄付着状況からも、一定期間滞水していたと考えられる。

遺物は土師器・須恵器のほか、陶磁器や瓦、石製品、鉄滓、鞴羽口、木製品などが多量に出土した。また、胡桃・桃などの種子、骨片や亀の甲羅なども出土している。全体的に土器類や鉄滓、鞴羽口は上層から、石製品、木製品、動物・植物遺体は下層から出土する傾向が認められる。土師器坏 5 点、高台付坏 1 点、甕 1 点、須恵器坏 2 点、椀 1 点、蓋 4 点、壺 2 点、甕 3 点、瓦 2 点、土師質土器焙烙 1 点、瓦質土器擂鉢 1 点、金属製品 1 点、石製品 9 点、土製



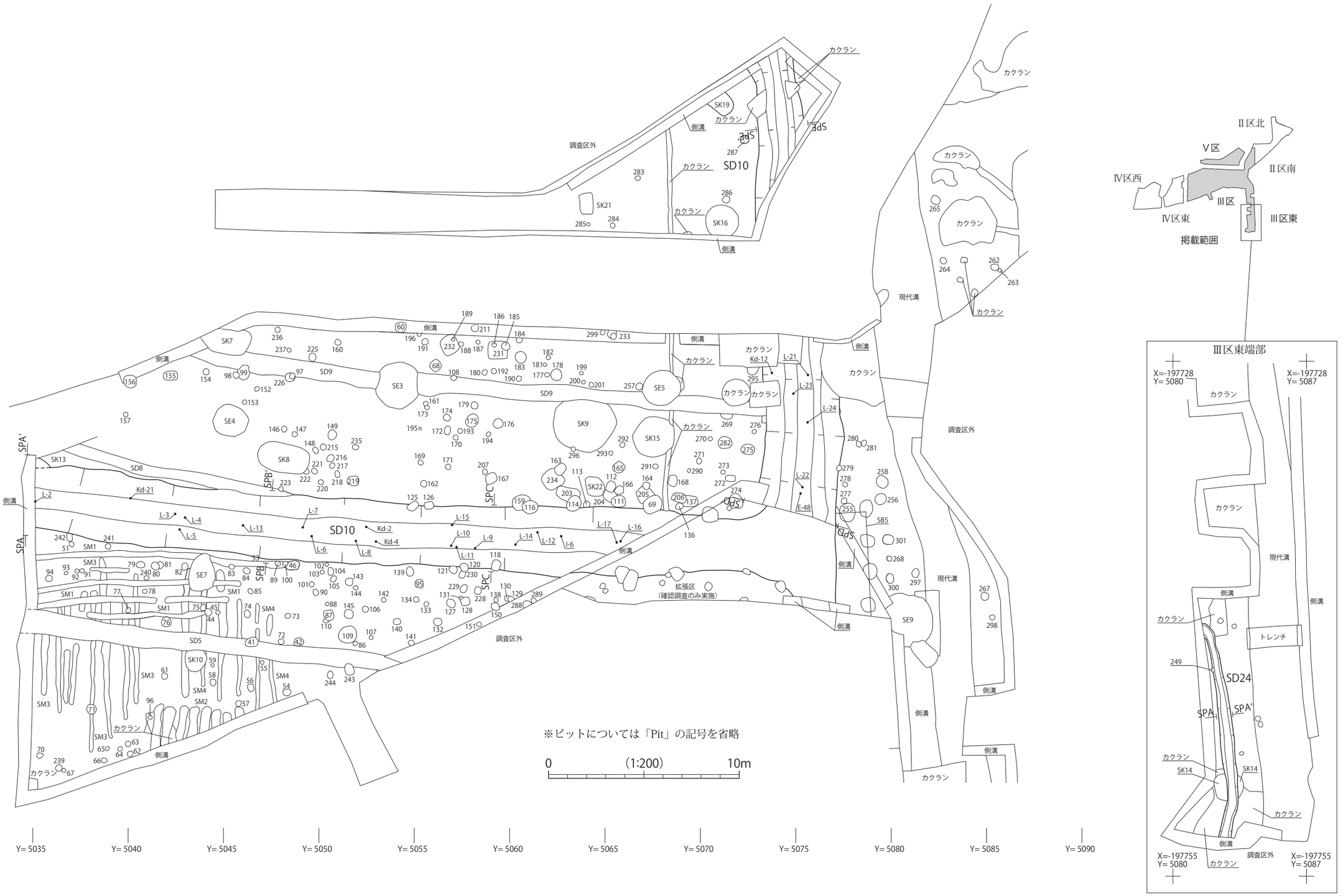




SD5・8・9（中世～近世） 観察表

遺構名	ｹﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模（cm）				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD5	86～88 97～99	N-82°-W	(1950)	85～123	21～40	14～64	1a	2.5Y3/3 暗 オリーブ褐色	砂質シルト	黒色シルト粒多量含む。
							1b	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色砂粒微量含む。
							2	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	青灰色粘土粒・黒色シルト粒微量含む。
							3	10Y2/1 黒色	シルト	青灰色粘土粒少量含む。
SD8	77～79 89	N-74°-W	(1670)	50～81	28～66	3～19	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。
							1b	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含み、グライ化。
SD9	69～72	N-85°-W	(3380)	52～118	32～94	17～35	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック（10～20㎜程度）多量含む。

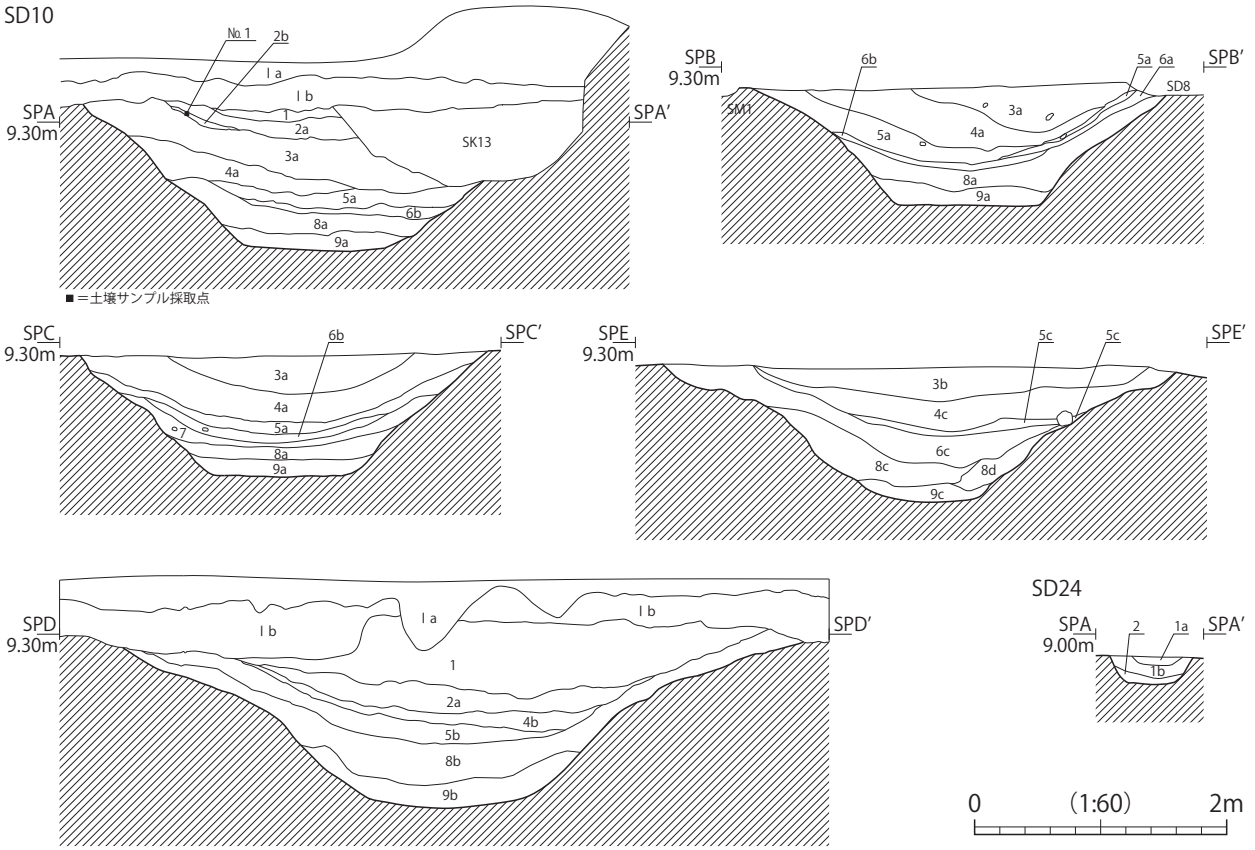
第 172 図　SD5・8・9 溝跡



第 173 図　SD10・24 溝跡

品２点、木製品７点を掲載した（第 175 ～ 178 図）。また、図化はしていないが土師質土器鍋の破片も２点出土した。

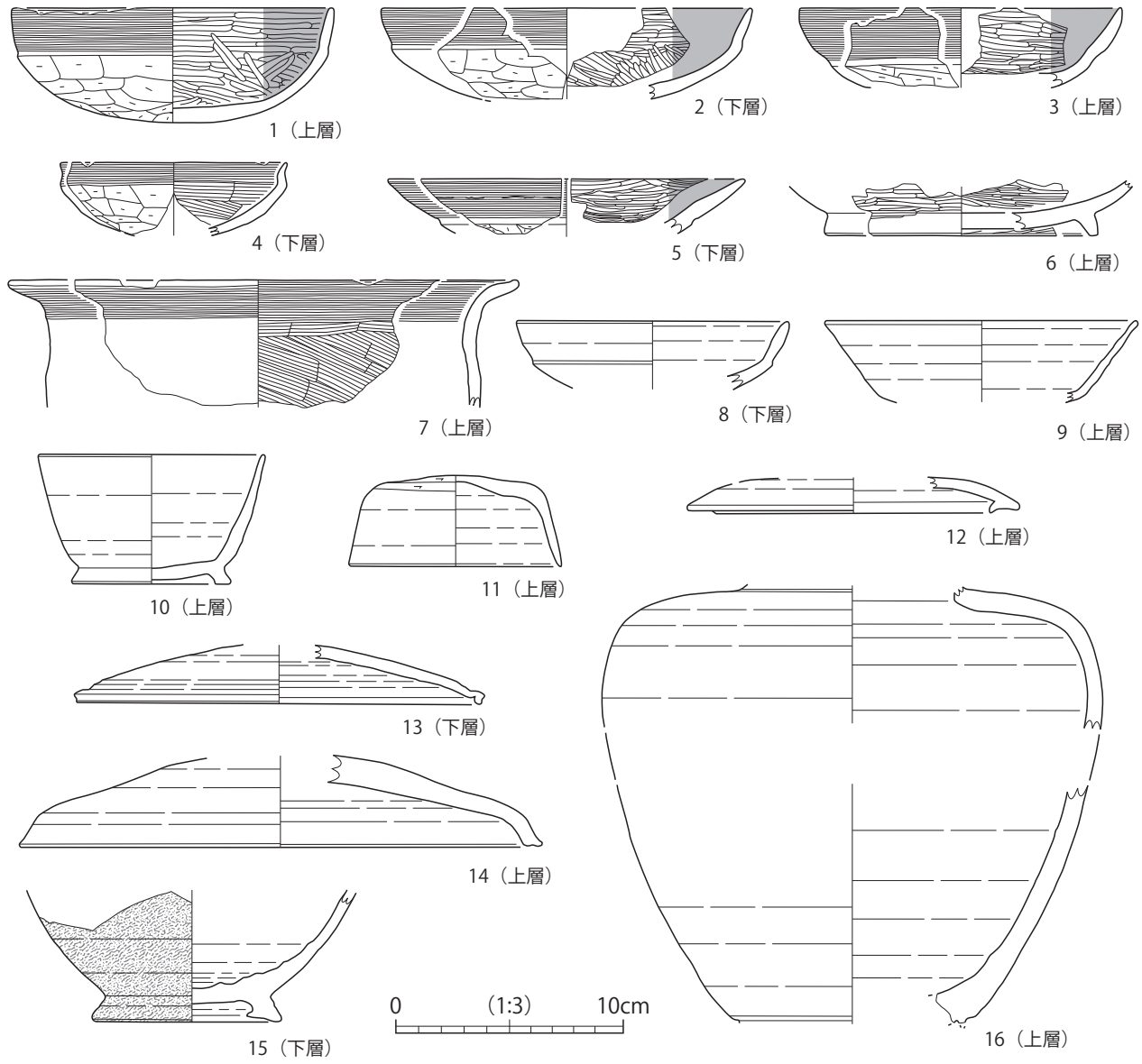
第 175 図の土師器坏のうち、5 は口縁部の開きが大きく、体部が極端に小さい。6 の高台付坏は底部の破片のみであるが、比較的シャープな作りである。8 の須恵器坏は口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。10 の埦は「ハ」字状に開く高台をもち、体部は直立気味に立ち上がる。11 の蓋は返りがなく見込みまでが深いことから、壺の蓋であると思われる。12 は内側に、13 は縁辺にそれぞれ返りをもつ蓋である。14 は大型の器形であり、盤の蓋の



SD10・24（中世～近世） 観察表

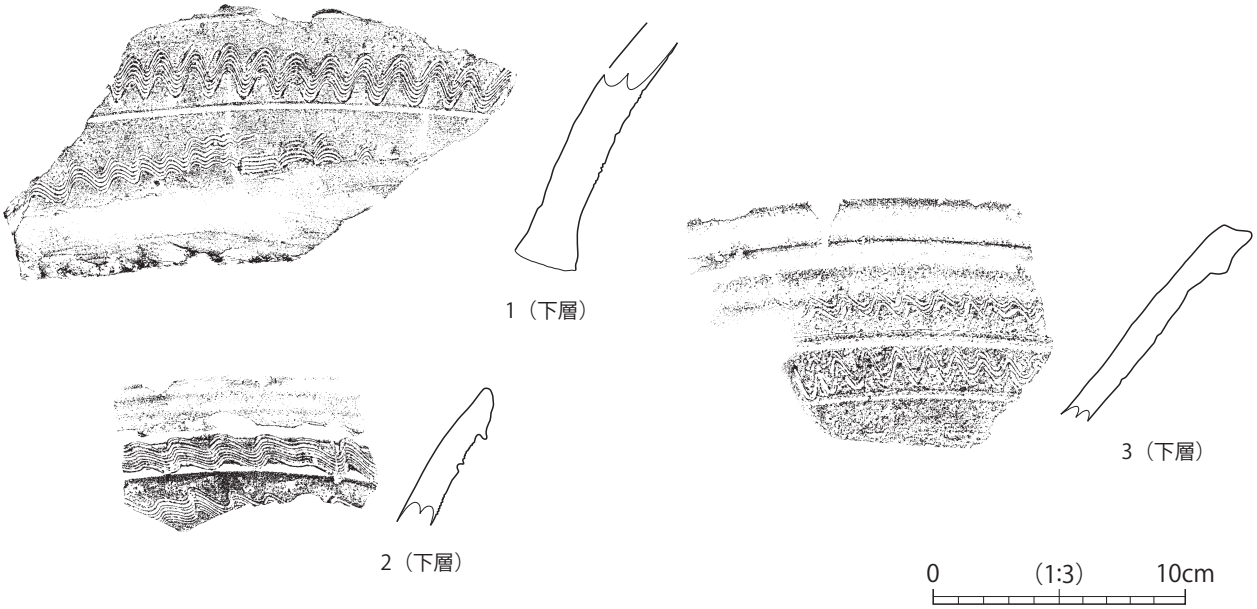
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模（cm）				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD10	72・77 ～ 81・87 ～ 91・55・60	東辺 N-4°-E 南辺 N-83°-W	東辺 (2943) 南辺 (4214)	182 ～ 240	40 ～ 61	78 ～ 94	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（20㎜程度）少量含む。
							2a	10YR4/1 褐灰色	シルト	酸化鉄含み、Ⅳ層土・黒色シルトブロック（10 ～ 20㎜程度）の混合。
							2b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰白色火山灰層。褐色シルトで汚れる。(To-a の一次堆積層ではないと推測される）
							3a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20㎜程度）多量、炭化物微量、酸化鉄含む。
							3b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量、炭化物微量含む。
							4a	10YR3/2 黒褐色	シルト	下位に酸化鉄含み、Ⅳ層土との混合。
							4b	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒微量、酸化鉄含む。
							4c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物微量含む。
							5a	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土・黒色シルトとの混合、下位に酸化鉄含む。
							5b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	酸化鉄含み、Ⅳ層土・黒色シルトブロック（20 ～ 30㎜程度）との混合。
							5c	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	焼土粒微量含み、褐色シルトとの互層。
							6a	2.5Y2/1 黒色	粘土	黒色シルトブロック（10㎜程度）多量、酸化鉄含む。
							6b	10YR2/1 黒色	粘土	灰白色粘土ラミナ状に、植物遺体含む。
							6c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20㎜程度）少量、焼土粒・炭化物微量含み、下部グライ化。
							7	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	黒色シルト粒多量、酸化鉄含む。
							8a	10YR3/1 オリーブ黒色	粘土	青灰色粘土粒多量含む。
							8b	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含み、グライ化。
							8c	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 30㎜程度）少量含み、グライ化。
							8d	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 30㎜程度）多量含み、グライ化。
							9a	N2/0 黒色	粘土	青灰色粘土ブロック（20 ～ 30㎜程度）との混合。
							9b	2.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含み、グライ化。
							9c	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。
SD24	114 ～ 116	N-8°-W	(1130)	45 ～ 74	24 ～ 44	18 ～ 30	1a	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄含む。
							1b	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10㎜程度）少量含む。
							2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・酸化鉄少量含む。

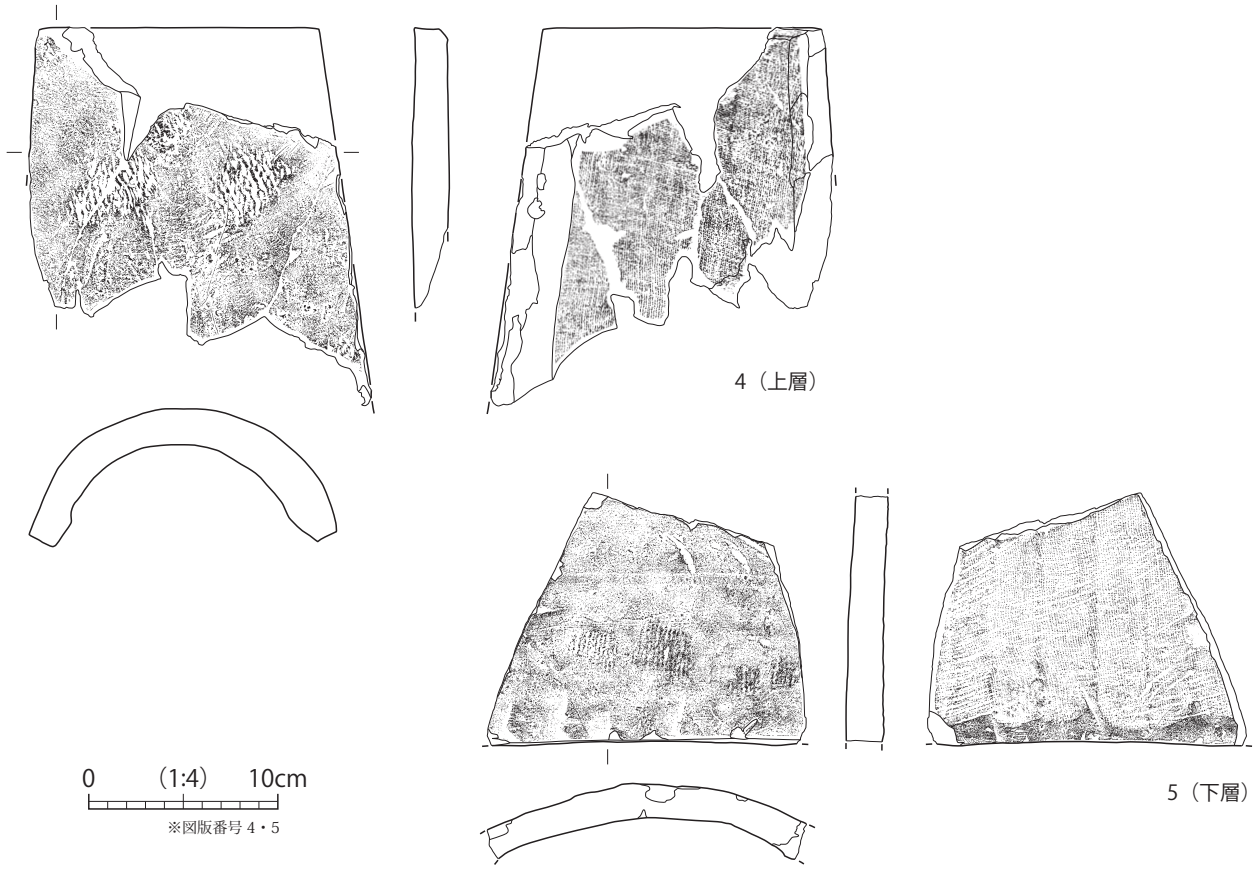
第 174 図　SD10・24 溝跡断面図



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-053	Ⅲ区	SD10	上層	土師器	坏	14.2	-	5.1	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	Pit165・SK8 出土破片と接合	25
2	C-057	Ⅲ区	SD10	下層	土師器	坏	(16.3)	-	(4.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		25
3	C-061	Ⅲ区	SD10	上層	土師器	坏	(14.1)	-	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		25
4	C-068	Ⅲ区	SD10	下層	土師器	坏	(10.0)	-	(3.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		25
5	C-069	Ⅲ区	SD10	下層	土師器	坏	(15.7)	-	(2.4)	口縁部ヨコナデ・輪積み痕、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		25
6	C-050	Ⅲ区	SD10	上層	土師器	台付坏	-	(12.0)	(2.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		25
7	C-063	Ⅲ区	SD10	上層	土師器	甕	(23.0)	-	(5.6)	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		25
8	E-026	Ⅲ区	SD10	下層	須恵器	坏	(11.9)	-	(3.0)	ロクロ調整	ロクロ調整		25
9	E-056	Ⅲ区	SD10	上層	須恵器	坏	(13.7)	-	(3.7)	ロクロ調整、底部ヘラ切り→回転ヘラ調整	ロクロ調整		25
10	E-042	Ⅲ区	SD10	上層	須恵器	台付埦	10.0	7.0	5.7	ロクロ調整	ロクロ調整		25
11	E-059	Ⅲ区	SD10	上層	須恵器	蓋	(9.4)	-	4.0	ロクロ調整、天井部ヘラケズリ	ロクロ調整	SD13 出土破片と接合	25
12	E-023	Ⅲ区	SD10	上層	須恵器	蓋	(14.6)	-	(1.6)	ロクロ調整、回転ヘラケズリ	ロクロ調整		25
13	E-060	Ⅲ区	SD10	下層	須恵器	蓋	(18.0)	-	(2.6)	ロクロ調整、回転ヘラケズリ	ロクロ調整	SD14 出土破片と接合	25
14	E-063	Ⅲ区	SD10	上層	須恵器	蓋	(26.0)	-	(2.7)	ロクロ調整、回転ヘラケズリ	ロクロ調整	SD11 出土破片と接合	25
15	E-048	Ⅲ区	SD10	下層	須恵器	瓶	-	(8.3)	(6.0)	ロクロ調整、自然釉	ロクロ調整		25
16	E-053	Ⅲ区	SD10	上層	須恵器	壺	-	-	(19.3)	ロクロ調整	ロクロ調整	SD22 出土破片と同一個体	25

第 175 図　SD10 溝跡出土遺物（1）

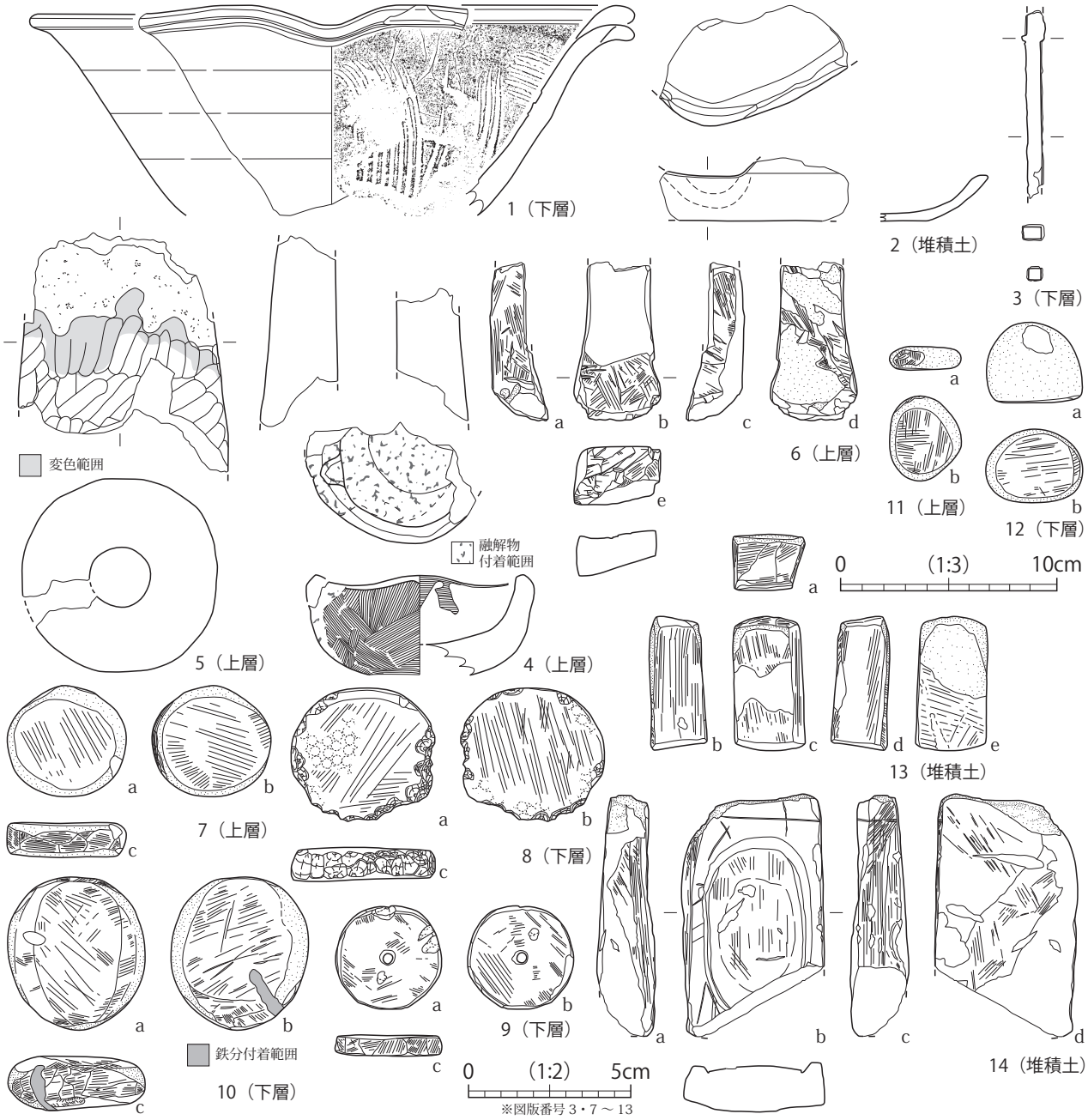




図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-017	Ⅲ区	SD10	下層	須恵器	甕	-	-	(9.0)	ロクロ調整、櫛描波状文、沈線	ロクロ調整		25
2	E-029	Ⅲ区	SD10	下層	須恵器	甕	-	-	(5.4)	ロクロ調整、櫛描波状文、沈線	ロクロ調整		25
3	E-024	Ⅲ区	SD10	下層	須恵器	甕	-	-	(8.9)	ロクロ調整、櫛描波状文、沈線	ロクロ調整		25

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層 位	種 別	器 種	法量 (cm)			備 考	写真図版
							全長	幅	厚さ		
4	F-001	Ⅲ区	SD10	上層	瓦	丸瓦	(20.0)	(18.1)	2.3	凸面縄目タタキ→ナデ、凹面布目痕、側面ヘラケズリ	25
5	G-006	Ⅲ区	SD10	下層	瓦	平瓦	(13.4)	(16.9)	1.9	凸面縄目タタキ→ナデ、凹面布目痕	26

第 176 図　SD10 溝跡出土遺物（2）

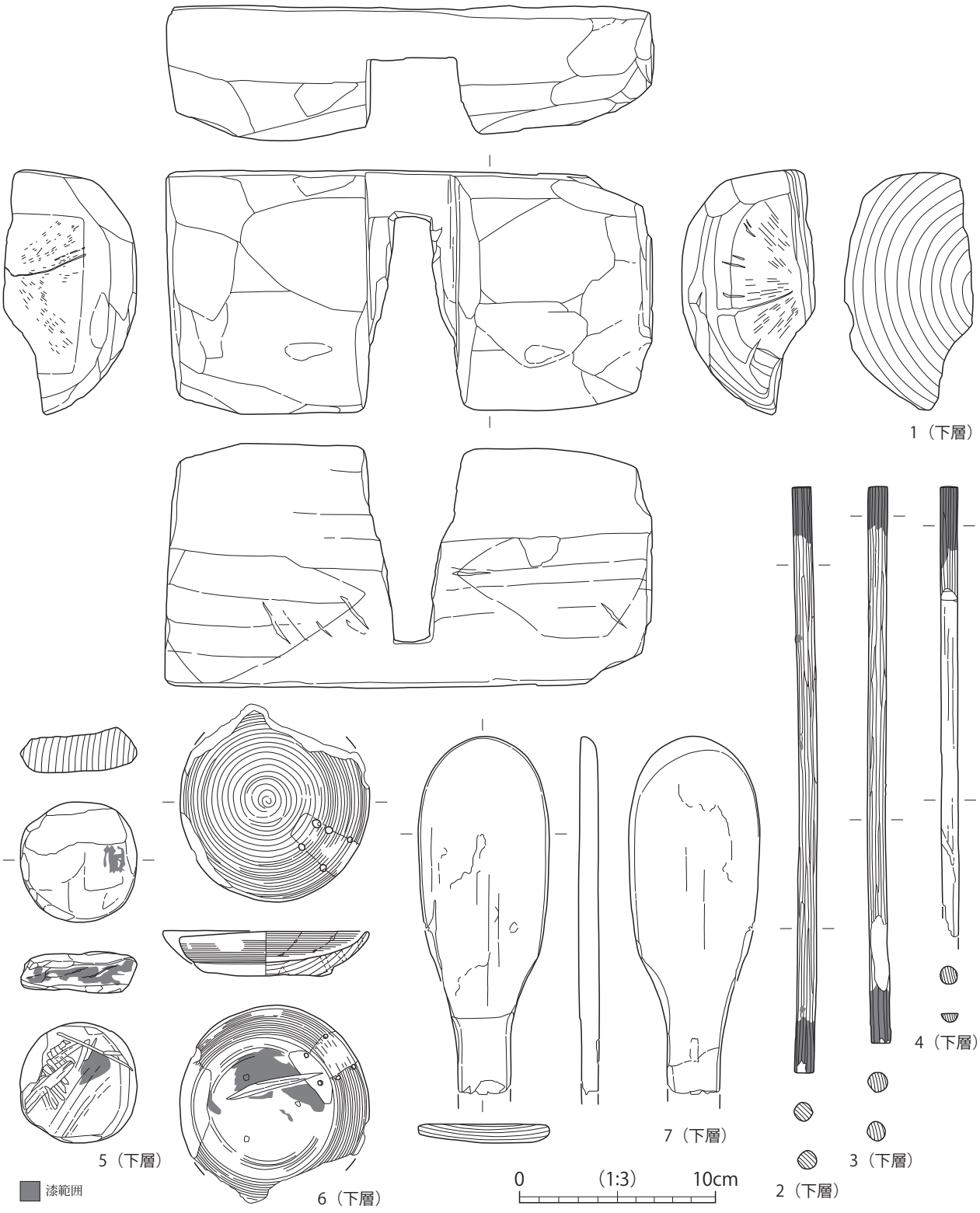


図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	I-006	Ⅲ区	SD10	下層	瓦質土器	擂鉢	(28.0)	-	(9.7)	ロクロ調整	ロクロ調整、擂目 7 本 1 単位		26
2	I-003	Ⅲ区	SD10	堆積土	土師質土器	焙烙	長 (5.6)	幅 (8.7)	(3.0)	ナデ、口縁部に釉	ナデ		26

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
3	N-002	Ⅲ区	SD10	下層	金属製品	棒状鉄製品	(5.8)	0.75	0.5	5.4	茎部、棘関	26
4	P-001	Ⅲ区	SD10	上層	土製品	取鍋	口 (10.6)	底 -	高 (4.6)	75	外面ナデ	26
5	P-026	Ⅲ区	SD10	上層	土製品	羽口	(11.1)	(9.7)	孔径 2.8	450.0	端部欠損、上端部融解物付着	26

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
6	Kd-003	Ⅲ区	SD10	上層	石製品	砥石	(7.35)	4.0	2.6	73.5	流紋岩	砥面 5 面、溝状痕 (a ～ c 面)、上部欠損、被熱	26
7	Kd-005	Ⅲ区	SD10	上層	石製品	円形石製品	3.9	3.7	1.1	12.8	砂質凝灰岩	全面研磨、完形品	26
8	Kd-008	Ⅲ区	SD10	上層	石製品	円形石製品	4.15	4.45	1.05	19.2	凝灰岩	全面研磨、周縁部欠損	26
9	Kd-012	Ⅲ区	SD10	下層	石製品	紡錘車	3.2	3.3	0.7	5.9	凝灰岩	ケズリ→研磨→穿孔、孔径 3㎜、ほぼ完形品	26
10	Kd-009	Ⅲ区	SD10	下層	石製品	円形石製品	4.75	4.25	1.7	24.4	凝灰岩	全面研磨、完形品	26
11	Kd-011	Ⅲ区	SD10	上層	石製品	碁石状石製品	2.65	2.2	0.8	3.4	凝灰岩	研磨 (a･b 面)、完形品	26
12	Kd-010	Ⅲ区	SD10	下層	石製品	ｽﾀﾝﾌﾟ状石製品	2.5	3.0	2.3	12.8	凝灰岩	研磨 (b 面)、完形品	26
13	Kd-013	Ⅴ区	SD10	堆積土	石製品	角柱状石製品	4.15	2.2	1.7	14.0	砂質凝灰岩	全面研磨、ほぼ完形品	26
14	Kd-014	Ⅴ区	SD10	堆積土	石製品	硯	(11.2)	6.6	2.7	264.6	粘板岩	全面研磨、海を含む溝部分に墨痕、下端部欠損	26

第 177 図　SD10 溝跡出土遺物（3）



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	法量（cm）			備考	写真図版
						全長	幅	厚さ		
1	L-022	Ⅲ区	SD10	下層	不明	12.5	24.8	(6.8)		27
2	L-014	Ⅲ区	SD10	下層	棒状木製品	29.9	1.0	1.0	円柱状、両端漆付着	27
3	L-011	Ⅲ区	SD10	下層	棒状木製品	28.4	1.0	1.0	円柱状、両端漆付着	27
4	L-009	Ⅲ区	SD10	下層	棒状木製品	(23.0)	0.9	0.9	円柱状、上端漆付着、中・下位半割	27
5	L-016	Ⅲ区	SD10	下層	漆椀	6.2	5.9	2.1	底部破片、側面漆付着	26
6	L-023	Ⅲ区	SD10	下層	皿	口径 9.7	底径 6.5	器高 2.3	底部ロクロ爪痕、体部～底部孔 5 ヶ所及び棒状の圧痕、転用柄杓か	26
7	L-017	Ⅲ区	SD10	下層	飯篦	(18.3)	6.7	1.0		27

第 178 図　SD10 溝跡出土遺物（4）

可能性がある。15 の壺は胴部外面のほぼ全体に濃緑色の自然釉が付着している。

第 176 図－ 4 の丸瓦は粘土板巻き作りで、5 の平瓦は粘土板桶巻作りである。ともに外面は縄目タタキ後、ナデ消しを行っている。第 177 図－ 1 は瓦質の擂鉢で、7 本を一単位とする擂目が放射状に施される。口縁部は強く外反し、片口の注口をもつ。2 の土師質土器は焙烙で、皿状に扁平な器形をもち、片口の注口をもつ。

第 177 図－ 3 の金属製品は鉄鏃の茎部で、関は棘関である。土製品は 4 が取鍋で、内面と湯の注ぎ口には溶解物が付着している。5 は鞴羽口で、5 点出土したうちの 1 点を掲載した。上部には溶解物が付着している。石製品のうち 6 は流紋岩製の砥石で、a ～ c 面には溝状痕が認められる。7 ～ 13 は（砂質）凝灰岩製の石製品で、玩具の可能性がある。扁平な円盤状の 7 ～ 9、碁石状の 10・11、角柱状の 13 など、様々な形状がある。14 の石製品は粘板岩製の硯で、各面には鑿状工具の跡が認められ、砥石に転用された可能性も考えられる。

第 178 図－ 1 ～ 7 は木製品である。1 は用途不明の製品であるが、建築部材の一部である可能性も考えられる。2 ～ 4 は棒状を呈し、掲載外のものも含め 13 点が出土している。断面は円形で、両端部には漆が塗られている。5 は椀の底部である。6 はいわゆる挽物の皿である。7 は飯篦で、篦部は小判形を呈する。柄の端部を欠損するが、ほぼ完形に近いと思われる。

本溝跡からは非掲載の遺物も含め、15 ～ 16 世紀代の陶器が出土している。また、近世以降の陶器も認められる。このことから、比較的長期間にわたって屋敷の堀割りとして継続的に機能していたと考えられる。

SD77 溝跡（第 179・180 図）

Ⅳ区の南端部に検出され、101・102・106・107 ～ 109 グリッドに位置する。東側と西側は調査区外に延び、西側は SD121 との重複により大半が失われている。当該期遺構との重複関係は、SD121 よりも古く、SD7 よりも新しい。また、近接する SD4 とは前記の通り同時併存の可能性がある。

東西方向の溝跡で、調査区の南壁に沿うようにして概ね直線的に延びる。中軸を基準とする方位は N － 88° － E である。規模は検出長 36.43 m、上端幅 128 ～ 158cm、下端幅 36 ～ 42cm を測る。検出面からの深さは 68 ～ 77cm を測る。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。断面形状は逆台形を呈し、壁の中位から下位にかけて稜を有する。南壁は、この稜から上端までの開きが北壁よりも大きい。壁面には細かい凹凸が認められる。

堆積土は大別で 4 層、細別で 5 層に分層された。いずれの層も自然堆積で、上半を占める 1・2 層は灰色～暗褐色シルト、下半の 3・4 層は灰色～オリーブ黒色の粘土質シルトや粘土で形成され、壁の下部に酸化鉄が付着していることなどからも、一定期間滞水していたと考えられる。

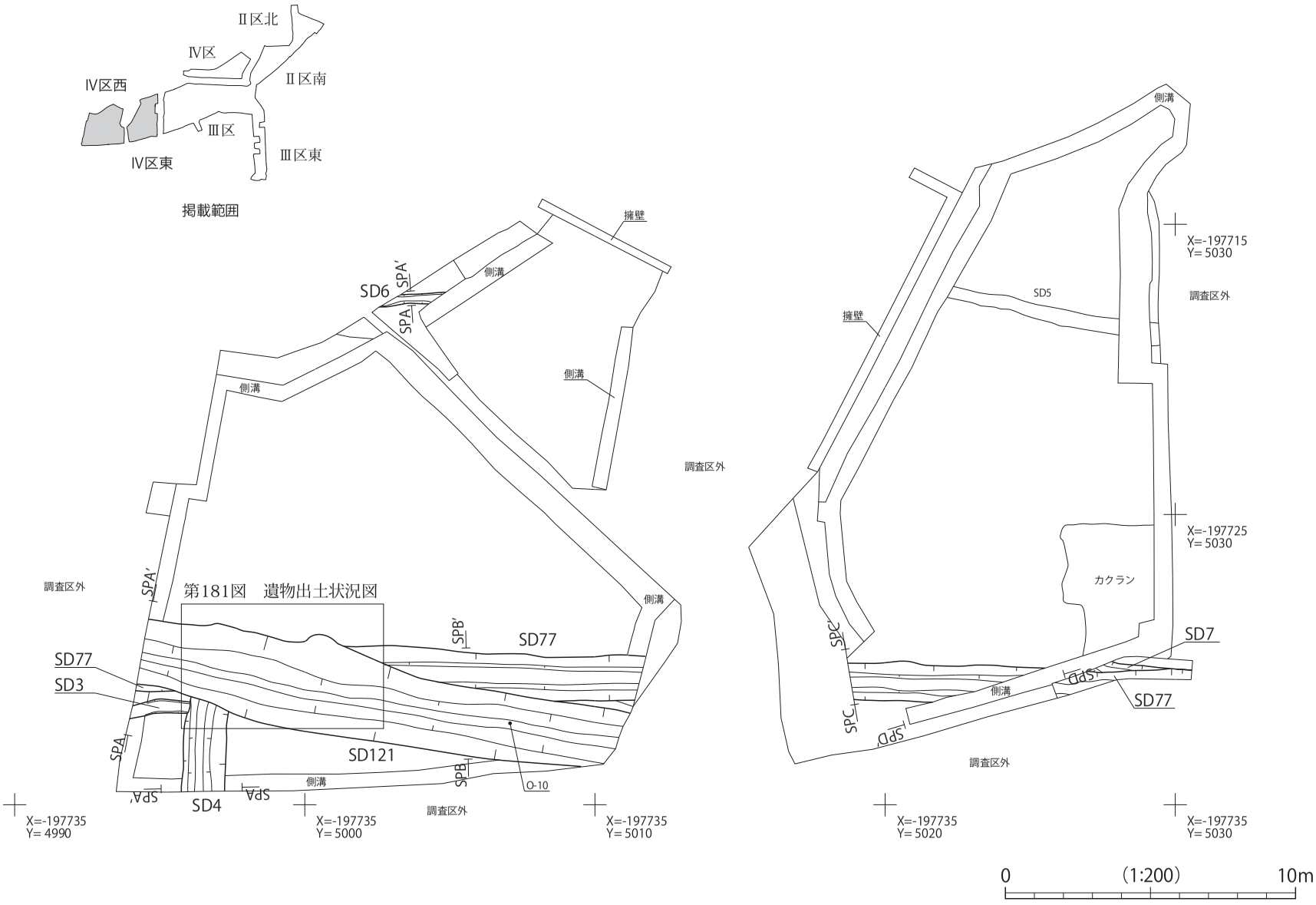
遺物は土師器・須恵器の破片のほか、陶器、貝が 1 点ずつ出土しているが、いずれも図化可能なものはなかった。陶器は常滑産の甕破片である。

本溝跡の時期は判然としないが、出土した陶器甕は中世の所産である。

SD121 溝跡（第 179 ～ 182 図）

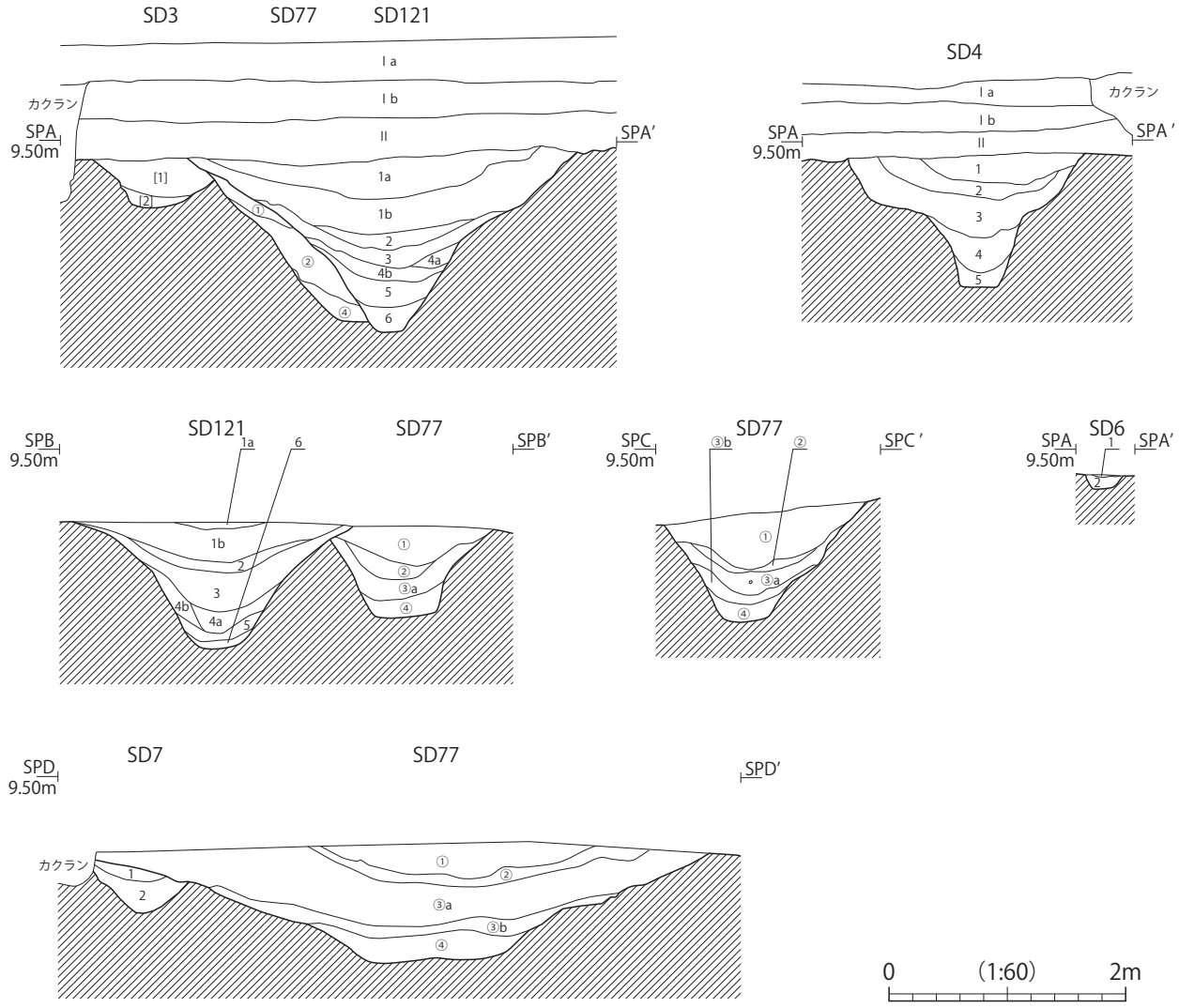
Ⅳ区の南端部に検出され、100・101・106 ～ 108 グリッドに位置する。東側と西側は調査区外に延びる。SD77 の西半部と重複し、その大半を壊しているが、方向性としてはやや斜めにずれる。また当該期の SD4 とも重複し、これよりも新しい溝跡である。

東西方向の溝跡で、Ⅳ区西半部の南側を概ね直線的に延びる。やや斜めに延び、同調査区の南西コーナーから調査区外へと向かう。中軸を基準とする方位は N － 79° － W である。規模は検出長 16.60 m、上端幅 231 ～ 336cm、下端幅 25 ～ 34cm を測る。検出面からの深さは 104 ～ 120cm を測る。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。断面形状は逆台形を基調とするが、位置によっては「V」字形を呈する。壁の中位には稜を有し、



第181図　遺物出土状況図

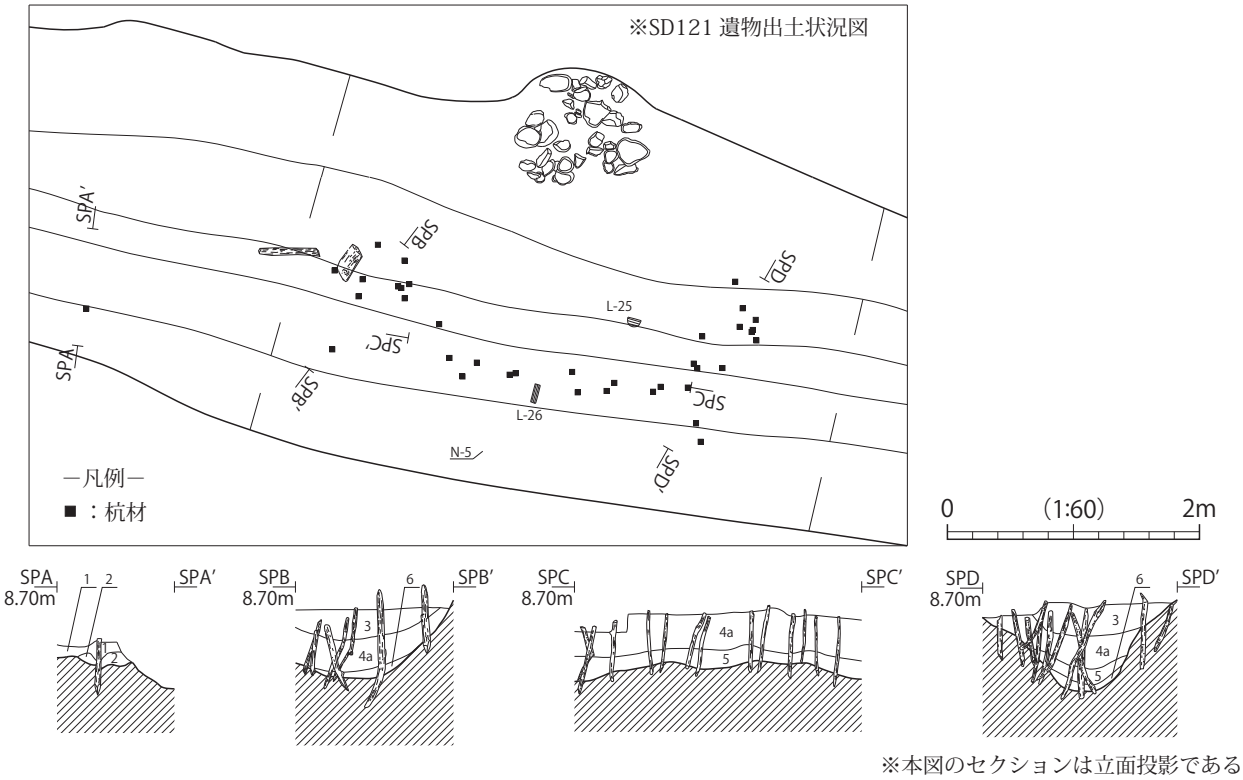
第179図　SD3・4・6・7・77・121溝跡



SD3･4･6･7･77･121(中世～近世) 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SD3	106	N-88°-E	(200)	41～50	29～37	5～10	[1]	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (5～10㎜程度) 少量含む。
							[2]	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	褐色土ブロック (5㎜程度) 多量含み、グライ化。
SD4	106	N-5°-E	(400)	140～149	26～32	73～76	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黄褐色シルト粒含む。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄褐色シルトブロック (30㎜程度) 少量含む。
							3	10YR3/4 暗褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック (50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							4	10YR3/3 暗褐色	シルト	黄褐色シルト粒多量含む。
							5	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	オリーブ褐色粘土質シルトブロック (30～50㎜程度) 多量含む。
SD6	84	N-88°-E	(160)	32～36	14～25	7～9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック (10～20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10～20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
SD7	109	N-84°-W	(250)	(37)	(27)	39～43	1	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5～10㎜程度) 多量含む。
							2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
SD77	101･102 106～109	N-88°-E	(3643)	128～158	36～42	68～77	①	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	灰オリーブ色砂少量含む。
							②	5Y4/1 灰色	シルト	灰オリーブ色粘土質シルトブロック (5～20㎜程度) 少量、炭化物・植物遺体微量含む。
							③a	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	オリーブ色粘土ブロック (30～50㎜程度) 多量含む。
							③b	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	オリーブ色粘土質シルトブロック (50㎜程度) 多量含む。
							④	5Y4/1 灰色	粘土	オリーブ色砂質シルトブロック (50㎜程度) 多量含む。
SD121	100･101 106～108	N-79°-W	(1660)	231～336	25～34	104～120	1a	7.5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	灰オリーブ色砂質シルトブロック (5～10㎜程度) 多量含む。
							1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黄橙色シルト粒多量含む。
							2	5Y5/1 灰色	粘土質シルト	灰オリーブ色砂質シルトブロック (50㎜程度) 多量、植物遺体含む。
							3	10YR1.7/1 黒色	シルト	青灰色砂微量、植物遺体上位に含む。
							4a	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	炭化物微量含む。
							4b	7.5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	灰オリーブ色シルトブロック (30㎜程度) 少量含む。
							5	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土	黒色砂粒微量含む。
							6	7.5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	灰オリーブ色砂質シルトブロック (30～50㎜程度) 多量含む。

第 180 図　SD3・4・6・7・77・121 溝跡断面図

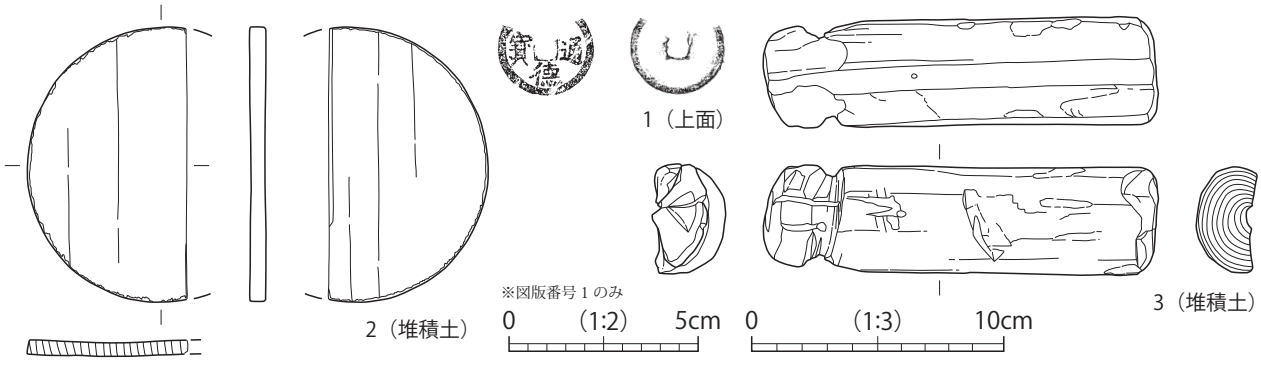


第 181 図　SD121 溝跡遺物出土状況

そこから上端まで緩やかに開く。壁面には細かい凹凸が認められる。北壁のラインは 101 グリッド内で 45cm 程張り出し、礫の崩落が認められた。またその周辺の壁から底面にかけて、木杭が打ち込まれたままの状態で多数出土し、その分布は概ね半環状を呈する。SD10 と同様に、洗い場などの施設が存在していた可能性が考えられる。

堆積土は大別で 6 層、細別で 8 層に分層された。最上層の 1 層は、人為的な埋土と考えられる。2 層以下は自然堆積とみられ、オリーブ黒色～黒色の、暗い色調の層が大半を占める。下層の 4・5 層は粘土で形成され、壁の下部に酸化鉄の付着が認められることからも、一定期間の滞水が考えられる。

遺物は土師器・須恵器の破片のほか、陶器、木製品、貝・馬歯（O-10）・胡桃といった動物・植物遺体などが出土している。金属製品 1 点、木製品 2 点を掲載した（第 182 図）。図化はしていないが、器種不明の施釉陶器 1 点、



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
1	N-005	Ⅳ区	SD121	上面	金属製品	銭貨	径 2.5	-	0.15	2.8	宣徳通寶、明銭、宣徳 8(1433) 年初鋳	27

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層　位	種　別	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	備　　考	写真図版
2	L-025	Ⅳ区	SD121	堆積土	底板	10.9	(6.3)	0.6		27
3	L-026	Ⅳ区	SD121	堆積土	木錘 (槌子)	15.7	4.2	(2.2)		27

第 182 図　SD121 溝跡出土遺物

瓦質の擂鉢破片 2 点も出土しており、擂鉢は 16 世紀の所産である。第 182 図－ 1 の金属製品は、「宣徳通寶」（明銭・1433 年初鋳）である。文字体は加刀による膨らみが顕著である。木製品のうち 2 は桶の底板である。1/2 程を欠損する。3 は木錘（槌子）である。丸木の半裁材を人形状に加工し、裁断面には縦位の溝を彫り込んでいる。

本溝跡の時期は中世以降と考えられるが、詳細については判然としない。

（4）井戸跡

Ⅱ区で 1 基、Ⅲ区で 6 基、Ⅳ区で 2 基を検出した。井戸枠が認められたものはなく、いずれも素掘り構造である。廃絶時には人為的に埋め戻されている井戸跡がほとんどである。SE3 ～ 5 は SD10 の区画内に位置することから、屋敷内の給水施設である可能性が考えられる。出土遺物は土師器・須恵器の破片がほとんどで、明確な時期を示す遺物はわずかである。また、SE2 ～ 5 からは鉄滓や鞴羽口が出土しており、特に SE2 に鉄滓が、SE4 に鞴羽口が集中する傾向が認められた。SE2 は推定される屋敷範囲の外側に位置するが、これら 4 基には何らかの関連性が考えられる。

SE1 井戸跡（第 183 図）

Ⅳ区南東部から検出され、103 グリッドに位置する。当該期遺構との重複関係はないが、古代の SI1 と重複している。平面形状は楕円形、断面形状はＵ字形を呈する。検出された規模は長軸 122cm ×短軸 120cm、検出面からの深さは 176cm を測る。堆積土は黄灰色シルトや黒褐色～黒色粘土質シルト・粘土を主体とし、上層は人為的埋土と考えられる。下層は粘性が強く、締まる。遺物は木製品が 4 点出土しており、そのうち 2 点を掲載した（第 183 図－ 1・2）。これらの木製品は、全て底面から出土している。1 は桶の底板である。仕上げは粗く、外面には工具痕が残されている。内面はやや中央が膨らんでいる。2 は曲物である。ほぼ正円形の底板に帯状の側材を 3 重に巻きつけ、側材には留め具が 1 箇所残存する。底板には削り加工の痕跡が観察される。

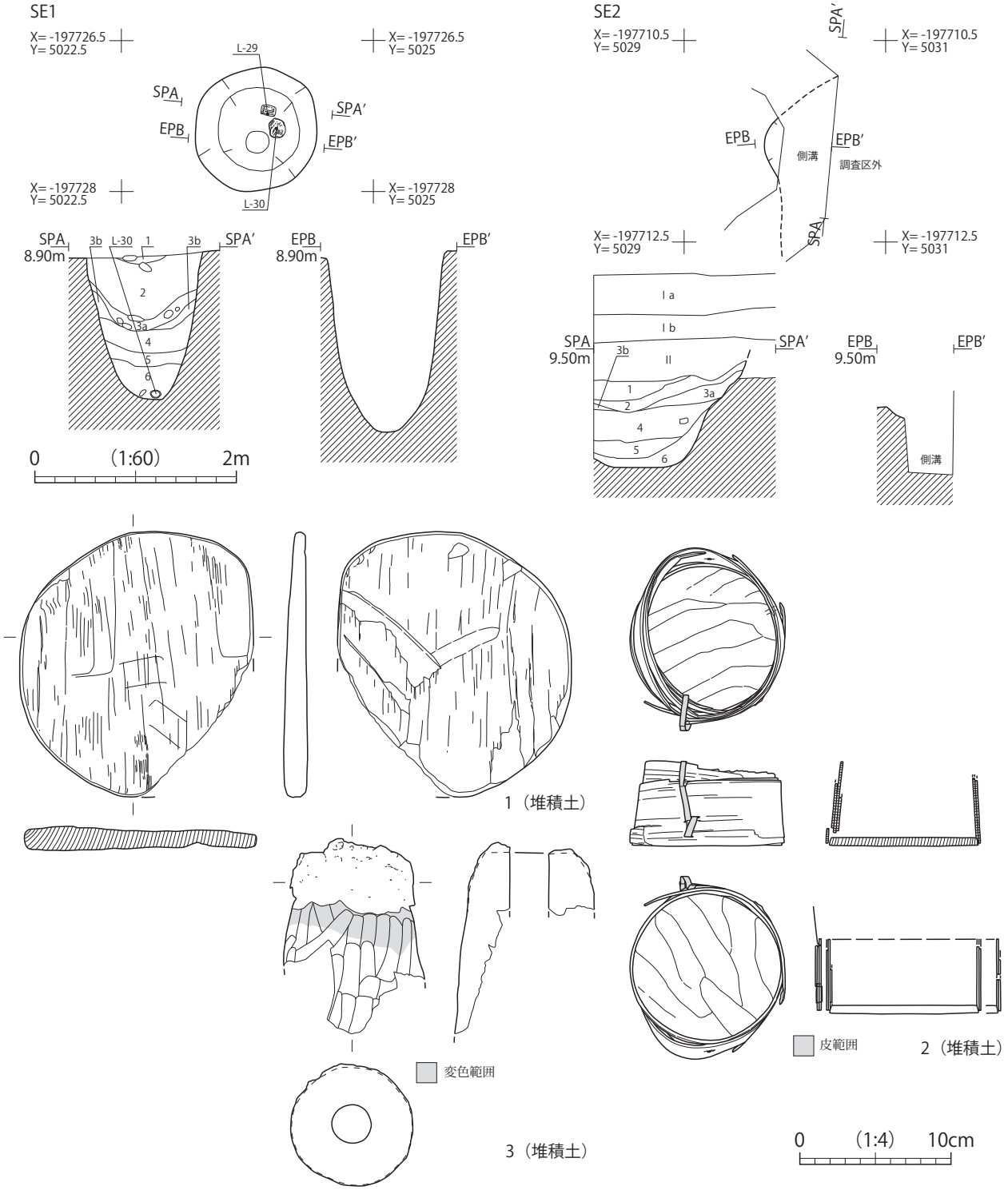
SE2 井戸跡（第 183 図）

Ⅳ区北東端部から検出され、76・77 グリッドにかけて位置する。西壁付近のごく一部が検出されたのみで、大半は調査区外にかかる。他の遺構との重複関係はない。平面形状は不明であるが、検出部分の壁のラインは隅丸のコーナー状を呈する。断面形状も底面が未検出であるため判然としないが、調査区壁の断面では壁の上部がやや開く形状を呈し、漏斗形である可能性が考えられる。検出された規模は長軸 215cm ×短軸 68cm、深さは 85cm までを検出した。堆積土は黄色系統のシルトを主体とし、上層は人為的埋土と考えられる。下層は粘性が強くなり、色調が暗くなる。遺物は少量の土師器の破片のほか、多量の鉄滓と鞴羽口 1 点が出土し、この鞴羽口 1 点を掲載した（第 183 図－ 3）。鉄滓は 10cm 大の塊状のものもあり、2 層からまとまって出土している。掲載した第 183

SE1･2　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SE1	103	円形	122 × 120	176	1	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト	黒色シルトブロック (50㎜程度) 微量含み、拳大の礫有。	SI1 より新しい。
					2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	オリーブ黄色砂質シルトブロック (50 ～ 100㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					3a	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	オリーブ黄色砂少量含み、拳大の礫有。	
					3b	5Y4/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色	粘土質シルト	黒色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、植物遺体含む。	
					4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 微量含む。	
					5	5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土	灰オリーブ色粘土質シルトブロック (50㎜程度) 多量含む。	
					6	5Y2/1 黒色	粘土	灰オリーブ色粘土質シルトブロック (30㎜程度) 少量含み、拳大の礫有。	
SE2	76･77	不明	(215) × (68)	(85)	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量、酸化鉄斑状に含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物多量含み、鉄滓有。	
					3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黄褐色粘土質シルト粒多量、炭化物・酸化鉄・マンガン微量含む。	
					3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルト粒少量含む。	
					4	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					5	5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土質シルト	オリーブ黄色粘土質シルト粒少量含む。	
					6	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	オリーブ黄色粘土質シルト粒少量含む。	

図－３の鞴羽口は、破砕した状態で出土し、大部分が欠損している。全体が雑にユビナデ調整され、先端部には溶解物の付着が認められる。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層　位	種　別	法量（cm）			備　　考	写真図版
						全長	幅	厚さ		
1	L-029	Ⅳ区	SE1	堆積土	桶底板	17.6	15.4	1.6		27
2	L-030	Ⅳ区	SE1	堆積土	曲物	径 10.3	高 5.6	側 0.1　底板 0.6	桜皮綴じ	27

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
3	P-009	Ⅳ区	SE2	堆積土	土製品	羽口	(12.8)	(9.3)	孔径 2.6	420.0	端部欠損、上端部融解物付着	27

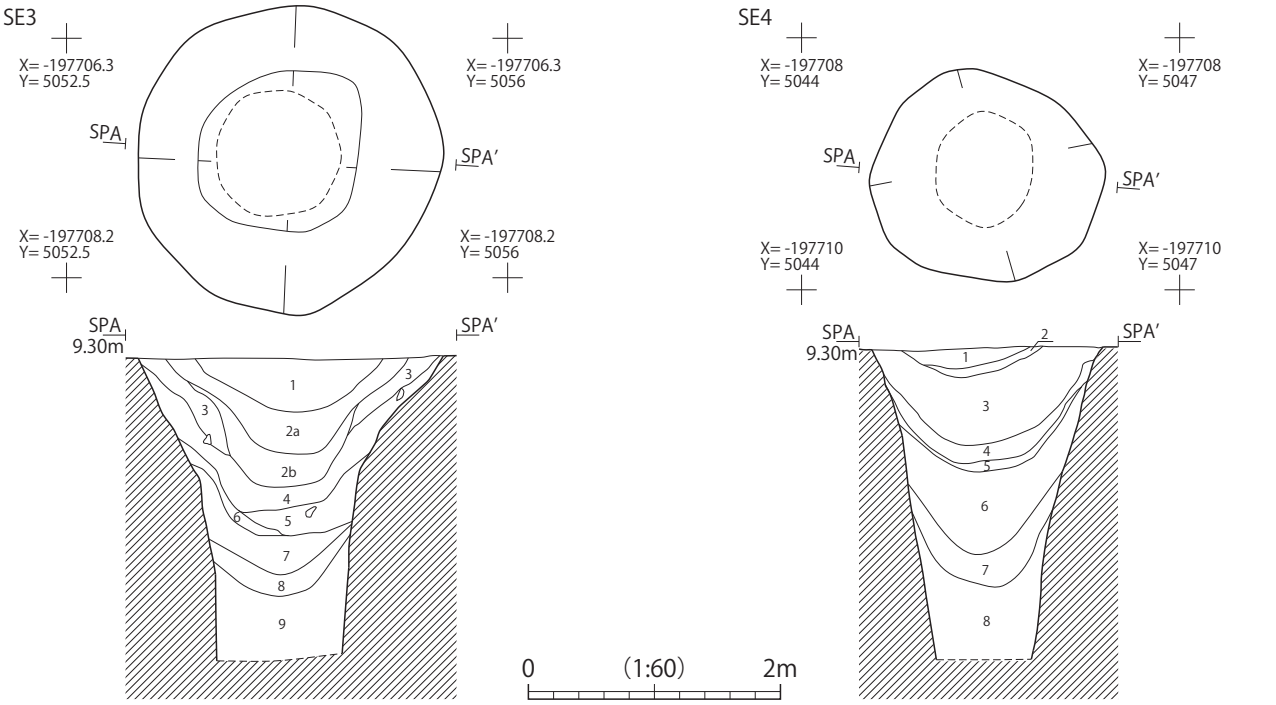
第 183 図　SE1・2 井戸跡・出土遺物

SE3 井戸跡（第 184・185 図）

Ⅲ区北部から検出され、70 グリッドに位置する。主な当該期遺構との重複関係は、SD9 よりも新しい。古代の SD13 とも重複する。平面形状は円形、断面形状は漏斗形を呈するが、底面は未検出である。検出された規模は長軸 244cm ×短軸 240cm、深さは 241cm まで確認した。堆積土は下半部が黒色系統の粘土で、上半部は様々な色調のシルト質土である。その層相から、人為的埋土と考えられる。遺物は少量の土師器・須恵器の破片、鉄滓のほか、取鍋 2 点が出土している。取鍋 1 点を掲載した（第 185 図－ 1）。湯の注口周辺の破片資料で、内外面には溶解物が付着する。溶解物は割れ口や剥離部分にも付着することから、炉内への投棄が考えられる。

SE4 井戸跡（第 184・185 図）

Ⅲ区北西部から検出され、69 グリッドに位置する。当該期遺構との重複関係は、SK11 よりも新しい。古代の SD15・16・19 とも重複する。平面形状は円形、断面形状は円錐形を呈するが、底面は未検出である。検出された規模は長軸 187cm ×短軸 165cm、深さは 245cm まで確認した。堆積土は下半部が褐灰色～緑黒色の粘土質シ

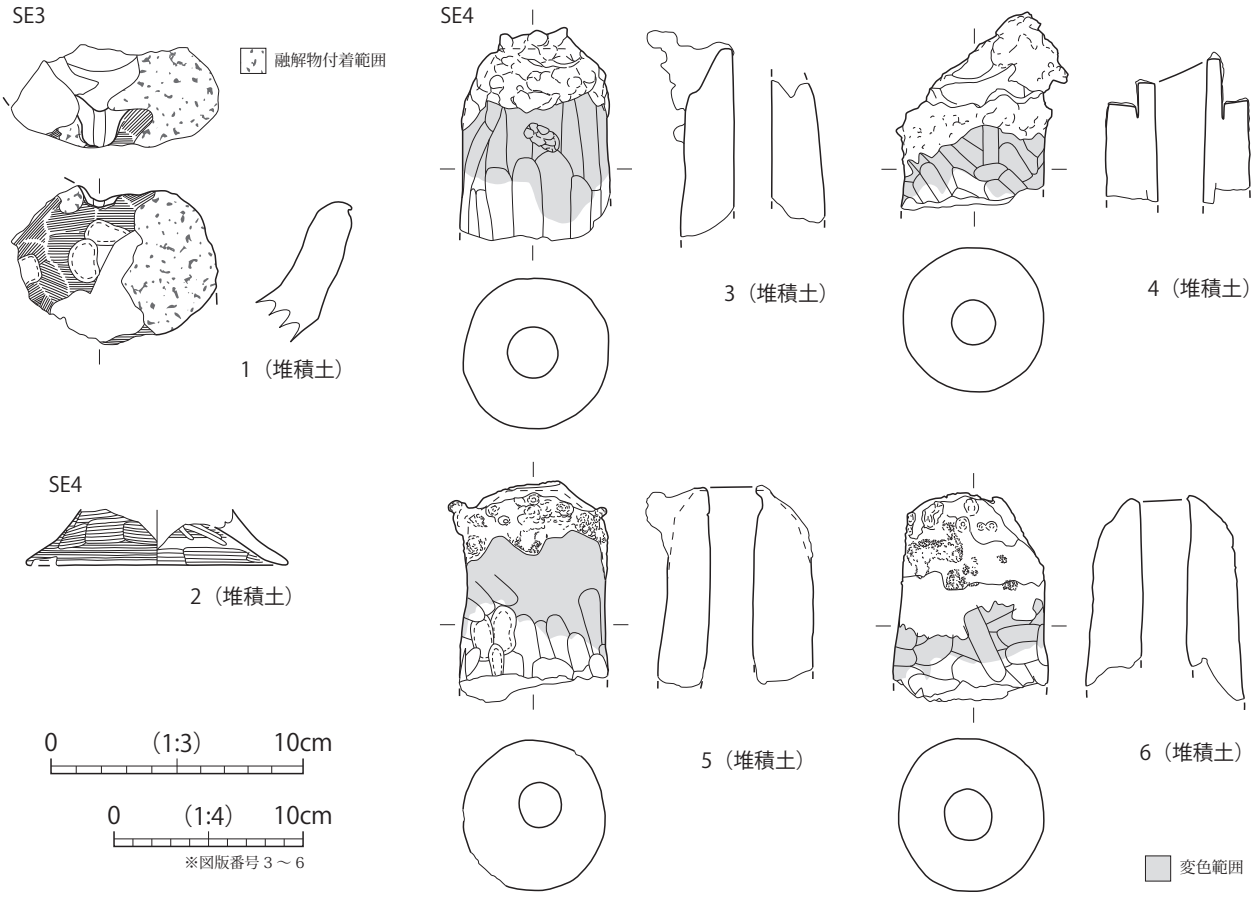


SE3・4　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SE3	70	円形	244 × 240	(241)	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (10㎜程度) 多量含む。	SD9・13 より新しい。
					2a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色砂質シルト・灰色シルトの互層　鉄滓有。	
					2b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒色砂質シルトの混合。　鉄滓有。	
					3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ラミナ状に含む。	
					4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック (50 ～ 100㎜程度) 多量含む。	
					5	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色シルトブロックの混合。、グライ化。	
					6	5Y2/1 黒色	粘土	Ⅳ層土粒少量含む。	
					7	10Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
					8	2.5Y2/1 黒色	粘土	炭化物微量含み、下位に黒色粘土ラミナ状に堆積	
					9	2.5GY2/1 黒色	粘土	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
SE4	69	楕円形	187 × 165	(245)	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	黒色シルト粒少量含む。	SD15・16・19、SK11 より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	細砂	褐灰色シルトブロック多量含み、鉄滓有。	
					3	7.5YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (50 ～ 100㎜程度) 少量、炭化物・灰微量含む。	
					4	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
					5	10YR3/1 黒褐色	細砂	褐灰色シルトブロック多量含み、鉄滓有。	
					6	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (50㎜程度) 少量含む。	
					7	5G2/1 緑黒色	粘土	グライ化したⅣ層土ブロック (50 ～ 100㎜程度) 少量含み、拳大の礫有。	
					8	10G3/1 暗緑灰色	粘土	―	

第 184 図　SE3・4 井戸跡

ルト・粘土で、最上層の 1 層が黄褐色シルト、2 層以下は黒褐色の細砂層と灰褐色粘土質シルトの互層が大半を占める。また、上半部の 2・5 層には鉄滓や鞴羽口の破片が含まれる。遺物は土師器・須恵器の破片を主体に、陶器 1 点、少量の鉄滓、鞴羽口 14 点が出土している。土師器高坏 1 点、鞴羽口 4 点を掲載した（第 185 図－ 2 ～ 6）。3 は芯棒に薄い粘土板を巻き付け、その後厚い粘土板を被せて成形されており、二段階にわたる製作工程を示している。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
1	P-003	Ⅲ区	SE3	堆積土	土製品	取鍋	(6.3)	(8.2)	-	99.0	外面ナデ・指オサエ、融解物付着	27
3	P-011	Ⅲ区	SE4	堆積土	土製品	羽口	(11.3)	(8.0)	孔径 2.7	620.0	端部欠損、上端部融解物付着	28
4	P-013	Ⅲ区	SE4	堆積土	土製品	羽口	(10.5)	(8.2)	孔径 2.8	440.0	端部欠損、上端部融解物付着	28
5	P-016	Ⅲ区	SE4	堆積土	土製品	羽口	(10.7)	(7.8)	孔径 2.7	665.0	端部欠損、上端部融解物付着	28
6	P-018	Ⅲ区	SE4	堆積土	土製品	羽口	(10.9)	(8.1)	孔径 2.7	560.0	端部欠損、上端部融解物付着	28

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
2	C-091	Ⅲ区	SE4	堆積土	土師器	高坏	-	(10.2)	(2.2)	脚部ヘラナデ、脚端部ヨコナデ	脚部ヘラナデ→ヘラミガキ		28

第 185 図　SE3・4 井戸跡出土遺物

SE5 井戸跡（第 186・187 図）

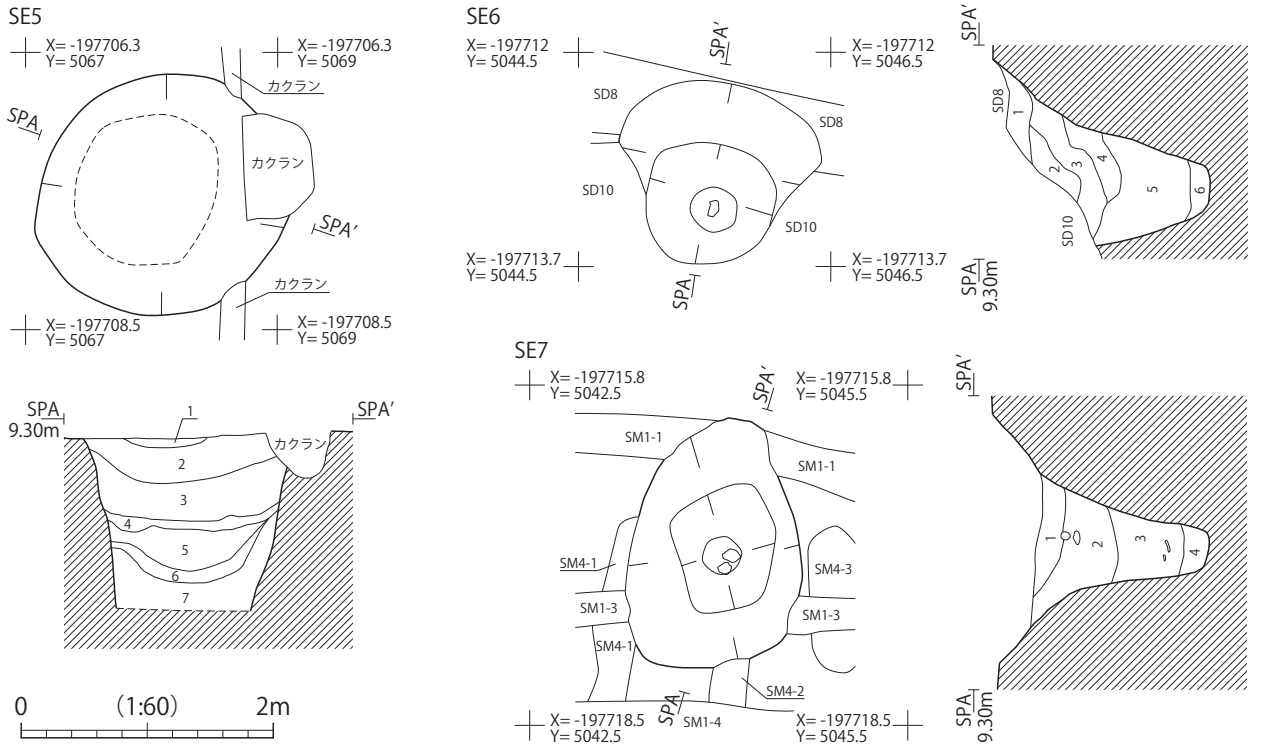
Ⅲ区北部から検出され、70 グリッドに位置する。当該期遺構との重複関係は、SD9、Pit257 よりも新しい。古代の SI8 とも重複する。平面形状は円形、断面形状は筒形とみられるが、底面は未検出であるため判然としない。検出された規模は長軸 196cm ×短軸 192cm、深さは 111cm までを検出した。堆積土は 7 層がオリーブ黒色シルト、ほかは褐色～灰黄褐色のシルト・粘土質シルトの厚い堆積層の間に、薄い黒褐色粘土質シルトが入り込む状況である。上半部は人為的埋土と考えられる。遺物は少量の土師器・須恵器の破片のほか、鞴羽口 1 点が出土しており、須恵器坏 1 点とともにこれを掲載した（第 187 図－ 1・2）。

SE6 井戸跡（第 186 図）

Ⅲ区西部から検出され、78 グリッドに位置する。当該期遺構との重複関係は、SD8・10 よりも古い。このため南側は失われている。平面形状は円形とみられ、断面形状は円錐形を呈する。検出された規模は長軸 162cm ×短軸 145cm、検出面からの深さは 172cm を測る。堆積土は下層の黒褐色粘土質シルト、暗灰色粘土が自然堆積で、これより上は人為的埋土と考えられる。遺物は少量の土師器の破片が出土したのみで、図化可能なものはなかった。

SE7 井戸跡（第 186・187 図）

Ⅲ区西部から検出され、88 グリッドに位置する。当該期遺構との重複関係は、小溝状遺構 A・B 群より古い。古代の SD11 とも重複する。平面形状はやや不整な楕円形、断面形状は漏斗形を呈する。検出された規模は長軸 198cm ×短軸 136cm、深さは 111cm を測る。堆積土は他の井戸跡同様に上半部が人為的埋土、下半部が自然堆積と考えられるが、本井戸跡の自然堆積層は粗砂などの砂質が強い層である。遺物は少量の土師器・須恵器の破片

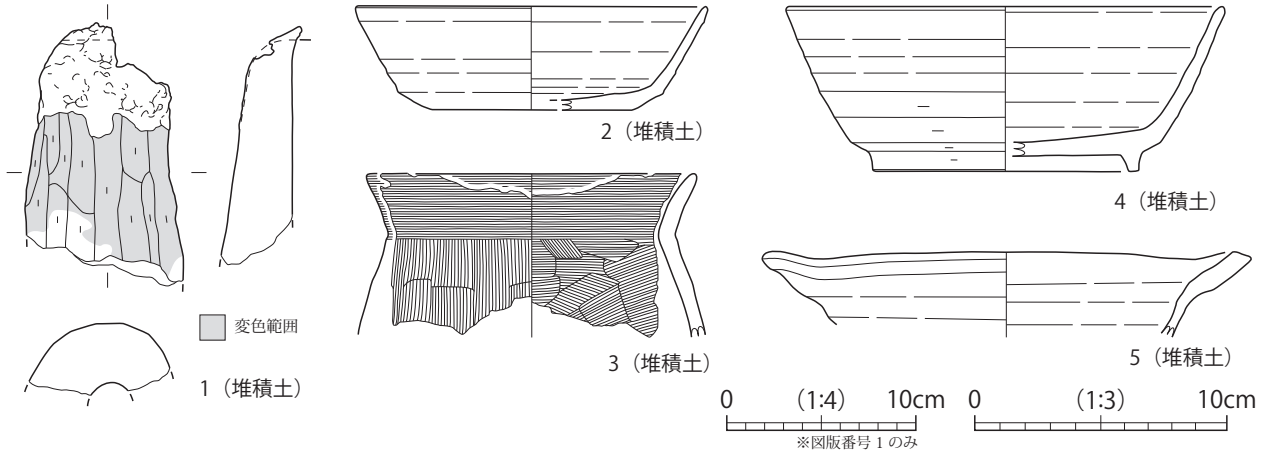


SE5 ～ 7　観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SE5	71	円形	196 × 192	(111)	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	SI8、SD9、Pit257 より新しい。
					2	7.5YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 100㎜程度) 少量、炭化物微量、酸化鉄含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 40㎜程度) 多量、炭化物少量、酸化鉄含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色シルトラミナ状に、酸化鉄含む。	
					5	10Y4/1 灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (50 ～ 100㎜程度)・炭化物微量含む。	
					6	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					7	7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (50 ～ 100㎜程度) 含む。	
SE6	78	円形？	162 × (145)	172	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SD8・10 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック (50㎜程度) 多量、炭化物微量、酸化鉄含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (100 ～ 150㎜程度) 多量、酸化鉄含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 100㎜程度) 多量、炭化物微量、酸化鉄含む。	
					5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 少量、酸化鉄含む。	
					6	N3/0 暗灰色	粘土	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
SE7	88	楕円形	198 × 136	166	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物少量含む。	SM1・4 より古い。
					2	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含み、拳大の礫有。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粗砂	黒色シルト粒少量含む。	
					4	5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・灰白色砂質シルトブロック (50 ～ 100㎜程度) 多量含む。	

第 186 図　SE5 ～ 7 井戸跡

が出土し、土師器甕 1 点、須恵器高台付坏 1 点、須恵器甕 1 点を掲載した（第 187 図－ 3 ～ 5）。5 の甕には自然釉の付着がまばらに認められる。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
1	P-024	Ⅲ区	SE5	堆積土	土製品	羽口	(13.9)	(5.4)	-	310.0	端部欠損、上端部融解物付着	28

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
2	E-142	Ⅲ区	SE5	堆積土	須恵器	坏	(14.0)	(8.0)	4.1	ロクロ調整、底部回転ヘラ調整	ロクロ調整		28
3	C-094	Ⅲ区	SE7	堆積土	土師器	甕	(13.0)	-	(6.5)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		28
4	E-143	Ⅲ区	SE7	堆積土	須恵器	台付坏	(17.3)	(10.6)	6.6	ロクロ調整、体部下位回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ→高台貼付	ロクロ調整	SM1･4 出土破片と接合	28
5	E-144	Ⅲ区	SE7	堆積土	須恵器	甕	(19.4)	-	(3.4)	ロクロ調整	ロクロ調整		28

第 187 図　SE5・7 井戸跡出土遺物

SE8 井戸跡（第 188 図）

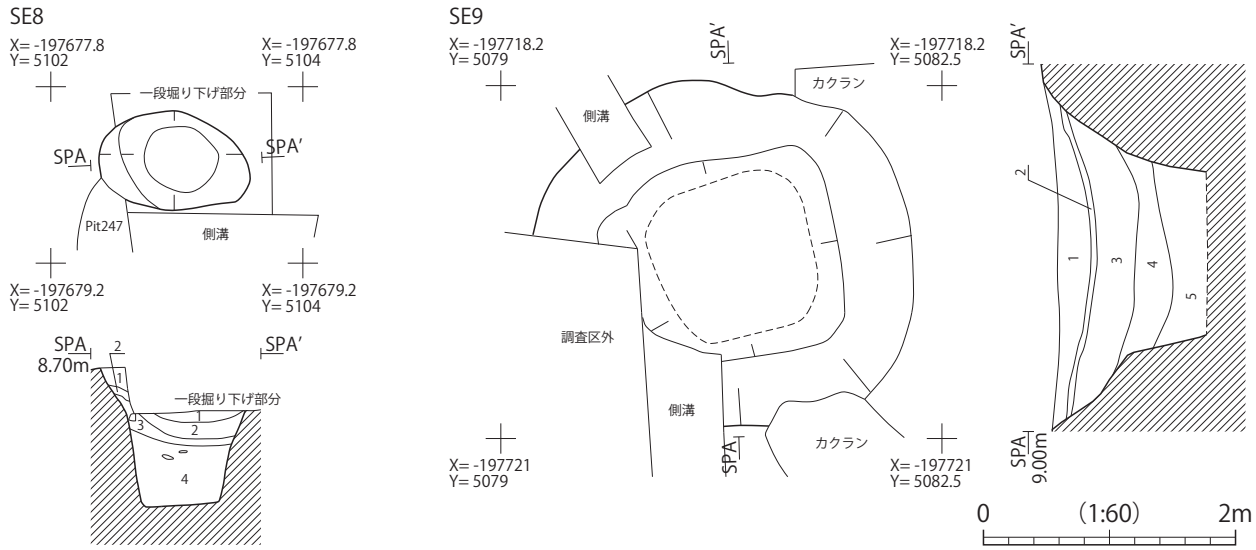
Ⅱ区北部から検出され、45 グリッドに位置する。調査区拡張時の壺掘りで上部を失う。当該期遺構との重複関係は、Pit247 よりも古い。平面形状は楕円形を呈し、断面形状は筒形に近いが、一部残存する壁は上方がやや開き、漏斗形の可能性も否定できない。検出された規模は長軸 118cm ×短軸 79cm、検出面からの深さは 176cm を測る。堆積土は灰色系統の粘土質シルト・粘土で、全体が自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

SE9 井戸跡（第 188 図）

Ⅲ区東部から検出され、91・92・110 グリッドに位置する。側溝掘削や撹乱などで部分的に失われている。他の遺構との重複関係はない。平面形状はやや不整な円形であるが、検出面から深さ 60cm 程の稜の位置では方形を呈する。断面形状は漏斗形とみられるが、底面は未検出であるため判然としない。検出された規模は長軸 283cm ×短軸 216cm、深さは 126cm までを検出した。堆積土は最上層のにぶい黄橙色シルトが人為的な埋土と考えられるが、ほかは自然堆積と思われる。オリーブ灰色～暗オリーブ灰色の粘土質シルトが主体である。遺物は少量の土師器・須恵器の破片が出土したのみで、図化可能なものはなかった。

SE8･9　観察表

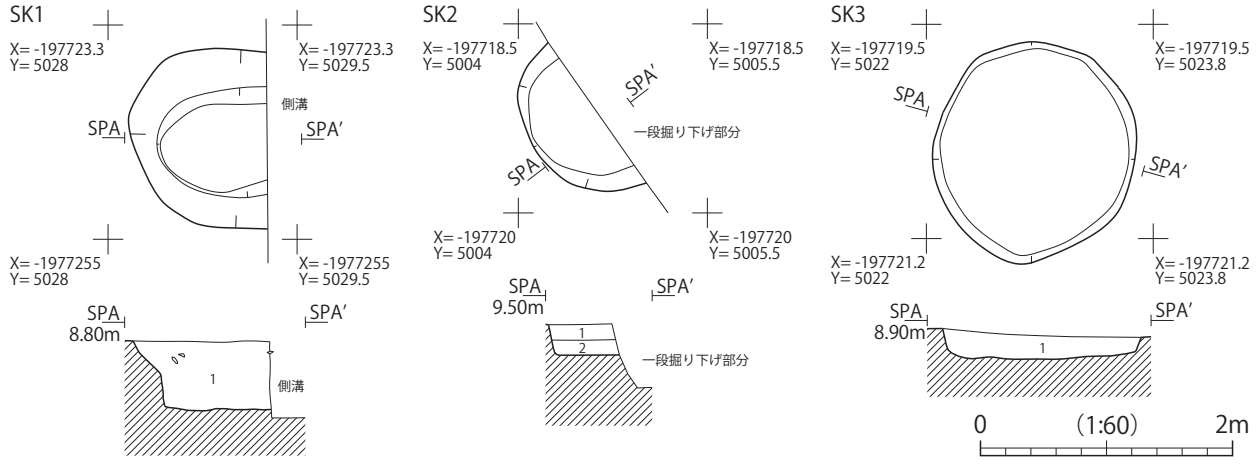
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SE8	45	楕円形	(118) × 79	176	1	10YR6/1 褐灰色	粘土	酸化鉄少量、炭化物微量含む。	Pit247 より古い。
					2	5Y6/1 灰色	粘土質シルト	酸化鉄少量、黄白色粘土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。	
					3	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	黄白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄少量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	粘土	酸化鉄多量、黄白色粘土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
SE9	91･92 110	楕円形	283 × 216	(126)	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度)・酸化鉄少量含み、下位はグライ化。	
					2	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	Ⅳ層土粒微量含み、大半がグライ化。	
					3	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粘土質シルト	黒褐色粘土粒少量、酸化鉄微量含み、全面グライ化。	
					4	2.5GY4/1 暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粘土質シルト	明オリーブ灰色粘土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量、酸化鉄微量含み、全面グライ化。	
					5	5GY4/1 暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粘土質シルト	明オリーブ灰色粘土ブロック (10㎜程度) 少量含み、全面グライ化。	



第 188 図　SE8・9 井戸跡

(5) 土坑（第 189 ～ 194 図）

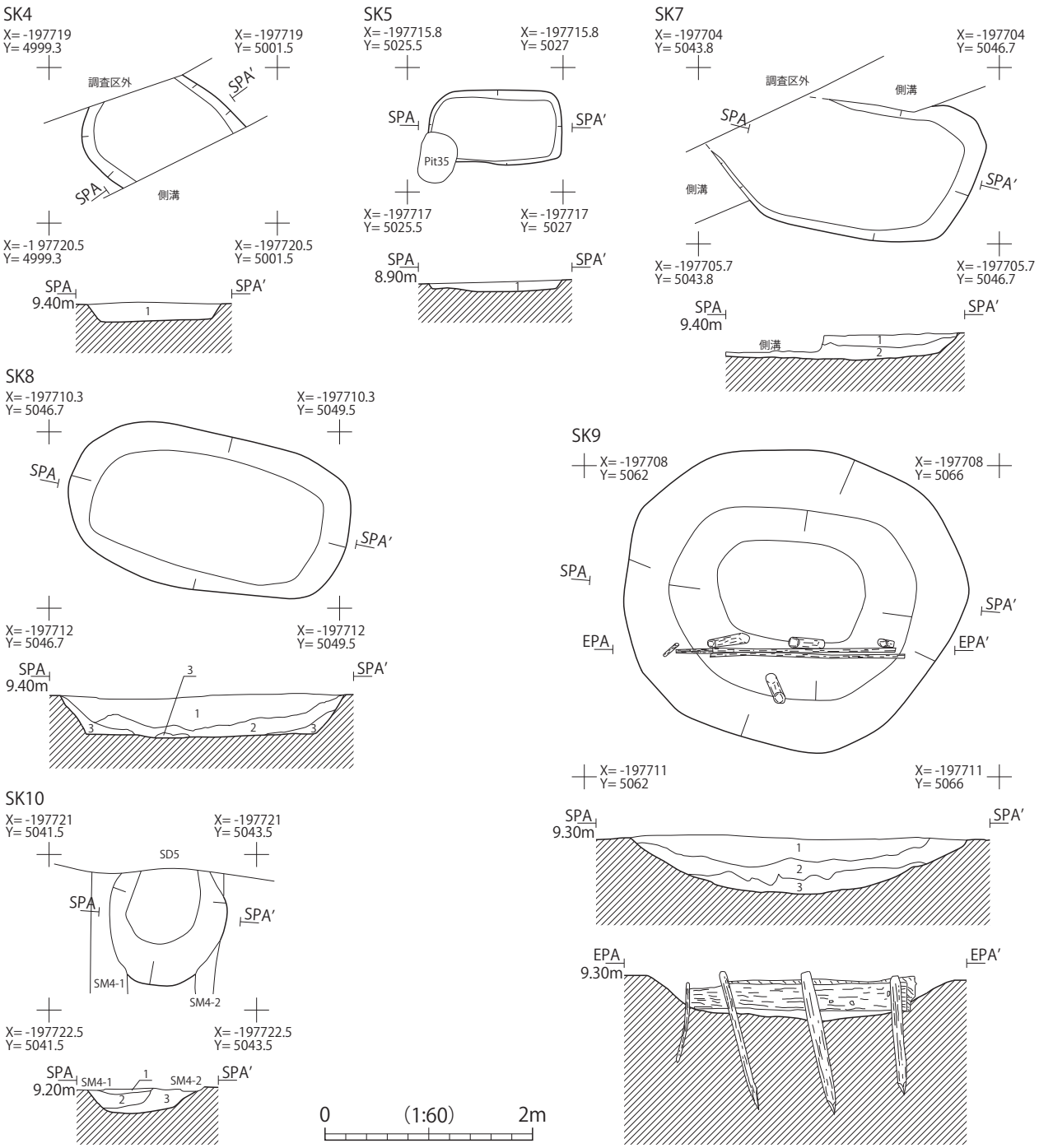
Ⅱ区で 1 基、Ⅲ区で 12 基、Ⅳ区で 4 基、Ⅴ区で 2 基の、19 基が検出された。長軸規模では SK9・17 の 330 ～ 333cm が最大、SK11 の 94cm が最小である。堆積土はシルトをもしくは粘土質シルトを主体とするが、色調は暗褐色～黒色と、にぶい黄褐色～灰黄褐色の二つの系統に分けられる。このうち SK1 ～ 4・8・15・17・19・22 の堆積土は、人為的埋土と考えられる。SK9 には木杭や板材が原位置を保って出土し、木枠を伴う何らかの掘り方と考えられる。遺物は SK1 ～ 4・6 ～ 9・11・15・17・18・22 から出土したが、土師器・須恵器の破片が主体であり、直接時期を示す遺物に乏しい。ただ SK7 からは古銭「寛永通寶」が、SK8・9・15 からはわずかに近世の陶磁器が出土している。SK3 の土師器甕 1 点・礫石器 1 点、SK07 の古銭 1 点、SK11 の土師器坏 1 点・甕 1 点、SK15 の陶器擂鉢 2 点・砥石 1 点、SK16 の木製品 1 点を掲載した（第 193・194 図）。



土坑 (中世～近世)　観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK1	96	楕円形	(110) × 140	53	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土ブロック・暗褐色粘土ブロック (50㎜程度) の混合。	
SK2	84	円形？	134 × (57)	24	1	5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	シルト	緑灰色砂質シルトブロック (30㎜程度) 多量含む。	
					2	7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	シルト	緑灰色砂少量含む。	
SK3	86･96	円形	176 × 160	22	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック (50 ～ 100㎜程度) との混合。	

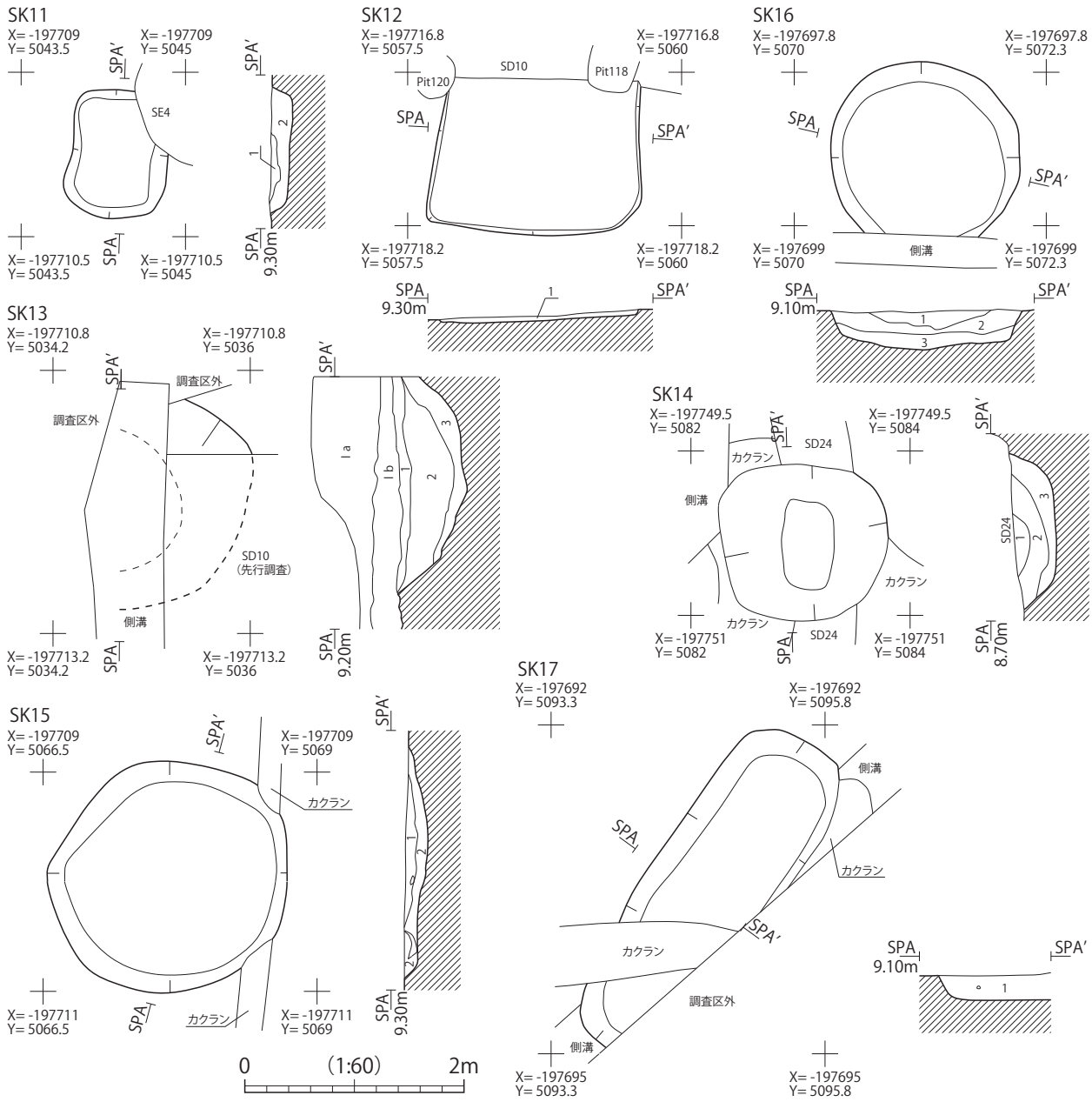
第 189 図　土坑（中世～近世）(1)



土坑（中世～近世） 観察表 (2)

遺構名	ｹﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK4	83・84	楕円形	(79) × 133	19	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	にぶい黄橙色シルト粒多量、炭化物微量含む。	
SK5	86	隅丸長方形	127 × 71	9	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	下部グライ化。	Pit5 より古い。
SK7	63・69	隅丸長方形	(230) × 130	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	SD9 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
SK8	78	隅丸長方形	275 × 152	40	1	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) との混合。	SD11、Pit222 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルト少量含む。	
SK9	71・80	円形	330 × 287	54	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、酸化鉄・マンガン含む。	SD9 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄・マンガン含む。	
					3	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
SK10	98	楕円形	(113) × 113	22	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SD5、SM4 より古い。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	上位にⅣ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 集中。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	

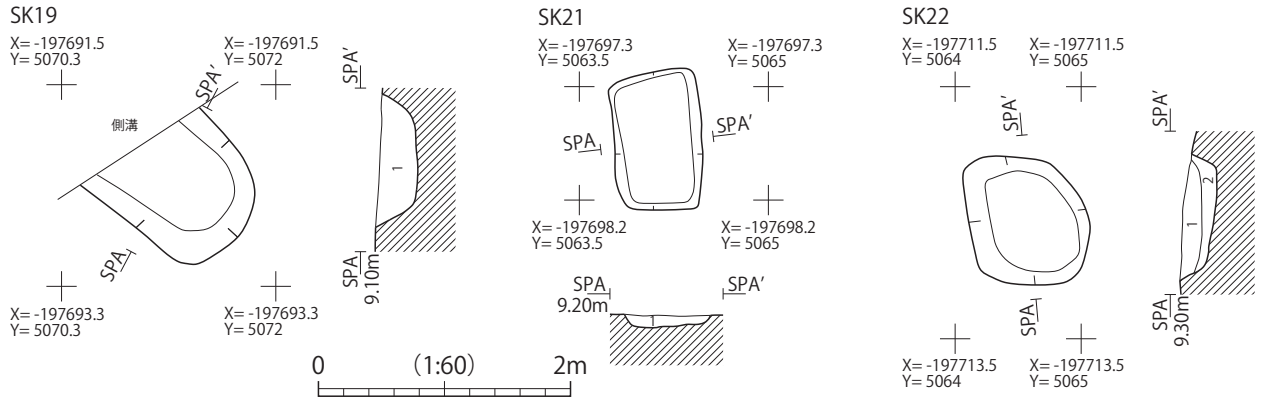
第 190 図　土坑（中世～近世）(2)



土坑 (中世～近世) 観察表 (3)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK11	69･78	隅丸長方形	94 × (33)	20	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック (10㎜程度)・炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	SE4 より古く、SD16･17･19 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
SK12	89	方形？	182 × (143)	8	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SD10、Pit118･120 より古く、Pit228･229 より新しい。
SK13	77	不明	(181) × (75)	51	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	SD10 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 100㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン微量含む。	
					3	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 100㎜程度) 多量、酸化鉄・マンガン微量含み、グライ化。	
SK14	115･116	隅丸方形	154 × 142	43	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量、酸化鉄含む。	SD24 より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、酸化鉄含む。	
					3	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄含む。	
SK15	71･80	円形	219 × 206	17	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	粘土質シルト	黄灰色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	SI8 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
SK16	60	円形	174 × 174	35	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。	SI7 より新しい。
					2	5Y2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物微量含む。	
					3	7.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含む。	
SK17	57	隅丸長方形	333 × 106	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 100㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	

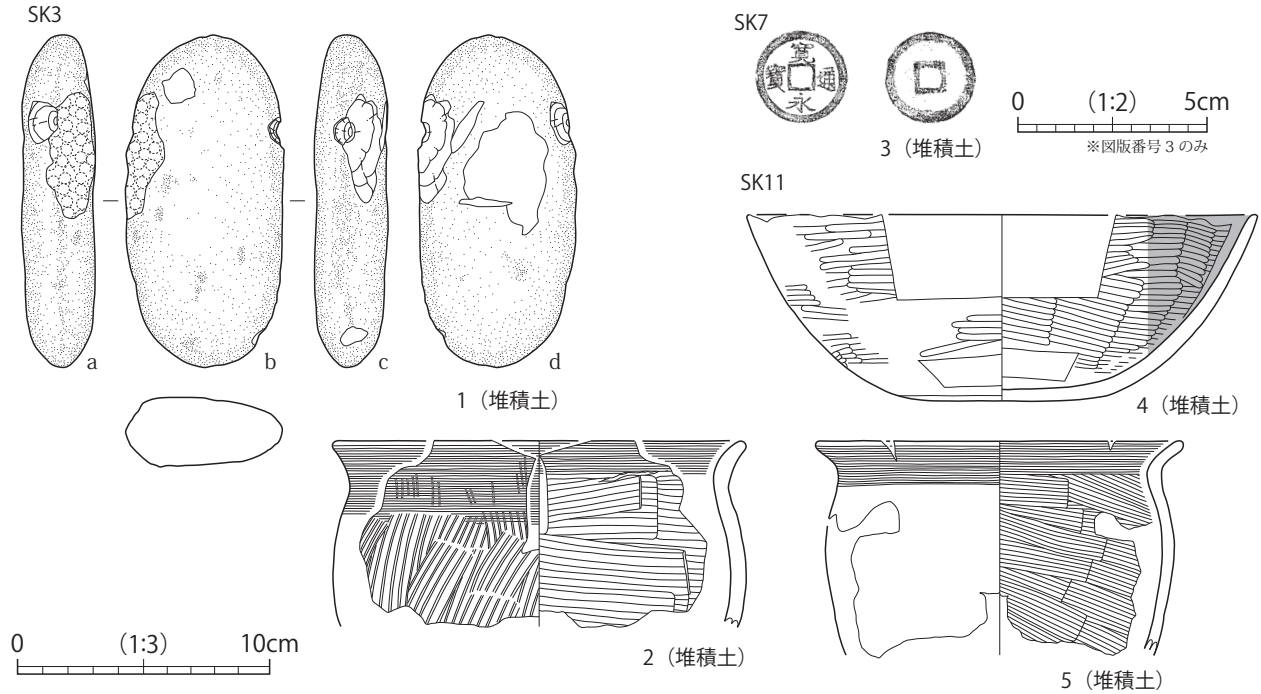
第 191 図　土坑（中世～近世）(3)



土坑 (中世～近世)　観察表 (4)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK19	55	楕円形	(105) × 100	28	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
SK21	59	隅丸長方形	108 × 71	11	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
SK22	80	不整方形	103 × 93	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	

第 192 図　土坑（中世～近世）(4)



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
1	Kc-010	Ⅳ区	SK3	堆積土	礫石器	不明	13.2	6.3	2.9	207.5	砂質凝灰岩	扁平礫、加工痕 (a･c･d 面)、完形品	28

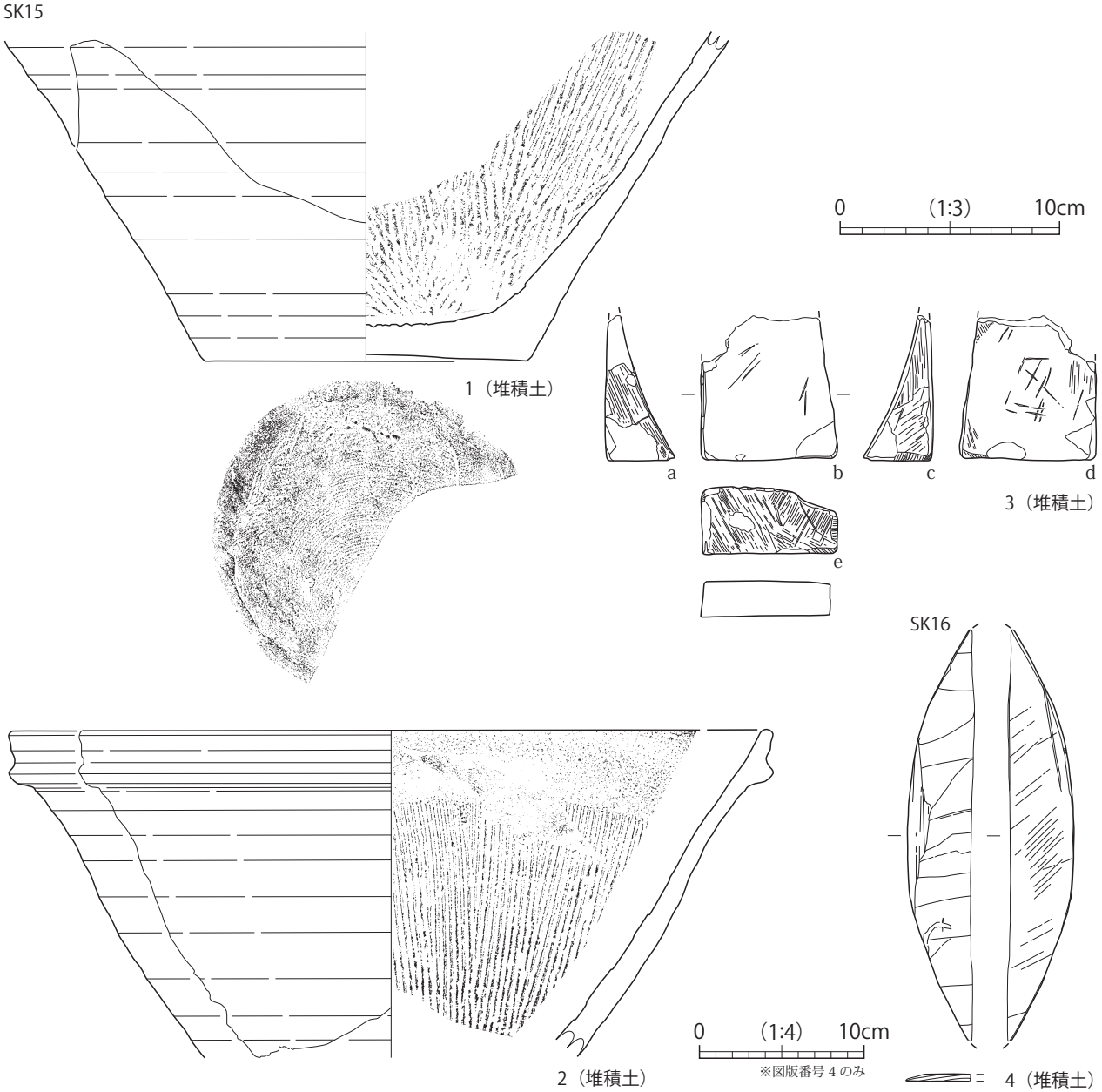
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
2	C-102	Ⅳ区	SK3	堆積土	土師器	甕	(16.2)	-	(7.4)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、体部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		28
4	C-107	Ⅲ区	SK11	堆積土	土師器	埦	-	-	(7.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		28
5	C-108	Ⅲ区	SK11	堆積土	土師器	甕	(14.4)	-	(8.5)	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		28

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
3	N-003	Ⅲ区	SK07	堆積土	金属製品	銭貨	径 2.4	-	0.15	2.4	寛永通寶 (古)、寛永 13(1636) 年初鋳	28

第 193 図　土坑（中世～近世）出土遺物（1）

第 193 図－ 1 の礫石器は、砂質凝灰岩製で、一部に工具痕が観察される。両側縁の上方を削り落とし、抉状に加工している。大型の石錘である可能性も考えられる。3 は「寛永通寶」の一文銭で、古寛永に分類される。4 は

土師器の埦で、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、内外面は丁寧にヘラミガキ調整される。内面は黒色処理である。第 194 図－ 1 の陶器は在地産の擂鉢である。擂目は 8 本 1 単位で、体部から底部にかけて隙間なく充填されている。2 も在地産の擂鉢で、1 と同様に 8 本 1 単位の擂目が充填されている。3 は流紋岩製の砥石である。b 面はかなり使い込まれており、このため断面が直角三角形を呈する。e 面には溝状痕が観察される。4 の木製品は桶の底板である。内面には削り加工の痕跡が観察される。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	I-020	Ⅲ区	SK15	堆積土	陶器	擂鉢	-	14.6	(15.0)	ロクロ調整	ロクロ調整、擂目 8 本 1 単位	鉄釉	28
2	I-021	Ⅲ区	SK15	堆積土	陶器	擂鉢	(34.8)	-	(14.9)	ロクロ調整	ロクロ調整、擂目 8 本 1 単位	鉄釉	29

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
3	Kd-018	Ⅲ区	SK15	堆積土	石製品	砥石	(6.6)	6.25	6.2	110.6	流紋岩	砥面 5 面、溝状痕 (a･b･d 面)、上部欠損	29

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層　位	種　別	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	備　　考	写真図版
4	L-031	V区	SK16	堆積土	桶底板	(24.9)	(3.9)	0.4	裏面刃物痕	29

第 194 図　土坑（中世～近世）出土遺物（2）

(6) ピット（第 195 ～ 202 図）

308 基が検出された。調査区ごとの検出数は、第 1 次調査の Ⅰ 区が 16 基、第 2 次調査の 2 区が 10 基、Ⅲ区が 237 基、Ⅳ区が 40 基、Ⅴ区が 5 基である。このようにピットはⅢ区に密集する傾向が強い。Pit151・202・224・238・294・302・307・308 は調査時の所見によれば他の遺構との重複関係から古代のピットとされるが、第 4 章と同様に一括報告する。観察表中の重複関係に古代の遺構も示したので、参考にされたい。また、SD10 周辺のピットについては両者の同時性が想定されるものが多いため、SD10 関連図である第 173 図にもその位置を示した。

前記の通りピットはⅢ区に集中する。全体で 98 基に柱痕跡が認められたが、機能や時期が判然としないピットが大半を占める。Pit43・50・52・53・115・117・123・124 は、埋没後の SD10 中軸上にほぼ一列に並ぶことから SD10 の区画を意識した柵の可能性も考えられる（第 198 図参照）。Pit159 は、底部からほぼ完形のかわらけ 2 点が出土しており、その埋納坑と考えられる。遺物は Pit6・21・22・34・40・46・48・52・53・63・69・74・84・85・87・89・90・97・101・104・106・109・110・112 ～ 114・130・140・142・149・154 ～ 156・159・162・164・165・177・178・183・185・191・203・205・221・232・234・247・248・253 ～ 256・258・260・263・266・269・270・275・276・282・287 の合計 63 基から出土している。ほとんどが土師器・須恵器の破片であり、具体的な時期を示すと思われる遺物は Pit154 から陶器擂鉢 1 点、Pit159 からかわらけ 2 点、Pit165 から陶器碗 1 点が出土した程度である。いずれも近世の所産である。Pit109 の石製品 1 点、Pit112 の須恵器壺 1 点、Pit114 の石製品 1 点、Pit159 のかわらけ 2 点、Pit255 の石製品 1 点を掲載した（第 195 図）。これらのピットは全てⅢ区に位置する。

ピット　観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit1	100	楕円形	23 × 14	24	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit2	100	隅丸方形	25 × 24	19	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、マンガン微量含む。	
Pit3	93･100	円形	22 × 20	18	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit4	93	隅丸方形	31 × 22	21	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	SB1 の範囲内。
Pit5	93	円形	37 × 35	17	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、白色粒微量含む。(柱痕跡)	SB1 の範囲内。
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit6	93	楕円形	33 × 27	14	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	SB1 の範囲内。
Pit7	93	楕円形	51 × (24)	34	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含み、大半がグライ化。(柱痕跡)	SB1 の範囲内。
					2	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含み、大半がグライ化。	
Pit8	93	円形	17 × 16	9	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・酸化鉄少量含み、一部グライ化。	SB1 の範囲内。
Pit9	101	楕円形	23 × 21	16	1	10YR5/1 褐灰色	粘土	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit10	102	楕円形	28 × 26	33	1	10YR5/1 褐灰色	粘土	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit11	102	不明	21 × (8)	18	1	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit12	100	隅丸方形	21 × 18	9	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit13	100	円形	31 × 29	28	1	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含み、ほぼ全面グライ化。	
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
Pit14	94･84	楕円形	37 × 35	6	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit15	84	楕円形	23 × 20	6	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
Pit16	84	楕円形	25 × 22	9	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
Pit17	84	楕円形	29 × 25	11	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit18	94	隅丸方形	60 × 57	9	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、灰白色シルトブロック (5㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit19	94･95	隅丸方形	64 × (48)	9	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、灰白色シルトブロック (5㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit20	86･96	円形	26 × 26	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 多量含む。	
Pit21	84	楕円形	49 × 40	56	1	7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	シルト	オリーブ黄色砂質シルト粒少量含む。	
					2	7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	シルト	―	
Pit22	84	楕円形	52 × 50	13	1	7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	シルト	オリーブ黄色砂質シルト粒少量含む。	
Pit23	76	楕円形	40 × 40	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit24	84	楕円形	(53) × 52	19	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色シルト粒多量、炭化物微量含む。	ｶｸﾗﾝより古い。
Pit25	76	隅丸方形	35 × 33	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、マンガン微量含み、下半部グライ化。(柱痕跡)	Pit36 より新しい。
Pit26	76･86	楕円形	56 × 52	17	1	2.5GY6/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	シルト	黒褐色シルトラミナ状に、炭化物微量含む。	Pit38 より新しい。
Pit27	86	楕円形	29 × 29	13	1	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含み、下半部グライ化。(柱痕跡)	
					2	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	

ピット　観察表 (2)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit28	86	楕円形	38 × 26	19	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含み、大半がグライ化。	
					2	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit29	76・86	楕円形	56 × 54	7	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトラミナ状に含む。	Pit37 より新しい。
					2	10YR7/2 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit30	86	隅丸方形	41 × 34	15	1	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit31	76	隅丸方形	30 × 30	26	1a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
Pit32	86	隅丸方形	58 × 47	8	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 多量み、下半部グライ化。	
Pit33	86	隅丸方形	41 × 30	12	1	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含み、下半部グライ化。(柱痕跡)	
					2	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit34	86	隅丸方形	47 × (38)	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。(柱痕跡)	SD5 より古い。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、マンガン微量含み、下半部グライ化。	
Pit35	86	隅丸方形	48 × 35	4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	SK5 より新しい。
Pit36	76	楕円形	27 × (17)	8	1	2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色	シルト	明黄褐色シルト粒多量含む。	Pit25 より古い。
Pit37	76	楕円形	(30) × 27	6	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	明黄褐色シルト粒多量含む。	Pit27 より古い。
Pit38	86	隅丸方形	41 × (21)	17	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	下部グライ化。	Pit26 より古い。
Pit39	100	円形	27 × 26	10	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒色シルト粒微量含む。	
Pit40	86	楕円形	56 × (25)	53	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色・黄褐色シルト粒多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					3	7.5YR5/6 明褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
Pit41	98	楕円形	65 × 49	53	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック斑状に多量含む。(柱痕跡)	SD5、SM4 より古い。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・黄白色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit42	98	楕円形	53 × 43	33	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					2b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit43	77	楕円形	44 × 36	16	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SD10 より新しい。
Pit44	88	楕円形	40 × 38	27	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、下位に焼土粒微量含む。(柱痕跡)	Pit75 より古く、SM1・4 より新しい。
					2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2b	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit45	88	楕円形	24 × 22	16	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、黄白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SM4 より古い。
Pit46	88	楕円形	76 × 48	44	1	10YR5/1 褐灰色	粘土	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 斑状に多量、炭化物微量含む。	SM1 より古い。
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土	黒褐色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit47	77	円形	32 × 30	21	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	SD10 より新しい。
					1b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
Pit48	77	円形	55 × 50	27	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	SD10 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
Pit49	77	楕円形	38 × 30	28	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物少量、酸化鉄微量含む。	SD10 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit50	78	楕円形	42 × 34	31	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量、酸化鉄微量含む。	SD10 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit51	87	楕円形	26 × 25	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit52	78	楕円形	40 × 31	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD10 より新しい。
					2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
					2b	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit53	78	円形	45 × 43	39	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	黄白色粘土ブロック (20㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	SD10 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄白色粘土ブロック (10㎜程度)・酸化鉄少量、炭化物微量含む。	
Pit54	98	楕円形	43 × 36	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	
Pit55	98	楕円形	21 × 20	7	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	
Pit56	98	隅丸方形	40 × 34	21	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit57	98	楕円形	36 × 30	10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。	
Pit58	98	楕円形	32 × 27	24	1	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
Pit59	98	円形	18 × 18	12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・マンガン微量含む。	
Pit60	64	楕円形	57 × 53	25	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	SD13 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
Pit61	98	円形	35 × 32	14	1	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit62	105	円形	32 × 29	38	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit63	104・105	円形	30 × 29	24	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、黒褐色シルト粒微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit64	104	楕円形	25 × 22	15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit65	104	楕円形	25 × 20	13	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
Pit66	104	楕円形	29 × 28	37	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit67	104	楕円形	22 × 22	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	Pit239 より新しい。

ピット　観察表 (3)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit68	70	隅丸方形	58 × 57	20	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
Pit69	80	楕円形	104 × 84	72	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	焼土粒多量、炭化物微量、酸化鉄含み、グライ化。(柱痕跡)	SD10、Pit205 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物微量、酸化鉄含み、グライ化。	
					3	7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 少量、酸化鉄含む。	
					4	7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit70	104	楕円形	31 × 29	25	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit71	97	楕円形	50 × 47	26	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SM3 より古い。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit72	98	楕円形	32 × 28	13	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit73	88	楕円形	31 × 26	17	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黄橙色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含み、上位に灰色粘土ブロック堆積。	
Pit74	88	楕円形	41 × 32	34	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit75	88	楕円形	35 × 29	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐灰色シルト粒含む。	SM1・4、Pit44 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit76	88・98	円形	55 × 53	17	1a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	炭化物微量含む。	SM1 より古い。
					1b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	―	
Pit77	88	楕円形	29 × 25	46	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰白色火山灰・黄白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SM1・3 より古い。
Pit78	88	円形	25 × 23	28	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit79	88	楕円形	45 × 35	32	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄白色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit80	88	楕円形	45 × 38	56	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	黄白色シルトブロック (10㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	Pit81 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit81	88	楕円形	38 × 23	33	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	Pit80 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit82	88	楕円形	41 × 32	29	1a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit83	88	円形	30 × 27	22	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物少量含む。	
Pit84	88	楕円形	36 × 33	39	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、黄白色シルトブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit85	88	楕円形	31 × 29	15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit86	99	楕円形	27 × 21	20	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit87	89	隅丸方形	55 × 54	53	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	炭化物少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	Pit110 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					3a	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。	
					3b	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物少量含む。	
					4a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
					4b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit88	89	楕円形	19 × 17	14	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit89	88	楕円形	27 × 26	7	1	2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM1 より古い。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
Pit90	88・89	楕円形	34 × 29	21	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit91	87	楕円形	25 × 22	25	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
Pit92	87	円形	25 × 23	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit93	87	楕円形	22 × 16	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit94	87	楕円形	37 × 31	29	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit95	89	楕円形	45 × 44	42	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック (20㎜程度) 多量含む。	
Pit96	98	楕円形	28 × 22	12	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量含み、下位にⅣ層土ブロックラミナ状に堆積。	
Pit97	69	楕円形	31 × 29	23	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)	SD9 より新しい。
					2a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
					2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック少量、炭化物微量含む。	
Pit98	69	楕円形	34 × 33	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。	Pit99 より新しい。
					2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト粒少量含む。	
Pit99	69	楕円形	78 × (48)	49	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物微量含む。	SD9、Pit98 より古い。
Pit100	88	楕円形	31 × 24	20	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	SM1 より古い。
Pit101	88	円形	27 × 26	20	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit102	89	楕円形	23 × 21	17	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit103	89	円形	20 × 19	7	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、灰白色粘土ブロック・炭化物微量含む。	

ピット　観察表 (4)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit104	89	楕円形	43 × 30	35	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量含み、上位に炭化物集中	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit105	89	楕円形	33 × 32	23	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	黄白色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit106	89	楕円形	33 × 32	23	1	2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	下位に酸化鉄凝縮	SD13･22 より新しい。
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	炭化物・酸化鉄少量含む。	
Pit107	99	円形	22 × 22	20	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。	SD13 より新しい。
Pit108	70	楕円形	32 × 27	25	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD9 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit109	89･99	円形	95 × 90	39	1a	10YR5/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物多量、Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物・酸化鉄少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に多量含む。	
					4	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロックとの互層	
Pit110	89	楕円形	25 × (18)	26	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物多量含む。(柱痕跡)	Pit87 より古い。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物少量、小礫・酸化鉄微量含む。	
Pit111	80	楕円形	74 × 61	72	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	焼土粒多量、炭化物微量、酸化鉄含み、グライ化。(柱痕跡)	Pit204 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含み、グライ化。	
					3	10Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含み、グライ化。	
					4	7.5Y2/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30㎜程度) 少量含み、グライ化。	
Pit112	80	隅丸方形	57 × 48	21	1	N2/0 黒色	シルト	グライ化。(柱痕跡)	Pit204 より新しい。
					2	5GY2/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	シルト	Ⅳ層土粒多量含み、グライ化。	
Pit113	80	楕円形	36 × 33	27	1	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	SD10 より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit114	80	楕円形	85 × 71	53	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含み、グライ化。	SD10、Pit203 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物少量含み、グライ化。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 40㎜程度) 多量含む。	
Pit115	90	楕円形	27 × 23	28	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	SD10 より新しい。
Pit116	80	楕円形	82 × 71	77	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物・酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	SD10･12、Pit159 より新しい。
					1b	10YR4/6 褐色	シルト	(柱痕跡)	
					2a	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。	
					2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、マンガン含む。	
					3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	マンガン含み、Ⅳ層土・褐色シルトの混合	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit117	79･80 89･90	楕円形	45 × 40	39	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD10 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
					3	5Y4/1 灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit118	89	隅丸方形	54 × 46	32	1	7.5YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。(柱痕跡)	SD10、SK12 より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、砂微量含む。	
					3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 少量、砂微量含み、グライ化。	
Pit119	90	楕円形	30 × 28	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	SD10 より新しい。
Pit120	89	楕円形	49 × 42	25	1	5Y4/1 灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含み、グライ化。(柱痕跡)	SD10､SK12､Pit230 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 多量含み、一部グライ化。	
					3	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit121	89	楕円形	45 × 40	45	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、酸化鉄含む。(柱痕跡)	SD10 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					3	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit122	89	楕円形	23 × 22	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	SD10 より新しい。
Pit123	79･89	楕円形	55 × 49	28	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含み、グライ化。	SD10 より新しい。
Pit124	79･89	楕円形	40 × 30	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	SD10 より新しい。
					2	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。	
Pit125	79	隅丸方形	63 × 41	9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SD10･12 より新しい。
Pit126	79	隅丸方形	49 × 39	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SD10･12 より新しい。
Pit127	89	楕円形	53 × 42	28	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit128	89	隅丸方形	48 × 43	26	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	Pit131 より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit129	90	隅丸方形	30 × (26)	19	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。(柱痕跡)	Pit130 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit130	89･90	楕円形	30 × (20)	23	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	Pit129 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
Pit131	89	楕円形	23 × (20)	5	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	Pit128 より古い。
Pit132	89	楕円形	44 × 40	17	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD13 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
Pit133	89	楕円形	30 × 24	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit134	89	楕円形	30 × 28	32	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit135	80･90	楕円形	26 × 23	27	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物微量、酸化鉄含む。	SD10 より新しい。
Pit136	80	楕円形	42 × 32	25	1	10YR4/1 褐灰色	粘土	柱材含む。(柱痕跡)	Pit137･206 より新しい。
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
					3	10YR5/1 褐灰色	シルト	酸化鉄少量、炭化物微量含む。	
Pit137	80	方形	104 × 53	35	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含み、グライ化。(柱痕跡)	Pit136 より古く、Pit206 より新しい。
					2	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量含み、グライ化。	
					3a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物微量含む。	
					3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	
					3c	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。	

ピット　観察表 (5)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit138	89	円形	25 × 25	31	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit139	89	楕円形	51 × 38	31	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit140	89	楕円形	40 × 33	7	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD13 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (40㎜程度) 少量含む。	
Pit141	99	楕円形	31 × 30	39	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD13 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
Pit142	89	楕円形	26 × 24	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD13 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
Pit143	89	隅丸方形	40 × 40	43	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐色シルト粒・酸化鉄・マンガン含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・酸化鉄含む。(柱痕跡)	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	黒色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
Pit144	89	楕円形	27 × 21	31	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量、酸化鉄含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit145	89	隅丸方形	47 × 46	59	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit146	69	楕円形	31 × 29	15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	SD21 より新しい。
Pit147	69	円形	28 × 28	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	SD11・21 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit148	78・79	楕円形	35 × 25	21	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit149	70・79	楕円形	52 × 45	31	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物・酸化鉄微量含む。	
Pit150	89	隅丸方形	41 × 40	75	1	2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色	シルト	褐色シルトブロック (30㎜程度) 多量含む。	
					2	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト粒多量含む。	
Pit151	89	楕円形	17 × 12	12	1	10YR5/1 褐灰色	粘土	黄白色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	SD13 より古い。
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
Pit152	69	楕円形	26 × 24	18	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	SD20 より新しい。
Pit153	69	楕円形	25 × 24	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SD15 より新しい。
Pit154	69	円形	34 × 33	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SI4 より新しい。
Pit155	69	隅丸方形	75 × 48	33	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	SI4 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit156	68・69	円形	66 × 66	38	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	SI4 より新しい。
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・灰白色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit157	68・69	円形	25 × 24	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	SI4 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit158	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD9-P1 に変更)	
Pit159	80	楕円形	81 × (66)	47	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 50㎜程度) 少量含み、下部グライ化。	Pit116 より古く、SD10・12 より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit160	64・70	楕円形	33 × 32	34	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit161	70	円形	26 × 25	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	Pit173 より新しい。
Pit162	79	円形	35 × 33	26	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物少量含む。	
Pit163	80	隅丸方形	65 × 50	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 40㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	SD14、SK23 より新しい。
Pit164	80	楕円形	40 × 38	16	1	N3/0 暗灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	Pit204 より新しい。
Pit165	80	楕円形	65 × 56	29	1	7.5YR1.7/1 黒色	シルト	Ⅳ層土粒少量含み、グライ化。	SD23 より新しい。
					2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含み、グライ化。	
					3	5GY2/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含み、グライ化。	
Pit166	80	楕円形	51 × 42	28	1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含み、グライ化。(柱痕跡)	Pit204 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含み、グライ化。	
					3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 微量含み、グライ化。	
Pit167	79	隅丸方形	61 × 54	26	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	SD23 より新しい。
Pit168	80	楕円形	59 × 49	33	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。	SD14 より新しい。
					2	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit169	79	円形	28 × 27	7	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit170	70・79	楕円形	27 × 27	15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit171	79	円形	30 × 29	15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit172	70	楕円形	46 × 33	16	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	酸化鉄多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄多量、炭化物微量含む。	
Pit173	70	円形	26 × (21)	12	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	Pit161 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit174	70	楕円形	38 × 36	19	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
Pit175	70	楕円形	73 × 61	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
					2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit176	70	楕円形	54 × 50	21	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄少量含み、上位にⅣ層土ブロック集中。	
Pit177	71	楕円形	26 × 23	25	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、マンガン微量含む。(柱痕跡)	SD23 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit178	71	楕円形	62 × 58	24	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	

ピット　観察表 (6)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit179	70	楕円形	39 × 37	32	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	マンガン微量含む。	
Pit180	70	楕円形	30 × 28	20	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit181	71	円形	20 × 19	16	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
Pit182	71	円形	24 × 23	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
Pit183	71	楕円形	63 × 58	28	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					3	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度)・炭化物少量含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit184	65・71	楕円形	32 × (26)	23	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit185	64・70 71	円形	44 × 44	24	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、酸化鉄微量、柱材含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	Pit231 より新しい。
					2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄多量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit186	70	楕円形	26 × 22	10	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)	Pit231 より新しい。
					2	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
Pit187	64・70	円形	22 × 22	18	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit188	64・70	楕円形	23 × 15	18	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	Pit232 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit189	64	円形	25 × 23	19	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	Pit232 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit190	71	楕円形	28 × 26	29	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit191	64・70	円形	34 × 34	24	1	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量、柱材含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit192	70	円形	30 × 29	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	
					2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit193	70	円形	27 × 27	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit194	70	楕円形	27 × 23	13	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄微量含む。	
Pit195	70	楕円形	19 × 14	14	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit196	64・70	楕円形	24 × (16)	13	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 微量含む。	
Pit197	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD14-P4 に変更)	
Pit198	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD14-P5 に変更)	
Pit199	71	円形	20 × 18	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit200	71	円形	21 × 20	23	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit201	71	円形	25 × 24	18	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。	
					2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit202	80	楕円形	77 × 32	18	1	7.5YR5/6 明褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	SD12 より古い。
Pit203	80	隅丸方形	126 × 72	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	Pit114 より古い。
Pit204	80	楕円形	64 × (57)	36	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物微量含み、グライ化。	Pit111・112・166 より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量、酸化鉄含み、グライ化。	
Pit205	80	隅丸方形	85 × (67)	28	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物・酸化鉄微量含み、グライ化。	Pit69・136 より古い。
					2	2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit206	80	隅丸方形	75 × 49	53	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン含む。	Pit136・137 より古い。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物少量含み、グライ化。	
Pit207	79	楕円形	29 × 25	11	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit208	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD14-P1 に変更)	
Pit209	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD14-P2 に変更)	
Pit210	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD14-P3 に変更)	
Pit211	64	楕円形	36 × 35	22	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄少量、灰白色火山灰？微量含む。	
Pit212	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD14-P6 に変更)	
Pit213	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD9-P4 に変更)	
Pit214	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD9-P3 に変更)	
Pit215	79	楕円形	34 × 32	10	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit216	79	楕円形	44 × 36	16	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	炭化物多量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit217	79	楕円形	32 × 27	10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、マンガン微量含む。	
Pit218	79	楕円形	37 × 25	12	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・灰白色火山灰か少量、焼土粒微量含む。	
Pit219	79	隅丸方形	61 × 50	15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit220	79	円形	27 × 27	31	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit221	78・79	楕円形	32 × 30	30	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・灰白色火山灰か少量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
Pit222	78	楕円形	32 × (21)	8	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SK8 より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit223	78	楕円形	27 × 23	11	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。	SD8 より古い。
Pit224	78	楕円形	26 × 25	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD17・18 より古い。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	炭化物微量含む。	

ピット　観察表 (7)

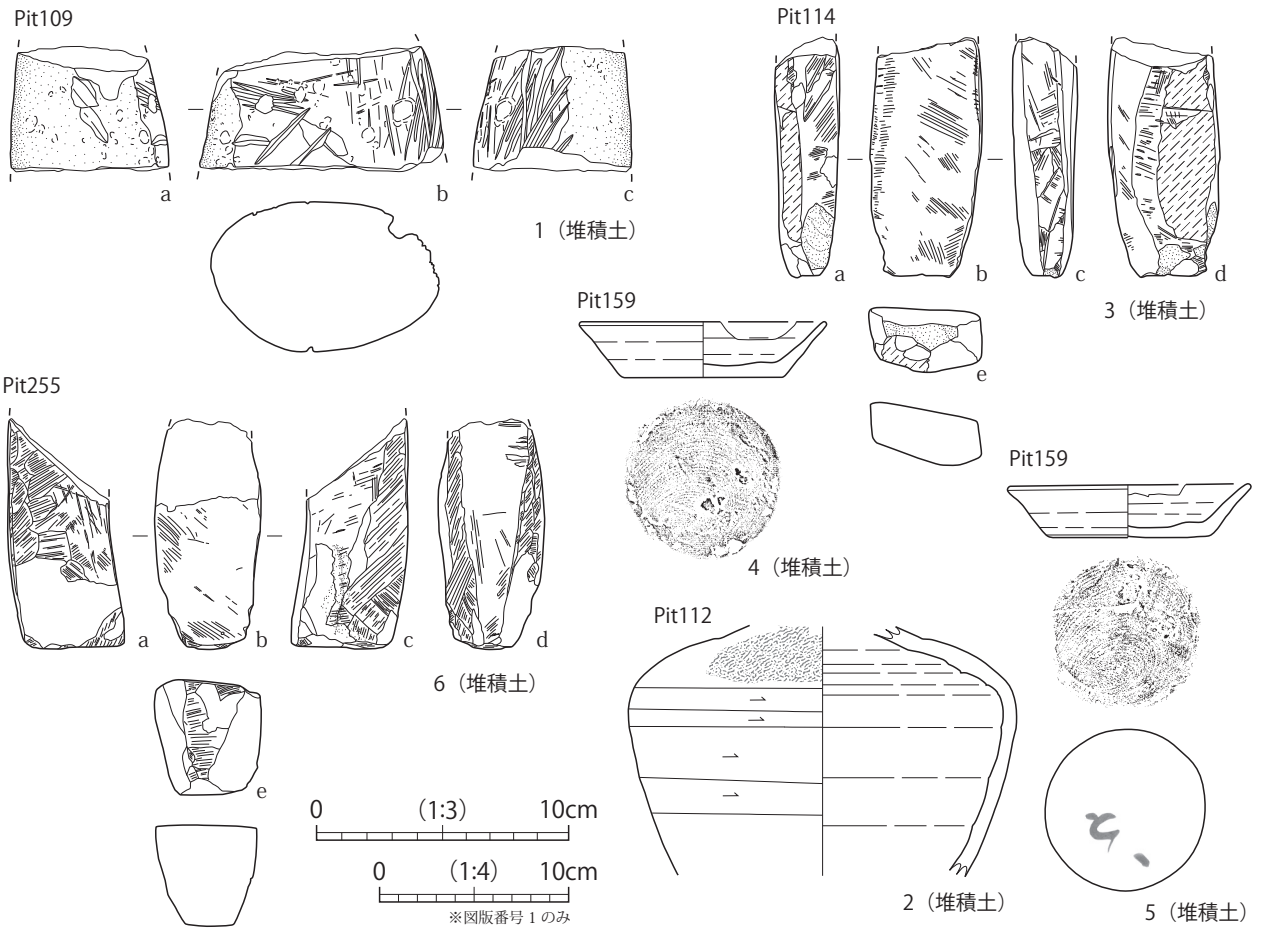
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit225	69	楕円形	45 × 37	25	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit226	69	隅丸方形	51 × (45)	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	SD9 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
Pit227	—	—	—	—	—	—	—	欠番 (SD9-P2 に変更)	
Pit228	89	楕円形	40 × 36	30	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	SK12 より古い。
Pit229	89	楕円形	43 × 35	18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	SK12 より古い。
Pit230	89	楕円形	(37) × 32	21	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	Pit120 より古い。
Pit231	64・70	隅丸方形	(115) × 93	23	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量、灰白色砂質シルト粒含む。	Pit185・186 より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
Pit232	64・70	隅丸方形	97 × 91	33	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。	Pit188・189 より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物少量、酸化鉄含む。(柱痕跡)	
					3a	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					3b	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit233	65	楕円形	47 × (45)	24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物少量、酸化鉄含む。(柱痕跡)	SI7 より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒多量、炭化物微量、酸化鉄含む。	
Pit234	80	隅丸方形	100 × (90)	58	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	Pit163 より古く、SD14 より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。	
Pit235	79	楕円形	32 × 28	18	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	SI6 より新しい。
Pit236	63	隅丸方形	28 × 27	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit237	69	楕円形	24 × 20	18	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
Pit238	97	隅丸方形	57 × (48)	8	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、灰白色粘土粒少量含む。	SI2、SM3 より古い。
Pit239	104	円形	35 × 34	20	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SD11、Pit67 より古い。
Pit240	88	円形	27 × 24	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。	
Pit241	87	隅丸方形	29 × 29	16	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。	
Pit242	77・87	隅丸方形	(44) × 29	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	SD10 より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit243	99	楕円形	62 × 49	33	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ラミナ状に含む。	SD5 より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
Pit244	99	楕円形	42 × 41	20	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30㎜程度) 多量含み、グライ化。	
Pit245	49	楕円形	(55) × (48)	89	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、マンガン微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン少量、黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	酸化鉄・マンガン少量含む。	
Pit246	43	楕円形	(82) × (57)	62	1	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	シルト	炭化物少量、暗オリーブ灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
					2	2.5GY6/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	シルト	暗オリーブ灰色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
					3	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	シルト	明オリーブ灰色シルトブロック少量含む。	
					4	10Y6/1 灰色	粘土質シルト	オリーブ灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
					5	7.5Y6/1 灰色	粘土	酸化鉄微量含む。	
					6	10YR4/1 褐灰色	粘土	酸化鉄少量、マンガン微量含む。	
Pit247	45	楕円形	(90) × (38)	22	1	5GY5/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物少量含む。	SE8 より新しい。
					2	2.5GY6/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	シルト	暗オリーブ灰色シルトブロック縞状に含む。	
					3	2.5GY6/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	シルト	暗オリーブ灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit248	43	楕円形	85 × 73	30	1	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	拳大の礫多量、にぶい黄橙色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
Pit249	114	円形	22 × 20	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	SD24 より古い。
Pit250	115	楕円形	24 × 19	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含み、グライ化。	
Pit251	115	円形	28 × 26	9	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit252	115	楕円形	31 × 27	13	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含み、グライ化。	
Pit253	114	円形	25 × 25	19	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土含む。	
Pit254	114	円形	29 × 29	18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit255	81	隅丸方形	97 × 81	59	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄少量含む。(柱痕跡)	SD27 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (20㎜程度) 多量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit256	81	楕円形	61 × 57	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD27 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit257	71	円形	37 × 36	15	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	SI8 より新しい。
Pit258	81・91 92	楕円形	68 × 61	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	SD27 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit259	62	方形	57 × 56	19	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含み、Ⅳ層土ブロック・黒色シルトブロックの混合。	
Pit260	57	円形	36 × 35	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量、焼土ブロック ((5㎜程度)・炭化物微量含む。	
Pit261	61	楕円形	33 × 28	21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
Pit262	67	楕円形	23 × 19	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・焼土粒微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit263	67	楕円形	42 × 34	21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度) 多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
Pit264	67	楕円形	38 × 32	21	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。	
Pit265	61	隅丸方形	48 × 42	27	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
					2	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄少量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	

ピット　観察表 (8)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit266	56•61	楕円形	81 × 62	26	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ラミナ状に、酸化鉄微量含む。	
Pit267	92	円形	43 × 40	15	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。	
Pit268	91•92	楕円形	30 × 26	18	1	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、マンガン微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・マンガン微量含む。	
Pit269	72	楕円形	63 × (28)	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン微量含む。	SD9 より古い。
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック (10㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit270	72•81	円形	23 × 22	21	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit271	80•81	楕円形	31 × 23	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit272	81	隅丸方形	53 × 34	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD14 より新しい。
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit273	81	円形	24 × 23	21	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit274	81	楕円形	66 × (25)	40	1	2.5Y6/1 黄灰色	砂質シルト	酸化鉄多量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄多量、炭化物微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
Pit275	81	楕円形	73 × 54	31	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	SI10 より古い。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・焼土粒少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit276	72	円形	23 × 21	26	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
Pit277	81	円形	30 × 30	7	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	SD27 より新しい。
Pit278	81	楕円形	28 × 25	11	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit279	81	円形	28 × 27	37	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。	SI10 より古い。
Pit280	81	楕円形	32 × 27	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量、焼土塊含む。	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。	
Pit281	81	楕円形	33 × 25	17	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に、焼土粒・炭化物少量含む。	SD27 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit282	72•81	円形	73 × 62	29	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土粒少量、炭化物微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit283	59	楕円形	28 × 24	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit284	59	円形	26 × 24	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。	
Pit285	59	円形	18 × 17	6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
Pit286	60	円形	39 × 37	25	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit287	55	円形	45 × 43	7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
Pit288	90	楕円形	47 × (33)	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。	Pit289 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含み、グライ化。	
Pit289	90	楕円形	(28) × 27	19	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒多量含む。(柱痕跡)	Pit288 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルト粒多量、炭化物少量含む。	
					3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。	
Pit290	80	楕円形	22 × 17	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit291	80	楕円形	30 × 25	16	1	N3/0 暗灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 30㎜程度) 多量含み、グライ化。	
Pit292	80	楕円形	30 × 25	21	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	黒色シルト粒多量、炭化物少量含む。	
Pit293	80	楕円形	22 × 20	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 多量含む。	
Pit294	80	楕円形	22 × 20	9	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含み、グライ化。	SD14 より古い。
Pit295	72	楕円形	(40) × 65	13	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含み、グライ化。(柱痕跡)	ｶｸﾗﾝより古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量、炭化物微量含み、グライ化。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	
Pit296	80	楕円形	24 × 23	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SK9 より古い。
Pit297	92	楕円形	48 × 38	7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。	
Pit298	92	円形	28 × 27	18	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト粒多量含み、グライ化。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含み、グライ化。	
Pit299	65	楕円形	(25) × 22	23	1	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐色シルトブロック (30㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・焼土粒・炭化物微量含む。	
Pit300	91•92	楕円形	51 × 41	29	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
Pit301	91•92	楕円形	60 × 52	51	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	
Pit302	33	円形	30 × 28	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄斑状少量、浅黄橙色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。	SD2 より古い。
					2	2.5Y6/2 灰黄色	粘土	マンガン微量含む。	
					3	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄多量含む。	
Pit303	19	円形	38 × 37	29	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土粒少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土	灰色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・酸化鉄少量含む。	
Pit304	19	楕円形	38 × 33	24	1a	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土粒少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					1b	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土	灰白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄斑状微量含む。	
Pit305	13	円形	36 × 35	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	浅黄橙色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	

ピット　観察表 (9)

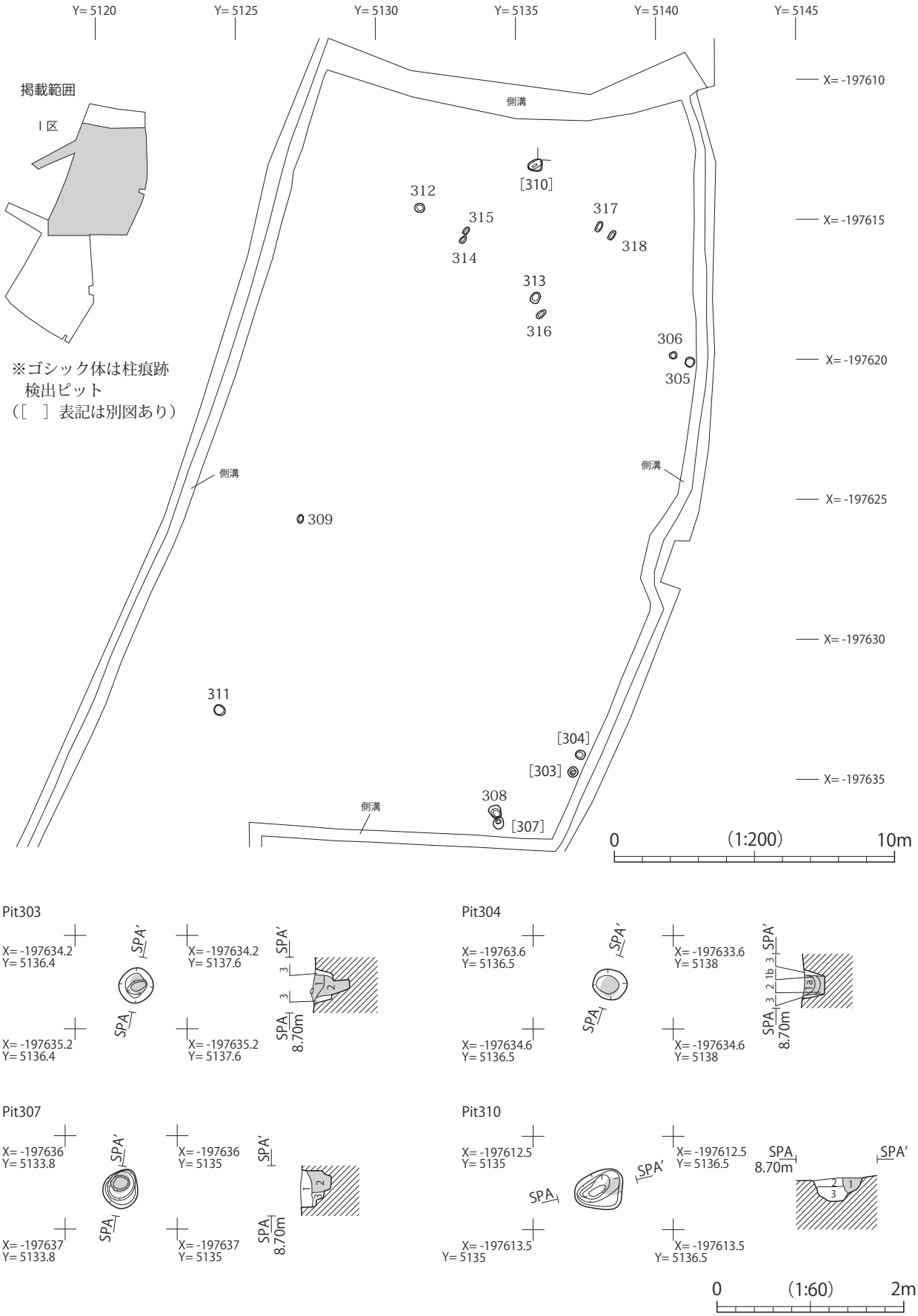
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit306	10	楕円形	28 × 22	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	浅黄橙色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・マンガン少量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土	浅黄橙色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	
Pit307	23	円形	39 × 39	37	1	10YR3/1 黒褐色	粘土	灰白色土粒少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	粘土	(柱痕跡)	SD1 より古い。
					3	10YR5/1 褐灰色	粘土	灰白色土粒少量含む。	
Pit308	23	隅丸方形	46 × 41	16	1	10YR3/1 黒褐色	粘土	灰白色土粒少量含む。	SD1 より古い。
Pit309	14	楕円形	33 × 24	13	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰白色土ブロック (3 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
Pit310	6	楕円形	52 × 42	24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	浅黄橙色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄少量、浅黄橙色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン微量含む。	
Pit311	18	楕円形	43 × 38	8	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄少量含む。	
Pit312	6	円形	35 × 34	9	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色土粒少量含む。	
Pit313	9	楕円形	42 × 35	12	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰色シルトブロック (10㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。(柱痕跡)	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン少量含む。	
Pit314	9	楕円形	32 × 19	7	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (5㎜程度) 微量含む。	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄・マンガン微量含む。	
Pit315	9	楕円形	30 × 18	6	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトラミナ状に、酸化鉄微量含む。	
Pit316	9	楕円形	43 × 23	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトラミナ状に、酸化鉄微量含む。	
					2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄少量、白色粒微量含む。	
Pit317	9	楕円形	40 × 20	8	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (10㎜程度) 少量含む。	
Pit318	9	楕円形	38 × 20	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	浅黄橙色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。	



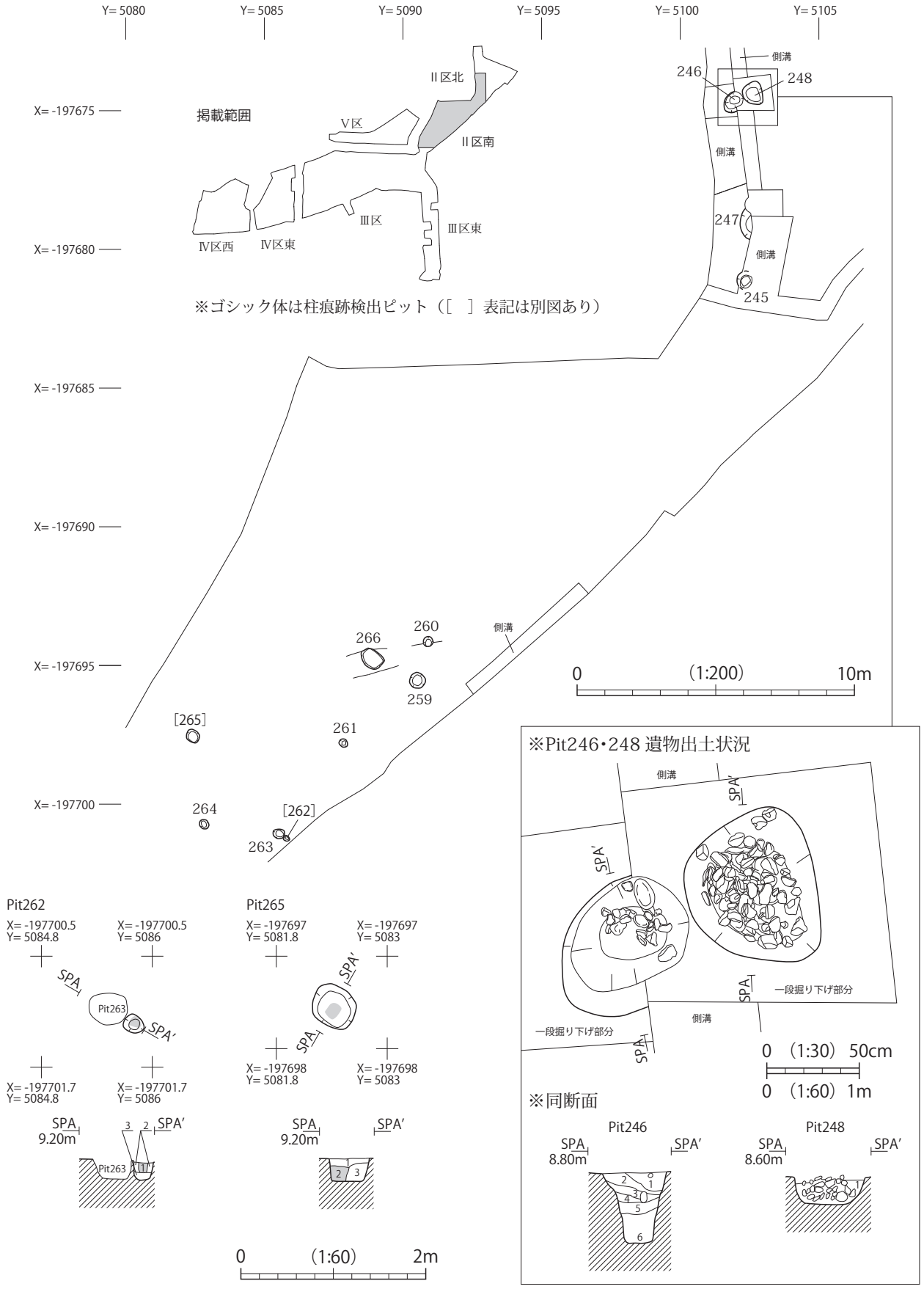
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
1	Kc-011	Ⅲ区	Pit109	堆積土	石製品	砥石	(6.0)	(12.2)	(12.0)	620.0	軽石質凝灰岩	砥面 2 面、溝状痕 (b・c 面)、欠損品	29
3	Kd-019	Ⅲ区	Pit114	堆積土	石製品	砥石	(9.55)	4.5	2.6	144.4	変質流紋岩	砥面 5 面、上部欠損	29
6	Kd-020	Ⅲ区	Pit255	堆積土	石製品	砥石	(9.15)	4.7	4.7	203.8	変質流紋岩	砥面 5 面、上部欠損	29

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
2	E-152	Ⅲ区	Pit112	堆積土	須恵器	壺	-	-	(9.9)	ロクロ調整、体部下半回転ヘラケズリ、自然釉	ロクロ調整、湖西類似		29
4	I-025	Ⅲ区	Pit159	堆積土	土師質土器	皿	9.8	6.4	2.2	ロクロ調整、底部回転糸切り	ロクロ調整		29
5	I-042	Ⅲ区	Pit159	堆積土	土師質土器	皿	9.7	6.4	2.1	ロクロ調整、底部回転糸切り	ロクロ調整	墨書あり	29

第 195 図　Ⅲ区ピット出土遺物

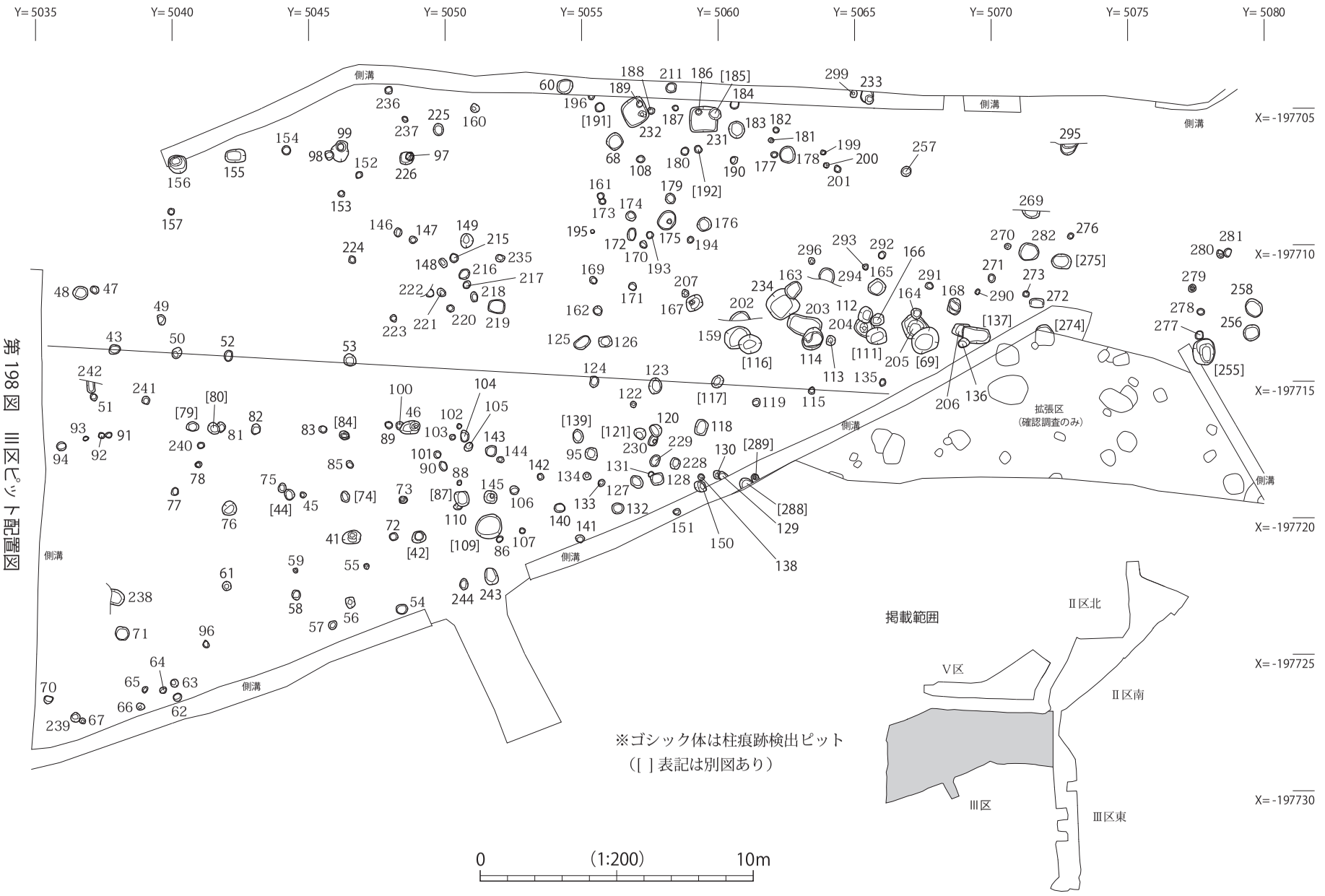


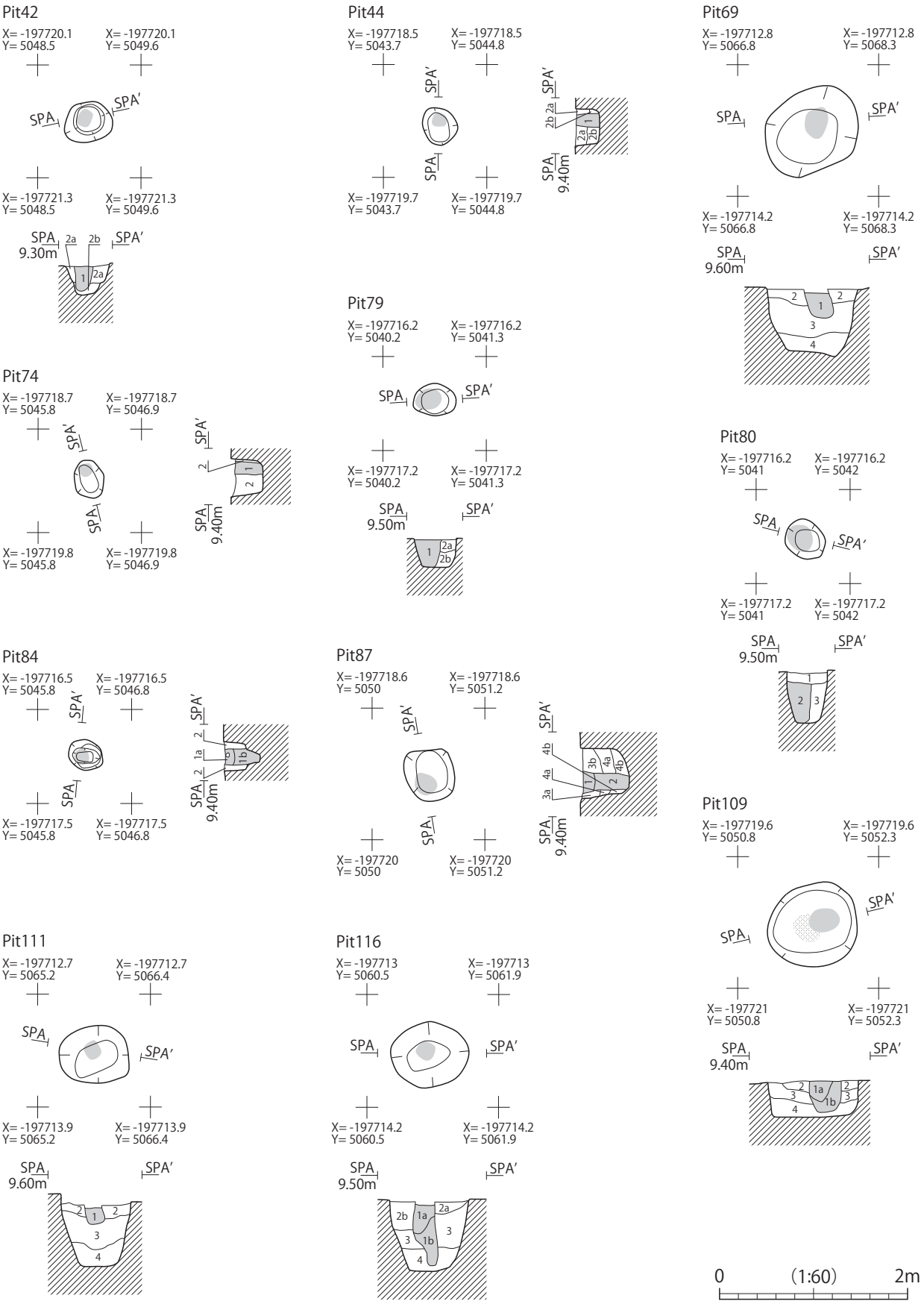
第 196 図　Ⅰ区ピット　※個別図は一部抜粋



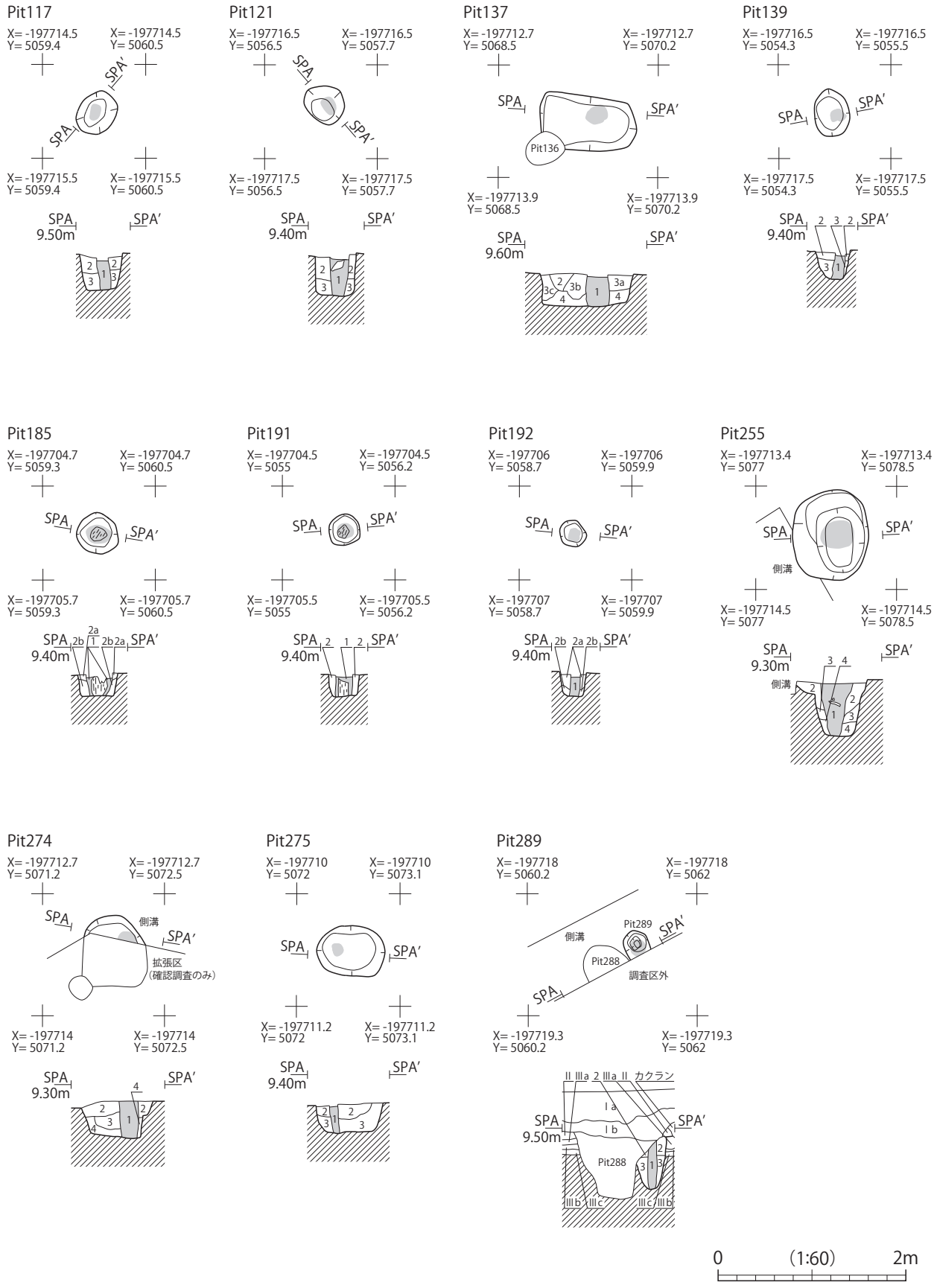
第 197 図　Ⅱ区ピット　※個別図は一部抜粋

第198図　Ⅲ区ピット配置図

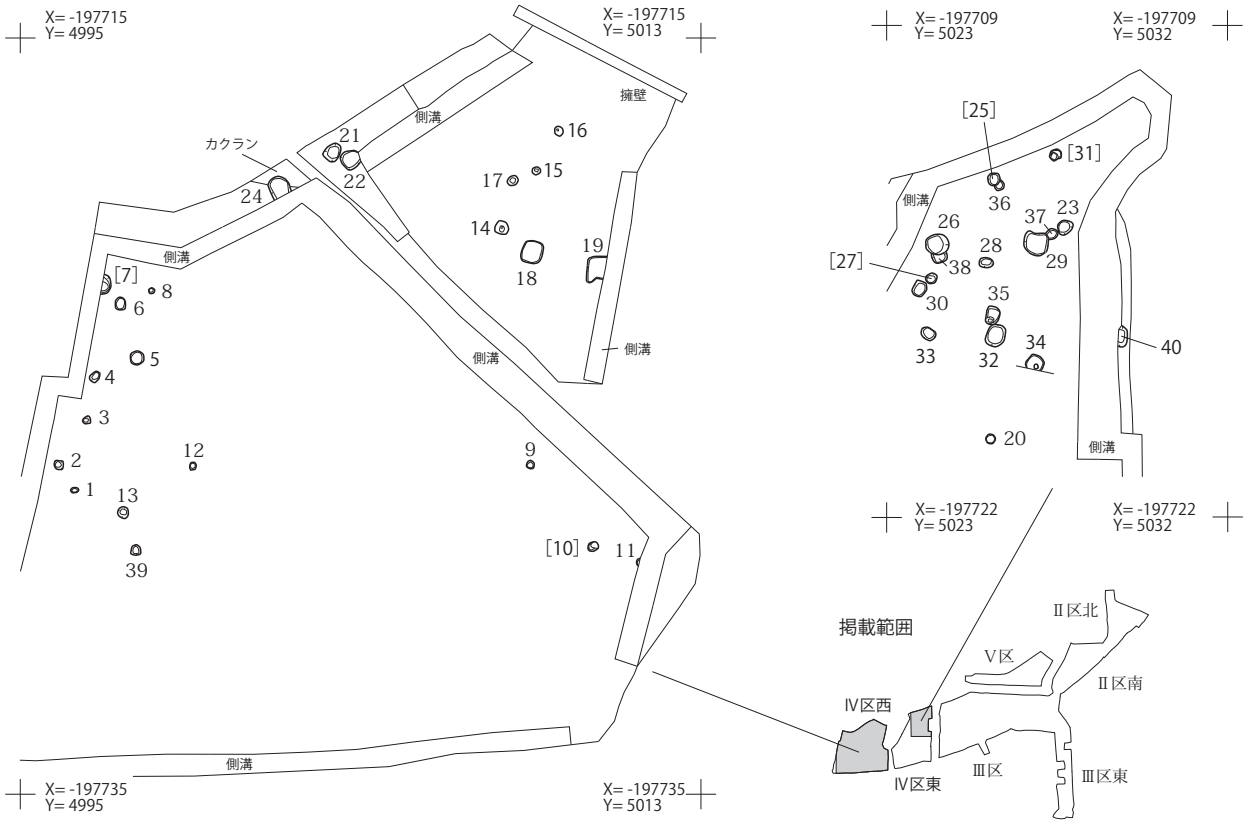




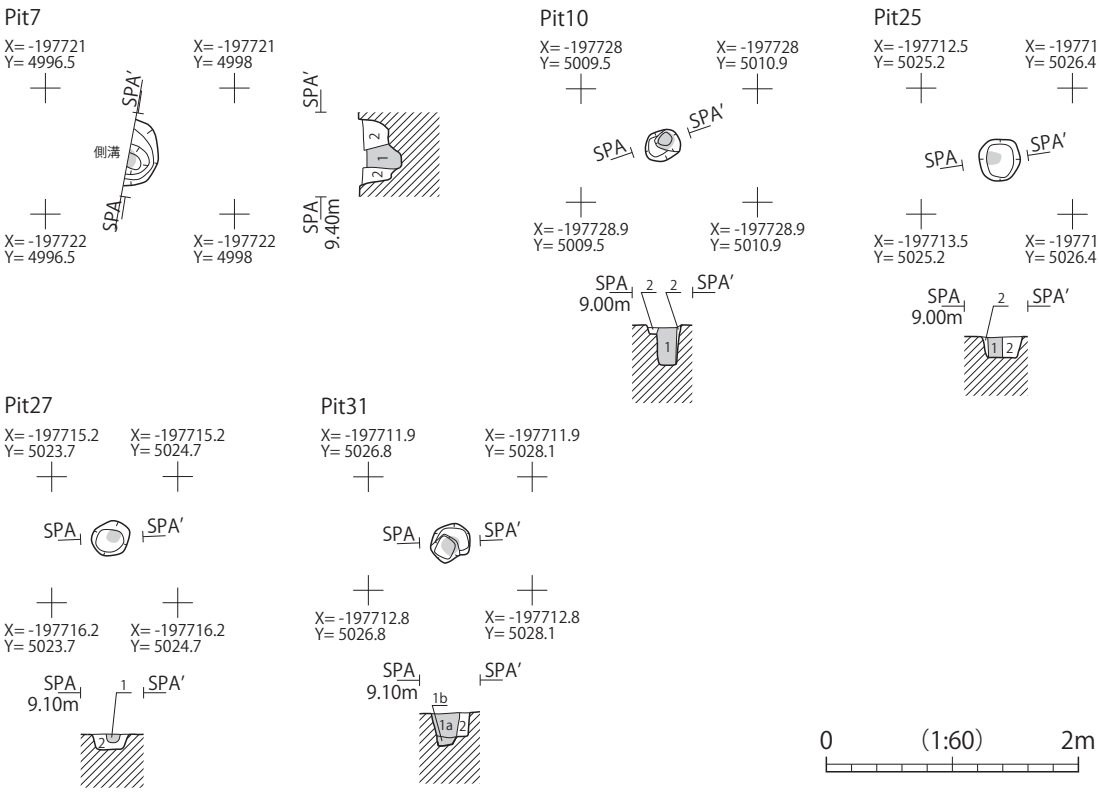
第 199 図　Ⅲ区ピット（1）　※一部抜粋



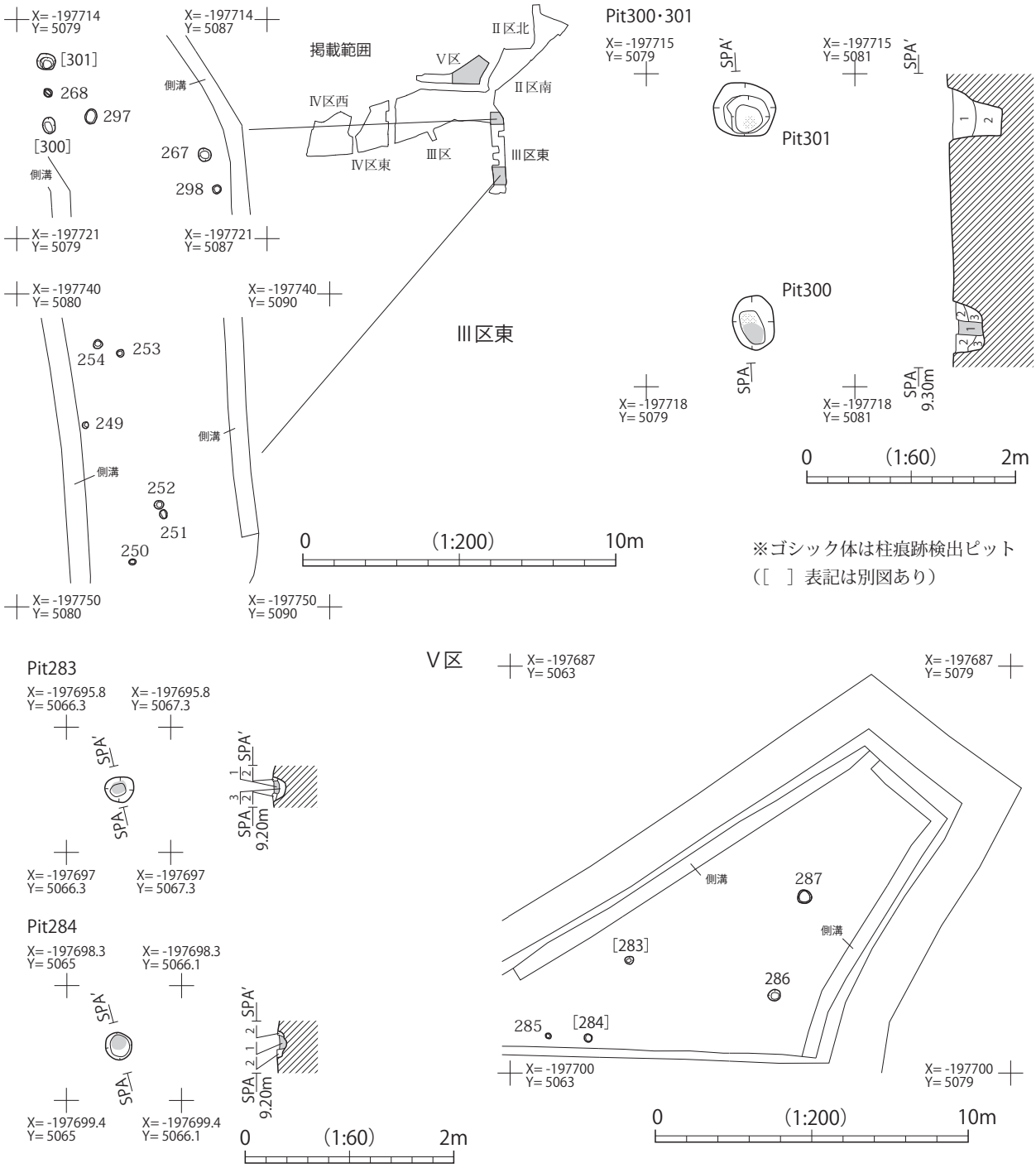
第 200 図　Ⅲ区ピット（2）　※一部抜粋



※ゴシック体は柱痕跡検出ピット（[ ] 表記は別図あり）



第 201 図　Ⅳ区ピット　※個別図は一部抜粋



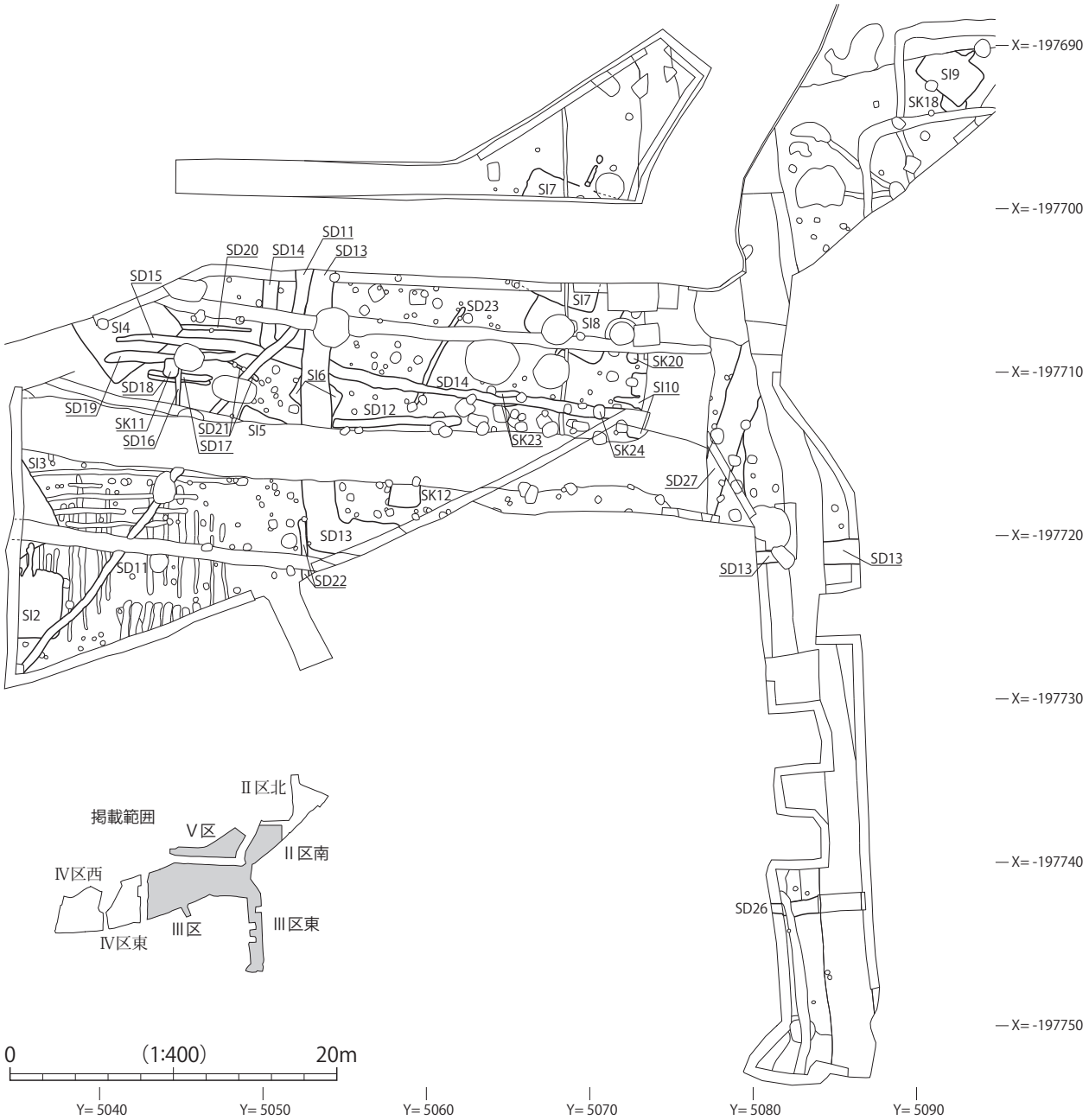
第 202 図　Ⅲ区東・Ⅴ区ピット　※個別図は一部抜粋

第 195 図－ 1 の石製品は登録上礫石器に分類したが、自然礫使用の砥石である。石材は軽石質凝灰岩である。b・c 面には無数の溝状痕や鑿で削り取ったような痕跡が観察される。3 は変質流紋岩製の砥石である。砥面は a ～ e の 5 面で、d の面は大半が節理によって剥落している。a・c・d の各面には、鑿状の工具痕が観察される。4・5 はかわらけである。ともに焼成は良好で、硬質である。体部は直線的に外傾し、5 は口縁部で弱く外反する。いずれも底部は回転糸切り無調整で、5 の外面には墨書が認められる（文字不明）。6 は変質流紋岩製の砥石である。砥面は a ～ e の 5 面になるが、a・c の面は鑿状の工具により大半が削り取られている。同様の工具痕は e 面にも観察される。

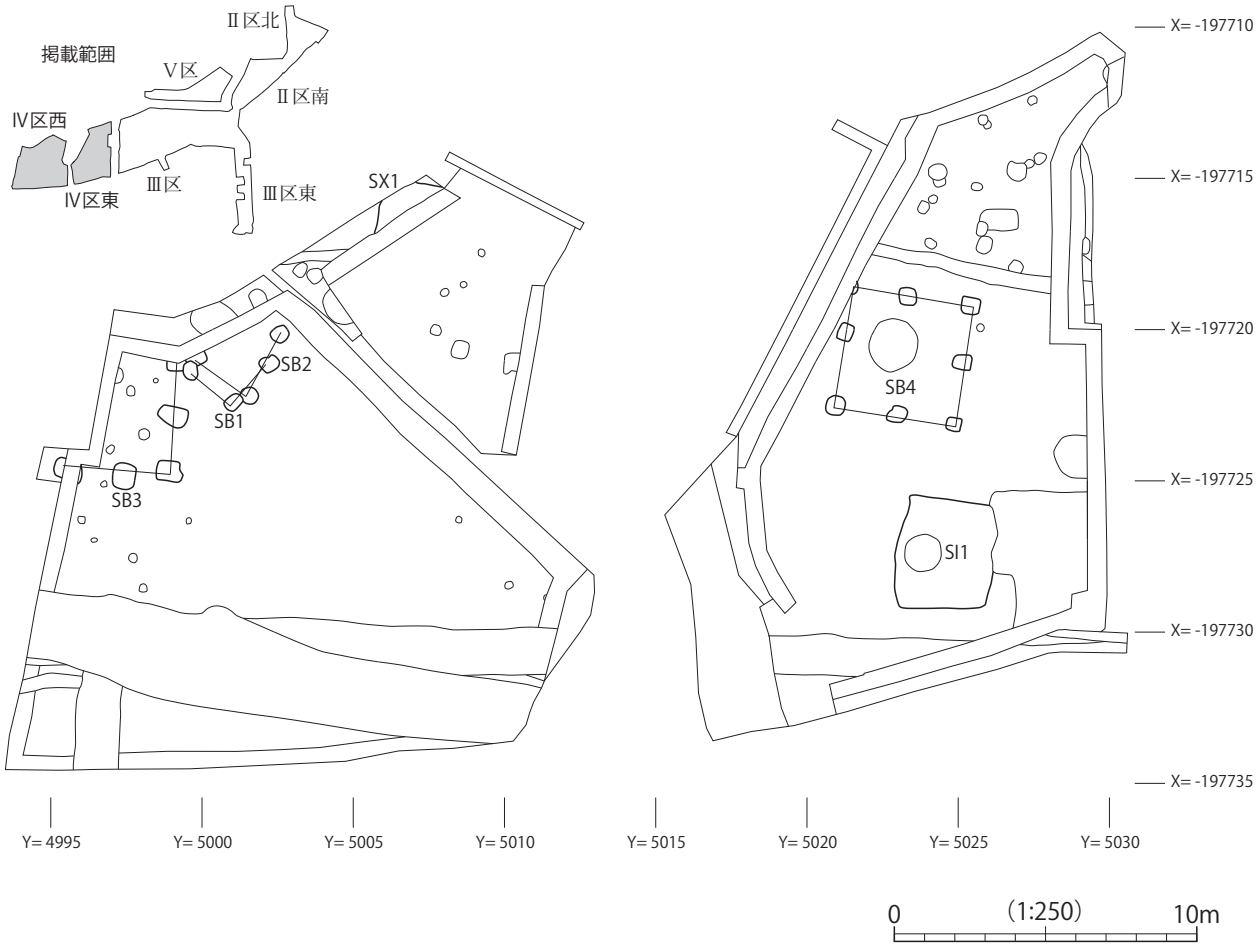
第３節　古墳時代～古代の遺構と遺物

当該期の遺構は、竪穴住居跡 10 軒、掘立柱建物跡 4 棟、溝跡 13 条、土坑 5 基、性格不明遺構 2 基を検出した。これらは中世～近世の遺構と同様に基本層Ⅳ層上面で検出したが、重複関係や出土遺物、堆積土などから古墳時代～古代に比定される。遺構のほとんどがⅡ～Ⅴ区の微高地上に立地し、低地部のⅠ区で検出されたのは溝跡 2 条のみである。当該期遺構の中心となる竪穴住居跡と掘立柱建物跡は、掘立柱建物跡が西側のⅣ区に分布し、竪穴住居跡がそれよりも東側に分布する。竪穴住居跡の分布は散在的である。掘立柱建物跡は、Ⅳ区の南西側に隣接する長町駅東遺跡第 4 次調査区や第 10 次調査区で検出された掘立柱建物跡群と一連のものであると考えられる（仙台市教委 2007 年ほか）。

なお、当該期の遺構配置図については、Ⅱ～Ⅴ区を掲載する。Ⅰ区の遺構配置図は、溝跡関連の第 232 図を参照されたい。



第 203 図　Ⅳ層上面遺構配置図（古墳時代～古代）－Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ区



第 204 図　Ⅳ層上面遺構配置図（古墳時代～古代）－Ⅳ区

(1) 竪穴住居跡

第 2 次調査で 10 軒が検出されている。調査範囲や削平・撹乱などの影響により検出状況はまちまちであり、全体が検出されたのは SI1 のみである。この SI1 も削平のため掘り方が残存するのみであった。

これらの竪穴住居跡は、方形基調の平面を有し、対角線上に 4 基の主柱穴を配したものが基本形態であると思われる。カマドは SI2・7 ～ 10 の 5 軒で検出され、SI2・7・9 が北壁、SI8 が南壁、SI10 が西壁に付設されている。袖が残存するのは SI2・10 だけであるが、被熱範囲などからいずれも燃焼部は壁内に位置していたものと考えられる。SI2・10 の袖は盛土で構築され、SI2 の焚口には袖石抜き取り痕とみられる一対のピットが伴っていた。

その他の床面施設としては周溝、貯蔵穴、機能不明の土坑・ピットなどがある。また、床面の掘り方は全ての竪穴住居跡で認められ、SI1 ～ 6 の掘り方底面からは多数の工具痕が検出された。この工具痕については SI1 のみ個別図に示し、ほかの 5 軒については項末にまとめて掲載した。

これら竪穴住居跡の構築時期は、出土した土師器や須恵器の特徴などから 7 世紀～ 8 世紀前半に収まると考えられ、郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙と並行するものが主体であると思われる。しかし、詳細な時期については判然としない竪穴住居跡が多く、SI2 が 2 ～ 3 期（7 世紀中～後葉）、SI4・9 が 3 ～ 4 期（7 世紀後葉～ 8 世紀前半）、SI8 が 3 期（7 世紀後葉）以降であることが窺われる程度であった。

SI1 竪穴住居跡（第 205 図）

【位置・確認】Ⅳ区南東部の 103 グリッドに位置する。削平を受け、掘り方のみが残存する。

【重複】SE1 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 357cm、東西 312cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】西壁基準で N － 7° － E である。

【堆積土】掘り方埋土のみ観察した。黒褐色シルトの単層で、Ⅳ層土ブロックとの混土である。

【壁面】残存しない。

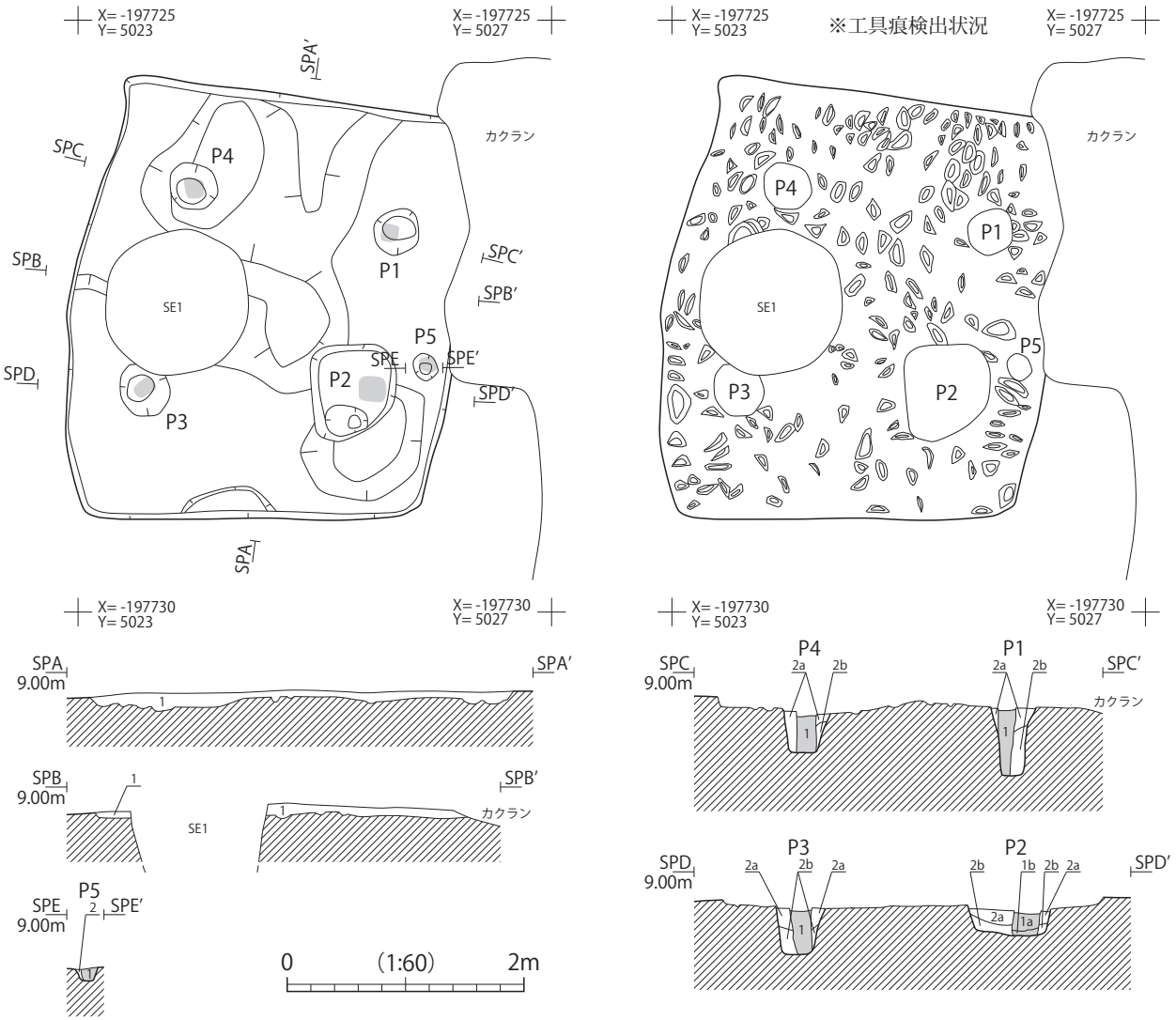
【床面】残存しない。

【柱穴】5 基検出した。P1 ～ 4 は形状や位置関係から主柱穴と考えられる。P5 は補助柱穴か。いずれの柱穴も柱痕跡が認められた。

【掘り方】深さは不明である。底面には不規則な高まりや窪みが認められる。底面全域に 10 ～ 20cm 前後の工具痕が検出された。

【出土遺物】掘り方埋土から土師器破片が少量出土したのみで、いずれも図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



第 205 図　SI1 竪穴住居跡

SI1　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	2.5Y3/2　黒褐色	シルト	黄褐色シルトブロック (50 ～ 100㎜程度) 多量、炭化物微量含む。

SI1　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5GY6/1 緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)
	2a	2.5GY6/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。
	2b	7.5GY4/1 暗緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 2㎜程度) 密に含む。
P2	1a	7.5GY6/1 緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)
	1b	10GY6/1 緑灰色	粘土	黒褐色シルトラミナ状に含む。(柱痕跡)
	2a	2.5GY6/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、マンガン少量含む。
	2b	5GY5/1　オリーブ灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P3	1	7.5GY6/1 緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)
	2a	2.5GY6/1 オリーブ灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 密、マンガン微量含む。
	2b	7.5GY4/1 暗緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。
P4	1	7.5GY6/1 緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。(柱痕跡)
	2a	2.5GY6/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。
	2b	7.5GY4/1 暗緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 密に含む。
P5	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、マンガン微量含む。(柱痕跡)
	2	5GY5/1　オリーブ灰色	シルト	黒褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。

SI1　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	39 × 37	57	
P2	不整楕円形	82 × 72	24	
P3	楕円形	47 × 41	40	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	41 × 40	38	
P5	楕円形	23 × 19	11	

SI2 竪穴住居跡（第 206 ～ 208・224 図）

【位置・確認】Ⅲ区西端部の 97・104 グリッドに位置する。西側は調査区外にかかる。

【重複】小溝用遺構群 B 群の SM3 － 1 ～ 4、SD11 より古く、SI3、Pit238 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 425cm、東西 285cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 5° － E である。

【堆積土】大別で 17 層、細別で 19 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、1 層は基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含むことから人為的埋土の可能性がある。4 ～ 13 層はカマド関連層位で、燃焼部底面には炭化物主体の 11 層が堆積する。14 層は周溝内の堆積土である。15・16 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土がくすんだような色調を呈して混入する。17 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 5 ～ 15cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】4 基検出した。このうち P1・2 が形状や位置関係から主柱穴と考えられる。ともに柱痕跡が確認された。P5・6 は柱穴とするには浅いが、P1・2 と付属的な位置関係を示すことから補助的な柱穴と捉えた。

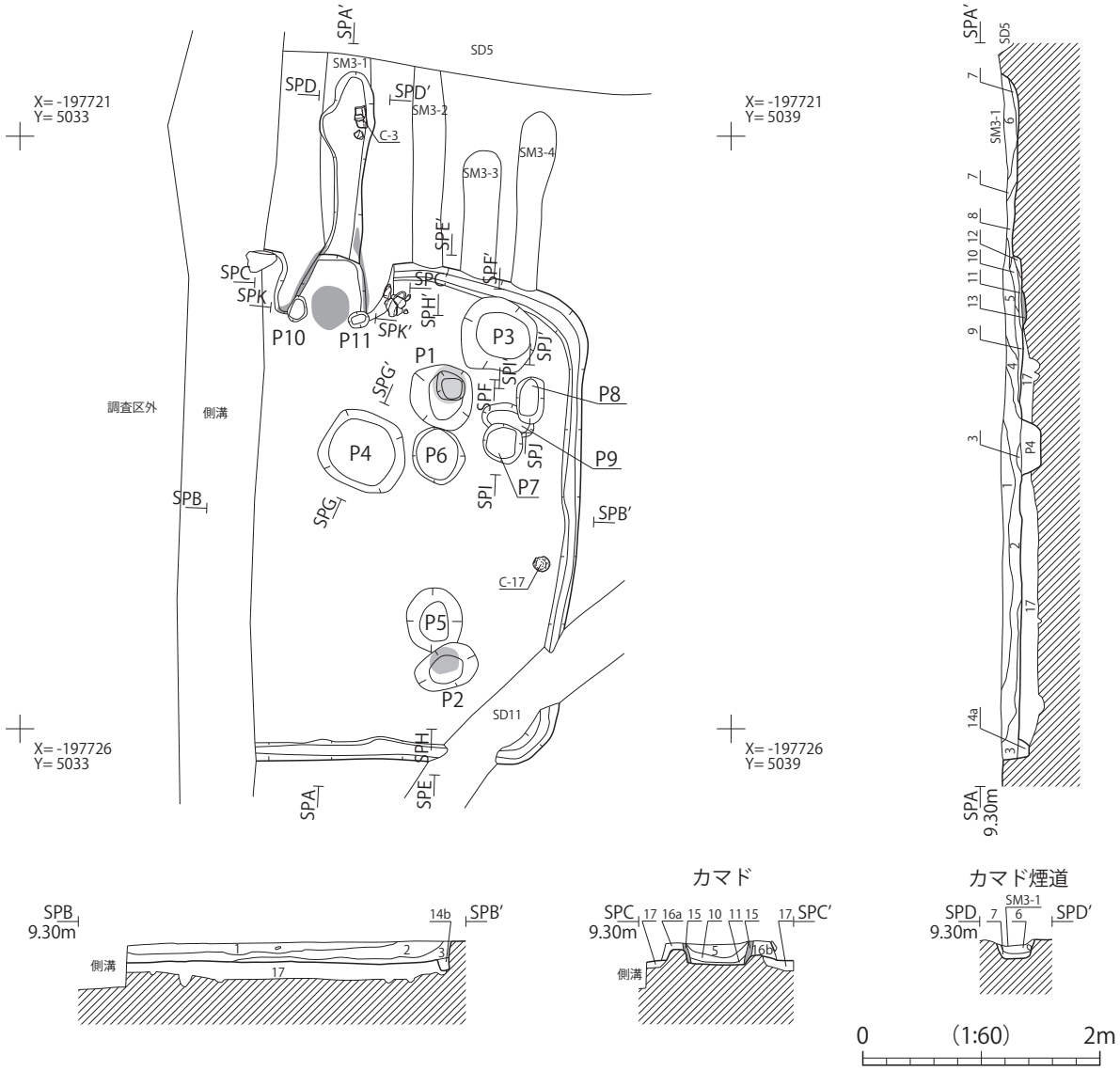
【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 4 ～ 13cm、深さ 5 ～ 10cm を測る。

【カマド】北壁に位置し、壁面に直交して付設される。袖は東袖で長さ 49cm、幅 10 ～ 27cm、西袖で長さ 50cm、幅 14 ～ 31cm を測り、北壁に対しわずかに「ハ」字状に開いて延びる。焚口には小規模なピット P10･11 が並び、袖石が埋設されていた可能性が考えられる。燃焼部は奥行き 49cm、幅 32 ～ 51cm、奥壁高 6cm を測り、全体が壁内に位置する。底面は概ね平坦で、奥壁は直立気味に立ち上がる。煙道部は長さ 155cm、幅 28cm、深さ 17cm を測り、底面は緩やかに煙出しに向かって下がる。煙出し付近の平面プランは、不規則に膨んでいる。

【その他の施設】ピット P7 ～ 9、土坑 P3・4 を検出した。P3 は位置関係から貯蔵穴と思われる。P4 はカマドの前方に位置し、堆積土に焼土や粘土を多く含むことからカマド関連施設と考えられる。P8・9 についても、堆積土の状況から P4 と同様の施設と考えられる。

【掘り方】深さ 10 ～ 25cm 程を測る。底面はカマド前方と、東壁・南壁の壁際が高まっている。底面からは多数の工具痕が検出された。

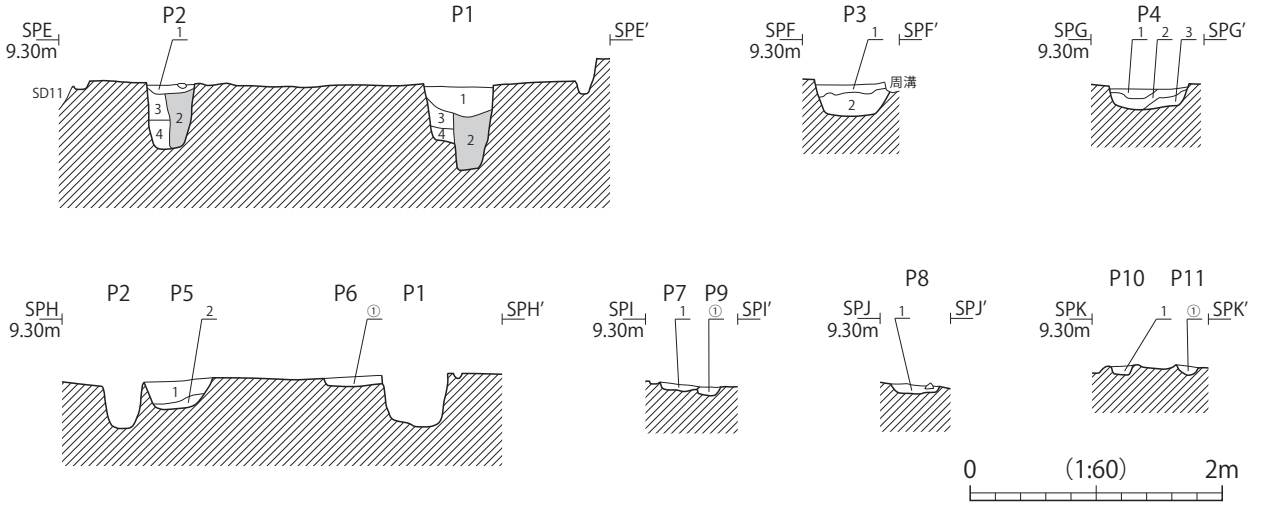
【出土遺物】堆積土出土の遺物が大半を占めるが、床面までの深さがあまりないため、ほとんどが床面に近い位置からの出土と思われる。また、床面上にも少量の遺物が散見される。土師器坏 3 点、高坏 2 点、甕 1 点、土製品 1 点を掲載した（第 207 図）。5 の高坏は東側の床面上から、6 の甕はカマド煙道部の煙出し付近から出土した。



SI2　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
カマド	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 50㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。
	8	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物少量含む。
	11	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物多量、焼土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
	12	10YR4/6 褐色	シルト	黒色シルトブロック (5㎜程度)・焼土少量、炭化物微量含む。
	13	2.5YR2/2 極暗赤褐色	粘土	焼土層。炭化物・骨微量含む。
周溝	14a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	14b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。
カマド袖	15	5YR3/6　暗赤褐色	シルト	カマド内壁被熱部分。
	16a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック少量、焼土粒微量含む。
	16b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色粘土ブロック (30 ～ 50㎜程度)・褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) の混土。
住居掘り方	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 100㎜程度) 多量、灰黄褐色粘土ブロック (10㎜程度)・焼土粒・炭化物少量含む。

第 206 図　SI2 竪穴住居跡（1）



SI2　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	2	10YR3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土・炭化物含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/3　にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (50㎜程度) 多量含む。
	4	10YR3/1　黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P2	1	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含み、グライ化。
	2	10YR2/3　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、焼土・炭化物を含む。(柱痕跡)
	3	10YR3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 50㎜程度) 多量含む。
	4	10YR3/1　黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 少量含む。
P3	1	2.5Y5/2　暗灰黄色	粘土	黒色シルト粒少量、焼土ブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。
	2	7.5YR4/3　褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、褐色シルトブロック (50㎜程度)・粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土ブロック (5 ～ 20㎜程度) の混合。
P4	1	10YR4/2　灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度)・粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・焼土の混合。
	2	10YR2/2　黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・粘土粒・焼土の混合。
	3	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	焼土粒微量含み、Ⅳ層土ブロック (30 ～ 50㎜程度)・褐色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) の混合。
P5	1	10YR3/2　黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土・炭化物微量含む。
	2	10YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 60㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
P6	①	2.5Y3/2　黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 30㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
P7	1	2.5Y3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土ブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。
P8	1	10YR1.7/1 黒色	シルト	焼土ブロック (10 ～ 40㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
P9	①	10YR2/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
P10	1	10YR4/4　褐色	シルト	焼土ブロック (10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
P11	①	10YR4/4　褐色	シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物少量含む。

SI2　施設観察表

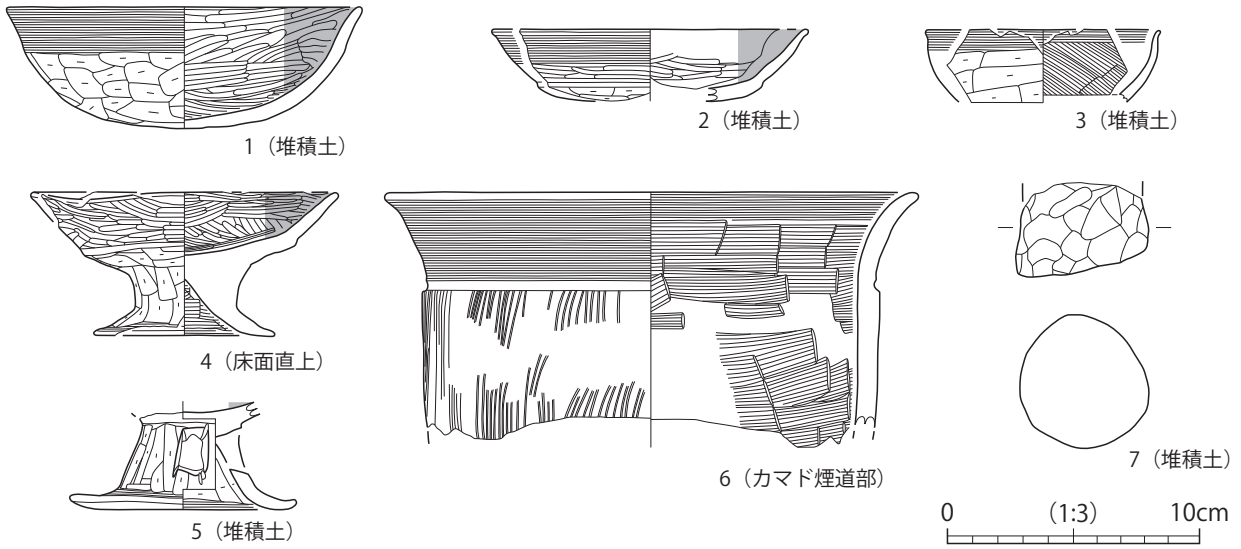
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	55 × 54	66	
P2	楕円形	54 × 36	52	
P3	隅丸方形	65 × 63	28	
P4	隅丸方形	75 × 70	20	
P5	楕円形	54 × 48	23	
P6	楕円形	48 × 46	8	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	隅丸方形	34 × 33	5	
P8	楕円形	40 × 23	7	
P9	楕円形	46 × (18)	7	
P10	楕円形	22 × 17	8	
P11	楕円形	18 × 14	7	

第 207 図　SI2 竪穴住居跡 (2)

1 の土師器坏は 1/2 程が残存するが、堆積土中の出土遺物である。2 の坏は平底気味の底部をもつものと思われ、口縁部は大きく外傾して開き、さらに口唇部で外反する。3 は椀状の見込みの深い体部をもち、口縁部は短く外反する。4 の高坏は短脚で、脚部は厚みをもつ。5 の高坏も短脚であるが、脚部は 4 と比べシャープな作りで、長方形の透孔が 3 箇所穿たれている。6 の甕は長胴甕で、胴部と口縁部との境には明瞭な段差を有する。7 の土製品はカマド支脚の一部と思われる。3 つの粘土塊を寄せて棒状に引き伸ばし、その上に薄い粘土板を被せて成形されている。全体が粗くユビナデ調整される。

【時期】床面上やカマドから出土した第 208 図－ 4・6、また 1 も直接伴う遺物と思われ、2 ～ 3 期 (7 世紀中～後葉) と考えられる。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-001	Ⅲ区	SI2	堆積土	土師器	坏	14.1	-	4.8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		29
2	C-014	Ⅲ区	SI2	堆積土	土師器	坏	(12.6)	-	(2.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	SD19 出土破片と接合	29
3	C-015	Ⅲ区	SI2	堆積土	土師器	坏	(9.3)	-	(2.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		29
4	C-017	Ⅲ区	SI2	床面直上	土師器	高坏	12.2	7.0	5.7	口縁部ヘラミガキ、坏底部～脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		29
5	C-012	Ⅲ区	SI2	堆積土	土師器	高坏	-	9.0	(4.3)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		29
6	C-003	Ⅲ区	SI2	カマド煙道部	土師器	甕	(21.2)	-	(10.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	SI7 出土破片と同一個体	29

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
7	P-005	Ⅲ区	SI2	堆積土	土製品	支脚	(3.7)	5.3	5.6	99.0	ナデ	29

第 208 図　SI2 竪穴住居跡出土遺物

SI3 竪穴住居跡（第 209・224 図）

【位置・確認】Ⅲ区西端部の 87・97 グリッドに位置する。大半が調査区外にかかり、南東側を検出した。

【重複】SI2、小溝状遺構群 A 群の SM1・3、SD5 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 563cm、東西 277cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】東壁基準で N － 31°－ W である。

【堆積土】5 層に分層された。1・2 層は住居堆積土である。基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含み、人為的埋土と思われる。3 層は周溝内の堆積土、4・5 層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 25cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

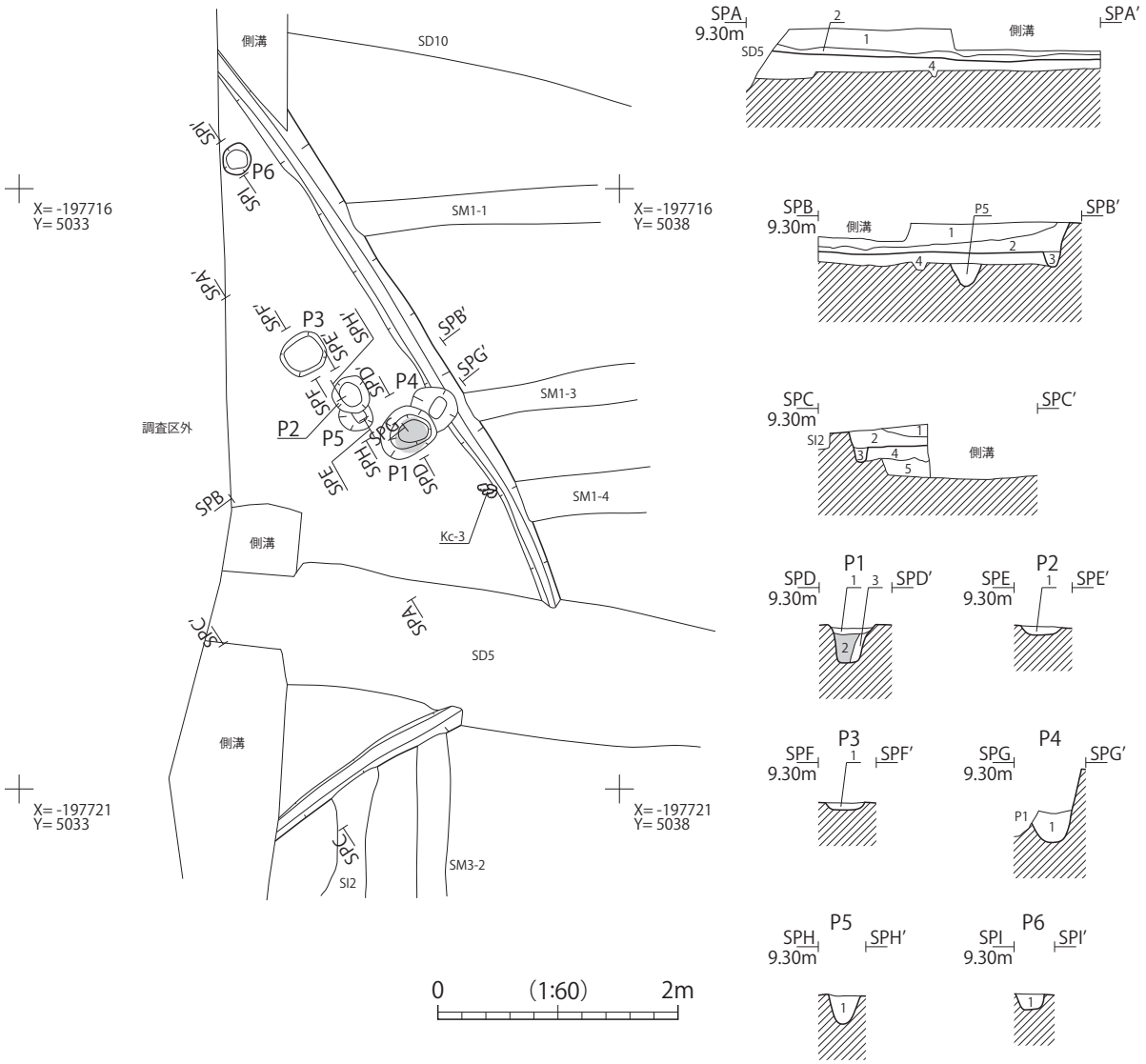
【柱穴】6 基検出した。このうち P2･3 は極端に浅く、柱穴以外の用途も考えられる。P1 からは柱痕跡が認められた。位置関係から補助的な柱穴と考えられる。

【周溝】検出部では、全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 5 ～ 10cm、深さ 6 ～ 11cm を測る。

【掘り方】深さ 10 ～ 25cm 程を測る。底面は概ね平坦であるが、南東コーナーと南壁際が土坑状に窪む。底面からは多数の工具痕が検出された。特に東壁と南壁沿いには、列を成して規則的に認められる。

【出土遺物】土師器・須恵器破片、自然礫が少量出土した。堆積土中の遺物がほとんどで、いずれも図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、2 ～ 3 期（7 世紀中～後葉）の SI2 より古く、2 ～ 3 期以前と考えられる。



SI3　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (50 ～ 100㎜程度) 多量、焼土・炭化物微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土・炭化物微量含む。
周溝	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
住居掘り方	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 100㎜程度)・褐色シルトブロック (50 ～ 100㎜程度) の混合。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (30 ～ 40㎜程度) 多量、炭化物微量含む。

SI3　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 少量、焼土微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。

SI3　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	48 × 39	32	
P2	円形	32 × 30	7	
P3	隅丸方形	38 × 33	6	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	39 × (26)	27	
P5	円形	27 × (25)	24	
P6	円形	25 × 24	12	

第 209 図　SI3 竪穴住居跡

SI4 竪穴住居跡（第 210・211・225 図）

【位置・確認】Ⅲ区北西端部の 68・69・78 グリッドに位置する。北側は調査区外にかかる。

【重複】SD9・15・19、Pit155 ～ 157 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 405cm、東西 542cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】西壁基準で N － 36° － W である。

【堆積土】6 層に分層された。1 ～ 3 層は住居堆積土である。基本層Ⅳ層由来のブロックを多く含み、人為的埋土と思われる。4 層は周溝内の堆積土、5・6 層は掘り方埋土である。

【壁面】残存部分では概ね直線的に外傾して立ち上がるが、壁高は最大でも 16cm と低く、詳細不明である。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】8 基検出した。このうち P1 ～ 3 が形状や位置関係から主柱穴と考えられる。P2 では柱痕跡が確認された。P4 ～ 6 はこれら主柱穴に重複し、建て替えの関係にあると思われる。P7・8 は補助的な柱穴と考えられる。

【周溝】検出部では壁面のほぼ全体に沿って巡るが、東壁の中央付近に断続部が認められる。規模は、幅 3 ～ 8cm、深さ 8 ～ 13cm を測る。

【掘り方】深さ 14 ～ 15cm 程を測る。底面は概ね平坦である。底面からは多数の工具痕が検出された。特に西壁と南壁沿いには、列を成して規則的に認められる。

【出土遺物】土師器・須恵器破片が少量、石製品が 1 点出土した。いずれも堆積土や床面施設内出土の遺物である。須恵器坏 2 点、石製品 1 点を掲載した（第 211 図）。2 の坏は丸底に近く、底部は回転ヘラケズリ調整される。3 は変質流紋岩製の砥石である。両側縁および下端は人工的に欠き取られ、一部に鑿状の工具痕が観察される。

【時期】第 211 図－ 2 の須恵器坏は堆積土の出土遺物であるが残存が良好であり、また本竪穴住居跡の床面までの深さがあまりないことも考慮すれば、直接伴う遺物である可能性が高い。このことから、3 期（7 世紀後葉）と考えられる。

SI5 竪穴住居跡（第 212・224 図）

【位置・確認】Ⅲ区中央部の 78・79 グリッドに位置する。重複遺構により大半が失われ、北西コーナー付近から北壁の一部にかけて残存する。

【重複】SD8・10 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 103cm、東西 278cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】北壁基準で N － 65° － W である。

【堆積土】5 層に分層された。1・2 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層由来のブロックの含有量から、人為的埋土と思われる。3 層は周溝内の堆積土、4・5 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 7 ～ 12cm が残存するのみで、詳細不明である。

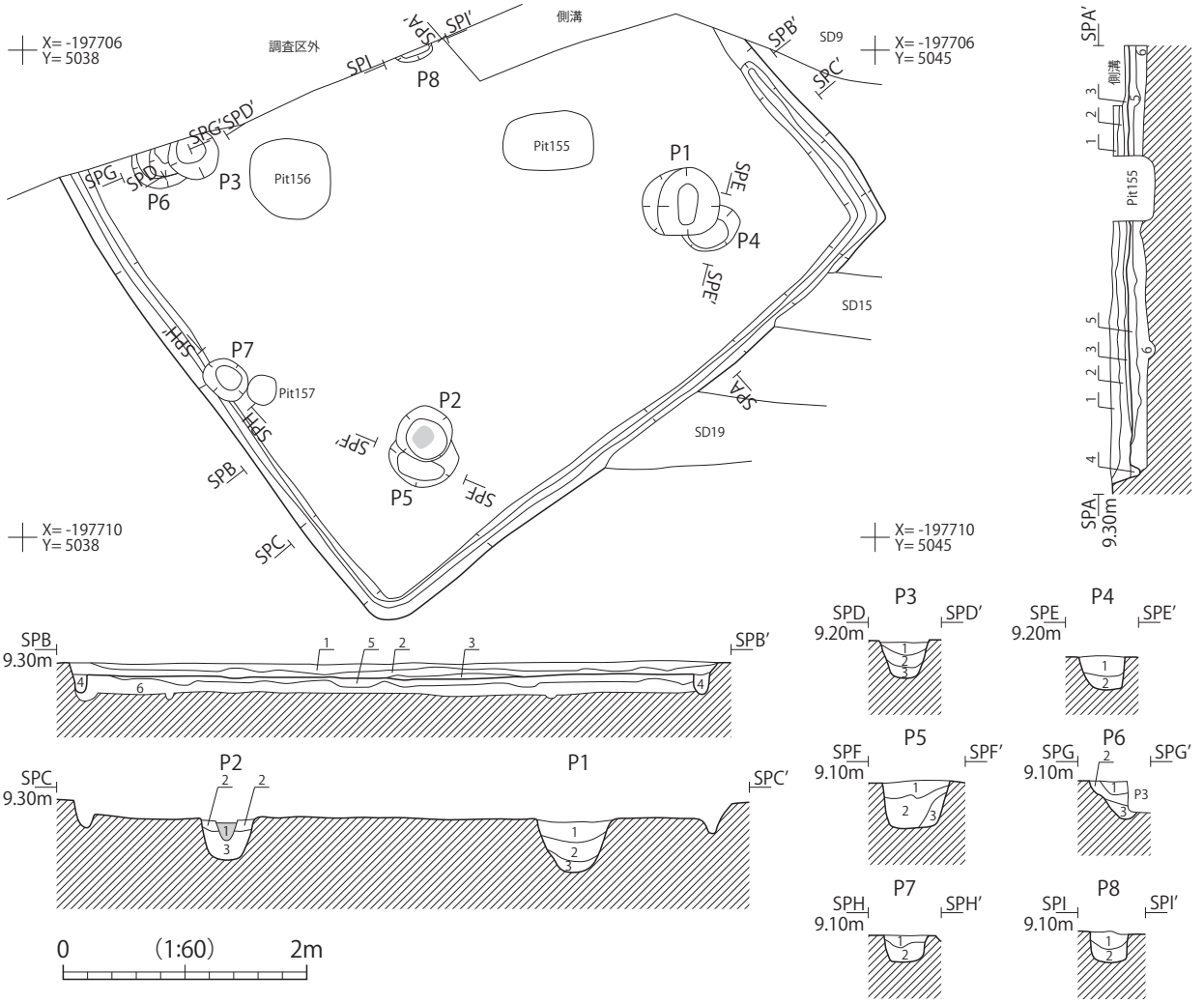
【床面】概ね平坦である。

【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 4 ～ 9cm、深さ 3 ～ 7cm を測る。

【掘り方】深さ 8 ～ 10cm 程を測る。底面は概ね平坦である。底面からは工具痕が疎らに検出された。

【出土遺物】土師器・須恵器破片が堆積土や周溝から少量出土したのみで、いずれも図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係はなく、時期は不明である。



SI4　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、黒色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
周溝	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
住居掘り方	5	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、マンガン少量含む。

SI4　施設堆積土註記表

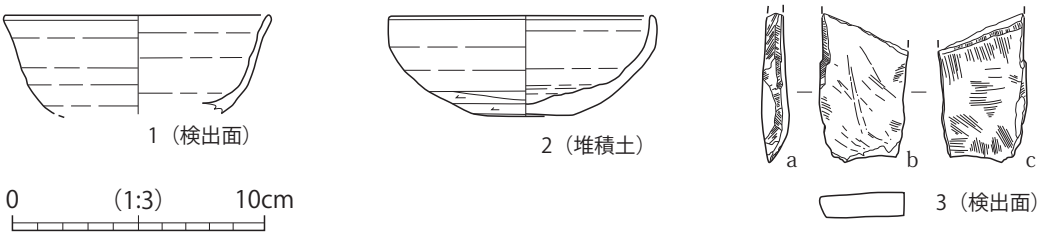
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。(柱痕跡)
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。
P4	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P6	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含む。
P7	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
P8	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。

第 210 図　SI4 竪穴住居跡

SI4　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	64 × 55	44	
P2	円形	45 × 44	35	
P3	円形	43 × 42	32	
P4	楕円形	46 × (19)	26	

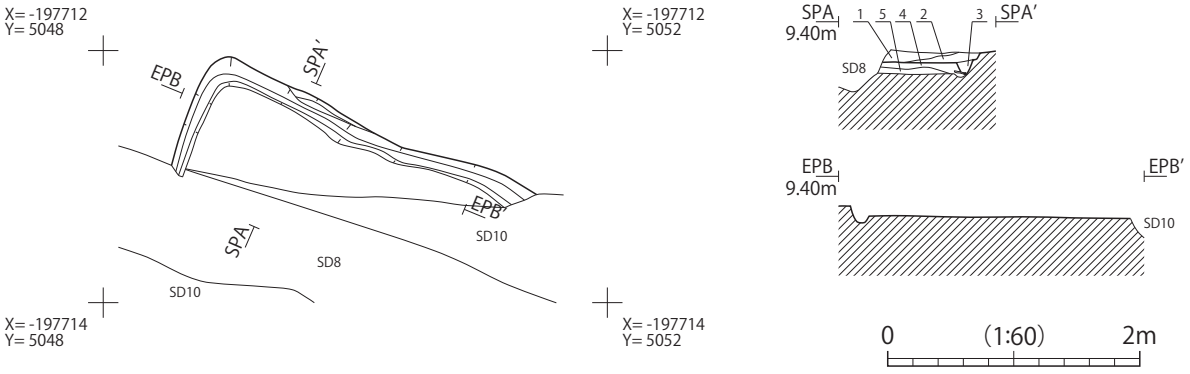
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	54 × 50	39	
P6	不明	(41) × (34)	31	
P7	楕円形	39 × 30	22	
P8	不明	30 × (9)	24	



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-003	Ⅲ区	SI4	検出面	須恵器	坏	(10.6)	-	(3.9)	ロクロ調整	ロクロ調整		29
2	E-004	Ⅲ区	SI4	堆積土	須恵器	坏	(10.5)	4.0	4.0	ロクロ調整、体部下端～底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		29

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
3	Kd-022	Ⅲ区	SI4	検出面	石製品	砥石	(5.9)	3.55	1.1	31.0	変質流紋岩	砥面 3 面、上部欠損	29

第 211 図　SI4 竪穴住居跡出土遺物



SI5　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、粘土粒・炭化物微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。
周溝	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
住居掘り方	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄少量含む。

第 212 図　SI5 竪穴住居跡

SI6 竪穴住居跡（第 213・225 図）

【位置・確認】Ⅲ区中央部の 79 グリッドに位置する。削平のため掘り方のみが残存する。SD13 が本竪穴住居跡の中央を走り、東西に分断された状態で検出された。

【重複】SD13 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 208cm、東西 286cm を測る。平面形状は長方形と推定される。

【方向】東壁基準で N － 29° － E である。

【堆積土】灰色砂質シルトの単層で、掘り方埋土である。微量の黒色シルトブロックや拳大の礫を含む。

【壁面】残存しない。

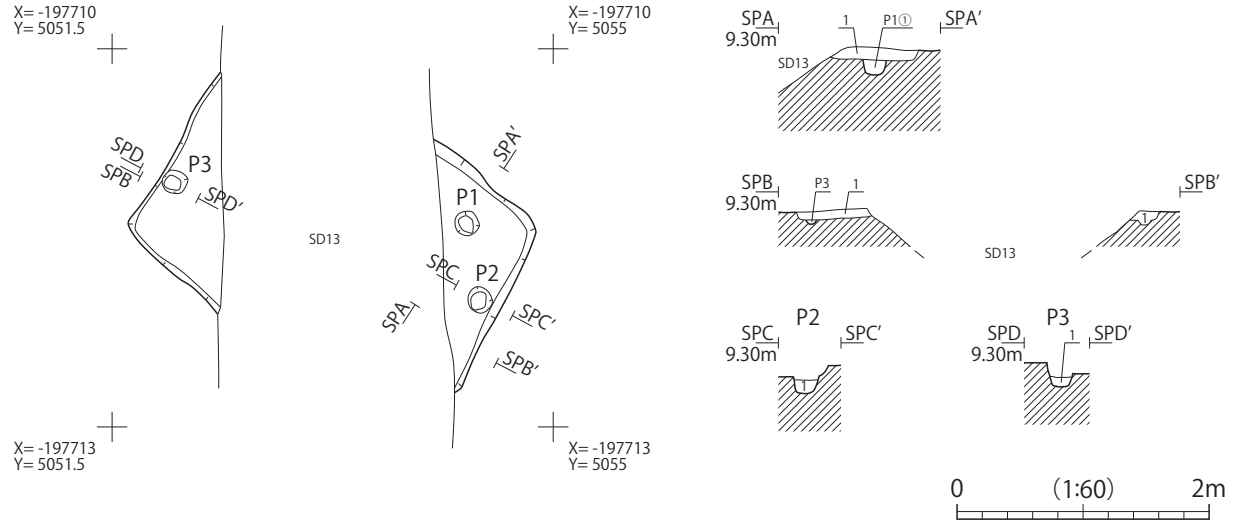
【床面】残存しない。

【柱穴】3 基検出したが、掘り方埋土より下で検出されており、別遺構の可能性も残る。

【掘り方】深さは不明である。底面は概ね平坦で、工具痕が疎らに検出された。

【出土遺物】土師器破片がわずかに出土したのみで、いずれも図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、後述する 8 世紀代と思われる SD13 よりは古い。



SI6　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	7.5Y4/1　灰色	砂質シルト	黒色シルトブロック (50㎜程度) 微量含み、拳大の礫有。

SI6　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	2.5Y5/1　黄灰色	シルト	オリーブ黄色砂質シルトブロック (50 ～ 100㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
P2	1	2.5Y3/1　オリーブ黒色	粘土質シルト	オリーブ黄色砂少量含む。
P3	1	5Y4/2　灰オリーブ色	粘土質シルト	黒色シルトブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。

S6　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	20 × 18	21	
P2	円形	22 × 19	14	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	隅丸方形	19 × 18	10	

第 213 図　SI6 竪穴住居跡

SI7 竪穴住居跡（第 214 ～ 217 図）

【位置・確認】Ⅲ区北端部の 65・66 グリッドから、Ⅴ区南端部の 59・60 グリッドにかけて位置する。大半が調査区外にかかり、南北両壁付近を中心に検出した。

【重複】SK16 より古く、SI8、Pit299 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 728cm、東西 652cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】カマド基準で N － 25° － E である。

【堆積土】大別で 11 層、細別で 17 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層由来のブロックは少なく、自然堆積と思われる。3 ～ 6 層はカマド関連層位で、粘土ブロックやⅣ層土粒を多く含み、崩落した天井材などが混入していると思われる。7 は周溝内の堆積土である。8 層はカマドの袖石部分の埋土とみられる。9 ～ 11 層は掘り方埋土である。

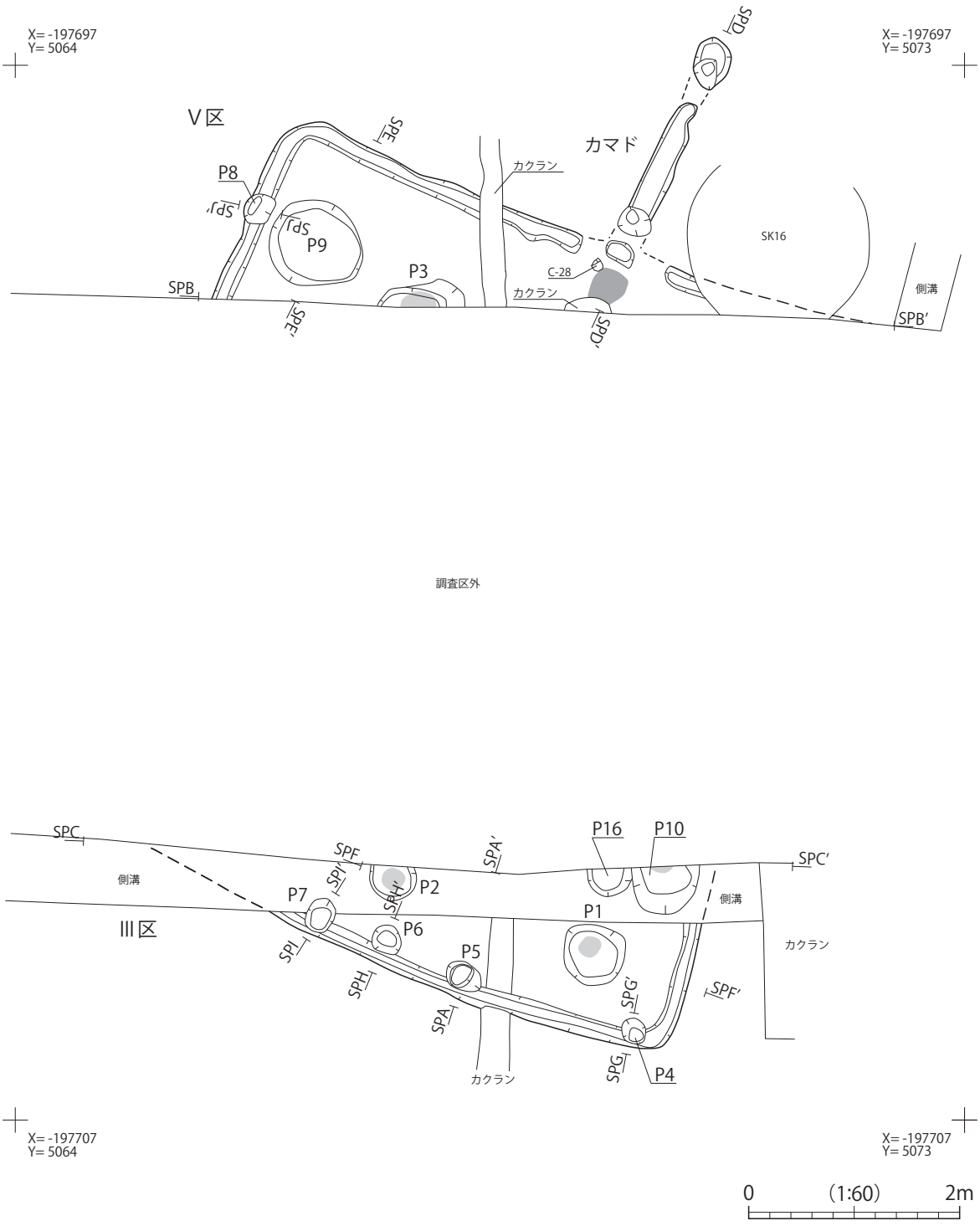
【壁面】検出時に大半を削平したため、調査区壁の断面で観察した。やや内湾気味に直立し、壁高は最大で 46cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

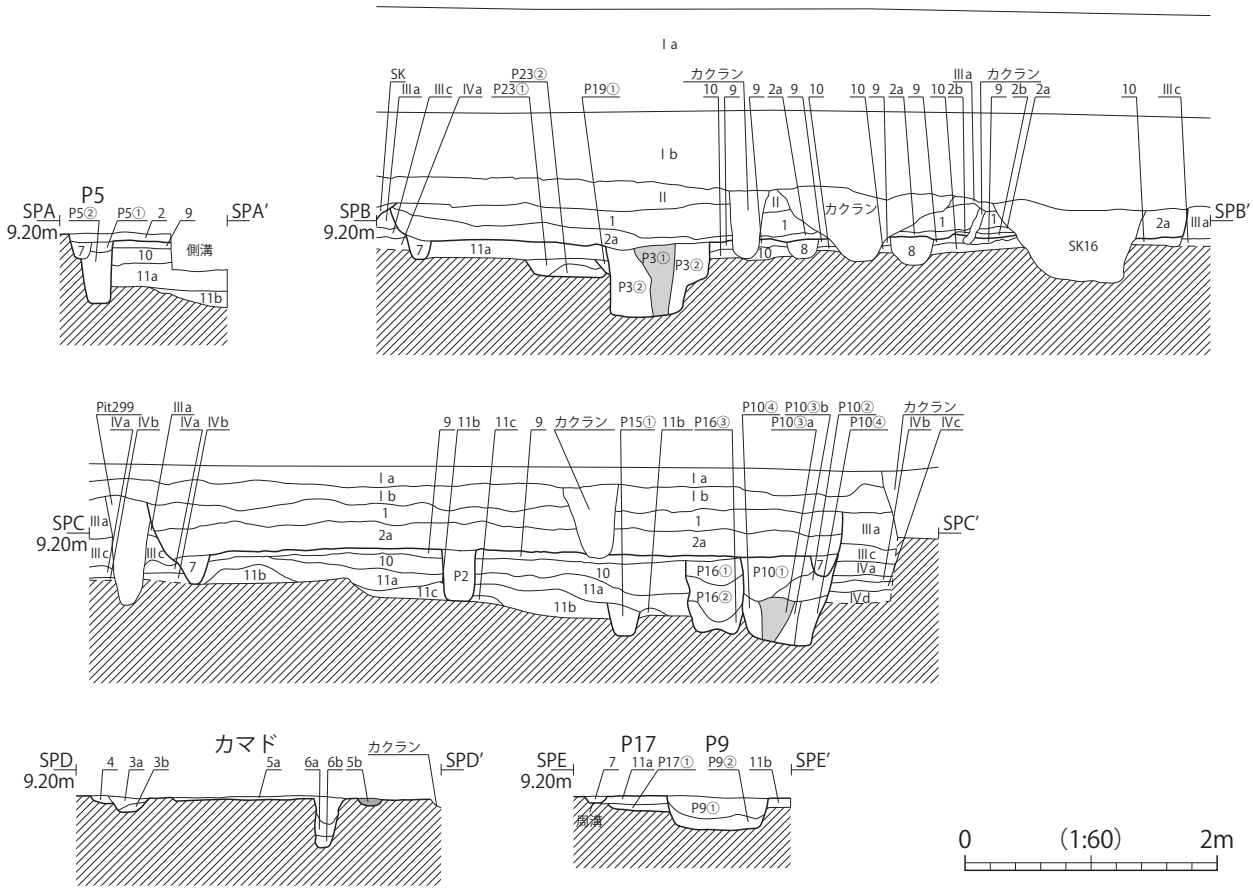
【柱穴】P1 ～ 8 を床面から、P10・15・16 を掘り方から検出した。このうち P3 が形状や位置関係から主柱穴と考えられる。P1･2 は南壁側に配置され、補助的な柱穴と考えられる。P4 ～ 8 は壁柱穴である。柱痕跡は P1 ～ 3･10 で認められた。掘り方からはピット P12 ～ 14 も検出されたが、断面形状から別の施設と捉えた。

【周溝】検出部では壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 12 ～ 20cm、深さ 6 ～ 15cm を測る。

【カマド】北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部底面と煙道部が残存し、Ⅴ区南壁の断面観察



第 214 図　SI7 竪穴住居跡（1）



SI7　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物微量含む。
	2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度)・焼土ブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。
	2b	5YR5/8　明赤褐色	シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、褐色シルト粒少量含む。
カマド	3a	7.5YR2/1 黒色	シルト	粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量、焼土粒微量含む。
	3b	10YR3/1 黒褐色	シルト	粘土粒多量、炭化物少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	粘土ブロック (50㎜程度) 含む。
	5a	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物少量、焼土ブロック (5㎜程度) 微量含む。
	5b	2.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒多量、炭化物微量含む。
	6a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・焼土粒・炭化物微量含む。
	6b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。
周溝	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
カマド掘り方	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
住居掘り方	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黄白色粘土ラミナ状に、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック (30 ～ 50㎜程度)・Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) と褐色シルトブロック (30 ～ 50㎜程度) の混合。
	11a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	11b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
	11c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。

第 215 図　SI7 竪穴住居跡（2）

で 8 層直上に袖の痕跡が認められないことから、2a 層堆積時には既に失われていたと考えられる。燃焼部は奥行き 66cm、幅 34cm 前後が推定され、全体が壁内に位置する。底面は概ね平坦で、掘り方調査時に被熱範囲の前方から小規模なピット状の掘り込みが一対検出された。袖石の埋設が考えられる。煙道部は長さ 146cm、幅 27cm、深さ 2cm を測り、底面は概ね平坦である。煙出しには長軸 47cm、短軸 37cm、深さ 15cm を測るピットが掘り込まれている。また燃焼部との境界付近にも長軸 31cm、短軸 26cm、深さ 39cm を測るピットが検出され、その位置から天井材の支柱穴と考えられる。

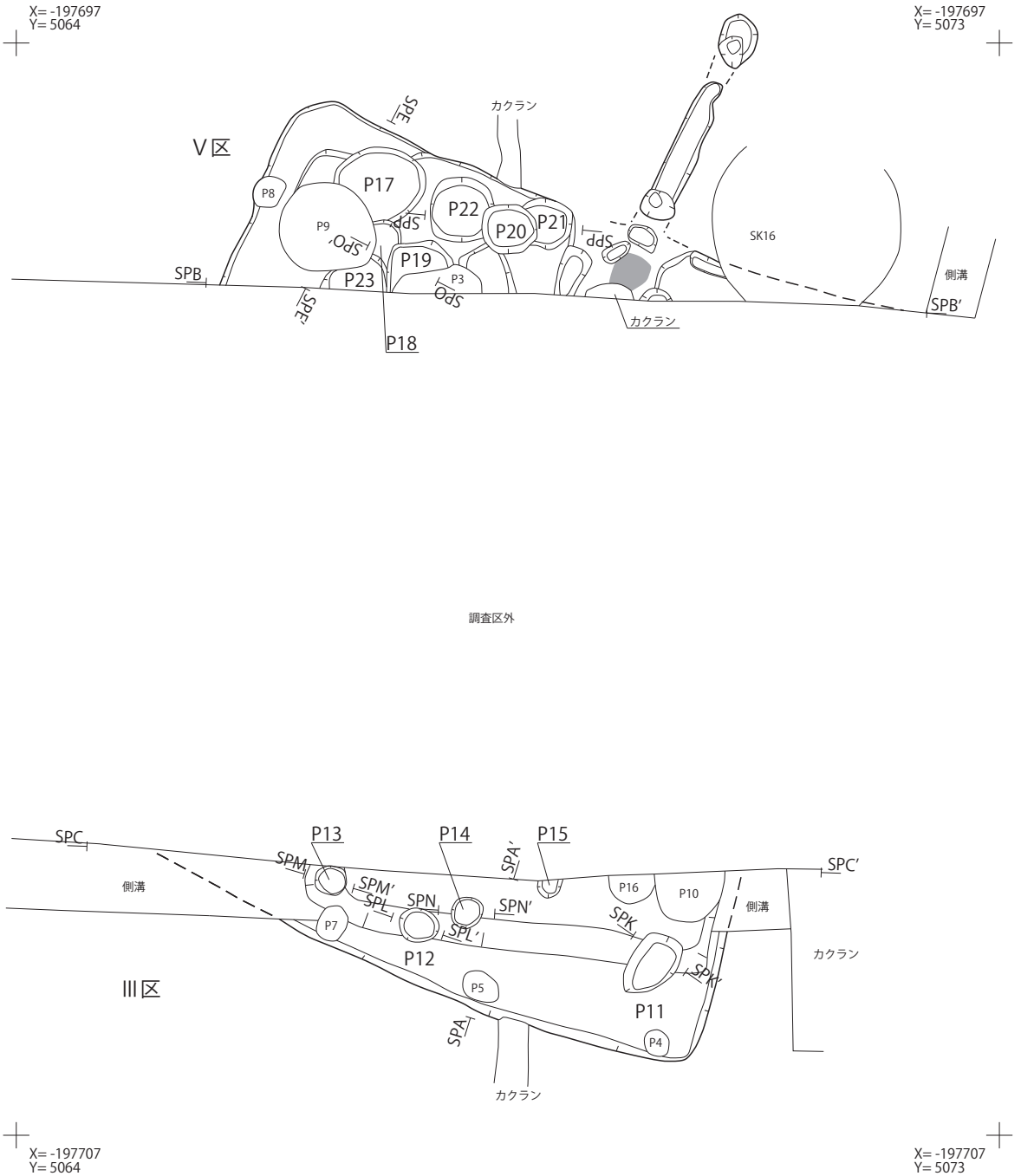
【その他の施設】床面から土坑 P9 を、掘り方から土坑 P11・17 ～ 23、ピット P12 ～ 14 を検出した。P9 は位置関係から貯蔵穴と思われる。掘り方で検出された土坑は正確な用途は判然としないが、P17 ～ 23 はいずれもカマ

ドの西側に重複して掘り込まれている。これらには P9 と重複する P17・18・23 や、堆積土に焼土・炭化物を多く含む P19 などがあり、貯蔵穴の造り替えやカマドに関連した施設と考えられる。

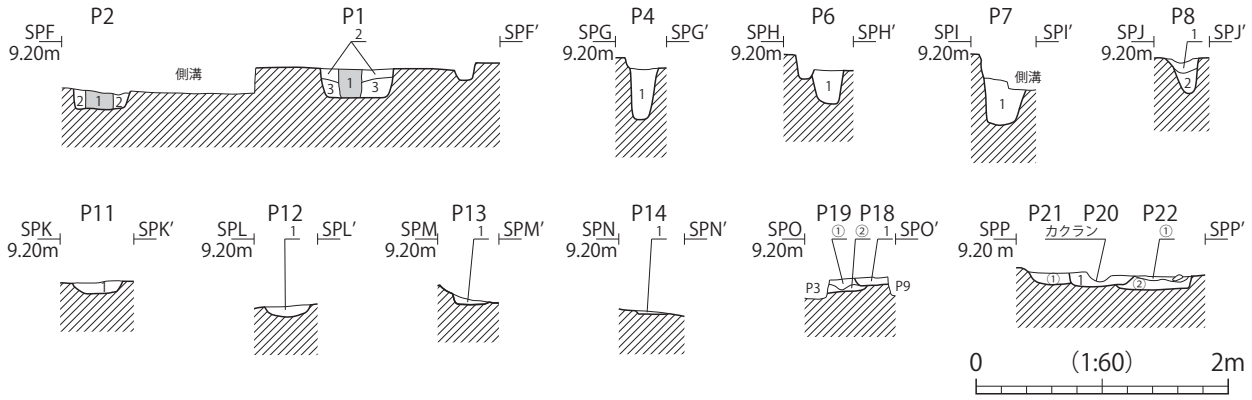
【掘り方】深さ 2 ～ 45cm 程を測る。底面は南壁から 10 ～ 66cm 程内側が段差を有して落ち込み、その平面プランが直線的であることから、建て替えなどの痕跡である可能性が考えられる。

【出土遺物】土師器・須恵器破片が少量出土したが、堆積土や床面施設出土の遺物がほとんどであり、いずれも図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物はないが、2 期（7 世紀中葉前後）とみられる SI8 よりは新しい。



第 216 図　SI7 竪穴住居跡（3）



SI7　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。(柱痕跡)
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
P2	1	10YR5/2 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P3	①	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 少量、Ⅳ層土ブロック (5㎜程度)・炭化物微量含む。(柱痕跡)
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物少量含み、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度)・焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) の混合。一部グライ化
P4	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
P5	①	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
	②	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
P7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
P9	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量、炭化物微量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量、焼土粒・炭化物微量含む。
P10	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物少量、焼土粒微量、上位にⅣ層土ブロック (10㎜程度) 含む。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	③ a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物少量含む。(柱痕跡)
	③ b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物少量、灰黄色粘土ブロック (5㎜程度) 微量含む。(柱痕跡)
	④	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
P11	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量、褐灰色粘土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。
P12	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に含む。
P13	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に含む。
P14	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P15	①	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
P16	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄色粘土ブロック (20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	②	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰黄色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
	③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P17	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物少量含み、黒色シルト・褐色シルト・焼土ブロック (10 ～ 50㎜程度) の混合。
P18	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物少量含み、黒色シルト・褐色シルト・焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) の混合。
P19	①	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物多量含み、褐色シルト・焼土ブロック (5 ～ 30㎜程度) の混合。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物少量含む。
P20	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	炭化物少量、骨微量含み、黒色土ブロック・褐色シルトブロック・焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) の混合。
P21	①	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物多量含み、褐色シルト・焼土ブロック (5 ～ 20㎜程度) の混合。
P22	①	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量含み、褐色シルト・焼土ブロック (10㎜程度)・砂岩片 (10 ～ 30㎜程度) の混合。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト少量、焼土粒・炭化物微量含む。
P23	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック (50 ～ 100㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量含む。

SI7　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	63 × 59	24	
P2	楕円形	45 × (33)	16	
P3	不明	85 × (21)	57	
P4	楕円形	25 × 24	38	
P5	楕円形	38 × 27	46	
P6	円形	30 × 27	28	
P7	楕円形	34 × 25	46	
P8	方形	31 × 26	33	
P9	隅丸方形	92 × 84	24	
P10	不明	65 × (46)	23	
P11	楕円形	62 × (23)	10	
P12	円形	37 × 33	8	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P13	円形	29 × 26	8	
P14	円形	29 × 28	1	
P15	楕円形	(17) × 22	14	
P16	楕円形	(26) × 42	11	
P17	楕円形	84 × (67)	5	
P18	不明	57 × (25)	7	
P19	不明	(62) × (29)	12	
P20	楕円形	53 × 46	5	
P21	隅丸方形	45 × (32)	9	
P22	隅丸方形	60 × 59	9	
P23	楕円形	65 × (20)	14	

第 217 図　SI7 竪穴住居跡 (4)

SI8 竪穴住居跡（第 218 ～ 220 図）

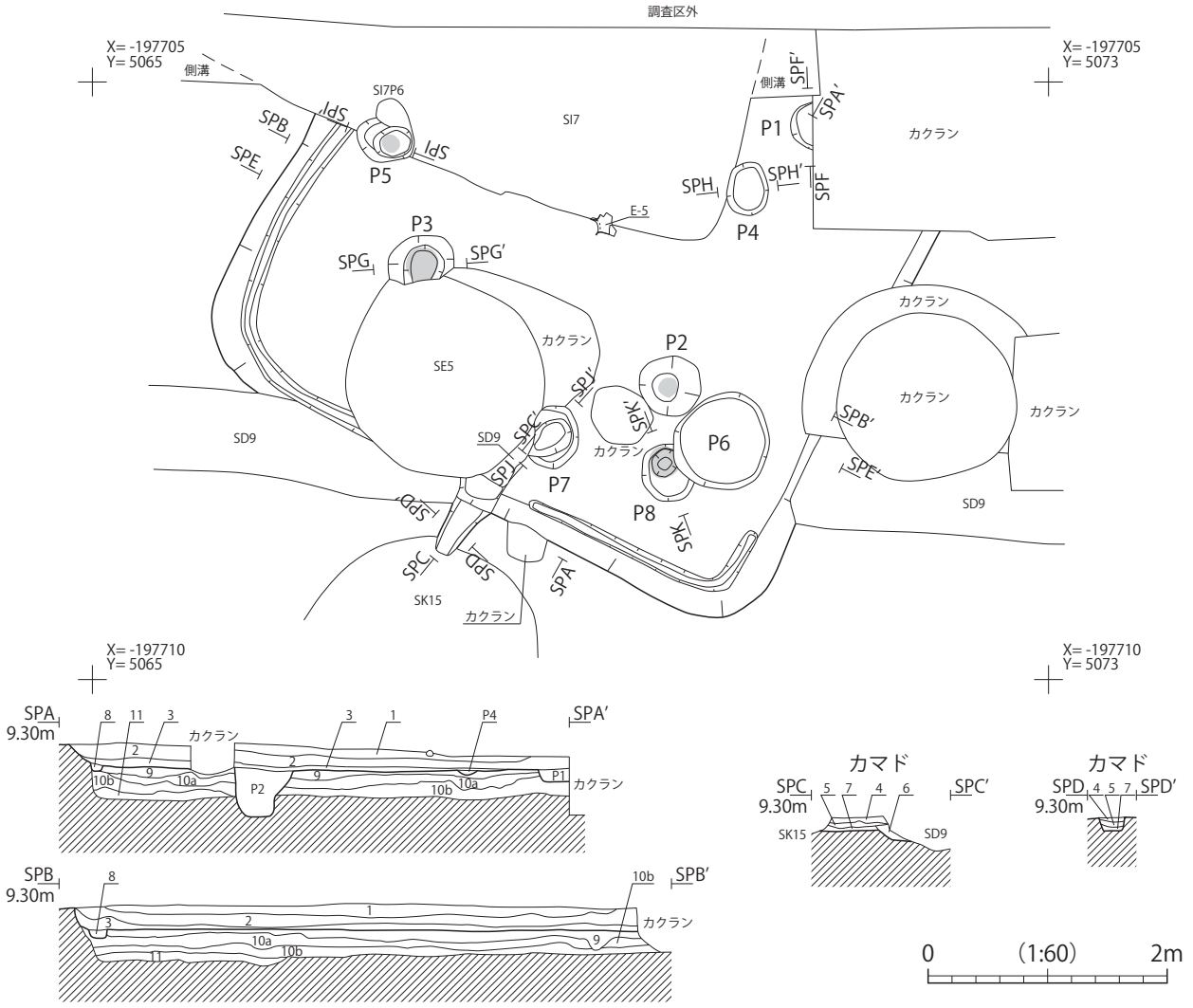
【位置・確認】Ⅲ区北東部の 71・72 グリッドに位置する。重複遺構や撹乱により残存は悪く、北側は大きく失われている。

【重複】SI7、SD9、SE5、SK15 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 485cm、東西 530cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】カマド基準で N － 154°－ W である。

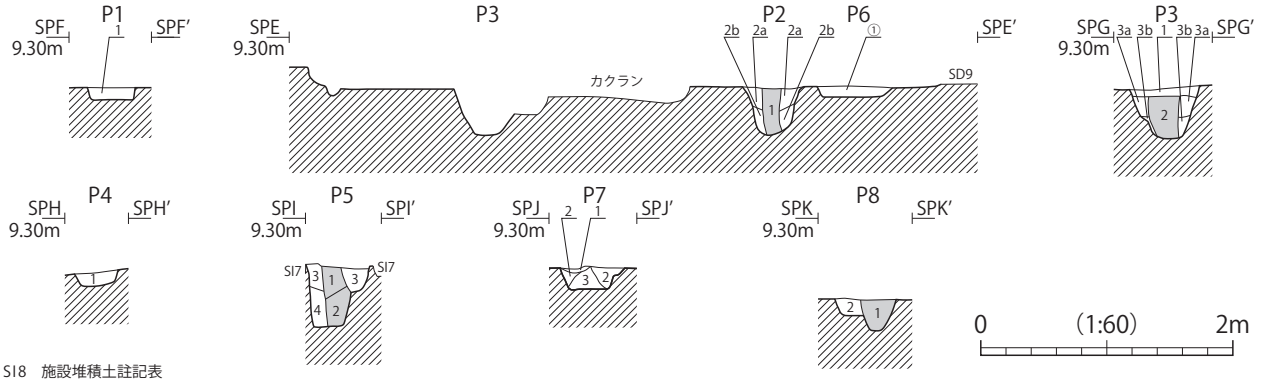
【堆積土】大別で 11 層、細別で 12 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、床面上に薄く堆積する 3 層は炭化物をラミナ状に含む。4 ～ 7 層はカマド関連層位で、煙道部に堆積する 7 層は粘土ブロックを多く含み、



SI8　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	炭化物ラミナ状に、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
カマド	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・マンガン微量含む。
	6	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	褐灰色粘土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色粘土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
周溝	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量含む。
住居掘り方	9	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン微量含む。
	10a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ラミナ状に、黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。
	10b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物少量含む。

第 218 図　SI8 竪穴住居跡（1）



SI8　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン微量含む。(柱痕跡)
	2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度)・酸化鉄微量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P3	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロックと褐灰色シルトブロックの互層。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、黒褐色シルト粒微量含む。(柱痕跡)
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
	3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。(柱痕跡)
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄白色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P6	①	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄少量含む。
P7	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	炭化物多量、焼土粒少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P8	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。

SI8　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	41 × (23)	8	
P2	円形	52 × 52	39	
P3	楕円形	55 × (38)	39	
P4	楕円形	45 × 36	11	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	隅丸方形	49 × (31)	45	
P6	円形	85 × 80	9	
P7	楕円形	53 × (38)	17	
P8	楕円形	50 × 46	24	

第 219 図　SI8 竪穴住居跡（2）

崩落した天井材と思われる。8 は周溝内の堆積土である。9 ～ 11 層は層は掘り方埋土である。

【壁面】概ね直線的に外傾して立ち上がるが、西壁が直立気味なのに対して南壁は開きが大きい。壁高は最大で 20cm を測る。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】5 基検出した。このうち P1 ～ 3 が形状や位置関係から主柱穴、P5・8 は補助的な柱穴と考えられる。P1 を除く 4 基で柱痕跡が認められた。

【周溝】検出部では南東コーナー付近から西壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 8 ～ 15cm、深さ 2 ～ 8cm を測る。

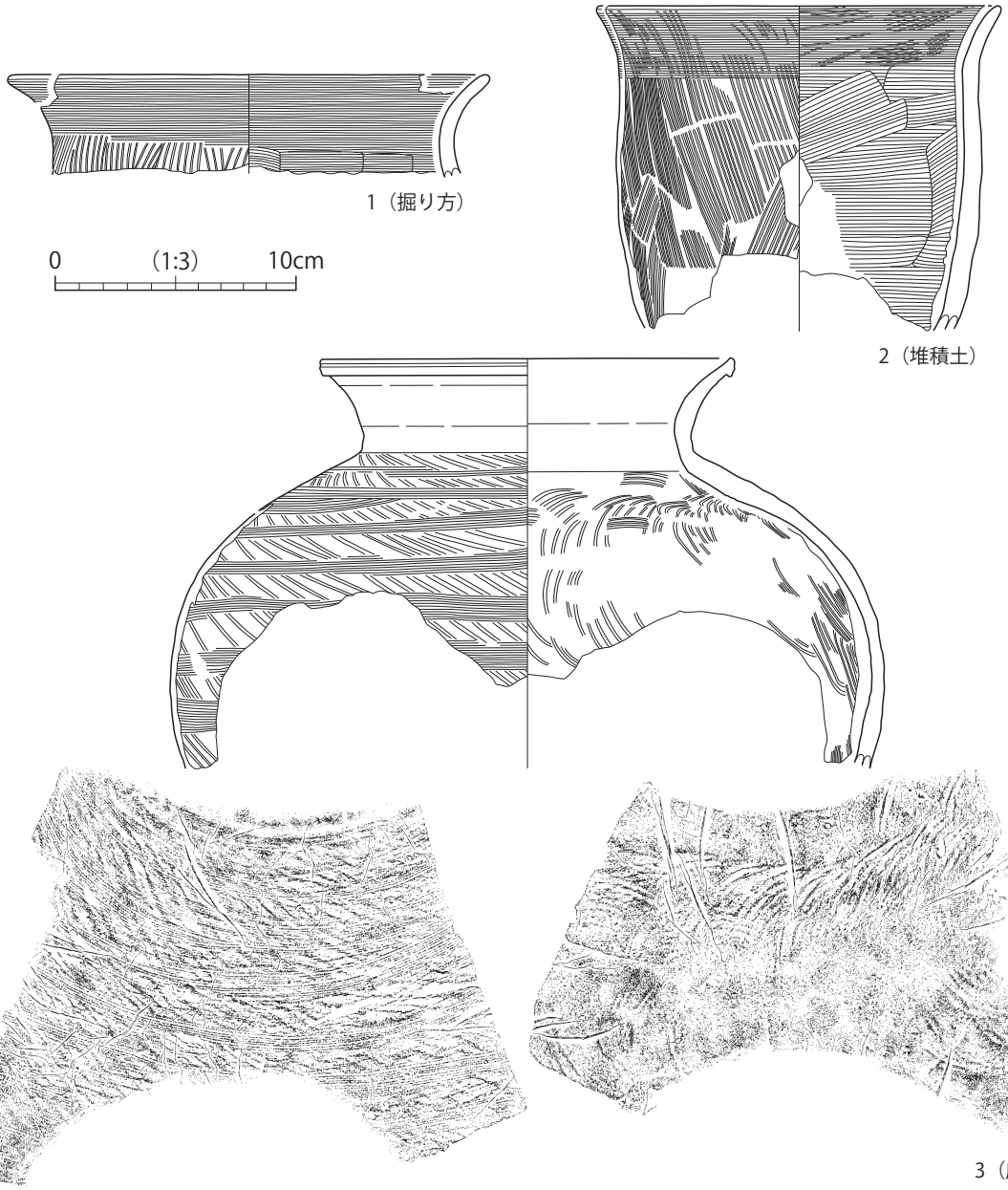
【カマド】南壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部と煙道部の一部が残存し、袖も失われている。燃焼部は奥行き 63cm 前後が推定され、奥壁高 8cm、全体が壁内に位置する。底面は概ね平坦で、奥壁は緩やかに立ち上がる。煙道部は長さ 52cm、幅 23cm、深さ 12cm が残存し、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】土坑 P4・6・7 を検出した。P6 は位置関係から貯蔵穴と思われる。人為的に埋土されている。P7 は堆積土中に炭化物を多く含み、カマドとの関連が考えられる。

【掘り方】深さ 19 ～ 27cm 程を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】堆積土や床面施設出土の遺物がほとんどである。土師器甕 2 点、須恵器甕 1 点を掲載した（第 220 図）。3 の須恵器甕は、胴部外面を回転カキメ調整後、平行タタキを施している。

【時期】床面上から出土した第 220 図－ 3 は直接伴う遺物と思われ、2 期（7 世紀中葉前後）の可能性がある。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-034	Ⅲ区	SI8	掘り方	土師器	甕	(20.0)	-	(4.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		30
2	C-032	Ⅲ区	SI8	堆積土	土師器	甕	(16.8)	-	(13.5)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ		30
3	E-005	Ⅲ区	SI8	床面直上	須恵器	甕	(17.2)	-	(17.0)	ロクロ調整、胴部平行タタキ→カキメ	ロクロ調整、胴部青海波文		30

第 220 図　SI8 竪穴住居跡出土遺物

SI9 竪穴住居跡（第 221・222 図）

【位置・確認】Ⅱ区南部の 52・56・57 グリッドに位置する。削平や撹乱のため壁の上部と、北西コーナーが失われている。

【重複】SK18 より新しい。

【規模・形態】検出した規模は、南北 326cm、東西 366cm を測る。平面形状は隅丸長方形を呈する。

【方向】カマド基準で N － 43° － E である。

【堆積土】大別で 5 層、細別で 6 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、最大 3cm 程の厚さで残存する。2・3 層はカマド関連層位である。燃焼部の 2 層は焼土を多く含み、天井材の崩落土と考えられる。4 層は周溝内の堆

積土、5 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 6 ～ 12cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】8 基検出した。このうち P1 ～ 4 が形状や位置関係などから主柱穴と考えられる。P9・10 は南壁の東西両コーナーに位置し、壁柱穴と思われる。P7・12 は補助的な柱穴か。いずれの柱穴からも柱痕跡は確認されなかった。P9・10・12 は掘り方から検出された。

【周溝】ほぼ壁面全体に沿って巡るが、東壁の南側で断続する。規模は、幅 3 ～ 9cm、深さ 6 ～ 12cm を測る。

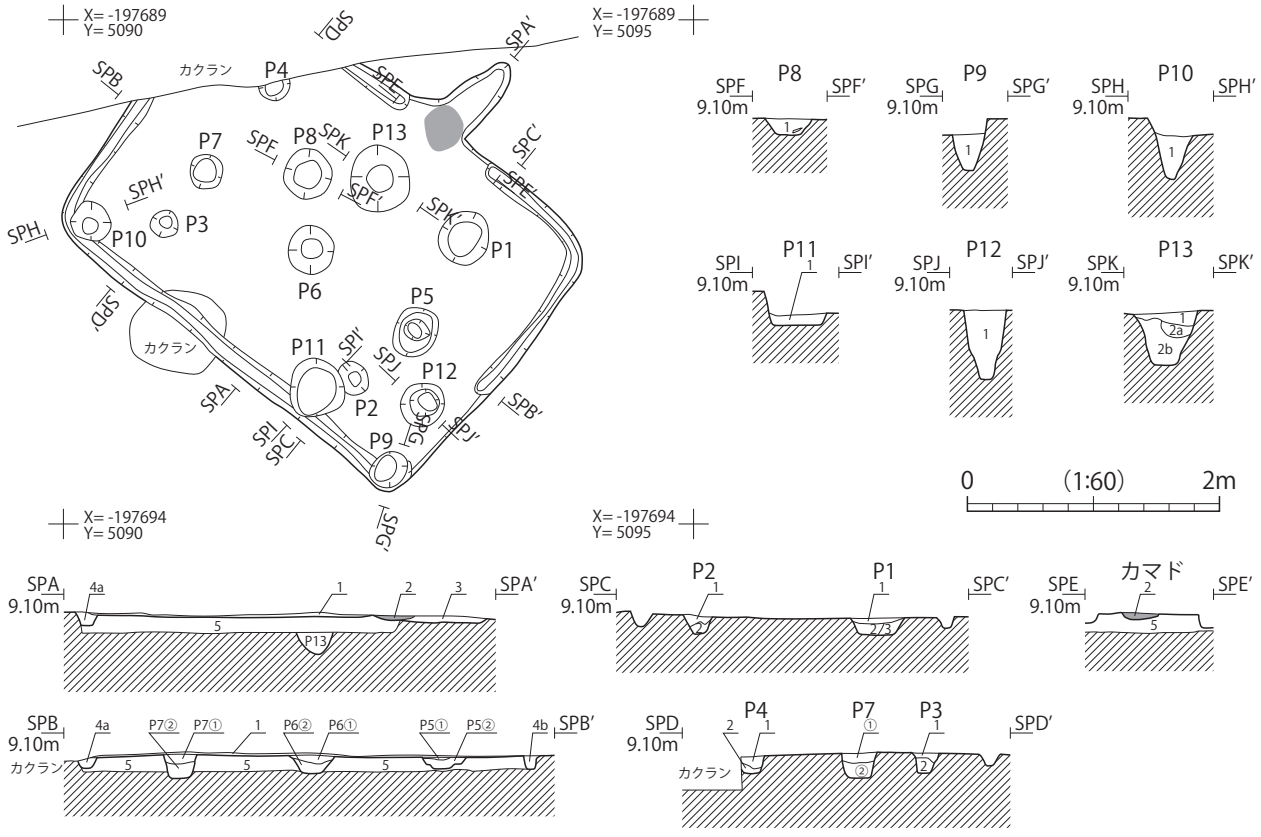
【カマド】北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部底面と煙道部が残存し、袖は失われている。燃焼部は奥行き 33cm、幅 32cm 前後が推定され、全体が壁内に位置すると考えられる。底面は概ね平坦で、煙道部へはそのまま水平に繋がっている。煙道部は長さ 66cm、幅 31cm、深さ 7cm を測り、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】ピット P5・6・8・11・13 を検出した。P11・13 は掘り方埋土の下から検出されたため、別遺構の可能性もある。いずれも人為的に埋土されており、P5・6・8 の堆積土中には焼土が多く含まれることから、カマドとの関連性が考えられる。

【掘り方】深さ 9 ～ 15cm 程を測る。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】堆積土や床面施設出土の遺物がほとんどである。全体的な量も少ない。土師器坏 1 点、甕 1 点、須恵器坏 1 点を掲載した（第 222 図）。1 の土師器坏は、底部が静止糸切りである。3 の須恵器坏は、体部と口縁部との境に強い稜をもつタイプである。

【時期】周溝から出土した第 222 図－ 1 は直接伴う遺物と思われ、掘り方から出土した 3 も目安となる。このことから、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前半）と考えられる。



第 221 図　SI9 竪穴住居跡

SI9　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
カマド	2	7.5YR4/3　褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物少量含む。
	3	10YR5/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物少量含む。
周溝	4a	10YR3/3　暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物微量含む。
	4b	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
住居掘り方	5	10YR3/3　暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 100㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。

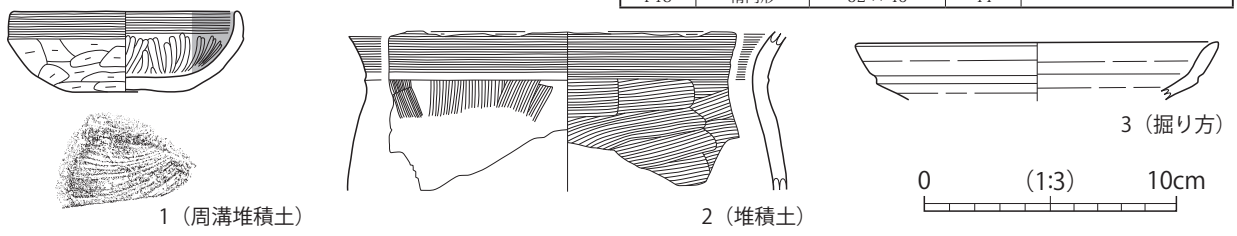
SI9　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/4　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2	10YR3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	3	10YR5/4　にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量含む。
P2	1	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
	2	10YR4/1　褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量含む。
P3	1	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
	2	10YR3/1　黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P4	1	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1　黒褐色	シルト	褐色シルト粒少量含む。
P5	①	10YR1.7/1 黒色	シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	②	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	炭化物少量含む。
P6	①	10YR1.7/1 黒色	シルト	焼土ブロック (5㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	②	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	炭化物少量含む。
P7	①	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含む。
	②	10YR3/1　黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P8	1	10YR4/2　灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
P9	1	10YR3/1　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
P10	1	10YR3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
P11	1	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・黒色シルトの混合。
P12	1	10YR3/4　暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物微量含む。
P13	1	10YR5/6　黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量含み、Ⅳ層土・黒色シルトの混合。
	2a	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
	2b	10YR3/3　暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック (5㎜程度) 少量、炭化物微量含む。

SI9　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	43 × 39	14	
P2	円形	28 × (24)	15	
P3	円形	23 × 22	16	
P4	円形	26 × (15)	14	
P5	隅丸長方形	42 × 33	9	
P6	円形	39 × 36	14	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	隅丸方形	27 × 26	20	
P8	円形	39 × 38	14	
P9	楕円形	31 × 26	29	
P10	楕円形	31 × 30	35	
P11	円形	46 × 43	10	
P12	円形	35 × 34	55	
P13	楕円形	52 × 46	44	



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-035	Ⅱ区	SI9	周溝堆積土	土師器	坏	(8.9)	4.5	3.2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部静止糸切り	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、黒色処理		30
2	C-037	Ⅱ区	SI9-P12	堆積土	土師器	甕	-	-	(6.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		30
3	E-006	Ⅱ区	SI9	掘り方	須恵器	坏	(14.8)	-	(2.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		30

第 222 図　SI9 竪穴住居跡出土遺物

SI10 竪穴住居跡（第 223 図）

【位置・確認】Ⅲ区南東部の 81 グリッドに位置する。SD10 との重複により、東側の大半が失われている。

【重複】SD10、Pit274・275 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、南北 402cm、東西 181cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】カマド基準で N － 79° － W である。

【堆積土】大別で 8 層、細別で 12 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土である。3・4 層はカマド関連層位である。4 層は基本層Ⅳ層由来のブロックや焼土を多く含むことから、天井材もしくは袖材の崩落土と考えられる。5 層はカマド燃焼部底面、6 層は袖の構築土である。袖は基本層Ⅳ層土がくすんだような色調を呈している。7・8 層は掘り方埋土である。

【壁面】高さ 8 ～ 11cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】概ね平坦である。

【柱穴】3 基検出した。規模や形状は大きく異なるが、P1・5 が位置関係から主柱穴の可能性がある。また、P6 は P5 に付属する補助柱穴と思われる。いずれの柱穴からも柱痕跡は確認されなかった。

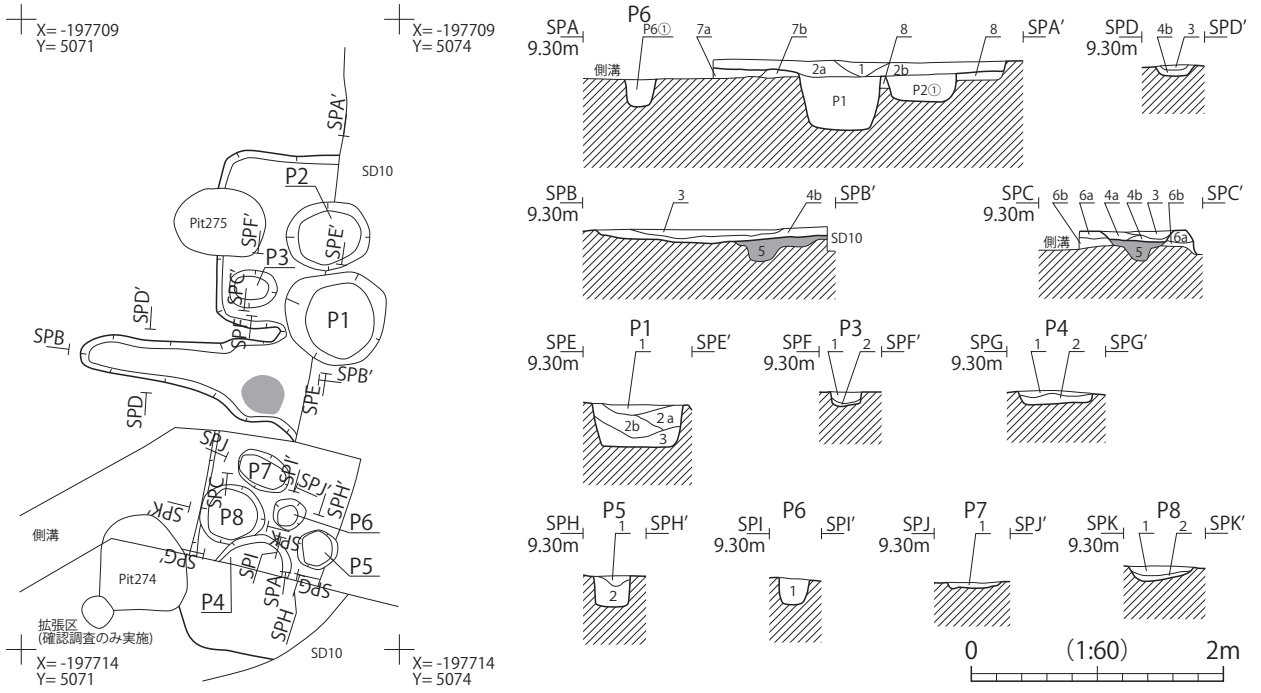
【カマド】西壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。南袖の一部は側溝掘削により失われている。袖は東袖で長さ 55cm、幅 20cm を測り、西袖は長さ 68cm、幅 14 ～ 19cm が残存する。これらの袖は、北壁に対し直交して延びている。燃焼部は奥行き 48cm、幅 59cm を測り、全体が壁内に位置する。底面は概ね平坦で、煙道部へはそのまま水平に繋がっている。煙道部は長さ 130cm、幅 34cm、深さ 12cm を測り、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】ピット P3・7、土坑 P2・4・8 を検出した。P2・3 は床面から、P4・7・8 は掘り方から検出されている。P3・7 はカマドの外側にそれぞれ配置され、P3 の堆積土に炭化物が多く含まれることからカマドとの関連性が考えられる。P2 は P5 との位置関係から主柱穴の可能性も残るが、P1 より浅く、土坑と捉えた。P4・8 は貯蔵穴と思われるが、ともに堆積土中には焼土や炭化物を多く含み、カマドとの関連性も考慮される。

【掘り方】深さ 3 ～ 8cm 程を測る。底面形状は残存範囲がほとんど存在しないため、判然としない。

【出土遺物】土師器・須恵器破片が少量出土した。堆積土の遺物がほとんどで、いずれも図化可能なものはなかった。

【時期】時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



SI10　堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・焼土ブロック (5㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
	2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色粘土ブロック (20㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
カマド	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	4a	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	焼土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	4b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・焼土ブロック (5㎜程度) 少量、炭化物・灰微量含む。
カマド火床面	5	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 含む。
カマド袖	6a	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。
	6b	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
住居掘り方	7a	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
	7b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
	8	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・酸化鉄微量含む。

第 223 図　SI10 竪穴住居跡

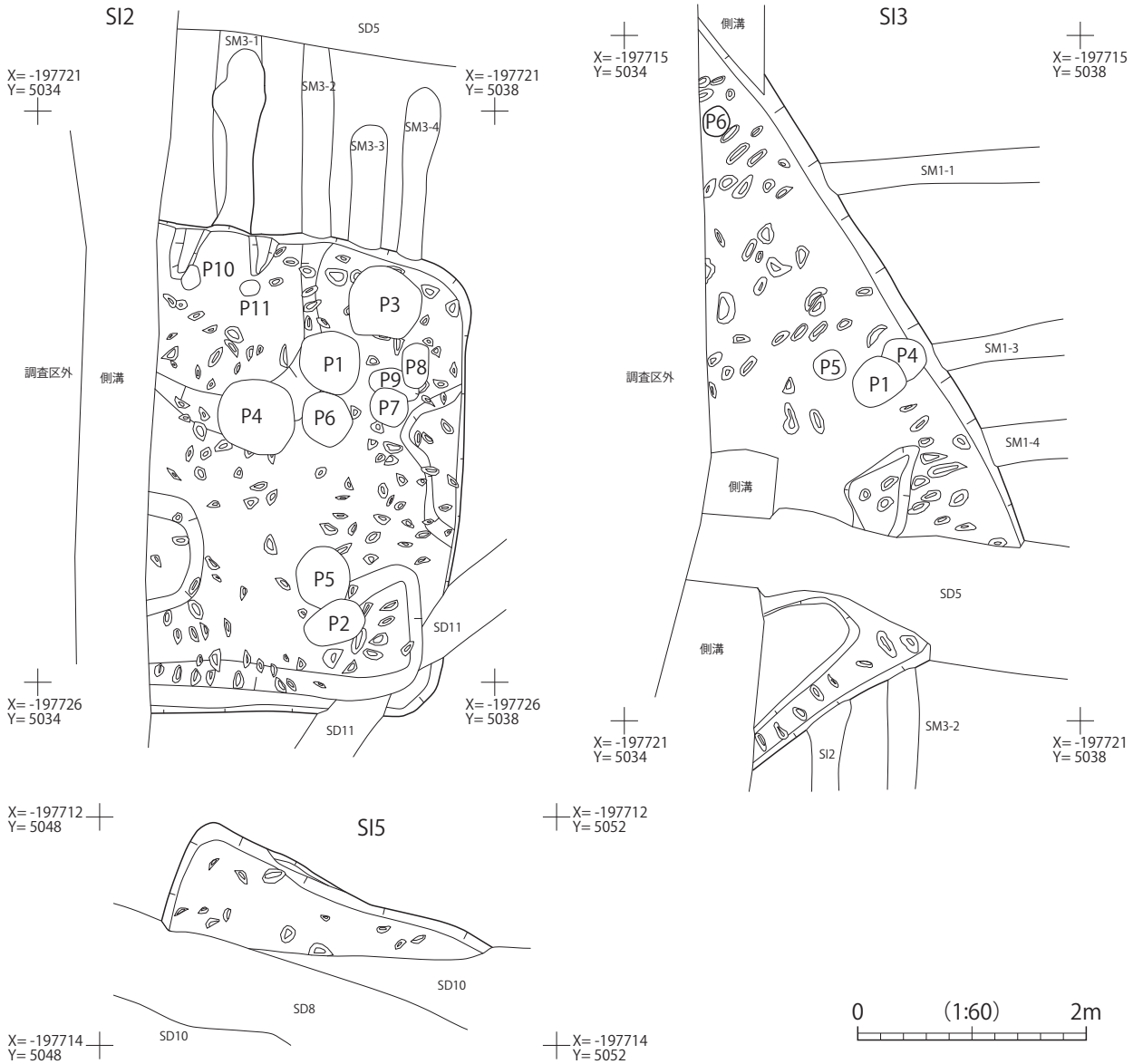
SI10　施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・焼土粒少量、炭化物微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、酸化鉄少量含む。
P2	①	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 30㎜程度) 多量、炭化物・酸化鉄微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物多量、Ⅳ層土ブロック (20㎜程度)・焼土粒少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物ラミナ状に、焼土粒少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、焼土粒微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロックラミナ状に、Ⅳ層土ブロック微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、焼土粒微量含む。
P7	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、焼土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
P8	1	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (10㎜程度)・炭化物微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。

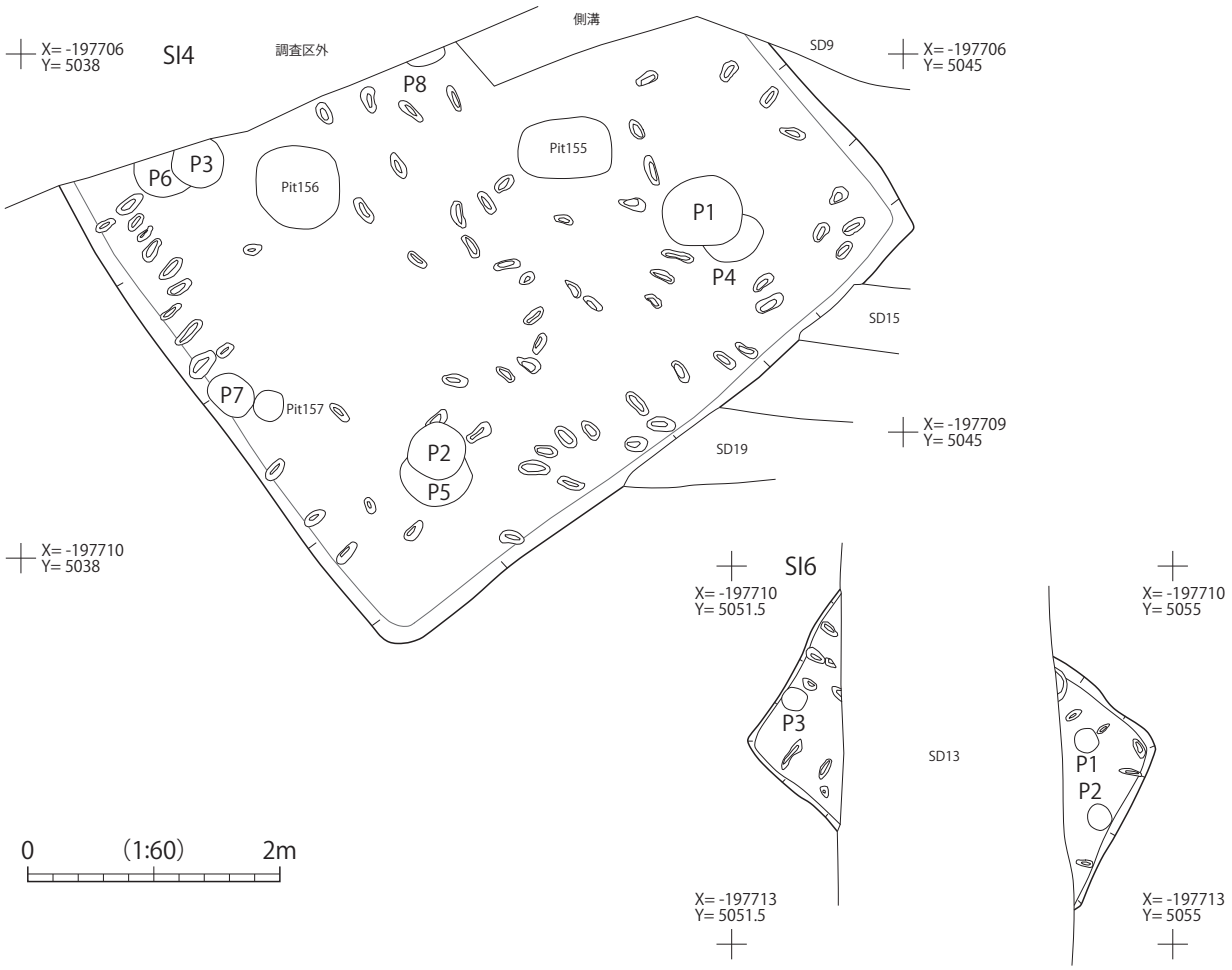
SI10　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	82 × 73	45	
P2	楕円形	67 × 54	18	
P3	楕円形	38 × 30	11	
P4	楕円形	59 × (30)	9	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	33 × 32	27	
P6	円形	26 × 25	20	
P7	楕円形	44 × 30	5	
P8	円形	50 × 47	9	



第 224 図　竪穴住居跡掘り方工具痕検出状況図（SI2・3・5）



第 225 図　竪穴住居跡掘り方工具痕検出状況図（SI4・6）

（2）掘立柱建物跡

Ⅳ区から 4 棟が検出された。うち 3 棟が調査区の北西端部に一部重複して位置する。いずれの掘立柱建物跡も側柱建物で、方形基調を基本形とするしっかりとした柱穴で構成される。SB3 では一部の柱穴で 2 箇所の柱痕跡が確認され、建て替えが行われたと考えられる。遺物は土師器・須恵器破片が少量出土したほか、SB3 では用途不明の石製品が 1 点出土している。これらの正確な時期は判然としないが、前記の通り西側の長町駅東遺跡第 4 次・第 10 次調査で検出された建物群と一連のものであると考えられる。

SB1 掘立柱建物跡（第 226 図）

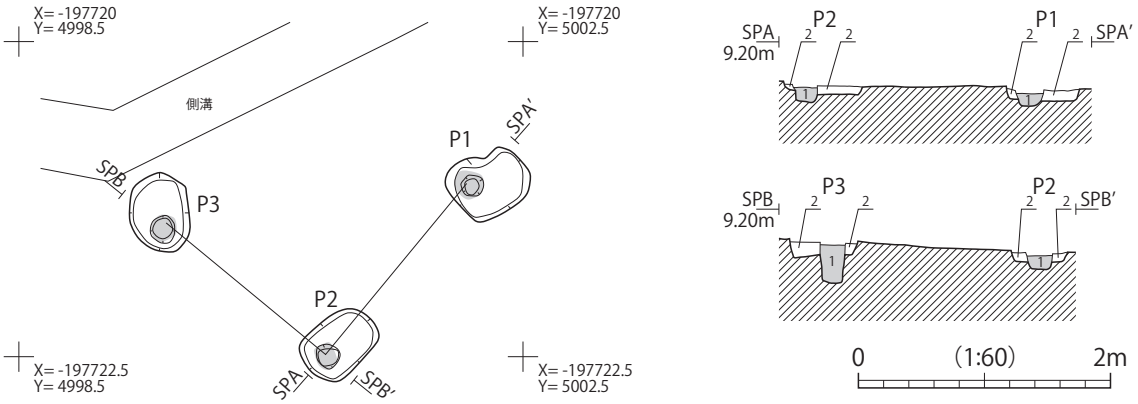
Ⅳ区北西端部の 93・94 グリッドに位置する。3 基の柱穴が「L」字状に検出された。SB2・3 よりも新しい。

東西 1 間、南北 1 間を検出したが、延長部分に柱穴が認められないことから、これが全体範囲と思われる。規模は東西 165cm、南北 180cm を測り、建物形状は方形と推定される。棟方向は東側柱列で N － 41°－ E である。

柱穴の平面形状は、P1・2 が隅丸長方形、P3 が楕円形である。規模は長軸 61 ～ 64cm、短軸 45 ～ 54cm を測る。深さは掘り方で 6 ～ 15cm を測るが、柱の据付部分では P3 が 32cm と極端な深さを有する。柱痕跡はいずれの柱穴からも確認され、径 16 ～ 23cm を測る。

遺物は、それぞれの柱穴から土師器・須恵器破片がわずかに出土したが、いずれも図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。



SB1(古墳時代～古代) 観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	隅丸方形	61 × 54	13	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、酸化鉄微量含む。	
P2	隅丸方形	64 × 45	13	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物微量含み、大半がグライ化。(柱痕跡)	SB2-P2 より新しい。
				2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、酸化鉄微量含む。	
P3	楕円形	63 × 48	32	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物微量含み、大半がグライ化。(柱痕跡)	SB2-P3･SB3-P1 より新しい。
				2	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、酸化鉄微量含む。	

第 226 図　SB1 掘立柱建物跡

SB2 掘立柱建物跡（第 227 図）

SB1 の範囲と大半が重複して検出され、84・93・94 グリッドに位置する。SB1 と同様に 3 基の柱穴が「L」字状に検出された。SB1 より古く、SB3 よりも新しい。

東西 1 間、南北 1 間が検出され、やはり延長部分に柱穴は認められない。規模は東西 207cm、南北 245cm を測り、建物形状はやや南北に長い方形と推定される。棟方向は東側柱列で N － 29° － E である。

柱穴の平面形状は、P1･3 が隅丸の方形基調、P2 が楕円形である。規模は長軸 54 ～ 68cm、短軸 53 ～ 55cm を測る。深さは 9 ～ 17cm を測る。柱痕跡はいずれの柱穴からも確認され、径 15 ～ 18cm を測る。

遺物は、P1・2 から土師器・須恵器破片がわずかに出土したが、いずれも図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。

SB3 掘立柱建物跡（第 228・229 図）

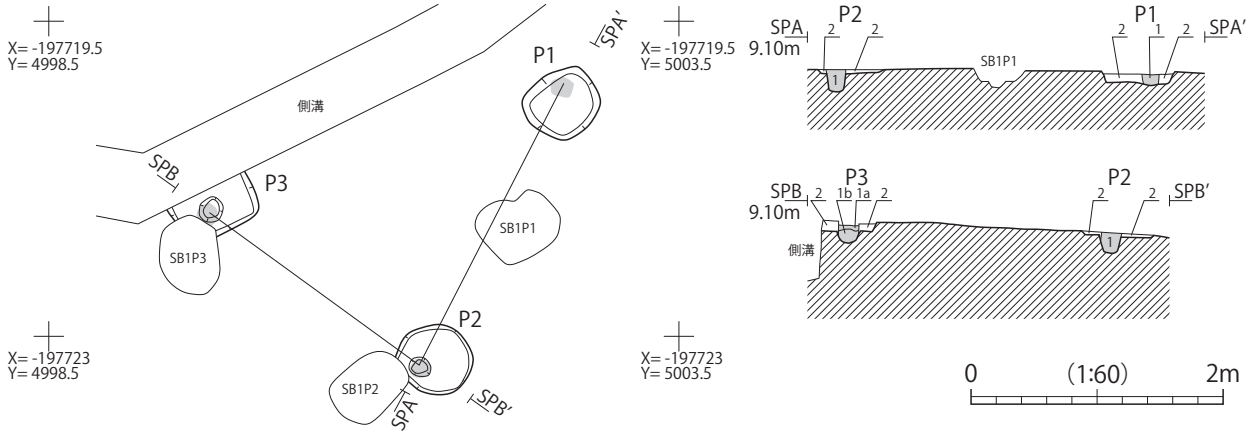
Ⅳ区北西端部の 93・100 グリッドに位置する。北東側の P1 が SB1 － P3、SB2 － P3 と重複して検出された。5 基の柱穴が「L」字状に並び、西側と北側は調査区外に延びるものと思われる。SB1・2 よりも古い。

東西 2 間、南北 2 間を検出した。側柱建物である。規模は東西 359cm、南北 374cm を測り、建物形状は判然としない。棟方向は東側柱列で N － 3° － E である。

柱間寸法は、柱穴同士の芯々距離あるいは柱痕跡や底面の窪みなどを参考にして示す。南側柱列は東から 132cm － 227cm、東側柱列は南から 191cm － 183cm を測り、南側柱列がかなり不揃いである。

柱穴の平面形状は、いずれも隅丸の方形基調である。規模は長軸 84 ～ 99cm、短軸 65 ～ 75cm を測る。深さは 38 ～ 86cm を測る。柱痕跡は P1 ～ 4 で認められたが、P2 ～ 4 では土層断面以外にも底面の変色部（あたり）として残り、2 箇所ずつが確認された。このことから、建て替えが行われたと考えられる。これらの柱痕跡は、径 18 ～ 26cm を測る。

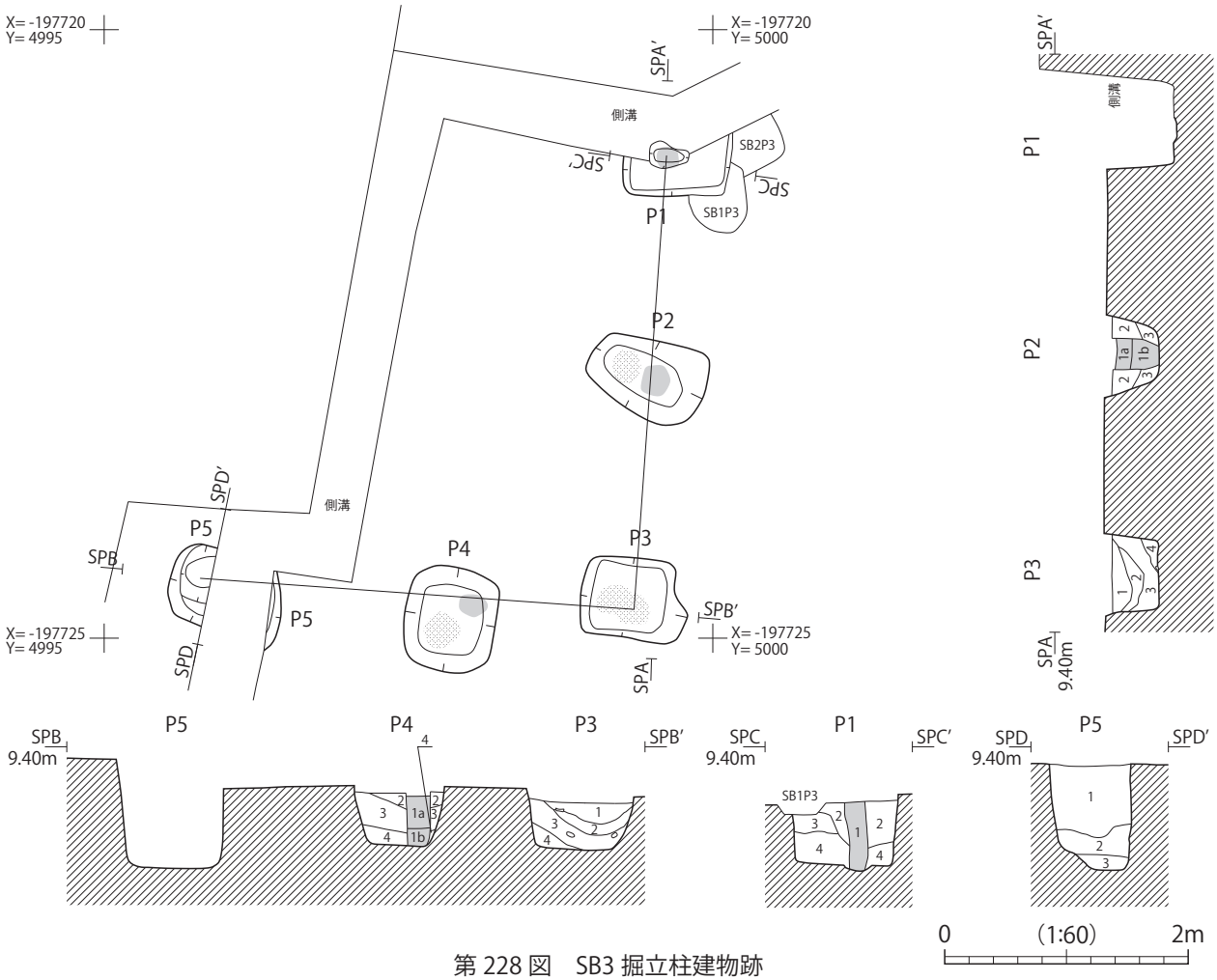
遺物は、P2 ～ 4 から土師器・須恵器破片が少量と、P4 から石製品 1 点が出土した。この石製品 1 点と、須恵器 2 点を掲載した（第 229 図）。



SB2(古墳時代～古代) 観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土 色	土 性	備考	重複
P1	楕円形	58 × 53	9	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
				2	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含み、大半がグライ化。	
P2	楕円形	60 × 55	17	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	SB1-P2 より古い。
				2	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含み、大半がグライ化。	
P3	隅丸方形	68 × (37)	12	1a	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	SB1-P3 より古く、SB3-P1 より新しい。
				1b	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
				2	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含み、大半がグライ化。	

第 227 図　SB2 掘立柱建物跡

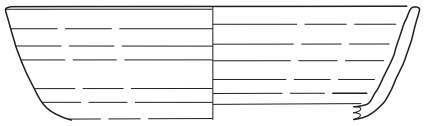


第 228 図　SB3 掘立柱建物跡

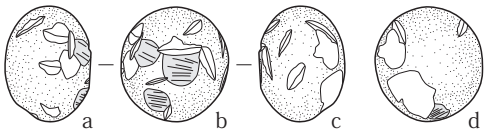
SB3(古墳時代～古代) 観察表

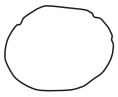
遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	方形	90 × (41)	57	1	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物少量含む。(柱痕跡)	SB2-P3 より古い。
				2	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度) 多量、上位に黒褐色シルトブロック少量、下位に炭化物微量含む。	
				3	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 密、酸化鉄微量含む。	
				4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。	
P2	方形	99 × 65	38	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、マンガン微量含む。(柱痕跡)	
				1b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 斑状に多量、炭化物微量含む。	
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック少量含む。	
P3	方形	84 × 65	39	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄・マンガン微量含む。	
				2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
				3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 斑状に多量、炭化物微量含む。	
				4	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
P4	隅丸方形	85 × 75	43	1a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、マンガン微量含む。(柱痕跡)	
				1b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10㎜程度) 少量、マンガン微量含む。	
				3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 斑状に多量、炭化物微量含む。	
				4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
P5	隅丸方形	97 × 66	86	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度)・炭化物微量含む。	
				2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、黒褐色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。	
				3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10㎜程度) 多量、黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量含む。	

1（P3 堆積土）

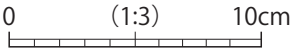


2（P3 堆積土）





3（P4 堆積土）



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-138-1	Ⅳ区	SB3-P3	堆積土	須恵器	坏	(17.4)	-	4.7	ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		30
2	E-138-2	Ⅳ区	SB3-P3	堆積土	須恵器	坏	(16.4)	-	(4.5)	ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		30

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
3	Kc-004	Ⅳ区	SB3-P4	堆積土	礫石器	磨石	4.55	4.3	3.35	50.0	流紋岩	球状礫、磨 1 面 (平)、溝状痕 (a ～ d 面) あり、完形品	30

第 229 図　SB3 掘立柱建物跡出土遺物

1・2 の須恵器坏は盤状を呈し、1 の底部は回転ヘラケズリ調整される。3 は登録上礫石器としたが、用途不明の石製品である。b の面には磨りによる平坦面が 3 箇所観察され、各面には溝状痕が認められる。石材は流紋岩である。

本掘立柱建物跡の時期は不明であるが、掲載した須恵器坏はともに 8 世紀前半に比定される。

SB4 掘立柱建物跡（第 230 図）

Ⅳ区東部の 86・96 グリッドに位置する。建物全体に相当する 8 基の柱穴を検出した。柱穴については他遺構との重複はないが、建物範囲内には中世～近世に属す SK3 が重複している。

東西 2 間、南北 2 間の側柱建物である。規模は東西 409cm、南北 397 ～ 405cm を測り、方形の建物形状を呈する。棟方向は建物の中軸で N － 8° － E である。

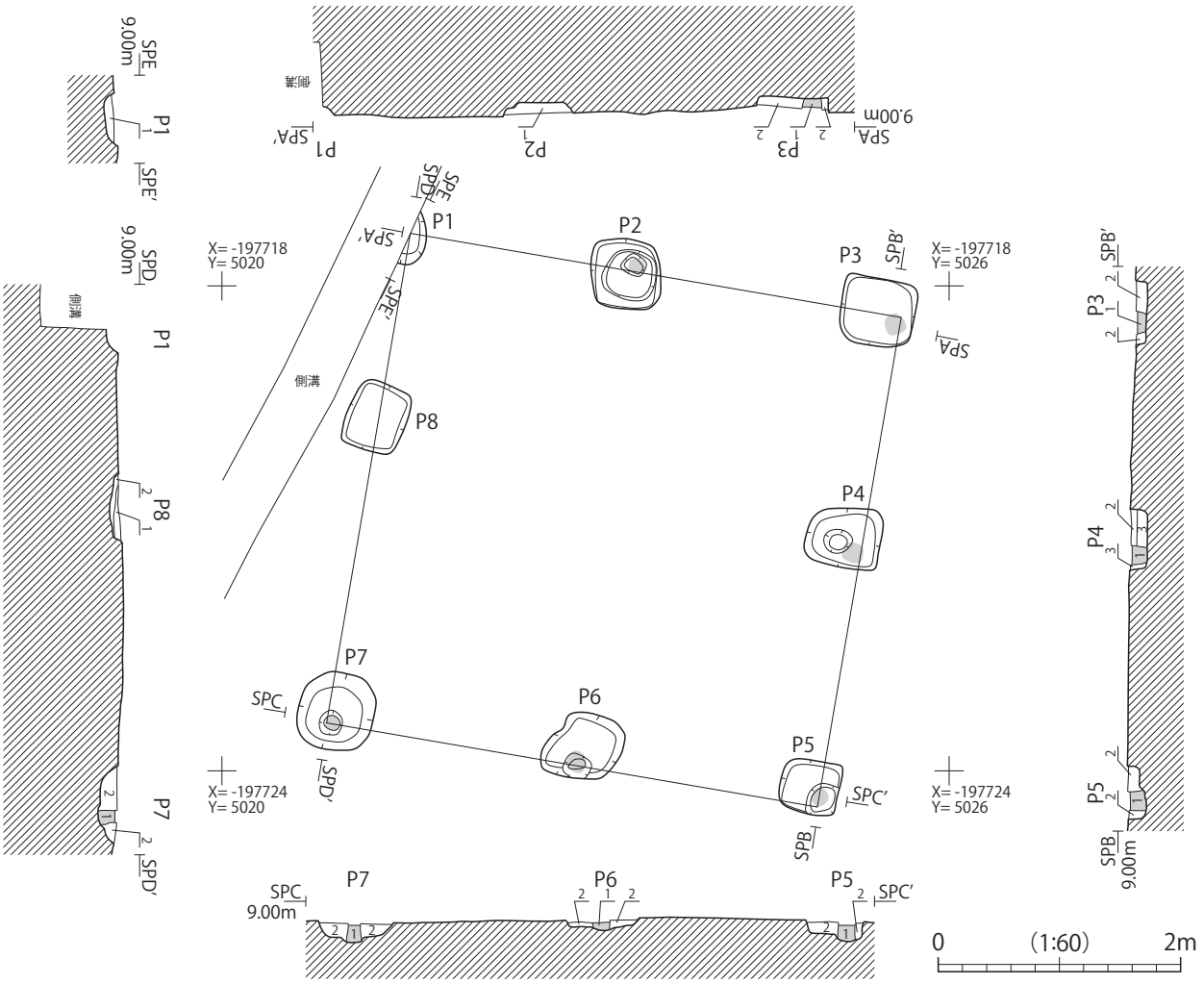
柱間寸法については、東西方向の柱列で南側柱列が東から 202cm － 207cm、北側柱列が 219cm － 190cm を

測る。南北方向の柱列では、東側柱列が南から 206cm － 191cm、西側柱列が 256cm － 149cm を測る。このように、柱穴配置はやや不揃いである。

柱穴の平面形状は、隅丸の方形基調が基本形だが、P1 は楕円形の可能性もある。規模は長軸 49 ～ 67cm、短軸 45 ～ 62cm を測る。深さは 7 ～ 15cm を測る。柱痕跡は P2 ～ 7 で認められ、径 10 ～ 18cm を測る。

遺物は、P2 ～ 7 から土師器・須恵器破片がわずかに出土したが、図化可能なものはなかった。

本掘立柱建物跡の時期は、時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、不明である。



SB4(古墳時代～古代) 観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土　性	備考	重複
P1	不明	47 × (16)	(7)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
P2	方形	59 × 57	10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、酸化鉄微量含む。	
P3	方形	61 × 56	10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、黒褐色シルトブロック (5㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
P4	方形	62 × 50	14	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。	
				3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、黒褐色シルトブロック (5㎜程度)・酸化鉄微量含む。	
P5	方形	49 × 45	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
P6	隅丸方形	63 × 55	8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
P7	隅丸方形	65 × 62	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化したⅣ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物・酸化鉄微量含む。	
P8	方形	57 × 50	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。	
				2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄、下位に黒褐色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。	

第 230 図　SB4 掘立柱建物跡

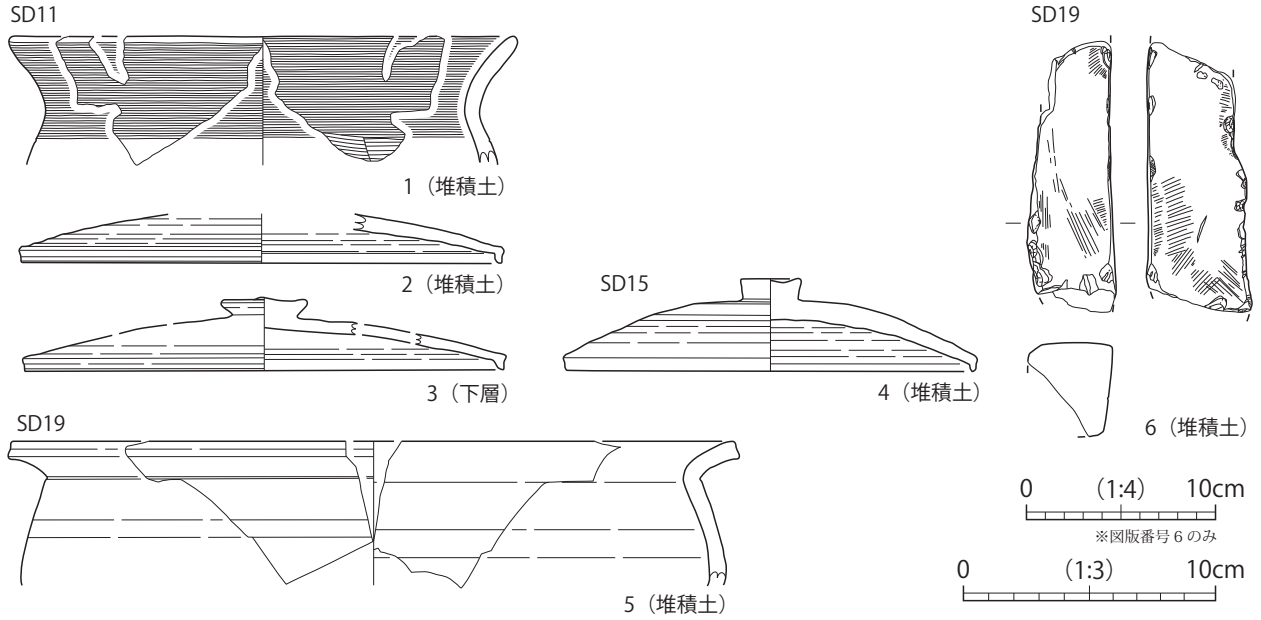
(3) 溝跡（第 231 ～ 238 図）

Ⅰ区から 2 条、Ⅲ区から 17 条が検出された。規模や形状は様々であり、機能の判然としない溝跡が多いが、上幅が 160cm を超える SD13・27 は区画施設的な性格が考えられる。また、SD14 の底面の一部からは柱穴とみられるピットが並んで検出されており、調査時の所見によれば板塀の埋設溝である可能性が指摘されている。この 3 条の溝跡については個別に記載を行うが、文中に示す他遺構との重複関係は、古代の遺構に限定する。

そのほかの溝跡については、SD2 が上幅 62 ～ 105cm を測り、SD11・26 がほぼ同じ規模を有する。これらに次ぐ規模が SD12・15・19 の上幅 44 ～ 69cm で、残りの SD1・16 ～ 18・20 ～ 23 は上幅 20 ～ 40cm 内外と小規模である。検出面からの深さは 4 ～ 31cm とまちまちで、概ね数値は上幅規模に比例するが、SD15・19 は深さ 10 ～ 16cm と浅い。断面形状は逆台形を基本形状としている。方向は SD1・2・11・16・22・23 が南北、SD12・15・17 ～ 21・26 が東西を指すが、SD2・22 はやや東に、SD21 はやや北に傾いて延びる。SD2 は東側へ弓なりに膨らんで湾曲する。SD11 は北端部の 70 グリッドから西に弱く屈曲し、直線的に延びる。

これらの溝跡の堆積土は、いずれも自然堆積と考えられる。SD11 の上層には十和田 a テフラ（To-a・推定 915 年降下）の可能性が指摘される火山灰の堆積が認められており、この溝跡の時期比定の指標となっている。遺物は SD2・11・15・17 ～ 20・22・23・26 から土師器・須恵器破片などが少量出土し、SD11 の土師器甕 1 点、須恵器蓋 2 点、SD15 の須恵器蓋 1 点、SD19 の土師器甕 1 点、石製品 1 点を掲載した（第 231 図）。

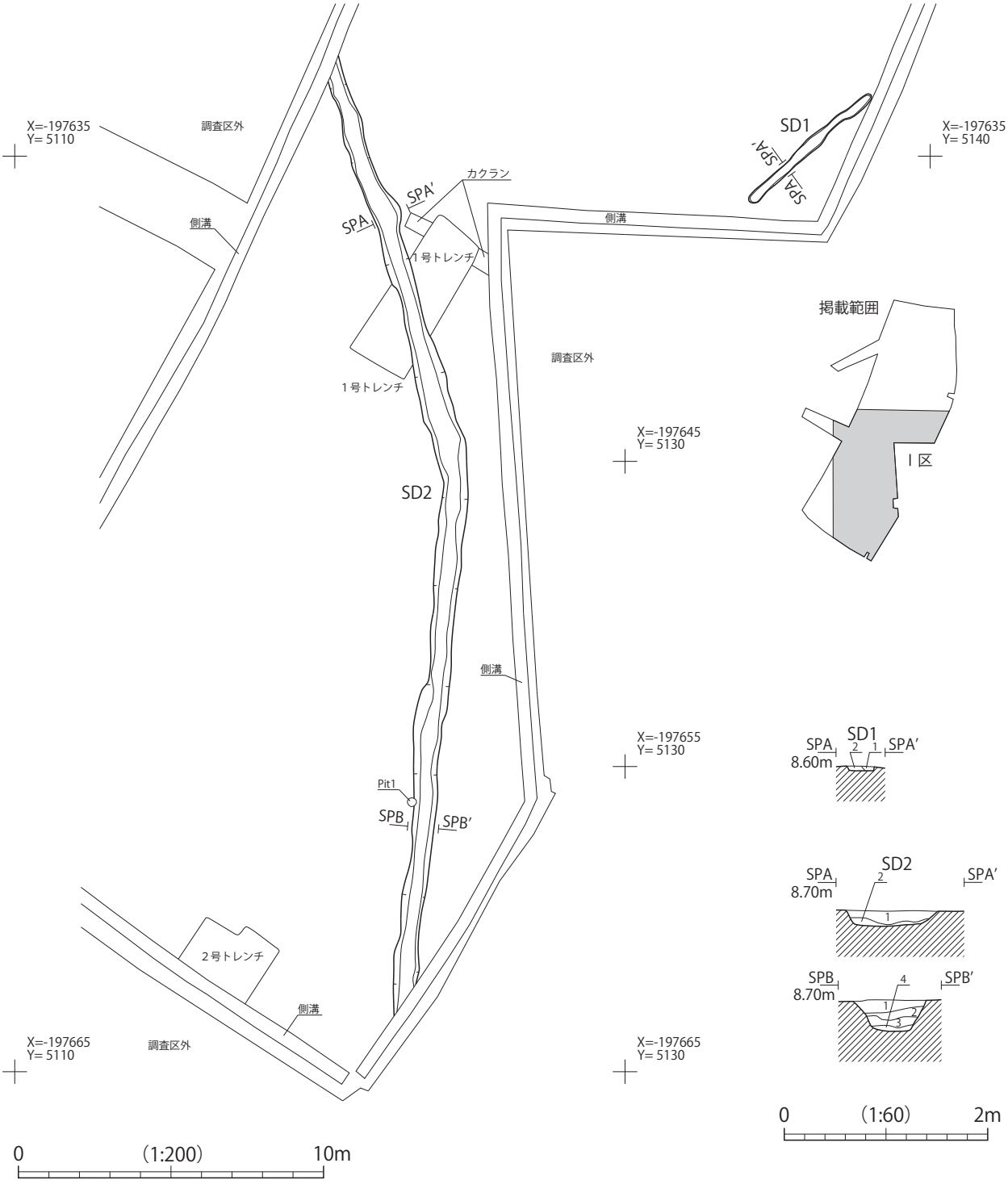
2 ～ 4 の須恵器蓋は、いずれも端部に返りをもつタイプである。3・4 にはボタン状のツマミが付く。5 の土師器甕はロクロ調整で、器形や技法上須恵器の系統を引くものである。6 の石製品は砂岩製の砥石で、材質の粒子から粗砥であると思われる。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-071	Ⅲ区	SD11	堆積土	土師器	甕	(20.0)	-	(5.1)	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		30
2	E-067	Ⅲ区	SD11	堆積土	須恵器	蓋	(21.0)	-	(2.0)	ロクロ調整、回転ヘラケズリ	ロクロ調整	SD9 出土破片と接合	30
3	E-069	Ⅲ区	SD11	下層	須恵器	蓋	(19.2)	-	(2.9)	ロクロ調整	ロクロ調整		30
4	E-119	Ⅲ区	SD15	堆積土	須恵器	蓋	(16.0)	-	3.7	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		30
5	C-024	Ⅲ区	SD19	堆積土	土師器	甕	(28.6)	-	(5.8)	ロクロ調整	ロクロ調整		30

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石　材	備考	写真図版
6	Kd-015	Ⅲ区	SD19	堆積土	石製品	砥石	(14.3)	4.75	5.6	390.0	砂岩	砥面 2 面、上下端・裏面欠損	30

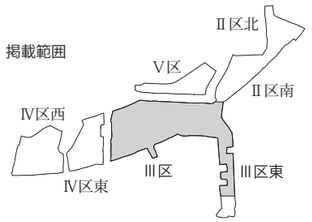
第 231 図　SD11・15・19 溝跡出土遺物

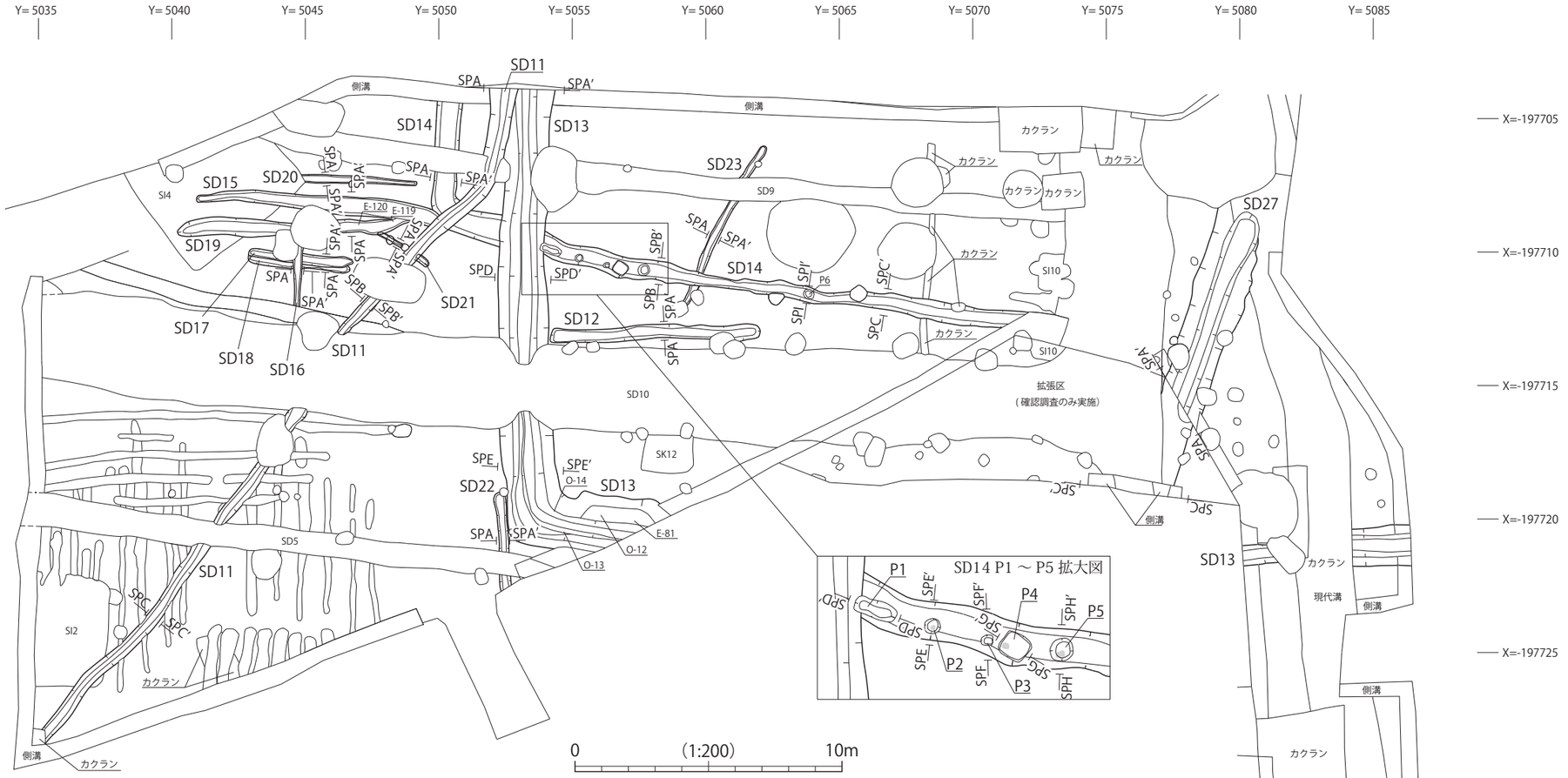


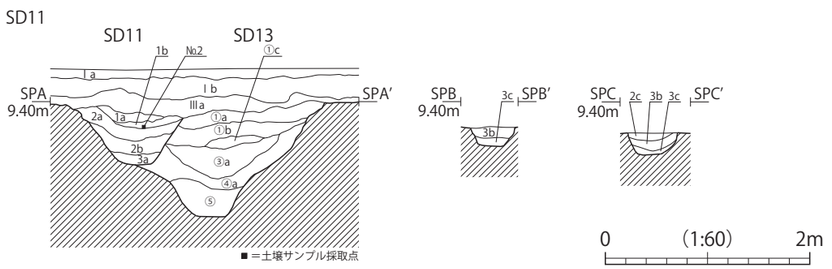
SD1・2(古墳時代～古代) 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD1	19・23	N-47°-E	530	24 ～ 44	13 ～ 33	4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	酸化鉄斑微量含む。
							2	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄斑少量含む。
SD2	18・22 25・27 30・33 37	N-18°-W ～ N-5°-E	3228	62 ～ 105	36 ～ 53	11 ～ 31	1	10G6/1 緑灰色	細砂	酸化鉄斑多量含む。
							2	10Y6/1 灰色	砂質シルト	酸化鉄斑少量、褐灰色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 微量含む。
							3	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑多量、炭化物微量、下位に褐灰色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
							4	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	緑灰色微砂ラミナ状に含む。

第 232 図　SD1・2 溝跡



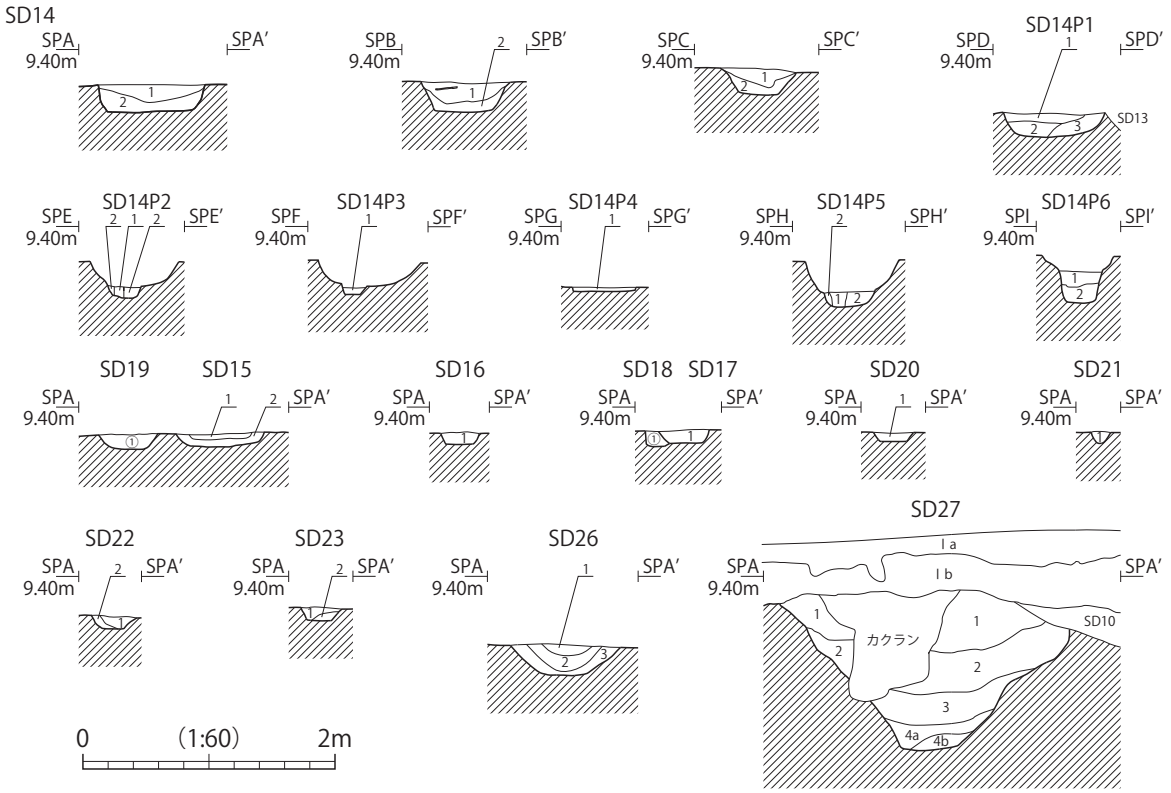




SD11～13（古墳時代～古代） 観察表

遺構名	ｹﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模（cm）				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD11	64・69 70・78 88・97 98・104	N-12°-E N-41°-E	(3056)	52～79	13～22	18～29	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色火山灰（10～50㎜程度）多量含む。
							1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色火山灰層。（To-a の可能性が高い）
							2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ラミナ状に、炭化物微量含む。
							2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、焼土粒・炭化物微量含む。
							2c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物微量含む。
							3a	2.5Y5/1 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（50～100㎜程度）多量、炭化物微量含む。
							3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に多量、炭化物微量含む。
							3c	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック（5㎜程度）微量含む。
SD12	79・80	N-88°-E	788	47～54	25～47	14～25	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、酸化鉄を含む。
							2	2.5Y2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含み、グライ化。
SD13	64・70 79・89 99・100	西辺 N-1°-W 南辺 N-88°-W	西辺 (1586) 南辺 (3258)	168～186	22～53	76～87	①a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物微量含む。
							①b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（50㎜程度）多量、炭化物微量含む。
							①c	2.5Y4/6 赤褐色	粗砂	鉄滓含む。
							②	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色火山灰ラミナ状に堆積。（To-a とは異なる火山灰？）
							③a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト粒少量、炭化物微量、酸化鉄・マンガン含む。
							③b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック（10㎜程度）少量、酸化鉄・マンガン含む。
							④a	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（30～50㎜程度）多量、炭化物微量、マンガン含む。
							④b	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
							⑤	7.5Y4/6 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（50～100㎜程度）・褐色シルトブロック（30～50㎜程度）の混合。

第 233 図　SD11 ～ 23・26・27 溝跡・SD11 ～ 13 断面図



SD14 ～ 23･26･27(古墳時代～古代) 観察表

遺構名	ｹﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SD14	64･69 70･79 80	西辺 N-4°-W 東辺 N-77°-W	西辺 (439) 南辺 (2259)	45 ～ 74	24 ～ 44	18 ～ 27	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量、焼土粒・炭化物微量含む。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
SD15	69･70	N-85°-W	(916)	25 ～ 68	12 ～ 60	11 ～ 15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。
							2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
SD16	69･78	N-2°-E	(230)	21 ～ 34	8 ～ 23	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
SD17	69･78	N-84°-W	392	32 ～ 41	16 ～ 36	5 ～ 11	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土粒・炭化物微量含む。
SD18	78	N-82°-W	385	11 ～ 27	4 ～ 15	7 ～ 13	①	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
SD19	69	N-87°-W	(882)	44 ～ 69	27 ～ 29	10 ～ 16	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
SD20	69	N-88°-W	(466)	18 ～ 33	8 ～ 22	5 ～ 8	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、酸化鉄微量含む。
SD21	69･78	N-60°-W	(226)	23 ～ 28	12 ～ 14	10 ～ 11	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。
SD22	89･99	N-4°-W	(397)	35 ～ 45	17 ～ 30	11 ～ 13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量含む。
							2	10YR4/4 褐色	シルト	褐色シルトブロック (5㎜程度) 少量含む。
SD23	70･71 79･80	N-27°-E	(668)	24 ～ 35	10 ～ 25	5 ～ 8	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、黒褐色シルトブロック (10㎜程度) 微量含む。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
SD26	114	N-82°-E	(292)	58 ～ 103	33 ～ 46	20 ～ 24	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量含む。
							2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
							3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (20㎜程度) 少量含む。
SD27	72･73･81 82･91	N-20°-E	(1157)	170 ～ 188	32 ～ 75	78 ～ 100	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 多量、酸化鉄含む。
							2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、炭化物微量含む。
							3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (10㎜程度) 少量、炭化物微量含む。
							4a	10YR3/2 黒褐色	粘土	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
							4b	10YR3/1 黒褐色	粘土	Ⅳ層土ブロック (5㎜程度) 少量含む。

SD14　施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考
P1	隅丸方形	81 × 33	21	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、焼土・炭化物微量含む。
				2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 少量、褐灰色シルトブロック (10 ～ 20㎜程度)・酸化鉄微量含む。
				3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 多量、炭化物少量含む。
P2	円形	30 × 28	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。 (柱痕跡)
				2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・マンガン微量含む。
P3	円形	22 × 20	6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度) 微量含む。
P4	方形	54 × 49	3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物少量含む。
P5	円形	44 × 43	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・炭化物微量含む。 (柱痕跡)
				2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (10 ～ 20㎜程度)・マンガン微量含む。
P6	円形	40 × 37	24	1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量、酸化鉄含み、グライ化。
				2	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック (30㎜程度) 少量含み、グライ化。

第 234 図　SD14 ～ 23・26・27 溝跡断面図

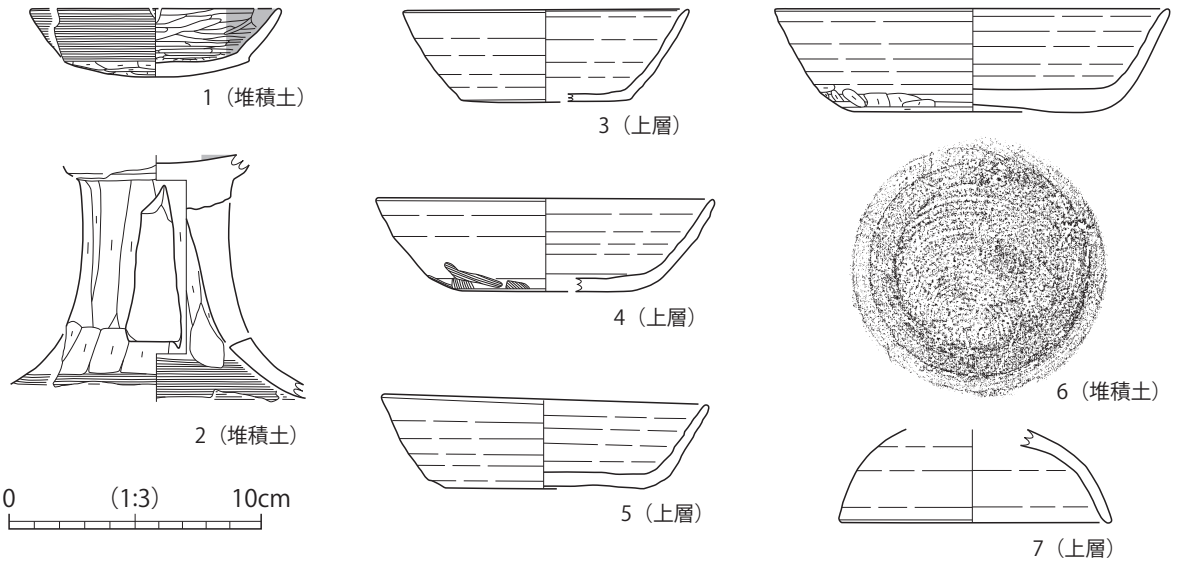
SD13 溝跡（第 233・235・236 図）

Ⅲ区の中央部から東部にかけて検出され、64・70・79・89・99・100 グリッドに位置する。北側と東側は調査区外に延びるが、Ⅴ区ではその延長が検出されなかった。当該期遺構との重複関係は SD11 より古く、SI6、SD14 より新しい。

南北方向の延びから、89・99 グリッド内で「L」字状に東へと屈曲する。中軸を基準とする方位は、西辺で N － 1°－ W、南辺で N － 88°－ W である。規模は、西辺で検出長 15.86 m、南辺で検出長 32.58 mを測り、上端幅 168 ～ 186cm、下端幅 22 ～ 53cm を測る。検出面からの深さは 76 ～ 87cm を測る。断面形状は逆台形を呈し、壁の中位には稜や段を有す。壁面には細かい凹凸が認められる。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。堆積土は大別で 5 層、細別で 9 に分層された。灰黄褐色～黄灰色シルトを主体とし、いずれも自然堆積である。2 層には灰白色火山灰が含まれるが、自然科学分析から十和田 a テフラの一次堆積ではないとみられる。

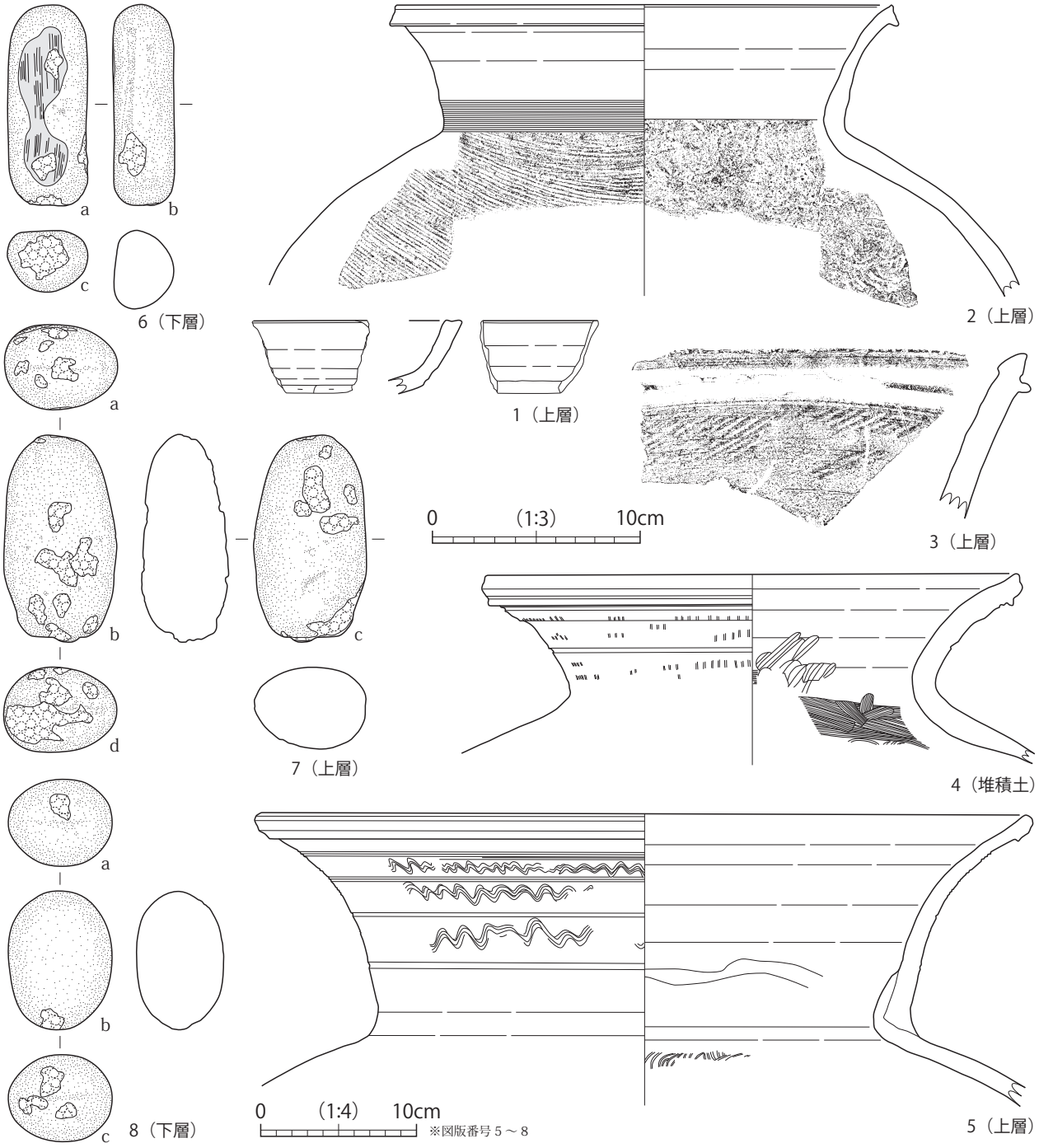
遺物は多量の土師器・須恵器破片のほか、礫石器、馬歯が出土している。土師器坏 1 点、高坏 1 点、須恵器坏 4 点、蓋 1 点、盤 1 点、甕 4 点、礫石器 3 点を掲載した（第 235・236 図）。第 235 図－ 2 の高坏は、脚部に三角形の透孔が 3 箇所穿たれている。3 ～ 6 の須恵器坏は法量や体部形状が様々だが、口径と底径の比率は 4 が約 2:1 で、ほかの 3 点は約 5：3 である。6 の底部は回転糸切り後、外周をヘラケズリ調整されている。7 の蓋は埦を伏せたような丸みをもつ器形で、返りやツマミをもたない。第 236 図－ 2 ～ 5 の甕は、いずれも口縁部直下に突帯を巡らせている。このうち、2 は焼成条件により赤色がかる色調を呈す。5 は口唇部に濃緑色の自然釉の付着が認められる。第 236 図－ 6 ～ 8 の礫石器は、いずれも敲石である。6 の a 面には磨面が認められる。

本溝跡は、規模や走行状況などから区画施設の機能を有した溝跡と思われる。時期は、SD11 より古いことや出土土器の特徴から、8 世紀代に遡る可能性が考えられる。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-072	Ⅲ区	SD13	堆積土	土師器	坏	(9.8)	-	2.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		30
2	C-079	Ⅲ区	SD13	堆積土	土師器	高坏	-	-	(9.8)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		30
3	E-074	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	坏	11.4	6.6	3.6	ロクロ調整、底部ヘラ切り無調整	ロクロ調整		30
4	E-089	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	坏	(13.4)	-	3.7	ロクロ調整、体部下端～底部ヘラナデ	ロクロ調整		30
5	E-095	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	坏	12.9	7.8	3.7	ロクロ調整、底部ヘラ切り→回転ヘラ調整	ロクロ調整	SE3 出土破片と接合	30
6	E-090	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	坏	15.6	9.4	4.1	ロクロ調整、体部下端ヘラナデ、底部回転糸切り→周縁部回転ヘラ調整	ロクロ調整		30
7	E-088	Ⅲ区	SD13	堆積土	須恵器	蓋	10.8	-	(3.7)	ロクロ調整。回転ヘラケズリ	ロクロ調整		30

第 235 図　SD13 溝跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	E-071	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	盤	-	-	(3.5)	ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ロクロ調整		30
2	E-097	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	甕	(24.0)	-	(14.0)	ロクロ調整、胴部平行タタキ	ロクロ調整、頸部ヘラナデ、胴部青海波文		30
3	E-092	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	甕	-	-	(7.2)	タタキ→ロクロ調整	ロクロ調整		30
4	E-083	Ⅲ区	SD13	堆積土	須恵器	甕	(25.6)	-	(9.2)	タタキ→ロクロ調整	ロクロ調整、頸～胴部ヘラナデ、体部当て具痕	SD10 出土破片と接合	31
5	E-084	Ⅲ区	SD13	上層	須恵器	甕	(49.8)	-	(18.8)	ロクロ調整、櫛描波状文	ロクロ調整、胴部青海波文		31

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
6	Kc-007	Ⅲ区	SD13	下層	礫石器	敲石	12.9	5.1	4.0	411.1	流紋岩	棒状礫、磨 1 面 (平)、敲 (a 面 2 ヶ所、b 面 1 ヶ所、c 面 1 ヶ所)、程度弱、完形品	31
7	Kc-005	Ⅲ区	SD13	上層	礫石器	敲石	7.2	13.1	5.3	800.0	石英斑岩	扁平礫、敲 (a 面 3 ヶ所、b 面 3 ヶ所、c 面 4 ヶ所、d 面 4 ヶ所)、程度弱、完形品	31
8	KC-006	Ⅲ区	SD13	下層	礫石器	敲石	8.9	6.6	5.1	500.0	安山岩	敲 (a 面 1 ヶ所、c 面 4 ヶ所)、程度弱、完形品	31

第 236 図　SD13 溝跡出土遺物（2）

SD14 溝跡（第 233・234・237 図）

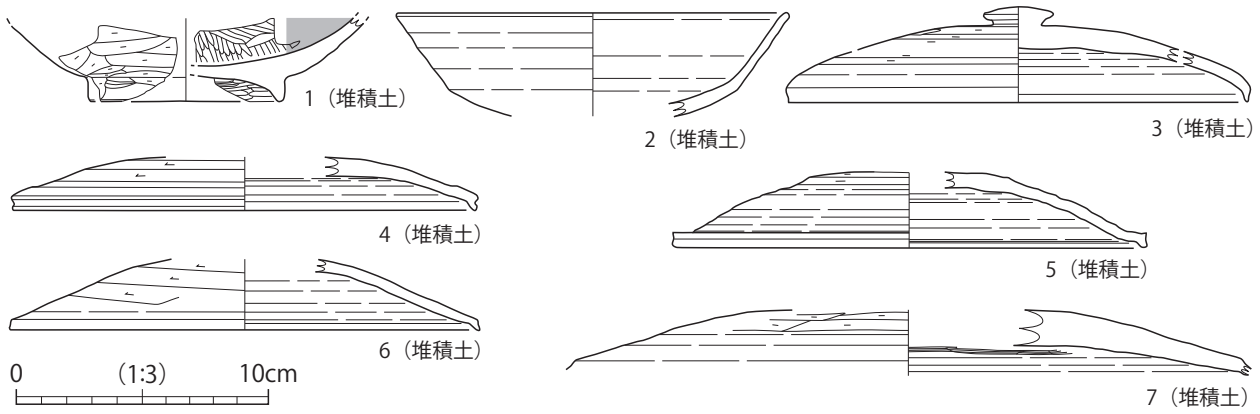
Ⅲ区の北部から東部にかけて検出され、64・69・70・79・80 グリッドに位置する。当該期遺構との重複関係は、SD11・13 より古く、SD23、SK23・24、Pit294 より新しい。

南北方向の延びから、中央部の 70 グリッド内で東へと「L」字状に屈曲する。中軸を基準とする方位は西辺で N － 4°－ W、南辺で N － 77°－ W である。規模は、西辺で検出長 4.39 m、南辺で検出長 22.59 mを測り、上端幅 45 ～ 74cm、下端幅 24 ～ 44cm を測る。検出面からの深さは 18 ～ 27cm を測る。断面形状は逆台形を呈するが、西辺の壁は立ち上がりが垂直気味で、むしろ箱形に近い。壁面には細かい凹凸が認められる。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。南辺の底面からは 0.3 ～ 6.2m 間隔で不均等に並ぶ 6 基のピットが検出され（詳細第 234 図観察表参照）、そのうちの 3 基には柱痕跡が認められた。

堆積土は A ～ C を通じて 2 層に分層された。堆積土の大半を占める 1 層は、基本層Ⅳ層由来のブロックの混入状況から、人為的に埋め戻されたと考えられる。

遺物は、土師器・須恵器破片が少量出土している。土師器高台付埦 1 点、須恵器坏 1 点、蓋 5 点を掲載した（第 237 図）。1 の土師器高台付埦の高台は、シャープな作りである。2 の須恵器坏は体部が直線的に外傾して開き、丸底になると思われる。3 ～ 6 の蓋はいずれも端部に返りをもち、3 には扁平な擬宝珠状のツマミがつく。7 の蓋は口径が大きく、盤とセットになるものと思われる。

本溝跡は柱穴を伴い、人為的に埋土されていることなどから、板塀などを設置した区画施設の可能性がある。時期は、SD13 よりも古いことや出土土器の特徴から、4 期（7 世紀末葉～ 8 世紀前葉）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-080	Ⅲ区	SD14	堆積土	土師器	台付坏	-	(7.4)	(3.3)	体～台部ヘラケズリ、台内部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		31
2	E-114	Ⅲ区	SD14	堆積土	須恵器	坏	(15.5)	-	(4.1)	ロクロ調整	ロクロ調整		31
3	E-102	Ⅲ区	SD14	堆積土	須恵器	蓋	(18.2)	-	3.8	ロクロ調整、回転ヘラケズリ	ロクロ調整	SD13 と接合	31
4	E-110	Ⅲ区	SD14	堆積土	須恵器	蓋	(18.5)	-	(2.1)	ロクロ調整、上半回転ヘラケズリ	ロクロ調整	SD10 と接合	31
5	E-113	Ⅲ区	SD14	堆積土	須恵器	蓋	(18.6)	-	(3.0)	ロクロ調整、上半回転ヘラケズリ	ロクロ調整、湖西類似	SD8・10 と接合	31
6	E-109	Ⅲ区	SD14	堆積土	須恵器	蓋	(18.6)	-	(2.8)	ロクロ調整、上半回転ヘラケズリ	ロクロ調整		31
7	E-103	Ⅲ区	SD14	堆積土	須恵器	蓋	-	-	(2.6)	ロクロ調整、上半回転ヘラケズリ	ロクロ調整、ヘラナデ		31

第 237 図　SD14 溝跡出土遺物

SD27 溝跡（第 233・234・238 図）

Ⅲ区の東端部から検出され、72・73・81・82・91 グリッドに位置する。南側は調査区外に延び、北側は現代の溝に重複するが、Ⅱ区までの延びは認められない。当該期遺構との重複関係は、SX2 より新しい。

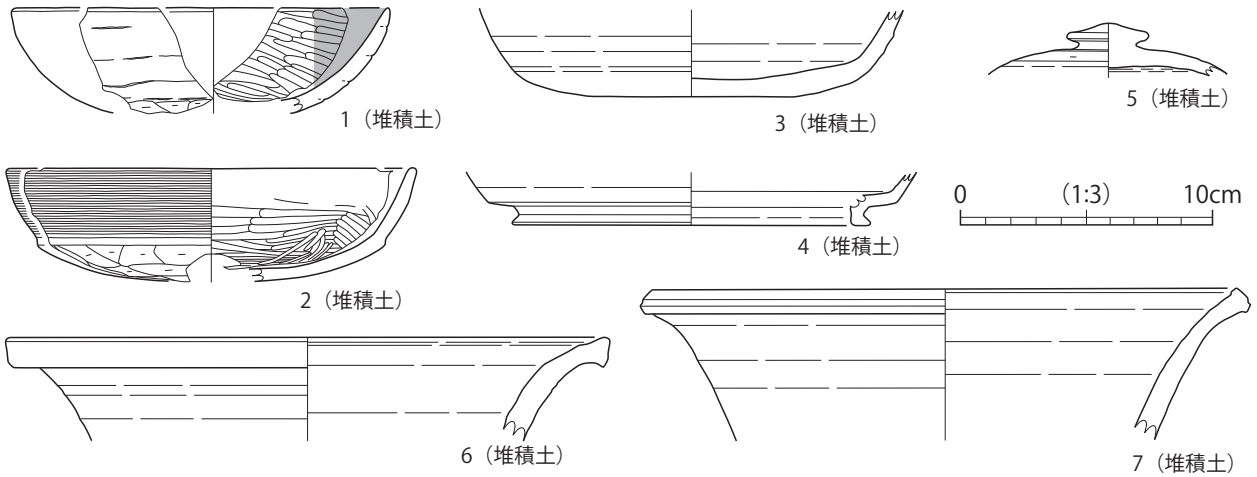
南北方向の溝跡で、概ね直線的に延びる。中軸を基準とする方位は、N － 20°－ E である。規模は、検出長 11.57 m、上端幅 170 ～ 188cm、下端幅 32 ～ 75cm を測る。検出面からの深さは 78 ～ 100cm を測る。断面形状は逆台形

を呈するが、中位には稜を有し、そこから開いて立ち上がる。壁面には細かい凹凸が認められる。底面は概ね平坦で、明瞭な傾斜は認められない。

堆積土は大別で 4 層、細別で 5 層に分層された。1 層は基本層Ⅳ層由来のブロックの混入状況から、人為的な埋土と考えられる。最下層の 4 層は黒褐色粘土である。

遺物は、土師器・須恵器破片が多量出土している。土師器坏 2 点、須恵器坏 1 点、高台付坏 1 点、蓋 1 点、甕 2 点を掲載した（第 238 図）。1 の土師器坏は体部外面に輪積み痕が明瞭に観察される。4 の須恵器高台付坏の高台は断面が三角形を呈し、端部が外方へと広がっている。5 の蓋は扁平な擬宝珠状のツマミをもつ。6・7 の甕はともに口縁部直下に突帯を巡らせ、ロクロ調整されている。

本溝跡の時期は判然としないが、図化しなかった遺物も含め、出土土器は 7 世紀後葉～ 8 世紀代の所産である。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-084	Ⅲ区	SD27	堆積土	土師器	坏	(14.8)	-	(4.2)	口縁～体部輪積み痕、体部下端ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		31
2	C-087	Ⅲ区	SD27	堆積土	土師器	坏	(16.0)	-	(4.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ		31
3	E-127	Ⅲ区	SD27	堆積土	須恵器	坏	-	-	(3.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		31
4	E-133	Ⅲ区	SD27	堆積土	須恵器	高台付坏	-	(14.2)	(2.1)	ロクロ調整	ロクロ調整		31
5	E-131	Ⅲ区	SD27	堆積土	須恵器	蓋	-	-	(2.2)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		31
6	E-123	Ⅲ区	SD27	堆積土	須恵器	甕	(24.0)	-	(4.1)	ロクロ調整	ロクロ調整		31
7	E-125	Ⅲ区	SD27	堆積土	須恵器	甕	(23.2)	-	(6.0)	ロクロ調整	ロクロ調整	SD10 出土破片と同一個体	31

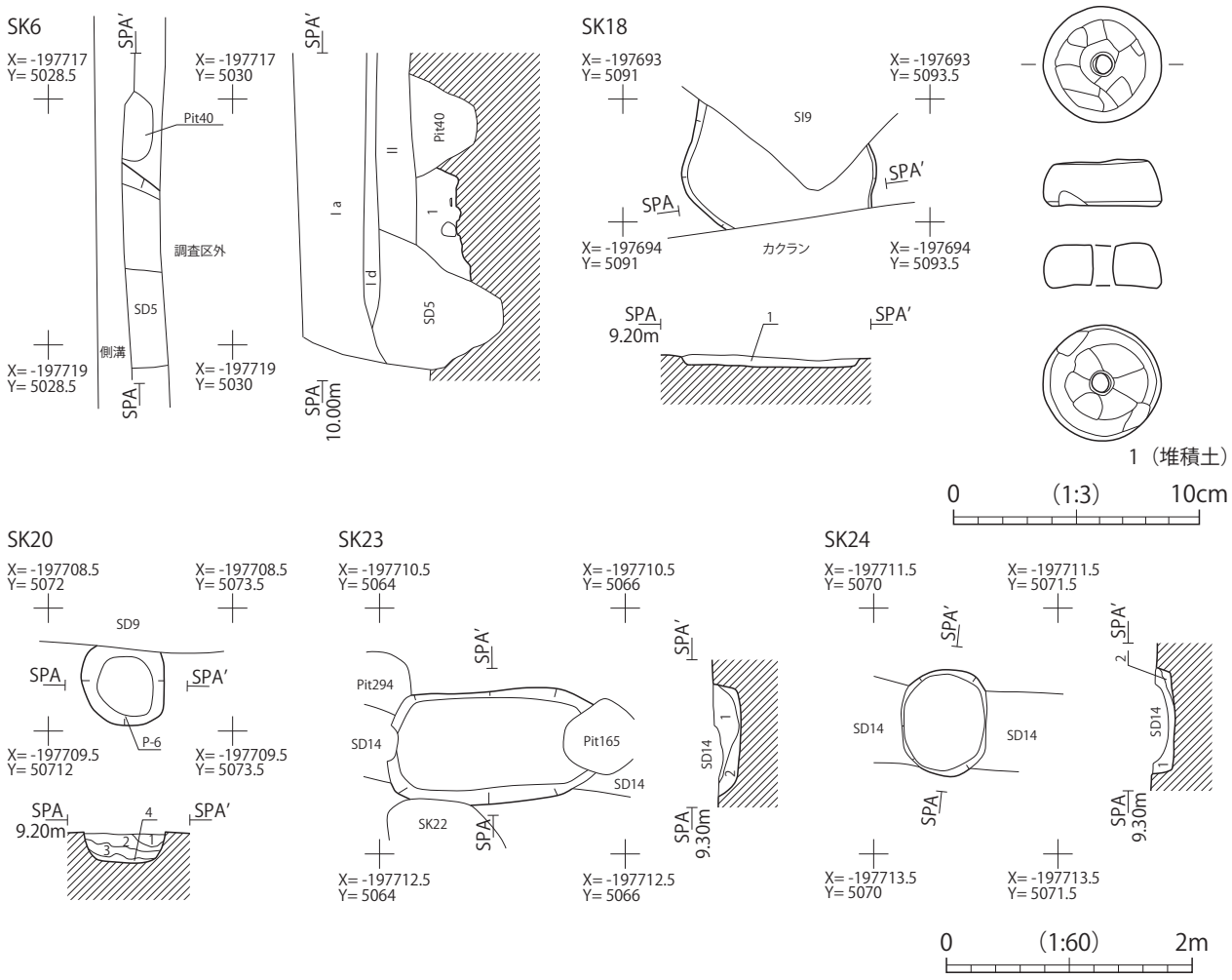
第 238 図　SD27 溝跡出土遺物

(4) 土坑（第 239 図）

SK6・18・20・23・24 の 5 基を検出した。SK6 はⅣ区、SK18 はⅡ区、ほかはⅢ区に位置する。いずれの土坑も用途が判然としない。SK20・23 は堆積土の層相から、人為的に埋土されている可能性がある。遺物は SK6・18・20・23 から出土したが、掲載した SK20 の土製品以外は、土師器の破片がわずかに出土したのみである。第 239 図－ 1 の土製品は紡錘車で、上下面にはユビナデの痕跡が認められる。

土坑（古墳時代～古代） 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK6	86	不明	(60) × (33)	25	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色土粒多量、焼土粒少量含む。	SD5、Pit40 より古い。
SK18	57	隅丸方形	156 × (53)	10	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロックラミナ状に、炭化物微量含む。	SI9 より古い。
SK20	72	楕円形	(63) × 66	26	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	SD9 より古い。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック（10㎜程度）・炭化物少量、酸化鉄微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物少量、Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）微量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）微量含む。	
SK23	80	楕円形	(175) × 92	17	1	7.5Y4/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10㎜程度）多量含む。	SD14、SK22、Pit165・212 より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10㎜程度）少量含む。	
SK24	81	楕円形	86 × 70	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20㎜程度）少量含む。	SD14 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50㎜程度）多量、炭化物少量含む。	



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
1	P-006	Ⅲ区	SK20	堆積土	土製品	紡錘車	径 4.8	厚 1.9	孔径 1.0	50.0	ナデ	31

第 239 図　土坑（古墳時代～古代）・SK20 出土遺物

（5）性格不明遺構

SX1 性格不明遺構（第 240 図）

Ⅳ区北端部の 84 グリッドに位置する。北西コーナーは調査区外にかかり、東側は側溝掘削や表土除去時の削平で失われた。他遺構との重複関係はない。

土坑状を呈し、平面形状は方形基調と推定される。方位は西壁基準で N － 8° － E である。検出した規模は、南北 182cm、東西 195cm を測る。検出面からの深さは 10cm 程だが、調査区壁の断面で 40cm 程の残存を認めた。底面は概ね平坦で、堆積土は黒色シルトの単層である。遺物は出土しなかった。

本遺構の時期は判然としないが、調査時の所見では基本層Ⅲ層直下で検出されたことと、堆積土の層相から古代に比定されている。

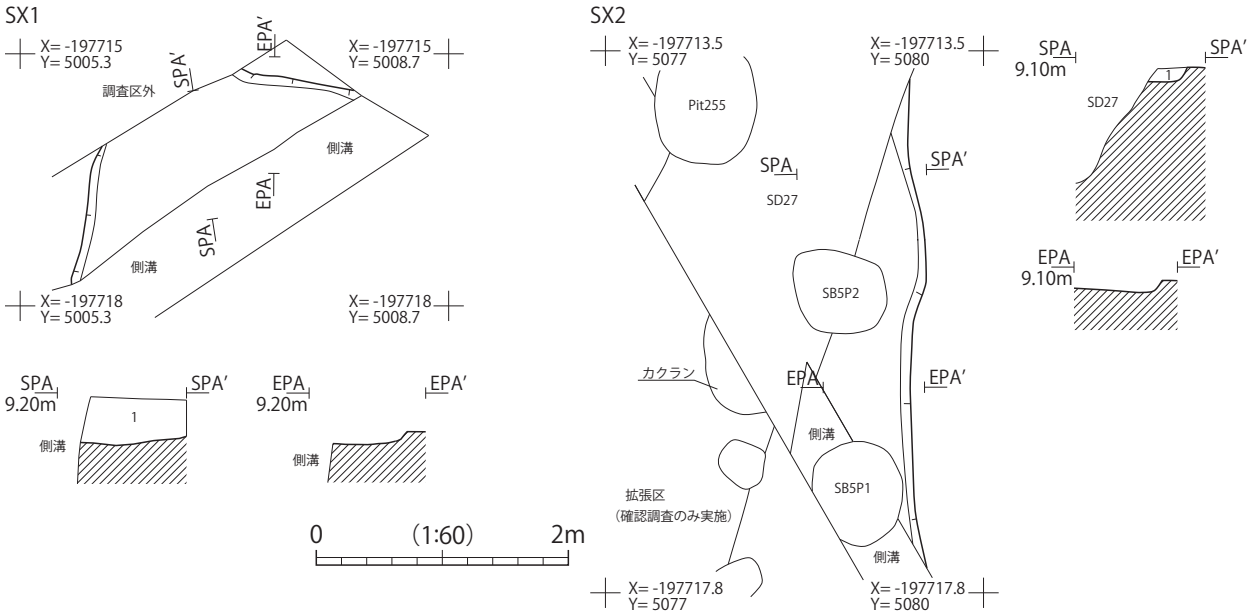
SX2 性格不明遺構（第 240 図）

Ⅲ区東部の 81・94 グリッドに位置する。南側は調査区外にかかり、SD27 との重複により東壁付近だけが残存している。

南北方向の溝状を呈する遺構である。方位は東壁基準で N － 2° － W である。検出した規模は、南北 389cm、

東西 63cm、検出面からの深さ 11cm を測る。底面は概ね平坦である。堆積土は褐色シルトの単層である。遺物は土師器破片がわずかに出土したが、いずれも図化可能なものはなかった。

本性格不明遺構は SD27 よりも古いが、正確な時期は判然としない。



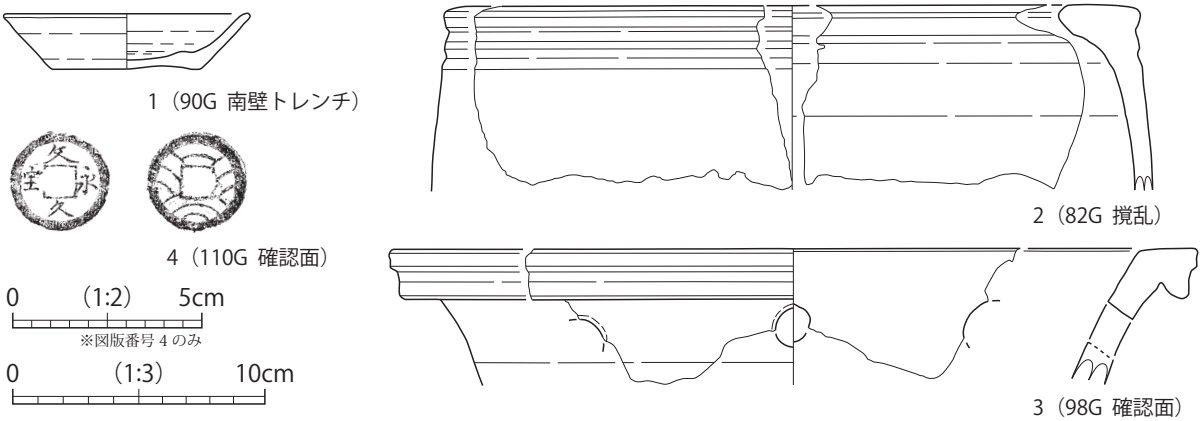
性格不明遺構　観察表

遺構名	ｹﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SX1	84	不整方形？	(195) × (182)	40	1	5Y2/1 黒色	シルト	オリーブ黄色砂質シルト粒微量含む。	
SX2	81・94	不明	(389) × (63)	11	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト粒多量、炭化物微量含む。	SB5、SD27 より古い。

第 240 図　SX1・2 性格不明遺構

(6) 遺構外出土遺物（第 241 ～ 243 図）

遺構検出および側溝・撹乱などにより出土した遺物を一部掲載する。Ⅲ区からの出土が最も多く、土師器・須恵器が主体である。また、近世の瓦質土器や土師質土器なども少量出土した。土器類以外の遺物では古銭、鉄



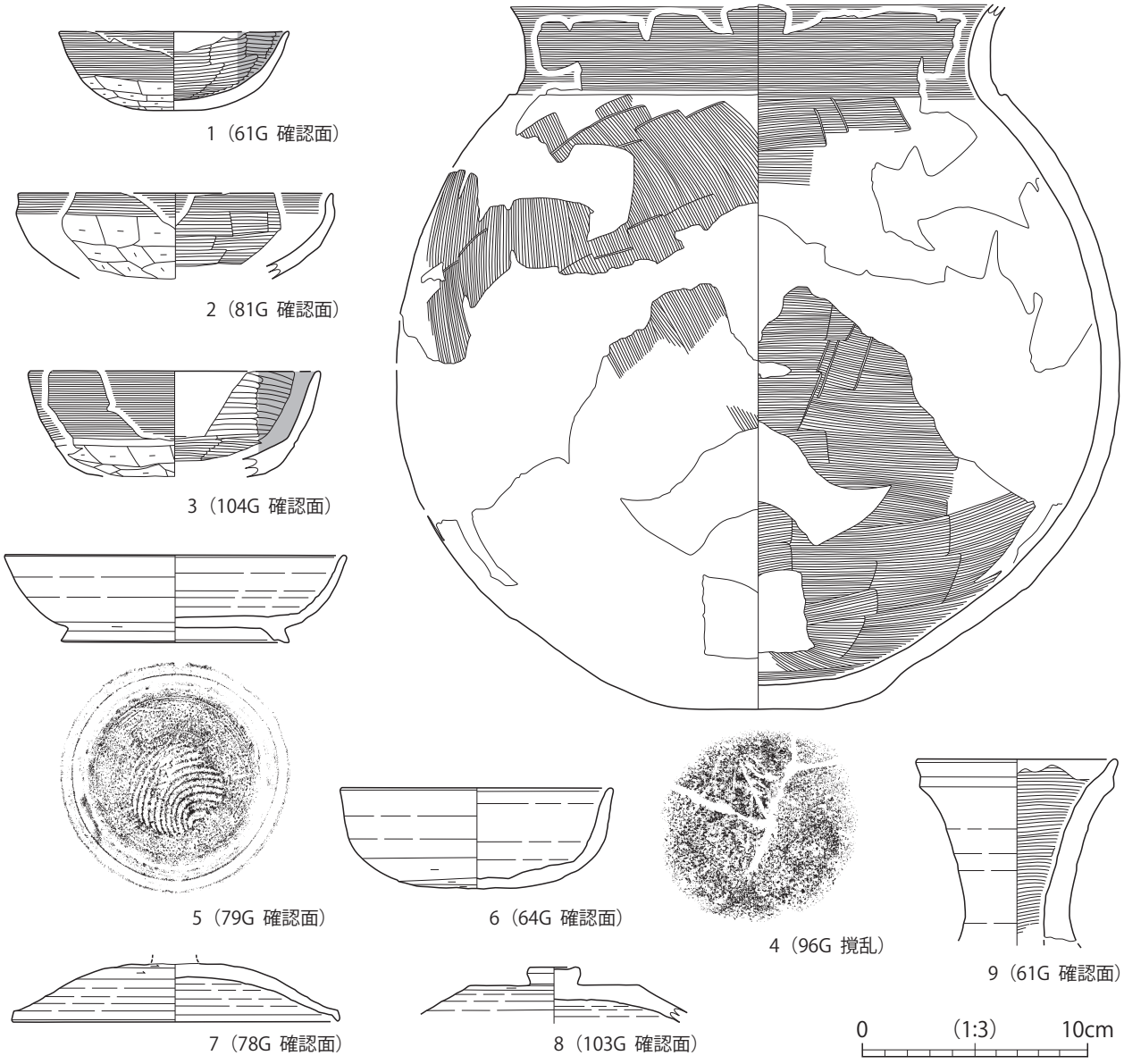
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	I-043	Ⅲ区	90G	南壁トレンチ	土師質土器	Ⅲ	9.8	6.0	2.2	ロクロ調整、底部回転糸切り	ロクロ調整		31
2	I-056	Ⅲ区	82G	撹乱	瓦質土器	甕	(27.5)	-	(7.3)	ロクロ調整	ロクロ調整		31
3	I-052	Ⅲ区	98G	確認面	瓦質土器	鉢	(32.1)	-	(5.4)	ロクロ調整	ロクロ調整		31

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
4	N-004	Ⅲ区	110G	確認面	金属製品	銭貨	径 2.6	-	0.1	2.7	文久永宝、略宝、文久 3(1863) 年初鋳	31

第 241 図　遺構外出土遺物（1）

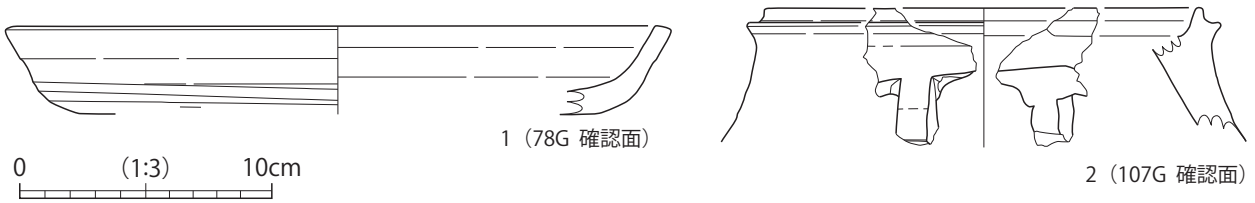
滓、鞴羽口があり、特に鉄滓はⅢ区 72 グリッド内の側溝から多量出土している。同グリッド内には中世以降の屋敷掘割りとみられる SD10 が位置しており、ここからも鉄滓が出土していることから関連性が考えられる。

遺物は、近世と古代以前に区別して掲載する。近世の遺物は、土師質土器皿 1 点、瓦質土器火鉢 1 点、鉢 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 241 図）。古代以前の遺物は、土師器坏 3 点、甕 1 点、須恵器高台付坏 1 点、坏 1 点、盤 1 点、蓋 2 点、壺 1 点、円面硯 1 点を掲載した（第 242 図）。第 241 図－ 1 の土師質土器皿は、体から口縁部



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-120	Ⅱ区	61G	確認面	土師器	坏	(10.0)	-	3.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		31
2	C-147	Ⅲ区	81G	確認面	土師器	坏	(14.0)	-	(3.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		31
3	C-154	Ⅲ区	104G	確認面	土師器	坏	(12.8)	-	(4.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		31
4	C-131	Ⅳ区	96G	撹乱	土師器	甕	-	6.0	(31.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		32
5	E-164	Ⅲ区	79G	確認面	須恵器	台付坏	(15.2)	(10.1)	3.9	ロクロ調整、体部下位回転ヘラケズリ、底部静止糸切り→高台貼付	ロクロ調整		32
6	E-176	Ⅲ区	64G	確認面	須恵器	坏	(12.1)	-	(4.5)	ロクロ調整、体部下位～底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整	SD10 出土破片と接合	32
7	E-178	Ⅲ区	78G	確認面	須恵器	蓋	(145)	-	(2.6)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		32
8	E-189	Ⅳ区	103G	確認面	須恵器	蓋	-	-	(2.5)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		32
9	E-196	Ⅱ区	61G	確認面	須恵器	長頸壺	(8.8)	-	(8.3)	ロクロ調整	ヘラナデ		32

第 242 図　遺構外出土遺物（2）



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-162	Ⅲ区	78G	確認面	須恵器	盤	(26.4)	(20.6)	3.5	ロクロ調整	ロクロ調整		32
2	E-190	Ⅳ区	107G	確認面	須恵器	円面硯	上径 (16.8)	-	(5.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		32

第 243 図　遺構外出土遺物（3）

にかけて直線的に外傾する。Ⅲ区 90 グリッド内の側溝から出土しており、SD10 との関連が考えられる。3 の鉢は口縁部下に径 2cm 程の孔が 2 箇所認められる。4 は「文久永宝」（1863 ～ 1867 年）で、銭文は略宝である。

第 242 図－ 4 の土師器甕は球胴を呈する。5 の須恵器高台付坏は、付け高台である。底部には、右回転による糸切りの痕跡が残る。6 の坏は見込までが深く、埦状を呈する。7 の蓋は端部に返りが付く形状で、8 の蓋にはボタン状のツマミが付く。9 の壺は、口縁部の形状から提瓶であると思われる。第 243 図－ 2 の須恵器円面硯は、堤から脚台部にかけての破片である。透孔形態は長方形の縦形と思われ、透孔どうしの間隔は 1cm 程と狭い。

第 4 節　弥生時代以前の遺構と遺物

基本層Ⅳ層より下層の調査については、Ⅰ～Ⅴ区の各調査区で実施した（下層調査）。下層調査区は、Ⅰ区で南北 10 m×東西 7 m程の「南区」と、南北 23.5 m×東西 15 m程の「北区」の 2 箇所を設定した。Ⅱ区では調査区の北半部を下層調査区とし、Ⅲ区では南北 14 m×南北 20.5 m程の調査区を 1 箇所設定した。Ⅳ・Ⅴ区では調査区全体をそのまま下層調査区とした。

Ⅰ区の南区では、基本層Ⅵ層を中心に弥生時代中期の甕 1/3 個体が出土した。北区ではⅩⅡ層上面からピットが検出され、ⅩⅡ層を中心とする層位から、縄文時代晩期後葉の土器がコンテナで 1 箱程度、礫石器が 4 点出土した。また、ⅩⅥ層を中心に縄文時代後期後葉の土器がコンテナで 2 箱程度、礫石器が 3 点出土している。南区ではこれらの層位から遺構・遺物は認められなかった。

Ⅱ～Ⅳ区では、Ⅴｂ層から弥生時代中期中葉の土器がコンテナで 1/2 箱程度、礫石器が 3 点出土した。このうちⅡ区では甕 1/2 個体が潰れた状態で出土しているが、Ⅲ・Ⅳ区では破片が散在する程度であった。また、Ⅲ・Ⅳ区のⅤｂ層上面からは水田跡の畦畔が、同層直下からは溝状遺構が検出された。Ⅵ層以下については、Ⅱ区で一辺 3 mのテストピットを 1 箇所、Ⅳ区で一辺 5 mのテストピットを 2 箇所掘削して調査を行った。その結果、遺構は検出されなかったがⅣ区で縄文土器 1 点、石鏃 1 点が、Ⅱ区で縄文土器 1 点が出土した。

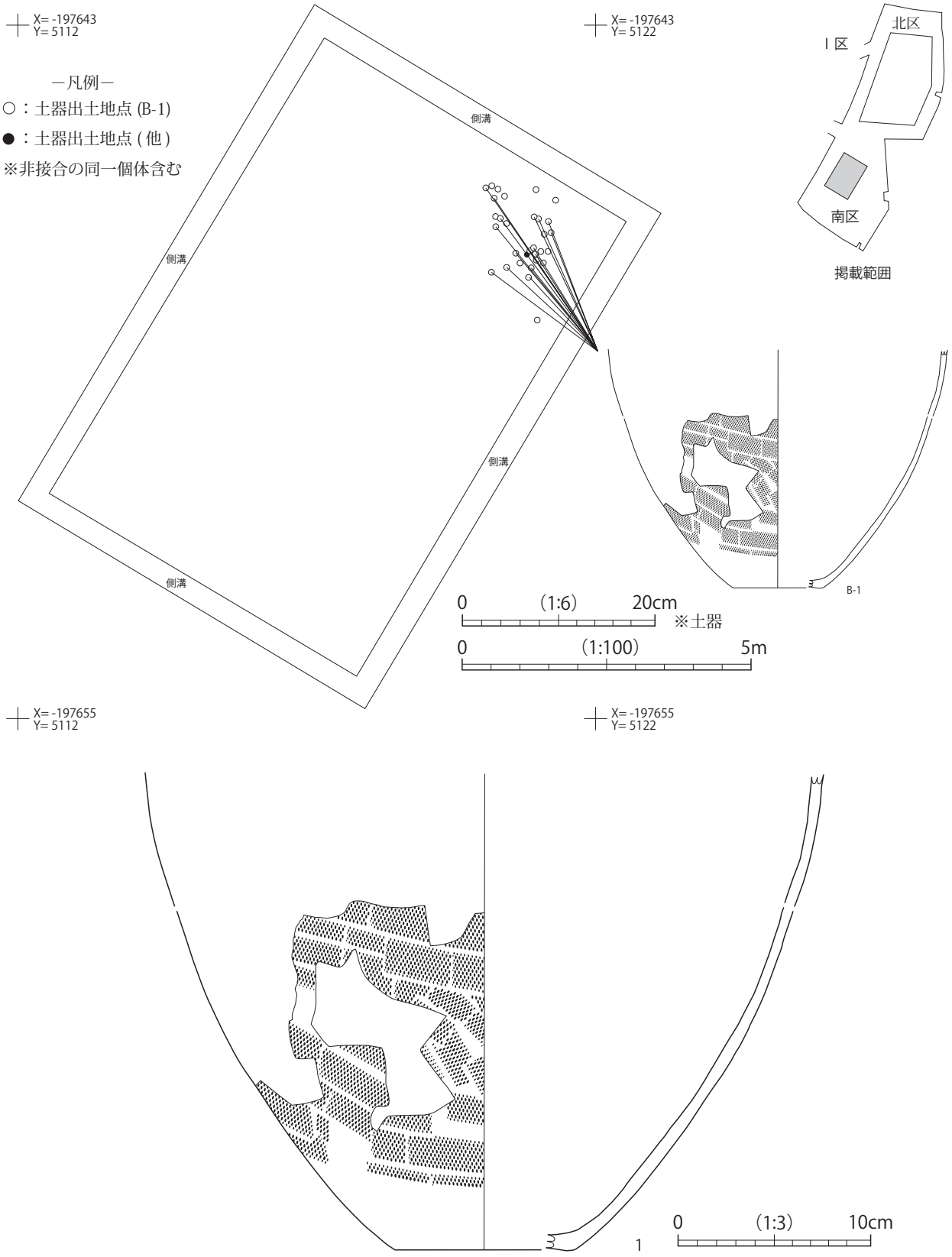
Ⅴ区では遺構・遺物は一切認められていない。

なお、Ⅰ区とⅡ～Ⅳ区は調査年次が異なり、基本層序の整合に無理が生じたため、Ⅰ区（2008 年度）とⅡ～Ⅳ区（2009 年度）を分割して報告する。

(1)　Ⅰ区Ⅵ層（弥生時代中期）

Ⅵ層出土遺物（第 244 図）

南区で、Ⅵ層中より弥生土器 1 点（第 244 図－ 1）が出土した。甕の胴部～底部と思われる。倒卵形の器形を呈し、胴部には全体に LR 縄文が施文される。中期の所産と考えられるが、詳細な時期については判然としない。なお、南区においては、同層以下からはほかに遺構・遺物は認められなかった。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
1	B-001	Ⅰ区		Ⅵ層	弥生土器	甕	胴～底部	胴部 LR 縄文横位・斜位回転	ナデ→ミガキ、磨滅	底径：(4.2)cm 器高：(24.7)cm	32

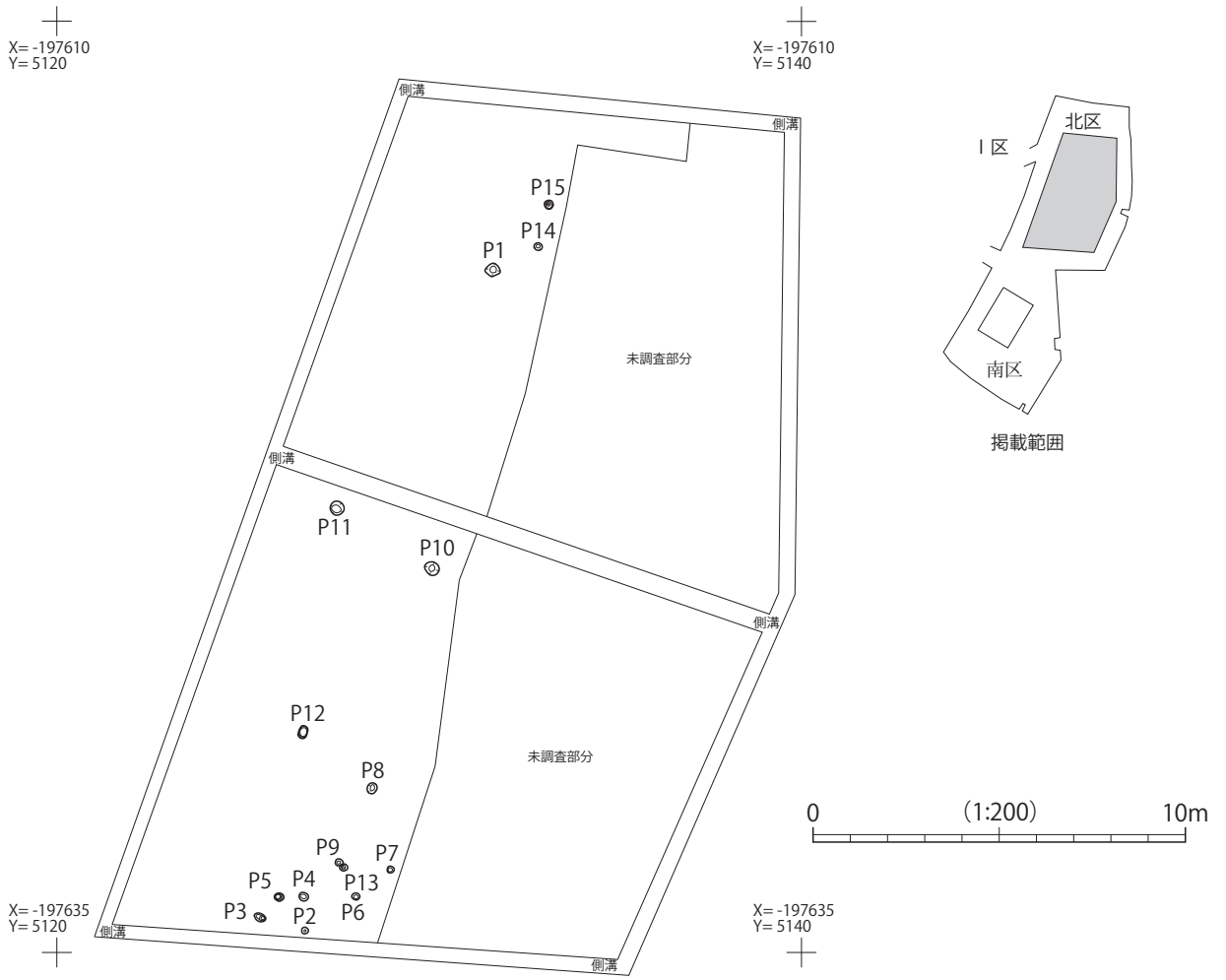
第 244 図　Ⅰ区Ⅵ層遺物出土状況（南区）・出土遺物

（2）Ⅰ区ⅩⅡ層（縄文時代晩期後葉）

ピット（第 245 図）

北区のⅩⅡ層上面で、15 基が検出された。大半が長軸 30cm 未満の小規模なピットであり、全て灰色～褐灰色の粘土で埋没している。調査区の南側にやや集中する傾向があるが、調査区の東側は未調査であるため、全体の分布状況については判然としない。建物等の規則的な配置は認められず、遺物も出土しなかった。

ⅩⅡ層中からは、後述する縄文時代晩期後葉の遺物が出土している。これらのピットの時期は少なくともそれよりは新しいが、詳細については判然としない。



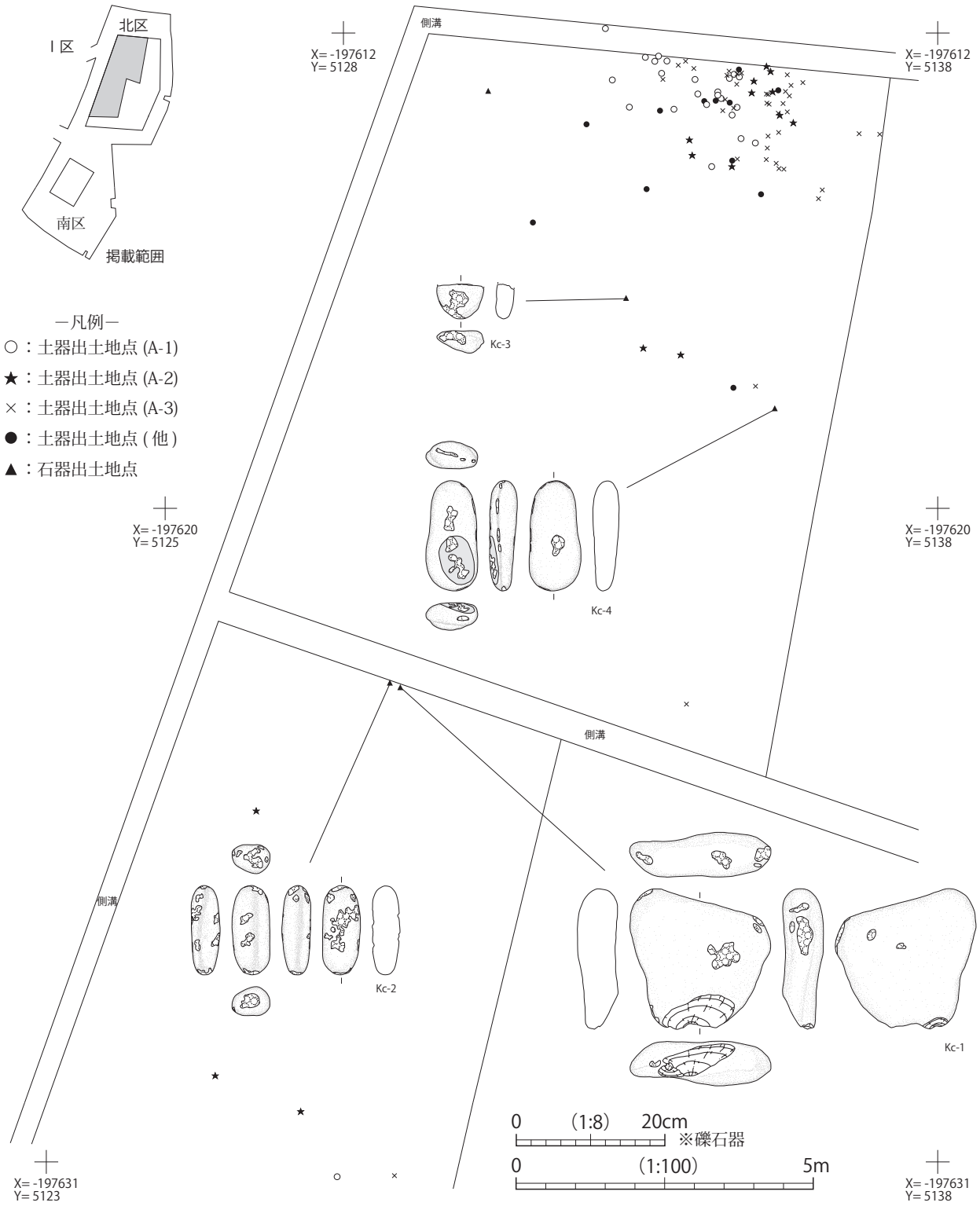
ピット (XII 層上面) 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit1	9	隅丸方形	34 × 32	7	1	5Y7/1　灰白色	粘土	黒褐色土ブロック (3 ～ 10㎜程度) 微量含む。	
Pit2	18	円形	17 × 16	16	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit3	18	楕円形	33 × 22	15	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit4	18	円形	25 × 23	26	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit5	18	楕円形	26 × 22	20	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit6	18	楕円形	21 × 19	6	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit7	18	円形	18 × 18	6	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit8	18	楕円形	29 × 25	8	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit9	18	楕円形	20 × 17	10	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	Pit13 より新しい。
Pit10	11･12	楕円形	40 × 35	7	1	N4/0　灰色	粘土	灰白色土粒・黒褐色土粒少量含む。	
Pit11	11	円形	37 × 37	20	1	10YR6/1　褐灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit12	14	楕円形	35 × 23	7	1	10YR6/1　褐灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit13	18	楕円形	23 × 21	13	1	10YR6/1　褐灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	Pit9 より古い。
Pit14	9	楕円形	22 × 20	11	1	10YR6/1　褐灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	
Pit15	6･9	円形	24 × 23	19	1	10YR6/1　褐灰色	粘土	灰白色土粒微量含む。	

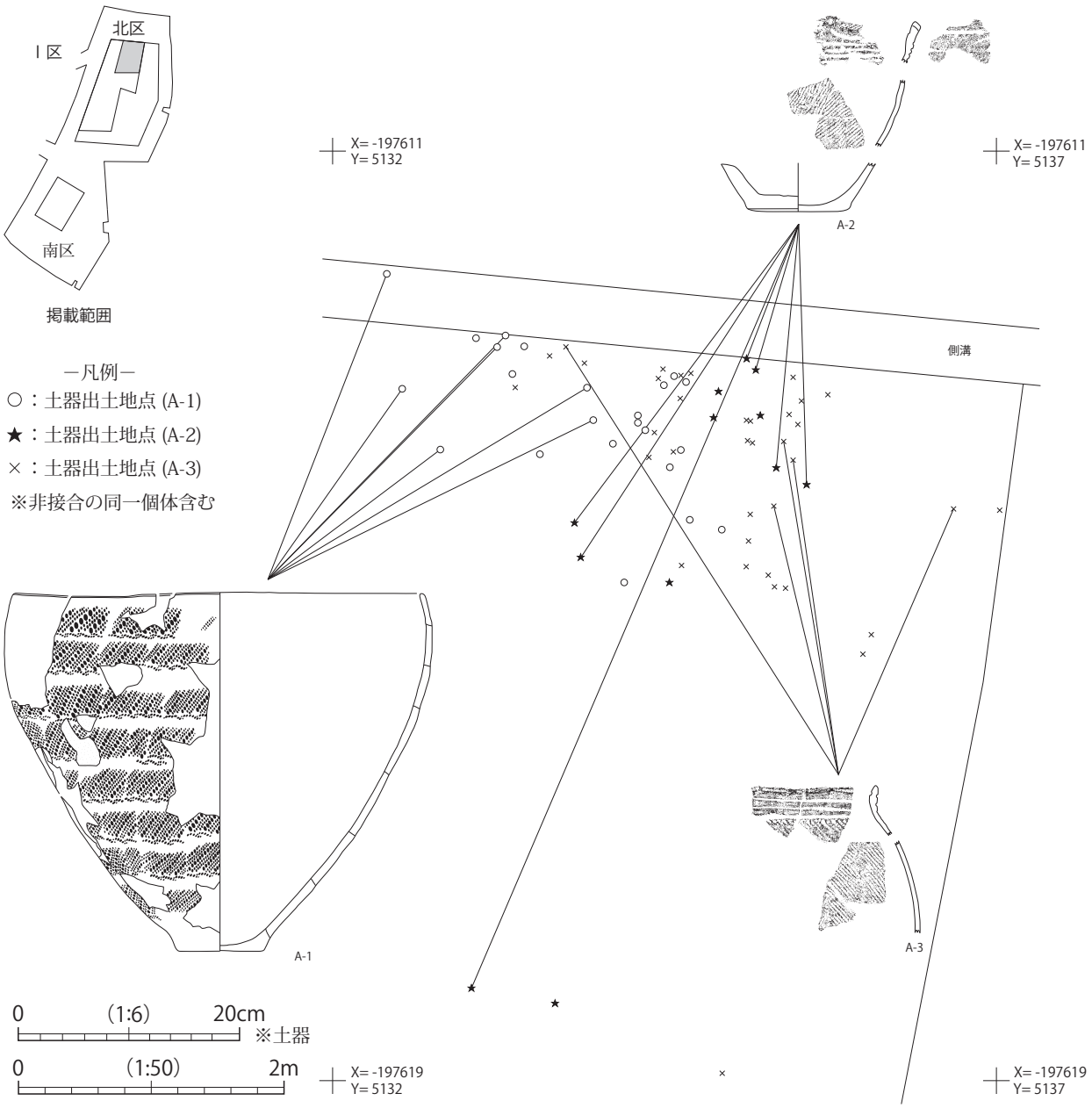
第 245 図　Ⅰ区ⅩⅡ層上面ピット（北区）

ＸⅡ層出土遺物（第 246 ～ 249 図）

北区で出土した掲載遺物は縄文土器深鉢 3 点、礫石器 4 点である。第 248 図－ 1 ～ 3 の縄文土器は調査区の北部に集中し、ほかに同一個体とみられる破片も多数出土しているが、接合率は低く全体の器形が復元されたのは 1 の深鉢だけである。第 249 図－ 4 ～ 7 の礫石器は、いずれも土器の集中範囲外から散在的な状況で出土している。



第 246 図　Ⅰ区ＸⅡ層遺物出土状況（北区）



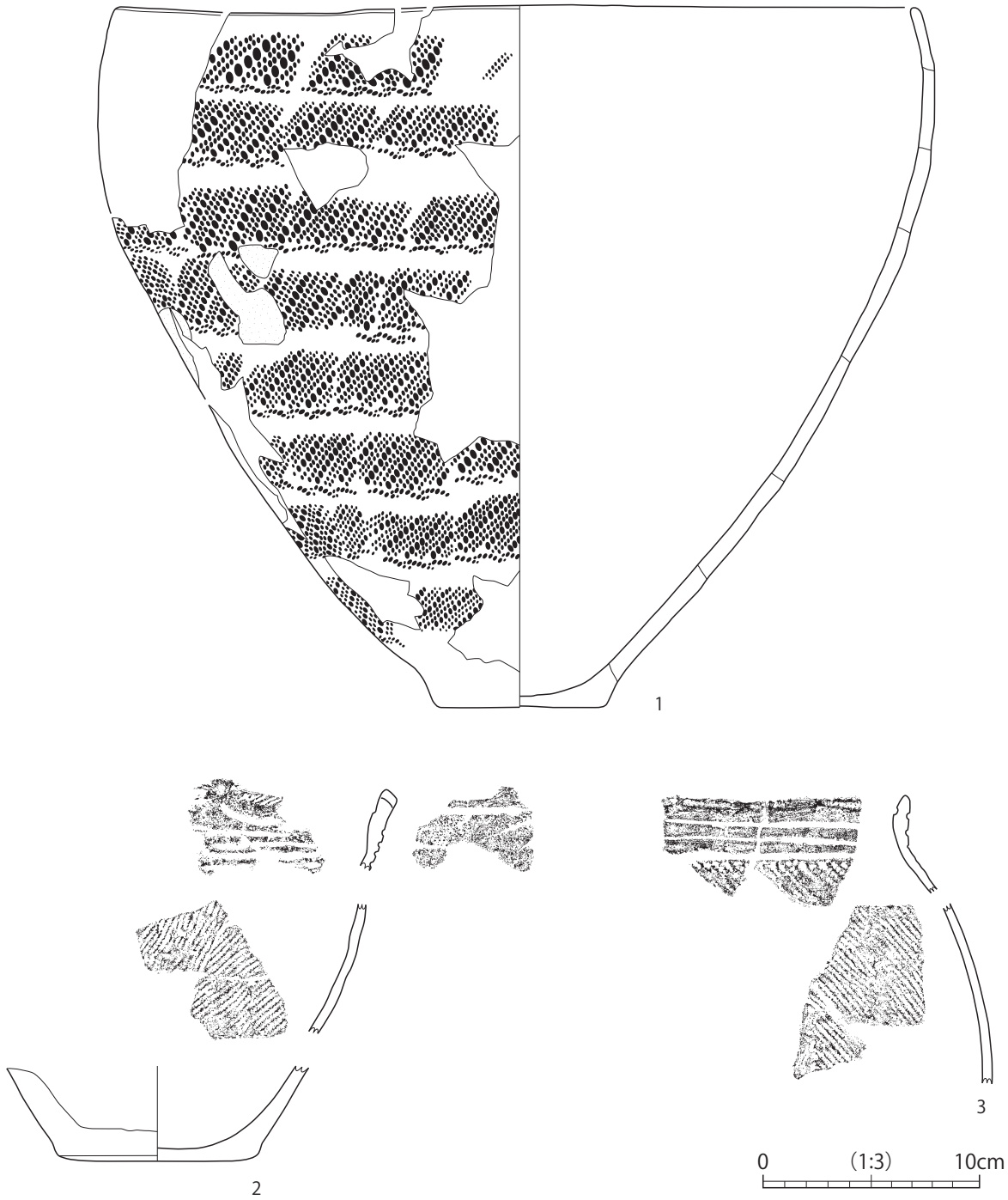
第 247 図　Ⅰ区ⅩⅡ層 A － 1 ～ 3 出土状況（北区）

掲載した縄文土器のうち、第 248 図－ 2 の 3 点および 3 の 2 点はそれぞれ同一個体であるため、同じ掲載番号とした。いずれも粗製の深鉢である。

第 248 図－ 1 は、頸部に括れがない無花果形の器形を呈する。口縁部は平口縁である。文様は地文のみが施文され、付加条の LR 縄文である。末端結縛の結節回転文も観察される。2 は口縁部が弱く外傾する。地文は LR 縄文で、そのほか口縁部外面には変形工字文が、内面には横位直線文が施文される。また口縁部には突起が認められ、残存状況からいわゆる B 形突起であると思われる。口唇端部には刻目文が連続する。3 の口縁部は直立気味に立ち上がり、平口縁である。地文は LR 縄文で、口縁部には 3 条の横位直線文が施文される。

これらの土器は、器形や文様の特徴から縄文時代晩期後葉の所産と考えられる。

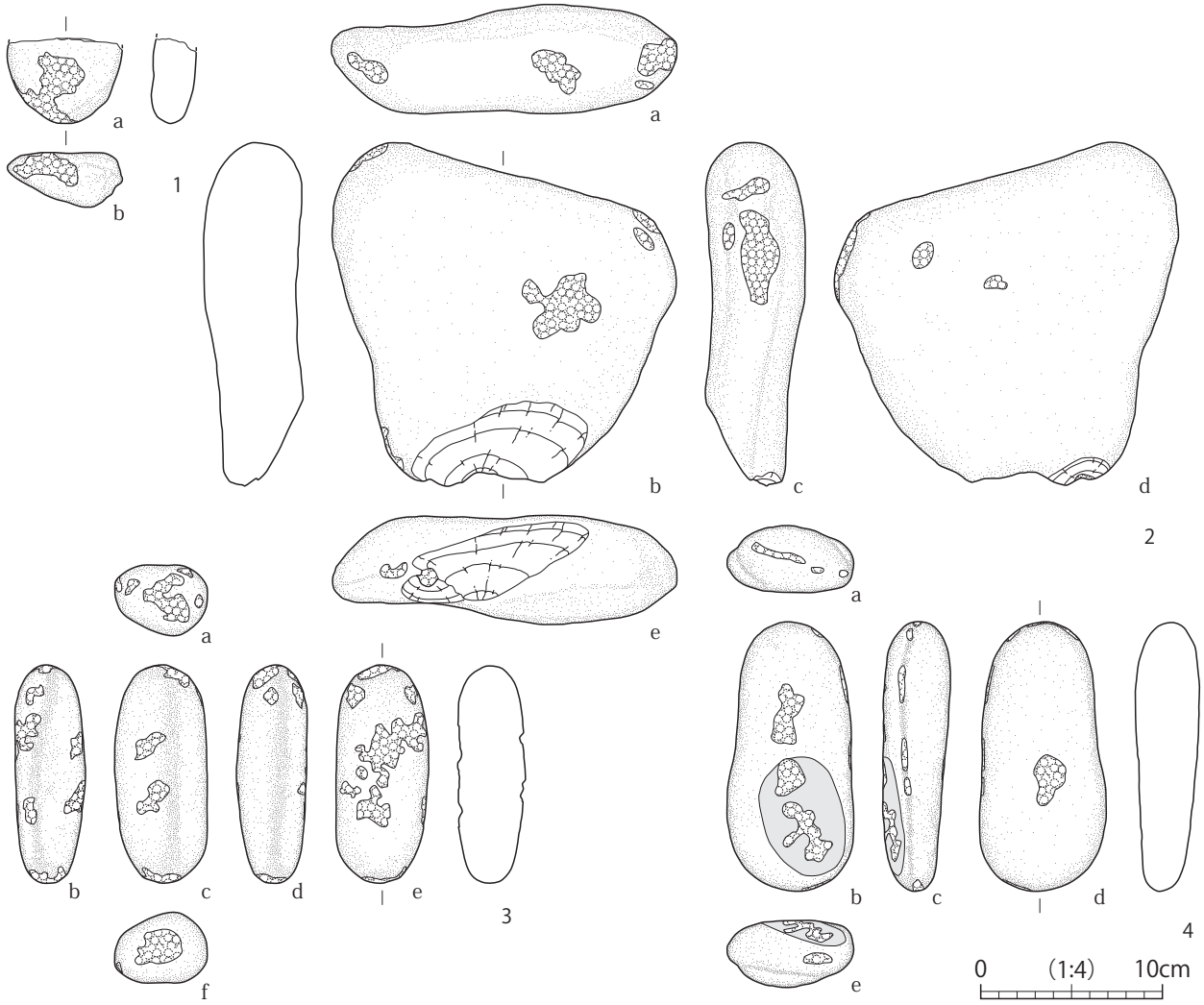
第 249 図－ 1 ～ 4 の礫石器は、1・3 が敲石、2 が台石、4 が磨石である。1 は 1/2 程が残存し、a・b の面には敲打痕が観察される。2 の a ～ e の各面には敲打痕が観察されるが、部分的である。下端部は打ち欠かれている。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
1	A-001	Ⅰ区		ⅩⅡ層	縄文土器	甕	口縁～底部	LR ＋付加条 R(2 条)・横回転、原体末端結束の R 結節回転	ナデ→ミガキ？	口径：(37.0)㎝ 底径：8.0㎝ 器高：32.4㎝	32
2	A-002	Ⅰ区		ⅩⅡ層	縄文土器	深鉢	口縁～底部	口縁部変形工字文、B 形突起、連続刻目文、胴部 LR 縄文	口縁部横位直線文 (1 条)、ミガキ？	底径：9.0㎝	32
3	A-003	Ⅰ区		ⅩⅡ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	口縁部横位直線文 (3 条)、胴部 LR 縄文	口縁部横位直線文 (1 条)、ミガキ？		32

第 248 図　Ⅰ区ⅩⅡ層出土遺物（1）

3 は a ～ f 全ての面に敲打痕が観察され、特に e の面には多数認められる。4 は b の面に小規模な磨面が観察され、a ～ e の各面には敲打痕も観察される。これらの礫石器の石材は、1・2・4 が安山岩、2 が石英斑岩である。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
1	Kc-003	Ⅰ区		ⅩⅡ層	礫石器	敲石	(4.7)	6.35	3.0	100.0	安山岩	扁平礫、敲 (a 面 1 ヶ所、b 面 1 ヶ所)、程度弱、上半欠損	32
2	Kc-001	Ⅰ区		ⅩⅡ層	礫石器	台石	18.8	18.9	5.5	2,650.0	安山岩	扁平礫、敲 (a 面 4 ヶ所、b 面 1 ヶ所、c 面 3 ヶ所、d 面 2 ヶ所、e 面 2 ヶ所)、程度弱、下端剥離、ほぼ完形品	33
3	Kc-002	Ⅰ区		ⅩⅡ層	礫石器	敲石	12.0	5.1	3.9	332.8	石英斑岩	棒状礫、敲 (a 面 1 ヶ所、b 面 3 ヶ所、c 面 2 ヶ所、d 面 1 ヶ所、e 面 4 ヶ所、f 面 1 ヶ所)、程度弱、完形品	32
4	Kc-004	Ⅰ区		ⅩⅡ層	礫石器	磨石	14.8	7.0	3.7	562.3	安山岩	扁平礫、磨 1 面 (平)、敲 (a 面 2 ヶ所、b 面 3 ヶ所、c 面 3 ヶ所、d 面 1 ヶ所、e 面 1 ヶ所)、程度弱、完形品	33

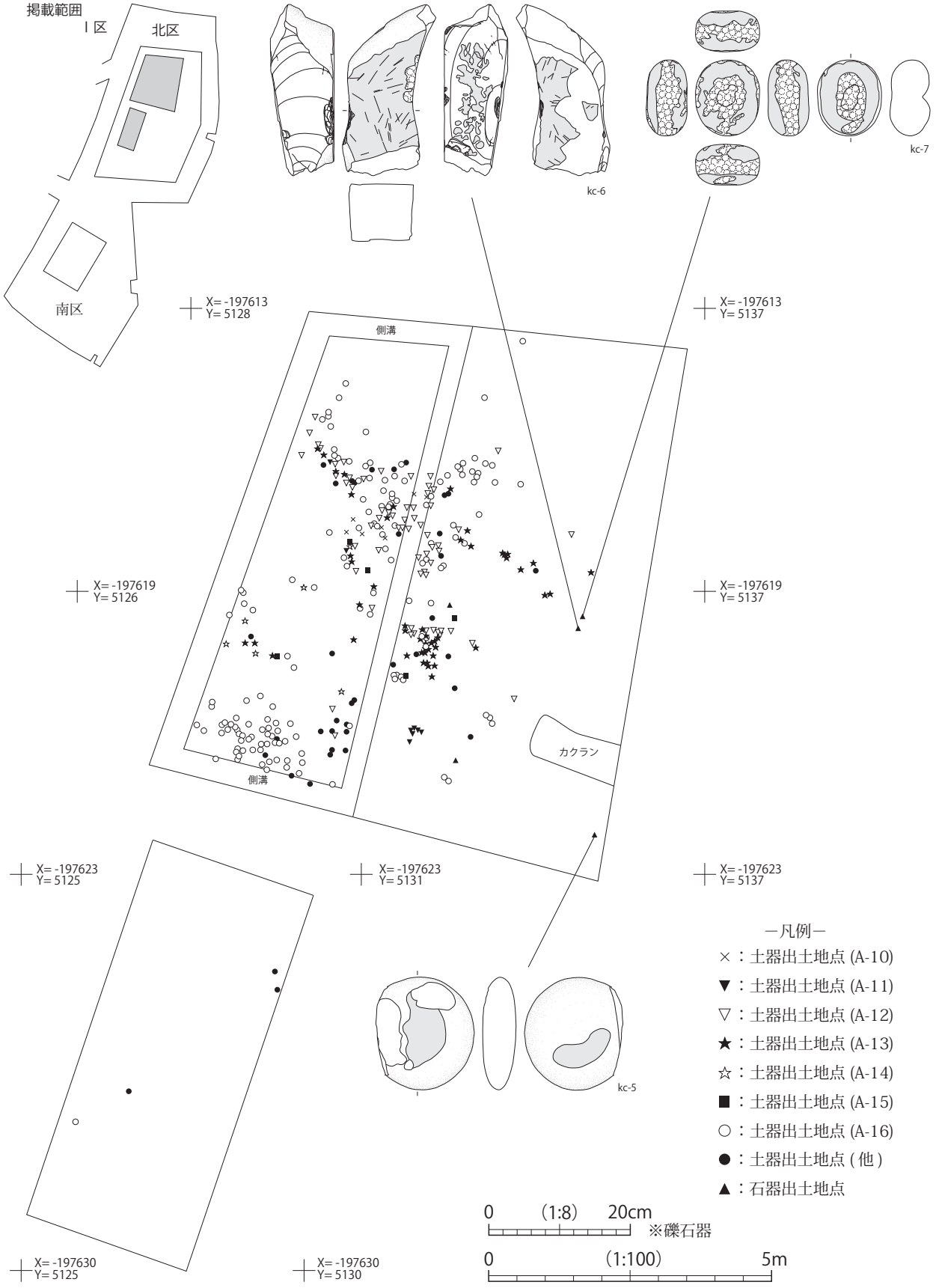
第 249 図　Ⅰ区ⅩⅡ層出土遺物（2）

(3) Ⅰ区ⅩⅥ層（縄文時代後期後葉）

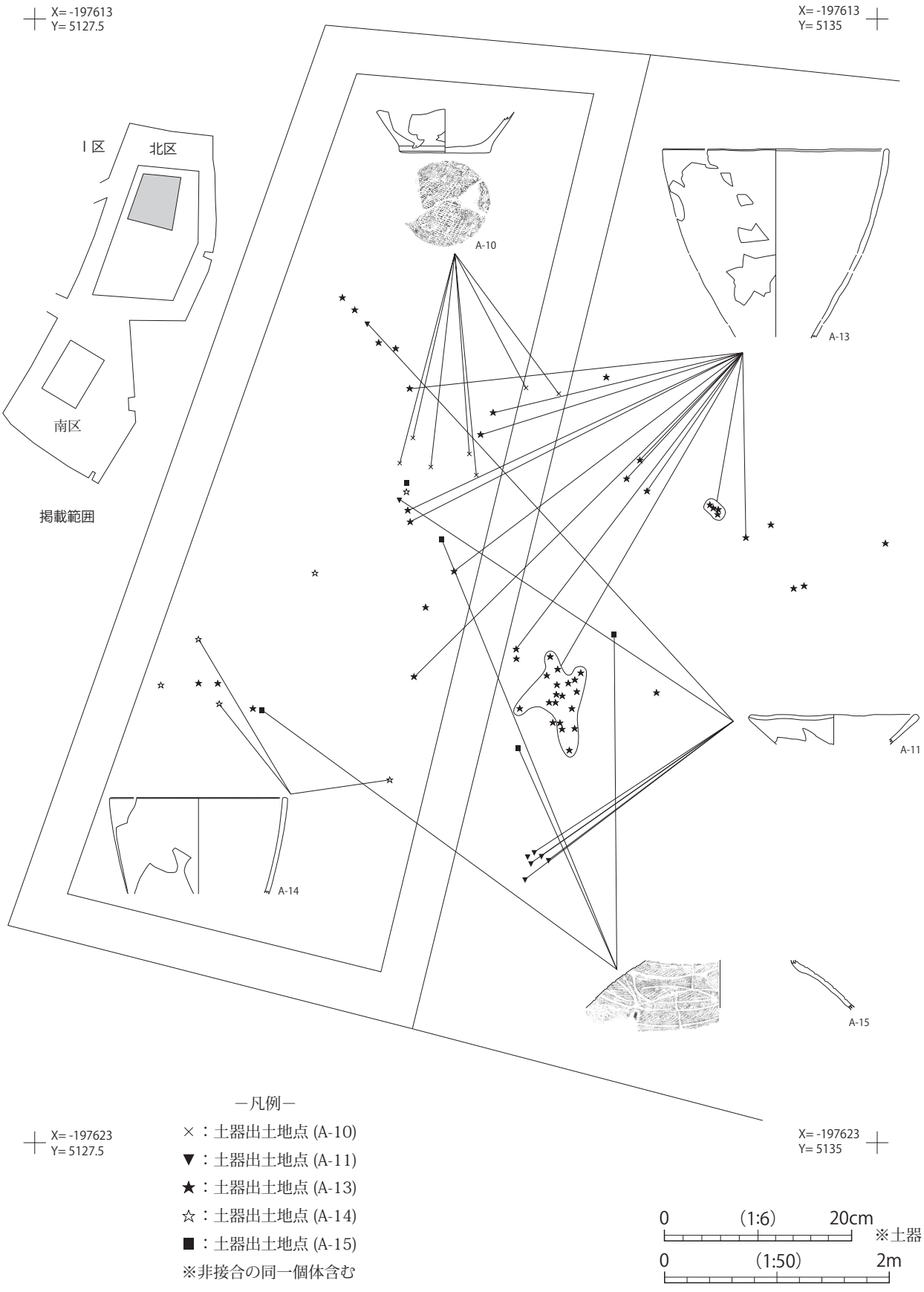
ⅩⅡ層出土遺物（第 250 ～ 255 図）

北区のほぼ全域から、縄文土器の破片や礫石器が 350 点以上出土した。出土層位はⅩⅤ～ⅩⅦ層に及ぶが、接合状況や出土量の極大値がⅩⅥ層に求められるため、全てをⅩⅥ層出土遺物として一括した。掲載遺物は縄文土器深鉢 4 点、浅鉢 1 点、壺 1 点、礫石器 3 点である。ⅩⅡ層出土の土器群と比べて接合率は高く、第 253 図－ 3･4、第 254 図－ 1 は大体の器形が復元できる。

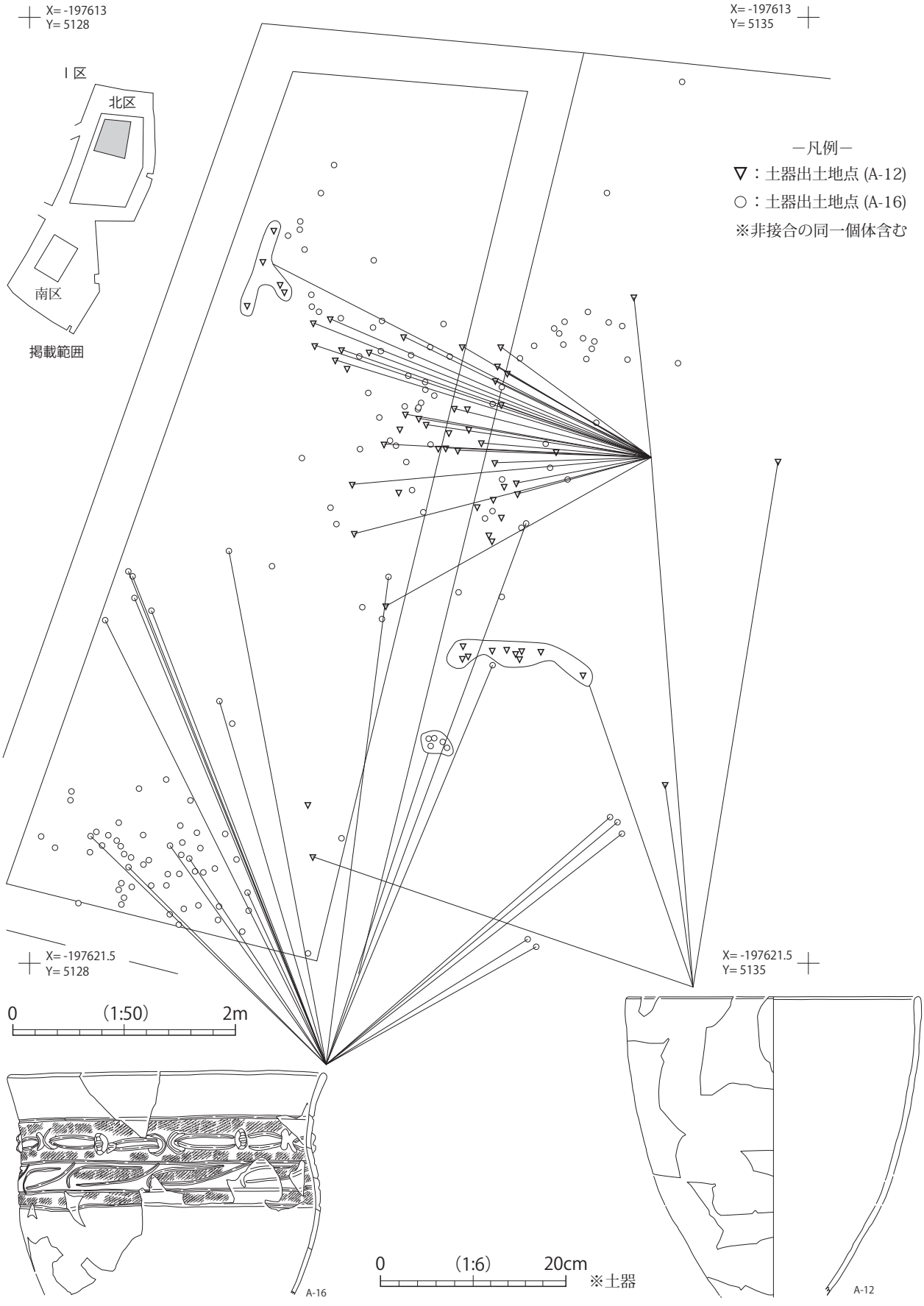
第 250 ～ 252 図に、これらの出土状況を示した。全体の出土状況をみると（第 250 図）、土器の集中範囲は調査区の中央付近から弧を描くようにして東に膨らみ、南側へと延びている。第 254 図－ 2・3、第 255 図－ 1 の礫石器は、これより東側に分布する。土器の個体別出土状況（第 251・252 図）では、第 253 図－ 3・4 の深鉢が概ね調査区の中央付近に分布の中心を置き、第 253 図－ 1 の深鉢も、その範囲内に含まれる。第 254 図－ 1 の深鉢は中央付近と、南側の 2 箇所に分散するかたちで出土している。第 253 図－ 2 の浅鉢は、南側に小規模なま



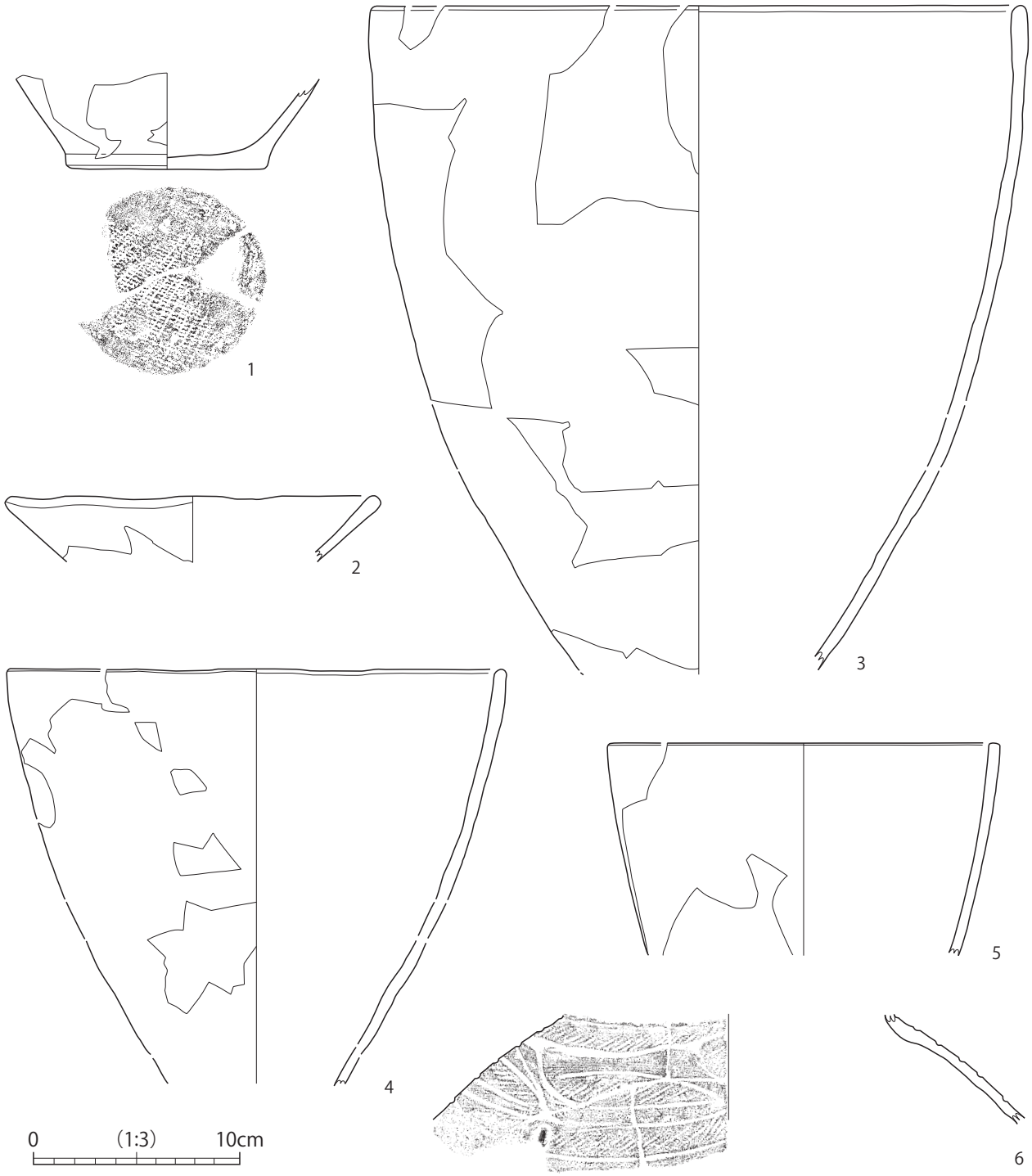
第 250 図　Ⅰ区ⅩⅥ層遺物出土状況（北区）



第 251 図　Ⅰ区ⅩⅥ層 A － 10・11・13 ～ 15 出土状況（北区）

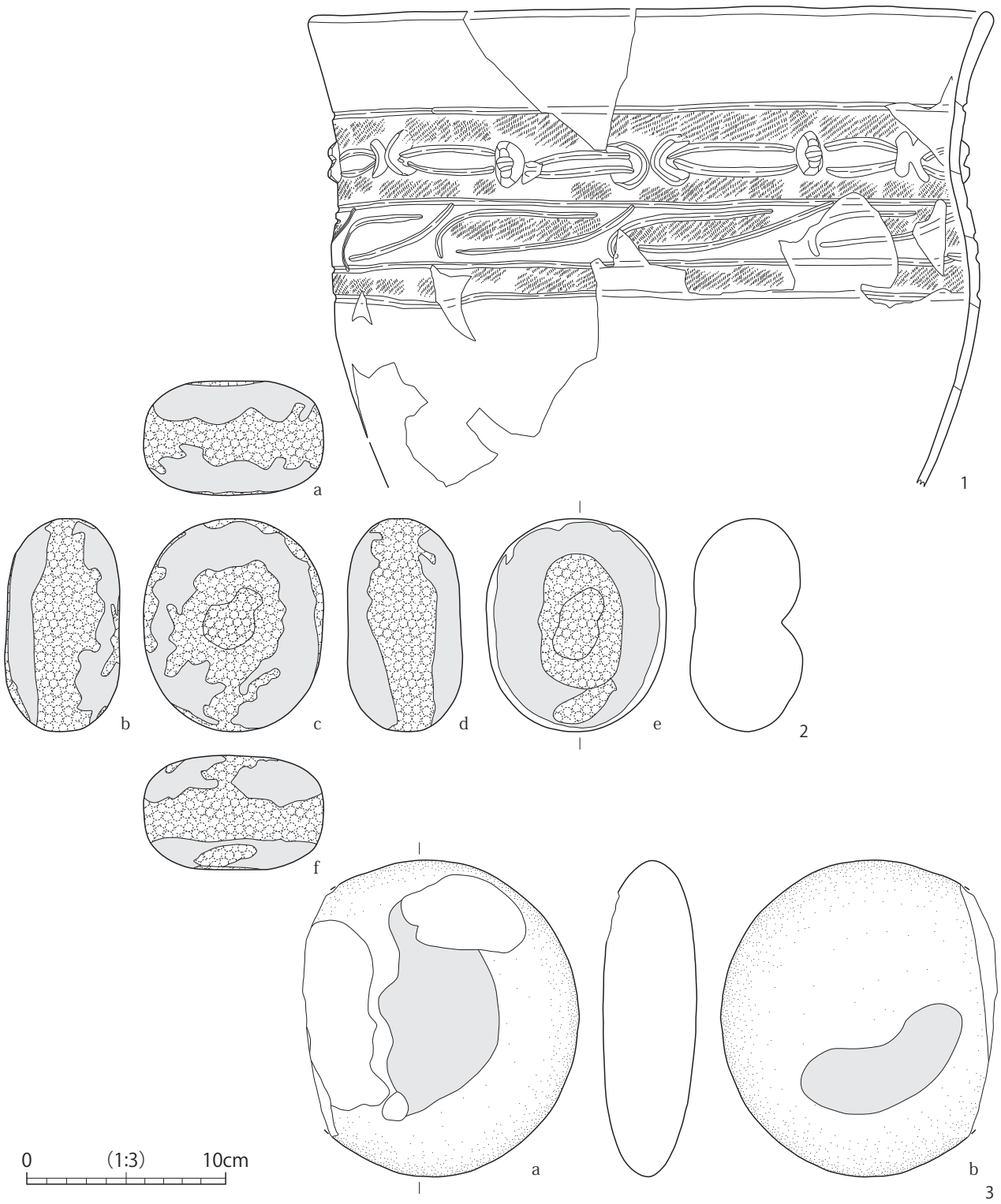


第 252 図　Ⅰ区ⅩⅥ層 A － 12・16 出土状況（北区）



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
1	A-010	Ⅰ区		ⅩⅥ層	縄文土器	深鉢	胴～底部	胴部無文、底部網代痕	磨滅	底径：9.7㎝ 器高：(4.5)㎝	33
2	A-011	Ⅰ区		ⅩⅥ層	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部	ミガキ	ミガキ	口径：(17.6)㎝ 器高：(3.2)㎝	33
3	A-012	Ⅰ区		ⅩⅥ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	ミガキ	ミガキ	口径：(31.7)㎝ 器高：(32.5)㎝	33
4	A-013	Ⅰ区		ⅩⅥ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	ミガキ、一部に LR 縄文の地文残存	ミガキ	口径：(24.2)㎝ 器高：(20.0)㎝	34
5	A-014	Ⅰ区		ⅩⅥ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	ミガキ	ミガキ	口径：(18.8)㎝ 器高：(10.2)㎝	34
6	A-015	Ⅰ区		ⅩⅥ層	縄文土器	壺	胴部	入組文の内部に LR 縄文を充填	ミガキ（粗）	器高：(5.2)㎝	34

第 253 図　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
1	A-016	Ⅰ区		ⅩⅥ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	口縁部ミガキ（横）、胴部上位突起貼付（頂部抉り）・ヒレ状貼付・沈線（横位弧状文・入組文）・1段LR縄文（横位回転）、胴部中位斜位ナデ→ミガキ	斜位ミガキ	外面炭化物付着 口径：34.4㎝ 器高：(24.0)㎝	34

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量（㎝）			重量（g）	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
2	Kc-007	Ⅰ区		ⅩⅥ層	礫石器	凹石	10.7	9.0	5.6	843.7	砂岩	球状礫、磨2面（平）、敲（e面2ヶ所、その他1ヶ所ずつ）、程度（c面中央は強、e面中央は中、その他弱）、完形品	35
3	Kc-005	Ⅰ区		ⅩⅥ層	礫石器	磨石	15.9	(13.9)	4.7	1,580.0	安山岩	扁平礫、磨2面（凸）、左側欠損	35

第254図　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物（2）

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
1	Kc-006	Ⅰ区		ⅩⅥ層	礫石器	台石	(24.3)	13.0	9.0	3,600.0	流紋岩	角礫、磨 3 面 (a 面凹、c・d 面平)、敲 (a 面 1 ヶ所)、程度弱、a・c 面剥離、下部欠損	35

第 255 図　Ⅰ区ⅩⅥ層出土遺物（3）

とまりが認められる。第 253 図－ 5 の深鉢と、6 の壺は極めて散漫な分布であるが、やや南に寄って出土する傾向が認められる。

出土した縄文土器は、第 253 図－ 1・3 ～ 5、第 254 図－ 1 が粗製の深鉢で、第 253 図－ 2 が浅鉢、6 が精製の壺である。

第 253 図－ 1 の深鉢は、底部外面に網代痕が観察される。内外面ともに磨滅が激しいが、無文であると思われる。2 の浅鉢は、直線的に外傾する体部をもち、断面は口縁部に向かってやや肥厚する。無文で、内外面にはミガキが施される。3 ～ 5 の深鉢は同形式であるが、それぞれ法量が異なる。器形は胴部から口縁部まで内湾気味に外傾して立ち上がり、口縁部は平口縁である。無文で、内外面ともにミガキが施されている。6 の壺は肩部の破片である。入組文が施文され、入組文の内部には縄文が充填されている。第 254 図－ 1 の深鉢は口縁部から胴部にかけて弱く括れる器形で、口縁部は平口縁である。胴部の上位は 4 条の平行沈線で文様帯が区画され、入組文や横位弧状文が施される。最上位の文様帯には刻目のある瘤状突起が貼り付けられている。

これらの土器は、器形や文様の特徴などから、縄文時代後期後葉の、金剛寺式に比定される。

第 254 図－ 2 は凹石である。全ての面に敲打痕が観察され、b 面の中央には深い凹痕が 1 箇所、その脇に浅い凹痕が 1 箇所観察される。3 は磨石である。a・b 面に磨面が形成されているが、両面ともに磨り減りは弱く、b 面の磨面範囲は小さい。片端部は欠損している。第 255 図－ 1 は台石である。角柱状の割石を利用し、b ～ d 各面には敲打痕や磨面が観察される。これらの礫石器の石材は、2 が砂岩、3 が安山岩、第 255 図－ 1 が流紋岩である。

(4) Ⅱ～Ⅳ区Ⅴｂ層（弥生時代中期中葉）

水田跡（第 256 図）

Ⅲ区からⅣ区にかけて検出された。畦畔はⅤｂ層上面で確認し、5 条を検出した。Ⅳ区の畦畔 1・2 は西側に傾き、概ね直線的に延びる。方位は畦畔 1 が N － 39° － W、畦畔 2 が N － 59° － W である。Ⅲ区の畦畔 3･5 は南北、畦畔 4 は東西方向に直線的に延びる。方位は畦畔 3 が N － 9° － E、畦畔 4 が N － 89° － E 、畦畔 5 が N － 1° － E である。規模は、畦畔 5 だけが下幅 47 ～ 62cm と狭いが、畦畔 1・2 が平均値で下幅 210 ～ 220cm、畦畔 3・4 が 130 ～ 160cm 前後を測る。高さはいずれも 4 ～ 6cm を測り、盛土によって構築されている。水田面の標高は 8.52 ～ 8.68 mを測り、わずかではあるが東に傾斜している。基本層Ⅴｂ層を耕作土とする水田跡と思われる。

溝状遺構（第 256 図）

Ⅲ区で 5 条、Ⅳ区で 1 条検出された。いずれもⅥａ層上面で検出されている。溝状遺構 1 はⅣ区の北東部に位置し、畦畔 2 に対して直交方向に延びる。溝状遺構 2 ～ 6 はⅢ区に位置し、このうち溝状遺構 2・3 は畦畔 3 の両縁に、溝状遺構 4 は畦畔 4 の南縁に相当する位置から検出され、それぞれ畦畔に沿うような方向性が認められる。溝状遺構 5 は畦畔 4 の南縁相当位置から南に屈曲し、畦畔 5 に重複する。溝状遺構 6 も畦畔 5 に重複し、溝状遺構 5 と平行する。このような方向性から、これらの溝状遺構も水田跡と何らかの関係があると考えられる。

溝状遺構の詳細については、第 256 図の観察表を参照されたい。

Ⅴｂ層出土遺物（第 257 ～ 259 図）

Ⅱ区とⅣ区から、弥生土器および石器が出土した。Ⅱ区では、調査区のほぼ中央から第 259 図－ 1 の甕 1/2 個体が潰れた状態で出土し、調査区の東寄りから第 258 図－ 13 の磨石が出土した。Ⅳ区では東側調査区から第 258 図－ 1・9・10 の甕、11 の壺が出土した。11 は撹乱内からの出土であるが、土器型式や周辺の遺物出土状況などを考慮し、Ⅴｂ層出土遺物に含めて報告する。西側調査区からは第 258 図－ 2 ～ 8 の甕、12 の鉢のほか、14 の磨石が出土した。これらⅣ区における遺物分布は散在的であり、特定のまとまりは認められなかった。

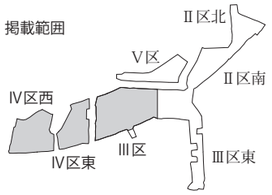
第 258 図－ 1 ～ 10、第 259 図－ 1 は甕である。小破片が多いため、壺や鉢などの破片が混在している可能性もあるが、今回の報告では全てを甕として扱う。大体の器形が復元できるのは第 258 図－ 1、第 259 図－ 1 の 2 点で、前者は口縁部に最大径をもつが、後者は胴部上位に最大径をもつ器形であると考えられる。これらの甕の地文は、縄文原体の回転施文が第 258 図－ 1･2･5･7･9、第 259 図－ 1 で、植物茎の回転施文が第 258 図－ 3･4･6･8 である。縄文原体は第 258 図－ 1・2・9 が単節 LR、第 258 図－ 5 が単節 RL である。第 259 図－ 1 は付加条の回転施文である可能性がある。地文以外の文様では、第 258 図－ 1 の口縁部に列点刺突文が施されている。第 258 図－ 10 の底部破片は外面に網代痕が観察される。内面は磨滅のため判然としないものが半数近くを占めるが、第 258 図－ 1・3・4・7・8、第 259 図－ 1 はミガキ調整されている。

第 258 図－ 11 の壺は、肩部付近の破片である。内外面ともに磨滅が激しいが、外面にはミガキ調整が観察される。また部分的ではあるが、ミガキ調整前のハケメ調整が観察される。胎土は粗く、夾雑鉱物を多量に含む。

第 258 図－ 12 の鉢は、小型の精製品である。沈線による横位直線文が多条に施文され、その間に連弧文を配している。文様帯の内部には縄文が充填されている。内面はミガキ調整されている。

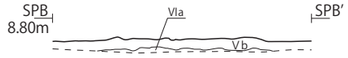
これらの弥生土器は、中期中葉に比定される。

第 258 図－ 13・14 は磨石である。13 の磨面は a・b 面で観察され、a 面の方が範囲は広い。14 の磨面は a 面のみに形成されているが、同面のほとんどに広がっている。石材は 13 が緑色凝灰岩、14 が軽石質凝灰岩である。

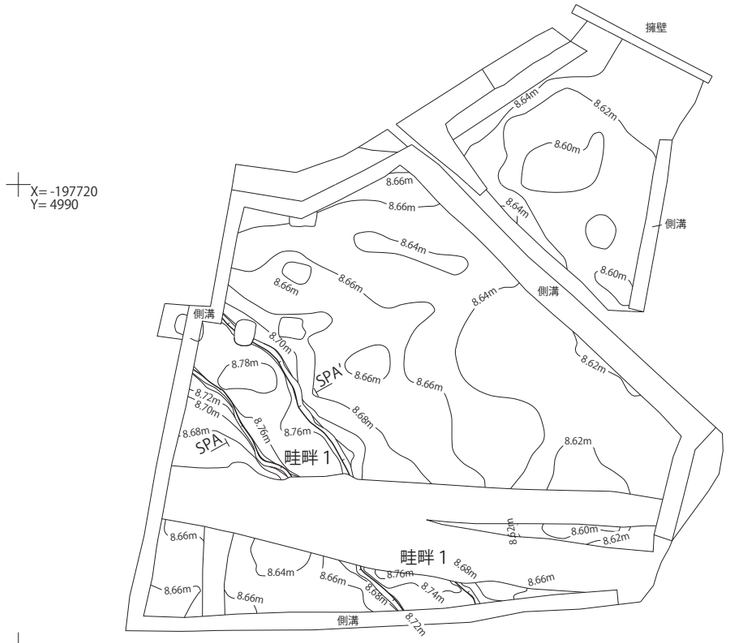


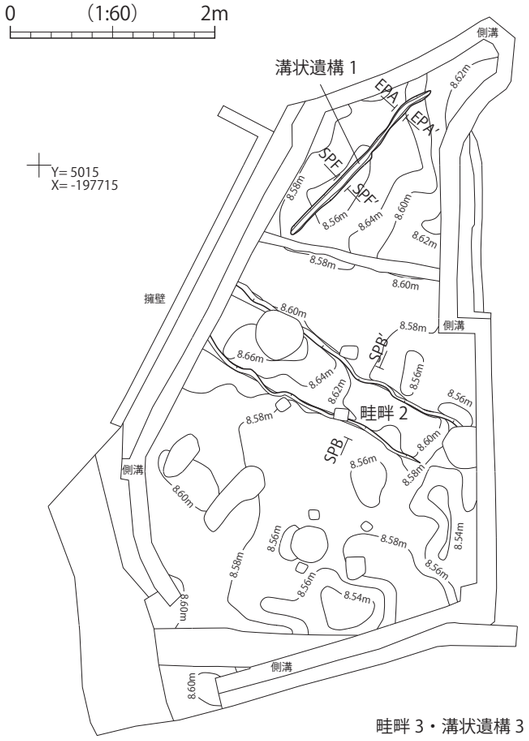
畦畔 1

畦畔 2



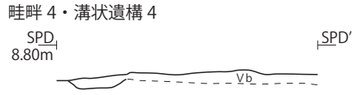
溝状遺構 1



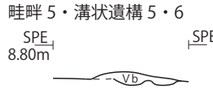


畦畔 3・溝状遺構 3

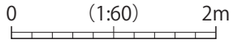
畦畔 4・溝状遺構 4

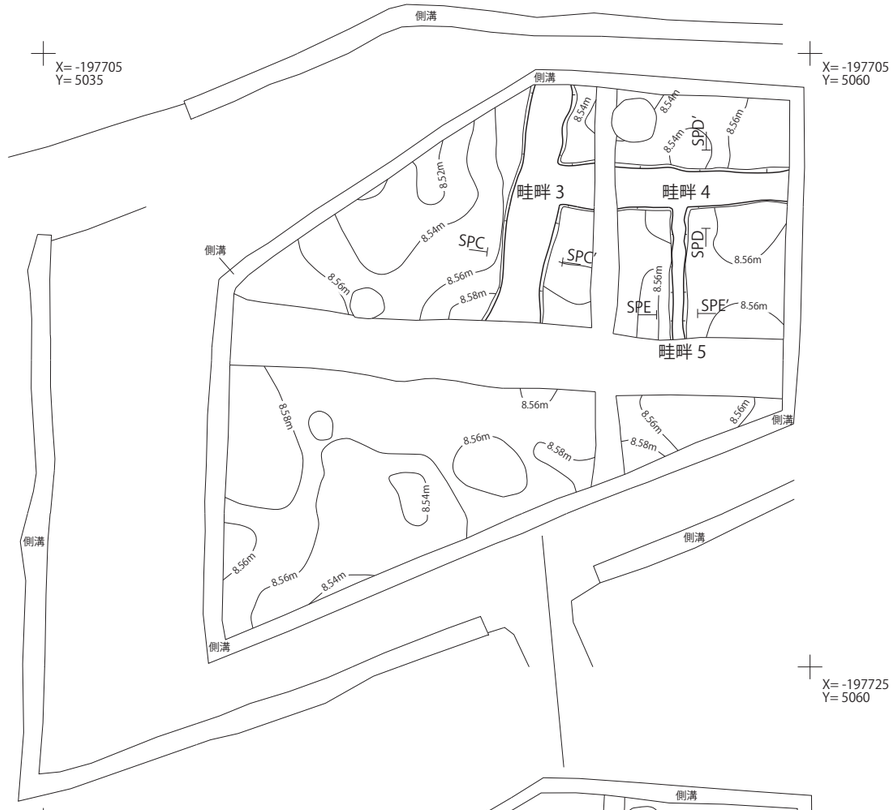


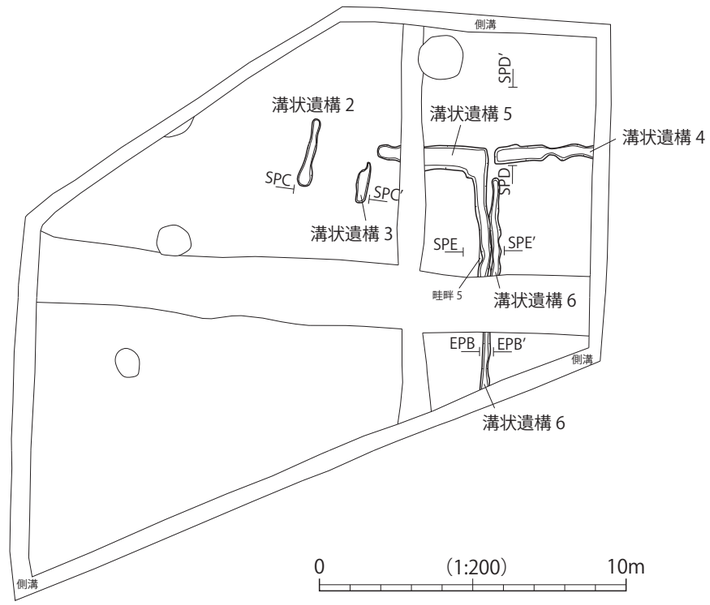
畦畔 5・溝状遺構 5・6



溝状遺構 6







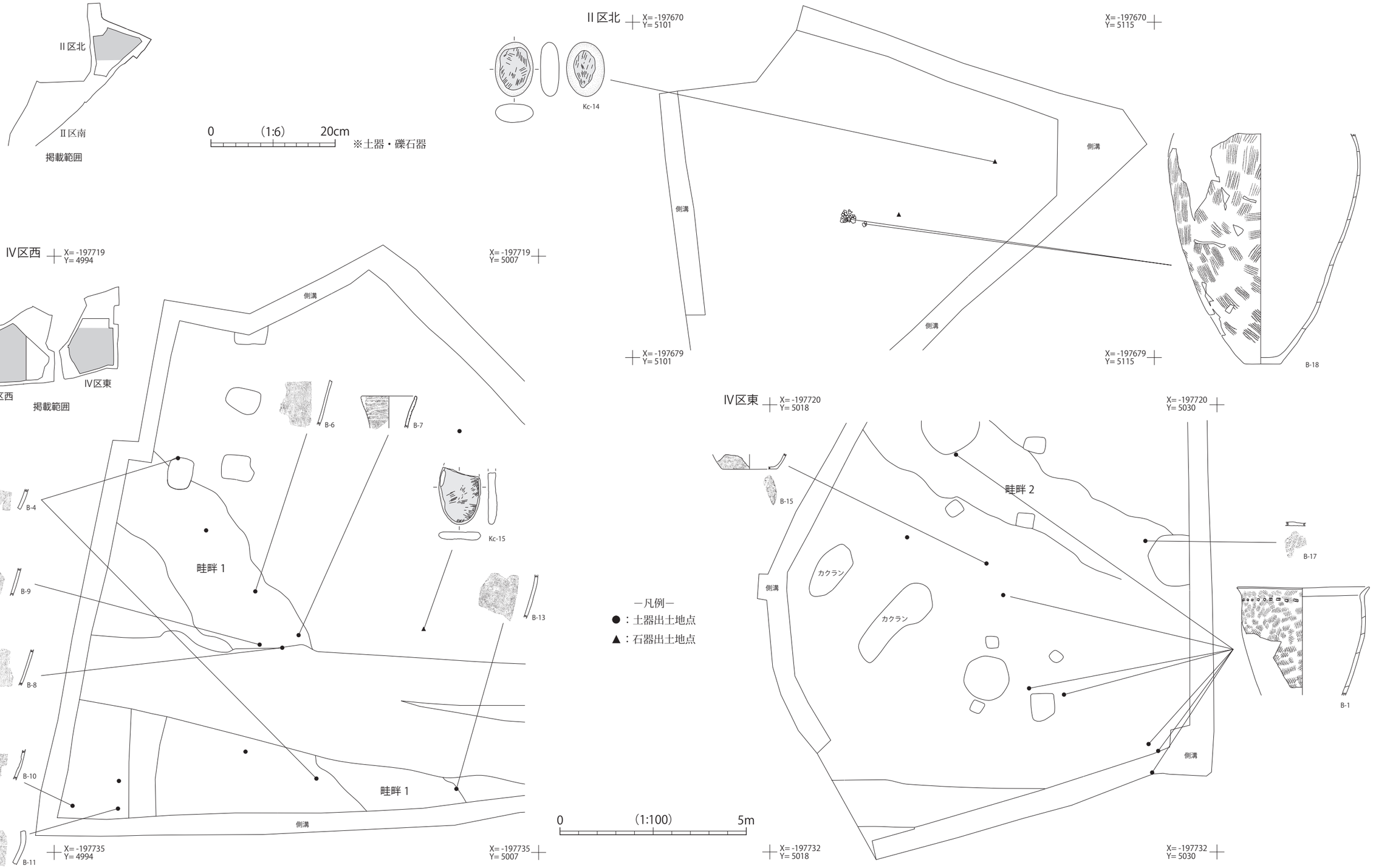
Ⅲ・Ⅳ区水田跡畦畔　堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
畦畔 1 ～ 5	Vb	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	浅黄色粘土ブロック (20 ～ 30㎜程度) 多量含む。

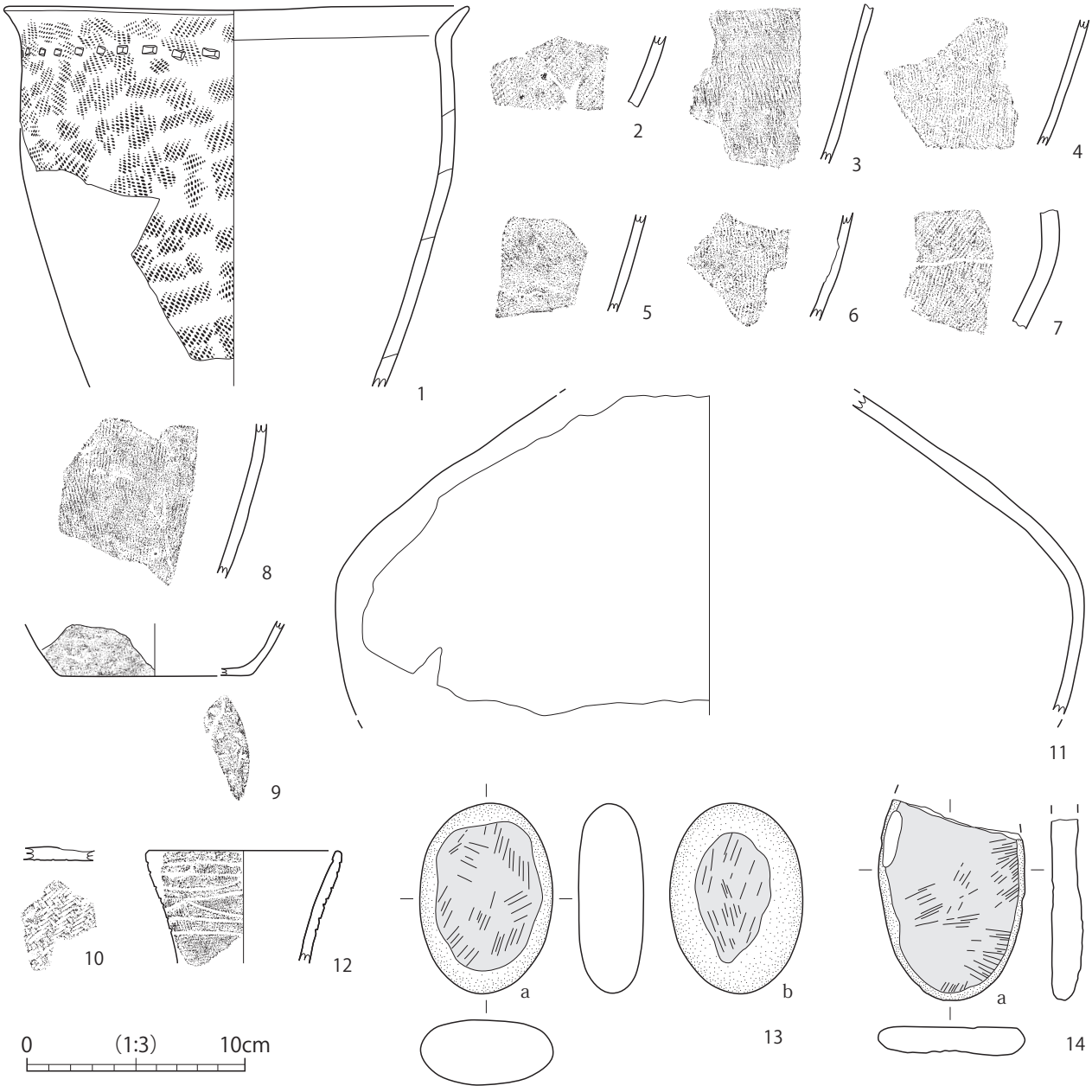
溝状遺構　観察表

遺構名	ｹﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上幅	下幅	深さ				
溝状遺構 1	76･86	N-44°-E	652	9 ～ 28	7 ～ 18	1 ～ 8	Vb	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	黄橙色粘土質シルトブロック (5 ～ 10㎜程度) 少量、酸化鉄含む。
溝状遺構 2	68･70 78･79	N-12°-E	223	20 ～ 44	12 ～ 36	1 ～ 2		—	—	註記なし。
溝状遺構 3	79	N-13°-E	140	16 ～ 39	9 ～ 29	2	Vb	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	黄橙色粘土質シルト少量、酸化鉄含む。
溝状遺構 4	79	N-86°-E	(323)	22 ～ 58	13 ～ 36	2 ～ 9	Vb	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	黄橙色粘土質シルト少量、酸化鉄含む。
溝状遺構 5	79	北辺 N-85°-W	365	43 ～ 79	31 ～ 57	3 ～ 9	Vb	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	橙色粘土ブロック (5㎜程度) 少量含む。
		東辺 N- 1°-E	420	26 ～ 38	16 ～ 22	1 ～ 5				
溝状遺構 6	79･89	N-22°-E	(680)	20 ～ 33	8 ～ 19	3 ～ 5	Vb	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	橙色粘土ブロック (5 ～ 10㎜程度) 多量、酸化鉄・マンガン含む。

第 256 図　Ⅲ・Ⅳ区水田跡・溝状遺構



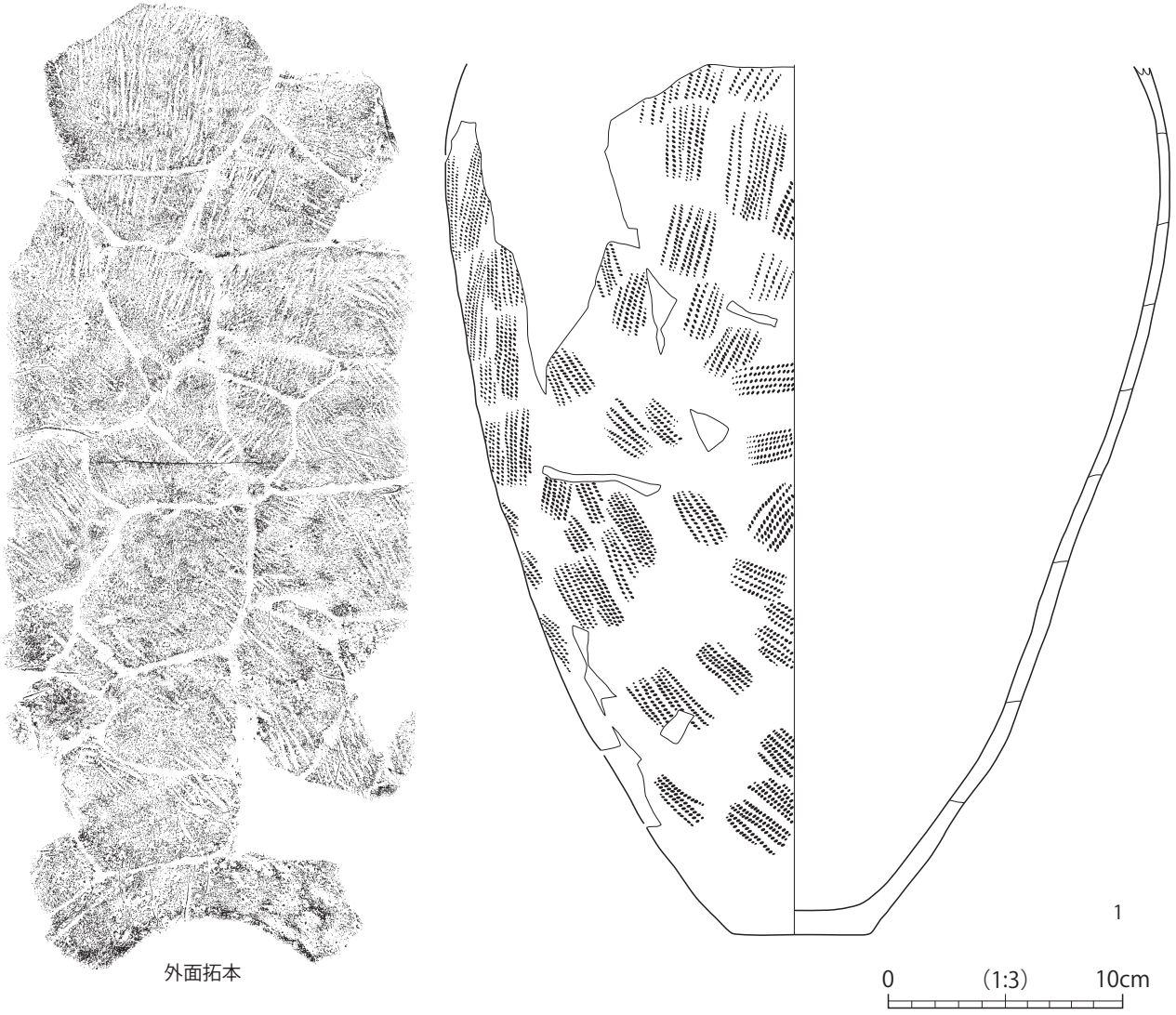
第 257 図　Ⅱ・Ⅳ区Ⅴｂ層遺物出土状況



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
1	B-001	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	口縁～胴部	LR 縄文横位・斜位→口縁部列点刺突文	ミガキ	口径：(21.0)cm 器高：(17.2)cm	36
2	B-004	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部	LR 縄文横位回転	磨滅		36
3	B-006	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部	植物茎回転文横位回転	ミガキ		36
4	B-008	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部	植物茎回転文横位回転	ミガキ		36
5	B-009	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部	RL 縄文横位回転、磨滅	磨滅		36
6	B-010	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部	植物茎回転文横位回転	磨滅		36
7	B-011	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部	LR 縄文横位・斜位回転	ミガキ		36
8	B-013	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部	植物茎回転文横位・斜位回転	ミガキ		36
9	B-015	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部～底部	胴下位 LR 縄文横位回転、胴下端ミガキ、底部ナデ、磨滅	磨滅	底径：(8.7)cm 器高：(2.4)cm	36
10	B-017	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	甕	底部	網代痕	剥落		36
11	B-002	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	壺	肩～胴部	ハケメ→ミガキ、磨滅	磨滅	器高：(14.6)cm	36
12	B-007	Ⅳ区		Ⅴb層	弥生土器	鉢	口縁～胴部	横位直線文＋連弧文→充填縄文	ミガキ	口径：(8.9)cm 器高：(5.2)cm	36

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石　材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
13	Kc-014	Ⅱ区		Ⅴb層	礫石器	磨石	8.7	6.1	3.0	240.0	緑色凝灰岩	扁平礫、磨２面（凸）、完形品	36
14	Kc-015	Ⅳ区		Ⅴb層	礫石器	磨石	(8.2)	6.7	1.1	70.0	軽石質凝灰岩	扁平礫、磨１面（平）、上部欠損	36

第 258 図　Ⅱ・Ⅳ区Ⅴb層出土遺物



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
1	B-018	Ⅱ区北		Ⅴb層	弥生土器	甕	胴部～底部	付加条？（軸縄見えず）、1段Rの撚糸（条間不均等、単軸絡条体第1類の可能性あり）、胴部下位～底部ミガキ	ナデ→ミガキ	内外面炭化物付着 底径：6.0㎝ 器高：(37.2)㎝	36

第259図　Ⅱ区Ⅴb層出土遺物

(5) Ⅱ・Ⅳ区Ⅸ層（縄文時代）

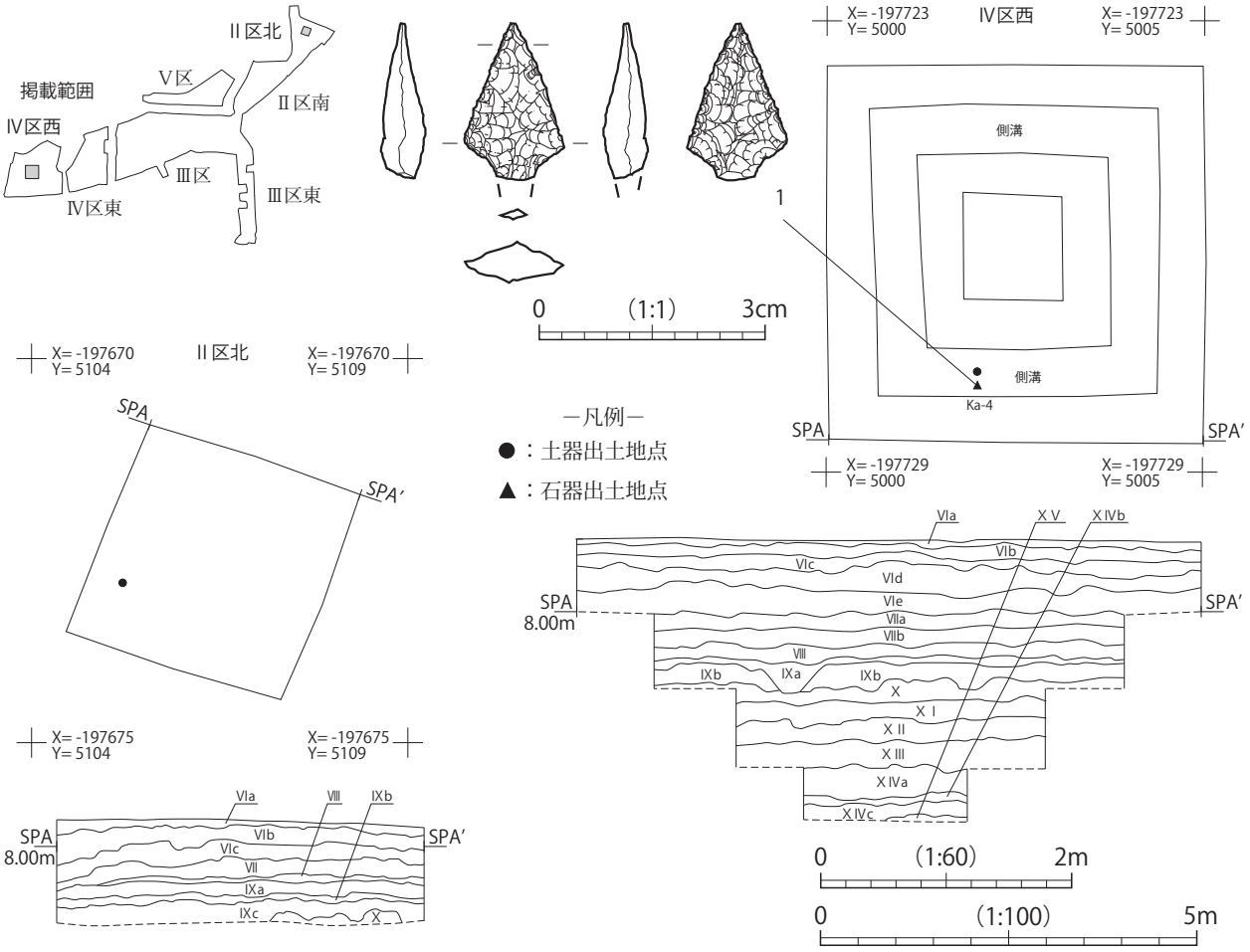
Ⅸ層出土遺物（第260図）

Ⅱ区で1箇所、Ⅳ区で2箇所のテストピットを掘削し、Ⅵ層以下の状況を確認した。

Ⅱ区のテストピットは深さ0.8ｍ程掘削し、Ⅹ層上面まで検出した。基本層は中位のⅦa層が細砂層、これ以外の層が粘土層である。遺構は検出されず、Ⅸc層から縄文土器の細片が1点出土したのみである。

Ⅳ区のテストピットは、東側を深さ1ｍ程掘削し、Ⅹ層上面まで検出した。基本層は砂質層が大半を占め、下層のⅨ・Ⅹ層が粘土層である。遺構・遺物は認められず、基本層などの掲載は割愛した。西側のテストピットは深さ2ｍ程掘削し、ⅩⅤ層上面まで検出した。基本層は上半部が砂質層、下半部が粘土層である。遺構は認められず、中位のⅨb層から縄文土器の破片と石鏃が1点ずつ出土した。このうち石鏃1点を第260図に掲載した。

第260図－1の石鏃は有茎石鏃で、基部の大半が欠損している。身部の剥離調整は背面・腹面ともに全体におよび、縁辺部から基部にかけては細かい連続剥離によって入念に調整されている。



Ⅱ区下層　基本層序　土層註記表

遺構名	層位	土色		土性	備考
Ⅱ区北側基本土層A	Ⅵa	2.5Y7/1	灰白色	粘土	黒色粘土質シルトブロック(10㎜程度)微量、酸化鉄含む。
	Ⅵb	2.5Y5/1	黄灰色	粘土	灰白色粘土質シルトブロック(5㎜程度)微量、酸化鉄含む。
	Ⅵc	2.5Y5/1	黄灰色	粘土	Ⅵb層土ブロック(10～20㎜程度)・白色軽石少量、酸化鉄含む。
	Ⅶa	10YR6/1	褐灰色	細砂	白色軽石少量、Ⅸa層土粒微量、酸化鉄含む。
	Ⅷ	7.5Y7/2	灰白色	粘土	Ⅸa層土ブロック(10～20㎜程度)多量、Ⅶ層土砂少量含む。
	Ⅸa	10YR2/1	黒色	粘土	Ⅷ層土ブロック(50㎜程度)少量、酸化鉄含む。(縄文時代遺物包含層、Ⅲ・Ⅳ区のⅨ層に相当)
	Ⅸb	10YR6/1	褐灰色	粘土	Ⅷ層土ブロック(10～20㎜程度)微量含む。(Ⅲ・Ⅳ区のⅨ層に相当)
	Ⅸc	10YR5/1	褐灰色	粘土	Ⅹ層土粒多量、Ⅸa層土ブロック(10～30㎜程度)微量、酸化鉄含む。
	Ⅹ	5Y6/1	灰色	粘土	Ⅸc層土ブロック(30～50㎜程度)多量含む。

Ⅳ区西側下層　基本層序　土層註記表

遺構名	層位	土色		土性	備考
Ⅳ区西側基本土層A	Ⅵa	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン斑状に、上位にⅤb層土ブロック少量含む。
	Ⅵb	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン含み、部分的に褐色に変色。
	Ⅵc	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	黒色砂質シルト粒少量、酸化鉄含む。
	Ⅵd	5Y5/2	灰オリーブ色	粗砂	酸化鉄沈着。
	Ⅵe	5Y5/1	灰色	細砂	上位に酸化鉄沈着。
	Ⅶa	10YR6/1	褐灰色	微砂	褐色・黒色シルト・灰白色砂の互層。
	Ⅶb	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	青灰色粘土質シルト・暗褐色・黒色シルトの互層。
	Ⅷ	2.5GY5/1	オリーブ灰色	砂質シルト	上位に黒灰色粘土、下位に灰白色シルト粒少量、酸化鉄塊含む。
	Ⅸa	N3/0	暗灰色	粘土	黒色粘土との混合。(縄文遺物包含層)
	Ⅸb	N2/0	黒色	粘土	灰色粘土ブロック(30～50㎜程度)少量含む。
	Ⅹ	7.5Y5/1	灰色	粘土	黒色粘土(5㎜程度)微量、酸化鉄塊含む。
	Ⅹ Ⅰ	7.5Y4/1	灰色	粘土	青灰色粘土粒多量、酸化鉄塊含む。
	Ⅹ Ⅱ	N5/0	灰色	砂質シルト	青灰色粘土粒多量、黒色粘土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	Ⅹ Ⅲ	2.5GY5/1	オリーブ灰色	粘土質シルト	黒色・青黒色粘土質シルトの互層。
	ⅩⅣa	10YR1.7/1	黒色	粘土	灰色粘土粒少量含む。
	ⅩⅣb	10YR4/1	褐灰色	粘土	黒色粘土粒多量含む。
	ⅩⅣc	10YR2/1	黒色	粘土	灰色粘土粒多量含む。
	Ⅹ Ⅴ	5Y5/2	灰オリーブ色	粘土	黒色粘土粒少量含む。

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
1	Ka-004	Ⅳ区		Ⅸ層	打製石器	石鏃	(2.15)	1.35	0.6	1.0	流紋岩	有茎、厚幅比0.44、先端角43度、一部欠損	36

第260図　Ⅱ・Ⅳ区テストピットⅨ層遺物出土状況・出土遺物

第６章　自然科学分析

第１節　分析の目的

第 167 次（1 年次）調査および第 196 次（2 年次）調査では、河川跡や遺構堆積土中に火山灰層とみられる層位が確認された。この火山灰の同定により、今回検出された一部の遺構や今後の調査における検出遺構について、時期決定の指標が設定できると思われる。そこで第 167 次（1 年次）調査区北側で検出された河川跡、第 196 次（2 年次）調査区Ⅲ区の SD10・11・13 の堆積土から試料を採取し、火山灰分析を行った。なお、各試料の具体的な採取箇所は下記の通りである。

第 167 次（1 年次）調査　資料 1：調査区東壁（下掲載図参照）

第 196 次（2 年次）調査　資料 1：SD10・A － A' セクション 2b 層（第 174 図－ No.1）

資料 2：SD11・A － A' セクション 1b 層（第 233 図－ No.2）

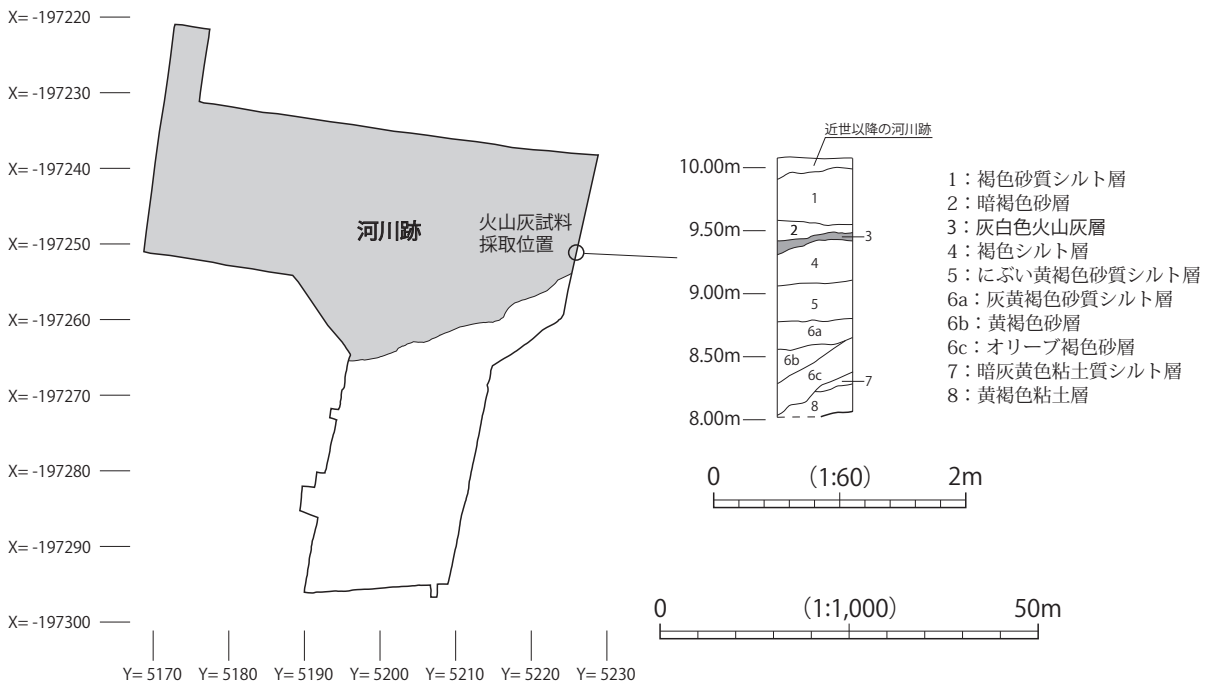
資料 3：SD13・E － E' セクション②層（第 233 図－ No.3）

また、第 196 次（2 年次）調査では、Ⅲ・Ⅳ区において、Ⅴ b 層上面から弥生時代中期と思われる水田跡が検出された。このため、Ⅳ区の東壁（A － A' セクション）と西壁（D － D' セクション）で資料を採取し、プラント・オパール分析を行った（第 165 図）。なお、両セクションの層名は、整理時において一部を下記の通り変更し、掲載図についても D － D' の試料採取箇所は掲載範囲外であることをあらかじめ述べておきたい。

層名変更箇所　Ⅲ b － 1 層→Ⅲ c 層

Ⅲ b － 2 層→Ⅲ d 層

プラント・オパール分析については、第 167 次調査に先立つ確認調査においても、9・11 トレンチで実施している。しかし調査時の所見によれば、対象とした層位が近代以降とされるため、割愛した。



第 261 図　第 167 次（1 年次）調査火山灰試料採取位置

第２節　郡山遺跡の火山灰分析（第 167 次－１年次調査）

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

仙台市域とその周辺には、蔵王、肘折、十和田など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、姶良など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、火山灰層が認められた郡山遺跡においても、屈折率測定と EPMA による火山ガラスの主成分化学組成分析を行って、指標テフラの同定を行うことになった。測定分析の対象となった試料は、河川跡がかかる調査区東壁際に掘削したトレンチ内の、３層から採取された。

2．屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

３層に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（MAIOT）により、屈折率（n）の測定を行った。

（2）測定結果

屈折率測定結果と仙台市域に分布する代表的な指標テフラの火山ガラスの屈折率（n）を表 1 に示す。３層に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.499-1.509 である。

3．火山ガラスの主成分化学組成分析

（1）分析試料と分析方法

３層に含まれる火山ガラスについて、指標テフラとの同定精度をさらに向上させるために、波長分散型エレクトロンプローブＸ線マイクロアナライザー（以下，WDS 型 EPMA とする）により主成分化学組成分析を行った。分析に使用した分析機器は、山形大学理学部の日本電子 JXA8600MWDS 型 EPMA である。加速電圧 15kV、照射電流 0.01 μ A、ビーム径 5 μ m の条件で行った。補正法は Oxide ZAF 法を用いた。

（2）分析結果

火山ガラスの主成分化学組成分析結果を表 2 に示す。さらにこの表には、本遺跡とその周辺に分布するおもな指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成を示した。

4．考察

試料に含まれる火山ガラスの屈折率や主成分化学組成の特徴から、３層に含まれる火山ガラスは、915 年に十和田火山から噴出したと推定されている十和田 a 火山灰（To-a, 町田ほか, 1981）に同定される可能性が非常に高い。今回は現地において層相の観察ができなかったことから、一次堆積の To-a か否かの判断は困難であるが、記載された層相を合わせて考慮すると、３層については To-a である可能性が考えられよう。

5．小結

郡山遺跡第 167 次（1 年次）調査の河川跡の、３層から採取された試料について、屈折率測定と EPMA による火山ガラスの主成分化学組成分析を行った。その結果、十和田 a 火山灰（To-a，915 年）に同定される可能性のあることが明らかになった。

参考文献

青木かおり・新井房夫（2000）三陸沖海底コア KH94-3，LM-8 の後期更新世テフラ層序．第四紀研究，39，p.107-120.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.

表 1　試料と代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率

遺跡／テフラ	地点	試料	火山ガラスの屈折率 (n)
郡山・3A 区	河川跡 C・東壁	3 層	1.499-1.508
十和田 a (To-a，AD915)			1.500-1.508
十和田中掫 (To-Cu，5.5k.yBP)			1.508-1.512
肘折尾花沢 (Hj-O，10k.yBP)			1.499-1.504
十和田八戸 (To-H，12-13k.yBP)			1.505-1.509
浅間草津 (As-K，13-14k.yBP)			1.502-1.504
姶良 Tn(AT，24-25k.yBP)			1.499-1.501
鳴子柳沢 (Nr-Y，41-63ka)			1.500-1.503
鳴子荷坂 (Nr-N，90ka)			1.500-1.502
肘折北原 (Hj-Kth，90-100ka)			1.499-1.502
洞爺 (Toya，112-115ka)			1.494-1.498

屈折率測定は，温度変化型屈折率測定装置 (RIMS86) による．指標テフラのデータは，町田・新井 (1992，2003) による．
K.yBP：1,000 年前 (^{14}C 年代)．Ka：1,000 年前.

表 2　試料と代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

遺跡・試料 / テフラ	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	P_2O_5
郡山・3A 区・3 層	77.37	0.37	12.73	1.73	0.14	0.44	2.06	3.62	1.47	0.05
	0.48	0.04	0.21	0.19	0.06	0.05	0.15	0.27	0.14	0.04
十和田 a (To-a)	77.87	0.37	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34	0.06
十和田八戸 (To-H)	78.30	0.29	12.67	1.52	0.06	0.29	1.73	3.84	1.30	—
浅間草津 (As-K)	78.61	0.29	11.97	1.37	0.06	0.24	1.26	3.19	2.97	—
姶良 Tn(AT)	78.83	0.12	12.13	1.10	0.04	0.11	0.98	3.33	3.36	—
鳴子柳沢 (Nr-Y)	79.67	0.16	11.94	1.30	0.06	0.17	1.31	3.62	1.78	—
鳴子荷坂 (Nr-N)	79.28	0.11	12.09	1.23	0.11	0.11	1.05	4.18	1.83	0.01
肘折北原 (Hj-Kth)	78.63	0.09	12.26	0.70	0.08	0.07	0.68	3.58	3.87	0.03
洞爺 (Toya)	79.37	0.06	12.48	0.92	0.08	0.03	0.37	3.75	2.94	0.00

n：分析ポイント数．上段が平均値，下段は標準偏差．指標テフラのデータは，青木・新井 (2000) および八木 (未公表資料)

第３節　郡山遺跡の火山灰分析（第 196 次ー 2 年次調査）

株式会社古環境研究所

1. はじめに

東北地方仙台市域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壌の中には、蔵王、安達、肘折、鳴子、十和田など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、大山、三瓶、阿蘇、姶良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く認められる（町田・新井，2003 など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明なテフラ層や土層が認められた郡山遺跡（環状線東）においても、採取送付された試料を対象に火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定を実施して、指標テフラの検出同定を行うことになった。分析試料は、試料 1（SD10）、試料 2（SD11）、試料 3（SD13）の 3 点である。

2. 火山ガラス比分析

（1）分析試料と分析方法

3 試料について、含まれる特徴的な火山ガラスの量比傾向をみるために火山ガラス比分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

1）試料 10g を秤量。

2）超音波洗浄により泥分を除去。

3）80℃で恒温乾燥。

4）実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察（テフラ検出分析）。

5）分析篩をもちいて、1/4（2 φ）～ 1/8mm（3 φ）と 1/8（3 φ）～ 1/16mm（4 φ）の粒子を篩別。

6）偏光顕微鏡下で 1/4（2 φ）～ 1/8mm（3 φ）の 250 粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。

（2）分析結果

テフラ検出分析の結果を表 3 に示す。黄白色シルト状を呈する試料 1 には、無色透明の軽石型ガラスやバブル型ガラスが少量含まれている。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、単斜輝石がごく少量ずつ含まれている。灰白色の砂質火山灰の層相を呈する試料 2 には、無色透明の軽石型ガラスやバブル型ガラスが多く含まれている。若干黄色がかった灰色シルトを呈する試料 3 には、無色透明の軽石型ガラスやバブル型ガラスが少量含まれている。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、単斜輝石がごく少量含まれている。

火山ガラス比分析の結果を、ダイヤグラムにして第 362 図に、その内訳を表 4 に示す。試料 1 には、火山ガラスが 7.6％含まれている。内訳は比率が高い順に、繊維束状に発泡した軽石型（2.8％）、分厚い中間型および透明で平板状のバブル型（各 2.0％）、スポンジ状に発泡した軽石型（0.8％）である。

試料 2 には火山ガラスが 10.0％含まれており、ほかの試料よりややその比率が高い。内訳は比率が高い順に、繊維束状に発泡した軽石型（5.2％）、中間型、透明で平板状のバブル型、スポンジ状に発泡した軽石型（各 1.6％）である。重鉱物はほとんど認められない。

試料 3 には火山ガラスが 5.6％含まれている。内訳は比率が高い順に、繊維束状に発泡した軽石型（2.4％）、透明で平板状のバブル型（1.6％）、中間型（1.2％）、スポンジ状に発泡した軽石型（各 0.4％）である。

3. 屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

火山ガラス比分析の対象となった 3 試料に含まれる火山ガラス（1/8 ～ 1/16mm）について、温度変化型屈折率測定装置（京都フィッション・トラック社製 RIMS2000）により屈折率の測定を行った。

（2）測定結果

屈折率測定の結果を表 5 に示す。試料 1 に含まれる火山ガラス（43 粒子）の屈折率（n）は、1.498-1.506 である。試料 2 に含まれる火山ガラス（42 粒子）の屈折率（n）は、1.501-1.508 である。試料 3 に含まれる火山ガラス（30 粒子）の屈折率（n）は、1.497-1.506 である。

4. 考察

分析測定の対象となった試料のうち、試料 2 に含まれる火山ガラスについては、テフラ・カタログ（町田・新井，2003）と比較するとやや低い屈折率の火山ガラスが含まれているものの、層相や火山ガラスの色調形態、さらに火山ガラスの屈折率などから、AD915 年に十和田火山から噴出した十和田 a テフラ（To-a，町田ほか，1981，町田・新井，1992，2003，n：1.503-1.507）から採取された可能性が高いと思われる。

一方、ほかの 2 試料については、To-a に含まれる火山ガラスが含まれる可能性は考えられるものの、層相や屈折率が低い火山ガラスが含まれていることを考慮すると、To-a の一次堆積層とは考えにくい。もともと本地域における To-a の火山ガラスの屈折率にさほど特徴がないことから、今後信頼度の高い EPMA をもちいた火山ガラスの主成分化学組成分析を実施して、テフラの起源を詳しく調べる必要がある。

5. まとめ

仙台市郡山遺跡（環状線東）において、採取送付されたテフラ試料を対象に、火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、十和田 a テフラ（To-a，915 年）に由来する可能性が高い火山ガラスを検出することができた。

参考文献

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.

表 3　テフラ検出分析結果

試料名	軽石・スコリア			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	形態	色調
試料 1　SD10				*	pm,bw	cl
試料 2　SD11				***	pm>bw	cl,wh
試料 3　SD13				**	pm>bw	cl

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，-：認められない．
最大径の単位は㎜．bw：バブル型，pm：軽石型．wh：白，cl：無色透明

表 4　火山ガラス比分析結果

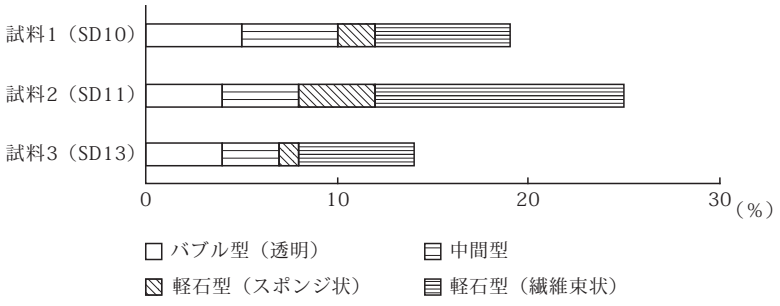
試料名	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
試料 1　SD10	5	0	0	5	2	7	231	250
試料 2　SD11	4	0	0	4	4	13	225	250
試料 3　SD13	4	0	0	3	1	6	236	250

bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：無色透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポンジ状，fb：繊維束状．数字は粒子数．

表 5　屈折率測定結果

試料名	火山ガラスの屈折率 (n)	測定粒子数
試料 1　SD10	1.498-1.506	43
試料 2　SD11	1.501-1.508	42
試料 3　SD13	1.497-1.506	30

測定は，温度変化型屈折率測定装置 (RIMS2000) による．



第 262 図　郡山遺跡の火山ガラス比ダイアグラム

第４節　郡山遺跡のプラント・オパール分析（第 196 次－２年次調査）

株式会社古環境研究所

1．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である（杉山，2000）。

郡山遺跡（環状線東）の発掘調査では、桝形囲式期とされる層準より畔畦状遺構が検出され、当時の水田跡の可能性が考えられた。隣接する長町駅東遺跡や西台畑遺跡でも当該期の水田遺構が検出されており、本調査区においても水田跡の包蔵されている可能性は十分予想される。そこで、桝形囲式期およびその他の時期における水田耕作の可能性を検討する目的で、プラント・オパール分析を行うことになった。

2．試料

調査地点は、調査区西壁の A セクションと同東壁の D セクションの２地点である。分析試料は、A セクションでは上位より Ⅰ b 層（オリーブ灰色シルト、近代～現代）、Ⅱ層（灰黄褐色シルト）、Ⅲ a 層（にぶい黄褐色シルト）、Ⅲ b-1 層（暗褐色シルト）、Ⅲ b-2 層（にぶい黄褐色シルト）、Ⅲ c 層（灰黄褐色シルト）、Ⅳ a 層（にぶい黄橙色粘土質シルト）、Ⅳ b 層（灰黄褐色粘土質シルト）、Ⅳ c 層（にぶい黄橙色粘土質シルト）、Ⅳ d 層（にぶい黄褐色シルト）、Ⅳ e 層（にぶい黄橙色シルト）、Ⅴ a 層（灰黄褐色粘土）、Ⅴ b 層（褐灰色粘土、桝形囲式期の水田耕作土）、Ⅵ a 層（灰黄褐色砂質シルト）、Ⅵ b 層（灰黄褐色砂質シルト）、Ⅵ c 層（灰黄褐色砂質シルト）、Ⅵ d 層（灰黄褐色砂質シルト）の 17 点、D セクションでは上位より Ⅰ b 層（オリーブ灰色シルト、近代～現代）、Ⅱ層（灰黄褐色シルト）、Ⅲ a 層（にぶい黄褐色シルト）、Ⅲ b 層（暗褐色シルト）、Ⅲ c 層（灰黄褐色シルト）、Ⅳ a 層（にぶい黄橙色粘土質シルト）、Ⅳ b 層（灰黄褐色粘土質シルト）、Ⅳ c 層（にぶい黄橙色粘土質シルト）、Ⅳ d 層（にぶい黄褐色シルト）、Ⅳ e 層（にぶい黄橙色シルト）、Ⅴ a 層（灰黄褐色粘土）、Ⅴ b 層（褐灰色粘土、弥生時代の水田耕作土）、Ⅵ a 層（灰黄褐色砂質シルト）、Ⅵ b 層（灰黄褐色砂質シルト）、Ⅵ c 層（灰黄褐色砂質シルト）の 15 点の計 32 点である。試料採取にあたっては、分析担当者が現地において直接行った。

3．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

1）試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
2）試料約 1g に対し直径約 40 μ m のガラスビーズを約 0.02g 添加
3）電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理
4）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
5）沈底法による 20 μ m 以下の微粒子除去
6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
7）検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率を乗じて、

試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、チマキザサ節は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山，2000）。

4. 分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、シバ属、タケ亜科（メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、その他）および未分類である。また、プラント・オパール以外に海綿骨針も検出された。これらの分類群について定量を行い、その結果を表6・7、第263・264図に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。以下に、プラント・オパールの検出状況を記す。なお、植物種によって機動細胞珪酸体の生産量は相違することから、検出密度の評価は植物種ごとに異なる。

1）Aセクション

イネはⅠb層、Ⅱ層、Ⅲa層、Ⅲb-1層およびⅤb層で検出されている。Ⅰb層、Ⅱ層およびⅢa層では高い密度であるが、Ⅴb層では低い密度である。キビ族型はⅠb層、Ⅲb-1層、Ⅲc層、Ⅳc層およびⅤb層で検出されているが、いずれも低い密度である。ヨシ属はⅠb層～Ⅲb-1層、Ⅲc層～Ⅳb層、Ⅳd層～Ⅵa層、Ⅵc層およびⅥd層で検出されている。Ⅴa層とⅤb層では高い密度であり、Ⅳb層でも比較的高い密度である。ススキ属型はⅠb層～Ⅴb層とⅥc層で検出されている。Ⅰb層、Ⅲc層、Ⅳe層およびⅤa層では比較的高い密度である。シバ属はⅠb層とⅡ層で検出されているが、いずれも低い密度である。メダケ節型はⅣd層を除く各層、ネザサ節型はⅠb層～Ⅳc層、Ⅳe層～Ⅴb層、Ⅵc層、Ⅵd層で、チマキザサ節型はすべての層で、ミヤコザサ節型はⅠb層～Ⅳb層、Ⅳd層～Ⅵa層およびⅥc層で検出されている。このうち、Ⅲa層でメダケ節型が、Ⅲb-1層、Ⅲb-2層、Ⅲc層、Ⅳe層、Ⅴa層、Ⅵa層およびⅥb層でチマキザサ節型が比較的高い密度である。なお、Ⅲb-1層～Ⅳc層、Ⅴa層から低密度であるが海綿骨針が検出されている。

2）Dセクション

イネはⅠb層、Ⅱ層、Ⅲa層、Ⅲb層およびⅤb層で検出されている。プラント・オパール密度は、Ⅱ層では非常に高い値であるが、その他はやや低いか低い値である。キビ族型はⅡ層とⅤb層で検出されているが、いずれも低い密度である。ヨシ属はⅠb層～Ⅲa層、Ⅲc層、Ⅳa層、Ⅳc層～Ⅴb層およびⅥb層で検出されている。Ⅲc層、Ⅴa層、Ⅴb層では高い密度であり、Ⅵb層でも比較的高い密度である。ススキ属型はすべての試料で検出されている。Ⅰb層、Ⅱ層およびⅣb層では比較的高い密度である。シバ属はⅠb層、Ⅱ層およびⅢa層で検出されているが、いずれも低い密度である。メダケ節型とチマキザサ節型はすべての試料で、ネザサ節型はⅠb層～Ⅲc層、Ⅳc層～Ⅳe層、Ⅴb層～Ⅵb層で、ミヤコザサ節型はⅠb層～Ⅲa層、Ⅲc層～Ⅳe層、Ⅴb層～Ⅵc層で検出されている。このうち、Ⅳb層とⅤb層でメダケ節型が、Ⅲc層、Ⅳd層、Ⅳe層、Ⅴa層でチマキザサ節型が比較的高い密度である。なお、Ⅲb層～Ⅳc層、Ⅴa層から低密度であるが海綿骨針が検出されている。

5. 考察

弥生時代（桝形囲式期）の水田耕作土とされたⅤb層では、Aセクション、Dセクションともにイネのプラント・オパールが検出されている。プラント・オパール密度はAセクションでは600個/g、Dセクションで1,800個/gであり、いずれも稲作跡の可能性を判断する際の基準値とされる3,000個/gには満たない。ただし、直上のⅤ

a層からはまったく検出されていないことから、上層から後代のプラント・オパールが混入した危険性は低い。畔畦が検出されていることを総合して判断すると、ここで稲作が行われていた可能性を否定することはできない。なお、プラント・オパール密度が低いことに関しては、①耕作期間（稲作が行われた年数）が非常に短かった、②土層の堆積速度が速かった、③土壌条件が悪く稲の生産性が低かった、④土壌の容脱作用等でプラント・オパールが風化をうけ、未成熟のものが分解された、⑤稲藁の多くが耕作地から持ち出されていた、などの要因が考えられる。

Ⅴb層以外では、両地点ともにⅠb層、Ⅱ層、Ⅲa層、Ⅲb層（Ⅲb-1層）よりイネのプラント・オパールが検出されている。このうち、Ⅰb層およびⅡ層については比較的最近の水田耕作に由来するものであろう。Ⅲa層ではAセクションで3,000個/gの高い密度であることから、当該層においても稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Ⅲb層（Ⅲb-1層）では、Aセクションで1,800個/g、Dセクションでは600個/gとやや低い密度である。いずれの地点も直上のⅢa層の方が高い密度であるため、上部からプラント・オパールが混入した危険性も否定できない。ただし、プラント・オパール密度は、地点は逆であるがⅤb層のそれと同様であることから、当該層においても稲作が行われていた可能性はあるかもしれない。

その他の層準からはイネのプラント・オパールが検出されないことから、稲作が行われた可能性は考えにくい。

イネ以外の分類群では、Ⅲc層、Ⅳa層、Ⅳb層、Ⅳc層、Ⅴa層とⅤb層でヨシ属が高い密度であることから、これらの層準の時期は、調査地周辺はヨシ属の生育する湿地の環境であったと推定される。また、ススキ属型がⅠb層、Ⅱ層、Ⅲc層、Ⅳb層、Ⅳe層およびⅤa層で、チマキザサ節型がⅢc層、Ⅳa層、Ⅳd層、Ⅳe層、Ⅴa層、Ⅵa層およびⅥb層で比較的高い密度である。こうしたことから、これらの層では調査地周辺の乾いたところにススキ属やチマキザサ節などが生育していたと推定される。

6. まとめ

郡山遺跡（環状線東）においてプラント・オパール分析を行い、稲作の可能性について検討した。その結果、弥生時代（桝形囲式期）の水田耕作土とされたⅤb層では、低い密度ではあるがイネのプラント・オパールが検出されたことから、ここで稲作が営まれていた可能性が認められた。また、Ⅲa層とⅢb層についても稲作跡である可能性が示唆された。

参考文献

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－．考古学と自然科学，20，p.81-92.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志（1998）稲作の起源を探る．岩波新書．

表 6　仙台市郡山遺跡のプラント・オパール分析結果（1）

検出密度 (単位：× 100 個 /g)

		Aセクション															
分類群 (和名・学名) ＼層　位		Ⅰb	Ⅱ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅲc	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅳd	Ⅳe	Ⅴa	Ⅴb	Ⅵa	Ⅵb	Ⅵc
イネ科	Gramineae (Grasses)															
イ　ネ	*Oryza sativa*	6	54	12	6								18			
キビ族型	*Paniceae type*		6										6			
ヨシ属	*Phragmites*	6	6	6		24	6		12	12	12	30	36		18	
ススキ属型	*Miscanthus type*	24	24	12	6	18	6	24	12	18	6	12	12	6	6	6
シバ属	*Zoysia*	12	12	6												
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)															
メダケ節型	*Pleioblastus sect. Nipponocalamus*	12	18	6	6	6	18	30	24	12	24	6	42	24	18	36
ネザサ節型	*Pleioblastus sect. Nezasa*	12	24	6	12	6			18	6	12		6	12	6	
チマキザサ節型	*Sasa sect. Sasa etc.*	30	12	24	6	54	42	6	30	54	60	54	12	30	42	18
ミヤコザサ節型	*Sasa sect. Crassinodi*	6	6	6		6	6	18	18	12	6		6	6	6	12
その他	Others	6	6	6	6	6		6	6	12	6					6
未分類等	Unknown	157	174	120	72	173	96	127	115	119	109	113	96	72	126	109
(海綿骨針)	Sponge				6	6	6	6	6			6				
プラント・オパール総数	Total	271	342	204	114	293	174	211	235	245	235	215	234	150	222	187

おもな分類群の推定生産量 (単位：kg /㎡・cm)

イ　ネ	*Oryza sativa*	0.18	1.59	0.35	0.18								0.48			
ヨシ属	*Phragmites*	0.38	0.38	0.38		1.51	0.38		0.76	0.75	0.76	1.70	2.06		0.99	
ススキ属型	*Miscanthus type*	0.30	0.30	0.15	0.07	0.22	0.07	0.30	0.15	0.22	0.07	0.13	0.13	0.07	0.06	0.08
メダケ節型	*Pleioblastus sect. Nipponocalamus*	0.14	0.21	0.07	0.07	0.07	0.21	0.35	0.28	0.14	0.28	0.06	0.44	0.25	0.18	0.43
ネザサ節型	*Pleioblastus sect. Nezasa*	0.06	0.12	0.03	0.06	0.03			0.09	0.03	0.06		0.03	0.05	0.02	
チマキザサ節型	*Sasa sect. Sasa etc.*	0.23	0.09	0.18	0.04	0.40	0.32	0.05	0.23	0.40	0.45	0.36	0.08	0.20	0.27	0.14
ミヤコザサ節型	*Sasa sect. Crassinodi*	0.02	0.02	0.02		0.02	0.02	0.05	0.05	0.04	0.02		0.02	0.02	0.02	0.04

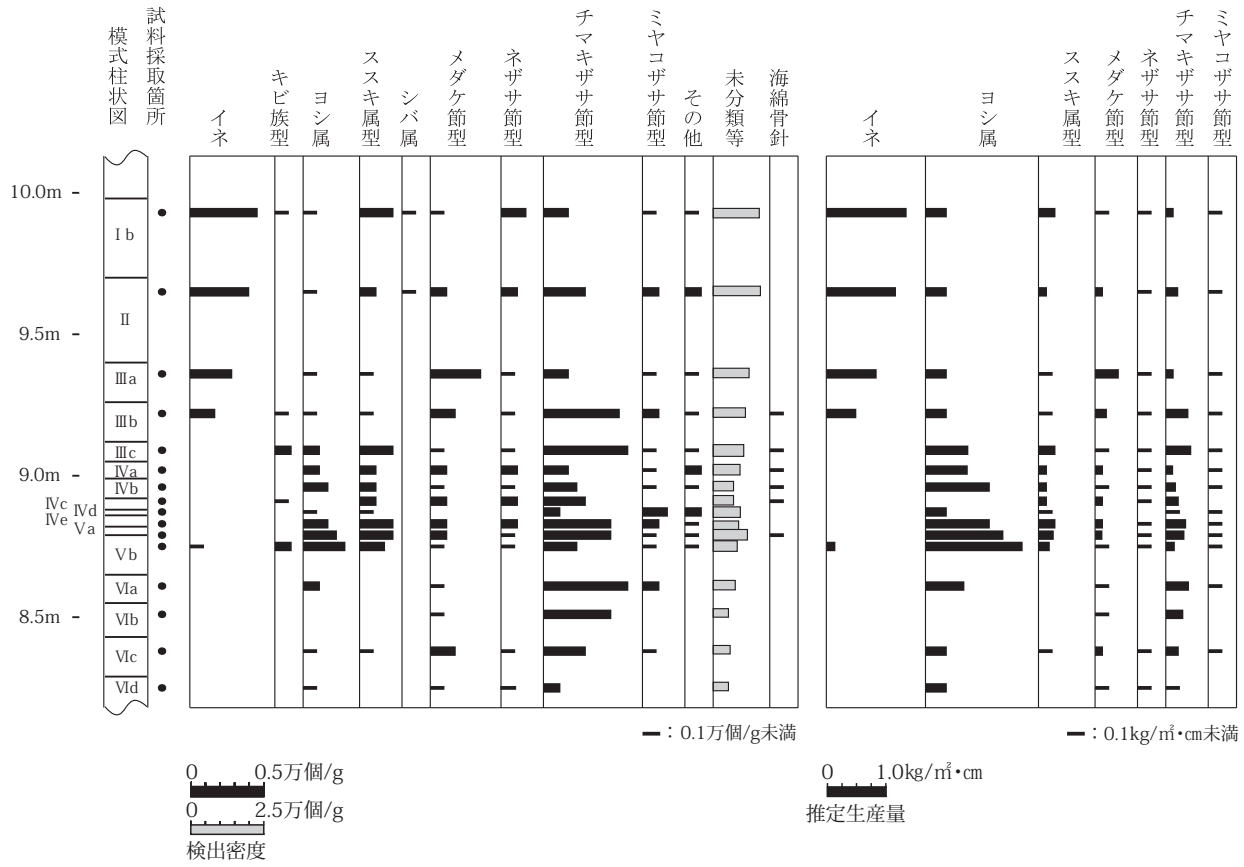
表 7　仙台市郡山遺跡のプラント・オパール分析結果（2）

検出密度 (単位：× 100 個 /g)

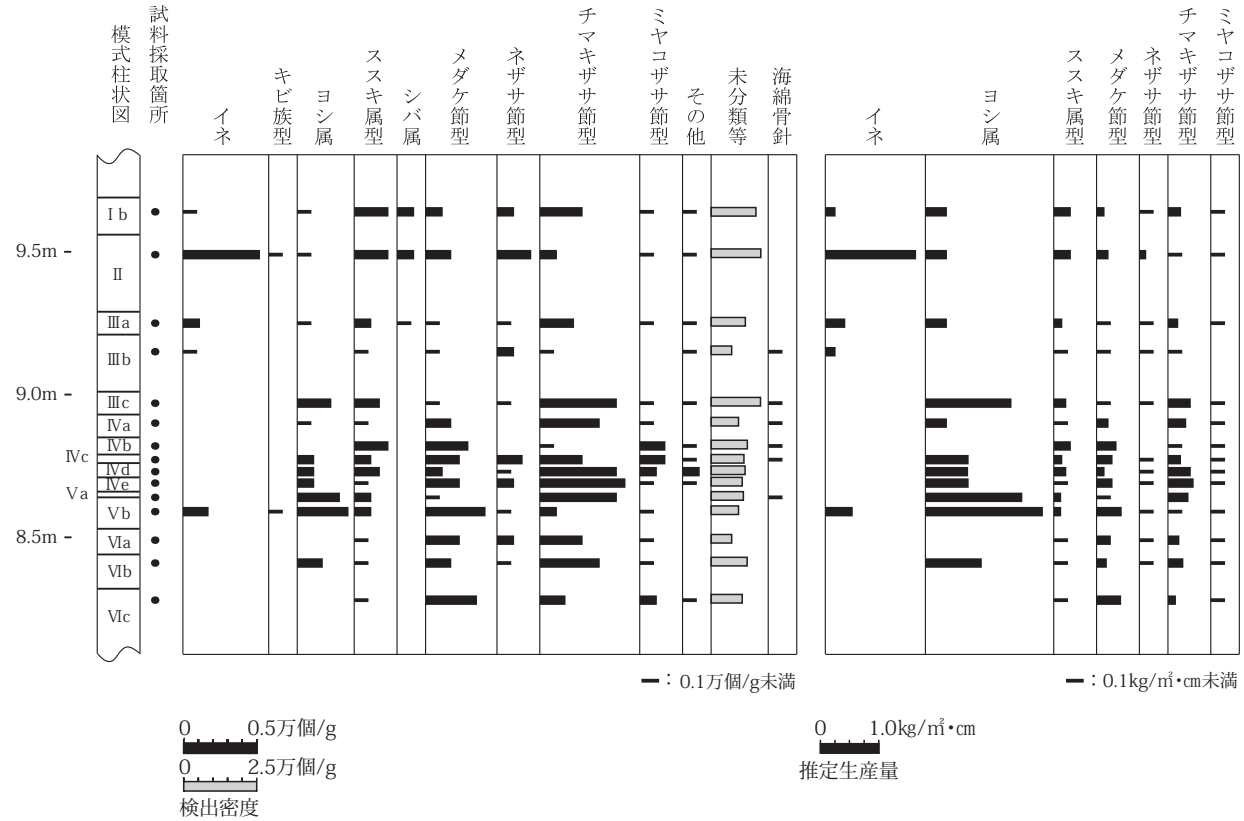
		Dセクション															
分類群 (和名・学名) ＼層　位		Ⅰb	Ⅱ	Ⅲa	Ⅲb-1	Ⅲb-2	Ⅲc	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅳd	Ⅳe	Ⅴa	Ⅴb	Ⅵa	Ⅵb	Ⅵc	Ⅵd
イネ科	Gramineae (Grasses)																	
イ　ネ	*Oryza sativa*	48	42	30	18									6				
キビ族型	*Paniceae type*	6			6		12			6				12				
ヨシ属	*Phragmites*	6	6	6	6		12	12	18		6	18	24	30	12		6	6
ススキ属型	*Miscanthus type*	24	12	6	6	12	24	12	12	12	6	24	24	18			6	
シバ属	*Zoysia*	6	6															
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																	
メダケ節型	*Pleioblastus sect. Nipponocalamus*	6	12	36	18	6	6	12	6	12		12	12	6	6	6	12	6
ネザサ節型	*Pleioblastus sect. Nezasa*	18	12	6	6	6	6	12	6	12		12	6	6			6	6
チマキザサ節型	*Sasa sect. Sasa etc.*	18	30	18	54	48	60	18	24	30	12	48	48	24	60	48	30	12
ミヤコザサ節型	*Sasa sect. Crassinodi*	6	12	6	12	6	6	6	6		18	12	6	6	12		6	
その他	Others	6	12	6	6	6	6	12	6		12	6	6	6				
未分類等	Unknown	163	167	127	114	95	108	95	72	72	96	90	121	85	78	54	60	54
(海綿骨針)	Sponge				6	6	6	6	6	6			6					
プラント・オパール総数	Total	307	311	241	246	179	240	179	150	144	150	222	247	199	168	108	126	84

おもな分類群の推定生産量 (単位：kg /㎡・cm)

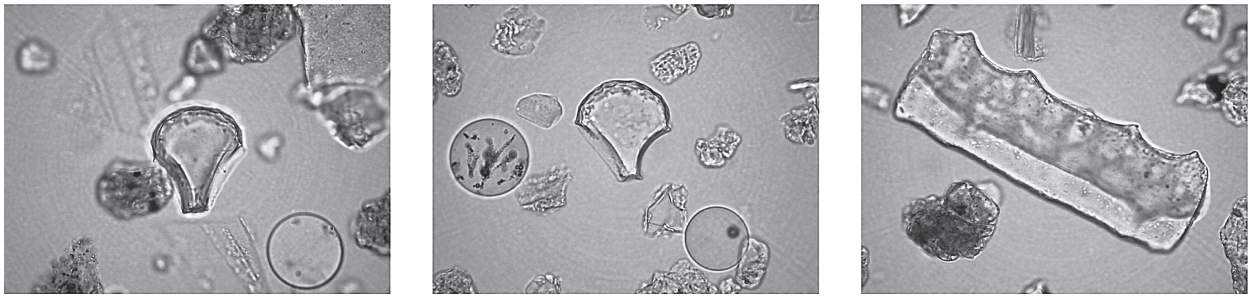
イ　ネ	*Oryza sativa*	1.42	1.23	0.89	0.53									0.16				
ヨシ属	*Phragmites*	0.38	0.38	0.38	0.38		0.76	0.75	1.14		0.38	1.14	1.38	1.72	0.69		0.38	0.38
ススキ属型	*Miscanthus type*	0.30	0.15	0.07	0.07	0.15	0.30	0.15	0.15	0.15	0.07	0.30	0.27	0.20			0.08	
メダケ節型	*Pleioblastus sect. Nipponocalamus*	0.07	0.14	0.42	0.21	0.07	0.07	0.14	0.07	0.14		0.14	0.13	0.06	0.06	0.06	0.14	0.07
ネザサ節型	*Pleioblastus sect. Nezasa*	0.09	0.06	0.03	0.03	0.03	0.03	0.06	0.03	0.06		0.06	0.03	0.03			0.03	0.03
チマキザサ節型	*Sasa sect. Sasa etc.*	0.14	0.22	0.14	0.40	0.36	0.45	0.13	0.18	0.23	0.09	0.36	0.33	0.16	0.41	0.31	0.23	0.09
ミヤコザサ節型	*Sasa sect. Crassinodi*	0.02	0.04	0.02	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02		0.05	0.04	0.02	0.02	0.03		0.02	



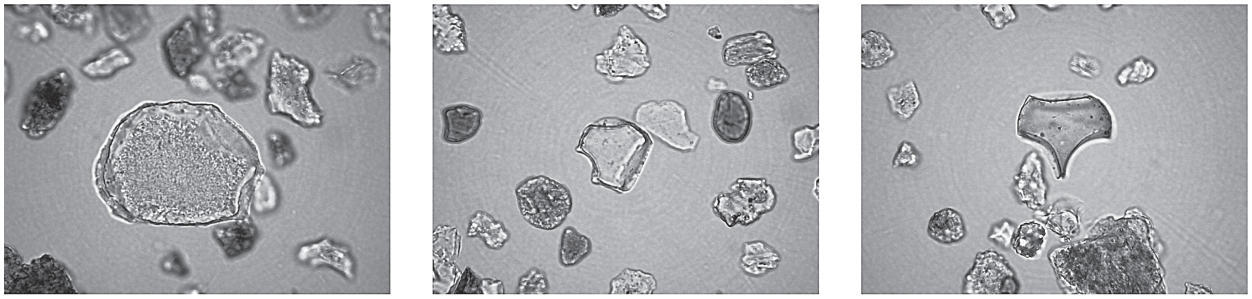
第 263 図　郡山遺跡 A セクションのプラント・オパール分析結果



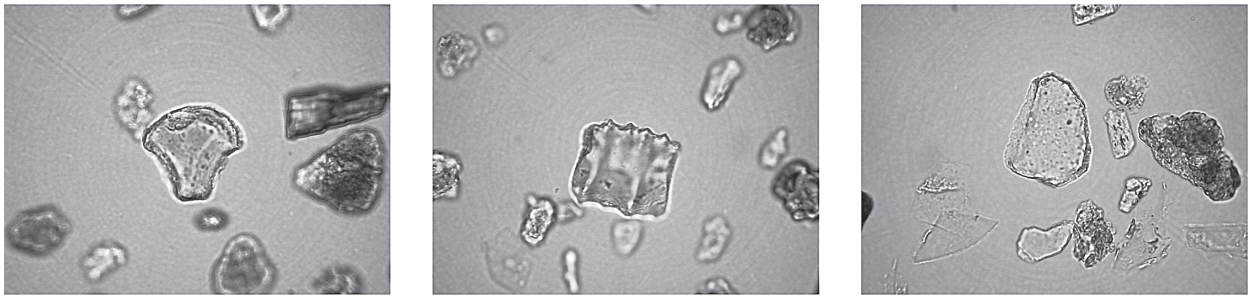
第 264 図　郡山遺跡 D セクションのプラント・オパール分析結果



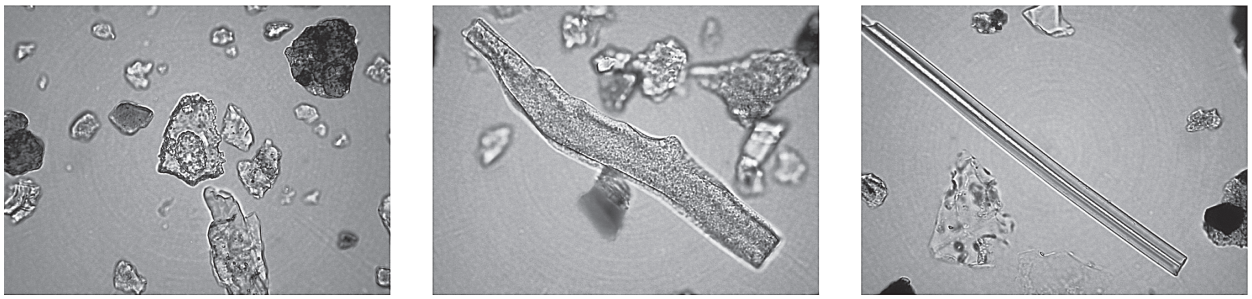
イネ　イネ　キビ族型



ヨシ属　ススキ属型　ジバ属



メダケ節型　ネザサ節型　チマキザサ節型



ミヤコザサ節型　樹木起源　海綿骨針

50 μm

第 265 図　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

第７章　総括

第１節　古墳時代～古代の出土遺物

（1）第 167 次・第 180 次調査出土遺物

本節では、今回の調査で出土した遺物のうち、最も出土量の多い古墳時代から古代にかけてのものについて記述する。第 167 次・第 180 次調査の出土遺物の変遷を見ていくために、主要遺構の重複関係と出土遺物の特徴から、古墳時代終末期から古代を１～５期に時期区分した。遺構の重複では、調査区を東西に横断する SD11 を３期に設定し、これより古い時期と推定されるものを１・２期、新しい時期と推定されるものを４・５期とした。

出土遺物の特徴としては、須恵器の坏・蓋と土師器の坏に注目した。須恵器は窯跡の調査なども行われてきており、出土量は少ないものの、遺構の年代を知るためには有効な遺物である（註 1）。土師器の坏は様々な器形が存在しているが、本稿では所謂「有段丸底坏」（註 2）と「鬼高系土師器（南小泉型関東系土師器）」に焦点を絞って検討していく。有段丸底坏は、時代が下るにつれて段が弱まり扁平化するという指摘（註 3）があることから、この変化を参考に時期区分していった。

以上の特徴を検討した結果、第 266 ～ 273 図に示したような遺構・遺物の変遷を辿ることができた。以下、各期の特徴を述べるが、第４章第４節で曖昧な時期しか示せなかった遺構についても、次節での検討を加味してその一部をここで取り上げる。その場合時期の確度が問題となるが、各図中にその旨を示してあるので容赦願いたい。

１期

SI2・4・5・17・35 などを１期の遺構と考えた。内面黒色処理された坏が主体であるが、今回の調査では、年代を推定できる遺物としては、SI17 から出土した須恵器蓋（04_E-045）が唯一のものである。想定される年代は、E-045 が７世紀初頭頃と考えられることから、郡山Ⅰ期官衙成立以前と考えられる。

２期

丸みを帯びた底部を有する有段丸底坏と、鬼高系土師器が主体的に出土する時期を２期とした。有段丸底坏は、時期が下るにつれて段が不明瞭になる傾向がうかがえるため、SI14・22・23・25・27 は２期の中でも新しい時期の遺構と考えられる。

時期が推定できる遺物としては、SI4・6 から出土している脚部にスカシを有する高坏や、SI27・28・32 から出土している須恵器の坏・蓋がある。菊池佳子氏の研究によると、SI32 出土の 06_E-010 の坏と SI28 出土の 06_E-004・006 の蓋は、KM234 の模倣品であることから７世紀中頃と推定されている。SI27 出土の 06_E-002 の蓋は、SI28 のものに比べて丸みを帯びており、若干後出のものと思われる。これらの須恵器の年代から、２期は７世紀中葉を中心とする年代が考えられ、郡山Ⅰ期官衙におおよそ併行する時期と考えられる。

３期

３期の遺構として、多くの竪穴住居跡を切っている SD11 と、これと主軸方向を同じくする SD15 を考えた。SI11 ～ 13 は、当初３期の遺構とも考えたが、８世紀代と思われる須恵器の坏（04_E-047）が SI12 から出土している事実を重視して、これらは４期とした。SI7・8・15 は、主軸方向から、３～４期と幅を持たせて考えた。

土師器の特徴としては、段が不明瞭な坏と扁平な坏が共伴し、鬼高系土師器も破片ではあるが出土している。年代は、SD13 との新旧関係から７世紀後葉、Ⅰ期官衙からⅡ期官衙への過渡期的な時期と考えられる。

４期

郡山Ⅱ期官衙外溝である SD13 から、SD13 を切る SD17 までの時期を４期と考えた。４期の遺構としては、前述の SI11 ～ 13 や SD13・17 の他に、Ⅲａ層中に形成された SX1 などを考えた。出土遺物の特徴としては、土師

器では扁平な有段丸底坏が主体となり、須恵器では平底の坏やカエリのない蓋が出土している。このような出土遺物の特徴から、4 期はⅡ期官衙期から 8 世紀前半までと考えられる。

このような 4 期の遺構の中で、異色な存在なのが SX1 である。SX1 は、厚手の坏とミニチュア土器を主体とする、土師器集積遺構である。Ⅲ a 層が堆積する頃に形成されたとみられることから、SD11 よりは新しい時期の遺構と判明している。年代が推定できる須恵器などは共伴していないが、周辺の遺構外出土遺物に 8 世紀前半頃の須恵器坏（04_E-019）がみられるため、SX1 もその頃に形成された可能性が高い。

5 期

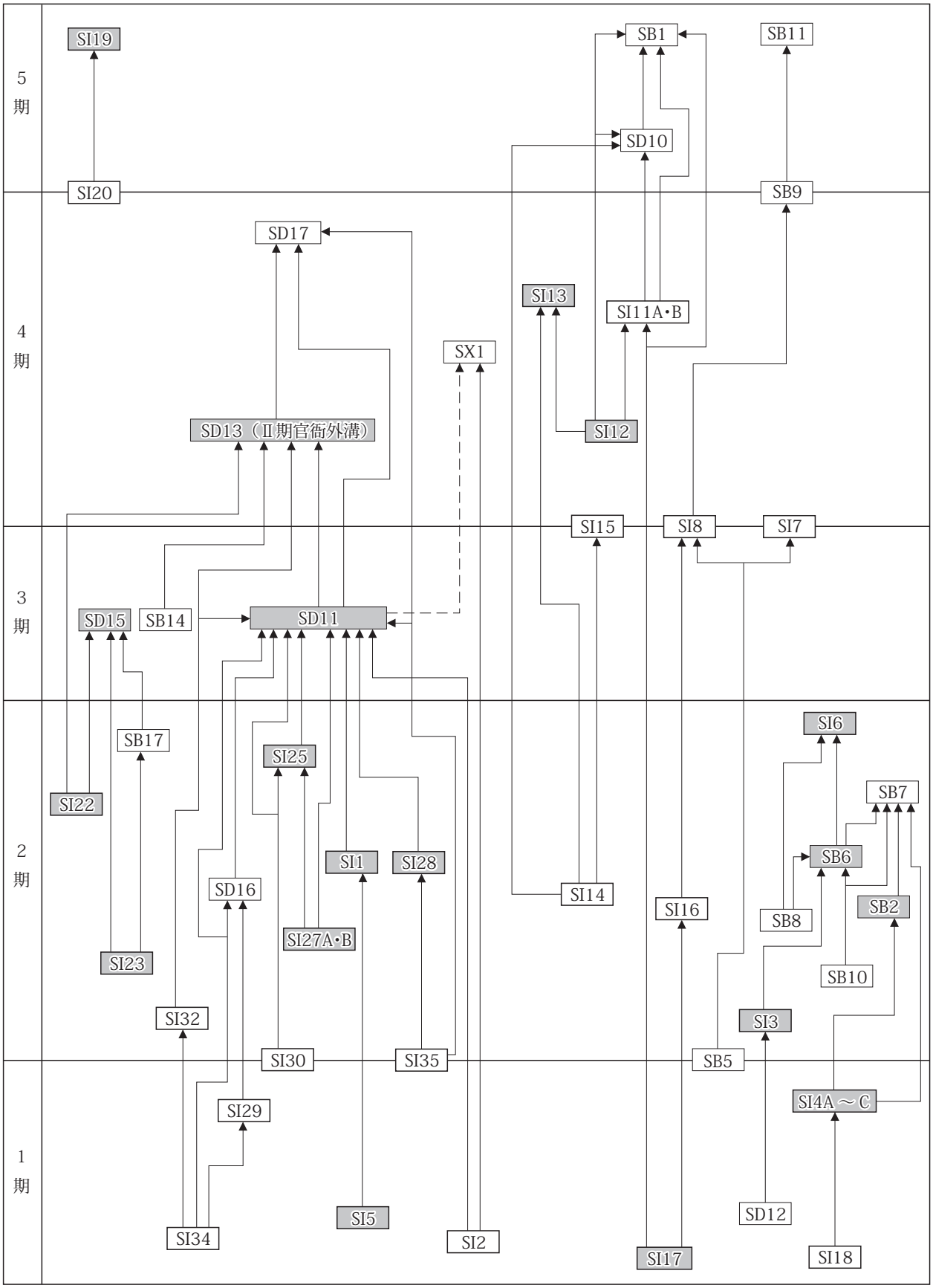
床面のみの残存ではあったが、SI19 を 5 期の遺構と考えた。年代は、ロクロ調整された土師器坏（05_C-001）が出土していることから、8 世紀後半以降と考えられる。SI19 以外では、新旧関係から、数棟の掘立柱建物跡と SD10 を 5 期の遺構と推定した。

以上、7 ～ 8 世紀代を 5 時期に区分した。1 期は、出土遺物が少ないため、上限がどこまで遡りうるかは不明である。2 期は、土師器坏の特徴から前・後半に区分できる可能性もあるが、共伴する須恵器には差が見られなかったため 1 時期とした。3 期は、SD11 があるために設定できた区分であり、隣接する西台畑遺跡の時期区分ではⅡ期官衙期に組み込まれている可能性が高い。4 期は、8 世紀中葉の遺構が確認されなかったため、8 世紀前半までという幅の広い時期設定となった。5 期は 8 世紀後半としたが、SI19 は 9 世紀代まで下る可能性もある。

（2）第 167 次・第 180 次調査出土の鬼高系土師器について

本調査年次では、10 基の遺構（竪穴住居跡 7 軒、区画溝 2 条、性格不明遺構 1 基）から鬼高系土師器が出土した。鬼高系土師器には、須恵器坏身を模倣したといわれる口縁部が内傾・直立するもの（以下、本稿では a 類と仮称）と、須恵器坏蓋を模倣したといわれる扁平な椀状を呈するもの（以下 b 類）がある[註 4]。a 類は器形の個体差が大きく、薄手でシャープな作りのもの（SI27・遺構外出土など）と厚手のものがあり、後者の方が圧倒的に多い。厚手のものでは、口縁部が直立気味のもの（SI1）、器高が低いもの（SI4・23 など）、器高が高いもの（SD11、SX1 など）などに分かれる。薄手なものが先行する器形で、厚手なものが後出のものと思われるが、出土状況ではそのような傾向を掴むことはできなかった。b 類は a 類ほど個体差がなく、口縁部の長さに若干の差があることと、暗文状ヘラミガキの有無といった違いがある程度である。暗文状ヘラミガキが施された坏は、SI27 出土の 06_C-016 と SX1 出土の 04_C-327 の 2 点があるが、両遺構には半世紀ほどの時期差が想定されており、時期的な特徴ではないようである。

鬼高系土師器が出土する時期は、村田氏によって 6 世紀末から 7 世紀中葉という時期が指摘されているが[註 5]、これは本書の時期区分に当てはめると、おおよそ 1 ～ 2 期となる。本調査年次では、1 期の遺構である SI4 から 1 点出土している他は、全て 2 期以降の遺構からの出土である。主体となる時期は 2 期（7 世紀中葉前後）ではあるが、3・4 期（7 世紀後葉～ 8 世紀前半）の遺構からも少量ながら出土している。特に 4 期の SX1 から個体資料が 6 点出土している。



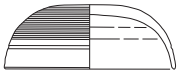
※太枠は竪穴住居跡、白抜きは時期推定の確度が低い遺構を示す

第 266 図　主要遺構重複関係模式図

1 期

SI17

04_C-289


04_E-045（床面直上）

SI2※

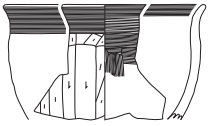
04_C-058（掘り方）

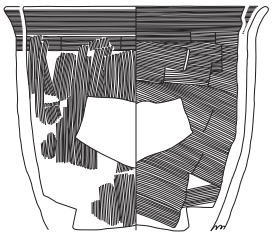
04_C-056（P6）

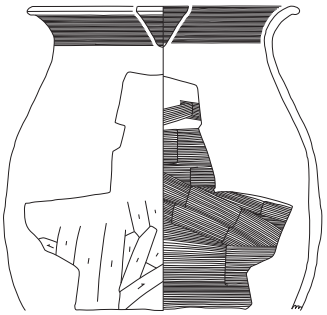
04_C-053

04_C-049

04_C-052


04_C-057


04_C-051


04_C-054

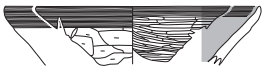
SI5

04_C-148（検出面）

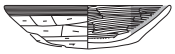
04_C-149

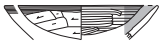
SI35※

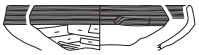
06_C-076（上層）


06_C-078（上層）

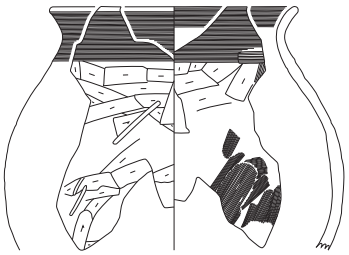
SI4


04_C-123（下層）

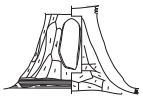

04_C-117


04_C-118

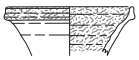
04_C-091

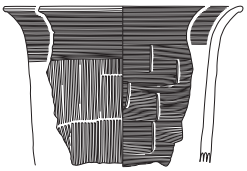

04_C-095（上層）

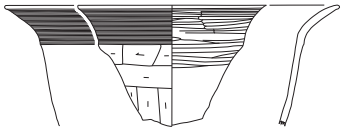
04_C-124（下層）


04_C-133（上層）

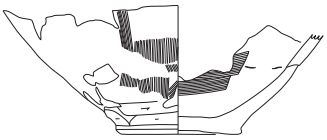
04_C-136（下層）

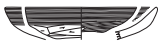

04_E-028（2a層）


04_C-104（カマド付近）


04_C-114（4層）

04_C-107（床面直上）


04_C-089（掘り方）

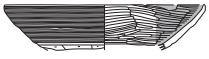

04_C-129（掘り方）

04_C-128（掘り方）

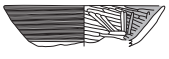
04_C-143（掘り方）

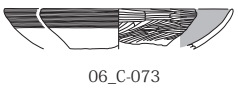
2 期

SI32※

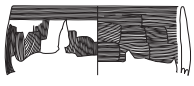

06_C-066

06_C-068


06_C-071


06_C-073

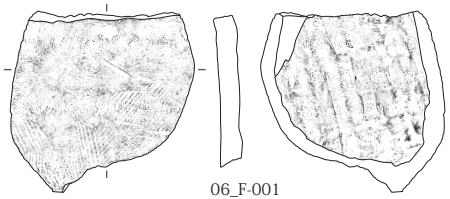
06_C-069


06_C-072

06_C-074

06_E-010

06_E-009

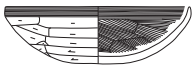

06_F-001

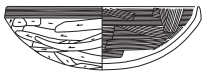
※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

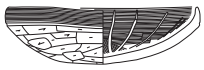
第 267 図　第 167 次・第 180 次調査出土遺物集成（1）

2 期

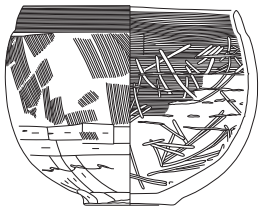
SI3

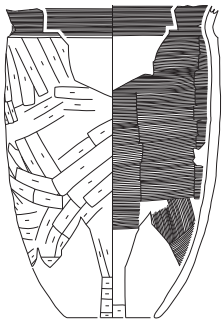

04_C-073（床面直上）

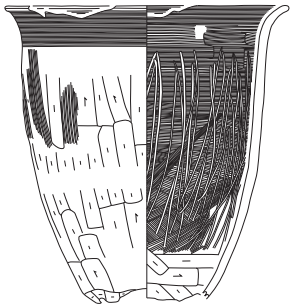

04_C-074（床面直上）


04_C-075（床面直上）

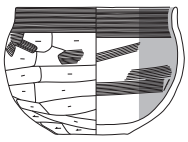
04_C-077（床面直上）


04_C-067（床面直上）


04_C-065（カマド）

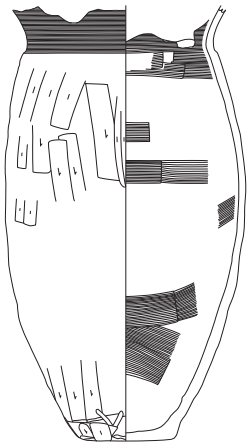

04_C-066（床面直上）

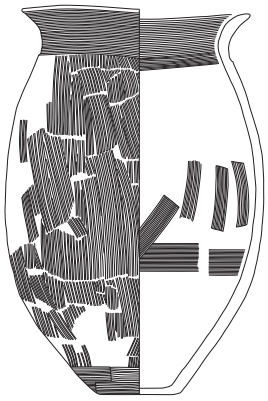
04_C-072


04_C-078

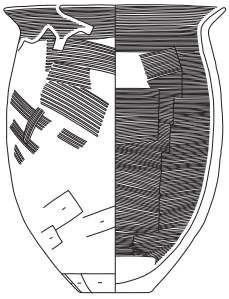
04_C-064

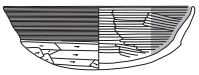
04_C-060（床面直上）


04_C-062（カマド）


04_C-061（床面直上）

04_C-068（床面直上）


04_C-063（カマド）

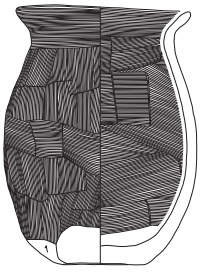

04_C-069（上層）

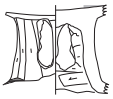
04_C-070（上層）

04_E-016

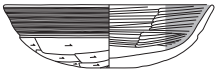
04_E-017（1a層）

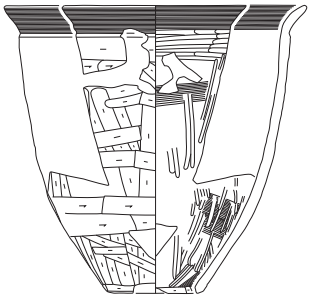
SI6


04_C-146（床面直上）


04_C-158（床面直上）

04_C-156（2c層）


04_C-162（床面直上）


04_C-079（上層）

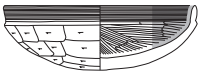
※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

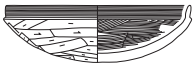
第 268 図　第 167 次・第 180 次調査出土遺物集成（2）

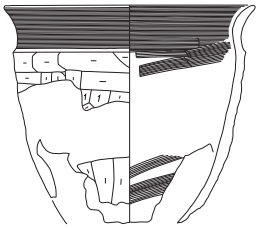
2 期

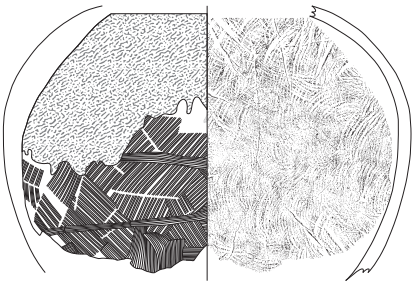
SI1

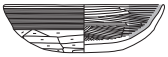
04_C-042（床面直上）

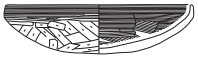

04_C-043（床面直上）


04_C-041（床面直上）


04_C-005（床面直上）


04_E-013（床面直上）

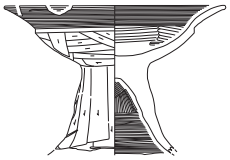

04_C-036

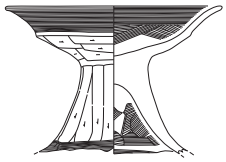

04_C-037

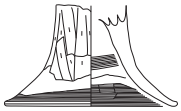
04_C-024

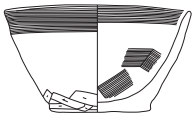
04_C-029

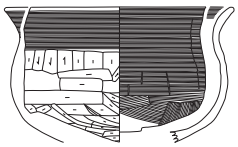
04_C-030

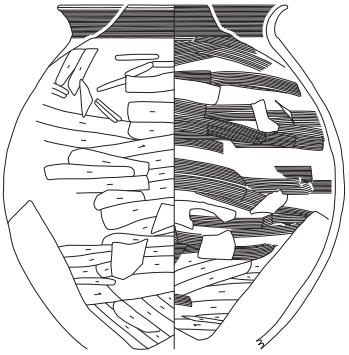

04_C-007

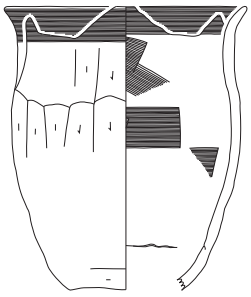

04_C-008

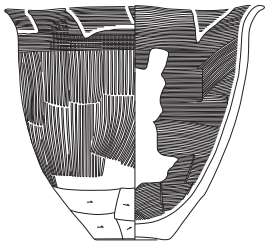

04_C-011

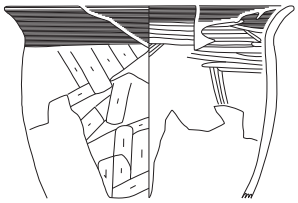

04_C-002

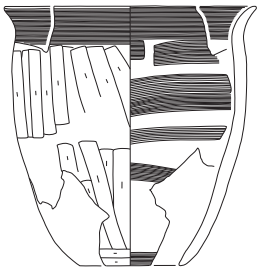

04_C-015

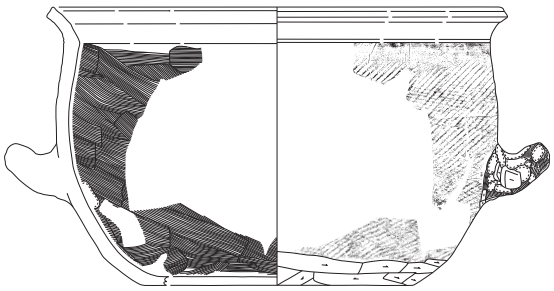

04_C-045

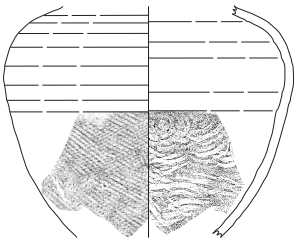

04_C-044

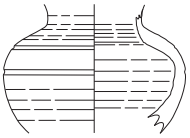

04_C-046

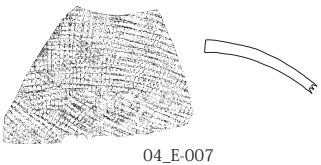

04_C-018

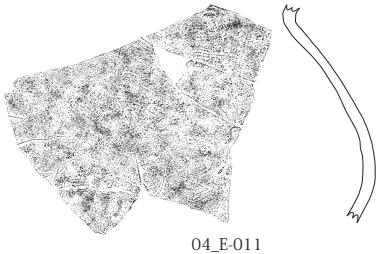

04_C-003


04_E-001


04_E-010

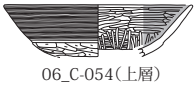

04_E-002


04_E-007

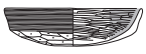

04_E-011

SI28

06_C-060（床面直上）


06_C-054（上層）

06_C-057


06_C-058

06_C-063

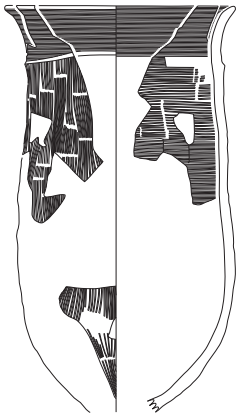
06_C-059

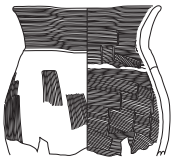
※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

第 269 図　第 167 次・第 180 次調査出土遺物集成（3）

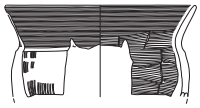
2 期

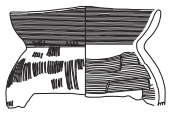
SI28

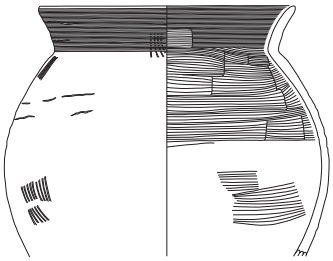

06_C-040（床面直上）

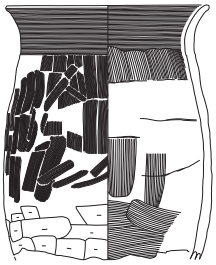

06_C-048（床面直上）

06_C-047（床面直上）

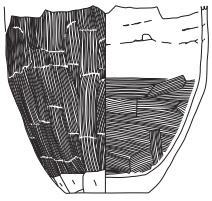

06_C-049（床面直上）

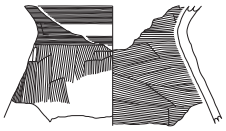

06_C-050（床面直上）


06_C-034（床面直上）


06_C-039（床面直上）

06_C-035（火床面上）

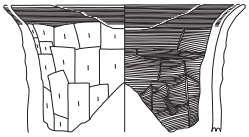

06_C-037（火床面上）

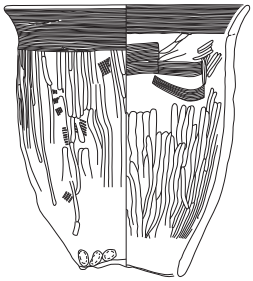

06_C-052（火床面上）

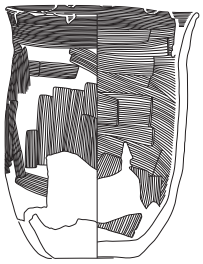
06_E-004（床面直上）

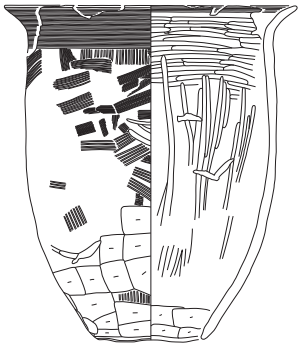
06_E-006（床面直上）

06_E-005（床面直上）


06_C-043（上層）


06_C-036（北袖壁内）

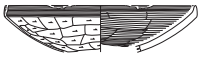

06_C-041（北袖壁内）

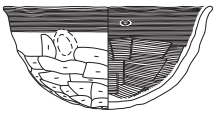

06_C-038（掘り方）

SI27

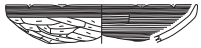
06_C-015（床面直上）

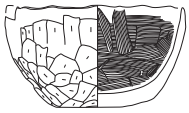
06_C-016（床面直上）

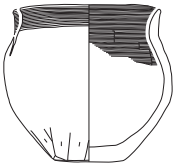

06_C-019（床面直上）

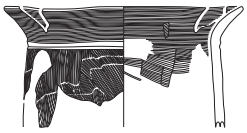

06_C-018（床面直上）

06_C-014

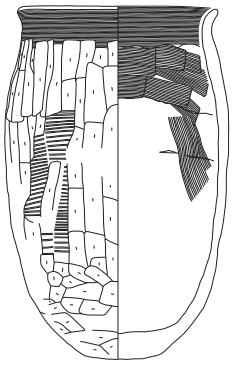

06_C-013

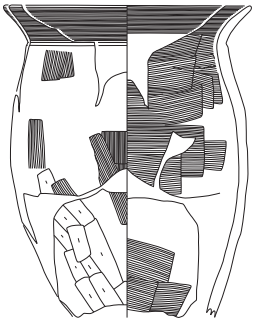

06_C-017


06_C-024


06_C-031

06_E-002


06_C-033（西袖壁内）

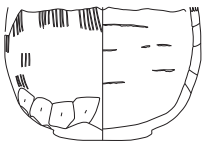

06_C-023

06_C-022（掘り方）

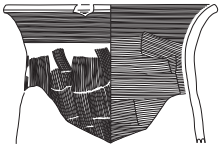
06_C-021（掘り方）

SI25

06_C-001（下層）


06_C-005

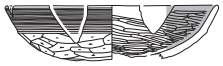
06_C-008（掘り方）


06_C-007（掘り方）

※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

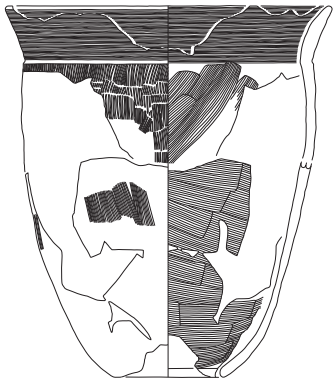
第 270 図　第 167 次・第 180 次調査出土遺物集成（4）

2 期
SI22


05_C-017（P3）

05_C-018（P3）

SI23

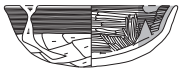

05_C-019（下層）

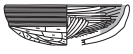
05_C-020（掘り方）

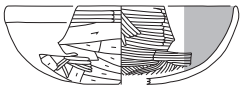
05_C-021（掘り方）

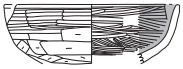
05_E-005（掘り方）

SI14※


04_C-246

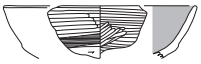

04_C-249


04_C-252（4層）

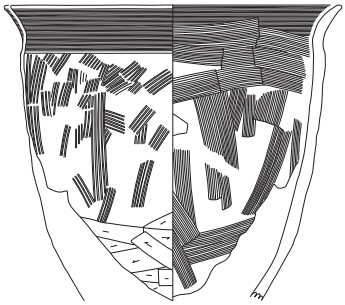

04_C-250

04_C-254（3層）

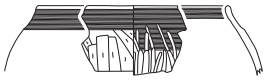
04_C-255（3層）

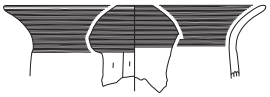

04_C-256（3層）

04_C-259


04_C-281（掘り方）

04_C-261


04_C-272


04_C-278（4層）

04_C-265

04_C-266

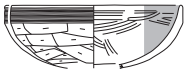
04_C-269

04_C-268

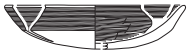
3 期
SD11

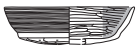
04_C-571

04_C-575


04_C-578

04_C-580


06_C-107


06_C-108

06_C-109

06_C-111（下層）

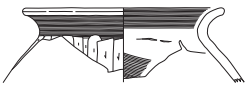
06_C-113

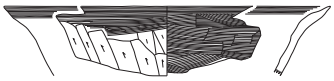
06_C-104

04_C-581

06_C-106

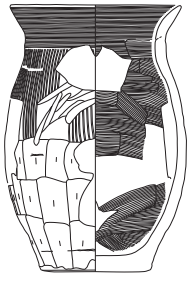
06_C-089

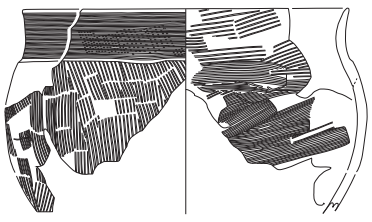

04_C-595（下層）

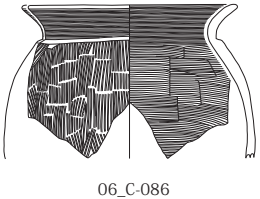

04_C-592

04_C-593

06_C-081


06_C-083


06_C-088


06_C-086

※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

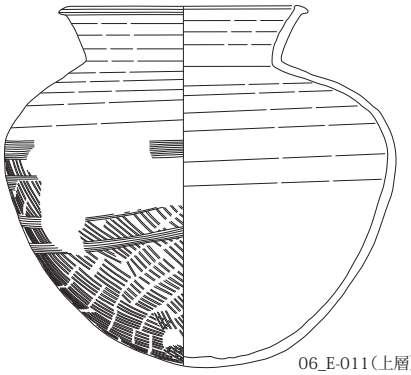
第 271 図　第 167 次・第 180 次調査出土遺物集成（5）

3 期
SD11

04_E-095

06_E-017

04_E-093


06_E-011（上層）

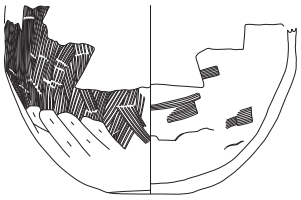
06_E-015（上層）

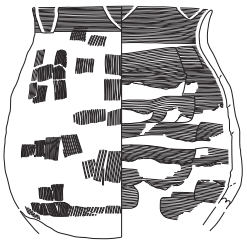
04_E-089

3 ～ 4 期
SI21

05_C-012

05_C-012（床面直上）


05_C-013（P2）


05_C-023（床面直上）

4 期
SD13

05_C-061（下層）

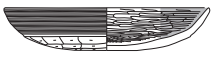
05_C-060（下層）

06_C-115（下層）

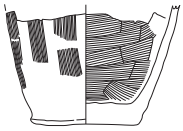
05_E-019（下層）

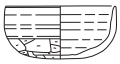
06_E-020（底面）

05_C-041（中層）


05_C-049（中層）

05_C-043（中層）


05_C-042（中層）

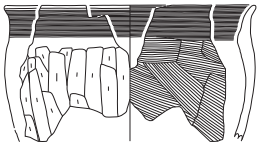

05_E-018（中層）

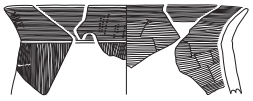
05_C-030（上層）

05_C-033（上層）

05_C-039（上層）

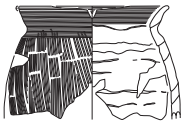
05_C-056

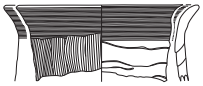

05_C-032（上層）


05_C-038（上層）

05_C-034（上層）

05_C-040（上層）

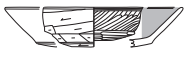

05_C-036（上層）

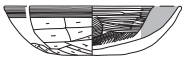

05_C-035（上層）

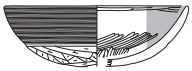
05_E-010（上層）

05_E-014（上層）

SI12

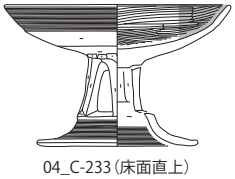

04_C-235（P3）

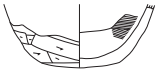

04_C-237（P5）

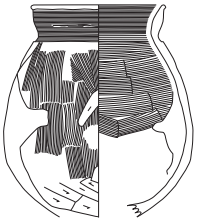

04_C-238（P5）

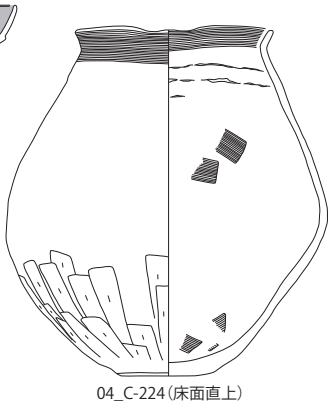
04_C-236（P4）

04_E-047

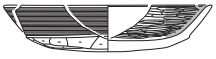

04_C-233（床面直上）

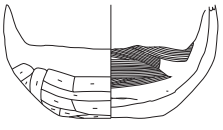

04_C-223（P3）


04_C-222（床面直上）


04_C-224（床面直上）

SI24


05_C-069（掘り方）

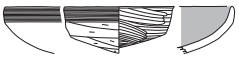

04_C-234（床面直上）

※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

第 272 図　第 167 次・第 180 次調査出土遺物集成（6）

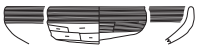
4 期
SI13

04_C-241（床面直上）

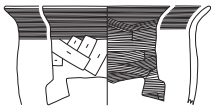

04_C-243

04_C-245（掘り方）

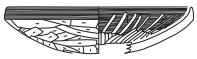
SI11B※

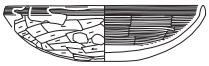

04_C-215（掘り方）

SI11A※


04_C-210

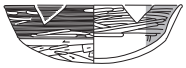
SX1


04_C-327


04_C-330

04_C-331

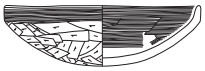
04_C-333

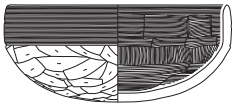

04_C-340

04_C-342

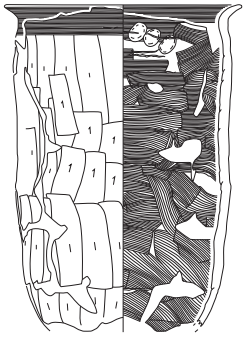
04_C-348

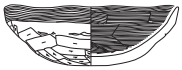
04_C-350


04_C-351

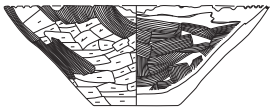

04_C-352

04_C-353

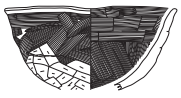

04_C-364


04_C-354

04_C-341


04_C-366

04_C-355


04_C-324

04_C-363

04_C-359

04_C-376

04_C-369

04_C-374

04_C-375

04_C-367

04_C-371

04_C-372

04_C-377

04_C-378

5 グリッド周辺　遺構外出土遺物（Ⅲa層主体）

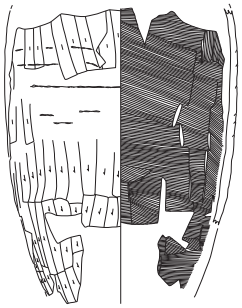
04_C-663

04_C-668

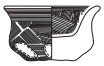
04_C-646

04_C-672

04_C-667


04_C-877

04_C-840

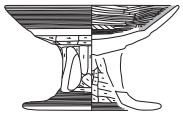

04_C-835

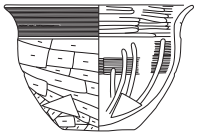
04_C-830

04_C-666

04_C-873

04_C-664

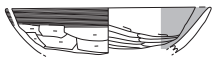

04_C-718

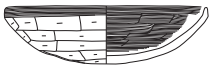

04_C-892

04_E-240

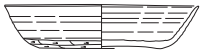
04_E-019

SD17※

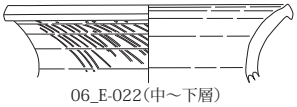

06_C-119（中～下層）


06_C-117（中～下層）
※Pit479と接合

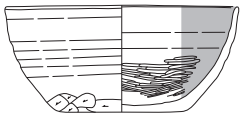
06_E-024（中～下層）


06_E-025（中～下層）

06_E-023（中～下層）

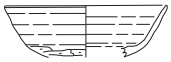

06_E-022（中～下層）

5 期
SI19


05_C-001（床面直上）

05_C-004（床面直上）

05_C-006（床面直上）


05_E-001（掘り方）

05_E-002（掘り方）

05_C-007（P1 2a層下）

※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

第 273 図　第 167 次・第 180 次調査出土遺物集成（7）

（3）第 196 次調査出土遺物

第 196 次調査では、検出された遺構・遺物が少ない上に重複も少ないため、遺構の時期を推定することが困難である。まず遺構の新旧関係を見ると、もっとも出土遺物の多い SD13 は SD11 よりも古く、SD14 よりも新しい。SI2 は SD11 よりも古く、SI4 は SD15・19 よりも古い。出土遺物の特徴としては、須恵器は平底の坏と口径が大きくカエリのつかない蓋が中心となっている。土師器の特徴としては、第 167・180 次調査では 2・3 期に一定量出土していた鬼高系土師器が 1 点も見られず、その代わり北武蔵型土師器（清水型関東系土師器）が少量出土していること、第 167・180 次調査では様々な器形のミニチュア土器が数多く出土していたが、第 196 次調査では 1 点も出土していないことなどが挙げられる。

これらの新旧関係と出土遺物の特徴を踏まえて、各遺構を第 167・180 次調査の時期区分に当てはめたものが第 274・275 図である。遺物が出土した遺構の中で、1 期に該当すると思われる遺構は確認できず、2 期に遡る可能性がある遺構も SI2・8 のみであった。それ以外の遺構は概ね 3 期以降と考えられ、その中でも SD11・13・19 は、8 世紀代の遺構と考えられる。遺構の重複や出土遺物が少ないこともあり、遺構の時期を断定することはできていないが、おおよそ郡山Ⅱ期官衙期の遺構が主体を占めていると考えられる。

註 1：須恵器の年代観については、以下の文献を参考にした。

辻　秀人　1984「宮城の横穴と須恵器」『宮城の研究 1　考古学篇』 清文堂

木本元治　1990「南東北地方における歴史時代の須恵器編年Ⅰ」『考古学古代史論攷』 伊東信雄先生追悼論文集刊行会編

菊池佳子　1994「多賀城以前の陸奥国と須恵器」『歴史』第 82 輯　東北史学会

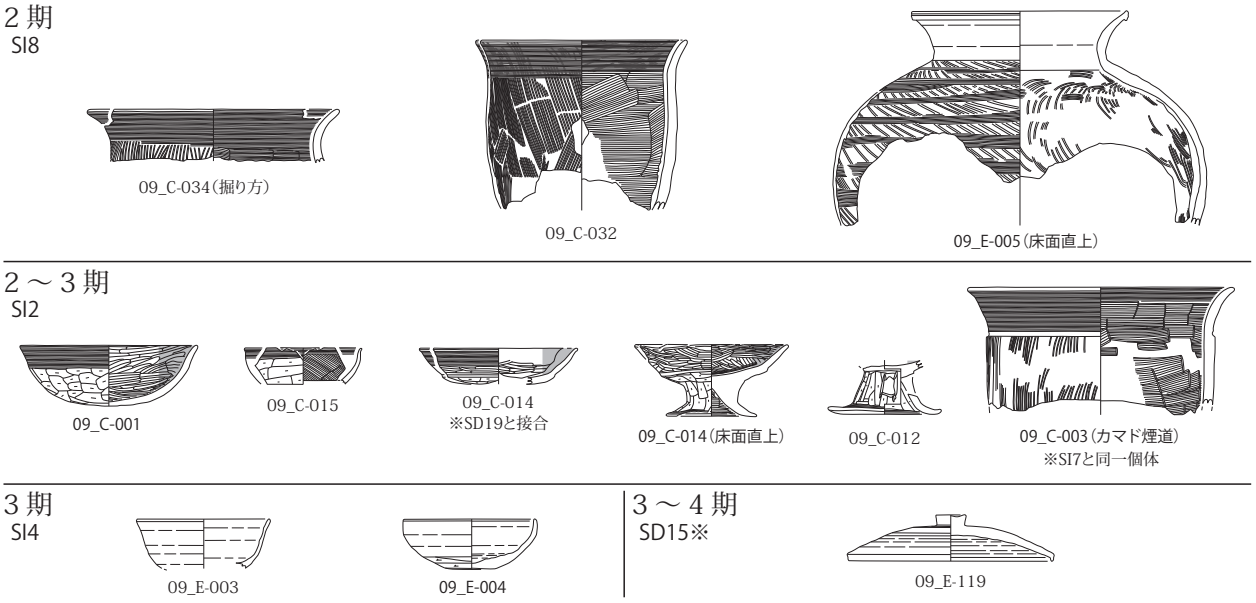
櫻井友梓　2011「古墳時代終末期から多賀城創建前後の須恵器生産の展開」『宮城考古学』第 13 号　宮城県考古学会

註 2：ここでいう「有段丸底坏」は、栗囲式の後に続く形状の坏のことあるが、栗囲式の範疇に含める研究者もいる。

註 3：村田晃一　2007「Ⅴ . 宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北大学文学部

註 4：村田晃一　2002「7 世紀集落研究の視点（1）」『宮城考古学』第 4 号　宮城県考古学会

註 5：同上

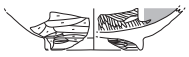


※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

第 274 図　第 196 次調査出土遺物集成（1）

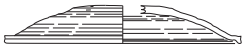
3 ～ 4 期

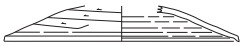
SD14※


09_C-080

09_E-114

09_E-102

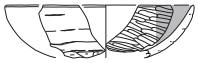

09_E-113

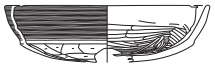

09_E-109

09_E-110

09_E-103

SD27※


09_C-084

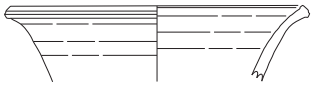

09_C-087

09_E-127

09_E-133

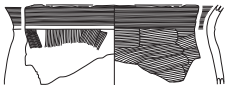
09_E-131

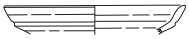
09_E-123


09_E-125
※SD10と同一個体

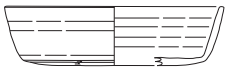
SI9

09_C-035（周溝）


09_C-035


09_E-006（掘り方）

SB3-P3※


09_E-138-1

09_E-138-2

4 ～ 5 期

SD13※

09_C-072

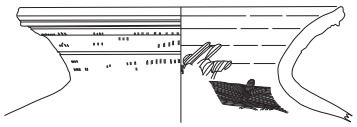
09_C-079

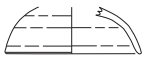
09_E-074（上層）

09_E-089（上層）

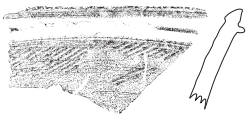
09_E-095（上層）
※SE3と接合

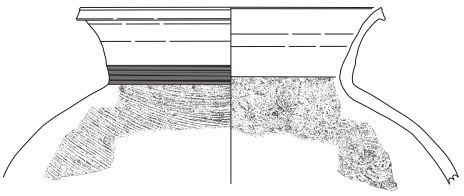
09_E-090（上層）

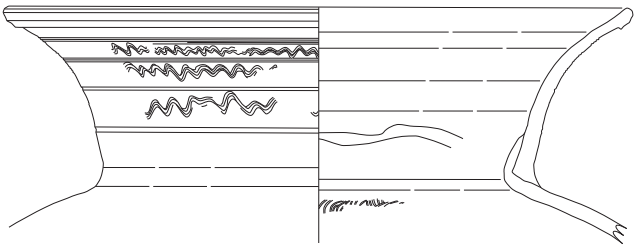

09_E-083


09_E-088

09_E-071

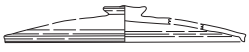

09_E-092（上層）

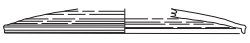

09_E-097（上層）


09_E-084（上層）

SD11※

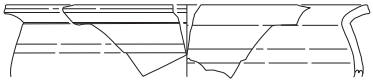
09_C-071


09_E-069（下層）


09_E-067

5 期

SD19※


09_C-024

※は時期推定の確度が低い遺構を示し、竪穴住居跡の遺物番号のうちゴシック体は、直接伴うと思われる遺物を示す（「堆積土」の文字は全て省略）

第 275 図　第 196 次調査出土遺物集成（2）

第２節　第 167 次・第 180 次調査における古墳時代～古代の検出遺構

前節では、遺構同士の重複関係や出土遺物の特徴を検討し、当該期の出土遺物は 7 世紀初頭～ 8 世紀後半の時期幅に収まるとの結論を得た。本節ではそれをふまえて、第 167 次・第 180 次調査地点における、古墳時代から古代にかけての集落の変遷を述べていく。なお第 196 次調査の当該期遺構に関しては、位置関係からみて長町駅東遺跡の集落に含むべき遺構であることから、章末に概略を述べるに留めた。

(1) 竪穴住居跡（第 276 ～ 281 図）

まずは、竪穴住居跡の属性を一覧表にまとめた。第 4 章第 4 節の冒頭でも述べたが、調査範囲の制約や後世の破壊などから、規模をはじめ不明瞭な点が多い竪穴住居跡が目立つ。表中には事実記載に即した客観的な調査成果のみ記したが、第 279 ～ 281 図に示した平面図では、一部大胆な復元を試みた竪穴住居跡がある。その復元作業は、カマドが辺の中心に位置し、主柱穴が対角線上に 4 基存在し、平面形状があくまで正方形であると仮定して行った。したがって細部では異なる部分も存在すると思われるが、おおよその規格は抽出できたと考える。また竪穴住居跡の主軸方向は、カマド基準ではなく真北に対する傾きが最も小さい辺を基準とし、「→」で示した。

前節でも示したように、今回は当該期を 1 ～ 5 期に時期区分した。各竪穴住居跡の比定にあたっては、共伴遺物や重複関係を重視したが、指標となる出土遺物や重複関係が認められない竪穴住居跡については、主軸方位や位置関係、あるいは規模や細部構造などの規格性から推定したため、曖昧な時期しか示せていない。この点は、後述する掘立柱建物跡や区画施設についても同様である。建て替えの認められる竪穴住居跡については、集成図では個別に記載しているが、本文中では一括して 1 軒に数えた。

郡山遺跡第 167 次・第 180 次調査　竪穴住居跡の属性一覧 (1)

遺構番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形状・規模			主軸方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期区分	備考
		平面形状	長軸×短軸 (cm)	床面標高 (m)	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	袖構築材 ※( )は芯材	長さ (cm)	底面	煙出し			
SI1	2・4	隅丸方形	386×(320)	10.36	N-19°-W	カマド	北壁	カマド1 カマド2 共に内	カマド1：盛土 カマド2：消失	カマド1 128 カマド2 134	カマド1 平坦 カマド2 やや下る	―	ピット1基	2期	カマド1の袖先端部に芯材痕状のピット
SI2	3・5	方形or長方形	(364)×(258)	10.32	N-42°-W	カマド	北壁	内	消失	136	やや下る	ピット状	ピット1基・土坑4基 (全て掘り方で検出・ピットはカマド関連か)	3期以前	
SI3	7・10	方形	341×334	10.49	N-63°-E	カマド	東壁	内	盛土 (凝灰岩切石)	105	やや下る	―	ピット2基	2期	
SI4A	6・9	隅丸方形	584×578	10.42	N-34°-W	カマド	北壁	内 (カマド1)	盛土	138	平坦	ピット状	ピット4基・土坑3基 (ピット4基・土坑1基はカマド関連か)	1期	SI4B・Cと建て替えの関係
SI4B	6・9	隅丸方形?	578×540?	―	N-37°-W	カマド	北壁	内 (カマド2)	消失	143	平坦	ピット状	ピット3基 (カマド芯材痕か)	1期	柱穴・カマド煙道部・掘り方を検出
SI4C	6・9	―	―	―	N-39°-W	主柱穴	―	―	―	―	―	―	―	1期	柱穴を検出
SI5	4	方形or長方形	(202)×191	10.70	N-15°-W	西壁	―	―	―	―	―	―	土坑3基	1期	
SI6	9・10 12・13	方形	375×328	10.51	N-85°-E	カマド	東壁	内	消失	160	平坦	ピット状	―	2期	
SI7	15	隅丸長方形	(312)×293	10.52	N-2°-E	カマド	北壁	内	盛土	消失	―	―	ピット1基・土坑1基	不明	
SI8	15・18	方形or長方形	(485)×(400)	10.62	N-4°-W	東壁	―	―	―	―	―	―	土坑2基 (1基は主柱穴か)	不明	
SI9	20・23	方形?	572×(545)	10.61	N-24°-W	カマド	北壁	内	消失	消失	―	―	土坑1基	2期	
SI10	23	隅丸方形?	(463)×(143)	10.50	N-22°-W	カマド	北壁	外	―	[37]	―	ピット状	―	2期	
SI11A	19・20 22・23	隅丸方形	567×560	10.58	N-2°-E	カマド	北壁	内	消失	[254]	やや下る	ピット状	土坑2基 (1基はカマド関連か)	4期以降	SI11Bと建て替えの関係
SI11b	19・20	隅丸方形	457×430	10.53	N-3°-W	カマド	北壁	やや外	消失	(67)	平坦	消失	土坑1基	4期以降	
SI12	16・17 19・20	隅丸方形?	630×(544)	10.68	N-7°-W	カマド	北壁	やや外	消失	消失	―	―	土坑5基 (1基はカマド関連か)	4期	
SI13	17・20	方形or長方形	(354)×(160)	10.58	N-15°-W	西壁	―	―	―	―	―	―	―	4期	東半部を平成22年度に調査 (第200次調査)

郡山遺跡第 167 次・第 180 次調査　竪穴住居跡の属性一覧 (2)

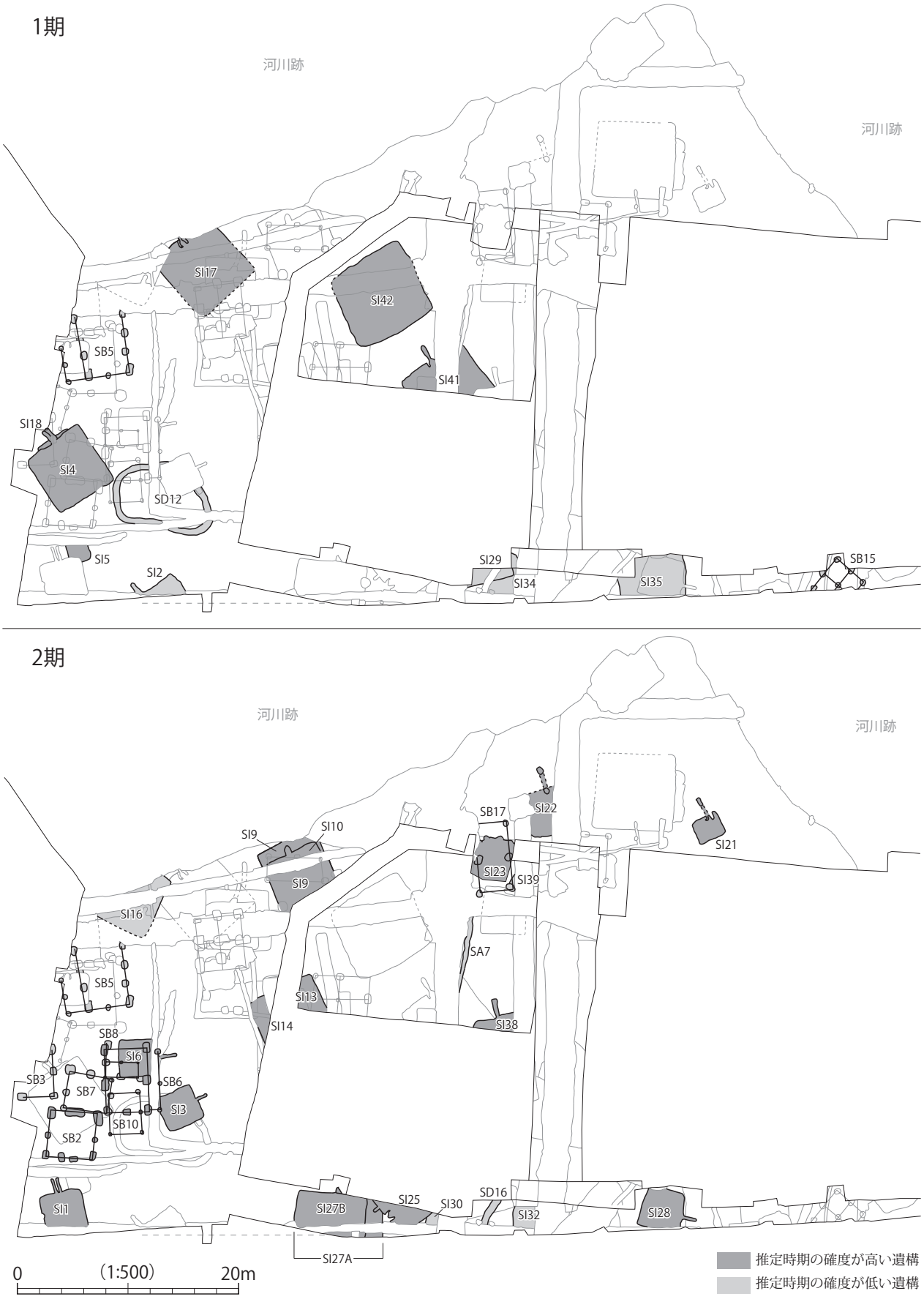
遺構番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形状・規模			主軸方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期区分	備考
		平面形状	長軸×短軸 (cm)	床面標高 (m)	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	袖構築材 ※( )は芯材	長さ (cm)	底面	煙出し			
SI14	14・17	方形or 長方形	(572)×(545)	10.52	N-28°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	4期以前	
SI15	11・14	方形or 長方形	(337)×(107)	10.68	N-2°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	土坑1基	不明	
SI16	18・19 21・22	方形or 長方形	626×(450)	10.61	N-26°-E	東壁	—	—	—	—	—	—	—	不明	
SI17	19・22	方形?	690×643	10.57	N-36°-W	ｶﾏﾄﾞ	北壁	内	盛土(凝灰岩切石)	(43)	平坦	消失	土坑1基	1期	
SI18	9	方形or 長方形	(327)×(39)	10.64	N-35°-E	北壁	—	—	—	—	—	—	—	1期以前	北壁付近を検出
SI19	40・41	隅丸方形?	730×(703)	10.73	N-4°-E	東壁	北壁?	—	—	—	—	—	土坑5基 (3基はｶﾏﾄﾞ関連か)	5期	床面以下を検出 (床面大半消失)
SI20	40・41	隅丸方形?	491×478	—	N-1°-E	東壁	—	—	—	—	—	—	土坑4基 (3基はｶﾏﾄﾞ関連か)	不明	掘り方を検出
SI21	46	隅丸長方形	254×213	10.68	N-22°-W	ｶﾏﾄﾞ	北壁	内	盛土	[185]	やや下る	ﾋﾟｯﾄ状	土坑2基	2期	
SI22	34	方形or 長方形	(430)×(204)	10.73	N-17°-W	ｶﾏﾄﾞ	北壁	内?	消失	[253]	—	ﾋﾟｯﾄ状	土坑1基	2期	床面以下を検出 (床面大半消失)
SI23	33	—	(407)×(335)	10.66	—	—	—	—	—	—	—	—	土坑2基	2期	床面以下を検出 (壁面調査区外)
SI24	28	—	(210)×(315)	—	—	東壁	—	—	—	—	—	—	—	4期	掘り方の一部を検出
SI25	73	方形or 長方形	(408)×(384)	10.51	N-138°-W	ｶﾏﾄﾞ	西壁	ｶﾏﾄﾞ1 ｶﾏﾄﾞ2 共に内	ｶﾏﾄﾞ1:盛土 ｶﾏﾄﾞ2:消失	ｶﾏﾄﾞ1 消失 ｶﾏﾄﾞ2 56	ｶﾏﾄﾞ1 消失 ｶﾏﾄﾞ2 やや下る	—	土坑2基 (掘り直しで重複)	2期	
SI26	81・83	不整方形?	(304)×(126)	10.53	N-40°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	土坑1基	不明	
SI27A	71・72 73・74	方形or 長方形	814×(406)	10.38	N-6°-E	ｶﾏﾄﾞ	北壁	内	盛土(自然礫・土師器甕)	(49)	平坦	消失	土坑2基	2期	SI27Bと建て替えの関係
SI27B	71・72 73・74	方形or 長方形	639×(406)	10.28	N-6°-E	ｶﾏﾄﾞ	SI27Aのｶﾏﾄﾞに造り替えの痕跡有						土坑5基	2期	
SI28	77・78 79・80	隅丸方形 (やや歪む)	375×364	10.38	N-102°-E	ｶﾏﾄﾞ	東壁	内	盛土 (凝灰岩切石・土師器甑)	132	平坦	—	土坑1基	2期	ｶﾏﾄﾞ燃焼部に土師器甕転用の支脚
SI29	75	方形or 長方形	(437)×155	10.76	N-76°-E	南壁	—	—	—	—	—	—	—	3期以前	
SI30	73	方形or 長方形	(115)×(108)	10.33	N-10°-E	西壁	—	—	—	—	—	—	—	2期以前	西側の一部を検出
SI32	75・76	方形or 長方形	(239)×(236)	10.56	N-6°-E	西壁	—	—	—	—	—	—	—	3期以前	南西側を検出
SI33	79	方形or 長方形	434×(218)	10.75	N-4°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	不明	床面以下を検出
SI34	75	—	(261)×(281)	—	N-9°-W	主柱穴	—	—	—	—	—	—	土坑1基	3期以前	柱穴・掘り方の一部を検出
SI35	77・78 79・80	方形or 長方形	620×(400)	10.33	N-5°-W	ｶﾏﾄﾞ	北壁	内	盛土(自然礫)	—	—	—	土坑4基 (1基は主柱穴か)	1期	

※規模について、( )は現存値、[ ]は推定値を表す。
※床面標高は、各住居跡における最も低い値を示した。
※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に1/2程度張り出すものを「やや外」、全体が張り出すものを「外」とした。
※煙道部底面の「下る」の表記は、煙出し方向を指す。

1 期（郡山Ⅰ期官衙成立以前）の様相（第 276・279 図）

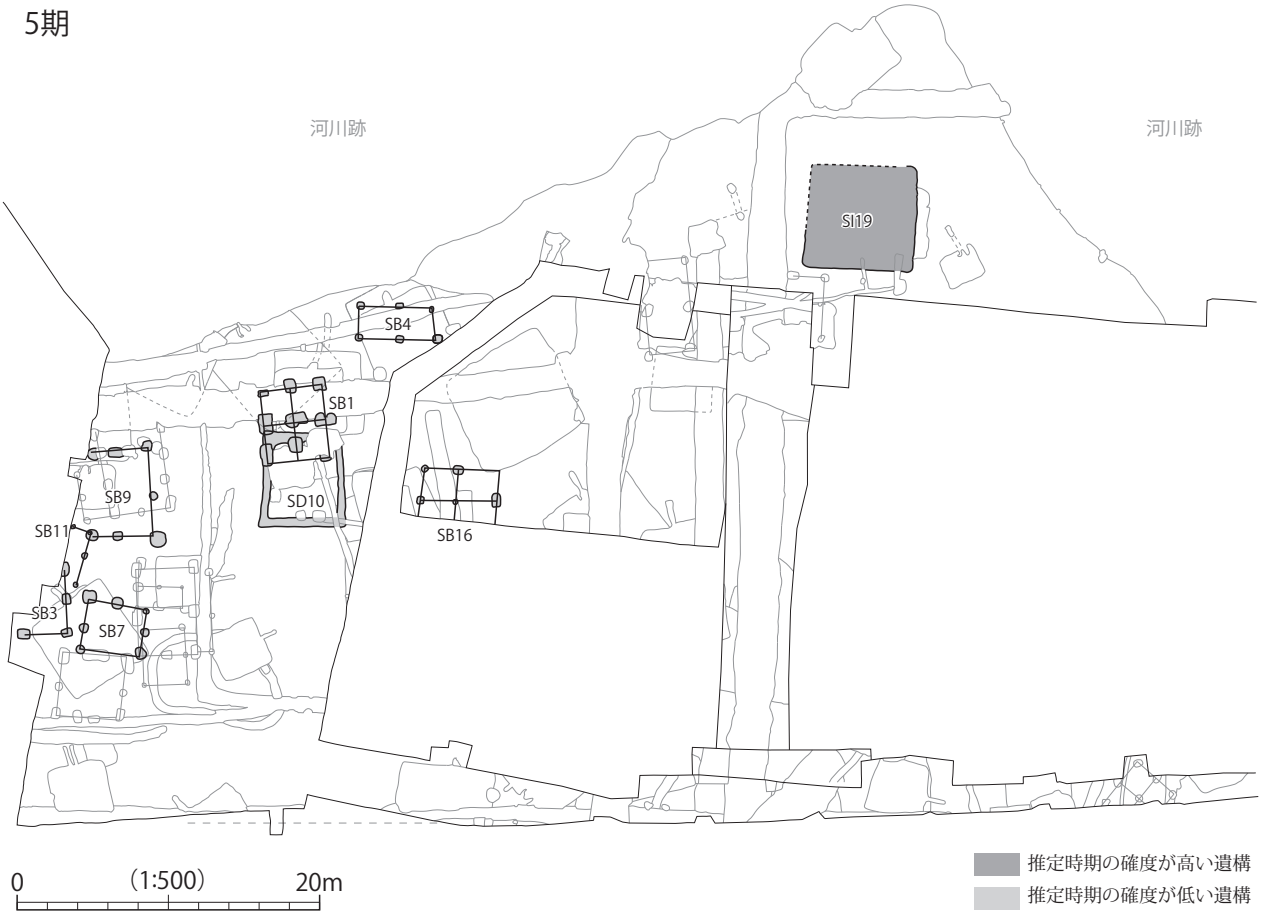
7 世紀前葉を中心とする時期である。SI2・4・5・17・29・34・35、第 200 次調査の SI41・42 の 9 軒を比定した。このうち、SI2・29・34・35 は時期を決定できる遺物がなく、その根拠が曖昧なものとなっている。しかし SI2 は後述する規模や主軸方向が当期のほかの住居跡と類似し、堆積土の出土遺物も比較的古い様相を呈する。また、SI29 は 2 期に比定される SI27 が基本層Ⅲｂ層を掘り込んで構築されるのに対し、Ⅲｂ層直下に位置している。この点は SI27 とある程度の時期差が存在することを反映していると考えられる。SI24 も重複関係では SI29 よりも古く、さらに SI35 も 2 期でも古い段階に位置付けられる SI28 よりも古い。これらの理由から、SI2・29・34・35 を当期に比定した。

1 期の竪穴住居跡の分布は、南東～北西方向に延びるように点在する。概ね西側の SI2・4・5、東側の SI17・29・34・35・41・42 と、2 つの「列」が平行するようにまとまる状況が看取される。その間は、15 ～ 25 m程の空白域となっている。



第 276 図　第 167 次・第 180 次調査遺構変遷図（1・2 期）

第 277 図　第 167 次・第 180 次調査遺構変遷図（3・4 期）



第 278 図　第 167 次・第 180 次調査遺構変遷図（5 期）

1 期の竪穴住居跡の規模は、大小の規格差が明瞭であり、SI5 が長軸 2 m前後と最も小さい。SI18・24 が 3 m弱とこれに続く規模であるが、ほかは 6 ～ 7 m級で、SI5・18・24 に比べて倍以上の規模を有する。主軸方向は真北に対して 5°～ 42°西に傾くが、概ね 30°を超えるものが半数を占める。また、SI4・42 では 2 回に及ぶ建て替えの痕跡が認められた。ともに少しずつ住居範囲が拡張され、カマドや柱穴も造り替えられている（SI4A ～ C・SI42A ～ C）。

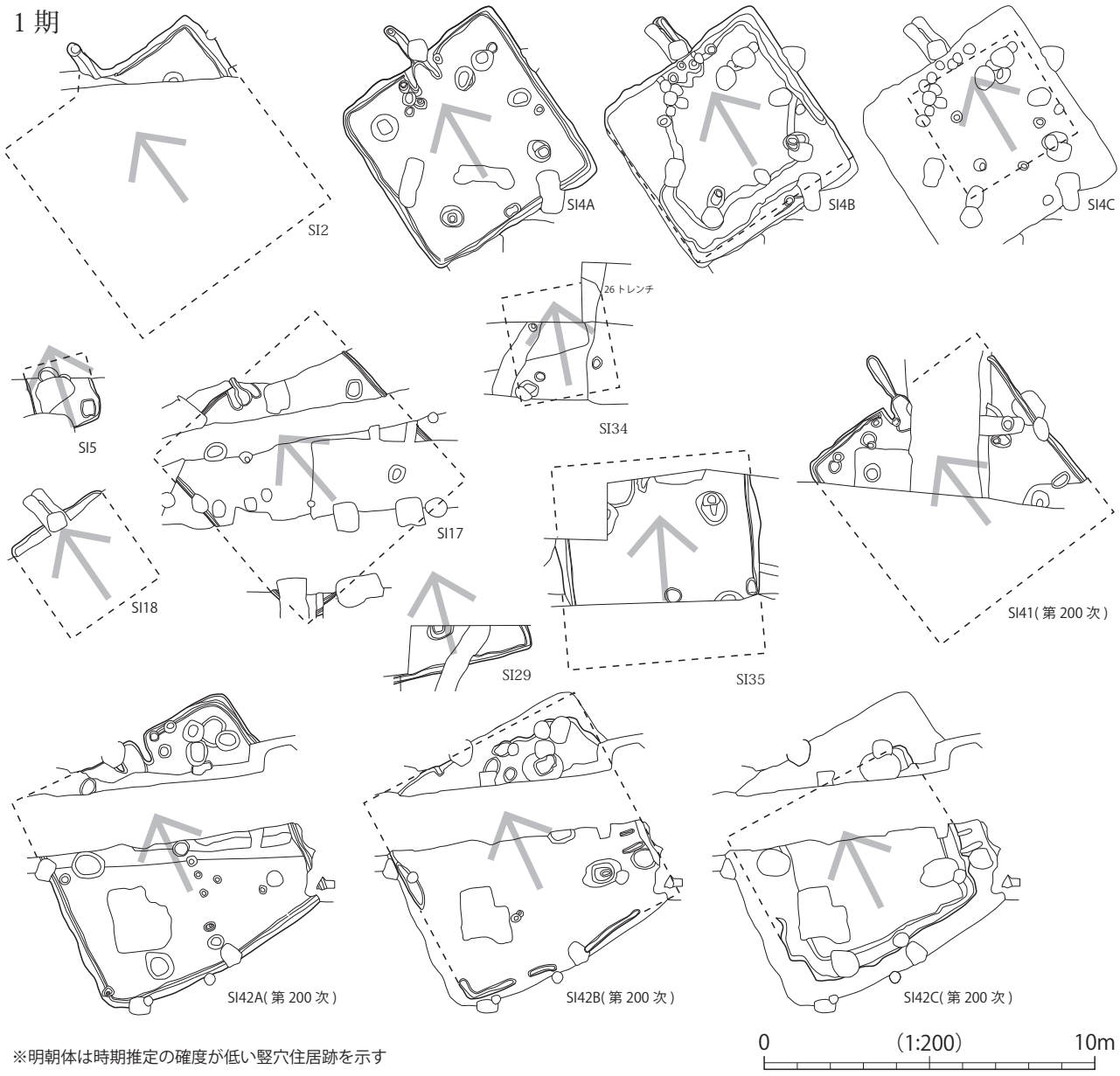
床面は、SI5・18 が基本層Ⅳ層を直接床面としているが、ほかは掘り方を伴う貼床で構築されている。

柱穴は、4 基の主柱穴を対角線上に配置するのが基本形態と思われ、これに加え補助的な柱穴を配置した SI4A・17・41・42A が存在する。SI5 には柱穴が認められず、SI18 は消失部分が多いため判然としない。

周溝は基本的には全周すると考えられるが、SI5 では認められなかった。SI18・34 は詳細不明である。

カマドは SI2・4A・4B・17・35・41・42A・42B で検出されている。いずれも北壁に付設されており、燃焼部は壁内に位置する。袖は盛土で構築され、SI42A・42B を除き焚口部分の芯材に礫の使用が認められた。特に SI17・41 では、直方体に加工した凝灰岩を組み合わせて構築されている。煙道部が残存するのは SI2・4A・4B・41・17 で、燃焼部からそのまま繋がるとみられる SI2・17、緩やかに繋がる SI4A、明瞭な段差（奥壁）をもつ SI41 があり、煙出し部分は SI2・4A がピット状を呈する。

その他の施設としては、用途不明の土坑・ピットが検出されている。このうちカマドに関連するとみられる、焼土・炭化物を埋土した土坑が SI2・4A・41・42A・42B で検出された。また、SI5 の P1、SI41 の P5、SI42A の P1・3・4 はコーナー部に配置され、貯蔵穴の可能性が考えられる。



第 279 図　竪穴住居跡時期別集成図（1 期）

2 期（7 世紀中葉前後）の様相（第 276・280 図）

郡山 I 期官衙とおおよそ併行する時期である。竪穴住居跡は数を増し、SI1・3・6・9・14・16・21 ～ 23・25・27・28・30・32、第 200 次調査 SI38・39 の 17 軒が該当する。また、SI10 も SI9 と建て替えの関係にある可能性が考えられ、当期に比定した。SI16・30・32 は時期を決定できる遺物が認められなかったものの、1 期の SI17 より新しいことや、主軸方向が 3 ～ 5 期の住居跡とは著しく異なることから当期に比定した。また、SI10 も方位が近接する SI27・32 と近い数値を示し、SI32 も堆積土中から完形の須恵器坏（第 110 図－ 8）が出土していることを考慮すれば、当期に含められる可能性は高い。SI38 も第 200 次調査部分で直接伴うとみられる当期の土師器高坏（仙台市報告書第 391 集参照）が出土しており、SI39 についても古い方から SI32（2 期）→ SB17 → SI39 → SD15（3 期）といった新旧関係が認められることが理由となっている。なお SI14 は本節での復元の結果、第 200 次調査の SI13 と同一になる可能性が考えられ、伴う土師器の年代観から当期に比定した。

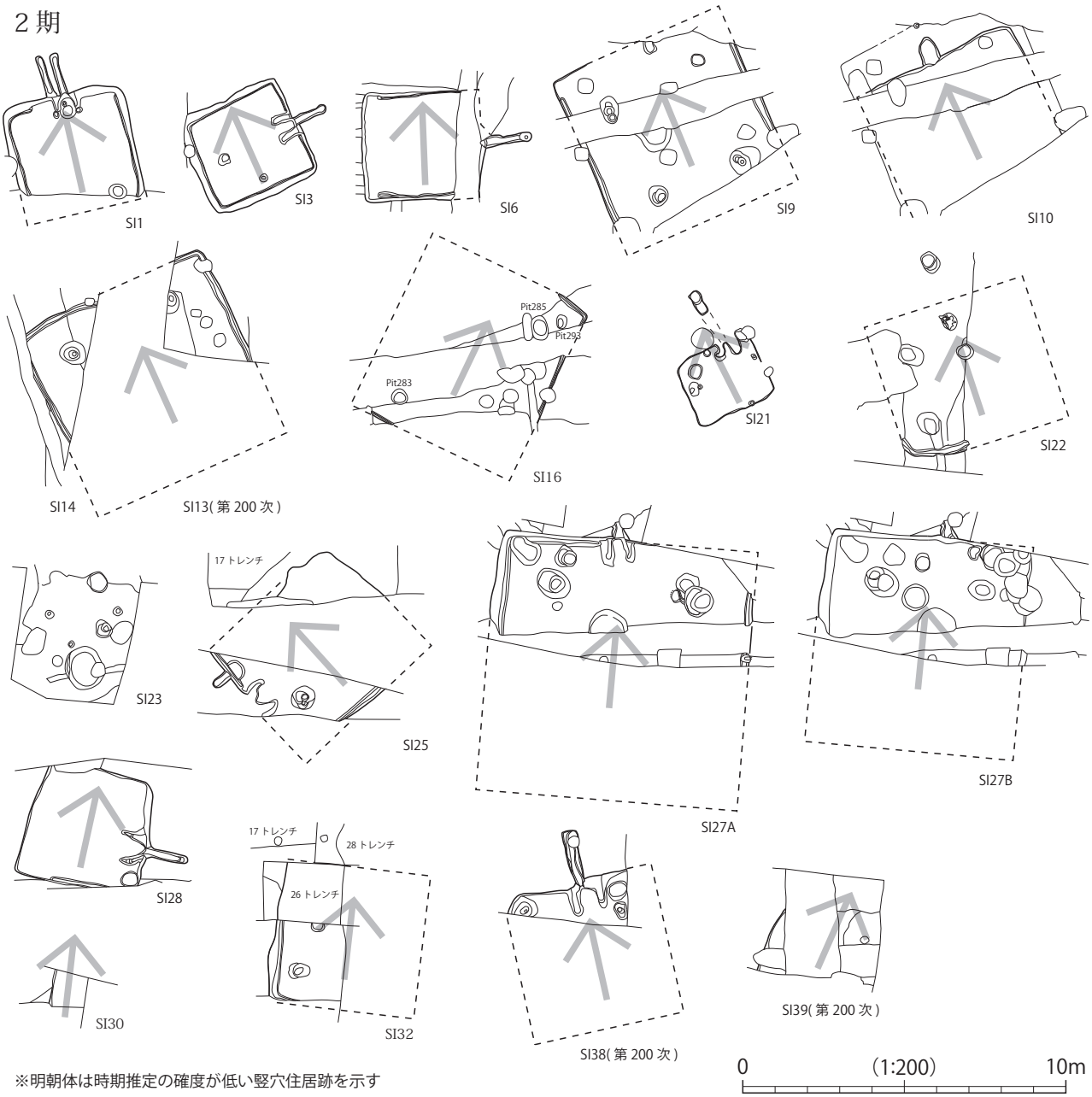
2 期の竪穴住居跡の分布は、SI22・23・39 や SI25・27・30 が近接あるいは重複しているが、全体的に 10 ～

15 m前後の間隔をもって点在する傾向にある。

第 280 図中の破線は、SI9・14・22・25・27・32・38 について雑駁な推定で示した。また、SI23・26・30・39 は規模不明である。対象となる 13 軒のうち、長軸 2.5 m程の SI21 が最小であり、3.5 ～ 3.8 m前後の SI1・3・6・28、4.7 ～ 5.2 m前後の SI22・25・32・38、5.7 ～ 6.4 m前後の SI9・14・16、そして 8.1 m程の SI27A が最大である。このように当期の竪穴住居跡の規模には、いくつかのまとまりが認められる。主軸方向は、東側に傾く SI16・27・28・30・32・39、西側に傾く SI1・3・6・9・14・21・22・25・38 があり、角度は東側が 10°前後、西側が 20 ～ 30°前後のものが主体である。西側の傾きは 1 期に比べ、やや弱くなる傾向が窺える。建て替えの痕跡は SI9・27 で認められ（SI10・SI27A・B）、それぞれが一回り程拡張されている。また、SI1・25 はカマドや主柱穴の造り替えが認められた。

床面は、全て掘り方を伴い、貼床で構築されている。

2 期



※明朝体は時期推定の確度が低い竪穴住居跡を示す

第 280 図　竪穴住居跡時期別集成図（2 期）

柱穴は、4 m未満の竪穴住居跡に伴う例はほとんどなく、SI21 のみが 4 基の壁柱穴を配置している。また、規模は不明であるが、SI23 も変則的な配置であると考えられる。4 m以上の竪穴住居跡では、4 基の主柱穴を対角線上に配置するものが基本形態と思われる。このうち SI16 については柱穴が検出されなかったが、単独ピットとして調査された Pit283・285 が主柱穴に相当する可能性も考えられる。

周溝は、全周するもの以外に大きく断続するもの（SI1・6・9）、一辺の壁にのみ伴うもの（SI28）、全く伴わないもの（SI21）などが混在する。

カマドは SI1・3・6・9（10）・21・22・25・27A・28・38 で検出された。SI1・9（10）・21・22・27A・38 は北壁、SI3・6・28 は東壁、SI25 は西壁に付設されている。燃焼部は壁内に位置するものがほとんどであるが、SI9 の建て替え前とみられる SI10 のカマドのみが壁外に張り出している。袖はいずれも盛土で構築され（SI9・10 は不明）、SI1（カマド 1）・3・6・27A では焚口部分の芯材に礫を用いた痕跡が確認されている。SI28 では半截した土師器甑を芯材としており、支脚も土師器甕の転用である。これらのうち SI3・6・28 では、焚口の懸架材に直方体に加工した凝灰岩が使用されている。煙道部が残存するのは SI1（カマド 1・2）・3・6・10・21・22、SI25（カマド 2）・SI27A・28・38 で、SI10・21・22 は煙出し部分のみが残存する。燃焼部とそのまま繋がるのは SI1（カマド 1）で、緩やかに繋がる SI6・25（カマド 2）、明瞭な段差（奥壁）をもつ SI1（カマド 2）・3・27A・28・38 がある。煙出しは SI6・10・21・22・38 がピット状に掘り込まれている。

その他の施設としては 1 期同様に用途不明の土坑・ピットを伴う住居跡があり、このうち SI21 の P2、SI27A の P7、SI27B の P5 ～ 7、SI28 の P1、SI38 の P1 など、コーナーやカマド脇に配置された土坑には貯蔵穴の性格が考えられる。

このように当期の竪穴住居跡は、規模や形態が 1 期に比べ多様化することが指摘される。軒数も調査範囲内ではピークを迎える時期であり、一つの画期として捉えられる。

3 期（7 世紀後葉）・4 期（7 世紀末～ 8 世紀前半）の様相（第 277・281 図）

3 期は郡山Ⅰ期官衙からⅡ期官衙への移行期、4 期は郡山Ⅱ期官衙期から 8 世紀前半の時期である。該当する竪穴住居跡は SI7・8・11 ～ 13・15・20・24、第 200 次調査 SI36・37・40・43 の 12 軒であるが、遺物や重複関係からある程度の時期が推定されるのは SI12・13・24・40 の 4 軒で、いずれも 4 期の所産と考えられる。また、SI11 は 4 期以降の住居跡であるが、堆積土中の遺物に 5 期に下るものが認められないことからここでは 4 期に含めた。SI20 も郡山Ⅱ期官衙外溝（SD13）の西辺と北辺からともに 4.5 m程内側に位置することから、Ⅱ期官衙の区画を意識して配置された可能性があり、4 期に比定した。これ以外の 6 軒については詳細な時期が判然としないが、主軸方向やほかの遺構との重複関係を重視し、3 期以降の成立とした。

分布としては、調査範囲の北寄りに偏在的となり、SI20 が郡山Ⅱ期官衙の範囲内に位置する以外は、全て外側に位置する。前記の通りこれらのうち何軒が同時併存となるかだが、いずれにしても 2 期よりは閑散とした状況が想定される。

規模は、SI8・13・24・37・43 が判然としないが、SI11A・12 が長軸 5.6 ～ 6.3 m程と、当期では最大級である。また SI36 は推定長軸 2.2 m程で、最小規模である。方位は西側への傾きが主体となり、角度は東西ともに 10°未満と、2 期よりもさらに弱くなる。建て替えの痕跡は、SI11 のみで認められた（SI11A・B）。

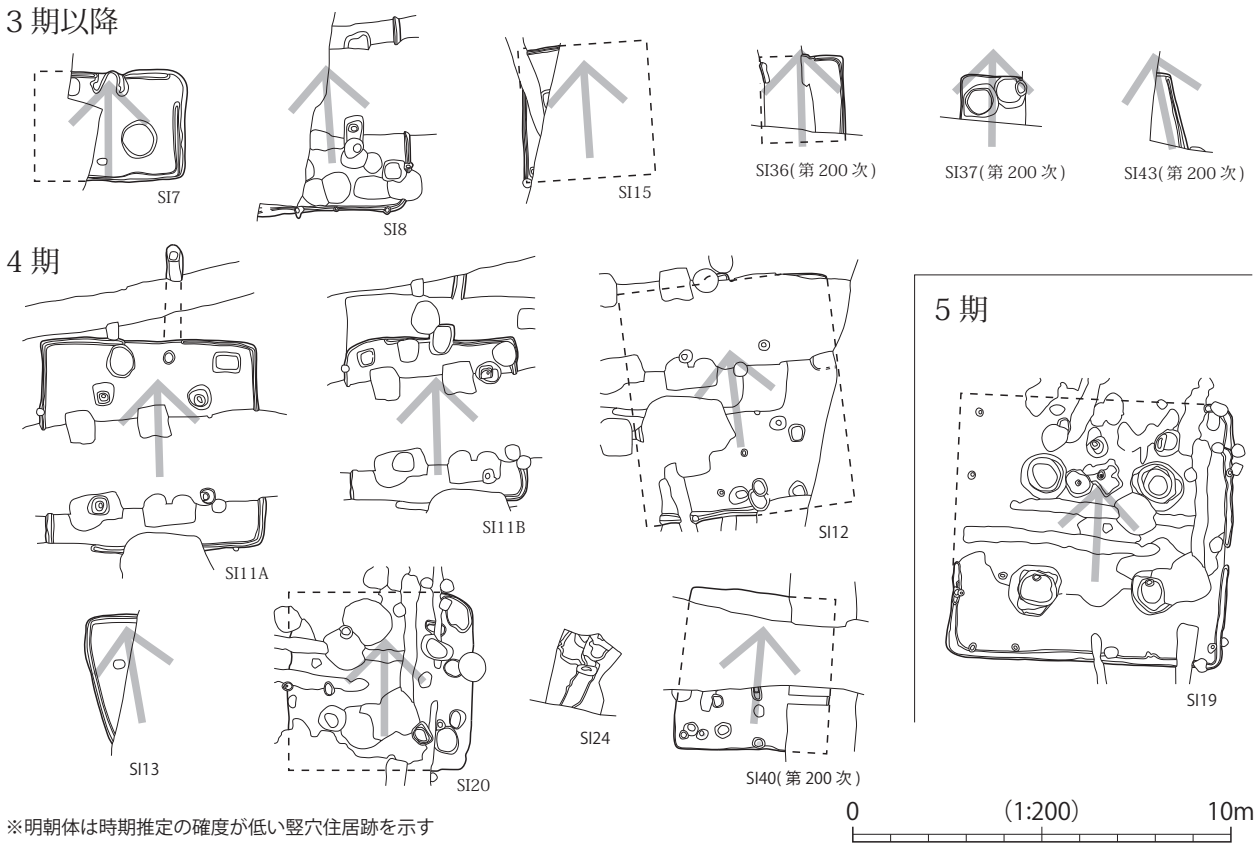
床面は、2 期と同様に全て掘り方を伴い、貼床で構築されている。

柱穴は、SI11A・11B・12・20 で 4 基の主柱穴が対角線上に配置されている。いずれも長軸 4 m以上の住居跡である。SI8・40 も同様の配置が想定されるが、検出範囲が限られるため判然としない。また、SI8 では周溝内に壁柱穴が検出されている。

周溝は、SI7・8・11 ～ 13・15・36・43 で検出された。ただ、SI11A・11B を以外は具体的な囲繞状況が判然としない。SI11A はほぼ全周するものと思われ、SI11B は北西コーナーから西壁にかけての断続が想定される。

カマドは SI7・11A・11B・12・36 で検出された。いずれも北壁に付設されている。燃焼部は SI7・11A が壁内に位置するが、SI11B では 1/2 程壁外に張り出している。SI12・36 は奥壁部分が若干壁外に張り出す。袖は SI7 のみが残存し、盛土で構築されている。煙道部は SI11A・11B で検出された。ともに残存状況は悪いが、SI11A の煙出しはピット状に掘り込まれている。

その他の施設としては、貯蔵穴とみられる SI8 の P4、SI11A の P5、SI11B の P3、SI20 の P10 などがあり、焼土・炭化物を内部に充填した SI11A の P6、SI12 の P11 などカマドに関連するとみられる土坑がある。1・2 期にも認められた施設である。



第 281 図　竪穴住居跡時期別集成図（3 ～ 5 期）

5 期（8 世紀後半以降）の様相（第 278・281 図）

確認された当期の竪穴住居跡は SI19 のみであり、3・4 期よりもさらに集落としては衰退した状況が窺える。SI19 は長軸が 7 mを超え、今回検出された竪穴住居跡の中では 2 期の SI27A に次ぐ規模をもつ。一般的な居住施設とは別の性格をもつ可能性もあり、今後の周辺の調査が注目される。

(2) 掘立柱建物跡（第 276 ～ 278・282 図）

掘立柱建物跡は、指標となるような遺物が少なく、時期を明確にできないものがほとんどである。次ページに示した属性表中の時期に本節で新たに提示した各期の竪穴住居跡との新旧関係、さらに主軸方向などを加え、下記におおよその時期を推定してみた。

1 期？：SB15　　1 ～ 2 期：SB5　　2 期以降：SB3　　2 期：SB2・6 ～ 8・10・17　　3 期以降：SB4

郡山遺跡第 167 次・第 180 次調査　掘立柱建物跡の属性一覧

遺構番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形状・規模				主軸方位		柱穴			時期	備考
		桁行×梁(間)	柱間構造	平面形状	総長(桁行×梁行 ㎝)	方位	算出基準	検出数	平面形状	その他特徴		
SB1	16・17 19・20	2×2	総柱	方形 (やや歪む)	450×380	N-6°-W	東側柱列	9	方形基調主体	一部に建て替えの痕跡あり	4期以降	SI11(4期以降)・12(4期)より新しい。
SB2	9・12	3×2	側柱	方形	420×360	N-85°-W	南側柱列	10	方形基調主体	一部に建て替えの痕跡あり	2期	SB7(2期以降)より古く、SI4(1期)より新しい。
SB3	19・20	(2)×(1)	側柱?	―	(420)×(280)	(N-3°-W)	東側柱列	(4)	方形基調主体		不明	SI4・18(ともに1期)より新しい。南側調査区外。
SB4	23	2×1	側柱	長方形	520×210	N-89°-W	南側柱列	6	方形基調主体		2期以降	SI9・10(ともに2期)より新しい。
SB5	12・16 18	3×2	側柱 (西側に庇)	不整長方形	550×430	N-8°-W	東側柱列	身舎9 庇部(3)	方形・円形基調混在		不明	SI7・8(ともに時期不明)より古い。
SB6	9・10 12・13	2×2	側柱 (東側に庇)	長方形	570×370	N-2°-W	東側柱列	身舎5 庇部3	方形基調主体		2期	SI6(2期)・SB7より古く、 SI3(2期)・SB8・10より新しい。
SB7	9	1・2×2	側柱	不整長方形	400×350	N-79°-W	東西中心軸	7	円形基調主体		2期以降	SI4(1期)、SB2(2期)より新しい。
SB8	9・10 12・13	2×2	総柱	方形	310×290	N-1°-E	西側柱列	(7)	方形基調主体		2期以前	SI6・SB6(ともに2期)より古い。
SB9	12・15	(2)×2	側柱	方形?	(410)×590	N-89°-W	南側柱列	(7)	方形・円形基調混在		不明	SI8(時期不明)より新しい。
SB10	6・7 9・10	2×1	側柱	長方形 (やや歪む)	365×280	N-4°-W	東側柱列	6	方形・円形基調混在		2期以前	SB6(2期)・7より古い。
SB11	9・12	2×(1)	側柱	長方形?	360×(115)	N-15°-E	東側柱列	(4)	円形基調主体		不明	SB9(不明)より新しい。
SB14	39	2×1	側柱	長方形	410×215	N-4°-E	東側柱列	(4)	方形・円形基調混在		3期以前	SD13(4期)より古い。28トレンチ内で柱穴2基追加確認。
SB15	81	(2)×(2)	総柱	方形?	(337)×(107)	N-52°-E	北側柱列	(6)	円形基調主体	一部に建て替えの痕跡あり	不明	
SB17	33	2×1	側柱	長方形	615×300	N-5°-W	東側柱列	(5)	円形基調主体		2期	SI39(2期)、SD15(3期)より古く、SI23(2期)より新しい。

※表中の各数値について、()は現存値を表す。

※総長については、桁行・梁行ともに最大値で示した。

3 期？：SB14　　4 期以降：SB9　　5 期以降：SB1・11・16（第 200 次調査）

これをみると、竪穴住居跡と同様に 2 期の所産が多い。分布は、調査区の西寄りに集中する傾向があり、この場所では掘立柱建物跡どうしの重複も著しいものとなっている。

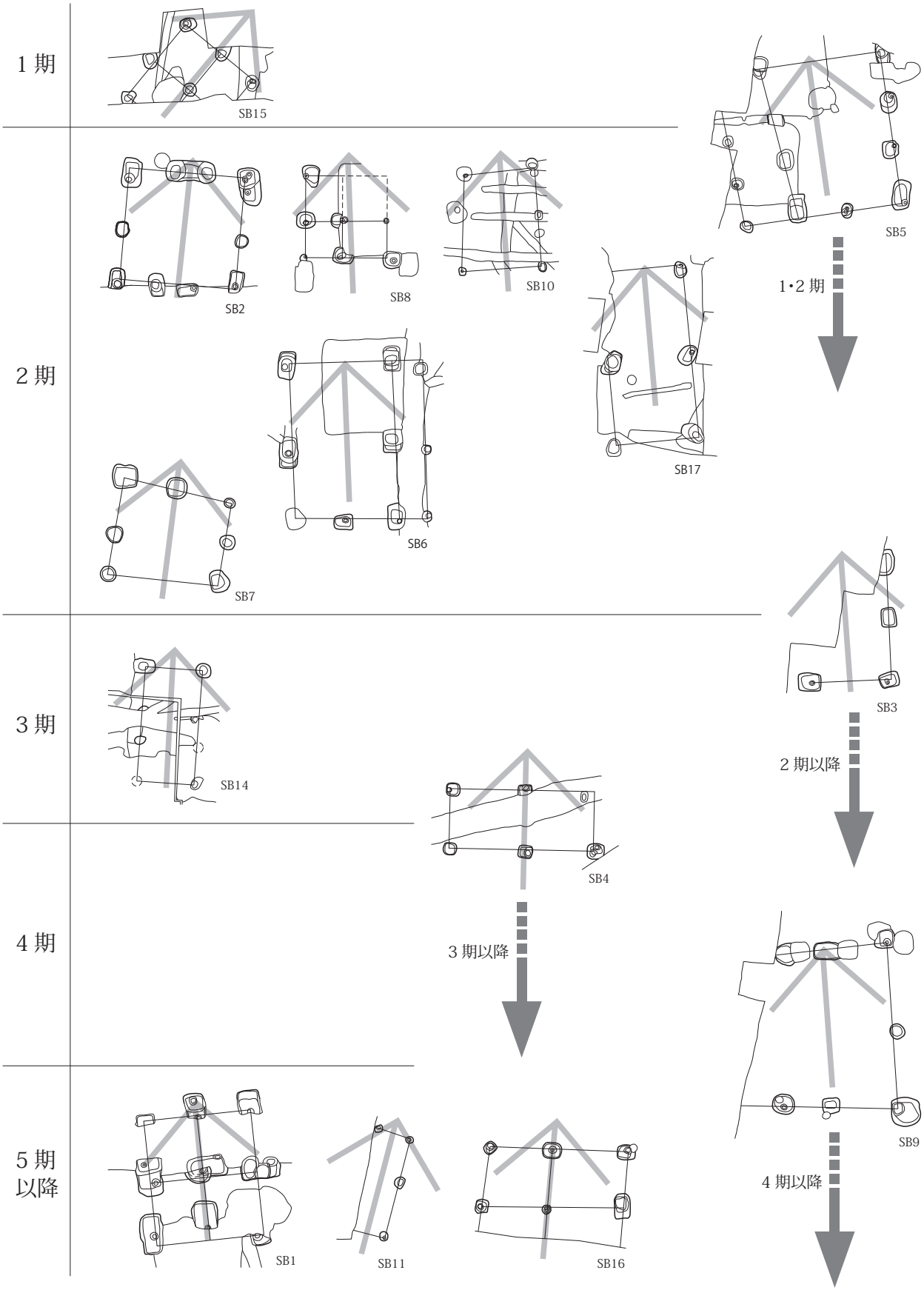
建物構造は側柱が多く、総柱は SB1・8・15・16 の 4 棟が認められた。柱間は側柱建物で桁行 3 間×梁行 2 間、もしくは桁行 2 間×梁行 1 間の概ね 2 つの形態が存在する。総柱建物では SB1・10 が 2 間× 2 間とみられるが、SB15・16 は調査区外に延びるため詳細不明である。庇柱は SB5・6 で認められ、SB5 では西側、SB6 では東側に検出されている。

主軸方向は、南北棟では東西への傾きが 10°未満となっており、東西棟では 90°近い傾きが認められる。すなわち、建物の各辺が概ね東西南北に面するような方向性をとる掘立柱建物跡が圧倒的である。例外は SB15 のみで、その傾きは N － 52°－ E となっている。

柱穴は形状や規模が様々であるが、比較的大型でしっかりとした柱穴で構成される掘立柱建物跡が多い。これらのうち SB3・4・6 は柱穴の規格が比較的揃い、整然とした柱穴配置となっている。また、SB2・5・6 のような桁行 3 間×梁行 2 間の側柱建物では、桁柱よりも一回り以上小さい柱穴を梁の中央に配置している。

柱痕跡は、SB14 を除くほとんどの掘立柱建物跡で認められた。土層断面で確認されたものも多いが、底面の圧痕あるいは変色部（あたり）のみが検出された柱穴も存在する。これら柱痕跡の規模は、大体が径 15 ～ 20cm 前後であるが、SB8 － P5 の柱痕跡は径 36cm と極端に大きい。SB15 － P2 では上下 2 つの柱痕跡が確認され、建て替えによる柱の据え直しが考えられる。SB1 では柱穴そのものの掘り直しも認められた（P2A・B、P9A・B）。また、SB2 － P4、SB4 － P1、SB5 － P5、SB17 － P4 では底面に複数の圧痕・あたりが検出されており、これらも建て替えの痕跡を示すものと考えられる。

以上、掘立柱建物跡についてまとめてみたが、規模や形態について時期ごとの変化を追うことはできなかった。ただし、3 期以降の掘立柱建物跡は 2 期よりも北寄りに位置する傾向があり、この点については竪穴住居跡の分布と同様の変化として捉えておきたい。



※明朝体は時期推定の確度が低い掘立柱建物跡を示す

第 282 図　掘立柱建物跡時期別集成図

(3) 区画施設（第 283 図）

区画整理事業に伴う郡山遺跡の調査では、第 167 次調査で確認されたⅡ期官衙外溝北西コーナー部以外に、第 144 次調査（平成 13 年）で確認されたＬ字型に伸びる溝跡が、Ⅰ期官衙西辺の推定ラインから西へ約 75 mの位置にあることから、Ⅰ期官衙に関連する遺構か、官衙周辺の土地割に伴う遺構と考えられている。また、長町駅東遺跡や西台畑遺跡の調査では集落に関連する区画施設とその変遷が確認されている（註 1）。

ここでは、Ⅱ期官衙外郭大溝北西部の調査で確認された区画施設について概観する。

Ⅱ期官衙外郭大溝北西部の状況（第 167 次・180 次・200 次調査）

西台畑遺跡集落の北側に隣接しており、外溝北辺の延長部を含む調査区の北側を広瀬川と考えられる河川により浸食されている。これまでの調査により、総数 40 軒以上の竪穴住居跡が確認されているが、位置的にも西台畑遺跡の集落の一部と考えられる。住居跡の時期については、167 次調査区に鬼高系土師器と在地の土師器が共伴する SI1・SI3 住居跡があることから、官衙の北西部にⅠ期官衙に先行する時期の集落が造られ、その集落の一部を取り込む形で官衙が造られ、官衙の成立とともに発展したことが考えられる。

外郭大溝と外溝の間での遺構群の変遷をみると、西台畑遺跡での調査でも、Ⅱ期官衙成立後も外郭大溝と外溝の間に遺構群の変遷がみられ、外溝北辺想定位置に計画された都市計画道路長町八木山線を対象とした第 190 次調査でも、外郭大溝と推定外溝位置の間にⅡ期官衙創建期～Ⅱ期官衙後半期にかけて 3 ～ 4 期の遺構変遷があり、小規模な掘立柱建物跡や住居が造られていることを確認している（仙台市教委：2009）。

これらの状況から、官衙の北部や北西部では、外郭大溝と外溝の間は空閑地となっておらず、居住域や官衙に付属する雑舎域などのブロックとして機能していた可能性がある。

外溝北辺については、想定された位置では北辺自体は広瀬川に浸食され確認されなかったが、Ⅱ期官衙期での遺構群の変遷や広瀬川の存在を考えた場合、北辺の存在形態について土地利用を含めて検討する必要がある。

①Ⅱ期官衙外溝北西コーナー部

【SD13 外溝（第 167 次調査）】 Ⅱ期官衙の規模と構造を考える上で重要な遺構であるが、 外溝北西コーナー部は河川浸食により遺存状況は良くなく、この部分では、上幅約 180 ～ 210cm、下幅約 160cm、深さ 20 ～ 40cm を測る程度である。しかし、南に伸びた第 180 次調査区部分では上幅約 310cm、下幅約 160cm、深さ 100cm を測り、断面形は逆台形を呈している。堆積土の底面の状況から、掘り直しの痕跡が認められる。

外溝底面から出土している金属製品は、素材が銅製であることから耐久性や実用性に疑問はあるが、形状から馬具（轡の一部）で「うばら」と呼称されるものとのご教示をいただいている。「うばら」は奈良時代に盛行した轡の形態と考えられており、形式分類から編年的位置付けがされ、その古い例としては、7 世紀中葉頃までさかのぼる出土例があるが、7 世紀後半以降の年代が考えられている（註 2）。

②区画関連施設

区画関連施設としては、第 180 次調査において、SD11・SD13・SD17 の 3 本の溝跡が重複する部分を確認し、その新旧関係は、SD11 → SD13 → SD17 であることから、外溝に前後する時期の溝跡があることが明らかになった。また材木列の可能性をもつ遺構が確認されている。

【SD11 溝跡（第 167 次・第 180 次調査）】 第 167 次調査（平成 16 年）で、ほぼ真東西方向に伸びる SD11 溝跡を確認し、第 180 次調査（平成 18 年）で SD13 外溝との重複部分を確認した。溝跡の規模は、上幅 110 ～ 140cm、下幅 20 ～ 50cm、深さ 60 ～ 100cm を測り、断面形は逆台形を呈している。方向は、N － 88° － W である。その後西台畑遺跡第 6 次調査（平成 19 年）で確認された溝跡と、規模や断面の形状及び堆積土の状況等から連続する遺構と判断されたことにより、この溝跡はⅡ期官衙外郭大溝北西コーナー部の西 6 m程の位置でほぼ直角に

南に曲がることが想定される。

時期については、167 次調査の SI1・SI2 住居跡より新しいことから、Ⅱ期官衙に先行する時期と考えられ、西台畑遺跡の集落の区画施設となる可能性がある。

【SD15 溝跡（第 200 次調査）】 SD13 外溝の西を、北で 300cm、南で 200cm 程度の距離をもって並走する位置関係にある。溝跡の規模は、上幅 165 ～ 193cm、下幅 125 ～ 167cm、深さ 44 ～ 70cm を測り、断面形は逆台形を呈し、底面は北から南への傾斜がある。方向は、N － 1° － W である。堆積土の状況は SD13 外溝と近似しており、下層土は人為的に埋め戻されたものである。167 次調査区で一部を確認し、この部分では削平により消失しているが検出長は 19 mを超えている。

南側の 180 次調査区では検出されていないことから、外溝に前後する時期の溝跡とは考えにくく、検出範囲で底面には約 20cm の高低差があることから、外溝の掘削作業に伴う通路（スロープ）の可能性も考えられる。

【SD17 溝跡（第 180 次調査）】 溝跡の規模は、上幅 310 ～ 338cm、下幅 120 ～ 141cm、深さ 113 ～ 120cm を測り、断面形は逆台形を呈している。方向は、N － 39° － E である。堆積土の中層には炭化物や灰の集積層があり、下層土は人為的に埋め戻されている。重複関係から外溝よりも新しい溝跡であるが、南側の西台畑遺跡の調査では同様の遺構が検出されていないことから、時期や性格については不明である。

【SA1 材木列跡（第 180 次調査）】 極めて狭小な範囲での検出であり、材木列として捉えられるか不明瞭な点もある遺構である。方向は、N － 15° － W である。上幅 67 ～ 78cm、深さ 83 ～ 89cm の溝状の掘り方の底面や断面に柱痕跡が確認された。SD11 溝跡との重複関係は調査区のなかでは確認されなかった。遺物は出土していないが、周辺の遺構との関係から古代の遺構と考えている。

註 1：長町駅東遺跡や西台畑遺跡の集落や官衙に関連する区画施設の概要について、報告書では「西台畑遺跡第 1・2 次調査」や「郡山遺跡第 190 次調査」のなかで総括している。また報告論文としては、「第 34 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集」や「宮城考古学第 12 号」があるので参照していただきたい。

註 2：「うばら」については、奈良国立文化財研究所飛鳥藤原京跡発掘調査部、奈良県立橿原考古学研究所、宮内庁正倉院事務所の方々に資料を実見していただき、ご教示いただいた。

（財）浜松市文化協会（1999）『下滝遺跡群 2 第 3 章考察編「律令時代における轡の系譜」』

第 3 節　第 196 次調査の弥生時代水田跡（第 284 図）

第 196 次調査のⅢ・Ⅳ区では、Ⅴb 層を耕作土とする水田跡が検出された。このⅤb 層中からは弥生時代中期中葉の桝形囲式に比定される土器が出土しており、水田跡もこの時期に属すと考えられる。また、西側に隣接する長町駅東遺跡の第 4 次調査でも桝形囲式期の水田跡が検出されており、今回検出された水田跡と一連のものとなる可能性が指摘された。本節ではこの長町駅東遺跡の調査結果をふまえ、第 196 次調査で検出された水田跡につき、若干の補足を行うこととする。

長町駅東遺跡第 4 次調査では、4A・4B 区から上下 2 面の水田跡が検出されている（Ⅴa・Ⅴb 層水田跡）。このうちⅤa 層の水田跡が、耕作土の層相や水田面の標高などから今回検出された水田跡に対応するものと思われる。実際に同報告書でも、「Ⅴa 層は各水田土壌推定層の中では、水田土壌である可能性或いは耕作頻度が最も高いと思われる」とされている（仙台市教委、2007 年）。ただし、Ⅴb 層の水田跡も畦畔の位置関係がⅤa 層と重なるものが多く、双方の時期差はあまりないと考えられる。第 284 図に示したのはⅤa 層の水田跡との照合図であるが、大体東西 145 m、南北 70 m程の広がりを確認したといえる。同図南西端部から図外西側・南側は微高地となっており、西側の 4C 区では水田跡と同時期とされる、桝形囲式期の土器棺墓 3 基および土壙墓 2 基が検出され

郡山遺跡第167・180次調査区
(本書所収)

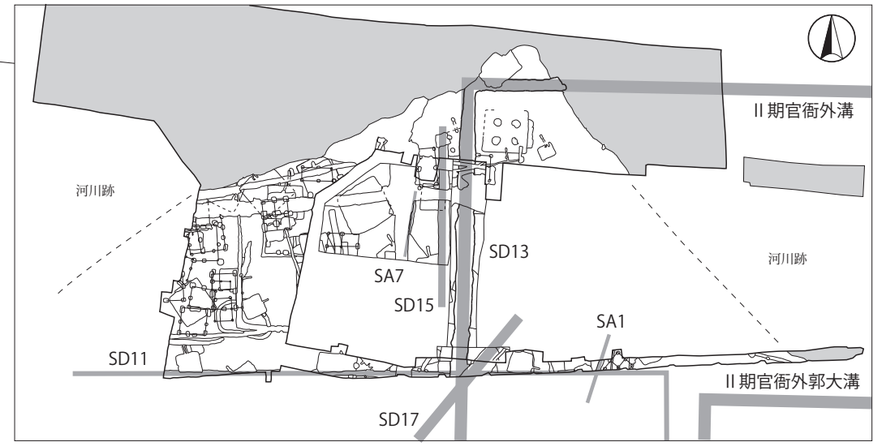
河川跡
Ⅱ期官衙外溝
郡山遺跡第200次調査区
(仙台市文化財調査報告書第391集所収)
SD13
SA7
SD15
SA1
SD11
Ⅱ期官衙外郭大溝
SD17
郡山遺跡第95次調査区
平成4(1992)年度調査
西台畑遺跡第6次調査区
(仙台市文化財調査報告書第326集所収)
SD11
SD31
SD17
西台畑遺跡昭和57年度調査区
(仙台市文化財調査報告書第57集所収)

西台畑遺跡
(仙台市文化財調査報告書第359・388集所収)
※一部未報告

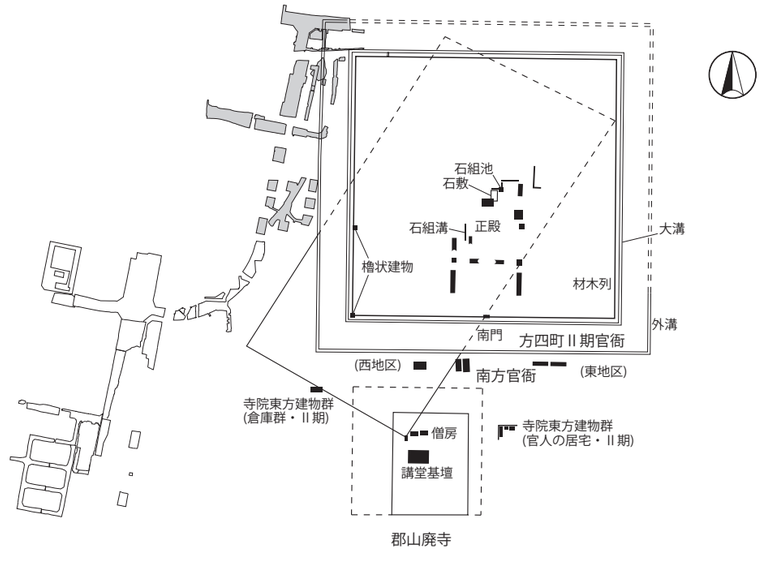
Ⅰ区
Ⅲ区
Ⅱ区
Ⅱ期官衙外溝
材木列
河川跡
SA1
SD61
17街区
SD31
Ⅴ区
Ⅳ区
Ⅱ期官衙外郭大溝
期官衙外郭西辺推定位置
Ⅶ区
SD1
郡山遺跡第144次調査区
(仙台市文化財調査報告書第358集所収)

郡山遺跡

0 (1:1,500) 60m
＊郡山官衙区画施設は模式的配置である。



0 (1:1,000) 50m



0 (1:10,000) 500m

第 283 図　第 167 次・第 180 次調査および周辺の主な区画施設

第 284 図　第 196 次調査Ⅴ b 層水田跡と長町駅東遺跡第 4 次調査Ⅴ a 層水田跡

た。また、南側でも長町駅東遺跡第 3 次調査において、やはり桝形囲式期の竪穴住居跡 1 軒や性格不明遺構 3 基、土器棺墓 4 基、その他多数の土坑・ピットが検出されている（仙台市教委、2009 年）。このように、水田跡という生産遺構に加え、「居住域」「墓域」といった、当該期の生活様式のセット関係も注目される点である。

以降は、郡山遺跡第 196 次調査分を「Ⅲ区」および「Ⅳ区」、長町駅東遺跡第 4 次調査分を「4A 区」「AB 区」と表記する。第 284 図の照合結果では、水田面の標高は 8.55 ～ 8.95 mを測り、西から東に向かってわずかに傾斜している。勾配率は 1%にも満たない。傾斜も一定ではなく、不規則に高まりや窪みなどが認められる。これは耕作による撹拌なども影響していると考えられる。畦畔は 4A・AB 区で 30 条程、Ⅲ・Ⅳ区で 5 条検出された。畦畔の下幅は 1 ～ 1.5 m前後のものが多く、Ⅳ区の畦畔 1・2 が下幅 2 m弱と、やや広いものとなっている。畦畔の方向は北側の 4B 区、東側のⅢ区で東西または南北を指向する傾向が認められるが、ほかは北西～南東に斜行するか、これに直交するかたちとなっている。畦畔は湾曲あるいは蛇行するものが目立ち、地形を意識して歪められたと考えられる。高さは最大で 10cm 程が残存し、比較的しっかりとした造りである。Ⅲ区では畦畔 3 ～ 5 の脇に埋没するようにして溝状遺構 2 ～ 4 が検出された。これらは、畦畔造作の何らかの痕跡であると思われる。水田区画は断続する畦畔が多いため明瞭ではないが、4A 区では北西～南西方向の畦畔が 10 ～ 13 m程の距離で 3 条平行し、その内側を直交する畦畔で分割したかのような状況が見て取れる。また、Ⅲ区の畦畔 6 は下幅 47 ～ 62cm と狭く、区画をさらに細分するための畦畔であったと思われる。なお畦畔以外の水田関連施設では、4B 区のⅤ b 層水田跡から水利施設と思われる溝跡が 1 条検出されている。

これまで長町駅東遺跡の水田跡からは、イネのプラント・オパールが検出されなかった。ただ、籾圧痕の残る土器や石包丁、板状石器など、稲作行為を示唆する遺物は出土していた。今回の調査では、Ⅳ区の西壁および東壁の試料からイネのプラント・オパールが検出されている。密度は西壁で 600 個 /g 、東壁で 1,800 個 /g と、ともに稲作の判断基準とされる 3,000 個 /g には満たないものの、直上の層（Ⅴ b 層）にイネのプラント・オパールが認められなかったことから、後代からの混入の可能性は低いとされる（第 6 章第 4 節）。このことは自然科学分野での検証からも、当該期に稲作が営まれていた可能性を高めたと評価できるであろう。

第 4 節　まとめ（第 285 ～ 287 図）

最後に、今回の調査成果のまとめを記す。繰り返すが、第 167 次・第 180 次調査と第 196 次調査の成果は、立地上それぞれ異なる遺跡に包括して扱うべきものである。よってここでは煩雑化を避けるため、これらの成果を別個に記すこととする。

（1）第 167 次・第 180 次調査（第 285・286 図）

古墳時代～古代

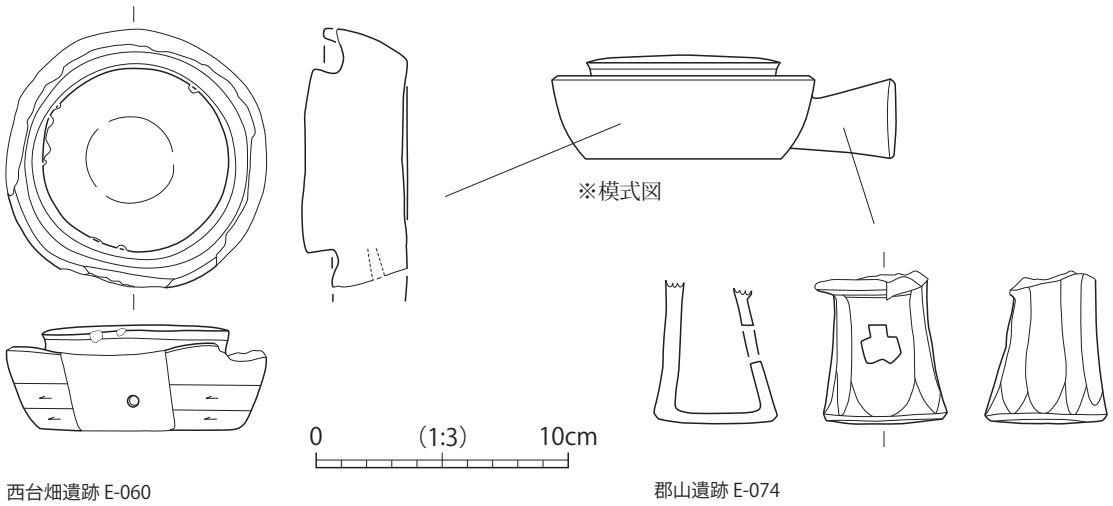
基本層Ⅳ層上面から竪穴住居跡 34 軒、掘立柱建物跡 14 棟、区画施設関連の溝跡 5 条、材木列跡 1 条、土坑 8 基を検出した。これらの遺構の在り方は、いわゆる集落地（居住域）としての様相を示す。検討の結果、当該期の集落は郡山Ⅰ期官衙成立以前（7 世紀前葉を中心とする時期）に形成が開始され、Ⅰ期官衙の並行期にピークを迎える。その後、Ⅱ期官衙への移行期には集落は衰退し始めるが、最終的に 8 世紀後半までの存続が認められた。南に隣接する西台畑遺跡の集落はⅡ期官衙期にピークを迎えることが指摘されており、Ⅱ期官衙成立を機に、集落が北から南側へとその中心を移動させていったことが判る。

また今回の調査では、Ⅱ期官衙の外溝の一部である SD13、これと重複する SD11・17 という区画溝が検出された。Ⅱ期官衙の外溝についてはかつて西辺の調査が一部行われていたが、SD13 はこの外溝のコーナー部分から北辺の一部に相当する。今回の調査は、北辺の存在を決定づけるという大きな成果を残すことができた。また、これ

よりも古いSD11はⅠ期官衙からⅡ期官衙への移行期に掘削された区画溝と認識されたが、果たして西台畑遺跡側の集落と直接結びつくのかどうか、なお検討を要するであろう。SD13より新しいSD17はⅡ期官衙廃絶後すぐに掘削されたと思われるが、出土遺物から見る限りではさほどの時期を経ずに埋め戻されたと考えられる。この溝跡についても、具体的な区画対象については明らかでない。

当該期の出土遺物には土師器・須恵器、丸瓦、礫石器・石製品、金属製品、土製品などがあり、土師器には坏・高坏・埦・鉢・甕・甑・ミニチュア土器などが、須恵器には坏・埦・盤・蓋・高坏・鉢・壺・瓶・提瓶・甕など、豊富な器種が認められた。また鉄鏃・鉸具・槍鉋・丸鞆といった特殊な金属製品も認められた。

そのなかで特筆すべき遺物が2点存在する。SD7から出土した須恵器中空円面硯の把手と、SD13（郡山Ⅱ期官衙外溝）から出土した銅製荊棘轡（うばらぐつわ）である。SD7は古代～中世に比定される新しい時代の遺構であり、出土した円面硯とは時期的な整合性はないが、把手付中空円面硯は地方官衙や寺院、あるいはそれに関連する遺跡からの出土が多いとされる。東北地方での出土例は福島県で3例、山形県で2例あるが[註1]、宮城県内での出土例はほとんどなく、管見では本遺跡の南側、西台畑遺跡の区画溝SD61からの1点を知るのみである[註2]。この円面硯は硯部のみが完形で出土しており、側面には把手部分の剥落痕が認められた。ただし、本遺跡出土資料とは別個体である。なお本遺跡出土の把手については、その形態から菊井佳弥氏分類のⅠ－2類に比定される。7世紀後半～8世紀前半の時期が考えられており、東海地方を中心に分布するとされる[註3]。

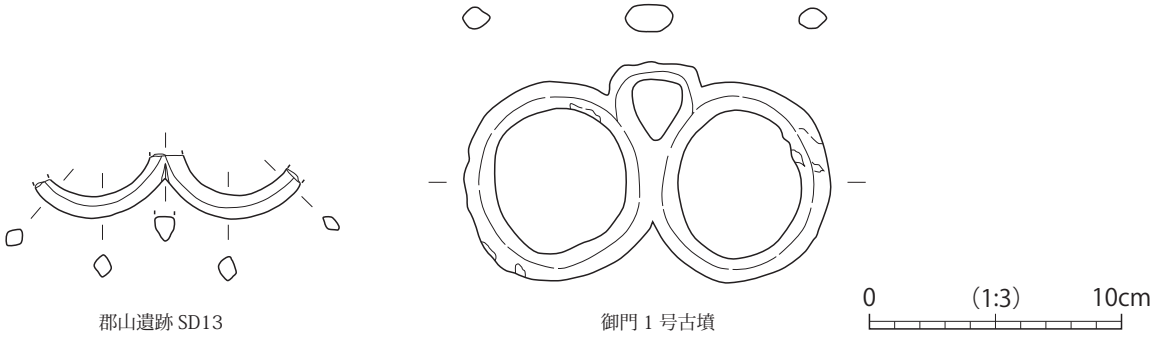


第285図　郡山遺跡第167次調査および西台畑遺跡出土の中空円面硯

銅製荊棘轡（うばらぐつわ）は、SD13の底面付近から出土した。東北地方では初の出土である。本来は眼鏡の枠のような2つの環が連接した形状の轡であり、鈴木有一氏によれば環の形態が正円の「A類」、無花果形や唐草文系の装飾が施される「B類」に分類される[註4]。本遺跡の資料は立聞の剥落痕が認められないことから下部の破片と思われ、その湾曲状況からA類であると考えられる。同形態とみられる轡は正倉院宝物「金銀泥絵鞍」や、群馬県利根郡昭和村御門1号古墳出土例に認められる[註5]。特に後者は7世紀中葉に遡るとされ、荊棘轡の中でも初現の資料とされる。ただしこれらはともに鉄製であり、本遺跡の資料は銅製である。このことから、実用品であったかどうか疑問視する考えもある[註6]。

古代～中世

古墳時代～古代の遺構に重複して、竪穴遺構1基、小溝状遺構114条、溝跡11条、井戸跡1基、土坑11基、性格不明遺構1基、ピット348基を検出した。主体となるのは小溝状遺構であり、畑のサク切り痕など耕作関連



第 286 図　SD13 出土荊棘轡と群馬県御門 1 号古墳出土の荊棘轡（報告書より再トレース）

の遺構と思われる。整然とした溝状のものから平面形の歪みが激しいもの、底面に多数のピットが並ぶものなどいくつかの形態が認められる。また、溝跡もこれら小溝状遺構を意識したような方向性を示すものが多く、耕地区画や灌漑施設などの機能を想定し得る。これらのことから、当該期の調査区内について耕作地（生産域）の性格が濃く窺われる。なお、当該期の所産と確定し得るような遺物（陶器等）は出土しなかった。

（2）第 196 次調査（第 287 図）

縄文時代

Ⅰ区の基本層ⅩⅡ層から、晩期後葉の遺物が出土した。土器のうち器形が復元されたのは 1 点のみで、ほかは全て破片資料である。周辺地では、西台畑遺跡第 1 ～ 3 次調査、郡山遺跡第 65 次調査、第 144 次調査（仙台市教委、2010 年）での出土例が知られる（註 7）。また、ⅩⅡ層上面からはピットが 15 基検出されたが、詳しい時期は明らかにできなかった。また、遺構は検出されなかったが、Ⅰ区の基本層ⅩⅥ層からは後期後葉の遺物が多量出土した。掲載土器は 6 点と少ないが、無文でミガキを施した深鉢や瘤状突起を配した深鉢、入組文を配した壺などが認められた。周辺地では西台畑遺跡第 3 次調査や郡山遺跡第 65 次調査（仙台市教委、1992 年）で当該期の遺物の出土が知られているが（註 8）、仙台市域での類例は少ない。今回の出土遺物はいずれも包含層からの出土だが、同一個体のまとまりが確認されており、付近に当該期の集落が存在することを示唆している。

また、Ⅳ区では基本層Ⅹｂ層から石鏃が 1 点出土した。層位から縄文時代の所産と判断したが、詳しい時期は不明である。

弥生時代

Ⅰ区の基本層Ⅵ層、Ⅱ～Ⅳ区の基本層Ⅴｂ層から中期の遺物が出土した。Ⅱ～Ⅳ区出土の土器は中期中葉の所産である。Ⅲ・Ⅳ区ではこのⅤｂ層を耕作土とする水田跡が検出され、畦畔や溝状遺構といった関連施設が確認された。西側の長町駅東遺跡第 4 次調査区（4 区）から続く、一連の水田跡と考えられる。

古墳時代～古代

竪穴住居跡 10 軒、掘立柱建物跡 4 棟、溝跡 13 条、土坑 5 基、性格不明遺構 2 基を検出した。竪穴住居跡は散在的に分布し、指標となる遺物も少ない。主軸方向や重複関係なども加えて推測すれば、本書時期細分の 2 ～ 4 期、すなわち郡山Ⅰ～Ⅱ期官衙期を中心に構築されたと考えられるが、今後の検討が必要である。掘立柱建物跡は SB3 から 8 世紀前葉に比定される須恵器坏が柱穴から出土しており、重複関係から SB1 ～ 3 についてはこれ以降とされるが、SB4 については不明である。溝跡についても 8 世紀以降の遺物を伴出するものが多く、その中で SD13・27 は区画溝、SD14 は板塀などの埋設溝の可能性が指摘される。ただし、これらが区画施設であった場合、集落とどのような関係にあるのかは明らかにできなかった。

当該期の出土遺物には土師器・須恵器のほか、礫石器・石製品、土製品があるが、須恵器の出土が目立つ傾向がある。特に登録遺物では、土師器 155 点に対し須恵器 198 点を抽出した。土師器の器種には坏・高台付坏・高坏・埦・甕などが認められ、須恵器の器種には坏・高台付坏・埦・盤・蓋・壺・甕のほか、1 点だけであるが円面硯の脚部が認められた（第 243 図－ 2）。また、後述する中世～近世の SD10 からは、丸瓦・平瓦、鉄鏃が出土している（第 176 図－ 4・5、第 177 図－ 3）。

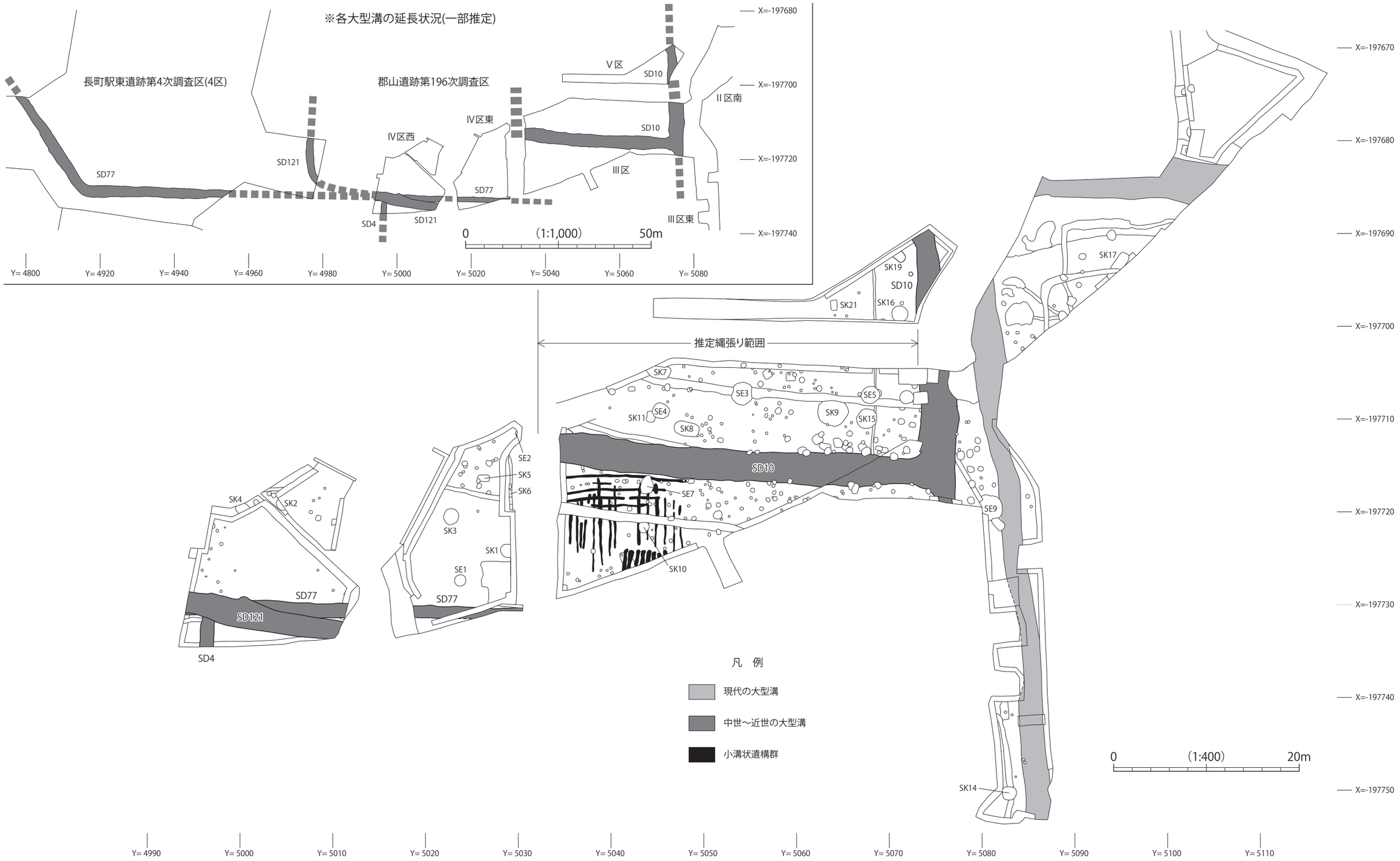
西側の長町駅東遺跡の集落は、これまでの調査の結果から、6 世紀代の在地系集落に関東地方からの移住民という外来的要素が加わって発展したと考えられている。その際に大型の区画溝や材木列塀といった大掛かりな集落の外周整備が行われ、郡山Ⅰ期官衙造営にあたっての中核的な拠点になったとされる。この集落はⅡ期官衙の段階においても区画機能を維持したまま存続し、Ⅱ期官衙終焉を契機に衰退する。区画施設の外側（東側）ではⅡ期官衙期には既に竪穴住居跡が減少し、比較的小規模な掘立柱建物跡が点在する状況となることから、区画施設の東側における機能的な変化が指摘されている（註 9）。今回検出した掘立柱建物跡も時期や位置関係からその一端を示すものと考えられ、第 196 次調査区内では竪穴住居跡の分布がこれより東に偏っていることからも、何かこの場所に特別な意味を考え得る。今後、長町駅東遺跡の状況と併せて総体的に検討されるべきであろう。

中世～近世

掘立柱建物跡 1 棟、小溝状遺構 27 条、溝跡 11 条、井戸跡 9 基、土坑 19 基、ピット 308 基を検出した。屋敷の堀割りと考えられる SD10 を中心とする、屋敷跡に関連する遺構が主体である。推定される縄張り内の遺構には井戸跡・土坑・ピットがあるが、建物跡は確認できなかった。ただ、ピットには柱痕跡が認められるものが多数あり、建物、あるいは柵列などの一部である可能性も十分に考え得る。SD10 は 15 世紀代から近世に至るまでの遺物が出土しており、屋敷の存続期間が長期におよんでいたと考えられる。また 1952（昭和 27）年の空中写真では、SD10 該当部分とその周辺に現代の屋敷地を囲う方形の地割りが 4、5 箇所連接するのが写っており、同様の堀割りを伴う屋敷が群を構成している可能性が指摘される。これらの地割から推測される縄張りは一辺 30 ～ 40 m程度で、「方半町」にも満たない規模であり、有力農民階層の屋敷跡である可能性が考えられる。縄張り外には小溝状遺構が検出され、周辺が耕作地として利用されていたことが窺える。

SD10 以外にも「堀」とみられる大型の溝跡が検出されている（SD4・77・121）。いずれも灌漑機能を備えた区画溝と思われるが、屋敷割りかどうかは判然としない。SD77・121 については長町駅東遺跡第 4 次調査における延長部分が検出され、総長が SD77 で 146.5 m、SD121 で 44.5 mを超えることが判明した。ともに同調査区内では西側への屈曲が認められ、その角度は SD77 が 35°、SD121 が 90°程となっている（第 287 図）。また、今回の調査で少量ではあるが常滑の甕の破片や「宣徳通寶」、桶底板・木錘などが出土した（常滑の甕は図化できなかった）。

遺物は、土師質土器、瓦質土器、陶器、石製品、木製品、古銭のほか、鉄滓、鞴羽口、取鍋などの鍛冶関連遺物が認められた。また、胡桃・桃種、馬歯・骨片・亀甲・貝といった動物や植物の遺体（いずれも非掲載）も出土している。これらの大半が、SD10 からの出土である。全体的に土器・陶器類は少ないが、SD10 に接する Pit159 の底面付近からは土師質土器皿（かわらけ）が 2 個体出土した。そのうちの 1 点（第 195 図－ 5）の底部外面には墨書が認められる。石製品には砥石・硯のほか、軟質の石材を用いた用途不明の石製品が認められる。円盤状・碁石状・角柱状と様々な形態があり、玩具等の可能性が考えられる。木製品は皿、椀、飯篦、桶底板や木錘などのほか、SD10 から両端部が漆塗りの棒状木製品が 13 点出土した。用途は不明であるが、このうちの 3 点を図示している（第 178 図－ 2 ～ 4）。鍛冶関連遺物は SD10 のほか SE3 ～ 5、SK8・11 といった推定屋敷縄張り内の遺構出土品が圧倒的に多く、この屋敷跡に鍛冶施設が付設されていた可能性を示唆するものである。



第 287 図　第 196 次調査検出の大型溝と主な周辺遺構

註 1：菊井佳弥氏は、全国 79 例の中空円面硯を集成・分類している。ただし孔の位置に着目し、中空部が水滴として機能しないような穿孔があるものは中空円面硯に含めないでいる。

註 2：SD61 は仙台市教育委員会で実施した、西台畑遺跡Ⅴ区（4・5 次）および 17 街区（7 次）の調査で検出された（仙台市文化財調査報告書第 411 集）。上幅 2.5 ～ 4.1 m、深さ 1.5 mの大型溝で、区画施設と考えられている。中空円面硯は平成 17 年度の調査時に、堆積土の中層付近から出土している。

註 3：菊井氏の分類は把手形状を中心とするものであり、Ⅰ～Ⅵ類に大別している。その中でⅠ類は、把手の断面形状が円形を呈し、先端に向かって太くなる杵形の把手を指す。Ⅰ類は沈線の有無から 2 つに細別され、沈線を伴わないのがⅠ－ 2 類であるとしている。

註 4：鈴木有一氏は静岡県浜松市・下滝遺跡群の報告書の中で、律令時代における轡の系譜について触れている。荊棘轡については文中に記した A・B の二つの類型を設定し、A 類→ B 類への変遷過程を予測している。また、荊棘轡成立要素の一つに古墳時代からの複環式轡の影響を示唆している。

註 5：正倉院宝物「金銀泥絵鞍」については『日本馬具大鑑 2　古代下』（吉川弘文館・1992 年）を、群馬県利根郡昭和村・御門 1 号古墳については『川額軍原Ⅰ遺跡』（昭和村教育委員会・1996 年）を、それぞれ参照した。御門 1 号古墳は利根川左岸の下位段丘上に立地する直径 15 m 程の円墳で、自然石乱石積の両袖形横穴式石室を埋葬施設にもつ。本墳出土の荊棘轡は銜（はみ）や引手も残存し、引手部分は兵庫鎖である。報告書の中ではこの轡につき、正倉院所蔵品との類似性を指摘している。

註 6：本書「第 7 章第 2 節（3）」参照。

註 7：K 区 8 層中から、高坏 1 点が出土している。

註 8：いずれも包含層からの出土であり、西台畑遺跡第 1 ～ 3 次調査ではⅦ層から破片資料が出土している。郡山遺跡第 65 次調査では、Ⅰ区のⅪ層上層などから深鉢 3 点をはじめとする個体資料が出土した。郡山遺跡第 144 次調査では、9 トレンチのⅤｂ層から深鉢 2 点、台付浅鉢 1 点の個体資料が出土している。

註 9：この変化については、長町駅東遺跡第 4 次調査の報告書の中ではⅠ期官衙の段階とされているが、その後時期的な修正がなされ、現在はⅡ期官衙の段階と考えられている。

引用・参考文献

伊藤玄三　1993 「仙台市西台畑弥生時代墳墓の再検討」『法政考古学』第 20 集　法政考古学会

大川 清・鈴木公雄・工楽善通編　1996 『日本土器事典』 雄山閣

片山寛明　1987 「日本の轡－奈良時代～江戸時代－」『馬の博物館 研究紀要』第 1 号　根岸競馬記念公苑

加藤道男　1983 「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢』 芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会

菊井佳弥　2011 「続中空円面硯小考」『堀田啓一先生喜寿記念 献呈論文集』堀田啓一先生喜寿記念献呈論文集作成委員会

菊池佳子　1994 「多賀城以前の陸奥国と須恵器」『歴史』第 82 号　東北史学会

木本元治　1990 「南東北地方における歴史時代の須恵器編年Ⅰ」『伊東信雄先生追悼 考古学古代史論攷』 伊東信雄先生追悼論文集刊行会

工藤信一郎　2008 「長町駅東遺跡・西台畑遺跡の調査から」『第 34 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会

2010 「長町駅東遺跡・西台畑遺跡の集落について」『宮城考古学』第 12 号 宮城県考古学会

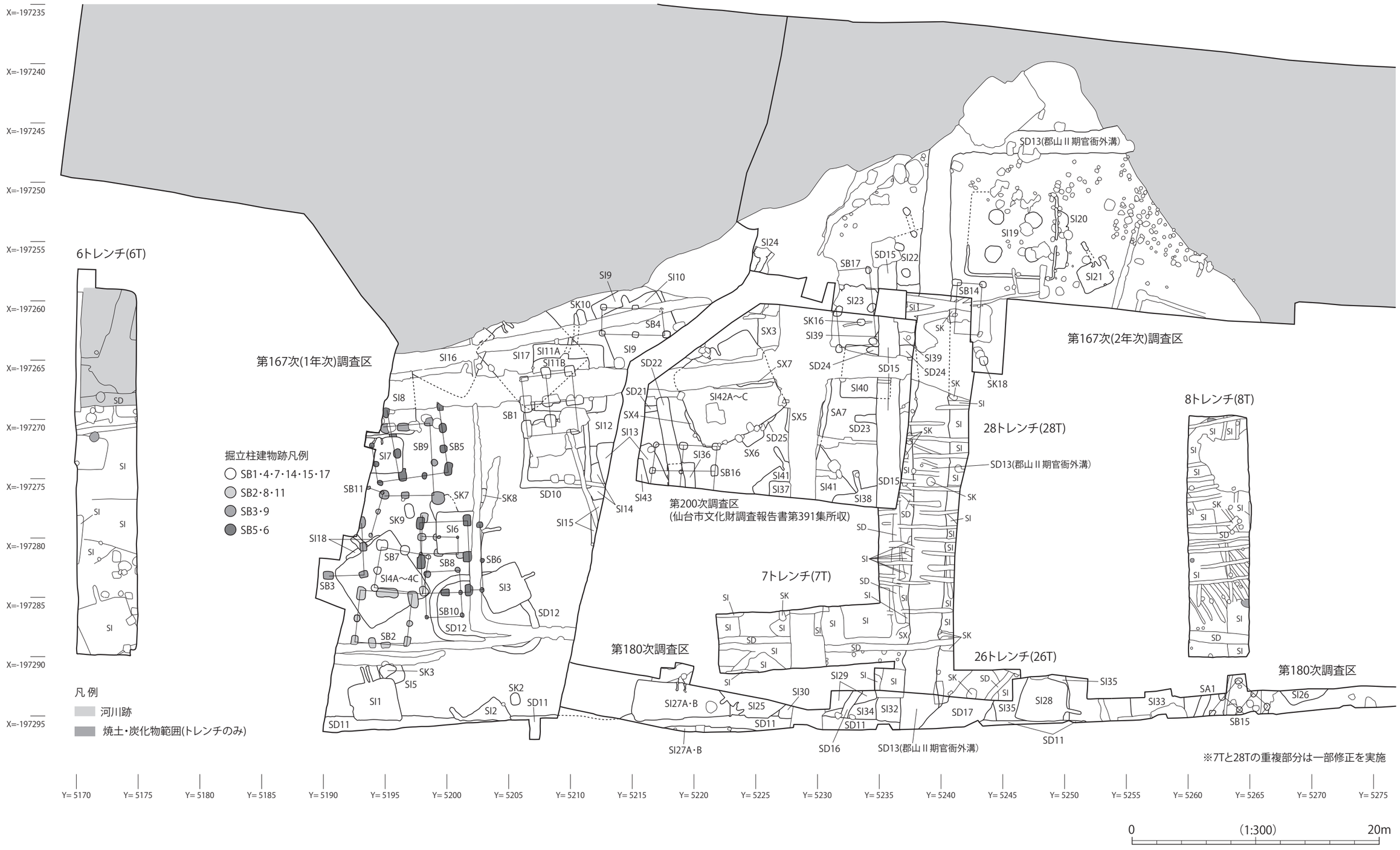
国士舘大学考古学会編　2009 『古代社会と地域間交流－土師器からみた関東と東北の様相－』 六一書房

小林圭一　1999 「東北地方　後期（瘤付土器）」『縄文時代』10　縄文時代文化研究会

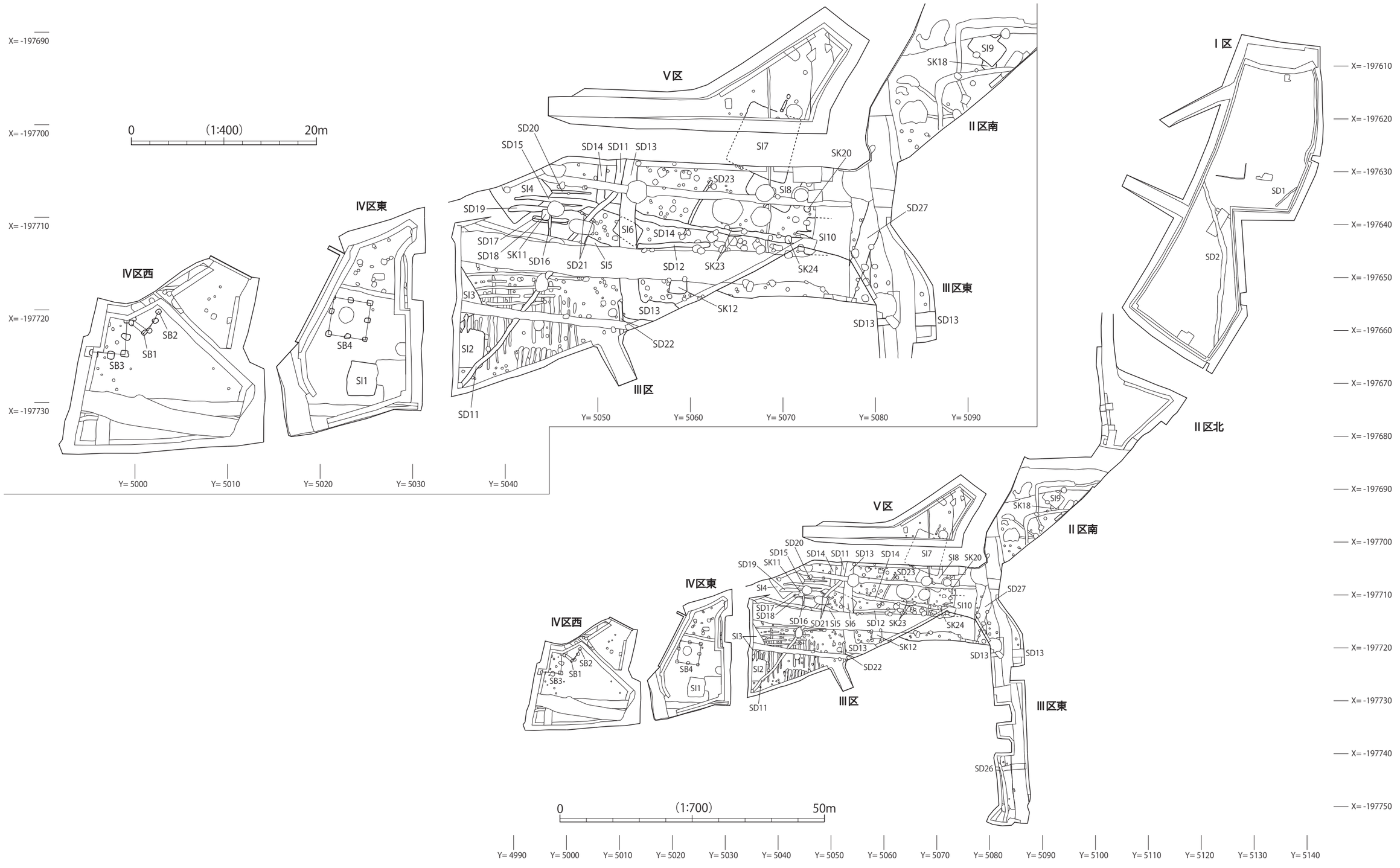
佐久間正明　2007 「第Ⅲ章　福島県における古墳時代後期土器の特質」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北学院大学文学部

櫻井友梓　2011「古墳時代終末期から多賀城創建前後の須恵器生産の展開」『宮城考古学』第 13 号　宮城県考古学会

昭和村教育委員会　1996『川額軍原Ⅰ遺跡』
杉山秀宏　1988「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集』第８　橿原考古学研究所編　吉川弘文館
仙台市教育委員会　1992『郡山遺跡－第 65 次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第 156 集
1994『南小泉遺跡 第 22 次・23 時発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 192 集
1997『郡山遺跡－第 112 次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第 222 集
2000『王ノ壇遺跡』仙台市文化財調査報告書第 249 集
2005『郡山遺跡発掘調査報告書－総括編－』仙台市文化財調査報告書第 283 集
2007『長町駅東遺跡第 4 次調査』仙台市文化財調査報告書第 315 集
2008『長町駅東遺跡第 1・2 次調査』仙台市文化財調査報告書第 324 集
2009『長町駅東遺跡第 3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 340 集
2010『郡山遺跡第 144 次調査』仙台市文化財調査報告書第 358 集
2010『西台畑遺跡第 1・2 次調査』仙台市文化財調査報告書第 359 集
2010『沼向遺跡第 4 ～ 34 次調査』仙台市文化財調査報告書第 360 集
2011『西台畑遺跡第 3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 388 集
2011『郡山遺跡第 190 次調査』仙台市文化財調査報告書第 389 集
2011『郡山遺跡第 200 次調査』仙台市文化財調査報告書第 391 集
仙台市史編さん委員会　1995『仙台市史　特別編 2 考古資料』
1999『仙台市史　通史編 1 原始』
2000『仙台市史　通史編 2 古代中世』
辻　秀人　1984「宮城の横穴と須恵器」『宮城の研究 1 考古学篇』 清文堂
東国土器研究会編　1989『東国土器研究』第 2 号　特集 黒色土器－出現と背景－
1995『東国土器研究』第 5 号　特集 東国における律令成立までの土器様相とその歴史的動向
東北古代土器研究会　2005『東北古代土器集成－古墳後期～奈良・集落編－＜宮城＞』研究報告 2
東北中世考古学会編　2003『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
東北歴史資料館　1997『里浜貝塚Ⅹ』東北歴史資料館資料集 43
七世紀研究会　2003『武器生産と流通の諸画期』七世紀研究会シンポジウム資料
奈良佳子　2003「宮城県域の 7 世紀の須恵器」『古代東北北海道研究会資料』 古代東北北海道研究会
奈良文化財研究所　2003『古代の官衙遺跡　Ⅰ 遺構編』
2004『古代の官衙遺跡　Ⅱ 遺物・遺跡編』
日本考古学協会　2005「シンポジウム 2　7 世紀の東日本－変革期の諸相－」『日本考古学協会 2005 年度福島大会シンポジウム資料集』
日本馬具大鑑編集委員会編　1992『日本馬具大鑑　2 古代下』 吉川弘文館
浜松市文化協会　1999『下滝遺跡群 2』
馬目順一・阿部義平・佐原 真「8 東北地方の弥生土器」『弥生文化の研究 4　弥生土器Ⅱ』 金関 恕・佐原 真編　雄山閣
村田晃一　1996「陸奥国における 7 世紀の様相」『飛鳥・白鳳時代の諸問題Ⅰ』 国際古代史シンポジウム実行員会
2000「飛鳥・奈良時代の陸奥北辺－移民の時代－」『宮城考古学』第 2 号　宮城県考古学会
2002「7 世紀集落研究の視点（1)」『宮城考古学』第 4 号　宮城県考古学会
2003「宮城県中・南部における 6 ～ 8 世紀の土師器編年」『古代東北北海道研究会第 1 回研究資料』 古代東北北海道研究会
2007「ｖ・宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北学院大学文学部



第 288 図　第 167 次・第 180 次調査古墳時代～古代遺構配置図



第 289 図　第 196 次調査古墳時代～古代遺構配置図